

【研究会・学会創設47周年(1964年～2010年)事業】

日本レジャー・レクリエーション学会の歩み ～その2～

— 1996 ～ 2010 —



The Current 15 Years History on Japan Society of
Leisure and Recreation Studies

- 1996 ~ 2010 -

日本レジャー・レクリエーション学会

2010年11月

第 66 号

『歩み～その2～』発刊によせて ～生(生命、生活、人生)の質 QOL の向上を求めて～

会長 鈴木 秀雄

この度、研究会・学会創設47周年(1964年～2010年)事業として、『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み～その2～』を刊行することとなりました。前号の『歩み』—1964～1995—に続く、その後の本学会の足跡を繙くものです。

本研究会・学会を概観すれば次のとおり：

- (1) レクリエーション研究懇談会の発足〔1964(昭和39)年3月10日〕
- (2) 日本レクリエーション研究会の発足〔1965(昭和40)年3月9日〕
- (3) 日本レクリエーション学会の発足〔1971(昭和46)年3月21日〕
- (4) 日本レジャー・レクリエーション学会への改称〔1991(平成3)年11月10日〕

で、名称が現行のように改称された1991年に、欧文名も、Japan Society of Leisure and Recreation Studies(略称：JSLRS)と統一され現在に至っている。

この47年の研究会・学会の歩みでは、何回かの記念大会を経て、第40回学会記念大会(2010年)が東京農業大学(世田谷キャンパス)において開催されることを機に前号(1995年9月発刊)に続き、この度の第2集にあたる『歩み』の刊行となりました。

論を待つまでもなく、学会の共通言語であるレジャー・レクリエーションは、その領域が広汎かつ多岐にわたるもので、その研究対象の広さは無限である。こうした中、学会でなされた研究を俯瞰し、個々の研究領域の広がりや深まりをさらに求めていくことも重要なことである。

レジャー・レクリエーションの本質は、日々に寄り添う、掛け替えのない“とっておき”の楽しさおもしろさを求めて、豊かな“活動”、“生活”、“生き方”を紡ぎ出していくことに他ならない。即ち、個人の喜び(Enjoying Personal Living; EPL)を具現していくには、生(生命、生活、人生)の質の向上(Enhancing Quality of Life; QOL)をどのように図っていくべきかに尽きる。その視点に立ったレジャー・レクリエーション研究は、環境(自然、人間、社会)を機軸に据え、現存するものを記述的用法で解説するだけでなく、本質的・専門用語的な解釈あるいは現存しないとしてもそれへの到達が規範として求められる理想像を意味する規範的用法による解釈により、レジャー・レクリエーションの全容(本質論、現実論、あるべき論)を明らかにしていく努力が必要である。

社会の激しい変化に伴い多くの課題が生起しているが、レジャー・レクリエーションをある時には目的的に、あるいは手段的に扱うなか、これからのレジャー・レクリエーション研究が、引き続き個人の生の質(QOL)の向上に資するものとなり、また、社会に貢献する果実を提供できるものと確信している。会員の皆さんの更なる研究の発展に資する一助としての前号の歩み、そして今般の『歩み～その2～』であることを願ってやまない。

偶然であるが、前号『歩み』の発刊時には理事長として、今回の『歩み～その2～』の刊行には会長としての関わりとなったが、本書『歩み～その2～』の発刊にあたり、多くの役員・会員の真摯なご努力とご尽力に深謝し、なにかんづく、現理事長である麻生 恵東京農業大学教授のすばらしいリーダーシップにより刊行の運びとなりましたことに深く敬意を表し、この『歩み～その2～』を通して、新たなる研究の発展を期待し発刊に寄せる言葉とします。

日本レジャー・レクリエーション学会の歩み - 1996 ~ 2010 -

目 次

『発刊』によせて

会 長 鈴木 秀雄

[I] 歴代理事長による就任時の学会の振り返り	1
理事長就任時の学会を振り返って ～新しい学会への活動・組織改革を求めて～ (第6代理事長 鈴木秀雄)	2
第7代理事長として本学会を振り返る (第7代理事長 坂口正治)	3
理事長就任時の学会運営を振り返って (第8代理事長 西田俊夫)	4
理事長就任中の学会を考える (第9代理事長 麻生 恵)	5
 [II] 資料	 6
1. 特別講演・基調講演・シンポジウム	7
2. 学会大会における研究(実践)発表、ポスター発表	12
3. レジャー・レクリエーション研究(投稿論文・資料)	37
4. 学会大会開催期日・会場及び各大会発表演題数	48
5. 学会歴代事務局	49
6. 会員数の推移	49
7. 学会歴代役員	50
8. 学会会則(規定、内規)の推移	54
9. 学会ニュース(No.58～89)	72
 [III] 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」	 163
企画のねらい	麻生 恵(編集委員長) 164
歴史と原論(歴史、思想・哲学)	小田切毅一・佐橋由美 165
意識と行動	茅野宏明 173
活動とプログラム	高橋 伸 182
サービスと運営管理	土屋 薫 188
資源と空間	田中伸彦 198
医療と福祉	上岡洋晴・鈴木英悟・小椋一也・本多卓也 211
未来への羅針盤	鈴木秀雄(学会長) 219
 編集後記	 220
編集企画・編集委員会	220

〔1〕 歴代理事長による就任時の学会の振り返り

- | | |
|---|---------------|
| 理事長就任時の学会を振り返って
～新しい学会への活動・組織改革を求めて～ | (第6代理事長 鈴木秀雄) |
| 第7代理事長として本学会を振り返る | (第7代理事長 坂口正治) |
| 理事長就任時の学会運営を振り返って | (第8代理事長 西田俊夫) |
| 理事長就任中の学会を考える | (第9代理事長 麻生 恵) |

理事長就任時の学会を振り返って～新しい学会への活動・組織改変を求めて～ (1994年4月～2000年3月 学会大会：第24回～29回)

第6代理事長（現会長） 鈴木秀雄（関東学院大学人間環境学部人間発達学科教授、Ph.D.）

日本レクリエーション学会から日本レジャー・レクリエーション学会（JSLRS）への名称変更（1991年）に積極的に関わり、また、学会機関誌第32号『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み』（1995年9月20日発行）の発刊準備とともに、第25回学会大会を記念大会（於：関東学院大学）として開催することが決定した状況での理事長就任であった。

前号の『歩み』（第32号）の歴代理事長による「理事長就任時の学会を考える」の振り返りでは、当時、現職理事長としては就任1年目であることから、主に、1）学会が抱える諸課題と、2）課題解決に対する対応、について述べた。結果的に3期6年間にわたる理事長職にあって、抱えた諸課題は、①会員の獲得・会員数の拡大、②研究活動と実践研究（活動）の融合及び活性化、③事務局機能の強化とともに学会役員の民主的な選出方法の確立であった。

活動、組織機能の改変がその対応策として求められたことは言うまでもない。当時の状況からの対応策としては、第25回学会記念大会を期に研究発表と実践研究（活動）を実現し、研究者と実践家との相互交流の活性化を試みた。また、市民活動への影響力を増していく視点からは、学会大会開催会場周辺地域の市民参加を促すことも試みた。

学会員数500名の実質化をかけた、その数値に近い会員数の獲得に至り、事務局機能強化については、学会役員の非常勤講師化もはかり、複数の学会役員に対し、事務局が設置されている大学での非常勤講師としての授業担当とあわせて学会事務局業務の役割を果たしていただいた。第25回学会記念大会総会時にも役員の選出形態が活発に議論され、それを受け、学会の役員選出を民主化するために、当時、「役員候補者選考委員会」に委ねられていた役員人事を、「役員選挙規程検討委員会」の設置とともに議論を重ね、平成8年11月に開催された第26回学会大会（於：奈良女子大学）総会時に提案された「日本レジャー・レクリエーション学会役員選出細則」が承認され、役員選出細則の設置趣旨に基づき、選挙規程に関わる学会会則等の諸関連規程が改正（整備）され、平成10年度期の役員選出から、民主的な選挙による現行規程の学会役員選出方法がとられている。

学会の財政面については、企業協賛・広告や役員負担による依存体質からの脱却を図る意味から、事務局の効率化もさることながら、学会員への負担も求め年会費の値上げ（年額5,000円から現行の年額8,000円）も実施した。

時代の要請から、有効かつ広汎な広報手段の確立や、更なる事務局の活性化と効率化、会員数の増強などは引き続き解決しなければならない課題でもある。理事長就任時には、学会の独自性の確立や活性化を図るには如何すべきかに中心課題がおかれていたが、今後については、レジャー・レクリエーション領域の広汎さと、高等教育におけるレジャー・レクリエーションの専門家教育のシステム化（実体化）がなされていない現状をどう学会は受け止め、そのことにどう対応すべきかについて積極的な議論を学会としても進めていく必要がある。

最後に理事長就任時に、方針として打ち出した学会大会の大学での開催については、現在まで、各学会大会が会員の力強い活動により、当該学会大会開催会場となる各大学のご協力を得て、それぞれ大学を開催会場として学会大会が安定的に開催され続けていることを関係会員の皆さんに感謝の念を持ってお礼を述べたい。

第7代理事長として本学会を振り返る (2000年4月～2004年4月 学会大会：第30回～33回)

第7代理事長（現副会長） 坂口正治

本学会が今日に至るまでには諸先輩方のご尽力と努力の賜物と感謝申し上げる次第です。

このような伝統ある学会の第7代理事長に就任し、改めて任の重さを感じながら2000年第30回大会（明治大学）から2003年第33回（東北福祉大学）までの4回の学会大会を会員はもとより役員の方のご指導とご協力により無事開催することができました。この2期4年間を振り返ってみたい。

☆2000年4月～2004年4月（4年間）の学会大会を振りかえって

2000年（平成12年）の学会大会は寺島善一（明治大学）実行委員長のもと第30回記念大会として「新しい時代とあそびの再考」を大会テーマとした。また、記念講演には今は亡き作家の井上ひさし氏にお願いした。シンポジウムには「あそびと文化」、「あそびと空間」、「あそびとライフスタイル」について3人のシンポジストにお話をいただいた。この記念大会を機に学会の活性化と会員相互の研究組織のスタートを図った。

2001年（平成13年）は、第31回学会大会を千葉大学（園芸学部）で鈴木祐一会長、学会副会長、実行委員長油井正昭氏のもとで「レジャー・レクリエーションから見た自然環境」を大会テーマに基調講演は進士五十八氏（東京農業大学学長）にお願いした。21世紀初年に開催する大会はレジャー・レクリエーション学の発展につなげていきたいとの思いでもあった。大会開催校である千葉大学園芸学部の松戸キャンパスは、90年を超える緑豊かな環境にあり、このテーマを討議するに相応しい場所であったことから昼休みの時間を利用して学内での見学会を開催した。これを機に学会での地域研究へと発展した。

2002年（平成14年）は、第32回学会大会を松田義幸会長、古城建一実行委員長のもとで、開催した。基調講演を「障害者スポーツからのメッセージ - 太陽の家37年の歩みを通して - 」吉永栄治氏（社会福祉法人太陽の家事務局長）にお願いした。また、講演に引き続いて、堀川裕二氏（太陽の家訓練課長）、麻生和江氏（大分大学）、綿裕二氏（長崎国際大学）の三氏の報告とシンポジウムが行われた。続いて3つのセッションに分かれてのワークショップは、①セラピューティックレクリエーション；②景観・造園・環境；③レジャー・レクリエーション産業であった。

2003年（平成15年）は、松田義幸会長、小野寺浩三実行委員長（東北福祉大学）のもとで第33回学会大会を東北福祉大学で開催した。第1日目に「独眼竜正宗 - 伊達者らしい最後」と題し逸見英夫氏（仙台郷土研究会副会長）の講演の後、フィールドスタディ「仙台北城址」を実施した。（福祉大学発 - 瑞宝殿 - 仙台北城址 - 仙台市博物館 - 福祉大学着）2日目は、基調講演を「レジャー・レクリエーションと地域文化」と題して、大村虔一氏（宮城大学教育研究担当副学長・事業構想学部教授）にお願いした。講演に引き続き、シンポジウムとして「世代間交流にみる諸活動」、また昨年を引き続いて、ワークショップを開催した。①セラピューティックレクリエーション；②景観・造園・環境；③レジャー・レクリエーション産業であった。今大会では、地域色を存分に出してのプログラムが印象的であった。

以上、雑駁ではありますが、2000年第30回学会大会から2003年第33回学会大会（4回）を振り返ってみました。

私が理事長として4年間、任務を全うできましたのも会員の皆様はもとより役員の方からのご支援とご協力のおかげと心から感謝申し上げます。

学会は会員なくして成り立ちません。今後共、一層のご協力とご理解をお願い申し上げます。

就任時の学会運営を振り返って (2004年4月～2008年3月 学会大会：34回～37回)

第8 代理事長（現副会長） 西田 俊夫

理事長就任するまでの10年間は、鈴木秀雄理事長（現会長）のもとで、事務局のお手伝いをしながら幹事、理事、常任理事を歴任した経験が大きな財産となりました。さらに、事務局の理事仲間からの刺激もあり、レジャー・レクリエーションに対する意識や学会運営のモチベーションも高めることができました。

坂口正治理事長（現副会長）から引き継ぎ、理事長を2期4年間、会員の皆様にご迷惑をかけながら無事やり遂げることができたのも理事・幹事の先生方による力強いサポートのお陰であり感謝申し上げます。事務局を立教大学から淑徳大学へ移したものの役員任期2年間での学会運営の成果をあげるにも限度がありました。任期1年目は、目の前にある常任理事会・理事の開催準備、学会ニュースの発行、大会号・学会誌の発行、学会大会開催の準備、会員動静などさらに、2年目では役員選挙の準備と目の前の作業に追われる日々を感じていました。任期を2年間から「3年間」にすることによって学会運営をスムーズに運び、しかも新しい企画の取り組むゆとりも生まれてきます。このような理由から、平成19年度の学会総会で提案し、承認されました。さらに、任期中には「歩み・学会誌」の電子化を提案、プライバシーポリシーに伴う名簿の作成及び名簿管理、学会ホームページの充実なども理事会で承認を得ることができました。

理事長を経験して、学会事務局運営を円滑にするため、会員への3つのお願いを申しあげたい。

- (1) 年度会費は、4月～6月までの期間に必ず納入していただきたい。→事業計画の執行に影響します。
- (2) 原稿の締め切り日を厳守していただきたい。→学会誌・大会号の発刊を遅延する要因になります。
- (3) 学会大会へ参加する会員は、大会参加費と希望した弁当代、懇親会費などを期日までに銀行へ入金していただきたい。→大会運営（開催校）に影響します

理事長の任期を終えて今思うこと（これからの課題）

- (1) 新入会員の拡充を含めた500名程度の学会員を確保することが望まれます。例えば、院生や研究仲間の積極的勧誘
- (2) 学会大会への参加者（学会員）が150名以上を確保する対策が必要です。例えば、魅力ある企画
- (3) レジャー・レクリエーションの共通理解をもつためにわかりやすい定義や捉え方、キーワード、目標、目的などを具体できに示すべきだと思います
- (4) 会員のモチベーションを高める対策。例えば、レジャー・レクリエーションに関する出版物の発刊
- (5) 学会としての社会貢献への具現化。例えば、学会主導の資格や研修会の実施

学会の活性化に向けて、今までの課題を整理しながら、これからの「研究と実践」の融合化を実現するための目標（短期、中期、長期）をわかりやすく提示すべきであろう。（例えば、5年に一度の記念大会で研究成果を共有するしくみ）

会員は、研究仲間から多くの刺激を受け、研究業績も上がり、しかも社会貢献することができ、「入会したことで自分磨きができた」など多くの声が聞こえてくるような日本レジャー・レクリエーション学会を望んでいます。

理事長就任中の学会を考える

(2008年4月～学会大会：第38回～)

第9代理事長(現理事長) 麻生 恵

2008年度より役員任期の期間が2年から3年に変更され、理事長を拝命して今年で3年目となる。2年間では纏まった仕事を成し遂げるのは難しく、また役員選挙についても相当な労力が必要とされるので、3年任期に変更されたのは大変良かったと評価している。本稿ではこの2年半の取り組みを紹介しながら、今後の課題について整理してみたい。

理事長に就任し学会運営を任されて最初に感じたことは、これまでの先人の方々の大変なご努力・ご苦勞により、学会運営体制や役員選挙規定などが十分に整備され、理事会運営など学会の基本的な部分においてほとんど支障がなかったことである。これに対しては本当に有難く頭が下がる思いで、心より感謝申し上げたい。

こうした状況から私に課せられた使命は、先ずは堅実な学会運営に務めながら内容の充実、特に会員サービスの向上、事務局機能の更なる充実と合理化、それに第40回記念大会が任期中に開催されることから、記念事業の企画・実施であろうと考えた。

事務局機能については、淑徳大学西田先生の研究室から東京農業大学の私が所属する観光レクリエーション研究室への事務局移転を実施した。東京農業大学は複数教員からなる研究室体制をとっており、また大学院生が常在籍していたり研究室OBの協力が得られるなどスタッフとしての環境には大変恵まれている。就任直後から移転作業にとりかかったものなかなか大変で、総務担当の先生方のご苦勞にも拘わらず完了するのに1年以上の時間を要してしまった。

次に、事務局業務の効率化・合理化についてであるが、前理事長時代に導入した学会ホームページをリニューアルし、会員等への学会情報提供だけでなく、会員管理、行事への申し込みや会費支払いなど総合的な機能を備えたシステムの導入を就任2年目から開始した。Web特別委員会の先生方に大変なご努力をいただいた結果、第40回大会の申し込みはWeb上で出来るところまで漕ぎつけた。

第40回大会に関わる記念事業の目玉は「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み～その2 - 1996～2010 -」の編集・刊行である。前回(1995年刊行)の内容に加えて今回は特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」を企画・編集した。これは昭和61(1986)年に本学会が総力を上げて刊行した研究書『レクリエーション学の方法』に続くもので、これから研究を志す者にとっての指南書として大いに役立つであろうと期待している。

新システムの導入に伴い、会員に提供する情報のデジタル化を進めており、学会ニュース89号は初めてデジタルによる配信を行った。「学会の歩み」もデジタルデータで会員に提供される予定である。このように事務局機能は大幅に合理化・効率化されつつあるが、さらに会費納入と会員管理の両機能を一体化することによって更に事務局機能の強化・効率化が図れるものと考ええる。

学会全体の今後の課題として、学会発展の将来ビジョンあるいは中長期計画を策定する必要がある。21世紀成熟社会(あるいは人口減少社会)の社会ニーズに込えているのか、ともすれば研究者や教員中心の会員ニーズへの対応に片寄りがちな中で、学会として幅広い議論を行い今後の方向性を打ち出していくことが必要で、それが学会の魅力を高め、若手会員の獲得にもつながると考える。

今回の第40回記念大会特別セッションでは現会長より今後50回に向けた活動提案がなされる予定である。こうした企画面の更なる展開を期待している。

〔Ⅱ〕資料

1. 特別講演・基調講演・シンポジウム
2. 学会大会における研究（実践）発表、ポスター発表
3. レジャー・レクリエーション研究（投稿論文・資料）
4. 学会大会開催期日・会場及び各大会発表演題数
5. 学会歴代事務局
6. 会員数の推移
7. 学会歴代役員
8. 学会会則（規定、内規）の推移
9. 学会ニュース（No.58～89）

資料(1) 特別講演・基調講演・シンポジウム

《第26回学会大会》－1996年－(奈良女子大学)

□大会テーマ

『高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育への期待』

□特別講演

『レジャー・レクリエーションの史的変遷』
小田切毅一(奈良女子大学)

□パネルディスカッション

『高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育への期待』

問題提起

石井 允(立教大学)

コーディネーター

下村 彰男(東京大学大学院)

パネリスト

- セラピューティックレクリエーションに寄せる期待
大堀 孝雄(東海大学)
- 介護福祉とレジャー・レクリエーション
鈴木 秀雄(関東学院大学)
- わが国におけるレジャー・レクリエーション専門家育成の課題
吉田 圭一(武庫川女子大学)

《第27回学会大会》－1997年－(東京農業大学)

□大会テーマ

『レジャー・レクリエーション指導者育成と高等教育機関の役割』

□基調講演

『レジャー・レクリエーション(L/R)指導者への期待』
鈴木 祐一(東京女子体育大学学長)

□パネルディスカッション

コーディネーター

松田 義幸(実践女子大学)

パネリスト

- 大学教育の場をL/R指導者育成の機会に
嵯峨 寿(筑波大学)
- L/R指導者育成カリキュラムの試案
西野 仁(東海大学大学)
- L/R指導者の社会貢献イメージ
鈴木 秀雄(関東学院大学)

《第28回学会大会》－1998年－(福岡大学)

□大会テーマ

『国際交流時代のレジャー・レクリエーション』

□基調講演

『世界のレジャー・レクリエーションの動向』
高橋 和敏(剰余暇問題研究所)
『国際交流で私たちが経験し、学んだこと』
佐藤 靖典(福岡市スポーツ振興課長)

□シンポジウム

『国際交流時代のレジャー・レクリエーション』

コーディネーター

大谷 善博(福岡大学)

パネリスト

- 市民支援型国際交流のあり方
三本松正敏(福岡教育大学)
- ユニバーシアード等で学んだ国際交流プロジェクトの効果と課題
佐藤 靖典(福岡市スポーツ振興課長)
- レジャー・レクリエーションから見た国際交流におけるボランティア活動
川西 正志(鹿屋体育大学)

《第29回学会大会》－1999年－(淑徳大学)

□大会テーマ

『メディアとスポーツ“今までとこれから”』

□講演

- 選手の側からみたスポーツ映像の意味
沢松奈生子(日本テニス協会)
- 見せるためのスポーツ映像の変遷
西田 善夫(NHK解説員)

《第30回学会大会》－2000年－(明治大学)

□大会テーマ

『新しい時代とあそびの再考』

□基調講演

『日本人とレジャー』
井上ひさし(作家)

□シンポジウム

『新しい時代とあそびの再考』

コーディネーター

嵯峨 寿(筑波大学)

〔Ⅱ〕資料

パネリスト

1. 「あそび」と文化を考える～ヨハン・ホイジンガー
をてがかりとして～

杉浦 恭 (愛知教育大学)

2. わが国における余暇ライフスタイル 30 年の変遷と今
後の展望

米村 恵子 (江戸川大学)

3. 「あそび」の広がり「あそび」空間整備の方向

麻生 恵 (東京農業大学)

《第 31 回学会大会》－ 2001 年－ (千葉大学)

□大会テーマ

『レジャー・レクリエーションから見た自然環境』

□基調講演

『レジャー・レクリエーションと自然環境』

進士五十八 (東京農業大学学長)

□シンポジウム

『レジャー・レクリエーションから見た自然環境』

コーディネーター

油井 正昭 (千葉大学)

パネリスト

下村 彰男 (東京大学大学院農学生命科学研究所)

加治 隆 ((財) 休暇村協会)

親泊 素子 (江戸川大学)

田畑 貞寿 ((財) 日本自然保護協会)

《第 32 回学会大会》－ 2002 年－ (大分大学)

□基調講演

『障害者スポーツからのメッセージ～太陽の家 37 年の歩
みを通して～』

吉永 栄治 (社会福祉法人太陽の家事務局長)

□シンポジウム

『障害者スポーツからのメッセージ』

コーディネーター

古城 建一 (大分大学)

パネリスト

1. 障害者スポーツからのメッセージ～施設から地域へ、
太陽の家の挑戦～

堀川 裕二 (社会福祉法人太陽の家)

2. 障害児者と健常者の「スポーツ統合」の可能性

綿 祐二 (長崎国際大学)

3. 知的障害者と大学生との合同ダンス練習会について

麻生 和江 (大分大学)

□ワークショップ

1. セラピューティック・レクリエーション専門分科会
「それぞれの専門領域からスポーツをどう捉えるか」

鈴木 秀雄 (関東学院大学)

中村 太郎 (医療法人恵愛会大分中村病院)

2. 景観・造園・環境

『地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理』

麻生 恵 (東京農業大学)

田中 伸彦 (独立行政法人森林総合研究所)

栗田 和弥 (東京農業大学)

上野 裕治 ((有) ハイランドパーク)

3. レジャー・レクリエーション産業

『世界的蹴球回想～ビジネスとライフスタイルに新しい
胎動を探る～』

嵯峨 寿 (筑波大学)

石川 宣治 (日本オリンピック委員会)

犬塚潤一郎 (リベラルアーツ研究所)

梅澤 佳子 (湘南国際女子短期大学)

加藤 優 (埼玉県立大学)

《第 33 回学会大会》－ 2003 年－ (東北福祉大学)

□大会テーマ

『世代間交流と地域文化』

□基調講演

『レジャー・レクリエーションと地域文化』

大村 虔一 (宮城大学副学長)

□シンポジウム

『世代間交流にみる諸活動』

コーディネーター

仲野 隆志 (仙台大学)

パネリスト

1. 行政の立場から

鳴海 渉 (仙台市泉区副区長)

2. 仙台・青葉まつり (すずめ踊り) における地域文化
と世代間交流の立場から

平賀 ノブ (BRIDAL PLANNER STAGE 代表取締役、
青葉踊り部会長)

3. 英国のレジャー・レクリエーション政策研究の立場
から

寺島 善一 (明治大学)

□ワークショップ

1. セラピューティック・レクリエーション専門分科会
「新しい概念領域としてのセラピューティックレクリエ
ーションに既存の内容や活動はどう位置づけられるのか」

鈴木 秀雄 (関東学院大学)

石井 允 (立教大学)

片桐 義晴((社福)新宿区障害者福祉協会)

2. 景観・造園・環境

「地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理」

麻生 恵 (東京農業大学)

荒井 歩 (東京農業大学)

栗田 和弥 (東京農業大学)

3. レジャー・レクリエーション産業

「東京ディスニーランドの成功から見えてくるもの・学べること」

嵯峨 寿 (筑波大学)

上澤 昇 (オリエンタルランド)

栗田 房穂 (宮城大学)

犬塚潤一郎 (実践女子大学)

坂田 信久 (国士舘大学)

《第34回学会大会》－2004年－(立教大学)

□大会テーマ

『21世紀グローバル社会に向けた学会発展のビジョンと戦略を考える』

□基調講演

『始動した21世紀において学会に求められる役割』

荻茂寿太郎 (東京農業大学副学長)

□シンポジウム

『21世紀の学会発展のビジョンと戦略を考える』

コーディネーター

麻生 恵 (東京農業大学)

パネリスト

1. 日本レジャー・レクリエーション学会のこれまでの取り組みから

鈴木 秀雄 (関東学院大学)

2. 国際化の動きと国際化への対応から

西野 仁 (東海大学)

3. 産業界・行政等との連携から

山口 有次 (早稲田大学)

□ワークショップ

1. セラピューティック・レクリエーション専門分科会「要介護予防運動指導におけるセラピューティックエクササイズの意味と意義」

鈴木 秀雄 (関東学院大学)

2. 「景観・造園・環境系」及び「レジャー・レクリエーション産業系」の合同開催

「レクリエーション資源空間と産業に関わる研究の今後の取り組みを考える」

栗田 和弥 (東京農業大学)

嵯峨 寿 (筑波大学)

3. 公募ワークショップ

「個別プログラムとケースワークの実践」

吉岡 尚美 (東海大学)

茅野 宏明 (武庫川女子大学)

《第35回学会大会》－2005年－(国際基督教大学)

□大会テーマ

『ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション』

□基調講演

『レジャー・レクリエーション見聞記』

平野 次郎 (学習院女子大学特別専任教授、元NHK解説委員)

□シンポジウム

『ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション』

コーディネーター

西野 仁 (東海大学)

パネリスト

1. 子どもの体力や生活習慣病をめぐって

徳村 光昭 (慶応義塾大学保健管理センター)

2. 現在の日本の高齢者の健康や生活機能の実態について

鈴木 隆雄 (東京都老人総合研究所)

3. 環境教育をはじめとする様々な市民活動の場としての公園緑地

西川 嘉輝 (国土交通省公園緑地課緑地環境推進室)

□研究分科会

1. セラピューティック・レクリエーション専門分科会「日本におけるレジャー・レクリエーションの一般的概念からセラピューティック・レクリエーションの啓発を俯瞰する」

鈴木 秀雄 (関東学院大学)

大堀 孝雄 (東海大学)

常藤 恒良 (東京YMCA)

石井 允 (立教大学)

飯沼 和三 (海老名厚生病院)

2. 景観・造園・環境「自然体験型レクリエーション空間の利用計画と運営」

麻生 恵 (東京農業大学)

松本 清 (フリー環境コンサルタント)

栗田 和弥 (東京農業大学)

《第36回学会大会》－2006年－(平安女子大学)

□大会テーマ

『共に育つために求められているレジャー・レクリエーション』

□基調講演

『現代社会におけるレクリエーションの意義と課題～保険福祉学の立場から～』

岡本 民夫 (同志社大学社会学部)

□シンポジウム

『共に育つために求められているレジャー・レクリエーション』

コーディネーター

高橋 伸 (国際基督教大学)

パネリスト

1. こどもの遊びの現状
酒井 妙子 (手づくりほいく研究会)
2. 地域福祉の推進に福祉現場としてどのように取り組むか
村田 明子 (兵庫県社会福祉協議会)
3. さらに増加する余暇 (自由時間)
吉田 圭一 (武庫川女子大学)

《第37回学会大会》－2007年－(東洋大学)

□大会テーマ

『レジャー・レクリエーションの充実に寄与するオリンピック・レガシー』

□オーガナイズドセッション

『レジャー・レクリエーションの充実に寄与するオリンピック・レガシー』

コーディネーター

麻生 恵 (東京農業大学)

パネリスト

1. オリンピックの招致とレガシー
嵯峨 寿 (筑波大学)
2. 空間論・環境論の立場から
栗田 和弥 (東京農業大学)
3. レジャー論とツーリズム論の立場から～マッチングシステム構築の提案～
土屋 薫 (江戸川大学)
4. レクリエーション・ムーブメントの立場から
山崎 律子 (株余暇問題研究所)
5. スポーツ・フォー・オールの立場から
師岡 文男 (上智大学)

《第38回学会大会》－2008年－(新潟医療福祉大学)

□大会テーマ

『地域興しとレクリエーション』

□基調講演

『地域興しとレクリエーション～その有効性をめぐって～』

森川 貞夫 (日本体育大学)

□シンポジウム

『“地域興しの手法としてのレクリエーション”再検討～新潟市における諸事例から～』

コーディネーター

小田切毅一 (新潟医療福祉大学)

パネリスト

1. アルビレックス新潟における地域興しの実践から
田村 貢 (アルビレックス新潟)
2. 生涯スポーツの拠点、総合型地域スポーツクラブにおける新潟の地域興しを問う
西原 康行 (新潟医療福祉大学)
3. ハンディキャップ・レク. 障害者主体の文化による地域興しの試み
池 良弘 (日本福祉医療専門学校)
4. 市民ボランティアがつくりだす新潟のあたらしい都市づくり

上山 寛 (上山寛アトリエ、建築家)

□ワークショップ

1. 中越地震災害復旧のレクリエーション支援体制づくり～こころのケアを中心に～
鈴木 允 (新潟県レクリエーション協会)
2. 地域と学生を繋ぐ教育活動の実践～教育の特色を生かしたレクリエーション・サービス～

坂内 寿子 (新潟中央短期大学)

《第39回学会大会》－2009年－(江戸川大学)

□大会総合テーマ

『生態系資源と文化的資源をつなぐライフデザイン～架け橋としてのレジャー・レクリエーション～』

□シンポジウム

総合コーディネーター

土屋 薫 (江戸川大学)

□セッションA

1. 船を通じた川とのつきあいかた
庄司 邦昭 (東京海洋大学)
2. 大堀川におけるカヌー体験 ゼミナールの実践
郡司 俊雄 (江戸川大学)

3. スポーツイベントの開催と安全性に関する課題

- 湘南の里海遊び -

遠藤 大哉(NPO法人バディ冒険団代表)

4. 市野谷の森公園を核とする水と緑のまちづくり

恵良 好敏(NPOさとやま)

1. 『貢献賞』受賞者によるショートスピーチ

2. 『学会の歩み～その2』紹介

麻生 恵(東京農業大学・学会理事長)

3. 今後の活動展開に向けて

鈴木 秀雄(関東学院大学・学会会長)

□セッションB

1. 世界の水辺空間&都市開発から考える

樋口正一郎(美術家・都市景観研究家)

2. 地域をつなぐ歴史の架け橋～利根運河の持つ力～

新保 國弘(東葛自然と文化研究所)

□総括セッション

1. ひとがリピーターを育み、リピーターがひとを育てる～着地型観光に学ぶ地域の誇り～

庄司 邦昭(東京海洋大学)

後藤 新弥(江戸川大学)

樋口正一郎(美術家・都市景観研究家)

恵 小百合(江戸川大学・江戸川大学総合福祉専門学校)

小高 静子(流山ガーデニングクラブ「花恋人-かれんと-」)

井崎 義治(流山市長)

梅谷 秀治(コーディネーター)

行政コミュニケーションアドバイザー)

《第40回学会大会》- 2010年-(東京農業大学)

□大会テーマ

『地域連携とレジャー・レクリエーション』

□基調講演

『地域連携とレジャー・レクリエーション』

宮林 茂幸(東京農業大学)

□シンポジウム

コーディネーター

麻生 恵(東京農業大学)

パネリスト

1. 行政との協働による市民主体のみどりのまちづくりへ向けた取り組み

小出 仁志((財)世田谷トラストまちづくり)

2. 多摩川源流大学の取り組みによる源流域の地域活性化

矢野加奈子(東京農業大学源流大学(GP)事務室)

3. 複数分野の連携で育む、新たなレジャー・レクリエーション資源とその担い手

木俣 知大(国土緑化推進機構、山村再生支援センター)

4. 高齢者の介護予防のための地域住民による巡回型レクリエーション指導～島根県雲南市を例として～

鎌田 真光(雲南市立身体教育医学研究所うなん研究員)

□特別セッション(第40回大会記念)

テーマ:『学会の歩み～今までとこれから～』

司会進行:上岡 洋晴(東京農業大学・学会常任理事)

資料(2) 研究会・学会大会における研究(実践)発表、ポスター発表

☆質疑応答

《第26回学会大会》－1996－

- A-1 21世紀を展望したレジャー・レクリエーション“運動”の課題と視点～余暇能力(Leisurability)の開発と余暇化(Leisurelization)の実現を中心に～
○鈴木 秀雄(関東学院大学)
- A-2 ヨハン・ホイジンガの近代文明批評のルーツに関する一考察
○杉浦 恭(愛知教育大学)
- A-3 日本人のレジャーの捉え方に関する研究の試みその1、研究の背景と目的、方法について
○西野 仁(東海大学)
知念 嘉史(東海大学)
吉川麻里子(スコレクラブ)
- A-4 日本人のレジャーの捉え方に関する研究の試みその2、中年夫婦、若年サラリーマン、大学生を対象として
○知念嘉史(東海大学)
西野 仁(東海大学)
吉川麻里子(スコレクラブ)
- A-5 日本人のレジャーの捉え方に関する研究の試みその3、大学体育学部生を対象としてI
○吉川麻里子(スコレクラブ)
西野 仁(東海大学)
知念 嘉史(東海大学)
- A-6 女子大学生の日常生活場面におけるレジャー経験の検討～経験抽出法(ESM)を用いて～
○佐橋 由美(樟蔭女子短期大学)
- A-7 高校生の余暇活動に関する実態調査
○寺嶋 文代(東京都立北多摩高等学校)
松浦三代子(東京女子体育大学)
- A-8 社交ダンス実施者の意識に関する研究
○竹内 正雄(星薬科大学)
- A-9 学外コース(乗馬)の生涯スポーツ化に関する授業の取り組みについて
○上野 直紀(いわき明星大学)
鈴木 秀雄(関東学院大学)
五十嵐幸一(いわき明星大学)
- A-10 高齢化・福祉社会の新しい生涯スポーツ:バーンゴルフ(BAHN GOLF)～バーンゴルフの楽しみ方(その2)～
○西田 俊夫(淑徳大学)
- A-11 首都圏大学生の歩行歩数量～ペドメーターの測定による分析～
○沼澤 秀雄(立教大学)
石井 允(立教大学)
鈴木 秀雄(関東学院大学)
片桐 義晴(早稲田大学大学院)
- A-12 スポーツ系専門学生における人生観・価値観について
○廣田 治久(余暇問題研究所)
下田 由香(スポーツ・エデュケーション・アカデミー)
- B-1 冬季キャンプ経験が参加学生の感性に及ぼす効果
○針ヶ谷雅子(明治薬科大学)
- B-2 ネイチャースキー教室の参加者について～野外活動経験と参加動機を中心に～
○野口 和行(慶應義塾大学)
桃井 泰彦(ネイチャースキー研究会)
- B-3 高齢者の余暇活動に関する一考察～いなみ野学園アンケート調査をもとに～
○片岡 麻里(神戸YMCA学院専門学校ウエルネス研究所)
小泉勇治郎(神戸YMCA学院専門学校ウエルネス研究所)
山下陽一郎(神戸YMCA学院専門学校ウエルネス研究所)
- B-4 WLRA とその世界会議の動向について
○山崎 律子(余暇問題研究所)
川向 妙子(東海大学)
高橋 伸(国際基督教大学)
栗原 邦秋(余暇問題研究所)
- B-5 “楽しさ”を中心とした大学体育授業の試みに関する基礎調査
○高橋 伸(国際基督教大学)
- B-6 フライングディスク競技アルティメットプレーヤーに必要な資質～とくにハンドラーについて～
○手塚 麻美(中部大学女子短期大学)

- B-7 こどもの遊びに関する一考察
～阪神大震災を通してみるこどものレクリエーション活動～
○小泉勇治郎(神戸YMCA学院専門学校ウエルネス研究所)
山下陽一郎(神戸YMCA学院専門学校ウエルネス研究所)
片岡 麻里(神戸YMCA学院専門学校ウエルネス研究所)
- B-8 震災ボランティアの社会学的研究(1)
～性別による分析～
○高見 彰(関西女学院短期大学)
山口 泰雄(神戸大学)
土肥 隆(神戸商科大学)
世戸 俊男(神戸YMCA)
- B-9 震災ボランティアの社会的研究(2)
～参加者タイプによる分析～
○世戸 俊男(神戸YMCA)
山口 泰雄(神戸大学)
土肥 隆(神戸商科大学)
高見 彰(関西女学院短期大学)
- B-10 キャンプ・アーメックが東京YMCA長期キャンプに及ぼした影響
○谷戸 一雅(余暇問題研究所)
高橋 和敏(余暇問題研究所)
- B-11 現代女子学生の健康意識について
○生方 盈代(国立音楽大学)
音海 哲子(相模女子大学)
藤井 陽江(立教大学)
- A-4 民間レクリエーション団体会員の継続意欲に関する研究
○赤堀 方哉(神戸大学大学院)
山口 泰雄(神戸大学)
- A-5 介護福祉におけるレクリエーション援助の実態に関する研究
○松永 敬子(一宮女子短期大学)
- A-6 余暇生活設計のためのツール開発に関する研究(2)
～ILM日本語版の信頼性と妥当性に関して～
○野村 一路(日本体育大学)
茅野 宏明(武庫川女子大学)
佐橋 由美(樟蔭女子短期大学)
- A-7 自閉症児キャンプにおける問題点
～過去の実施過程から～
○高垣 正道(株ユマニティ)
高橋 和敏(余暇問題研究所)
- A-8 高齢者施設におけるレクリエーション活動とその問題点
～とくに有料老人ホームの場合(事例報告)～
○上野 幸(余暇問題研究所)
山崎 律子(余暇問題研究所)
- A-9 青年の日常生活における多忙感と退屈感についての予備調査
○橋本 和秀(余暇問題研究所)
山崎 律子(余暇問題研究所)
- A-10 NRPAとその年次大会について
○浅宮佐知子(余暇問題研究所)
廣田 治久(余暇問題研究所)
高橋 和敏(余暇問題研究所)
- A-11 幼・少年期の自然体験と感性の関わり
○若杉 淳子(山梨大学研究生)
川村 協平(山梨大学)
永吉 英記(山梨大学大学院)
小林恵里香(山梨幼児野外教育研究会)
- A-12 レクリエーションゲーム前後の疲労スコアの変動～6種類の運動を取り上げて～
○服部 伸一(関西福祉大学)
前橋 明(倉敷市立短期大学)
- A-13 レクリエーションの効果に関する研究(Ⅱ)
～レクリエーション効果チェックリストの試案と疲労自覚症状調査との関連～

《第27回学会大会》 - 1997 -

- A-1 レジャー・レクリエーションの新しいパースペクティブ(perspective)及び新しいパラダイム(paradigm)としてのマトリックス的分析～エスノメソドロジー(Ethnomethodology)的視点で～
○鈴木 秀雄(関東学院大学)
- A-2 レジャー教育のカリキュラム編成に関する一考察～青森大学社会学部社会学科レジャー社会学コースを事例として～
○土屋 薫(青森大学)
工藤 雅世(青森大学)
- A-3 A. H. マズローの自己実現概念の再検討
○片桐 義晴(早稲田大学大学院)

〔Ⅱ〕資料

- 前橋 明 (倉敷市立短期大学)
服部 伸一 (関西福祉大学)
- A - 14 I 少年院における「相撲大会」が矯正教育に及ぼす影響～相撲大会前後の大会に対する態度変容について～
○山村 昌代 (東海大学大学院)
大堀 孝雄 (東海大学)
- A - 15 キャンプにおける水辺活動の価値
○柳 敏晴 (鹿屋体育大学)
- B - 1 群馬県川場村友好の森における「やま (森林) づくり塾自然教室」について (実践報告)
○嶋野弥名子 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- B - 2 横浜市緑区中山中学校区域内におけるワークショップ方式による花と緑の市民まちづくり地図製作
○岩間 貴之 (町田市都市緑政部)
栗田 和弥 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- B - 3 市民による雑木林における活動に関する研究
○影沢 裕之 (十勝毎日新聞社)
栗田 和弥 (東京農業大学)
永嶋 正信 (東京農業大学)
- B - 4 世界各国における自然保護地域の指定動向について
○油井 正昭 (千葉大学)
古谷 勝則 (千葉大学)
- B - 5 レジャー・レクリエーション環境としての公園の考察
○蓑茂寿太郎 (東京農業大学)
- B - 6 パンクーパーにおける公園レクリエーションプログラムの現状
○金子 忠一 (東京農業大学)
- B - 7 鮮魚センターを中心とした寺泊町観光の形成に関する史的考察
○早川 章治 (株式会社表養樹園)
鈴木 誠 (東京農業大学)
服部 勉 (東京農業大学)
- B - 8 岡山県における農村リゾートの研究
○笠木 秀樹 (美作女子大学)
- B - 9 高齢者のスポーツ活動に関する事例研究
○駒津 和康 (北海道教育大学旭川校大学院)
鈴木 文明 (拓殖大学北海道短期大学)
- B - 10 参加型スポーツイベントの運営に関する研究～特にトライアスロン大会に対するイメージについて～
○原田 尚幸 (鹿屋体育大学)
- B - 11 スポーツ系専門学校生のスポーツ観について～とくに生き方・考え方、生き甲斐との比較から～
○下田 由香 (スポーツ・エデュケーション・アカデミー)
廣田 治久 (余暇問題研究所)
- B - 12 スポーツ系専門学校生における人生観・価値観について (Ⅱ) ～とくに、'96年度および'97年度学生の比較を中心に～
○廣田 治久 (余暇問題研究所)
下田 由香 (スポーツ・エデュケーション・アカデミー)
- B - 13 体力と生き甲斐の関連性検証の試みⅡ～体力測定結果と生活満足指数 (Life Satisfaction Index) を用いて～
○栗原 邦秋 (余暇問題研究所)
橋本 和秀 (余暇問題研究所)
川向 妙子 (東海大学)
- B - 14 児童の生活と加速度脈波波形の関係
○川村 協平 (山梨大学)
永吉 英記 (山梨大学大学院)
若杉 純子 (山梨大学聴講生)
小林恵里香 (山梨幼児野外教育研究会)
- B - 15 「キャンプ場の個性的な魅力づくり」に関するアンケート調査～日本・台湾・ヨーロッパのキャンプ場の景観写真による～
○陳 盛雄 (東京農業大学)
川村 協平 (山梨大学)
前野淳一郎 (スペースコンサルタンツ)

《第 28 回学会大会》 - 1998 -

- A - 1 新たなレクリエーション運動の展開に向けての人材養成～(社)横浜市レクリエーション協会の事例を中心に～
○鈴木 秀雄 (関東学院大学)
- A - 2 英国のレジャー政策と政府・公的機関の関与～その歴史的展開と思想的背景を中心に～
○寺島 善一 (明治大学)

- A-3 レクリエーションの視点から見たマサチューセッツ湾植民地の意義～アメリカ公共レクリエーションの源流として～
○廣田 治久 (㈱余暇問題研究所)
高橋 和敏 (㈱余暇問題研究所)
- A-4 レジャー行動モデルの行動計量学的分析
○土屋 薫 (青森大学)
- A-5 グアテマラ共和国におけるマヤ系先住民のスポーツ意識形成とスポーツ教育制度
○山田 力也 (福岡大学大学院)
- A-6 ゆとりと教育を考える
～フレネ教育の視点から～
○梅津 迪子 (聖学院大学)
- A-7 高校生の日常生活における多忙感と退屈感についての調査
○橋本 和秀 (㈱余暇問題研究所)
山崎 律子 (㈱余暇問題研究所)
- A-8 日常生活におけるレジャー経験の検討
～40・50代既婚女性を対象として～
○佐橋 由美 (樟蔭女子短期大学)
- A-9 高校生の「ゆとり」経験について (第1報)
～いつ、どんな場面で「ゆとり」を感じ、その時の気分はどうか～
○西野 仁 (東海大学)
- A-10 スポーツ応援行動に関する社会学的研究
～Jリーグにおけるアピスパサポーターを中心に～
○立木 宏樹 (福岡大学スポーツ科学部)
大谷 義博 (福岡大学)
松尾 哲矢 (福岡大学)
三本松正敏 (福岡教育大学)
- A-11 ウォーキングイベントにおける中高年男性の単独参加者に関する研究～なぜ一人で歩くのか～
○赤堀 方哉 (神戸大学大学院)
山口 泰雄 (神戸大学)
- A-12 スクーバ・ダイバーの活動継続要因に関する研究
～ダイビングに関するアンケート調査より～
○千足 耕一 (十文字学園女子短大)
永嶋 秀敏 (海中開発技術協会)
- A-13 Camp O-AT-KA における伝統性
～指導者としての参加経験をもとに～
○高橋 伸 (国際基督教大学)
橋本 和秀 (余暇問題研究所)
廣田 治久 (余暇問題研究所)
- A-14 ウォーキングイベント県外参加者の特性
～リピーターと初参加者～
○西村久美子 (神戸大学大学院)
服部可奈子 (神戸大学)
山口 泰雄 (神戸大学)
- A-15 中年者の職務満足と生活満足の関係
○八木 良紀 (神戸大学)
山口 泰雄 (神戸大学)
- B-1 スペシャルオリムピックス会員におけるボランティアのイメージについて
○巖 謙烈 (東海大学)
大堀 孝雄 (東海大学)
新出 昌明 (東海大学)
- B-2 日本の医療・福祉の現場で実践されるレクリエーションのアセスメントと評価の視点に関する研究～日本の実態に合わせたアセスメントと評価の模索～
○芳賀 健治 (東京家政学院大学)
- B-3 スペシャルオリムピックス会員のボランティア活動に対する意識について～参与形態によるボランティア活動と組織の機能の評価～
○鈴木 英悟 (東海大学)
大堀 孝雄 (東海大学)
西野 仁 (東海大学)
- B-4 都市における自然観察会について
～京都御苑での事例～
○塚本 瑠一 (北海学園北見大学)
- B-5 地域づくりと農村リゾート～愛媛県上浮穴郡久万町の事例を通して～
○小泉勇治郎 (松山東雲女子大学)
- B-6 エコキャンプによる環境への意識変容について
○小泉 紀雄 (日本体育大学)
- B-7 グリーンツーリズムの振興に関する一考察
～バイエルン州における現状と課題～
○笠木 秀樹 (津山東高校)
- B-8 東京湾内における釣り場環境の実態に関する研究
○荒井 歩 (東京農業大学)
春日 章宏 (東京農業大学)

〔Ⅱ〕資料

- B-9 市民NPOによる緑地の利用・管理の参加者誘致圏について～東京都町田市かしの木山自然公園を事例に～
○栗田 和弥 (東京農業大学)
植竹 薫 (東京農業大学)
- B-10 子どもスポーツ組織における加盟・継続・脱退を規定する要因論的検討
～スポーツ少年団に着目して～
○安田 直由 (福岡大学大学院)
- B-11 現代女子学生の健康意識について
～学生生活における充実感～
○生方 盈代 (国立音楽大学)
藤井 陽江 (立教大学)
堀 良子 (帝塚山学院大学)
松木 伸子 (大手前女子大学)
植田 芳子 (大手前女子大学)
- B-12 運動によるレクリエーション効果に関する研究
○前橋 明 (倉敷市立短期大学)
- B-13 女性の運動・スポーツ行動に対する結果予想について～三島・沼津地域のスポーツ参加者・非参加者の比較～
○小俣里知子 (日本大学)
鈴木 秀雄 (関東学院大学)
吉本 俊明 (日本大学)
- B-14 高齢者デイサービスにおけるプログラミングの問題点～とくにレクリエーション担当者からみた場合～
○山崎 律子 (㈱余暇問題研究所)
上野 幸 (㈱余暇問題研究所)
- B-15 バーンアウト過程に関する研究
～ソーシャル・サポートとの関連で～
○大隈 節子 (福岡大学大学院)
- B-16 弾み運動のレクリエーション効果に関する研究
○宮田 和久 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- 吉田 圭一 (武庫川女子大学)
- A-3 民間レクリエーション団体のNPO法受容過程に関する研究
○赤堀 方哉 (梅光女学院大学短期大学部)
- A-4 現代高校生における自由時間活動の相手選択と自主決定による活動傾向について
○橋本 和秀 (余暇問題研究所)
山崎 律子 (余暇問題研究所)
- A-5 高校生の“ゆとり”経験について (第2報)
～ゆとり経験時の心理～
○西野 仁 (東海大学)
- A-6 “レクリエーション”イメージの変遷について～自由連想法による反応語の比較～
○高橋 伸 (国際基督教大学)
高橋 和敏 (余暇問題研究所)
- A-7 余暇教育プログラム参加者の余暇意識の変化
○茅野 宏明 (武庫川女子大学)
- A-8 レクリエーションから連想するイメージ
○武石 宣子 (和泉短期大学)
- A-9 レジャー行動モデルの行動計量学的分析～青森市の事例を中心として～
○土屋 薫 (青森大学社会学部)
澁谷 泰秀 (青森大学社会学部)
- A-10 “ポスト大衆余暇型社会”における教養の理念～エリートVS大衆の構図をこえて～
○服部百合子 (和光大学)
- A-11 ‘Play Day’の成立過程とその理念～1900年代前半のアメリカにみる女性スポーツ教育を手がかりとして～
○荒井 啓子 (学習院女子大学)
- A-12 アメリカの療法的レクリエーション専門職団体における立法運動の展開～2つの団体の見解の差異を中心に～
○堀田哲一郎 (鈴峯女子短期大学)
- A-13 福祉施設におけるレクリエーション指導に関する研究～レクリエーション援助者に注目して～
○立木 宏樹 (九州保健福祉大学)
秋吉 嘉範 (九州保健福祉大学)
- A-14 高齢者施設におけるアクティビティの研究
○笠木 秀樹 (岡山県立津山東高校)
- B-1 社交ダンスサークル参加者の意識調査について
○竹内 正雄 (星薬科大学)

《第29回学会大会》－1999－

- A-1 セラピューティックレクリエーション概念のピクトリアルモデル～そのスコープとシークエンス～
○鈴木 秀雄 (関東学院大学)
- A-2 レクリエーション観確立に関する研究

- B-2 スクーバ・ダイバーの楽しさに関する調査研究
○千足 耕一 (十文字学園女子短期大学)
大石 示朗 (東京女子体育大学)
- B-3 高校野球における‘甲子園神話’の再生産過程～潜在的カリキュラム論に依拠して～
○清水 一巳 (福岡大学大学院)
大谷 善博 (福岡大学)
山田 力也 (福岡大学)
- B-4 育児をする母親のストレスとレクリエーション活動
○芝誠 貴 (大阪信愛女学院短期大学)
前橋 明 (倉敷市立短期大学)
- B-5 レクリエーションの視点からみた地域テニス活動の現状と課題～千葉市テニス協会ベテラン委員会の事例を通して～
○境 広志 (武蔵野短期大学)
- B-6 レクリエーションの効果に関する研究 (IV)～活動前の疲労度別にみたレクリエーション活動の効果～
○服部 伸一 (関西福祉大学)
前橋 明 (倉敷市立短期大学)
- B-7 運動によるレクリエーション効果を高める条件について
○前橋 明 (倉敷市立短期大学)
服部 伸一 (関西福祉大学)
- B-8 A S Eを導入した体育授業が女子看護学生の学級適応に及ぼす効果
○岡村 泰斗 (筑波大学大学院)
飯田 稔 (筑波大学)
関 智子 (筑波大学)
- B-9 高齢者A氏・B氏の余暇活動について～高齢者における余暇活動の類似化とレクリエーション介入方法確立に向けての事例研究(1)～
○山崎 律子 (株余暇問題研究所)
上野 幸 (株余暇問題研究所)
高橋 和敏 (株余暇問題研究所)
- B-10 地域活動と少年・少女キャンプについての実践報告～江東区少年の船の場合～
○廣田 治久 (余暇問題研究所)
栗原 邦秋 (余暇問題研究所)
- B-11 長期・短期自然体験が参加者の達成動機に及ぼす効果の比較
○関 智子 (筑波大学)
飯田 稔 (筑波大学)
岡村 泰斗 (筑波大学大学院)
- B-12 自然とのふれあい活動への参加者誘致圏について～東京都町田市かしの木山自然公園を事例に～
○栗田 和弥 (東京農業大学)
植竹 薫 (東京農業大学大学院)
- B-13 森林観光・レクリエーションに関わる資源・施設の地域ポテンシャル算出に関する考察～笠間地域を対象としたケーススタディ～
○田中 伸彦 (森林総合研究所)

《第30回学会大会》- 2000 -

- A-1 余暇教育学の視点から捉える啓発活動～玄倉川水難事故後の野外活動に対する啓発事例を中心に～
○鈴木 秀雄 (関東学院大学)
鈴木 英悟 (東海大学非常勤講師)
- A-2 フランスの余暇～コートダジュールの子どもを中心に～
○梅津 迪子 (聖学院大学)
- A-3 レジャー行動とストレスコーピング
○土屋 薫 (青森大学)
澁谷 泰秀 (青森大学)
- A-4 高齢者C氏・D氏の余暇活動について～高齢者における類型化と高齢者に対するレクリエーション援助方法の確立にむけての事例研究(2)～
○上野 幸 (余暇問題研究所)
山崎 律子 (余暇問題研究所)
高橋 和敏 (余暇問題研究所)
- A-5 「レクリエーションカウンセリング」・「余暇カウンセリング」・「余暇教育」の差異～The Best of the Therapeutic Recreation Journal: Leisure Education.(1993)を手がかりとして(2)～
○堀田哲一郎 (鈴峯女子短期大学)
- A-6 マクロ的視点からみるセラピューティックレクリエーション～玄倉川事故の教訓から生まれた啓発活動を中心に～

〔Ⅱ〕資料

- 鈴木 英悟 (東海大学非常勤講師)
- A - 7 組織キャンプにおけるカウンセラーの意識変化に関する研究
- 廣田 治久 (余暇問題研究所)
栗原 邦秋 (余暇問題研究所)
- A - 8 ASEを導入した体育授業が女子看護学生の友達づきあいに及ぼす効果
- 岡崎 泰斗 (筑波大学大学院)
- A - 9 日本における公園運動とレクリエーション運動の統合の必要性について～アメリカにおける現行事例に学んで～
- 山崎 律子 (余暇問題研究所)
高橋 和敏 (余暇問題研究所)
- A - 10 「教養知」についての人間論的考察～ホモ・サピエンスとホモ・ルーデンス～
- 服部百合子 (和光大学)
- A - 11 ヨハン・ホイジンガ研究の動向～近代文明批評に焦点をあてて～
- 杉浦 恭 (愛知教育大学)
- A - 12 近代日本における「初期」レクリエーション論の検討～権田保之助を手がかりに～
- 坂内 夏子 (早稲田大学)
- A - 13 高齢者政策におけるレクリエーションの位置づけ～日本とオーストラリアの比較から～
- 芳賀 健治 (東京家政学院大学)
- A - 14 民間レクリエーション団体のNPO法受容過程に関する研究 (2)
- 赤堀 方哉 (梅光女学院大学短期大学部)
- B - 1 ニューススポーツの変容過程に関する研究 (1)～ニューススポーツの制度化と競技志向の観点から～
- 谷口 勇一 (財団法人福岡体育協会)
山田 力也 (福岡大学)
- B - 2 ニューススポーツの変容過程に関する研究 (2)～ニューススポーツ実施者のスポーツ価値意識を中心に～
- 山田 力也 (福岡大学)
谷口 勇一 (財団法人福岡市体育協会)
- B - 3 レクリエーション・スポーツクラブの活動状況と意識に関する事例研究～クラブ活動への参加状況と加入状況による意識の違いについて～
- 長岡 雅美 (武庫川女子大学)
永松 昌樹 (大阪教育大学)
宮崎 千枝 (大阪体育大学大学院)
- B - 4 自治体の生涯スポーツイベント開催までの経緯に関する一考察
- 竹田 隆行 (スポーツ産業団体連合会)
松永 敬子 (文教大学)
- B - 5 大学スノースポーツ集中実技におけるフロー経験と授業評価
- 千足 耕一 (十文字学園女子短期大学)
川田 儀博 (国士館大学体育学部)
- B - 6 XCスキーとウォーキングスキー (歩くスキー)
- 斎藤 孝 (上田まほろばユースホテル)
- B - 7 レクリエーション活動におけるニューススポーツとしての「エコロベース」
- 高橋 仁美 (同志社大学非常勤)
藤田千鶴子 (福祉レクリエーションワーカー)
長沢 邦子 (奈良女子大学非常勤)
種村紀代子 (京都女子大学)
丹羽 昶昭 (聖母被昇天女子短期大学)
- B - 8 レクリエーション活動を用いた育児支援プログラム～親子運動プログラムと母親のレクスコア～
- 芝 誠貴 (大阪信愛女学院短期大学)
前橋 明 (倉敷市立短期大学)
- B - 9 レクリエーションの効果に関する研究 (V)～高校生の体育授業を通して～
- 服部 伸一 (関西福祉大学)
前橋 明 (倉敷市立短期大学)
- B - 10 ESMデータを用いた特性としての内発的動機づけ傾向 (autotelic personality) に関する検討: "autotelic person" の日常行動・経験パターンの特徴
- 佐橋 由美 (樟蔭女子短期大学)
- B - 11 「母権的価値」と「父権的価値」からみる現代スポーツの諸相
- 嶋津 優子 (東海大学大学院生)
西野 仁 (東海大学)
- B - 12 尾瀬山の鼻・見晴間の木道から眺める景観の構造
- 油井 正昭 (千葉大学)

- B - 13 西四国観光ネットワーク「ルーラルポケット」に関する一考察
○小泉勇治郎(松山東雲女子大学)
- B - 14 都市部公共自治体のジュニアリーダーと一般同世代少年少女における友人関係意識の比較
○橋本 和秀(余暇問題研究所)
山崎 律子(余暇問題研究所)
- B - 15 ナイキCMにみるスポーツの遊戯性とrecreate効果
○嵯峨 寿(筑波大学)
- A - 9 霧ヶ峰における草原景観の興味対象に関する研究
○栗原 雅博(千葉大学大学院自然科学研究科)
古谷 勝則(千葉大学大学院自然科学研究科)
油井 正昭(千葉大学園芸学部)
- A - 10 日光国立公園尾瀬地区における自動車の利用規制について
○古谷 勝則(千葉大学大学院自然科学研究科)
油井 正昭(千葉大学園芸学部)
- A - 11 磐梯朝日国立公園裏磐梯高原の眺望景観特性
○油井 正昭(千葉大学園芸学部)
- A - 12 景観が人間の生理・心理に与える影響 ～自然的景観と人工的景観の比較～
○多田 充(千葉大学大学院自然科学研究科)
- A - 13 NRPAのレクリエーション運動ビジョンに関する研究～“Vision 2000 A Strategic Plan for NRPA's Future”を中心に～
○三宅 基子((財)日本レクリエーション協会)
- A - 14 NRPAレジャー研究シンポジウム抄録に見るレジャー・レクリエーション研究動向(1995～2000年)
○栗原 邦秋(余暇問題研究所)
高橋 伸(国際基督教大学)
高橋 和敏(余暇問題研究所)
- B - 1 レクリエーション活動における「エコロベース」の検討～年代別にみて～
○高橋 仁美(同志社大学非常勤講師)
藤田千鶴子(福祉レクリエーションワーカー)
竹田 正樹(同志社大学)
- B - 2 キンボールに関する研究(1)～講習会参加者の意識調査～
○後藤 太之(桃山学院大学非常勤講師)
前山 直(藍野学院短期大学)
三浦 恵子(梅花女子大学)
後藤 芳子(梅花女子大学)
松井外喜子(梅花女子大学)
蒲 真理子(北陸大学)
- B - 3 キンボールに関する研究(2)～心拍数を用いた教材としての検討～

《第31回学会大会》－2001－

- A - 1 高齢者の余暇活動について(3)～高齢者における類型化と高齢者に対するレクリエーション援助方法の確立に向けての事例研究～
○上野 幸(余暇問題研究所)
山崎 律子(余暇問題研究所)
高橋 和敏(余暇問題研究所)
- A - 2 セラピューティックレクリエーションサービスモデルの実践に関する研究(1)～アセスメント&プログラム計画(AP)シートの試案～
○茅野 宏明(武庫川女子大学)
- A - 3 社会福祉領域からみたレクリエーション・余暇～ホームヘルパー養成講習受講者と福祉ボランティア実践者の事例から～
○山本 存(甲南女子大学)
- A - 4 Mスポーツと芸道におけるフロー体験の特性について
○迫 俊道(広島市立大学大学院)
- A - 5 レクリエーション概念の歴史的検討～社会教育研究の視点から～
○坂内 夏子(早稲田大学)
- A - 6 現代イスラーム社会における女性のスポーツ行動にみるレクリエーション性
○荒井 啓子(学習院女子大学)
- A - 7 教養教育としてのレジャー・レクリエーション～大学における研究・教育・学習の自由の視点から～
○服部百合子(和光大学人間関係学部)
- A - 8 スポーツイベント開催に対する地元住民の評価
○原田 尚幸(鹿屋体育大学)

〔Ⅱ〕資料

- 蒲 真理子 (北陸大学)
三浦 恵子 (梅花女子大学)
後藤 芳子 (梅花女子大学)
松井外喜子 (梅花女子大学)
前山 直 (藍野学院短期大学)
後藤 大之 (桃山学院大学非常勤講師)
- B-4 「総合的な学習」における地域との連携および学外指導者の必要性について
○藤原 昌樹 (川村学園女子大学)
- B-5 レクリエーションへのイメージの変化をねらいとしたレクリエーション理論の授業実践
○岡澤 哲子 (甲子園短期大学)
- B-6 都市部における余暇退屈度の特性
○土屋 薫 (青森大学)
澁谷 泰秀 (青森大学)
- B-7 中学生の「ゆとり」経験について(1)～いつ、どんな場面で「ゆとり」を感じ、その時の気分はどうか～
○西野 仁 (東海大学)
- B-8 ボランティア体験学習の教育効果に関する研究
○赤堀 方哉 (梅光学院大学女子短期大学部)
- B-9 ジュニアリーダーセミナーへの参加理由について
○橋本 和秀 (余暇問題研究所)
山崎 律子 (余暇問題研究所)
- B-10 児童の自由時間における遊びに関する事例研究～自然学校における自由時間の行動について～
○長岡 雅美 (武庫川女子大学)
永松 昌樹 (大阪教育大学)
森 知香 (株式会社モンベル)
- B-11 社寺参詣と「歩き」の効果
○北 徹朗 (東海大学大学院生)
西野 仁 (東海大学)
- B-12 区主催組織キャンプ参加者にみる地域青少年育成者への認識変化について
○廣田 治久 (余暇問題研究所)
橋本 和秀 (余暇問題研究所)
- B-13 戦前のセツルメント事業におけるキャンプ活動～興望館セツルメントに見るキャンプ活動について～
○高橋 伸 (国際基督教大学)

《第32回学会大会》－2002－

- A-1 活動歴とレジャー経験～小学生時代の野外活動経験の有無による比～
○吉原さちえ (東海大学大学院生)
西野 仁 (東海大学)
- A-2 中学生の「ゆとり」経験について(2)～「ゆとり」感とそれを感じている経験に対する考え～
○西野 仁 (東海大学)
- A-3 都市部における余暇満足度の特性
○土屋 薫 (青森大学)
澁谷 泰秀 (青森大学)
- A-4 余暇意識と生活充実感の構造研究
○米村 恵子 (江戸川大学社会学部)
- A-5 レジャー・レクリエーションの教育と「学習の自由」～自由のアポリアを越えて～
○服部百合子 (和光大学人間関係学部)
- A-6 スポーツ競技者の身体感覚とアイデンティティ
○大隈 節子 (九州大学大学院)
- A-7 ニュースポーツの変容過程に関する研究(3)～変容に伴う支援団体間の有機的連携の可能性～
○谷口 勇一 (大分大学)
- A-8 幼児期の運動あそびの意義と役割～体温調節との関係からの考察～
○前橋 明 (倉敷市立短期大学)
- B-1 長期療養型病床群におけるTRの実例
○植木 順子 (東前病院)
- B-2 長期療養型病床群におけるTRの記録・評価用紙の作成と発展
○吉岡 尚美 (東前病院)
- B-3 老人病院におけるレクリエーションサービス形態とレクリエーションワーカーのスキルについての考察～K老人病院におけるリハビリテーションとレクリエーションの取り組みより～
○小池 和幸 (仙台大学)
- B-4 痴呆性老人専用デイサービスセンター利用者の承認欲求を高める個別援助技術に関する考察～福祉レクリエーション援助の視点より～
○滝口 真 (西九州大学健康福祉学部)
- B-5 老人ホームにおけるセラピューティックレクリエーションサービスの整備に関する一考察～A特別養護老人ホームのケース～
○茅野 宏明 (武庫川女子大学)

- B-6 地図指摘法による阿蘇の草原景観に関する地域住民の認識構造についての研究
○佐藤 芳郎(東京農業大学造園科学科研究生)
猪瀬 怜子(東京農業大学大学院造園学専攻)
- B-7 グリーン・ツーリズム運動と市民農園
○小泉勇治郎(松山東雲女子大学)
- B-8 「レクリエーション」に関するイメージの研究2～とくに「楽しい」「遊び」の事例比較を中心に～
○高橋 伸(国際基督教大学)
- B-9 高齢者の余暇活動について～質的手法の試みによる高齢者の類型化とレクリエーション支援方法の確立に向けての事例研究(4)～
○山崎 律子(余暇問題研究所)
上野 幸(余暇問題研究所)
高橋 和敏(余暇問題研究所)
- 上野 幸(余暇問題研究所)
山崎 律子(余暇問題研究所)
高橋 和敏(余暇問題研究所)
- A-9 高齢者デイサービスにおけるレクリエーションプログラムについての事例研究
○廣田 治久(余暇問題研究所)
上野 幸(余暇問題研究所)
山崎 律子(余暇問題研究所)
- A-10 初期痴呆高齢者に対するレクリエーション療法の試み～個人の状態に応じたプログラムの選択と展開～
○草壁 孝治(青梅慶友病院・ゆりの木クラブ)
- A-11 車イスダンスの心と体に及ぼす影響
○駒野 敦子(東北福祉大学)
小野寺浩三(東北福祉大学)
阿部 一彦(東北福祉大学)
- A-12 ライフデザインとしての福祉の方向性～歩行機能を強化するための運動(転倒防止)を中心に～
○小椋 一也(国際医療福祉大学大学院)
鈴木 英悟(東海大学体育学部非常勤)
田中 光(洗足学園短期大学幼児教育科)
坂口 正治(東洋大学社会学部)
鈴木 秀雄(関東学院大学人間環境学部)
- A-13 ライフデザインとしての生涯スポーツ～その概念の特定化～
○鈴木 英悟(東海大学体育学部非常勤)
田中 光(洗足学園短期大学幼児教育科)
小椋 一也(国際医療福祉大学大学院)
坂口 正治(東洋大学社会学部)
鈴木 秀雄(関東学院大学人間環境学部)
- A-14 幼児期のライフデザイン～幼児体育における運動を中心に～
○田中 光(洗足学園短期大学幼児教育科)
小椋 一也(国際医療福祉大学大学院)
鈴木 英悟(東海大学体育学部非常勤)
坂口 正治(東洋大学社会学部)
鈴木 秀雄(関東学院大学人間環境学部)
- B-1 中学生の休日の過ごし方～連休日数にどうかわるのか～
○飯塚 裕子(東海大学)
西野 仁(東海大学)

《第33回学会大会》 - 2003 -

- A-1 福祉サービス利用者の自由度評価と評価者の余暇評価
○左近 慎平(仙台医療福祉専門学校)
- A-2 ホームヘルパーの余暇・レクリエーションに関する研究～ホームヘルパー養成講習受講者との比較から～
○山本 存(甲南女子大学)
- A-3 医療、福祉における福祉レクリエーション・ワーカーの専門職性と成立要件の整理
○小池 和幸(仙台大学)
- A-4 デイサービスにおけるTRサービスの実際
○植木 順子(東前病院)
- A-5 セラピューティックレクリエーション・サービス・モデル
○茅野 宏明(武庫川女子大学)
- A-6 レジャーにおけるフロー理論の再検討
○佐橋 由美(大阪樟蔭女子大学)
- A-7 「ポスト大衆化」段階の大学教育における「教養」と「自由」～動機づけ理論の再検証を通して～
○服部百合子(和光大学)
- A-8 高齢者の余暇活動について(5)～主にコホート別による余暇活動の実状～

〔Ⅱ〕資料

- B-2 ゆとりの構造化に向けて(1)～言葉と概念の整理～
○西野 仁(東海大学)
- B-3 子どもの頃の組織的キャンプ経験と現在の野外活動経験
○吉原さちえ(東海大学)
西野 仁(東海大学)
- B-5 地域社会における神楽の社会学的研究
○迫俊 道(広島市立大学大学院)
- B-6 余暇活動としてのボランティア学習に対する福祉施設の役割と課題
○外崎 紅馬(日本大学大学院)
- B-7 社会福祉領域の専攻学生におけるレクリエーション教育のあり方
○森田 清美(東北文化学園専門学校)
- B-8 障害者スポーツボランティアの意識変容に関する研究～ボランティアの役割構造に着目して～
○山田 力也(西九州大学)
- B-9 武道における町道場の現状
○高橋 賢(東海大学大学院)
西野 仁(東海大学)
- B-10 ドイツのゴールドンプランの展開とベルリン州のスポーツ施設
○久保内智子(東海大学大学院)
西野 仁(東海大学)
- B-11 総合型地域スポーツクラブ推進事業におけるレクリエーション概念の適用～M市における試みについて～
○高橋 伸(国際基督教大学)
- B-12 空間環境と運動時の生理・心理機能について
○島崎 百恵(東海大学大学院)
西野 仁(東海大学)
- A-3 セグメント表(移動能力・CDR)によるレクリエーションプログラムの選出
○草壁 孝治(青梅慶友病院)
- A-4 高齢者の余暇活動について(6)～主にコホート別にみられる満足感と疎外要因について～
○上野 幸(余暇問題研究所)
山崎 律子(余暇問題研究所)
高橋 和敏(余暇問題研究所)
- A-5 個別レクリエーションの必要性和その効果について
○佐藤 宏子(医療法人鳳香会東前病院)
植木 順子(医療法人鳳香会東前病院デイサービス)
吉岡 尚美(東海大学体育学部)
- A-6 TR Accountability Model(TRAM)に基づくアセスメント用紙の作成と実用性について
○植木 順子(医療法人鳳香会東前病院デイサービス)
佐藤 宏子(医療法人鳳香会東前病院)
吉岡 尚美(東海大学体育学部)
- A-7 現代におけるニュースポーツの可能性に関する一考察～競技者間の関係性ととの関連から～
○大隈 節子(九州大学大学院)
- A-8 遊びと日常性～遊びの原理的研究の蘇生を求めて～
○服部百合子(和光大学人間関係学部)
- A-9 ゆとりの構造化に向けて(2)～「ゆとり」と「くつろぎ」～
○西野 仁(東海大学)
- A-10 「楽しい体育」におけるフロー理論適用の意義と課題
○迫 俊道(広島市立大学)
- A-11 幼児期のライフデザイン～生活形態や環境変化にみる身体機能の劣化を中心として～
○田中 光(洗足学園短期大学)
鈴木 英悟(東海大学非常勤)
鈴木 秀雄(関東学院大学人間環境学部)
- A-12 要介護予防運動指導者認定制度の構築
○鈴木 秀雄(関東学院大学人間環境学部)
田中 光(洗足学園短期大学)
鈴木 英悟(東海大学非常勤)
- A-13 要介護予防運動内容の検討～生涯スポーツのセラピューティックレクリエーションプログラム化をめざして～

《第34回学会大会》－2004－

- A-1 健常高齢者における歩行分析の意義～介護予防対策と歩行分析法の試作検討より～
○小椋 一也(国際医療福祉大学大学院)
- A-2 老人医療。福祉施設におけるレクリエーションワークおよびレクリエーション専門職の役割に関する研究(1)
○小池 和幸(仙台大学)

- 鈴木 英悟 (東海大学非常勤)
田中 光 (洗足学園短期大学)
鈴木 秀雄 (関東学院大学人間環境学部)
坂口 正治 (東洋大学社会学部)
- B-1 クラシックカーイベントへの参加動機について～ヴェブレンの『有閑階級の理論』を手がかりに～
○仲 真衣子 (東海大学大学院)
西野 仁 (東海大学)
- B-2 大学生アスリートの日常生活経験について～T大学体育会アメリカンフットボール部員・野球部員の日常生活経験～
○遠藤 晃弘 (東海大学大学院)
西野 仁 (東海大学)
- B-3 「楽しい」レクリエーションプログラムについての一考察～楽しい環境づくりの提案～
○吉岡 尚美 (東海大学体育学部)
- B-4 デジタル・アーカイブと観光ナビゲーションシステムの可能性
○土屋 薫 (青森大学)
- B-5 宮古・姉ヶ崎半島のリゾート開発における国民休暇村の役割と貢献
○加治 隆 (日本アメニティ研究所)
- B-6 「江戸名所花暦」に見るサクラの名所と花見の様相
○油井 正昭 (桐蔭横浜大学)
- B-7 NRPA 年次大会レジャー研究シンポジウム抄録にみる研究動向 (2001～2003年)～特に社会変化への対応の視点から～
○栗原 邦秋 (余暇問題研究所)
高橋 伸 (国際基督教大学)
高橋 和敏 (余暇問題研究所)
- B-8 企業における社員健康づくり事業と地域貢献に向けた取り組み～T社における事例中間報告～
○廣田 治久 (余暇問題研究所)
山崎 律子 (余暇問題研究所)
- B-9 地域福祉とレクリエーション～地域レクリエーション協会に注目して～
○立木 宏樹 (九州保健福祉大学)
- B-10 地域との連携を意図したレクリエーション演習科目導入に伴う教育効果の検討～レクリエーション協会課程認定校における実践事例として～
○谷口 勇一 (大分大学)
古城 建一 (大分大学)
- B-11 棚田のレクリエーション利用における視点場の設計について
○大澤由紀子 (東京農業大学大学院)
麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)
- B-12 東アジア地域の山岳国立公園における登山利用行動の管理手法の比較～富士山(日本)、玉山(台湾)、キナバル山(マレーシア)を対象として～
○金子良知夫 (東京農業大学大学院)
下嶋 聖 (東京農業大学大学院)
麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)
- B-13 山岳観光地における団体客の観光利用の実態
○下嶋 聖 (東京農業大学大学院)
麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)
- B-14 サガルマータ (エベレスト) 登山活動と周辺地域の観光利用が自然環境に及ぼす人的影響
○下嶋 聖 (東京農業大学大学院)
麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)

《第 35 回学会大会》 - 2005 -

- A-1 知的障害児(者)の余暇活動と生活の質(QOL)に関する研究～スポーツ・レクリエーション活動の活動群と非活動群の比較～
○南條 正人 (仙台大学非常勤講師)
仲野 隆士 (仙台大学)
小池 和幸 (仙台大学)
- A-2 知的障害者の余暇活動についての事例報告～A地区の知的障害者学級を事例として～
○廣田 治久 (余暇問題研究所)
栗原 邦秋 (余暇問題研究所)
- A-3 湯治の実態と湯治に対する意識について
○伊藤 雅子 (東海大学大学院)
西野 仁 (東海大学)
- A-4 内的余暇動機スケールと余暇退屈スケールの解釈シートの実践開発

〔Ⅱ〕資料

- 茅野 宏明（武庫川女子大学）
- A-5 ゆとりの構造化に向けて(3)～「くつろぎ」と「日常生活経験」～
- 西野 仁（東海大学）
吉原さちえ（神奈川県体育協会）
- A-6 世界各国における野外レクリエーションに関わる保護地域の発展とその特徴
- 油井 正昭（桐蔭横浜大学）
- A-7 伝統芸能継承団体の再生過程に関する実践報告～伊勢神楽十二神祇の場合～
- 迫 俊道（広島市立大学）
- A-8 特別養護老人ホームにおけるレクリエーション・プログラムの課題～その支援方法の確立に向けて～
- 山崎 律子（余暇問題研究所）
上野 幸（余暇問題研究所）
高橋 和敏（余暇問題研究所）
- A-9 要介護予防運動の本質的理解～その外延と内包～
- 鈴木 秀雄（関東学院大学人間環境学部）
浦井 孝夫（順天堂大学スポーツ健康科学部）
鈴木 英悟（東海大学体育学部非常勤講師）
- A-10 要介護予防運動スペシャリストの活動現況～全有資格者への調査から～
- 鈴木 英悟（東海大学体育学部非常勤講師）
浦井 孝夫（順天堂大学スポーツ人間科学部）
鈴木 秀雄（関東学院大学人間環境学部）
- B-1 総合型地域スポーツクラブの設立に向けた2年間の取り組み～神奈川県育成指定クラブを事例として～
- 吉原さちえ（神奈川県体育協会）
西野 仁（東海大学）
- B-2 中山間地域における体験型観光推進協議会の設立について～広島県北部の取り組みに着目して～
- 山下 雅彦（福山平成大学健康スポーツ科学科）
- B-3 レクリエーション資格の取得意識に関する調査研究
- 山田 力也（西九州大学）
土井 眞信（佐賀短期大学）
金崎 良三（佐賀大学）
堤 公一（九州龍谷短期大学）
田崎 伸子（西九州大学福祉医療専門学校）
滝口 真（西九州大学）
池田 孝博（佐賀短期大学）
- B-4 レクリエーション資格に関するイメージ分析
- 池田 孝博（佐賀短期大学）
土井 眞信（佐賀短期大学）
金崎 良三（佐賀大学）
山田 力也（西九州大学）
田崎 伸子（西九州大学福祉医療専門学校）
堤 公一（九州龍谷短期大学）
- B-5 老人医療福祉施設におけるレクリエーションワークおよびレクリエーション専門職の役割に関する研究(2)
- 小池 和幸（仙台大学）
- B-6 オランダ社会の近代化とヨハン・ホイジンガの遊戯文化論
- 杉浦 恭（愛知教育大学）
- B-7 2000～2005年“ワールド・レジャー・ジャーナル”における投稿研究論文の動向
- 栗原 邦秋（余暇問題研究所）
高橋 伸（国際基督教大学）
高橋 和敏（余暇問題研究所）
- B-8 吉野林業地域における文化的景観の保全
- 田中 伸彦（独立行政法人）森林総合研究所）
黒田 乃生（筑波大学大学院人間総合科学研究科）
- B-9 国民休暇村における眺望景観の形成とその特徴
- 加治 隆（日本アメニティ研究所）
- P-1 楽しむって何？セラピューティックレクリエーション
- マーレー 寛子（平安女子学院大学）
茅野 宏明（武庫川女子大学）
岸田 圭代（高槻荘）
田島 栄文（甲子園短期大学）
- P-2 興望館学童キャンプに集う学生ボランティアへの研修の効果
- 五十嵐美奈（社会福祉法人興望館）
野原 健治（社会福祉法人興望館）
高橋 伸（国際基督教大学）
- P-3 三磨市「緑のボランティア講座」活動報告

- 佐野 光昭 (三鷹市緑と公園課)
濱野 周泰 (東京農業大学)
西村 直人 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-4 環境学習のための富良野研修ツアー報告
○濱野 周泰 (東京農業大学)
二階堂由紀 (東京農業大学)
牧 昌代 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-5 尾瀬ヶ原を事例としたレクリエーション空間
と利用者属性からみた利用計画のあり方につ
いて～ROS (レクリエーション利用区分プ
ログラム) の概念を用いて～
○津田 智匡 (東京農業大学)
金子良知夫 (東京農業大学)
下嶋 聖 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-6 富士箱根伊豆国立公園箱根地域における展望
施設の実態と評価
○園部真依子 (千葉大学)
古谷 勝則 (千葉大学)
油井 正昭 (桐蔭横浜大学)
- P-7 二次草原における環境保全ボランティアの参
加意識について～阿蘇野焼き支援ボランティ
アを対象として～
○牧 安奈 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-8 市民参加・NPOによる自然環境の保全管理
の課題に関する調査研究
○栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-9 利根川上流域における「武尊100漫歩トレイ
ル」の市民による整備・運営計画について
○岸 昌孝
(非営利特定活動法人利根川上下流連携支援センター)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-10 山形県金山町における周辺環境や住民の属性
の違いと景観認識に関する調査研究
○山下賢太郎 (東京農業大学)
朝日 隆太 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-10 自然公園の利用計画から見た乗鞍山麓五色ヶ
原の利用システムについて
○川口 香 (東京農業大学)
下嶋 聖 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-10 サガルマータ (エベレスト) 登山がベースキャン
プに及ぼす環境影響についてのシミュレーション
の試み
○下嶋 聖 (東京農業大学)
島田 沢彦 (東京農業大学)
佐貫安希子 (東京農業大学)
入江 満美 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-10 町田市きつねくぼ緑地における市民参加型管
理運営活動と参加者の意識
○薄井 美江 (東京農業大学)
山内 良豊 (きつねくぼ緑地愛護会)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-10 小笠原国立公園における適正な利用ルールの
導入に向けた現状と課題
○井上 麻美 (東京農業大学)
下嶋 聖 (東京農業大学)
一木 重夫 (小笠原ホエールウォッチング協会)
麻生 恵 (東京農業大学)

《第36回学会大会》 - 2006 -

- A-1 地域青少年活動における学生リーダーの活動
意識に関する報告～都内A区リーダー達の事
例～
○栗原 邦秋 (余暇問題研究所)
- A-2 デンマークにおける公営高齢者 (含認知症者)
介護型住居・デイサービスセンター併設につ
いての報告～IFA会議における訪問見学プ
ログラムから～
○山崎 律子 (余暇問題研究所)
上野 幸 (余暇問題研究所)
高橋 和敏 (余暇問題研究所)
- A-3 高齢者介護サービス事業施設別におけるレク
リエーションに対する関心について～レク・
セミナー参加者アンケートの結果から～
○廣田 治久 (余暇問題研究所)
山崎 律子 (余暇問題研究所)
上野 幸 (余暇問題研究所)

〔Ⅱ〕資料

- A-4 大学生のオープンウォーター講習における生きる力の変容
○山下 雅彦(福山平成大学)
- A-5 レジャー教育としてのキャンプ・プログラム～Camp O-AT-KAにおける実修活動～
○高橋 伸(国際基督教大学)
廣田 治久(余暇問題研究所)
- A-6 幼稚園における2泊3日のキャンプに対する保護者の考え～私立H幼稚園サマーキャンプを対象とした事例研究～
○知念 嘉史(東海大学)
- A-7 民間スポーツクラブに通う中・高校生の生活時間について
○阿部 純士(東海大学大学院)
- A-8 総合型地域スポーツクラブの運営の実態～神奈川県内18クラブを事例として～
○吉原さちえ(東海大学)
- A-9 昭和初期刊行の余暇・娯楽関連書籍の情報源～中田俊造著『教育上より見たる娯楽と休養』と『Leisure and Its Use』by H.L.May and D.Petgenの場合～
○西野 仁(東海大学体育学部)
- B-1 介護予防教室における目的別レクリエーションプログラムの開発と効果に関する研究(1)
○小池 和幸(仙台大学)
高崎 義輝(仙台大学)
- B-2 老人病院における余暇支援～行事参加者増加への試み～
○左近 慎平((医法社)慶成会青梅慶友病院)
草壁 孝治((医法社)慶成会青梅慶友病院)
- B-3 老人病院における余暇支援～余暇自立支援の試み～
○草壁 孝治((医法社)慶成会青梅慶友病院)
左近 慎平((医法社)慶成会青梅慶友病院)
- B-4 高齢者施設における楽しいレクリエーションプログラムの楽しさについての研究
○吉岡 尚美(東海大学)
植木 順子((医)鳳香会デイサービスセンターバラソル)
佐藤 宏子((医)鳳香会デイサービスセンターバラソル)
- B-5 温水プール利用者の特性と利用決定要因に関する研究～ケアポートみまき・温泉アクティブセンターを事例にして～
○徳田つづる(東京農業大学地域環境科学部)
上岡 洋晴(東京農業大学地域環境科学部)
岡田 真平(身体教育医学研究所)
本多 卓也(東京大学教育学部)
- B-6 伊勢志摩国立公園成立の特異性
○油井 正昭(桐蔭横浜大学、(財)国立公園協会)
- B-7 「レジャー活動」と「レクリエーション」に関するランダム化比較試験のシステムティック・レビュー
○上岡 洋晴(東京農業大学)
津谷喜一郎(東京大学大学院)
高橋 美絵(身体教育医学研究所)
本多 卓也(東京大学教育学部)
春日 翔子(東京大学教育学部)
山田有紀子(東京厚生年金病院図書室)
眞喜志まり(横須賀市立市民病院図書室)
下嶋 聖(東京農業大学)
- B-8 メディア・ビオトープ構築に関する基礎的研究
○土屋 薫(江戸川大学)
- C-1 元気高齢者に対する要介護予防的運動の積極的導入を図るための視点～運動形態からの提案～
○田中 光(洗足学園短期大学)
鈴木 英悟(東海大学非常勤)
鈴木 秀雄(関東学院大学人間環境学部)
- C-2 障害者のスポーツにおけるEquityとEqualityの視点～英国の事例から～
○田中 暢子(英国ラッバラ大学大学院)
鈴木 秀雄(関東学院大学人間環境学部)
- C-3 余暇活動における水の事故に関する研究～特に新聞の掲載記事分析を中心に～
○鈴木 英悟(東海大学非常勤)
釵持 武((社福)仲生会、関東学院大学大学院)
鈴木 秀雄(関東学院大学人間環境学部)
- C-4 福祉領域におけるレクリエーションに関する専門家の導入をめぐる提言～セラピューティックレクリエーションを中心に～
○釵持 武((社福)仲生会、関東学院大学大学院)
鈴木 英悟(東海大学非常勤)
鈴木 秀雄(関東学院大学人間環境学部)
- C-5 社会福祉におけるレクリエーションの展開と課題～文部科学省検定教科書を通して～
○滝口 真(西九州大学健康福祉学部)

- C-6 レクリエーション組織とプロスポーツクラブとのパートナーシップ事業に関する報告
○竹田 隆行 (日本文理大学)
- C-7 教員養成大学学生における「野外活動」の意識に関する研究～教員志望者と非教員志望者に着目して～
○佐藤 修大 (大阪体育大学)
松永 敬子 (大阪体育大学)
鈴木 祐志 (大阪体育大学大学院)
井澤 悠樹 (大阪体育大学大学院)
- C-8 地域スポーツイベントにおけるプログラムの満足度に関する研究
○鈴木 祐志 (大阪体育大学大学院)
松永 敬子 (大阪体育大学)
井澤 悠樹 (大阪体育大学大学院)
- C-9 レクリエーション講習会参加者の特性とニーズについて～平成17年度大阪府レクリエーション協会アンケート調査より～
○横山 誠 ((財)大阪府レクリエーション協会)
相奈良 律 ((財)大阪府レクリエーション協会)
- P-1 森林浴におけるリラクセス効果
○井川原弘一 (岐阜県森林研究所)
- P-2 大学生の余暇活動について
○相奈良 律 ((財)大阪府レクリエーション協会)
横山 誠 ((財)大阪府レクリエーション協会)
- P-3 レクリエーション活動におけるエコロベースの検討～障害者エコロベース大会の追跡調査～
○高橋 仁美 (同志社大学)
来田 宣幸 (京都大学)
西山 龍之 (京都市障害者スポーツセンター)
清水 潔 (日本エコロベース協会)
- P-4 レジャー志向性尺度の開発に関する研究
○佐橋 由美 (大阪樟蔭女子大学)
多留 里香 (大阪樟蔭女子大学)
- P-5 障害者スポーツセンターにおける知的障害者の余暇支援の報告
○永井由美子 (大阪市舞洲障害者スポーツセンター)
茅野 宏明 (武庫川女子大学)
- P-6 障害者とレクリエーション～A県立総合リハビリテーションセンターにおける余暇教育プログラム～
○竹園 恵 (武庫川女子大学大学院)
出原由美子 (武庫川女子大学大学院)
茅野 宏明 (武庫川女子大学)
- P-7 老人病院における余暇支援～特殊疾患療養病棟への余暇支援の試み～
○今井 悦子 ((医法社)慶成会青梅慶友病院)
草壁 孝治 ((医法社)慶成会青梅慶友病院)
左近 慎平 ((医法社)慶成会青梅慶友病院)
- P-8 体操による健康の自己管理能力を高めるための取り組み～心身の影響を見る「気づきスコア」を使って～
○三浦 玲子 (芝浦工業大学非常勤)
小椋 一也 (芝浦工業大学非常勤)
佐々木明男 (芝浦工業大学)
津田 弘子 (㈱マベリックトランスナショナル)
小嶋 紀子 (㈱マベリックトランスナショナル)
- P-9 大学生にみる自由時間の構造とその類型化
○永松 昌樹 (大阪教育大学)
緒方 真理 (大阪教育大学大学院)
- P-10 児童の放課後における自由時間の意識と行動
○長手 良平 (大阪教育大学大学院)
永松 昌樹 (大阪教育大学)
- P-11 介護保険制度など環境の変化にともなう特養老人ホームにおけるレクリエーション・プログラムの変遷と今後の課題
○菖井 肇子 (福祉レクリエーション・ワーカー)
マーレー寛子 (平安女学院大学)
- P-12 花と緑のまちづくりにおける地域住民の認識に関する研究～長野県小布施町を事例として～
○朝日 隆太 (東京農業大学地域環境科学部)
麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)
- P-13 自然学習における教材の作成～磐梯朝日国立公園・磐梯山を対象とした地形+情報模型パズル～
○菱沼 みほ (東京農業大学地域環境科学部)
栗田 和弥 (東京農業大学地域環境科学部)
- P-14 武尊山百漫歩(100km)トレイルの道づくりと管理運営に関する課題
○平方 敦 (東京農業大学地域環境科学部)
岸 昌孝 (NPO法人利根川上下流連携支援センター)
栗田 和弥 (東京農業大学地域環境科学部)
- P-15 輪島市三井地区における農村景観の保存・活用手法に関する研究

〔Ⅱ〕資料

- 大西 広司 (東京農業大学)
- 鹿島 善晴 (東京農業大学)
- 恵谷 浩子 (東京農業大学大学院)
- 麻生 恵 (東京農業大学)

P-16 棚田における景観体験構造に関する研究

- 高梨 夏美 (東京農業大学地域環境科学部)
- 麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)

《第37回学会大会》-2007-

A-1 救急救護法実践指導にみるガイドライン2005 変更の視点～ガイドライン2000から2005へ の変更領域を中心として～

- 鈴木 英悟 (東海大学非常勤講師)

A-2 介護予防事業における運動実施の参加者自覚 的变化について～その経過事例研究～

- 上野 幸 (株余暇問題研究所)
- 山崎 律子 (株余暇問題研究所)
- 高橋 和敏 (株余暇問題研究所)

A-3 アメリカ組織キャンプにおける儀式プログラム ～Camp O-AT-KAにおけるギャラハッド (騎士)

- 高橋 伸 (国際基督教大学)

A-4 人を対象とした研究の質を高めるための声明・ チェックリストとエビデンス・グレーディング の考え方～疫学・臨床研究分野の国際動向を 参考にして～

- 上岡 洋晴 (東京農業大学地域環境科学部身体教育学研究室)
- 本多 卓也 (東京大学大学院教育学研究科身体教育講座)

A-5 台湾のセラピューティックレクリエーション に関する研究の傾向

- 徐 玉珠 (台湾)国立屏東教育大学体育学系非常勤講師)

A-6 高齢者介護サービス事業施設の職員における 高齢者レク活動の支援力向上についての期待 ～セミナー受講者の場合～

- 廣田 治久 (株余暇問題研究所)
- 上野 幸 (株余暇問題研究所)
- 山崎 律子 (株余暇問題研究所)

A-7 スポーツによる国政の転換は可能か?～昭和 15年東京オリンピック招致活動を事例として ～

- 古城 庸夫 (江戸川大学)

A-8 現代社会と情報行動の特質から見た「メディア ・ビोटープ」の枠組み

- 土屋 薫 (江戸川大学)

B-1 農山村における空間計画ワークショップに期 待される効果とその構造化に関する研究～長 野県千曲市嬭捨地区を対象として～

- 矢野加奈子 (東京農業大学大学院造園学専攻)
- 麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)

B-2 大都市近郊地域における鉄道会社が行う里山 などの環境を利用したレクリエーション空間 の整備に関する研究

- 岡田 慎也 (東京農業大学大学院造園学専攻)
- 下嶋 聖 (東京情報大学総合情報学部)
- 麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)

B-3 求められる総合型地域スポーツクラブ～神奈 川県内総合型地域スポーツクラブのクラブ理 念やその目的を参考にして～

- 吉原さちえ (東海大学)
- 西野 仁 (東海大学)

B-4 レジャー志向性尺度の開発に関する研究(2) ～多様な大学生における調査データから志向 性尺度の今後を展望する～

- 佐橋 由美 (大阪樟蔭女子大学)
- 佐藤 馨 (びわこ成蹊スポーツ大学)

B-5 市町村合併による広域スポーツ空間の再構築 に関する基礎研究

- 迫 俊道 (大阪商業大学)
- 服部 宏治 (広島国際大学)
- 浜田 雄介 (広島市立大学大学院)

B-6 100年前の「運動遊戯」(スポーツ&レジャー) の思想～明治39年発刊の「遊楽雑誌」を手 がかりに～

- 西野 仁 (東海大学)

B-7 専門辞典の記述に見る「森林レクリエーシ ョン」の定義・解釈の変遷

- 田中 伸彦 ((独法)森林総合研究所)

P-1 運動機能維持向上におけるプログラムの現状 と課題～福山市の老人福祉施設におけるアン ケート調査より～

- 千後瀧聡子 (福山平成大学)
- 山下 雅彦 (福山平成大学)

- P-2 中山間地域と都市地域における自然体験活動の意識調査～親と子どもの期待と不安に着目して～
○寺田 祐子 (福山平成大学)
山下 雅彦 (福山平成大学)
- P-3 中山間地域における冬季スポーツイベントに関する研究～広島県高野町の事例について～
○山下 雅彦 (福山平成大学)
- P-4 体操による健康の自己管理能力を高めるための取り組み～心身への影響をみる「気づきスコア」とPOMSとの比較～
○三浦 玲子 (芝浦工業大学)
西田 俊夫 (淑徳大学)
小嶋 紀子 (㈱マベリックトランスナショナル)
津田 弘子 (㈱マベリックトランスナショナル)
- P-5 横浜市青葉区の「美しが丘西追分公園」の愛護会活動について
○今井 健 (東京農業大学大学院造園学専攻)
栗田 和弥 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-6 麓地区 (富士朝霧高原) における参加協働型の地域づくりについて
○権田 浩康 (東京農業大学)
今井 健 (東京農業大学大学院)
木村 悦之 (東京農業大学非常勤講師)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-7 輪島市三井町における地域の魅力発見ワークショップについて
○山本 亮 (東京農業大学)
矢野加奈子 (東京農業大学大学院造園学専攻)
麻生 恵 (東京農業大学)
- A-3 知識の社会的構造変化とレジャー概念の再構築～メディア編集型人材教育プログラムの開発を通して～
○犬塚潤一郎 (実践女子大学)
- A-4 現代社会における運動に関する提言としてのいくつかの keywords を探る
○釘持 武 ((社福) 伸生会; 関東学院大学大学院)
鈴木 英悟 (東海大学)
鈴木 秀雄 (関東学院大学人間環境学部)
- A-5 森林分野の専門辞典に見るレジャー・レクリエーション関連用語の変遷
○田中 伸彦 ((独) 森林総合研究所)
- A-6 英国レジャー研究学会およびその年次大会について～2008 L S A 年次大会出席報告～
○山崎 律子 (余暇問題研究所)
高橋 和敏 (余暇問題研究所)
- A-7 フロー理論の構造と特質に関する基礎研究～自己の統制、環境に対する支配の視点から～
○マーレー寛子 (京都府立大学大学院)
- A-8 地域スポーツクラブに所属する父親の「仕事の日」と「休みの日」の1日24時間の使い方
○吉原さちえ (東海大学)
- A-9 山小屋の屋根形状の特性が外観評価に及ぼす影響について～北アルプス・雲の平山荘を事例として～
○下嶋 聖 (東京情報大学)
- A-10 ボート競技による水辺環境の復権～親水メディアとしてのボートの中心価値～
○添田 直人 (葛飾区ボート協会)
- A-11 利根運河とボート遠漕～向島艇庫村から銚子までの遠漕の歴史～
○古城 庸夫 (江戸川大学)
- B-1 レクリエーション活動における参加者の気分と運動能力・身体組成の関係について～I市介護予防試行事業の結果より～
○高崎 義輝 (仙台大学)
小池 和幸 (仙台大学)
- B-2 介護予防教室における目的別レクリエーションプログラムの開発と効果に関する研究(2)
○小池 和幸 (仙台大学)
高崎 義輝 (仙台大学)

《第38回学会大会》 - 2008 -

- A-1 First International Recreation Congress に参加した日本人代表3人の発表
○西野 仁 (東海大学)
- A-2 戦時日本における「体力向上」の祭典～紀元二千六百年・東亜競技大会を中心として～
○小澤 考人 (東京大学大学院)

〔Ⅱ〕資料

- B-3 介護予防事業における運動実施の自覚的変化について(2)～おもにアンケート結果と面接から～
○上野 幸(㈱余暇問題研究所)
山崎 律子(㈱余暇問題研究所)
高橋 和敏(㈱余暇問題研究所)
- B-4 高齢者介護サービス施設における高齢者レク活動支援の向上について期待(2)～セミナー参加者における経験年数別によって～
○廣田 治久(㈱余暇問題研究所)
山崎 律子(㈱余暇問題研究所)
高橋 和敏(㈱余暇問題研究所)
- B-5 老人病院の入院初期における余暇支援のあり方
○草壁 孝治(医療法人社団慶成会青梅慶友病院)
佐近 慎平(医療法人社団慶成会青梅慶友病院)
今井 悦子(医療法人社団慶成会青梅慶友病院)
- B-6 活動支援による行動障害緩和への試み
○佐近 慎平(医療法人社団慶成会青梅慶友病院)
草壁 孝治(医療法人社団慶成会青梅慶友病院)
今井 悦子(医療法人社団慶成会青梅慶友病院)
- B-7 障害者スポーツにおける「障害／健常」意識の変容過程に関する研究～車椅子バスケットボール競技者に着目して～
○河西 正博(立教大学大学院)
松尾 哲矢(立教大学)
- B-8 レジャー志向性尺度の開発に関する研究(3)～成人女性サンプルによる尺度安定性の検討と旅行行動への応用～
○佐橋 由美(大阪樟蔭女子大学)
宮崎 幸子(中京女子大学)
- B-9 レジャー・アセスメントと施策構築に関する基礎的研究
○土屋 薫(江戸川大学)
茅野 宏明(武庫川女子大学)
マーレー寛子(京都府立大学大学院)
佐橋 由美(大阪樟蔭女子大学)
佐藤 馨(びわこ成蹊スポーツ大学)
- B-10 エンパワーメントによるツーリズム協働事業定着に向けてのグループワークに関する研究
○見田 賢一(新潟医療福祉大学大学院)
- C-1 高等教育機関における地域に根ざした人材の育成～学生交流集会その成果と課題～
○中野 充(新潟青陵大学)
池 良弘(日本福祉医療専門学校)
- C-2 総合型スポーツクラブに関する社会学的検討
○大隈 節子(三重大学)
- C-3 総合型地域スポーツクラブ育成事業とレクリエーション協会の「揺らぎ」～〇県におけるフィールドワークをもとに～
○谷口 勇一(大分大学)
- C-4 幼児・児童の健康づくりシステムの構築～生活リズム向上のためのレクリエーション活動～
○前橋 明(早稲田大学人間科学学術院)
松尾 瑞穂(早稲田大学大学院人間科学研究科)
長谷川 大(早稲田大学大学院人間科学研究科)
泉 秀生(早稲田大学大学院人間科学研究科)
- C-5 幼児の健康づくりシステムの構築～保育園児の運動あそびと歩数～
○松尾 瑞穂(早稲田大学大学院)
前橋 明(早稲田大学人間科学学術院)
- C-6 幼児の生活リズム向上戦略と健全育成システムの構築(Ⅳ)～幼稚園児の午後あそびの実態と基本的な生活習慣づくりを行う上での課題～
○泉 秀生(早稲田大学大学院)
前橋 明(早稲田大学人間科学学術院)
- C-7 保育園幼児の生活状況と体力・運動能力に関する研究(第6報)
○長谷川 大(早稲田大学大学院人間科学研究科)
前橋 明(早稲田大学人間科学学術院)
- C-8 高等教育期における積極的・身体的運動の必需に向けて～現代社会における体育実技関連科目群の果たす役割～
○鈴木 英悟(東海大学非常勤講師)
- C-9 幼稚園就園5歳児の生活経験と身体活動量
○三浦 唯敬(東海大学大学院生)
西野 仁(東海大学)
- C-10 保育者の『遊び』の認識と実践に関する研究～指導者養成との関連から～
○清水 一巳(名古屋女子大学短期大学部)
- P-1 大学生の環境に対する態度についての研究
○加藤 幸真(日本大学文理学部体育学科)
恩田 裕介(日本大学大学院研究生)
津村 博(日本大学)
- P-2 レクリエーション教育における実践的展開の報告

- 茅野 宏明 (武庫川女子大学)
長岡 雅美 (武庫川女子大学)
吉田 圭一 (武庫川女子大学)
- P-3 高齢者の転倒予防のための運動あそびについて
○上岡 洋晴 (東京農業大学地域環境科学部)
本多 卓也 (東京大学大学院教育学研究科)
渡邊 真也 (社会福祉法人みまき福祉会身体教育医学研究所)
北湯口 純 (雲南市立身体教育医学研究所うなん)
鎌田 真光 (雲南市立身体教育医学研究所うなん)
- P-4 アリゾナ州における Therapeutic Recreation
視察報告
○森 美和子 (岐阜聖徳学園大学)
茅野 宏明 (武庫川女子大学)
- P-5 四天王寺大学及び同短期大学部におけるレクリ
エーション・インストラクター資格取得状況と
その課題～資格取得卒業生追跡アンケートを
もとに～
○奥野 孝昭 (四天王寺大学)
大西 敏浩 (四天王寺大学短期大学部)
- P-6 学校運動部に対する地域スポーツクラブの活
動支援～愛知県三河地域におけるオリエン
テーリングプログラムの事例より～
○松達 俊行 (愛知教育大学大学院)
杉浦 恭 (愛知教育大学)
- P-7 西宮市レクリエーション活動協会の歩みと地
域貢献への課題
○田島 栄文 (甲子園短期大学)
- P-8 民間野外教育活動団体における長期キャンプ
の実践
○山下 雅彦 (福山平成大学)
- P-9 長期キャンプにおける参加者の疲労の推移
○黒杭 美郷 (福山平成大学)
山下 雅彦 (福山平成大学)
- P-10 大学キャンプ実習の参加者によるキャンプ場
の施設評価
○恩田 裕介 (日本大学大学院研究生)
加藤 幸貞 (日本大学文理学部体育学科)
津村 博 (日本大学)
- P-11 クッチャロ湖学生サミット (CASE 1) につ
いて
○平田 太良 (東京農業大学地域環境科学部造園科学科)
白銀 顕 (東京農業大学地域環境科学部造園科学科)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-12 輪島市三井町におけるワークショップとその
効果について
○松島由佳里 (東京農業大学地域環境科学部造園科学科)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-13 横浜市美しが丘西迫分公園における愛護会と
地域との関わりについて
○今井 健 (東京農業大学大学院造園学専攻)
栗田 和弥 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- 《第39回学会大会》 - 2009 -**
- A-1 公園整備の観点からみた余暇活動のためのま
ちづくりに関する考察
○馬場美智子 (国土交通政策研究所)
- A-2 まちづくりや環境整備における多様な主体と
地域の連携構造に関する研究
○脇谷翔太郎 (東京農業大学大学院造園学専攻)
麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)
- A-3 バリ島におけるラフティング参加者のリスク
認知に関する研究～日本人参加者に着目して～
○山下 雅彦 (福山平成大学)
- A-4 水元公園 (東京都・葛飾区) でボートが漕げ
るまで～水辺空間の再構築に関する考察～
○添田 直人 (葛飾区ボート協会)
- A-5 現代日本のレジャー空間におけるイベント戦
略の展開と可能性～テーマパークを中心とし
た外来祝祭の“japanization”～
○関口 英里 (同志社女子大学)
- A-6 海外実習に参加した大学生の1日24時間の
使い方と身体運動量
○吉原さちえ (東海大学体育学部)
- A-7 NRPA 専門職がみた日本の高齢化問題に対応
するNRPAプログラミング発表の背景と経
緯～2009 NRPAコンgressの教育セッション
発表から～
○山崎 律子 (㈱余暇問題研究所)
上野 幸 (㈱余暇問題研究所)
廣田 治久 (㈱余暇問題研究所)
高橋 和敏 (㈱余暇問題研究所)
- B-1 石川県における幼児の健康福祉に関する研究
～保育園における親子のふれあいレクリエー
ション企画と実践～
○松尾 瑞穂 (早稲田大学大学院)
前橋 明 (早稲田大学)

〔Ⅱ〕資料

- B-2 幼児期の健康福祉に関する研究～保育園児の歩数に関する考察～
 ○泉 秀生（早稲田大学大学院）
 前橋 明（早稲田大学）
 金 銀正（早稲田大学大学院）
- B-3 日米TR発展過程の比較から考察するレクリエーションにおける楽しさの位置づけ
 ○マーレー寛子（京都府立大学大学院）
- B-4 回復期リハビリテーション病院におけるセラピューティックレクリエーションの取り組みについて～個別介入プログラムでの症例を通して～
 ○若野 貴司（(医)仁奉会 石川病院）
 末吉 勝則（(医)仁奉会 石川病院）
 大城 宜哲（(医)仁奉会 石川病院）
 寺本 洋一（(医)仁奉会 石川病院）
 高谷 富江（(医)仁奉会 石川病院）
 石川 治（(医)仁奉会 石川病院）
 今脇 節朗（(医)仁奉会 石川病院）
- B-5 病棟スタッフによる余暇支援の取り組み
 ○草壁 孝治（(医)社団慶成会 青梅慶友病院）
 今井 悦子（(医)社団慶成会 青梅慶友病院）
 田邊 真規（(医)社団慶成会 青梅慶友病院）
 野村 滋美（(医)社団慶成会 青梅慶友病院）
 恩田 淳江（(医)社団慶成会 青梅慶友病院）
 小池 良江（(医)社団慶成会 青梅慶友病院）
 橋本 千里（(医)社団慶成会 青梅慶友病院）
- B-6 「オープンスペース」「閑暇」「自然」そしてレジャー学のあり方
 ○田中 伸彦（(独)森林総合研究所）
- B-7 つながりとしてのレジャー論～住居にみる環境・象徴の再生の可能性～
 ○犬塚潤一郎（実践女子大学）
- C-1 レジャーアセスメントと施策構築に関する基礎的研究(2)～流山市民調査によるレジャー志向とその実態の検討～
 ○土屋 薫（江戸川大学）
 佐橋 由美（大阪樟蔭女子大学）
 佐藤 馨（びわこ成蹊スポーツ大学）
- C-2 レジャー・アセスメントと施策構築に関する基礎的研究(3)～熊本市民調査によるレジャー志向とその実態の検討～
 ○佐藤 馨（びわこ成蹊スポーツ大学）
 佐橋 由美（大阪樟蔭女子大学）
 土屋 薫（江戸川大学）
- C-3 大正から昭和にかけて発行された月刊誌「キャンプ」について～Outdoor Sports Magazine THE CAMPING by Japan Camp Club～
 ○西野 仁（東海大学）
- C-4 レジャー(ゆとり)の視点から見た宗教行事について～題目講中を事例として～
 ○横山 彩（東海大学大学院）
 西野 仁（東海大学）
- C-5 レクリエーション指導者資格の未更新者が多い現象について～有識者へのインタビュー調査結果から～
 ○三橋 正幸（東海大学大学院）
 西野 仁（東海大学）
- C-6 幼児・児童の健康づくりシステムの構築～親子で楽しく!!いのっ子スポーツフェスタの企画～
 ○前橋 明（早稲田大学）
 松尾 瑞穂（早稲田大学大学院）
- P-1 ライフスタイルに根ざしたコミュニケーションネットワーク構築に向けた基礎研究～GISを用いた流山市民の生活行動分析～
 ○林 香織（江戸川大学）
 土屋 薫（江戸川大学）
- P-2 地域にあるものを活かした遊びと学びの場づくり～谷根干地域におけるワークショップ開発とまちづくりを通して～
 ○石幡 愛（東京大学大学院）
- P-3 動的なあそびの基礎となる幼児の運動能力特性とその個人差について
 ○渡邊 真也（(財)身体教育医学研究所）
 岡田 真平（(財)身体教育医学研究所）
 上岡 洋晴（東京農業大学地域環境科学部）
 柳沢 登美（東御市健康福祉部）
 塩崎 和男（東御市健康福祉部）
 岩田 広子（東御市健康福祉部）
 岩下 由美（東御市健康福祉部）
- P-4 レクリエーション教育における授業効果～宿泊研修後の意識変化を通して～

- 茅野 宏明 (武庫川女子大学)
長岡 雅美 (武庫川女子大学)
松尾 純子 (武庫川女子大学)
- P-5 大正期から昭和初期の阪急・阪神沿線における遊覧書
○田島 栄文 (甲子園短期大学)
- P-6 レジャー・アセスメントにおける“コンスト
レイント調整力”概念の有効性の検討
○佐橋 由美 (大阪樟蔭女子大学)
- P-7 エンデュランス・スポーツの実践感覚に関する一考察～広島県西部のトライアスリートの事例から～
○浜田 雄介 (広島市立大学大学院)
迫 俊道 (大阪商業大学)
服部 宏治 (広島国際大学)
- P-8 「住育」が生み出す地域主体の連鎖による、ここちよい環境(まち)づくり
○藤井 廣男 (㈱チームネット)
甲斐 徹郎 (㈱チームネット代表)
- P-9 人生の最期を豊かに過ごす余暇支援をめざして～患者と家族と共に過ごす余暇生活への支援～
○今井 悦子((医) 社団慶成会青梅慶友病院)
草壁 孝治((医) 社団慶成会青梅慶友病院)
四垂 美保((医) 社団慶成会青梅慶友病院)
- P-10 高齢者における主体的なレクリエーション活動のあり方～バーン・ゴルフ愛好者の生活習慣調査及びグループインタビューから～
○古泉 一久 (淑徳大学)
西田 俊夫 (淑徳大学)
横内 靖典 (城西大学)
- P-11 キンボールの運動強度について
○大橋 信行 (東京経営短期大学)
佐久間 康 (東京経営短期大学)
浜野 学 (芝浦工業大学)
黒川 道子 (国際武道大学)
黒川 貞生 (明治学院大学)
- P-12 複数大学による野外実習に関する意識調査～合同開催に向けて～
○佐久間 康 (東京経営短期大学)
大橋 信行 (東京経営短期大学)
田代 浩二 (NPO法人体験学習研究会)
内田 英二 (大正大学)
- P-13 米軍占領下におけるレクリエーションについて
○加藤 幸真 (日本大学大学院)
内藤 真人 (日本大学大学院)
津村 博 (日本大学)
- P-14 M社スポーツキャンプにおける児童・保護者・主催者の意識調査
○内藤 真人 (日本大学大学院)
加藤 幸真 (日本大学大学院)
津村 博 (日本大学)
- P-15 日本厚生協会の機関誌「厚生の日」にみる活動に関する研究
○山本 知美 (日本大学文理学部)
加藤 幸真 (日本大学大学院)
津村 博 (日本大学)
- P-16 大学生の環境意識に関する研究
○種石 宗自 (日本大学文理学部)
加藤 幸真 (日本大学大学院)
津村 博 (日本大学)

《第40回学会大会》 - 2010 -

- A-1 都市近郊における緑地保全活動団体の継続及び活性化の要因について
○上田 早織 (東京農業大学大学院)
麻生 恵 (東京農業大学)
- A-2 佐渡市国中平野における屋敷林を主体とした文化的景観保全に関する研究
○増田 光志 (東京農業大学大学院)
下嶋 聖 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- A-3 着地型観光におけるニーズのマッチングに関する基礎的研究～千葉県流山市におけるオーブンガーデンを事例として～
○土屋 薫 (江戸川大学)
- A-4 CASE学生環境サミットの運営に関するプロジェクト～第4回学生環境サミットに向けて～
○平田 太良 (東京農業大学大学院)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- A-5 マリン&レクリエーション実習のプログラム評価に関する事例研究～女子大学生の自己概念の変化に焦点を当てて～
○井澤 悠樹 (大阪女学院大学)
松永 敬子 (龍谷大学)

〔Ⅱ〕資料

- A-6 大学生の自然保護制度及び自然公園に対する認識について～富士箱根伊豆国立公園・箱根地区を対象として～
○下嶋 聖（東京農業大学）
- A-7 スポーツリーダーバンクのビジネスモデルに関する一考察～運営組織の非営利性がもたらす課題～
○三橋 正幸（財団法人神奈川県体育協会）
- A-8 都市型大規模イベントとメディアをめぐる仕掛け～現代日本における新たな消費文化の創造～
○関口 英里（同志社女子大学）
- B-1 地域スポーツクラブマネジャーの日常生活経験～ゴールデンウィークと通常ウィークでの比較～
○遠藤 見弘（東海大学観光学部観光学科）
- B-2 高齢者におけるレクリエーション活動の継続要因～グループインタビュー法による検討～
○横内 靖典（城西大学）
古泉 一久（淑徳大学）
西田 俊夫（淑徳大学）
- B-3 人生の最期を豊かに過ごす余暇生活をめざして～入院患者様の趣味歴から～
○草壁 孝治（青梅慶友病院）
今井 悦子（青梅慶友病院）
福田 卓民（青梅慶友病院）
- B-4 「生物多様性保全活動」にみるレジャー論的課題
○田中 伸彦〔東海大学観光学部〕
- B-5 脱成長社会の原理とレジャー～地球環境問題、縮減、ローカリゼーションを補完するもの～
○犬塚潤一郎（実践女子大学）
- B-6 国内最多の会員830名！今なぜ横浜市鶴見川でローイングなのか。～伝統スポーツによる健康増進、人間育成、幸福追求の先端実但
○沼田 金之（パワーズローイングクラブ）
- B-7 我が国における潮湯治から海水浴に至る歴史的変遷～大野海水浴場（潮湯治場）を例として～
○國木 孝治（広島大学大学院教育学研究科）
東川 安雄（広島大学教育学部）
石井 丈也（尾張大野史研究会）
- P-1 温泉地の旅行決定要因に関する研究
○西田 集（東京農業大学）
上岡 洋晴（東京農業大学）
- P-2 保育所での運動あそびの取組みに対する保育士と保護者の評価
○渡邊 真也（一般財団法人身体教育医学研究所）
岡田 真平（一般財団法人身体教育医学研究所）
朴 相俊（一般財団法人身体教育医学研究所）
伊藤 勇太（一般財団法人身体教育医学研究所）
上岡 洋晴（東京農業大学地域環境科学部）
塩崎 和男（東御市健康福祉部）
岩田 広子（東御市健康福祉部）
岩下 由美（東御市健康福祉部）
- P-3 これまでの医療・福祉領域における「レクリエーション援助」の解釈に関する一考察～介護福祉士教育・福祉レクリエーションワーカー養成の流れの中で～
○小池 和幸（仙台大学）
高崎 義輝（仙台大学）
- P-4 A Case Study on the Activations of Marine Sport in Local Government and University in Korea
○Choi, Bong-Gil·Yoon, Hyung-Ki (Soongsil Univ.)
Morooka Fumio (Sophia Univ.)
- P-5 The Study on the Policy of Leisure & Recreation and Its Condition with Regional Linkages
○Jin, Hyun-Joo·Chon, Tae-Jun (Soongsil Univ.)
Morooka Fumio (Sophia Univ.)
- P-6 An Analysis of Research Trend on the Regional Linkages and Leisure & Recreation in Korea
○Yeon, Boon-Hong·Oh, Sei-Yi (Soongsil Univ.)
Morooka Fumio (Sophia Univ.)
- P-7 中国・瀋陽市のまちづくりにおけるランドスケープ遺産の保全と活用
○鄧 舸（東京農業大学大学院）
服部 勉（東京農業大学）
栗野 隆（東京農業大学）
鈴木 誠（東京農業大学）
- P-8 興望館学童クラブにおける集団遊びの実践～日常活動とキャンププログラムについて～

- 後藤 敬一 (社会福祉法人興望館)
高橋 伸 (国際基督教大学)
- P-9 渋谷区裏原宿を事例としたファッション
ショップの形成過程とその特徴
○服部 勉 (東京農業大学)
川合 進矢 (J Aとびあ浜松)
- P-10 山梨・清里における観光地化とその変容過程
○服部 勉 (東京農業大学)
浅川 望美 ((有)浅川造園)
- P-11 子育て中の母親のQOLの向上～T市エアロ
ビックサークル参加者の調査～
○松永須美子 (南九州短期大学)
松永 智 (宮崎大学)
- P-12 地域の伝統的レクリエーション『神楽』の継
承実態に関する基礎研究
迫 俊道 (大阪商業大学)
- P-13 効果的なレクリエーション指導に関する研究
(1)～効果を意識した歌体操と効果を意識
しない歌体操の筋活動の違い～
○高崎 義輝 (仙台大学)
小池 和幸 (仙台大学)
- P-14 占領下における全国レクリエーション大会
(1947～1951)に関する研究
○加藤 幸真 (日本大学大学院)
内藤 真人 (日本大学大学院)
津村 博 (日本大学)
- P-15 厚生省設立までの史的研究
○溝口 理紗 (日本大学)
津村 博 (日本大学)
- P-16 戦時下の厚生運動に関する研究～昭和18年
から終戦まで～
○中濱 健 (日本大学)
津村 博 (日本大学)
- P-17 環境NPOの趨勢に関する調査研究～特に活
動対象としての自然環境フィールドについて～
○栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-18 野外音楽フェスティバルにおける開催地決定
および継続の要因に関する研究～フジロック
フェスティバルを事例として～
○野々村 潤 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-19 わが国におけるピール用ホップ栽培地の景観
構造について
○辻野 木景 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-20 東京・下町の魅力を探るマップ制作について
○菅原 雅子 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-21 徒歩および自動車での移動による都市河川沿
いを事例とした景観体験の違いに関する研究
○上田 知夏 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-22 環境NPOの趨勢に関する研究～2008年度に
おける実態を設立年からみる～
○岡村 雄太 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-23 里山周辺の住民による地域環境に対する認識
○佐々木智樹 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-24 京都府南丹市美山町南地区における茅葺き民
家の保存および農村景観の保全に対する住民
の意向について
○森 大城 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-25 里山との関わりからみた人と自然のふれあい
行動に関する研究
○古平 瑞季 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-26 文化的な景観を巡るフットパスの提案および
マップの制作について～石川県輪島市三井町
を事例として～
○中平 工 (東京農業大学)
松本 開地 (東京農業大学)
下嶋 聖 (東京農業大学)
上岡 洋晴 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-27 大学生に対する自然体験プログラム別にみた
効果についての研究
○横地 佑典 (東京農業大学)
平田 平良 (東京農業大学)
栗田 和弥 (東京農業大学)
- P-28 北アルプス雲ノ平における裸地化の変遷調査
○松本 開地 (東京農業大学)
下嶋 聖 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)

〔Ⅱ〕資料

- P - 29 石川県輪島市三井町におけるリモートセンシングを活用したアテ林の抽出
○上原 謙 (東京農業大学)
下嶋 聖 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P - 30 石川県輪島市三井町における地域活性化のためのフットパスマップの作成
○山野由里子 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P - 31 分譲住宅団地における住民参加型による緑空間の再生ビジョンについて
○白幡乃里子 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P - 32 大学生レクリエーション実習における感想文のテキストマイニング
～グループの発展過程にみる意識の変化に着目して～
○大矢 隆二 (常葉学園大学)

資料(3) レジャー・レクリエーション研究 (投稿論文・資料)

<第33号> - 1996年 -

<原著論文>

1. 環境プログラムを導入したキャンプの効果～参加者の自然に対する態度、イメージに着目して～
岡村 泰斗 (筑波大学大学院体育学研究科)
飯田 稔 (筑波大学体育科学系)
星野 敏男 (明治大学)
穴戸 和行 (筑波大学大学院体育学研究科)

<研究資料>

1. アメリカの精神病棟におけるセラピューティック・レクリエーションの実状について
～Roanoke Memorial Hospitalにおける事例～
芳賀 健治 (東京家政学院大学)
2. キャンプカウンセラーの性役割がキャンパーの性役割意識に及ぼす影響
関 智子 (筑波大学体育科学系)
飯田 稔 (筑波大学体育科学系)
橋 直隆 (筑波大学体育科学系)

<実践報告>

1. 西表国立公園における野生動物とのふれ合いを中心とする自然教育事例
藤田 均 (環境省東北地区国立公園・野生生物事務所)

<特集：豊かなアウトドアライフに向けて>

1. アウトドアライフ充実のための行政施策～林野庁の施策を中心に～
田中 伸彦 (林野庁森林総合研究所)

<大会報告>

1. 第25回関東学院大会

<第35号> - 1996年 -

<原著論文>

1. 自由学芸教育のモデルとしてのグレート・ブックス・セミナー
杉本 文 (財団法人ハイライフ研究所)
松田 義幸 (実践女子大学)
2. 少年スポーツのボランティア指導者におけるドロップアウトに関する日米比較研究
松尾 哲矢 (福岡大学)

<研究資料>

1. ライフコースと生涯スポーツに関する一考察
柴田 丈 (埼玉県立岩槻商業高等学校)

<特集：豊かなアウトドアライフに向けて>

1. ライフスタイルの変化とアウトドア・ライフ
梅澤 佳子 (湘南国際女子短期大学)
2. 自然とふれあえる環境デザイン
村田 智厚 (株式会社ラック計画研究所)
3. アウトドア活動におけるプログラムの現状と課題
奥田 直久 (環境庁自然保護局計画課)

<第26回学会大会報告>

〔Ⅱ〕資料

<第36号>—1997年—

<原著論文>

1. 台湾におけるキャンプの変遷に関する研究～キャンプに関する諸団体の動きとそのキャンプ活動を中心として～
陳 盛雄 (中華民国露營協会)
栗田 和弥 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)

<第26回学会大会特別講演>

1. レジャー・レクリエーションの史的変遷
小田切毅一 (奈良女子大学)

<特集：レジャー・レクリエーション研究における基本書>

1. アンケート調査の概要
田中 伸彦 (農林水産省森林総合研究所)
2. 原論・歴史・本質論 (レジャー・レクリエーション論) 研究の分野から
鈴木 秀雄 (関東学院大学)
3. 活動・行動研究分野から
高橋 和敏 (余暇問題研究所)
4. 「環境計画」空間・環境形成研究 (造園学) の分野から
前野淳一郎 (株スペース・コンサルタンツ)
5. 政策研究分野から
須賀由紀子 (エンゼル財団)
松田 義幸 (実践女子大学)
6. プログラム開発とその展開に関する研究分野から
坂口 正治 (東洋大学短期大学)
7. レジャー・レクリエーション研究における社会福祉のとりえ方
～レジャー・レクリエーション研究のさらなる深化へ向けて～
石井 允 (立教大学)
片桐 義晴 (早稲田大学)
8. わが国レジャー産業研究の足跡
嵯峨 寿 (筑波大学)
9. 社会学・経営学研究分野から
山口 泰雄 (神戸大学)
永松 昌樹 (大阪教育大学)

<第38号>—1998年—

<原著論文>

1. ESM (経験標本抽出法) を用いた日常生活におけるレジャー行動研究の試み
～日本人高校生の生活経験調査を事例として～
西野 仁 (東海大学)
知念 嘉史 (名桜大学)

<紹介>

1. NRPA とそのコンGRESについて
廣田治久・浅宮佐知子・橋本和秀・栗原邦秋・山崎律子・高橋和敏

<特集：農とレクリエーション>

1. 「農とレクリエーション」の特集にあたって

- 下村 彰男（東京大学）
2. 都市と山村の交流とレクリエーション
宮林 茂幸（東京農業大学）
3. 農山村地域における環境教育～群馬県川場村の事例～
栗田 和弥（東京農業大学）
麻生 恵（東京農業大学）
4. 園芸療法とレクリエーション
臘 邦夫（(財)日本緑化センター）
5. 療育活動としての森林作業の試み
上原 巖（信州大学農学部）

<第40号> - 1999年 -

<原著論文>

1. 精神分裂病クライアントを対象としたセラピューティックレクリエーションに関する研究
磯部祐三子（榎本クリニック）
2. 大学生のレジャーにおける退屈感
田口 節芳（近畿大学工学部）
富永 徳幸（近畿大学工学部）
折本 浩一（安田女子大学）
谷岡 憲三（呉工業高等専門学校）
3. 民間レクリエーション団体会員の継続意欲に関する研究
赤堀 方哉（神戸大学大学院）
山口 泰雄（神戸大学発達科学部）
4. Johan Huizinga の近代文明批評に関する一検証 - オランダにおける二大都市の近代建築に焦点をあてて -
杉浦 恭（愛知教育大学）
石川 宏之（横浜国立大学大学院博士課程）

<研究資料>

1. ウォーキングの実施に関する主体要因の検討 - ウォーキングの種目特性に着目して -
高峰 修（中京大学）
守能 信次（中京大学）
2. 自閉症療育における里山を利用した山林活動の可能性
上原 巖（信州大学農学部）
佐々木健司（自閉症療育施設「白樺の家」）

<第42号> - 2000年 -

<原著論文>

1. 大学生の成育環境イメージが快適な生活環境条件および将来の生活スタイルに及ぼす影響
澤村 博（日本大学文理学部）
川井 昂（日本大学）
阿部 信博（日本大学）
小山 裕三（日本大学理工学部）
青山 清英（日本大学）
石井 晶子（東海大学）

〔Ⅱ〕資料

<特集：大学教育に見るレジャー・レクリエーション>

1. 座談会：大学におけるレジャー・レクリエーション教育の動向とあり方
荒井 啓子（学習院女子大学）
石井 允（立教大学）
鈴木 秀雄（関東学院大学）
油井 正昭（千葉大学）
下村 彰男（東京大学）
2. 青森大学社会学部社会学科観光・レジャーコース
工藤 雅世（青森大学）
土屋 薫（青森大学）
3. 立教大学コミュニティ福祉学部・観光学部
沼澤 秀雄（立教大学）
松尾 哲矢（立教大学）
4. 東京学芸大学教育学部健康・スポーツ科学学科
東原 昌郎（東京学芸大学）
5. 武庫川女子大学文学部人間関係学科
吉田 圭一（武庫川女子大学）

<第44号>－2001年－

<原著論文>

1. 子ども長期自然体験村事業に関する評価研究～参加者の達成動機、友人関係、自然認識に着目して～
岡村 泰斗（奈良教育大学）
飯田 稔（筑波大学体育科学系）
関 智子（筑波大学体育科学系）
2. 活動前の疲労度別にみたスポーツ活動の効果について
服部 伸一（関西福祉大学）
前橋 明（倉敷市立短期大学）
3. アメリカのセラピューティックレクリエーション専門職団体による立法運動の展開
～2つの団体の見解の差異を中心に～
堀田哲一郎（鈴峯女子短期大学）
4. NPO法の受容が民間レクリエーション団体に与えた影響に関する一考察
赤堀 方哉（梅光女学院大学女子短期大学部）
5. 台湾におけるキャンプの発展に影響を与えた諸要素に関する研究
陳 盛雄（中華民国露營協会）
栗田 和弥（東京農業大学地域環境科学部）
麻生 恵（東京農業大学地域環境科学部）

<講演録>第29回学会大会講演

1. 第29回学会大会テーマ（メディアとスポーツ、今までとこれから）および講演企画の趣旨
鈴木 秀雄（関東学院大学）
2. 見せるためのスポーツ映像の変遷
西田 善夫（NHK解説員）
3. 選手の側からみたスポーツ映像の意味
沢松奈生子（日本テニス協会）

＜第45号＞－2001年－

＜原著論文＞

1. ホテル・リッツにみるホスピタリティ序論～ホスピタリティとサービスの関連について～
土居 守（青森大学）
2. 中高齢者にみるレクリエーションスポーツへの社会化～全国スポーツ・レクリエーション祭参加者に着目して～
久保 和之（南山大学）
中山 健（中京大学大学院）
北村 尚浩（鹿屋体育大学）
川西 正志（鹿屋体育大学）
守能 信次（中京大学）
3. 権田保之助における労働者娯楽の構想
坂内 夏子（早稲田大学）

＜第47号＞－2002年－

＜原著論文＞

1. 居住場所の違いによる日常生活での自然環境の必要性と環境保全意識の関連性について
～都内幼稚園に通園させる母親を対象として～
石井 晶子（東海大学課程資格教育センター）
澤村 博（日本大学文理学部）
高橋 正則（日本大学文理学部）

＜特別寄稿＞

1. 新しい時代におけるあそびと文化の方向性～ヨハン・ホイジンガをてがかりにして～
杉浦 恭（愛知教育大学）
2. 「あそび」とライフスタイル～わが国における余暇ライフスタイル30年の背景と今後の展望～
米村 恵子（江戸川大学）
3. 「あそび」と空間～「あそび」の広がりと「あそび」空間整備の方向～
麻生 恵（東京農業大学）

＜講演録＞第30回学会大会特別講演

1. 日本人とレジャー
井上ひさし（作家）

＜平成13年度定例研究会報告＞

1. 「多摩丘陵における市民による遊歩道ネットワークづくり」見学会報告
麻生 恵（東京農業大学）
2. 遊歩道（フットパス）を利用するイギリス田園風景の楽しみ
岩間 貴之（町田市都市緑政部）
3. 自然環境フィールドにおける遊びと活動と管理の展開
栗田 和弥（東京農業大学）

＜第48号＞－2002年－

＜原著論文＞

1. 身体障害者スポーツ実施者から見た＜クライアント－ボランティア＞関係に関する研究
山田 力也（西九州大学健康福祉学部）
2. 学習社会の実現とネットワーク構造～ネットワーク社会における対話型古典学習プログラムの応用～

〔Ⅱ〕資料

犬塚潤一郎（リベラルアーツ総合研究所）

<研究資料>

1. 高齢者の身体レクリエーション活動の効果と支援体制づくり～高齢者とその家族のQOLとの関係～
金子 勝司（福島大学大学院）
小池 和幸（仙台大学）

<第50号>－2003年－

<第31回学会大会基調講演>

1. レジャー・レクリエーションと自然環境
進士五十八（東京農業大学）

<第31回学会大会シンポジウム>

2. レジャー・レクリエーションから見た自然環境
古谷 勝則（総合司会：千葉大学園芸学部）
油井 正昭（コーディネーター：千葉大学園芸学部）
下村 彰男（東京大学大学院農学生命科学研究所）
加治 隆（（財）休暇村協会）
親泊 素子（江戸川大学社会学部）
田畑 貞寿（（財）日本自然保護協会）

<第52号>－2004年－

<原著論文>

1. 地図指摘法を用いた阿蘇の草原景観に対する地元住民の認識に関する研究
猪瀬 怜子（東京農業大学大学院農学研究科）
佐藤 芳郎（東京農業大学地域環境科学部）
麻生 恵（東京農業大学地域環境科学部）
2. 黎明期におけるウインドサーフィンの普及に関する研究～日本ウインドサーフィン協会の活動を中心に～
平野 貴也（学校法人横浜YMCA YMCAスポーツ専門学校）

<学術論文：研究資料>

1. 休暇村の立地過程と野外レクリエーション空間構造及び利用形態の特徴
加治 隆（前（財）休暇村協会）

<第32回学会大会（大分大学）基調講演>

1. 障害者スポーツからのメッセージ～太陽の家37年の歩みを通して～
吉永 栄治（社会福祉法人太陽の家）

<第32回学会大会（大分大学）シンポジウム>

1. 障害者スポーツからのメッセージ
堀川 裕二（社会福祉法人太陽の家）
綿 祐二（長崎国際大学）
麻生 和江（大分大学）
古城 建一（コーディネーター：大分大学）

<第54号>－2005年－

<原著論文>

1. レクリエーションの専門志向化過程からみたウインドサーフィン行動

～レジャーの社会的世界におけるフィールドワークを通じて～

二宮 浩彰（大分大学経済学部）

菊地 秀夫（中京大学体育学部）

守能 信次（中京大学体育学部）

<第34回学会大会（立教大学）基調講演>

1. 始動した21世紀において学会に求められる役割

蓑茂寿太郎（東京農業大学）

<第34回学会大会（立教大学）パネルディスカッション>

1. 21世紀の学会発展のビジョンと戦略を考える

麻生 恵（コーディネーター：東京農業大学）

鈴木 秀雄（関東学院大学）

山口 有次（早稲田大学）

西野 仁（東海大学）

<第34回学会大会（立教大学）地域研究>

1. 「都市レジャーの今昔」報告

田中 伸彦（独立行政法人森林総合研究所）

<第56号>—2006年—

<原著論文>

1. 専門志向化の概念枠組みによるウインドサーファーの類型化とその測定指標

二宮 浩彰（大分大学経済学部）

菊地 秀夫（中京大学体育学部）

守能 信次（中京大学体育学部）

2. フロー体験の深化に関する理論的研究

～「命じてくる実在」と「思いどおりになる実在」に関する行為者のダイナミックな認識過程～

迫 俊道（広島市立大学）

3. 健常児と障害児のワークショップにおける統合遊びの研究

三宅 鮮介（㈱エス・イー・エヌ環境計画室）

浅野 房世（東京農業大学農学部バイオセラピー学科）

森 愛（ミルトス園芸療法研究所）

<実践研究>

1. バレーボールの国内トップリーグイベントにおけるイノベーションの誘発～クラスター・ビジョンの実践～

松田 裕雄（筑波大学）

<第35回学会大会基調講演>

1. レジャー・レクリエーション見聞記

平野 次郎（学習院女子大学、元NHK解説委員）

<第35回学会大会シンポジウム>

1. ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション

徳村 光昭（慶応義塾大学保健管理センター）

鈴木 隆雄（東京都老人総合研究所）

西川 嘉輝（国土交通省公園緑地課緑地環境推進室）

西野 仁（コーディネーター：東海大学）

<第35回学会大会地域研究>

1. 「歴史文化探訪」報告

田中 伸彦（独立行政法人森林総合研究所）

〔Ⅱ〕資料

〈第 58 号〉－ 2007 年－

〈原著論文〉

1. 子どもの遊び、スポーツと家族の暮らし～子育て支援活動の基本理念の探求～
須賀由紀子（財団法人エンゼル財団）
2. ヨハン・ホイジンガの近代社会認識と社会背景に関する考察～社会生活における遊びや娯楽に焦点をあてて～
杉浦 恭（愛知教育大学）

〈評論〉

1. 第 36 回レジャー・レクリエーション学会大会の口頭発表についての評論
上岡 洋晴（東京農工大学地域環境科学部身体教育学研究室）
本多 卓也（東京大学大学院教育学研究科）

〈第 36 回学会大会基調講演〉

1. 現代社会におけるレクリエーションの意義と課題～保健福祉学の立場から～
岡本 民夫（同志社大学社会学部）

〈第 36 回学会大会シンポジウム〉

1. 共に育つために求められているレジャー・レクリエーション
酒井 妙子（手づくりほいく研究会）
村田 明子（兵庫県社会福祉協議会）
吉田 圭一（武庫川女子大学）
高橋 伸（コーディネーター：国際基督教大学）

〈第 60 号〉－ 2008 年－

〈原著論文〉

1. 国民休暇村の景観構成の特徴とその評価に関する研究～近江八幡と大山鏡ヶ成を事例に～
加治 隆（東京環境工科専門学校）
油井 正昭（桐蔭横浜大学医用工学部）
2. 地域文化に対する享受能力がコミュニティへの帰属意識に及ぼす影響
～地域文化を活かしたまちづくりの有効性の検討～
長積 仁（徳島大学）
佐藤 充宏（徳島大学）
松永 敬子（大阪体育大学）
榎本 悟（岡山大学）
3. 「レジャー活動」と「レクリエーション」に関するランダム化比較試験のシステマティック・レビュー
上岡 洋晴（東京農工大学地域環境科学部）
津谷喜一郎（東京大学大学院薬学系研究科）
高橋 美絵（身体教育医学研究所）
本多 卓也（東京大学大学院教育学研究科）
森山 翔子（東京大学大学院教育学研究科）
武藤 芳照（東京大学大学院教育学研究科）
山田有希子（東京厚生年金病院図書館）
眞喜志まり（首都大学東京図書情報センター荒川館）
下嶋 聖（東京情報大学環境情報学）
4. 現代日本社会の親密性における自己開示の条件に関する考察～広島県西部のトライアスロン競技愛好者の事例から～
浜田 雄介（広島市立大学国際学研究科）

5. 台湾国家公園の発展と多様な主体の参画に関する研究

- 涂 智益 (築地総合設計公司)
 下嶋 聖 (東京情報大学環境情報学科)
 栗田 和弥 (東京農業大学地域環境科学部)
 麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)

<第 37 回学会大会特別セッション>

1. レジャー・レクリエーションの充実に寄与するオリンピック・レガシー

- 麻生 恵 (コーディネーター：東京農業大学)
 嵯峨 寿 (総括：筑波大学)
 栗田 和弥 (東京農業大学)
 土屋 薫 (江戸川大学)
 山崎 律子 (余暇問題研究所)
 師岡 文男 (上智大学)

<第 62 号> - 2009 年 -

<総説>

1. エビデンスの構築と研究方法論の向上を目的とした論文の質評価に関する考察

～学会誌「レジャー・レクリエーション研究」における 1993-2007 年までの疫学的論文を対象として～

- 上岡 洋晴 (東京農業大学地域環境科学部)
 鈴木 英悟 (東海大学体育学部)
 栗田 和弥 (東京農業大学地域環境科学部)
 本多 卓也 (東京大学大学院教育学研究科)

<研究資料>

1. 台湾のセラピューティック・レクリエーションに関する研究の傾向

徐 玉珠 (台湾国立屏東教育大学体育学系)

2. シニア世代によるボランティアグループの活動に関する研究～活動の現状と活性化に向けた課題を中心に～

長岡 雅美 (武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科)

3. セーリングスポーツにおけるコミュニケーション行動尺度の作成と検討

- 平野 貴也 (名桜大学)
 柳 敏晴 (名桜大学)
 藤永 博 (和歌山大学)
 渡壁 史子 (山口短期大学)
 寺澤 寿一 ((財)日本セーリング連盟)
 宮崎 景 ((有)アクアティック)

4. 高齢者の転倒予防プログラムとしてのレクリエーションの位置づけ～エビデンスの整理とその活用～

- 上岡 洋晴 (東京農業大学地域環境科学部)
 本多 卓也 (東京大学大学院教育学研究科)
 渡邊 真也 (一般財団法人身体教育医学研究所)
 北湯 口純 (身体教育医学研究所うなん)
 鎌田 真光 (身体教育医学研究所うなん)

<実践研究>

1. 温水プール利用者の特性と利用決定要因に関する研究

～高齢者総合福祉施設「ケアポートみまき・温泉アクティブセンター」を事例として～

- 徳田つづる (株式会社そごう)
 上岡 洋晴 (東京農業大学地域環境科学部)

〔Ⅱ〕資料

岡田 真平 (一般財団法人身体教育医学研究所)

本多 卓也 (東京大学大学院教育学研究科)

<第 38 回学会大会基調講演>

1. 「地域興し」とレクリエーション・スポーツ

森川 貞夫 (日本体育大学)

<第 38 回学会大会シンポジウム>

1. “地域興しの手法としてのレクリエーション”再検討～新潟市における諸事例から～

田村 貢 (アルビレックス新潟)

西原 康行 (新潟医療福祉大学)

池 良弘 (日本福祉医療専門学校)

上山 寛 (上山寛アトリエ)

小田切毅一 (コーディネーター：新潟医療福祉大学)

<第 38 回学会大会ワークショップ>

1. 第一話. 中越地震災害復旧のレクリエーション支援体制づくり～こころのケアを中心に～

鈴木 允 (新潟県レクリエーション協会)

2. 第二話. 地域と学生を繋ぐ教育活動の実践～教育の特色を生かしたレクリエーション・サービス～

坂内 寿子 (新潟中央短期大学)

<第 1 回日本レジャー・レクリエーション学会賞研究奨励賞－論文部門>

1. 現代日本社会の親密性における自己開示の条件に関する考察～広島県西部のトライアスロン競技愛好者の事例から～

浜田 雄介 (広島市立大学大学院国際学研究科)

<第 1 回日本レジャー・レクリエーション学会賞支援実践奨励賞>

1. エベレスト・ベースキャンプにおける登山活動が自然環境に及ぼす影響調査と環境保全への取り組み

下嶋 聖 (東京情報大学環境情報学科)

<第 64 号>－2010 年－

<原著論文>

1. 大学体育実技におけるニュースポーツの教材としての有用性

～インディアカ・ユニバーサルホッケーとバレーボール・バスケットボールの運動特性の比較から～

中丸 信吾 (順天堂大学)

池畑亜由美 (東京家政大学)

木村 博人 (東京家政大学)

河村 剛光 (順天堂大学)

青木 和浩 (順天堂大学)

2. 都市林における森林浴の歩行速度の違いが生理的・心理的变化に与える影響

馬場 健 (京都大学大学院地球環境学堂・学舎)

今西 純一 (京都大学大学院地球環境学堂・学舎)

今西 二郎 (京都府立医科大学大学院医学研究科)

扇谷えり子 (京都府立医科大学大学院医学研究科)

渡邊 映理 (京都府立医科大学大学院医学研究科)

森本 幸裕 (京都大学大学院地球環境学堂・学舎)

3. 台湾・金門国家公園における公園事業と多様な主体参画の可能性

涂 智益 (筑地総合設計有限公司)

下嶋 聖 (東京情報大学環境情報学科)

栗田 和弥 (東京農業大学地域環境科学部)

麻生 恵（東京農業大学地域環境科学部）

<実践研究>

1. 障がい者のおしゃれの意識についての一考察～女性障がい者アスリートAさんの場合～
大森 宏一（関西保育福祉専門学校）
2. 子どもの遊びの中で発生する「もめごと」に関する研究～「もめごと」の発生原因と解決過程に着目して～
岡本 充弘（大分大学大学院教育学研究科）
古城 建一（大分大学教育福祉科学部）

<第39回学会大会シンポジウム開催趣旨および概説>

1. 総合テーマ：生態系資源と文化的資源をつなぐライフデザイン～架け橋としてのレジャー・レクリエーション～
土屋 薫（江戸川大学）

<第39回学会大会シンポジウム>

1. 総括セッション記録：ひとがリピーターを育み、リピーターがひとを育てる～着地型観光に学ぶ地域の誇り～
庄司 邦昭（東京海洋大学）
後藤 新弥（江戸川大学）
樋口正一郎（美術家・都市景観研究家）
恵 小百合（江戸川大学・江戸川大学総合福祉専門学校）
小高 静子（流山ガーデニングクラブ「花恋人-かれんと-」）
井崎 義治（流山市長）
梅谷 秀治（コーディネーター：行政コミュニケーションアドバイザー）

<セッションA>

1. 船を通じた川とのつきあいかた
庄司 邦昭（東京海洋大学）
2. 大堀川におけるカヌー体験 セミナールの実践
郡司 俊雄（江戸川大学）
3. スポーツイベントの開催と安全性に関する課題～湘南の里海遊び～
遠藤 大哉（NPO法人パディ冒険団代表）
4. 市野谷の森公園を核とする水と緑のまちづくり
恵良 好敏（NPOさとやま）

<セッションB>

1. 世界の水辺空間&都市開発から考える
樋口正一郎（美術家・都市景観研究家）
2. 地域をつなぐ歴史の架け橋～利根運河の持つ力～
新保 國弘（東葛自然と文化研究所）

<第39回学会大会地域研究>

1. 「旧葛飾郡エリアのレジャー・レクリエーション資源」報告
田中 伸彦（独立行政法人森林総合研究所・東海大学観光学部）

<第2回日本レジャー・レクリエーション学会賞支援実践奨励賞>

1. レクリエーション空間整備に関するワークショップ技術の検討とその実践
矢野加奈子（東京農業大学）

資料(4) 学会大会開催期日・会場及び各大会発表演題数

学会大会	開催時期	開催会場	発表題数
第26回大会	1996年(平8)11月23・24日	奈良女子大学(奈良県奈良市)	23題
第27回大会	1997年(平9)11月15・16日	東京農業大学(東京都世田谷区)	30題
第28回大会	1998年(平10)11月22・23日	福岡大学(福岡県福岡市)	31題
第29回大会	1999年(平11)12月4・5日	淑徳大学(埼玉県入間郡三芳町)	27題
第30回大会	2000年(平12)11月25・26日	明治大学(東京都千代田区)	29題
第31回大会	2001年(平13)12月1・2日	千葉大学(千葉県松戸市)	27題
第32回大会	2002年(平14)11月23・24日	大分大学(大分県大分市)	17題
第33回大会	2003年(平15)11月7・8・9日	東北福祉大学(宮城県仙台市)	27題
第34回大会	2004年(平16)12月3・4・5日	立教大学(東京都豊島区)	27題
第35回大会	2005年(平17)12月9・10・11日	国際基督教大学(東京都三鷹市)	19題 ホ・夕-14題
第36回大会	2006年(平18)12月2・3日	平安女学院大学(大阪府高槻市)	26題 ホ・夕-16題
第37回大会	2007年(平19)11月30日 ・12月1・2日	東洋大学(東京都文京区)	15題 ホ・夕-7題
第38回大会	2008年(平20)11月28・29・30日	新潟医療福祉大学(新潟県新潟市)	21題 ホ・夕-13題
第39回大会	2009年(平21)11月27・28・29日	江戸川大学(千葉県流山市)	20題 ホ・夕-16題
第40回大会 (記念大会)	2010年(平22)11月26・27・28日	東京農業大学(東京都世田谷区)	15題 ホ・夕-32題

資料(5) 学会歴代事務局

年 度	事 務 局
1996年(平成8年)	東京女子体育大学より関東学院大学に移転
1997年(平成9年)	関東学院大学
1998年(平成10年)	関東学院大学から立教大学に移転
1999年(平成11年)	立教大学
2000年(平成12年)	立教大学
2001年(平成13年)	立教大学
2002年(平成14年)	立教大学
2003年(平成15年)	立教大学
2004年(平成16年)	立教大学より淑徳大学に移転
2005年(平成17年)	淑徳大学
2006年(平成18年)	淑徳大学
2008年(平成20年)	淑徳大学より東京農業大学に移転
2009年(平成21年)	東京農業大学
2010年(平成22年)	東京農業大学

資料(6) 会員数の推移

年 度	会 員 数	事 務 局
1996年(平成8年)	3月31日現在 337名	東京女子体育大学より関東学院大学に
1997年(平成9年)	3月31日現在 406名	関東学院大学
1998年(平成10年)	3月31日現在 476名	関東学院大学より立教大学に移転
1999年(平成11年)	3月31日現在 483名	立教大学
2000年(平成12年)	3月31日現在 498名	立教大学
2001年(平成13年)	3月31日現在 351名	立教大学
2002年(平成14年)	3月31日現在 366名	立教大学
2003年(平成15年)	3月31日現在 356名	立教大学
2004年(平成16年)	3月31日現在 322名	立教大学より淑徳大学に移転
2005年(平成17年)	3月31日現在 355名	淑徳大学
2006年(平成18年)	3月31日現在 304名	淑徳大学
2008年(平成20年)	3月31日現在 353名	淑徳大学より東京農業大学に移転
2009年(平成21年)	3月31日現在 348名	東京農業大学
2010年(平成22年)	3月31日現在 315名	東京農業大学

会員数は各年度の決算報告(会費納入者数)による

資料(7) 学会歴代役員

平成8年・9年度(1996年～97年度)

役員	
会長	前野淳一郎(㈱スペースコンサルタンツ)
副会長	秋吉 嘉範(福岡教育大学)
〃	黒田 信寛(明治大学)
〃	高橋 和敏(㈱余暇問題研究所)
〃	田中 鎮雄(日本大学)
監事	鈴木 祐一(東京女子体育大学)
〃	永嶋 正信(東京農業大学)
理事長	鈴木 秀雄(関東学院大学)
理事(常任)	荒井 啓子(武蔵野短期大学)
〃	飯田 稔(筑波大学)
〃	石井 允(立教大学)
〃	坂口 正治(東洋大学短期大学)
〃	嵯峨 寿(筑波大学)
〃	下村 彰男(東京大学大学院)
〃	西田 俊夫(淑徳大学)
〃	西野 仁(東海大学)
〃	松浦三代子(東京女子体育大学)
〃	松田 義幸(実践女子大学)
〃	油井 正昭(千葉大学)
理事	大谷 善博(福岡大学)
〃	大森 雅子(東京女子体育大学)
〃	小田切毅一(奈良女子大学)
〃	杉尾 邦江(㈱プレック研究所)
〃	鈴木 文明(拓殖大学北海道短期大学)
〃	中島 豊雄(名古屋大学)
〃	芳賀 健治(東京家政学院大学)
〃	原田 宗彦(大阪体育大学)
〃	松尾 哲矢(福岡大学)
〃	宮下 桂治(順天堂大学)
〃	守能 信次(中京大学)
〃	師岡 文男(上智大学)
〃	山口 泰雄(神戸大学)
幹事	沼澤 秀雄(立教大学)
〃	梅澤 佳子(湘南国際女子大学)
〃	神谷 明宏(関東学院大学大学院)
〃	杉本 文(財)ハイライフ研究所)
〃	田中 伸彦(農林水産省森林総合研究所)

平成10年・11年度(1998年～99年度)

役員	
会長	鈴木 祐一(東京女子体育大学)
副会長	秋吉 嘉範(福岡教育大学)
〃	石井 允(立教大学)
〃	高橋 和敏(㈱余暇問題研究所)
〃	松田 義幸(実践女子大学)
監事	麻生 恵(東京農業大学)
〃	大堀 孝雄(東海大学)
理事長	鈴木 秀雄(関東学院大学)
理事(常任)	荒井 啓子(学習院女子大学)
〃	飯田 稔(筑波大学)
〃	坂口 正治(東洋大学短期大学)
〃	嵯峨 寿(筑波大学)
〃	下村 彰男(東京大学大学院)
〃	西田 俊夫(淑徳大学)
〃	西野 仁(東海大学)
〃	松浦三代子(東京女子体育大学)
〃	油井 正昭(千葉大学)
理事	大谷 善博(福岡大学)
〃	岡本 伸之(立教大学)
〃	小田切毅一(奈良女子大学)
〃	鈴木 文明(市立名寄短期大学)
〃	茅野 宏明(武庫川女子大学)
〃	寺島 善一(明治大学)
〃	永嶋 正信(東京農業大学)
〃	松尾 哲矢(福岡大学)
〃	守能 信次(中京大学)
〃	師岡 文男(上智大学)
〃	山口 泰雄(神戸大学)
〃	山崎 律子(㈱余暇問題研究所)
幹事	沼澤 秀雄(立教大学)
〃	片桐 義晴(早稲田大学大学院)

平成12年・13年度（2000年～2001年度）

役員	
会長	鈴木 祐一
副会長	秋吉 嘉範（保健福祉レクリエーション研究所）
〃	石井 允（立教大学）
〃	鈴木 秀雄（関東学院大学）
〃	高橋 和敏（株余暇問題研究所）
〃	松田 義幸（実践女子大学）
〃	油井 正昭（千葉大学）
監事	小田切毅一（奈良女子大学）
〃	永嶋 正信（東京農業大学）
理事長	坂口 正治（東洋大学）
理事(常任)	麻生 恵（東京農業大学）
〃	荒井 啓子（学習院女子大学）
〃	嵯峨 寿（筑波大学）
〃	下村 彰男（東京大学大学院）
〃	寺島 善一（明治大学）
〃	西田 俊夫（淑徳大学）
〃	西野 仁（東海大学）
〃	松浦三代子（東京女子体育大学）
〃	松尾 哲矢（立教大学）
〃	師岡 文男（上智大学）
〃	山崎 律子（株余暇問題研究所）
理事	飯田 稔（筑波大学）
〃	大谷 善博（福岡大学）
〃	岡本 伸之（立教大学）
〃	片桐 義晴（新宿区障害者団体連絡協議会）
〃	其川 武（財）日本レクリエーション協会
〃	高橋 伸（国際基督教大学）
〃	茅野 宏明（武庫川女子大学）
〃	沼澤 秀雄（立教大学）
〃	守能 信次（中京大学）
〃	山口 泰雄（神戸大学）
幹事	上村都貴絵（株アイティット）

平成14年・15年度（2002年～2003年度）

役員	
会長	松田 義幸（実践女子大学）
副会長	鈴木 秀雄（関東学院大学）
〃	油井 正昭（千葉大学）
監事	寺島 善一（明治大学）
〃	永嶋 正信（東京農業大学）
理事長	坂口 正治（東洋大学）
理事(常任)	麻生 恵（東京農業大学）
〃	荒井 啓子（学習院女子大学）
〃	片桐 義晴（社福新宿区障害者福祉協会）
〃	嵯峨 寿（筑波大学）
〃	下村 彰男（東京大学）
〃	田中 伸彦（独立行政法人森林総合研究所）
〃	西田 俊夫（淑徳大学）
〃	西野 仁（東海大学）
〃	沼澤 秀雄（立教大学）
〃	松浦三代子（東京女子体育大学）
〃	松尾 哲矢（立教大学）
〃	山崎 律子（株余暇問題研究所）
理事	小池 和幸（仙台大学）
〃	小田切毅一（奈良女子大学）
〃	小野寺浩三（東北福祉大学）
〃	古城 建一（大分大学）
〃	進士五十八（東京農業大学）
〃	鈴木 重志（財）日本レクリエーション協会
〃	高橋 伸（国際基督教大学）
〃	田中 祥子（津田塾大学）
〃	茅野 宏明（武庫川女子大学）
〃	師岡 文男（上智大学）
〃	横内 靖典（城西大学）
幹事	小椋 一也（関東学院大学非常勤）

平成16年・17年度(2004年～2005年度)

役員	
会長	油井 正昭(桐蔭横浜大学)
副会長	坂口 正治(東洋大学)
〃	鈴木 秀雄(関東学院大学)
〃	松浦三代子(東京女子体育大学)
監事	大谷 善博(福岡大学)
〃	寺島 善一(明治大学)
理事長	西田 俊夫(淑徳大学)
理事(常任)	麻生 恵(東京農業大学)
〃	小椋 一也(国際医療福祉大学大学院)
〃	片桐 義晴(社福新宿区障害者福祉協会)
〃	嵯峨 寿(筑波大学)
〃	下村 彰男(東京大学大学院)
〃	田中 伸彦(独立行政法人森林総合研究所)
〃	西野 仁(東海大学)
〃	沼澤 秀雄(立教大学)
〃	松尾 哲矢(立教大学)
〃	山崎 律子(㈱余暇問題研究所)
〃	横内 靖典(城西大学)
理事	荒井 啓子(学習院女子大学)
〃	小田切毅一(奈良女子大学)
〃	小野寺浩三(東北福祉大学)
〃	上村都貴絵(ヒルサイドビュー矯正歯科)
〃	京野 誠子(秋田桂城短期大学)
〃	古城 建一(大分大学)
〃	鈴木 重志(財)日本レクリエーション協会)
〃	高橋 伸(国際基督教大学)
〃	田中 祥子(津田塾大学)
〃	茅野 宏明(武庫川女子大学)
〃	千葉 和夫(日本社会事業大学)
〃	野村 一路(日本体育大学)
〃	師岡 文男(上智大学)

平成18年・19年度(2006年～2007年度)

役員	
会長	鈴木 秀雄(関東学院大学)
副会長	小田切毅一(新潟医療福祉大学)
〃	坂口 正治(東洋大学)
監事	大谷 善博(福岡大学)
〃	寺島 善一(明治大学)
理事長	西田 俊夫(淑徳大学)
理事(常任)	麻生 恵(東京農業大学)
〃	小椋 一也(国際医療福祉大学大学院)
〃	片桐 義晴(社福新宿区障害者福祉協会)
〃	嵯峨 寿(筑波大学)
〃	下村 彰男(東京大学大学院)
〃	田中 伸彦(独法)森林総合研究所)
〃	西野 仁(東海大学)
〃	沼澤 秀雄(立教大学)
〃	松尾 哲矢(立教大学)
〃	山崎 律子(㈱余暇問題研究所)
〃	横内 靖典(城西大学)
理事	天野 勤(聖徳大学)
〃	浮田千枝子(群馬松嶺福祉短期大学)
〃	小野寺浩三(東北福祉大学)
〃	上村都貴絵(㈱コーソル)
〃	古城 建一(大分大学)
〃	釧持 武(社福)伸生会)
〃	高橋 伸(国際基督教大学)
〃	田中 光(洗足学園短期大学)
〃	茅野 宏明(武庫川女子大学)
〃	土屋 薫(江戸川大学)
〃	マーレー 寛子(平安女学院大学)
〃	師岡 文男(上智大学)

平成20年・21・22年度（2008年～2010年度）

役員

会長 鈴木 秀雄（関東学院大学）

副会長 小田切毅一（新潟医療福祉大学）

〃 坂口 正治（東洋大学）

〃 西田 俊夫（淑徳大学）

監事 古城 建一（大分大学）

〃 上野 直紀（いわき明星大学）

理事長 麻生 恵（東京農業大学）

理事(常任) 小椋 一也（東京医学柔整専門学校）

〃 上岡 洋晴（東京農業大学）

〃 嵯峨 寿（筑波大学）

〃 田中 伸彦（独法）森林総合研究所、東海大学）

〃 土屋 薫（江戸川大学）

〃 寺島 善一（明治大学）

〃 西野 仁（東海大学）（平成20年度）

〃 沼澤 秀雄（立教大学）

〃 松尾 哲矢（立教大学）

〃 横内 靖典（城西大学）

理事 天野 勤（聖徳大学）

〃 浮田千枝子（群馬松嶺福祉短期大学）

〃 小野寺浩三（東北福祉大学）

〃 釵持 武（社福）伸生会）

〃 下村 彰男（東京大学大学院）

〃 高橋 伸（国際基督教大学）

〃 滝口 真（西九州大学）

〃 田中 光（洗足学園短期大学）

〃 茅野 宏明（武庫川女子大学）

〃 西野 仁（東海大学福岡短期大学）（平成21・22年度）

〃 前橋 明（早稲田大学）

〃 マーレー寛子（京都府立大学大学院）

〃 森川 貞夫（日本体育大学）

〃 師岡 文男（上智大学）

〃 山崎 律子（株余暇問題研究所）

幹事 下嶋 聖（東京農業大学）

〃 菅原 成臣（財）東京YMCA）

〃 矢野加奈子（東京農業大学）

資料(8) 学会会則(規定、内規)

学会会則

- | | |
|---------------------|-----------|
| ① 1996(平成8)年11月24日 | 一部改訂(含むA) |
| ② 1998(平成10)年11月23日 | 一部改訂 |
| ③ 2005(平成17)年12月10日 | 一部改訂 |
| ④ 2006(平成18)年12月3日 | 一部改訂(含むB) |
| ⑤ 2009(平成21)年11月29日 | 一部改訂 |

支部に関する規程

- | | |
|--------------------|-----|
| ① 1981(昭和56)年11月8日 | 制 定 |
|--------------------|-----|

専門分科会の設置に関する規程

- | | |
|--------------------|------|
| ① 1995(平成7)年12月10日 | 一部改訂 |
|--------------------|------|

理事会の運営に関する規程

- | | |
|--------------------|------|
| ① 1995(平成7年)12月10日 | 一部改訂 |
| ② 1999(平成11年)4月26日 | 一部改訂 |

役員選出内規

- | | |
|--------------------|--------|
| ① 1996(平成8)年11月24日 | 廃 止(A) |
|--------------------|--------|

役員選出細則

- | | |
|--------------------|---------|
| ① 1996(平成8)年11月24日 | 制 定(A) |
| ② 2006(平成18)年12月3日 | 一部改訂(B) |

学会賞規程

- | | |
|--------------------|-----|
| ① 2008(平成19)年12月2日 | 制 定 |
|--------------------|-----|

会則①

日本レジャー・レクリエーション学会会則(平成8年11月24日一部改訂)

〈第1章 総 則〉

第1条 本会を日本レジャー・レクリエーション学会(英語名Japan society of Leisure and Recreation Studies)という。

第2条 本会の目的は、レジャー・レクリエーションに関する調査研究を促進し、レジャー・レクリエーション

の普及・発展に寄与する。

第3条 本会の事務局は、神奈川県小田原市荻窪1162-2 関東学院大学法学部小田原校地体育館内に置く。

〈第2章 事 業〉

第4条 本会は第2条の目的を達するため、次の事業を行

う。

1. 学会大会の開催
2. 研究会・講演会等の開催
3. 機関誌の発行ならびにその他の情報活動
4. 研究の助成
5. 内外の諸団体との連絡と情報の交換
6. 会員相互の親睦
7. その他本会の目的に資する事業

第5条 学会大会は、毎年1回以上開催し、研究成果を発表する。

〈第3章 会員〉

第6条 本会は正会員の他、賛助会員、購読会員、および名誉会員を置くことができる。

1. 正会員は第2条の目的に賛同し、正会員の推薦および、理事会の承認を得て、規定の入会金および会費を納入した者とする。

2. 賛助会員は、本会の事業に財政的援助をなした者で理事会の承認を得た者とする。

3. 購読会員は、本会の機関誌を購読する機関・団体とする。

4. 名誉会員は、本会に特別に貢献のあった者で、理事会の推薦を経て総会で承認された者とする。

第7条 会員は、本会の編集刊行する機関誌（紙）等の配布を受け本会の営む事業に参加することができる。

第8条 会員にして会費の納入を怠った者および会の名誉を棄損した者は、理事会の議を経て会員としての資格を停止されることがある。

第9条 会員は原則として、いずれかの支部に所属するものとする。

〈第4章 役員〉

第10条 本会を運営するために、役員選出規則により正会員の中から次の役員を選ぶ。理事25名以上30名以内（内会長1名、副会長若干名、および理事長1名）、監事2名

第11条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故がある時、または会長が欠けたときは、会長が予め指名した順序により職務を代行する。

3. 理事長は、理事会を総括し、理事は会務を執行す

る。

4. 監事は、会計および会務の執行状況について監査する。

第12条 役員の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。役員の選出についての規則は別に定める。

第13条 本会に名誉会長および顧問を置くことができる。

2. 顧問は、本会の会長または副会長であった者および本会に功労のあった者のうちから理事会の推薦により会長が委嘱する。

〈第5章 会議〉

第14条 本会の会議は、総会および理事会とする。

第15条 総会は、毎年1回開催し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。

総会は、会長が招集し、当日の出席正会員をもって構成する。

議事（会則改正を除く）は、出席者の過半数をもって決定される。

第16条 理事会が必要と認めた場合、もしくは正会員の1/3以上の開催請求があった場合、臨時総会を開くことができる。

第17条 理事会は理事長が招集し、幹事若干名および事務局員を選出し、会務を処理する。理事会は、運営の円滑化をはかるため、常任理事会を置くことができる。

〈第6章 支部および専門分科会〉

第18条 本会の事業を推進するために、支部ならびに専門分科会を置くことができる。

支部ならびに専門分科会についての規則は別に定める。

〈第7章 会計〉

第19条 本会の経費は、会費、寄付金およびその他の収入をもって支弁する。

第20条 会員の会費は次の通りとする。

1. 入会金 1,000円
2. 正会員 年度額 5,000円
3. 賛助会員 ♪ 20,000円以上
4. 購読会員 ♪ 5,000円

〔Ⅱ〕資料

第21条 本会の会計年度は毎年4月に始まり、翌年3月に終る。

付 則

1. 本会の会則は、総会において出席正会員の2/3以上を得た議決により変更することができる。
2. 本会則は、昭和46年3月21日より一部改訂する。
3. 本会則は、昭和51年5月1日より一部改訂する。
4. 本会則は、昭和55年5月11日より一部改訂する。

5. 本会則は、昭和56年11月8日より一部改訂する。
6. 本会則は、昭和57年6月12日より一部改訂する。
7. 本会則は、昭和58年10月30日より一部改訂する。
8. 本会則は、昭和59年6月9日より一部改訂する。
9. 本会則は、昭和62年10月17日より一部改訂する。
10. 本会則は、平成3年11月10日より一部改訂する。
11. 本会則は、平成5年10月17日より一部改訂する。
12. 本会則は、平成8年11月24日より一部改訂する。

会則②

日本レジャー・レクリエーション学会会則 (平成10年11月23日一部改訂)

〈第1章 総 則〉

第1条 本会を日本レジャー・レクリエーション学会（英語名Japan society of Leisure and Recreation Studies）という。

第2条 本会の目的は、レジャー・レクリエーションに関する調査研究を促進し、レジャー・レクリエーションの普及・発展に寄与する。

第3条 本会の事務局は、埼玉県新座市北野1-2-26 立教大学武蔵野新座キャンパスコミュニティ福祉学部沼澤研究室内に置く。

〈第2章 事 業〉

第4条 本会は第2条の目的を達するため、次の事業を行う。

1. 学会大会の開催
2. 研究会・講演会等の開催
3. 機関誌の発行ならびにその他の情報活動
4. 研究の助成
5. 内外の諸団体との連絡と情報の交換
6. 会員相互の親睦
7. その他本会の目的に資する事業

第5条 学会大会は、毎年1回以上開催し、研究成果を発表する。

〈第3章 会 員〉

第6条 本会は正会員の他、賛助会員、購読会員、および名誉会員を置くことができる。

1. 正会員は第2条の目的に賛同し、正会員の推薦および、理事会の承認を得て、規定の入会金および会費を納入した者とする。

2. 賛助会員は、本会の事業に財政的援助をなした者で理事会の承認を得た者とする。

3. 購読会員は、本会の機関誌を購読する機関・団体とする。

4. 名誉会員は、本会に特別に貢献のあった者で、理事会の推薦を経て総会で承認された者とする。

第7条 会員は、本会の編集発行する機関誌（紙）等の配布を受け本会の営む事業に参加することができる。

第8条 会員にして会費の納入を怠った者および会の名誉を棄損した者は、理事会の議を経て会員としての資格を停止されることがある。

第9条 会員は原則として、いずれかの支部に所属するものとする。

〈第4章 役 員〉

第10条 本会を運営するために、役員選出規則により正会員の中から次の役員を選ぶ。理事25名以上30名以内（内会長1名、副会長若干名、および理事長1名）、監事2名

第11条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故がある時、または会長が欠けたときは、会長が予め指名した順序により職務を代行する。

3. 理事長は、理事会を総括し、理事は会務を執行する。

4. 監事は、会計および会務の執行状況について監査する。

第12条 役員の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。役員の選出についての規則は別に定める。

第13条 本会に名誉会長および顧問を置くことができる。

2. 顧問は、本会の会長または副会長であった者および本会に功労のあった者のうちから理事会の推薦により会長が委嘱する。

〈第5章 会議〉

第14条 本会の会議は、総会および理事会とする。

第15条 総会は、毎年1回開催し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。

総会は、会長が招集し、当日の出席正会員をもって構成する。

議事（会則改正を除く）は、出席者の過半数をもって決定される。

第16条 理事会が必要と認めた場合、もしくは正会員の1/3以上の開催請求があった場合、臨時総会を開く事ができる。

第17条 理事会は理事長が招集し、幹事若干名および事務局員を選出し、会務を処理する。理事会は、運営の円滑化をはかるため、常任理事会を置くことができる。

〈第6章 支部および専門分科会〉

第18条 本会の事業を推進するために、支部ならびに専門分科会を置くことができる。

支部ならびに専門分科会についての規則は別に定め

る。

〈第7章 会計〉

第19条 本会の経費は、会費、寄付金およびその他の収入をもって支弁する。

第20条 会員の会費は次の通りとする。

1. 入会金 2,000円
2. 正会員 年度額 8,000円
3. 賛助会員 〳 20,000円以上
4. 購読会員 〳 8,000円

第21条 本会の会計年度は毎年4月に始まり、翌年3月に終わる。

付 則

1. 本会の会則は、総会において出席正会員の2/3以上を得た議決により変更することができる。

本会則は、昭和46年3月21日より一部改訂する。

本会則は、昭和51年5月1日より一部改訂する。

本会則は、昭和55年5月11日より一部改訂する。

本会則は、昭和56年11月8日より一部改訂する。

本会則は、昭和57年6月12日より一部改訂する。

本会則は、昭和58年10月30日より一部改訂する。

本会則は、昭和59年6月9日より一部改訂する。

本会則は、昭和62年10月17日より一部改訂する。

本会則は、平成3年11月10日より一部改訂する。

本会則は、平成5年10月17日より一部改訂する。

本会則は、平成8年11月24日より一部改訂する。

本会則は、平成10年11月23日より一部改訂する。

会則③

日本レジャー・レクリエーション学会会則（平成17年12月10日一部改訂）

〈第1章 総 則〉

第1条 本会を日本レジャー・レクリエーション学会（英語名:Japan Society of Leisure and Recreation Studies）という。

第2条 本会の目的は、レジャー・レクリエーションに関する調査研究を促進し、レジャー・レクリエーションの普及・発展に寄与する。

第3条 本会の事務局は、埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1淑徳大学国際コミュニケーション学部 西田俊夫研究室内に置く。

〈第2章 事業〉

第4条 本会は第2条の目的を達するため、次の事業を行う。

〔Ⅱ〕資 料

1. 学会大会の開催
2. 研究会・講演会等の開催
3. 機関誌の発行ならびにその他の情報活動
4. 研究の助成
5. 内外の諸団体との連絡と情報の交換
6. 会員相互の親睦
7. その他本会の目的に資する事業

第5条 学会大会は、毎年1回以上開催し、研究成果を発表する。

〈第3章 会 員〉

第6条 本会は正会員の他、賛助会員、購読会員、および名誉会員を置くことができる。

1. 正会員は第2条の目的に賛同し、正会員の推薦および、理事会の承認を得て、規定の入会金および会費を納入した者とする。
2. 賛助会員は、本会の事業に財政的援助をなした者で理事会の承認を得た者とする。
3. 購読会員は、本会の機関誌を購読する機関・団体とする。
4. 名誉会員は、本会に特別に貢献のあった者で、理事会の推薦を経て総会で承認された者とする。

第7条 会員は、本会の編集刊行する機関誌（紙）等の配布を受け本会の営む事業に参加することができる。

第8条 会員にして会費の納入を怠った者および会の名誉を毀損した者は、理事会の議を経て会員としての資格を停止されることがある。

第9条 会員は原則として、いずれかの支部に所属するものとする。

〈第4章 役 員〉

第10条 本会を運営するために、役員選出規則により正会員の中から次の役員を選ぶ。

理事25名以上30名以内（内会長1名、副会長若干名、および理事長1名）、監事2名

第11条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故がある時、または会長が欠けたときは、会長が予め指名した順序により職務を代行する。
3. 理事長は、理事会を総括し、理事は会務を執行す

る。

4. 監事は、会計および会務の執行状況について監査する。

第12条 役員の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。役員の選出についての規則は別に定める。

第13条 本会に名誉会長および顧問を置くことができる。

2. 顧問は、本会の会長または副会長であった者および本会に功労のあった者のうちから理事会の推薦により会長が委嘱する。

〈第5章 会 議〉

第14条 本会の会議は、総会および理事会とする。

第15条 総会は、毎年1回開催し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。

2. 総会は、会長が招集し、当日の出席正会員をもって構成する。

3. 議事（会則改正を除く）は、出席者の過半数をもって決定される。

第16条 理事会が必要と認めた場合、もしくは正会員の1/3以上の開催請求があった場合、臨時総会を開くことができる。

第17条 理事会は理事長が招集し、幹事若干名および事務局員を選出し、会務を処理する。

2. 理事会は、運営の円滑化をはかるため、常任理事会を置くことができる。

〈第6章 支部および専門分科会〉

第18条 本会の事業を推進するために、支部ならびに専門分科会を置くことができる。

2. 支部ならびに専門分科会についての規則は別に定める。

〈第7章 会 計〉

第19条 本会の経費は、会費、寄付金およびその他の収入をもって支弁する。

第20条 会員の会費は次の通りとする。

1. 入会金 2,000円
2. 正会員 年度額 8,000円
3. 賛助会員 〃 20,000円以上

4. 購読会員 〳 8,000円

第21条 本会の会計年度は毎年4月に始まり、翌年3月に終わる。

附 則

1. 本会の会則は、総会において出席正会員の2/3以上を得た議決により変更することができる。
2. 本会則は、昭和46年3月21日より施行する。

附 則

本会則は、昭和46年3月21日より一部改訂する。
本会則は、昭和51年5月1日より一部改訂する。

本会則は、昭和55年5月11日より一部改訂する。
本会則は、昭和56年11月8日より一部改訂する。
本会則は、昭和57年6月12日より一部改訂する。
本会則は、昭和58年10月30日より一部改訂する。
本会則は、昭和59年6月9日より一部改訂する。
本会則は、昭和62年10月17日より一部改訂する。
本会則は、平成3年11月10日より一部改訂する。
本会則は、平成5年10月17日より一部改訂する。
本会則は、平成8年11月24日より一部改訂する。
本会則は、平成10年11月23日より一部改訂する。
本会則は、平成17年12月10日より一部改訂する。

会則④

日本レジャー・レクリエーション学会会則（平成18年12月3日一部改訂）

〈第1章 総 則〉

第1条 本会を日本レジャー・レクリエーション学会（英語名Japan Society of Leisure and Recreation Studies）という。

第2条 本会の目的は、レジャー・レクリエーションに関する調査研究を促進し、レジャー・レクリエーションの普及・発展に寄与する。

第3条 本会の事務局は、埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1 淑徳大学国際コミュニケーション学部 西田俊夫研究室内に置く。

〈第2章 事 業〉

第4条 本会は第2条の目的を達するため、次の事業を行う。

1. 学会大会の開催
2. 研究会・講演会等の開催
3. 学会誌の発行ならびにその他の情報活動
4. 研究の助成
5. 内外の諸団体との連絡と情報の交換
6. 会員相互の親睦
7. その他本会の目的に資する事業

第5条 学会大会は、毎年1回以上開催し、研究成果を発表する。

〈第3章 会 員〉

第6条 本会は正会員の他、賛助会員、購読会員、および名誉会員を置くことができる。

1. 正会員は第2条の目的に賛同し、正会員の推薦および、理事会の承認を得て、規定の入会金および会費を納入した者とする。

2. 賛助会員は、本会の事業に財政的援助をなした者で理事会の承認を得た者とする。

3. 購読会員は、本会の機関誌を購読する機関・団体とする。

4. 名誉会員は、本会に特別に貢献のあった者で、理事会の推薦を経て総会で承認された者とする。

第7条 会員は、本会の編集・発行する学会誌等の配布を受け本会の営む事業に参加することができる。

第8条 会員にして会費の納入を怠った者および会の名誉を毀損した者は、理事会の議を経て会員としての資格を停止されることがある。

第9条 会員は原則として、いずれかの支部に所属するものとする。

〈第4章 役 員〉

第10条 本会を運営するために、役員選出規則により正会員の中から次の役員を選ぶ。理事25名以上30名以内（内会長1名、副会長若干名、および理事長1名）、監事2名

〔Ⅱ〕資料

第11条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故がある時、または会長が欠けたときは、会長が予め指名した順序により会務を代行する。

3. 理事長は、理事会を総括し、理事は会務を執行する。

4. 監事は、会計および会務の執行状況について監査する。

第12条 役員は任期は3年とする。但し、再任を妨げない。役員を選出についての規則は別に定める。

第13条 本会に名誉会長および顧問を置くことができる。

2. 顧問は、本会の会長または副会長であった者および本会に功労のあった者のうちから理事会の推薦により会長が委嘱する。

〈第5章 会議〉

第14条 本会の会議は、総会および理事会とする。

第15条 総会は、毎年1回開催し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。

総会は、会長が招集し、当日の出席正会員をもって構成する。

議事（会則改正を除く）は、出席者の過半数をもって決定される。

第16条 理事会が必要と認めた場合、もしくは正会員の1/3以上の開催請求があった場合、臨時総会を開くことができる。

第17条 理事会は理事長が招集し、幹事若干名および事務局員を選出し、会務を処理する。理事会は、運営の円滑化をはかるため、常任理事会を置くことができる。

〈第6章 支部および専門分科会〉

第18条 本会の事業を推進するために、支部ならびに専門分科会を置くことができる。

支部ならびに専門分科会についての規則は別に定める。

〈第7章 会計〉

第19条 本会の経費は、会費、寄付金およびその他の収入をもって支弁する。

第20条 会員の会費は次の通りとする。

1. 入会金 2,000円
2. 正会員 年度額 8,000円
3. 賛助会員 〳 20,000円以上
4. 購読会員 〳 8,000円

第21条 本会の会計年度は毎年4月に始まり、翌年3月に終わる。

附 則

1. 本会の会則は、総会において出席正会員の2/3以上を得た議決により変更することができる。

2. 本会則は、昭和46年3月21日より施行する。

附 則

本会則は、昭和46年3月21日より一部改訂する。

本会則は、昭和51年5月1日より一部改訂する。

本会則は、昭和55年5月11日より一部改訂する。

本会則は、昭和56年11月8日より一部改訂する。

本会則は、昭和57年6月12日より一部改訂する。

本会則は、昭和58年10月30日より一部改訂する。

本会則は、昭和59年6月9日より一部改訂する。

本会則は、昭和62年10月17日より一部改訂する。

本会則は、平成3年11月10日より一部改訂する。

本会則は、平成5年10月17日より一部改訂する。

本会則は、平成8年11月24日より一部改訂する。

本会則は、平成10年11月23日より一部改訂する。

本会則は、平成17年12月10日より一部改訂する。

本会則は、平成18年12月3日より一部改訂する。

会則⑤

日本レジャー・レクリエーション学会会則（平成21年11月29日一部改訂）

〈第1章 総 則〉

第1条 本会を日本レジャー・レクリエーション学会（

英語名:Japan Society of Leisure and Recreation Studies）という。

第2条 本会の目的は、レジャー・レクリエーションに関する調査研究を促進し、レジャー・レクリエーションの普及・発展に寄与する。

第3条 本会の事務局は、東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学地域環境科学部造園学科観光レクリエーション研究室内に置く。

〈第2章 事業〉

第4条 本会は第2条の目的を達するため、次の事業を行う。

1. 学会大会の開催
2. 研究会・講演会等の開催
3. 学会誌の発行ならびにその他の情報活動
4. 研究の助成
5. 内外の諸団体との連絡と情報の交換
6. 会員相互の親睦
7. その他本会の目的に資する事業

第5条 学会大会は、毎年1回以上開催し、研究成果を発表する。

〈第3章 会員〉

第6条 本会は正会員の他、賛助会員、購読会員、および名誉会員を置くことができる。

1. 正会員は第2条の目的に賛同し、正会員の推薦および、理事会の承認を得て、規定の入会金および会費を納入した者とする。

2. 賛助会員は、本会の事業に財政的援助をなした者で理事会の承認を得た者とする。

3. 購読会員は、本会の機関誌を購読する機関・団体とする。

4. 名誉会員は、本会に特別に貢献のあった者で、理事会の推薦を経て総会で承認された者とする。

第7条 会員は、本会の編集・発行する学会誌等の配布を受け本会の営む事業に参加することができる。

第8条 会員にして会費の納入を怠った者および会の名誉を毀損した者は、理事会の議を経て会員としての資格を停止されることがある。

第9条 会員は原則として、いずれかの支部に所属するものとする。

〈第4章 役員〉

第10条 本会を運営するために、役員選出規則により正会員の中から次の役員を選ぶ。理事25名以上30名以内（内会長1名、副会長若干名、および理事長1名）、監事2名

第11条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故がある時、または会長が欠けたときは、会長が予め指名した順序により会務を代行する。

3. 理事長は、理事会を総括し、理事は会務を執行する。

4. 監事は、会計および会務の執行状況について監査する。

第12条 役員の任期は3年とする。但し、再任を妨げない。役員の選出についての規則は別に定める。

第13条 本会に名誉会長および顧問を置くことができる。

2. 顧問は、本会の会長または副会長であった者および本会に功労のあった者のうちから理事会の推薦により会長が委嘱する。

〈第5章 会議〉

第14条 本会の会議は、総会および理事会とする。

第15条 総会は、毎年1回開催し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。

総会は、会長が招集し、当日の出席正会員をもって構成する。

議事（会則改正を除く）は、出席者の過半数をもって決定される。

第16条 理事会が必要と認めた場合、もしくは正会員の1/3以上の開催請求があった場合、臨時総会を開くことができる。

第17条 理事会は理事長が招集し、幹事若干名および事務局員を選出し、会務を処理する。理事会は、運営の円滑化をはかるため、常任理事会を置くことができる。

〈第6章 支部および専門分科会〉

第18条 本会の事業を推進するために、支部ならびに専門分科会を置くことができる。

支部ならびに専門分科会についての規則は別に定める。

〔Ⅱ〕資 料

〈第7章 会 計〉

第19条 本会の経費は、会費、寄付金およびその他の収入をもって支弁する。

第20条 会員の会費は次の通りとする。

1. 入会金 2,000円
2. 正会員 年度額 8,000円
3. 賛助会員 〳 20,000円以上
4. 購読会員 〳 8,000円

第21条 本会の会計年度は毎年4月に始まり、翌年3月に終わる。

附 則

1. 本会の会則は、総会において出席正会員の2/3以上を得た議決により変更することができる。
2. 本会則は、昭和46年3月21日より施行する。

附 則

本会則は、昭和46年3月21日より一部改訂する。

本会則は、昭和51年5月1日より一部改訂する。

本会則は、昭和55年5月11日より一部改訂する。

本会則は、昭和56年11月8日より一部改訂する。

本会則は、昭和57年6月12日より一部改訂する。

本会則は、昭和58年10月30日より一部改訂する。

本会則は、昭和59年6月9日より一部改訂する。

本会則は、昭和62年10月17日より一部改訂する。

本会則は、平成3年11月10日より一部改訂する。

本会則は、平成5年10月17日より一部改訂する。

本会則は、平成8年11月24日より一部改訂する。

本会則は、平成10年11月23日より一部改訂する。

本会則は、平成17年12月10日より一部改訂する。

本会則は、平成18年12月3日より一部改訂する。

本会則は、平成21年11月29日より一部改訂する。

支部に関する規程①

支部に関する規程（昭和56年11月8日制定）

1. 本学会会員が、支部を設けようとする場合には、下記により、本学会会長に申請し、理事会の議を経て総会の承認をえるものとする。

1. 設立の経過概要
2. 名称
3. 支部長および役員
4. 会則
5. 会員名簿
6. その他

2. 各支部の運営は、本部との関係については本規定に従って行われるが、その他の事項については各支部規則

においてこれを定めるものとする。

3. 支部は原則として隣接する地域に在勤または在住する本会正会員20名以上をもって構成する。

4. 支部運営のため経費は支部会費によって賄うものとする。支部会費の額は各支部毎に決定するものとする。

5. 支部は次の事項について各年度ごとに本部に報告する。

1. 役員の変更
2. 活動状況の概要
3. その他必要と認められる事項

専門分科会設置に関する規程①

専門分科会設置に関する規程（平成7年12月10日一部改訂）

1. 会則第18条規定により、本学会員が専門分科会を設置しようとする場合は、この規定に基づいて行うものとする。

2. 専門分科会の設置は、原則として研究分野を同じくする本学会正会員20名以上の要請があった場合とする。

3. 専門分科会の設置を求めようとする正会員は下記により本学会会長に申請するものとする。

1. 設立経過および主旨
2. 名称
3. 発起人名簿

4. 連絡事務所
 5. 連絡事務所
 6. その他
4. 専門分科会は次の事項について各年度ごとに本部報告する。

1. 活動状況の概要
 2. その他必要と認められる事項
- 昭和57年6月12日制定
昭和58年10月30日改訂
平成7年12月10日改訂

理事会の運営に関する規程①

理事会の運営に関する規程（平成7年12月10日一部改訂）

1. 会則第17条の規定により、理事会の運営は、会則に定められているほか、この規定に基づいて行うものとする。
2. 理事会は、原則として年に1回以上開催するものとし、理事長がその議長となる。
3. 理事会の招集に当たっては、書面によって付議事項を明示しなければならない。
4. 理事会は、理事の過半数の出席により成立し、議決は出席者の2分の1以上の賛成を必要とする。
ただし、表決に当たっては、予め書面（署名捺印）を以って当該議事に対する意向を表示した者を、出席者とみなす。
5. 常任理事会の構成および業務は次のとおりとする。
 - (1) 常任理事会構成員は若干名とする。
 - (2) 常任理事会は、理事会決定の方針にもとづき、日常業務の執行にあたる。

- (3) 常任理事の議事録（概要）はできるだけすみやかに各理事に送付するものとする。
6. 理事会は、業務を遂行するために次のような専門委員会を置く。
総務、研究企画、編集、広報渉外、財務
7. 理事会には、専門的に研究、調査および審議を必要とするような場合には、特別委員会には、理事以外の適任者を委嘱することができるがその人選は理事会の承認を必要とする。
8. その他理事会の運営に必要な事項は、理事会で決定することができるものとする。

昭和57年6月12日制定
昭和58年10月30日改訂
平成7年12月10日改訂

理事会の運営に関する規程②

理事会の運営に関する規程（平成11年4月26日一部改訂）

※専門委員に関する規程を追加した。

1. 会則第17条の規定により、理事会の運営は、会則に定められているほか、この規程に基づいて行うものとする。
2. 理事会は、原則として年に1回以上開催するものとし、理事長がその議長となる。
3. 理事会の招集に当たっては、書面によって付議事項を明示しなければならない。
4. 理事会は、理事の過半数の出席により成立し、議決は出席者の2分の1以上の賛成を必要とする。
ただし、表決に当たっては、予め書面（署名捺印）を

- 以って当該議事に対する意向を表示した者を、出席者とみなす。
5. 常任理事会の構成および業務は次のとおりとする。
 - (1) 常任理事会構成員は若干名とする。
 - (2) 常任理事会は、理事会の決定の方針にもとづき、日常業務の執行にあたる。
 - (3) 常任理事会の議事録（概要）はできるだけすみやかに各理事に送付するものとする。
 6. 理事会は、業務を遂行するために次のような専門委員会を置く
 - (1) 総務、(2) 研究企画、(3) 編集、(4) 広報渉

〔Ⅱ〕資料

外、(5)財務

また専門委員会の委員は、理事会の承認を得て必要により会員の中から委嘱することができる。ただし当該専門委員の理事会への出席はできない。

7. 理事会には、専門的に研究、調査および審議を必要とするような場合には、特別委員会には、理事以外の適任者を委嘱することができるがその人選は理事会の承認を必要とする。

8. その他理事会の運営に必要な事項は、理事会で決定することができるものとする。

昭和57年6月12日制定

昭和58年10月30日改訂

平成7年12月10日改訂

平成11年4月26日改訂

役員選出内規

※この役員選出内規は役員選出細則制定に伴い平成8年11月24日に廃止された

1. 会則第10条の規定により、役員を選出は、会則に定められているほか、この内規に基づいて行なうものとする。

2. 会長は原則として、副会長経験者であること。

3. 理事は選出方法により、支部選出理事、改選前理事会選出理事、会長選出理事の3つに分け、理事数25名以上30名以内とする。

(1) 支部選出理事は6名とし、その候補者の選出は支部が行う。

① 東海支部 2名

② 近畿支部 2名

③ 九州支部 2名

(2) 関東地区およびその他の地域より選出される理事は5名とし、その理事数は以下のとおりとする。なお、その選出については理事会の議を経て、役員改選前年の総会で承認された委員長を含む7名の「役員候補選考準備委員会」(以下「選考委員会」という)によりその候補者を選出する。

① 関東地区 4名

② その他の地域(東海、近畿、九州、関東地区を除く) 1名

(3) 改選前理事会によって選出される理事は9名とし、その選出については専門領域、地域、研究機関、団体および事務運営等を考慮して選考委員会により候補者を選出する。

(4) 会長推薦により選出される理事は5名とし、その候補者の選出は会長就任後副会長と協議し、会長が指名する。

4. 会長、副会長、及び監事の各候補は、選考委員会により選考された者のなかから理事会において選出される。

5. 理事長及び常任理事は、改選後初理事会で選出する。

6. 役員の兼任は認めない。

7. 役員候補者選出の理事会は学会大会前あるいは学会大会期間中の適当な時期に開催する。

付則 この内規は平成5年10月17日より施行する。

役員選出規則①

日本レジャー・レクリエーション学会 役員選出細則

(平成8年11月24日から施行)

(提案趣旨)

“学会の活性化”と“学会の継続性”とのバランスから、次の項目について配慮した：

1) 理事役員の半軟上陸という観点から、理事総数の半数にあたる15名を正会員による直接選挙(順位標記の

5名連記による無記名投票)とした

2) 改選前理事10名を、現行理事会での互選とした

3) 学会運営の強化を計るために、理事長推薦理事5名以内をもうけた。

4) 会長、副会長、監事は、選挙後初めての理事会で

選出することとした

5) 会長、副会長は理事以外からの選出ができることとした

6) 理事長は、新役員に選出された理事（25名）により、選挙後初めての理事会で互選により選出することとした

7) 被選挙権及び理事就任については、辞退を認めた

8) 役員の欠員に対し、補充選挙は行わないこととした

（会長については本則に従い、理事については補充選挙は行わない）

9) 選挙管理委員会を設置し、その委員会（5名）の推薦を理事会とした

10) 会則の改正（第10条）を必要とすることとなった

11) 学会の活性化の側面的効果として、選挙権（人）及び被選挙権（人）の確認事項により、正会員に手続きの明確化をはかった（会費等手続き期日の指定）

日本レジャー・レクリエーション学会 役員選出細則

（趣旨）

第1条 この細則は、会則第12条に規定する役員の選出に関し、必要な事項を定める。

（選出の時期）

第2条 すべて役員の選出は、その任期の前年のうちに行わなければならない。

（選出の種別と人数）

第3条 この細則により選出される役員の種別と人数は、会則第10条の規定により次のとおりとする。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 理事 25名以上30名以内
- (4) 監事 2名

（資格の制限）

第4条 選挙権、被選挙権は、選挙実施前年の12月31日までに正会員としての資格を有し選挙実施年の6月30日現在、当該年度の会費を収めている正会員とする。ただ

し6月30日以降に正会員の資格を失った者を除く。

2 被選挙権の辞退は認めるが、あらかじめ選挙管理委員会に文書で選挙公示後10日以内に届け出るものとする。

（選出の形態）

第5条 会長、副会長、監事、現行理事会から選出される理事（以下「改選前理事」という。）及び理事長推薦理事を除く役員は、正会員の直接選挙により選出する。

（選出の方法）

第6条 役員の選出方法は、次のとおりとする。

(1) 会長、副会長、監事は、初めての理事会において選出する。

(2) 理事のうち、新理事15名を正会員による順位標記の5名連記で、郵送による直接無記名投票とし、改選前理事10名を現行理事会での互選とし、新理事長による推薦理事5名以内を新理事長の任命によって選出する。

2 会長、副会長は、理事以外からの選出ができる。ただし理事以外から選出された会長、副会長は、就任と同時に速やかに会則第10条の規定により理事となる。

3 改選前理事は、新理事の選挙の前に選出し公表する。改選前理事に選出されない現行理事も細則第4条の規定を満たす限り新理事としての被選挙権を有する。

4 理事長は、新役員に選出された理事（25名）による初めての理事会での互選による。

（投票の有効性）

第7条 投票のうち次のものは、無効とする。

- (1) 規定用紙以外のもの
- (2) 定数を越えて記入したものは、その区分全部
- (3) 氏名以外の文字または記号を記入したものは全部

（当選の決定）

第8条 選挙による新理事（15名）の決定は、有効投票の最多得票者から15名とする。ただし同点者がある場合は、順位標記による総得点の高得点者とし、なお同点の場合は順次高順位ごとの得票数の多い者とする。理事就任時に辞退者があるときは、次点者を繰り上げる。次点者に同点者があるときも同じ得点の算定による。順位ご

〔Ⅱ〕資料

との得票数によっても同点のときは選挙管理委員会で推薦決定する。

2 順位標記による得点の算定は、高順位1位を5点とし順次下位を減数し5位を1点として積算する。

（辞退の届出）

第9条 選挙により選出された新理事が、その就任を辞退しようとする時は、通知が到着した日から5日以内に正当な理由を示して選挙管理委員長に届け出なければならない。

（補充選挙）

第10条 任期途中において役員に欠員が生じても、補充選挙は行わない。

（選挙管理委員会）

第11条 役員（会長、副会長、監事、改選前理事、理事長推薦理事を除く）の選挙を実施するため、選挙管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、5名をもって構成する。

3 委員の選出は、理事会の推薦による。

4 委員の任期は、役員選挙年度の5月1日から翌々年の4月30日までの2年間とする。

5 委員会に委員長を置く。委員長は、委員の中から互選する。委員長は、この細則にしたがって選挙を執行する責任と権限を持つものとする。

6 委員会は、投票の期日、方法等を選挙の1カ月前に、公示しなければならない。

7 委員会は、順位区分（1位～5位）を明らかにした氏名記入用投票用紙を作成する。

8 委員会は、被選挙人名簿及び投票用紙を、選挙の14日以前に正会員届け出住所に送付しなければならない。

9 委員会は、得票数が決定したとき得票数順に上位30位までの一覧表を作成し確認印を押し、その結果を公示すると共に、理事会に報告する。

（細則の改廃）

第12条 この細則の改廃は、理事会の過半数の賛成を得て総会の議決による。

2 この細則の変更は、会則の変更に準ずるものとする。

付 則

1 この細則は、平成10年度の役員改選から適用する。

2 この細則は、平成8年11月24日から施行し、従来の役員選出内規及び申し合わせ事項は廃止する。

日本レジャー・レクリエーション学会

現行理事会から選出される理事の選出に関する申し合わせ

（趣旨）

第1条 本学会の役員選出細則第6条第1項第2号の規定により現行理事会から選出される理事（以下「改選前理事」という。）の選出にあたり、この申し合わせを定める。

（選出の時期）

第2条 改選前理事の選出は、役員改選前年度の最初に開催される理事会以前とする。

（選出の形態）

第3条 改選前理事の選出の形態は、現行理事による直接選挙とする。

（選出の方法）

第4条 改選前理事の選出の方法は、現行理事による順位標記の10連記で、郵送による直接無記名投票による。

（投票の有効性）

第5条 投票のうち次のものは、無効とする。

- (1) 規定用紙以外のもの
- (2) 定数を越えて記入したものは、その区分全部
- (3) 氏名以外の文字または記号を記入したものは全部

（当選の決定）

第6条 改選前理事の当選の決定は、改選前理事選出理事会（役員改選前年度の最初に開催される理事会）にお

いて郵便投票を開票し決定する。

2 改選前理事（10名）の決定は、有効投票の最多得票者から10名とする。ただし同点者がある場合は、順位標記による総得点の最高得点者とし、なお同点の場合は順次高順位ごとの得票数の多い者とする。理事就任時に辞退者があるときは、次点者を繰り上げる。次点者に同点者があるときも同じ得点の算定による。順位ごとの得票数によっても同点のときは、役員改選前年度の最初に開催される理事会において、出席者の投票により決定する。

3 順位標記による得点の算定は、高順位1位を10点とし順次会を減数し10位を1点として積算する。

（選挙管理）

第7条 選挙管理事務は、事務局が行う。

附則

（施行期日）

1. この申し合わせは、平成10年度の役員選挙から適用する。
2. この申し合わせは、平成9年5月26日から施行する。
3. 第2条の規定に関わらず、平成10年度の役員改選前理事の選出の時期は、役員改選前年度の最初に開催される理事会以前でなくてもよいものとする。

日本レジャー・レクリエーション学会

新役員に選出された理事（25名）による理事長の選出に関する申し合わせ

（趣旨）

第1条 本学会の役員選出細則第6条第4項の規定により選出される理事長の選出にあたり、この申し合わせを定める。

（選出の時期）

第2条 理事長の選出は、現行会長により招集される役員改選後の最初に開催される理事会（以下「新理事会」という。）において互選する。

2 理事長が選出されるまでは、新理事会の議長は現行会長が暫定議長となる。

（選出の方法）

第3条 理事長の選出の方法は、現行会長及び会長、副会長、監事の選出に関する申し合わせ第2条により構成されている候補者選定委員会の意見を聴取し審議・決定する。

附則

（施行期日）

1. この申し合わせは、平成10年度の役員改選から適用する。
2. この申し合わせは、平成9年5月26日から施行する。

役員選出規則②

日本レジャー・レクリエーション学会 役員選出細則

（平成18年12月3日一部改訂）

会長、副会長、監事の選出に関する申し合わせ

（趣旨）

第1条 本学会の役員選出細則第6条第1項第1号の規定により選出される会長、副会長、監事の選出にあたり、この申し合わせを定める。

（候補者の選定）

第2条 会長、副会長、監事の候補者の選定は、役員改選後の最初に開催される理事会（以下「新理事会」という。）以前に、現行の会長、副会長、理事長、及び常任理事会で選任された常任理事若干名を含む7名により候補者選定委員会（以下「委員会」という。）を構成し、それぞれ複数の候補者を選定する。

2 委員会は現行会長が招集し、委員長は初回の委員会において互選とし、委員長が議長となり以後の委員会

〔Ⅱ〕 資 料

を必要に応じ招集する。

（候補者の推薦）

第3条 会長、副会長、監事の候補者の推薦は、委員会が新理事会に推薦する。

（選出の形態）

第4条 会長、副会長、監事の選出の形態は、委員会の報告に基づき新理事会により審議・決定する。

（選出の方法）

第5条 会長、副会長、監事の選出の方法は、最初の新理事会において新理事による単記の直接無記名投票による。

2 新理事が最初の新理事会に欠席する場合は、前項の投票は郵便による投票ができる。

（当選の決定）

第6条 会長、副会長、監事の当選の決定は、それぞれ有効投票の最多得票者からとする。ただし同点の場合は、委員会の推薦により決定する。

附 則

（施行期日）

1. この申し合わせは、平成10年度の役員改選から適用する。

2. この申し合わせは、平成9年5月26日から施行する。

※選挙管理委員の任期を変更した。

（趣旨）

第1条 この細則は、会則第12条に規定する役員の選出に関し、必要な事項を定める。

（選出の時期）

第2条 すべて役員の選出は、その任期の前年のうちに行わなければならない。

（選出の種別と人数）

第3条 この細則により選出される役員の種別と人数は、会則第10条の規定により次の通りとする。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 理 事 15名以上30名以内
- (4) 監 事 2名

（資格の制限）

第4条 選挙権、被選挙権は、選挙実施前年の12月31日までに正会員としての資格を有し選挙実施年の6月30日現在、当該年度の会費を納めている正会員とする。ただし6月30日以降に正会員の資格を失った者を除く。

2 被選挙権の辞退は認めるが、あらかじめ選挙管理委員会に文書で選挙公示後10日以内に届け出るものとする。

（選出の形態）

第5条 会長、副会長、監事、現行理事から選出される理事（以下「改選前理事」という。）及び理事長推薦理事を除く役員は、正会員の直接選挙により選出する。

（選出の方法）

第6条 役員の選出方法は、次の通りとする。

(1) 会長、副会長、監事は、初めての理事会において選出する。

(2) 理事のうち、新理事15名を正会員による順位標記の5名連記で、郵送による直接無記名投票とし、改選前理事10名を現行理事会での互選とし、新理事長による推薦理事5名以内を新理事長の任命によって選出する。

2 会長、副会長は、理事以外からの選出ができる。ただし理事以外から選出された会長、副会長は、就任と同時に速やかに会則第10条の規定により理事となる。

3 改選前理事は、新理事の選挙の前に選出し公表する。改選前理事に選出されない現行理事も細則第4条の規定を満たす限り新理事としての被選挙権を有する。

4 理事長は、新役員に選出された理事（25名）による初めての理事会での互選による。

（投票の有効性）

第7条 投票のうち次のものは、無効とする。

- (1) 規定用紙以外のもの
- (2) 定数を越えて記入したものは、その区分全部

(3) 氏名以外の文字または記号を記入したものは全部

(当選の決定)

第8条 選挙による新理事（15名）の決定は、有効投票の最多得票者から15名とする。ただし同点者がある場合は、順位標記による総得点の高得点者とし、なお同点の場合は 順次高順位ごとの得票数の多い者とする。理事就任時に辞退者があるときは、次点者を繰り上げる。次点者に同点者があるときも同じ得点の算定による。順位ごとの得票数によっても同点のときは選挙管理委員会で推薦決定する。

2 順位標記による得点の算定は、高順位1位を5点とし順次下位を減数し5位を1点として積算する。

(辞退の届出)

第9条 選挙により選出された新理事が、その就任を辞退しようとする時は、通知が到着した日から5日以内に正当な理由を示して選挙管理委員長に届け出なければならない。

(補充選挙)

第10条 任期途中において役員に欠員が生じても、補充選挙は行わない。

(選挙管理委員会)

第11条 役員（会長、副会長、監事、改選前理事、理事長推薦理事を除く）の選挙を実施するため、選挙管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、5名をもって構成する。

3 委員の選出は、理事会の推薦による。

4 委員の任期は、当該役員選挙年度の5月1日から次期役員選挙年度の4月30日までの3年間とする。

5 委員会に委員長を置く。委員長は、委員の中から互選する。委員長は、この細則にしたがって選挙を執行する責任と権限を持つものとする。

6 委員会は、投票の期日、方法等を選挙の1カ月前に、公示しなければならない。

7 委員会は、順位区分（1位～5位）を明らかにした氏名記入用投票用紙を作成する。

8 委員会は、被選挙人名簿及び投票用紙を、選挙の14日以前に正会員届け出住所に送付しなければならない。

9 委員会は、得票数が決定したとき得票数順に上位30位までの一覧表を作成し確認印を押し、その結果を公示するとともに、理事会に報告する。

(細則の改廃)

第12条 この細則の改廃は、理事会の過半数の賛成を得て総会の議決による。

2 この細則の変更は、会則の変更に準ずるものとする。

附 則

1 この細則は、平成10年度の役員改選から適用する。

2 この細則は、平成8年11月24日から施行し、従来の役員選出内規及び申し合わせ事項は廃止する。

3 この細則は、平成18年12月3日から一部改訂する。

学会賞規程②

「日本レジャー・レクリエーション学会賞」規程

(平成19年12月2日制定)

(目的)

第1条 日本レジャー・レクリエーション学会(以下「本会」という)は、会員の優れた活動を顕彰かつ奨励することを目的として日本レジャー・レクリエーション学会賞を設ける。

(日本レジャー・レクリエーション学会賞)

第2条 日本レジャー・レクリエーション学会賞(以下「本賞」という)は、次の4賞を設ける。

- (1) 学会賞
- (2) 研究奨励賞 - 論文部門、発表部門-
- (3) 支援実践奨励賞
- (4) 貢献賞

〔Ⅱ〕資料

（学会賞）

第3条 「学会賞」は、正会員によって前年度(審査該当年度)に発表された学会誌「レジャー・レクリエーション研究」およびその他のレジャー・レクリエーション研究に関する学術誌、著書、論文を対象として顕著な功績があったものに対して授与することができる。

（研究奨励賞－論文部門、発表部門－）

第4条 「研究奨励賞－論文部門、発表部門－」は、正会員の大学院生および大学等の研究生等を対象として、その前年度(審査該当年度)に発表された学会誌「レジャー・レクリエーション研究」の論文の中から「研究奨励賞－論文部門－」を、また、学会大会において発表された一般研究発表(口頭、ポスター)の中から「研究奨励賞－発表部門－」を授与することができる。

（支援実践奨励賞）

第5条 「支援実践奨励賞」は、正会員の優れたレジャー・レクリエーション支援実践に対して授与することができる。

（貢献賞）

第6条 「貢献賞」は、長年にわたり本会運営ならびに本会に対して優れた功績が認められた者あるいは団体に

対して授与することができる。

（表彰）

第7条 「学会賞」「研究奨励賞－論文部門、発表部門－」「支援実践奨励賞」「貢献賞」の各賞は学会大会において賞状を授与する。

（選考）

第8条 「学会賞」「研究奨励賞－論文部門、発表部門－」「支援実践奨励賞」については、選考委員会において審議、決定し、理事会の議を経て総会に報告する。また「貢献賞」については理事会において審議、決定し、総会に報告する。

（選考委員会）

第9条 選考委員会の構成、委員選考の方法は別に定める。

（規程の改廃等）

第10条 その他、本規程に定められていない事項に関しては、理事会において審議し、総会の議を経て決定する。

附則

この規程は平成20年4月1日から施行する。

役員選出規則②

日本レジャー・レクリエーション学会賞選考内規

(平成19年12月2日制定)

（選考委員会）

1. 本会に日本レジャー・レクリエーション学会賞選考委員会（以下「選考委員会」とする）を設ける。
2. 選考委員会の委員は、理事会において推薦された候補者の中から5名以上～10名以内を会長が任命する。委員の任期は3年とする。
3. 選考委員会は、互選により委員長を選出する。
4. 選考委員会は、「学会賞」「研究奨励賞－論文部門－」「研究奨励賞－発表部門－」「支援実践奨励賞」について選考するものとする。なお、「貢献賞」については、理事会において選考するものとする。

（「学会賞」）

5. 「学会賞」は、正会員によって前年度(審査該当年度)に発表された学会誌「レジャー・レクリエーション研究」およびその他のレジャー・レクリエーション研究に

関する学術誌、著書、論文を対象として顕著な功績があったものとする。ただし、「レジャー・レクリエーション研究」以外の業績に関しては、本会の正会員の資格を有し、筆頭著者(ファースト・オーサー)のものに限る。

（「研究奨励賞－論文部門－」）

6. 「研究奨励賞－論文部門－」の対象は、その前年度(審査該当年度)に発行された「レジャー・レクリエーション研究」の掲載論文とする。

（「研究奨励賞－発表部門－」）

7. 「研究奨励賞－発表部門－」の対象は、その前年度(審査該当年度)の学会大会において発表された一般研究発表(口頭、ポスター)とする。

（「支援実践奨励賞」）

8. 「支援実践奨励賞」は、正会員によるレジャー・レクリエーション支援実践において 顕著に優れた功績が

認められたものを対象とする。ただし団体での活動については、その団体で中心的な役割を果たしているものに限る。

（選考手順）

9. 会長及び理事は、「学会賞」「研究奨励賞－論文部門－」「研究奨励賞－発表部門－」については各1篇を、「支援実践奨励賞」については1名を推薦することができる。

10. 本会正会員は、所属機関が異なる2名以上の連名により、「学会賞」「研究奨励賞－論文部門－」「研究奨励賞－発表部門－」については各1篇を、「支援実践奨励賞」については1名を推薦することができる。

11. 「学会賞」「研究奨励賞－論文部門－」「研究奨励賞－発表部門－」「支援実践奨励賞の推薦にあたっては、1篇あるいは1名につき1通の推薦書を添付して、毎年7月末日迄に封書にて事務局宛に提出するものとする。

12. 推薦書については、下記の項目を記入することとし、未記入項目がある場合は無効とする。

- (1) 推薦する該当賞の呼称
- (2) 推薦書の提出期日
- (3) 候補者(賞を受ける者)および所属機関
- (4) 推薦者(直筆署名、捺印のこと)および所属機関。

連名の場合は全員の分とする

- (5) 推薦者の連絡先。連名の場合は代表者とする
- (6) 「学会賞」「研究奨励賞－論文部門－」「研究奨

励賞－発表部門－」については推薦する題目名：記載方法は「『レジャー・レクリエーション研究』原稿作成要領」（平成15年2月8日制定の2-(1)-3)-⑫を参考にすること

(7) 「支援実践奨励賞」については推薦する主な支援実践内容

(8) 推薦理由：400字程度

13. 推薦する際、「学会賞」「研究奨励賞－論文部門－」「研究奨励賞－発表部門－」については現物あるいはコピーを選考委員会が指定する部数を提出するものとし、「支援実践奨励賞」については支援実践を証明する資料の現物あるいはコピーを選考委員会が指定する部数を提出するものとする。

14. 選考委員会は、推薦された各賞の候補について審議、決定し、理事会の議を経て総会に報告する。

15. 「貢献賞」については理事会において審議、決定し、総会に報告する。

（その他）

16. その他、本内規に定められていない事項に関しては、理事会において審議、決定し、総会に報告する。

附則

この規程は平成20年4月1日から施行する。

附則

この規程は平成21年7月28日から改定施行する。

役員選挙規程についてのご意見をお寄せ下さい

役員選挙規程検討委員会委員長 前野 淳一郎

9月の小田原総会(第22回)で、この半年にわたって行なった「役員選挙規程」の検討作業等について報告をした際に、会員の皆さんからの「改善・提案等」を求めたのですが、ここで改めてこの会誌をとおしてご意見を申し上げたいと思います。

5年以上学会費未納者

- 会田昭一郎、五十嵐秀司、生田由美子、石橋 宜宏、伊藤 剛、井上 博昭、今井 健、藤田 彰彦、佐藤 浩司、庄司 龍子、清水 洋己、杉浦 龍夫、鈴木 定、福島幸市、藤田 碩哉、高野 寛、宮下 正次、武田 正明、橋 直樹、岩内 秀男、田村 茂樹、藤井 二朗、中込 康彦、中村 良典、久保 賢、永前 宏実、馬場雄一、久保 久太郎、日高 正明、姫野恵子、平本 宏亮、酒井 一夫、福島 和郎、藤本いづ子、松沢雄平、松田 淳一、松本 安則、松野幸一郎、松岡 茂、高橋 一郎、三上 吉三、三島真子、味方夕貴、北正 秀英、宮川 新子、松村三郎、松井 明男、山下 千雄、藤野和幸、山内 淳一、山下 和彦、山本 勝之、山本 敏久、山本 博、山本 博、山本 博、菅見 勝博、渡部 平生、渡辺 博之、阪本 昭信

第26回 学会大会予告

期日：平成8年11月23日(土)、24(日)

会場：奈良女子大学

〒630

奈良市北魚屋西町

● 会員の動向

- 入会者 新 員
西村千代 東北学院大学(平成7.1.1.東証)
丸山 正 東亜YMCA専門学校
岸 正 福岡県伊賀市役所
藤井 千幸 共済通商社
杉本 晴夫 太田社
山口康雄子 東海大学大学院
藤野 康彦 山口大学大学院
片桐 健一 福岡県立大学大学院
藤野 秀雄 立教大学
長野 孝男 立教大学
藤井 隆江 立教大学(平成7.9.22東証)
岡田 宏史 山口大学大学院
故宮佐和子 余額閣閣研究所
岡 延高 福岡県三ツツリョウシヨウ協会
藤田 久 余額閣閣研究所
藤 盛雄 セリオ野外教育研究所
藤茂寿夫 東京農業大学
金子 忠一 東京農工大学
田中 幸 立教大学(平成7.10.18東証)
土屋 貴 立教大学(社会学部)
佐野典三郎 神奈川県立ふじのくに村
岡 智子 筑波技術短期大学
知念 美夫 東海大学
知念 勇夫 東海大学

● 編集後記

12月10日(日)に総会が開催されます。そのご案内を兼ねて予定を上げての発行です。総会には是非ご出席下さい。

<第7回>
日時 1995年10月16日(金) 18:30~21:30
場所 国立オリンピック記念青少年総合センター
出席者 浅田、黒田、高橋、前野、鈴木(秀)、石井、坂下、寺島、芳賀、松浦、下村、油井 理事……西田
幹事……金子、晴雄、荒井

報告事項
1. 第25回学生会大会報告
鈴木実雄(副総会)と他大会実行委員長から報告が行われた。また、坂下大会実行委員(金計担当)から会計中間報告が行われた。
2. 事務局移転
来年度から關東学院大学に事務局を置くことを大学長氏に要請した結果、承認されたことが報告された。
籌備事項
1. 役員候補者委員選出について
次期の役員候補者を選出する「役員候補者選考委員会」設置を審議し、7名の委員候補を決めた。この委員は理事会の議を経て、総会で承認される必要がある。
2. 専門分科会設置に関する規則等、金則と整合をはかる必要から17案を18案に読み替えることを総会ではおこなった。
3. 事務局移転について
来年度から關東学院大学に事務局を置くことを決めた。
4. 会員の会について
6名の入会を承認した。
5. その他
学会ニュースに次回学会大会開催地、国際会議(WLRA)の記事を載せることとした。

WORLD LEISURE AND RECREATION ASSOCIATION のお知らせ
「WLRA 4TH WORLD CONGRESS」FREE TIME AND QUALITY OF LIFE FOR THE 21st CENTURY CARDIFF, WALES, UK, 15TH-19TH JULY 1996
国際誌の締切りは1996年9月末日です
資料請求先 〒196 国立市富士見台4-30-1 東京女子体育大学 日本レジャー・レクリエーション学会事務局

システム導入を調査、検討中であり、総会に報告したむの説明があった。
5) 広報委員会 1994年度は学会ニュース55・56号、本年は総会に57号を発行し、引き続き年度内に58号を発行する予定である。
6) 役員候補者選考委員会 役員候補(案)の説明、報告を受け了承された。候補者の検討過程で、木下茂樹、高橋和雄両氏を委員に推せんするのがふさわしいことになったむ報告があり、審議を待たずに承認された。
2. 1994年度事務報告 事務報告書が了承された。
3. 1994年度決算報告 決算報告書が了承された。学会費納入率は56%である。学会費未納者の数は第4回常任理事会で決定した。5年以上未納者を一覧を学会ニュースに掲載し、同時に総会で報告、該当者は退会の確認をとることを再度確認した。
4. 1996年度学会大会 来年度学会大会は奈良女子大学で開催することが報告された。
5. 「学会の歩み」の配布 「日本レジャー・レクリエーション学会を含む」に掲載配布を行う。この他は1冊2000円で有償配布とする。
6. 事務局移転
東京女子体育大学に置かれている事務局は、1995年末をもって移転した。
籌備事項
1. 1995年度審計計画(案)について
1995年度審計計画(案)を審議し作成した。
2. 1995年度予算(案)について
1995年度会計収支予算(案)を審議し作成した。
3. 会員の会について
8名の入会を承認した。

<第8回>
日時 1995年9月4日(日) 15:35~17:25
場所 關東学院大学法政学館 小田原総会
出席者 浅田、前野、黒田、野田、高橋、鈴木(秀)、石井、坂下、下村、寺島、芳賀、松浦、藤田、宮下、藤野、油井
理事……西田
幹事……金子、晴雄、荒井

籌備事項
1. 役員候補者(案)について
総会の承認を受け役員候補者(案)を審議した。その結果、理事会で役員候補者(案)を決定した経過を説明し、同案を再度総会に諮問することを決めた。案が否決された場合、新報に役員候補者選考委員会を設置して、再考しなおす方針を決めた。

1996年5月
学会ニュース
日本レジャー・レクリエーション学会
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)
発行人 鈴木 秀雄 編集 広報委員会
事務局 〒250 神奈川県小田原市武蔵1162-2 關東学院大学法政部(小田原総会)
発行所
電話 FAX 0465-32-2617
郵便振替 00150-3-60253

学会会長に就任して
前野 淳一郎
編集委員・コンプライアングラウ長
このたびご推挙を頂きまして、前会長浅田隆夫先生のあとを受け、任される日本レジャー・レクリエーション学会の会長を引き受けさせていただきます。何分にも力不足ですが精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
私は、昭和40年に日本レクリエーション研究会が発足した当初より、専ら「レクリエーション空間・施設・環境」の分野を研究する立場から会員として参加し、昭和40年に日本レクリエーション学会が結成されたからは、理事、副会長として働きながらその運営に関わってまいりました。
当時アメリカ合衆国で、確固たる理念の下に運営されていた「Parks & Recreation」運動の時代に、何回かの日本取材にも関わって行くに違いなく、多岐にわたる学びました。
その後、本学会の学問研究の対象はレジャー・レクリエーションへと拡大することになりましたが、空間・施設・環境の研究分野でも、アメリカなどであるとか景観問題、自然や歴史環境の保全問題など市民参加によるまちづくり、そしてエコロジーやリサイクル・リノベーションの関わりなど、新しい

- 1. 学会会長に就任して(前野淳一郎)
2. 理事長に再び推されて(鈴木秀雄)
3. 新役員・幹事の名簿
4. 新事務局の案内
5. 総会・理事会・常任理事会の報告
6. 第26回学会大会開催案内と研究発表の申込み(6月20日締切)
7. 会員の動静―新入会員と退会者
8. 新専門分科会の設置
9. 「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み―1964~1995―」の購入を希望する方へ
10. 編集委員会・事務局からお知らせ

理事長に再び推されて

鈴木秀雄 (關東学院大学法政学教授)
去る平成8年3月30日に關東学院大学法政部において開催された理事会は役員改選期の会合であり、その際上、はからず理事長に再度推され、新たな二年間の理事長としての責任に身の引き結ぶ思いである。前任期の理事長としての務めでは、今までの学会の乱れを整理することなく運営することに精一杯努力していた中で「あつ」という間に過ぎ去ってしまった感がある。
しかし思い返せば、役員改選期を乗り越えて理事長の任務を履きたことには驚きである。二学期よりあり得ないくらい成功を上げるべく、学会運営に力を注いでまいり、事務局が置かれていた東京女子体育大学の鈴木一代学長をはじめ、事務局を支援担当された松浦三信子先生、大藏課主任の森田先生、そして言うまでもなく多くの役員や会員の皆さんのご協力により、理事長としての役割を果たせたことがとてもはげしい思いである。
これからの二年間は理事長の所屬先に事務局が設置されるので働きがきくなるようにしたいと願っている。また、その力を十二分に発揮するためには、それぞれの役割(任務)である、理事長、事務局次長、幹事長を担当される。東口正治理事長短期大学教授、西田隆夫短期大学教授、沼津雄次短期大学助教授の三氏との連携が不可欠であり、その視点からも賛同的な事務局設置の実現のため非常勤助教授として關東学院大学法政部に来ていただく、人柄も充実も実現している。
新役員皆さんの、会員の皆さんからの変わらぬご支援・ご協力をいただき、奮力に頑張りたいと考えています。学会の発展に尽くし、ご支援をお願いいたします。

- 日本レジャー・レクリエーション学会役員名簿(1996年度-1997年度)
会長 前野 淳一郎(東京女子体育大学)
副会長 鈴木 秀雄(關東学院大学)
総務 山田 幸(立教女子大学)
総務 藤井 正剛(千葉大学)
理事 藤野 秀雄(關東学院大学)
理事 大藏 三子(東京女子体育大学)
小田切 一(奈良女子大学)
藤田 隆江(關西学院大学)
藤田 文明(新潟大学)
中島 隆雄(名古屋大学)
芳賀 隆雄(東京農工大学)
藤野 秀雄(關東学院大学)
松野 秀夫(福岡大学)
宮下 桂治(早稲田大学)
師 儀 誠(早稲田大学)
師 儀 文男(上智大学)
山口 勝雄(神戸大学)
藤田 文雄(福岡県立短期大学)
幹事 岡田 宏史(關東学院大学)
藤田 秀雄(立教大学)

新事務局の案内

1996年度～1997年度の事務局が東京女子体育大学から「関東学院大学」に移転しました。

事務局住所：〒250 神奈川県小田原市萩原1162-2
関東学院大学法学部(小田原校地)体育館内
●電話・FAX: 0465-32-2617
●郵便振替: 00150-3-602353
●事務局開設日: 月・火・水 10:00am～3:00pm

1995年度 日本レジャー・レクリエーション学会 臨時総会「議事録」

開催日/1995年12月10日(日) 13:00～
開催所/国立オリンピック記念青少年総合センター

- 出席会長挨拶
●議長及び議事録審査人の選出
●議長……………前事務一課副会長
●議事録審査人……………高橋 伸也(国際経営大学)
●議事録をすすめる前に、山崎会員(余暇国際研究所)よりその重要性が強調して提案された。
●この議案は必要である。12名が「賛成」が6名となり、この動議は採択された。したがって、第2号議案から審議がすすめるため、第2号議案 専門分科会設置に関する規定の一部改訂(本則からの読みかえ)について

開規定「1. 会則第17条の規定により…」を第18条に改訂することが承認された。
第3号議案 理事会の運営に関する規定の一部改訂(本則からの読みかえ)について
開規定「1. 会則第16条の規定により…」を第17条に改訂することが承認された。

1995年度 日本レジャー・レクリエーション学会(第8回) 常任理事会<議事録>

開催日/1995年12月16日(日) 16:00～
開催所/国立オリンピック記念青少年センター
出席者/浅田、高野、秋吉、高橋、鈴木(秀)、石井、坂下、芳賀、松浦、松田、宮下、師岡、藤本、越智、塚本、西田、津野、西井

- 浅田会長挨拶
●常任理事会(第7回)及び臨時総会の承認・承認
第1号議案 役員候補者選考委員会委員の選任について
配布資料「役員候補者選考委員会委員(案)」に基づき、今回の委員会の構成メンバー及び委員会のあり方について説明があり、承認された。
第2号議案 理事会(第3回)開催について
本会議後、同席会として理事会(第3回)が開催されること承認・承認された。
第3号議案 臨時総会(第1次)の開催について
臨時総会(第1次)の運営・実行について下記の事項が承認・承認された。
●臨時総会(第1次)の通知は579名に発送し、出席10、委任166という結果を得ている。
●責任者は、会則では、総会の議決に必要とされているため、今回は出席者の過半数で議決を行うこと承認された。
●総会の召集は、会長が行うということが承認された。
その他
●新入会員の承認(所屬)
久米秀作 帝京平成大学

1995年度 日本レジャー・レクリエーション学会(第9回)常任理事会<議事録>

開催日/1996年3月30日(土) 11:00-12:00
開催所/関東学院大学法学部小田原校地

出席者/浅田、高野、秋吉、高橋、鈴木(秀)、石井、坂下、芳賀、松浦、松田、宮下、師岡、藤本、越智、塚本、西田、津野、西井

●浅田会長挨拶
●常任理事会(第8回)及び臨時総会(第3次)の議事録の承認・承認
●新役員会の学術会議登録の書類提出(4月末日まで)についての報告

第1号議案 会計監査報告
●第25回学大会決算報告
●配布資料「日本レジャー・レクリエーション学会第25回記念大会決算報告」に基づき、同大会の会計監査報告が行われ、資料訂正後、理事会にて改めて報告すること承認された。

●第2号議案 新理事会への移行について
次のイ～エの議題を、理事会及び新理事会においてはかること承認された。
イ. No.59 学生会ニュースについて
ロ. 第26回学大会について
ハ. 事務局機能について
ニ. 学生会の運営について

●新入会員の承認(所屬)
東京女子体育大学
八王子レクリエーション学院
学芸院女子高等科(非常勤)
筑波大学
帝京平成大学

●新事務局(関東学院大学法学部)について
所在地: 〒250 小田原市萩原1162-2
関東学院大学法学部小田原校地体育館内
TEL・FAX: 0465(32)3217
開設日時: 月・火・水 10:00AM～3:00PM

1996年度 日本レジャー・レクリエーション学会 理事会<議事録>

開催日/1996年3月30日(土) 14:00-15:00
開催所/関東学院大学法学部小田原校地

出席者/高野、秋吉、高橋、田中、鈴木(秀)、坂下、芳賀、松浦、松田、宮下、師岡、藤本、越智、塚本、西田、津野、西井

●1996-1997年度役員会報告
配布資料「1996-1997年度役員」に基づき、新役員が報告された。

●理事会長挨拶
●理事会長として、現状にはないが、現任理事を指導長、副指導長を事務局長とす。さらに、芳賀、師岡、宮下理事には理事長候補として協力の要請があり承認された。

●新役員挨拶
●新役員学術会議登録のための書類配布
●次回常任理事会について
1996年4月22日(月)の予定

1996年度 日本レジャー・レクリエーション学会(第1回)理事会<議事録>

開催日/1996年4月22日(月) 18:30-20:30
開催所/国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者/高野、田中、高橋、鈴木(秀)、石井、大森、坂下、芳賀、松浦、松田、宮下、師岡、藤本、越智、塚本、西田、津野、西井

1. 議決事項の承認と決定
2. 年報7年度決算報告
資料「1995年度決算報告書」に基づき、前事務局長より平成7年度の決算報告があり、さらに鈴木理事によるその監査報告がなされ、承認された。
3. 事務局移転に伴う処理事項(会則第3条の換い)
事務局移転に伴う会則第3条の改正承認された。
4. 役員交代に伴う処理事項
入会案内に新役員の名前を載せること承認された。

●事務局連絡(会議通知)の方法について
FAXによる会議通知の方法を検討したが、かえって弊害となる場合があることとなり、主に郵便によって通知する旨報告があった。

出席事項
1. 役員会の役割・事務分掌について
「資料1」により役員会の役割及び事務分掌について提案があり1)常任理事、2)専門委員会の正副委員長、3)学大会推薦、6)幹事は原案通り承認された。

り承認された。また、4)議事録担当及び5)理事候補は、協力するが公的な位置づけではないこと承認された。

2. 学生会ニュースNO.59号について
「資料2」に基づき、学生会ニュースNO.59号の内容を下記の1-9の項目にすることで承認された。
なお、本年度の学大会は、前年度に引き続き、研究発表並びに実践報告の場をもちうること承認された。

- (学生会ニュースNO.59号の内容)
1. 挨拶(会長・理事長)
2. 新役員・幹事名簿
3. 事務局案内
4. 総会・理事会・常任理事会報告
5. 大会案内
6. 大会後援者名簿
7. 新入会員
8. 会則・議定案
(第3条の新事務局、議定案の改訂)
9. あゆみ(原稿 送料別、1冊2000円)
3. 第26回学大会発表申込に関する日程について
上記大会の発表申込締切日を1996年6月20日、発表原稿提出締切日を7月15日とする承認された。

IVその他
1. 学会奨励金の扱いについて
「資料3」に基づき、理事会として、下記の3案を審議し、会長より委嘱することで承認された。

- 1. 浅田副会長 (五十音順)
江崎副会長
木下後援会員
2. 新事務局(学芸)への会長挨拶
新事務局長の設置された関東学院大学へ前野会長が挨拶した内容として承認された。
3. 常任理事会(第1回)の日程について
日程調整として進退することで承認された。
4. 新入会員の承認(新入会員)
所屬
穴戸和行 筑波大学大学院
阿部一夫 筑波大学後援者

第26回学大会大会開催案内

開催期日: 1996年11月23日(土)・24日(日)
場所: 奈良女子大学 〒630 奈良市北魚屋西町 ☎0742-20-3344

●研究発表の申込み●

- 1. 発表申込みの方法
ハガキに演題、所属、氏名(共同研究または個人研究の区別)、住所、電話番号を記入の上、6月20日までに、本事務局にお申込みください。所定の原稿用紙を送付します。発表原稿(A4判2枚または4枚)の締切は7月31日(郵着)です。共同研究者も学会員に限られます。非学会員の場合は至急入会手続きをおとりください。

〒250 神奈川県小田原市萩原1162-2
関東学院大学法学部体育館内
日本レジャー・レクリエーション学会宛
TEL&FAX 0465-32-2617

会員の動静

●新入会員(所屬)
高橋 繁美 東京女子体育大学
坂下 徳雄 八王子レクリエーション学院
阿部 和行 学芸院女子高等科(非常勤)
田中 一夫 埼玉農業薬科
穴戸 和行 筑波大学
久米 秀作 帝京平成大学

●平成7年度退会者
外川直哉 志村秀雄 森幹雄 角田真一郎 山本久武 川崎水 川崎純子 近藤美香 木村清司 藤川直夫 森田昭 手下列野(死去) 三川清 門脇孝男 堀村久治

新専門分科会の設置

セラピューティックレクリエーション専門分科会設置された。興味・関心のある会員は本事務局へ御連絡ください。

編集委員会からお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」の学術論文を募集しています。投稿は、本事務局(関東学院大学)へお申込みください。多数の投稿を期待しています。

事務局からのお知らせ

「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み-1984-1995-」の購入を希望する方へ
角形3枚(縦26mm×横277mm)B5判の返信用封筒に380円分の切手をはり、宛名を自書し「歩み」1冊分2000円(必ず80円切手で25枚)を同封しお申込みください。

①年会費(¥5,000)の納入は、お手数ですが、郵便振替(00150-3-602353)でお願ひ致します。
②、3年間年会費未納の場合は、規約第3条に基づき、会員サービスは停止させていただきます。
③W. L. R. A. (世界レジャー・レクリエーション協会)の第4回世界大会は、イギリス(ウェルズ州)のカーティフ市で7月15日-19日まで開催されます。
詳細については、学会本事務局にお問い合わせください。

編集後記

「10項目」のニュースは、新役員と新事務局、新広報委員会による最初の学会ニュースです。学会の運営状況より詳しく「学会ニュース」でお知らせできればと思っています。さらに、会員の皆様とのコミュニケーションをはかるために御協力の程よりし御願ひ致します。

平成8年9月

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)
発行人 鈴木 秀雄 編集 広瀬伸外委員会
事務局 〒250 神奈川県小田原市京浜1162-2
関東学院大学法学部 (小田原校地)
体育館内

SEPTEMBER 1996
No.60

電話・FAX 0465-32-2617
郵便振替 00150-3-692353

第26回学会大会の開催によせて 多くの会員の皆さんのご参加を期待します

日本レジャー・レクリエーション学会
会長 前野淳一郎

この度、千年の古都奈良で、わが国における女子の最高教育機関として由緒ある奈良女子大学のキャンパスをお借りして、第26回学会大会を開催致す運びとなりました。

多方面の分野にまたがる会員から、数多くの興味深い研究発表が行われるほか、高齢社会の到来に向けたレジャー・レクリエーション研究と実践の方向性を探るパネルディスカッションなど、多彩な行事が繰り広げられます。

年に一回、会員の皆さんがじかに触れ合い、意見交換や交流をすることのできる大事な機会です。是非とも沢山の皆様のご参加が得られますよう祈念をし、お願いを申し上げます。

JSLRS ニュース10

- 1. 第26回大会によせて……………P.1
(前野淳一郎)
- 2. 第26回大会にあたって……………P.2
(鈴木秀雄)
- 3. 大会開催のご挨拶……………P.2
(小田切毅一)
- 4. 学会大会の案内……………P.3
- 5. 学会大会のプログラム……………P.4
- 6. 学会大会の発表演題……………P.5
- 7. 第26回大会の組織・実行委員会 ……P.6
- 8. 常任理事会の報告……………P.7
- 9. 会員の動静……………P.12
- 10. 委員会・事務局からのお知らせ……………P.12

第26回学会大会 (奈良女子大学 1996年11月23日・24日)

第28回学会大会の開催にあたって

日本レジャー・レクリエーション学会
理事長 鈴木 秀雄

歴史と伝統に裏打ちされた文化が薫り、自然豊か
な緑と公園の地において、奈良女子大学の多大な
協力をいただき第26回学会大会を開催すること
となりました。

前野淳一郎新会長のもと初めての学会大会であり、
大会テーマを昨年の「新しい時代の創造的発展」か
らさらに「高齢社会におけるレジャー・レクリ
エーション研究と教育への期待」とし、特別講演
では、本大会実行委員長が開催地でもある奈良女
子大学の小田切毅一教授より「レジャー・レクリ
エーションの史的変遷」についてのご講演をいた
だきます。またテーマに沿ったパネルディスカ
ッションを特別講演に引き続き開催いたします。
パネルディスカッションの内容は、まず主題に
対する問題提起を受け、次にそれぞれのパネ
リストによる「セラピューティックレクリエ
ーションに寄せる期待」、「介護福祉とレ
ジャー・レクリエーション」そして「わが
国におけるレジャー・レクリエーション専門
教育

成の課題」についての発題があります。学会とし
ては昨年第25回記念大会の開催に伴い、記念事業
として学会自体の史的変遷を概観し学会活動の全体
をまとめる意味から、32年間の足跡を辿る「日
本レジャー・レクリエーション学会の歩み-1964
-1995-」を浅田隆夫前会長のご指導をいただき、
会員の皆さんのご協力を得て発行いたしました
が、その意味からも今回の特別講演及びパネル
ディスカッションは時代の要請に応えることので
きる内容であると共に学会にとってもタイムリー
なテーマによる大会の開催となりました。勿論、
研究発表は多分野にわたりそれぞれ23の演題に
ついては会員からの貴重な研究成果が発表され
ます。

さらなる研究・教育の発展を情報交換の場とし
て、学会大会を活性化していきたいと考えており
ますので、会員皆さんの多数のご参加をお願い
申し上げます。

第26回学会大会のご挨拶

奈良女子大学
小田切 毅一

この秋の11月23-24日に開催されます第26回日本
レジャー・レクリエーション学会大会を、奈良女
子大学でお引き受けることになりました。大役を
仰せつかり、皆様のご期待にこたえたいと思
うばかりです。また、日が進むにつれ、いさ
さか緊張しております。全国各地から会
員の皆様をお迎えし、学会大会を成功
に終わらせるように、微力ながら最善を
尽くす所存でございます。

奈良は申すまでもなく歴史と伝統の地
であります。また緑と公園の地でもあります。
これを機に晩秋の奈良に是非お出かけ
下さいませ。レジャー・レクリエ
ーションを研究する立場でレジャー・レ
クリエーションを享受する立場とを
同時に味わったことは、23日
が「勤労感謝の日」であること
にちなみ、意義あることと存
じます。幸い大阪や京都とは
交通の便も良く、奈良からの
通勤・通学圏にもなっており
ます。

たいそうそこは何もありませんが、
それでも奈良女子大学ならではの、古
きや家族的規模を取り崩
れ、僅かばかりの学生を
迎へようとするか、た
とえば参加者が全員で
数千人の機会を設ける
ことなども考えつ
つあります。

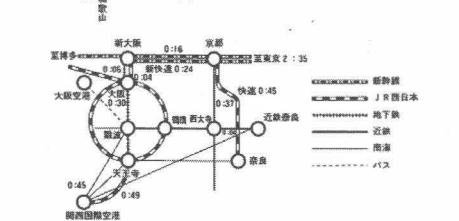
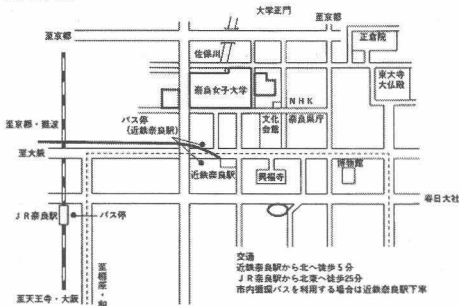
まずは奈良にて皆様にお会い
できますよう、お
手紙を申し上げます。

(奈良女子大学 1996年11月23日・24日) 第26回学会大会

第26回学会大会のご案内

■日 程 平成8年11月23日(出)～11月24日(出)
■会 場 奈良女子大学

案内図



理 事 会 平成8年11月23日(出)11:00～12:00 会場(文学部会議室)
懇 親 会 平成8年11月23日(出)18:00～20:00 会場(5,000円) 会場(学生会館一生活協堂)
総 会 平成8年11月24日(出)13:00～14:30 会場(記念館)

第26回学会大会 (奈良女子大学 1996年11月23日・24日)

大会プログラム

テーマ: 「高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育への期待」

■日 程 第1日 11月23日(出)
□(理事会) 11:00～12:00
□受 付 13:00～
□特別講演 14:00～14:40 (40分)
「レジャー・レクリエーションの史的変遷」
小田切毅一 奈良女子大学教授

□パネル
ディスカッション 14:50～17:30 (160分)
「高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育への期待」
問題提起(30分) 石井 九 立教大学教授
パネリスト(各20分)

- (1) 「セラピューティックレクリエーションに寄せる期待」
大 塚 孝 雄 東海大学教授
- (2) 「介護福祉とレジャー・レクリエーション」
鈴 木 秀 雄 関東学院大学教授
- (3) 「わが国におけるレジャー・レクリエーション専門教育の課題」
吉 田 圭 一 武庫川女子大学教授

※「質疑」(30分)
司 会 下 村 彰 男 東京大学大学院助教

□懇親会 18:00～20:00

■日 程 第2日 11月24日(出)
□受 付 9:00～
□研究発表 9:30～11:50
□総 会 13:00～14:30
□研究発表 14:30～16:10
●大会参加費 4,000円 ●懇親会費 5,000円

大会実行委員会から

※大会会場周辺での昼食については、食堂等に限りがありますので、11月24日(日)のお弁当(1,000円)の事前注文を受け付けます。返信書で申込の上、代金を大会参加費、懇親会費などと共に下記宛て11月11日(月)までにお振り込みください。

振込先: 横浜銀行 小田原支店 (店番: 721) 口座番号: 1335942
日本レジャー・レクリエーション学会事務局 (代表: 西田俊夫)

第26回学会大会 (奈良女子大学 1996年11月23日・24日)

第26回学会大会研究発表・実践報告演題

■ 研究発表 A会場

- 座 長: 石井 充 9:30~10:30
A-01 21世紀を展望したレジャー・レクリエーション運動の課題と視点-余暇能力(Lisurability)の開発と余暇化(Lisurization)の実現を中心に-
○鈴木秀雄 (関西学院大学)

- A-09 学外コース(泉島)の生涯スポーツに関する授業の取り組みについて
○上野直史 (いわか明星大学)
鈴木秀雄 (関西学院大学)
五十嵐幸一 (いわか明星大学)

■ 研究発表 B会場 (★印は実践報告)

- 座 長: 松浦三代子 9:30~10:30
B-01 冬季キャンプ経験が参加学生の感性に及ぼす効果
○針ヶ谷雅子 (明治医科大学)

第26回学会大会 (奈良女子大学 1996年11月23日・24日)

- 座 長: 沼澤勇雄 10:30~11:30
B-04 WLRAとその世界会議の動向について(★)
○山崎洋子 (余暇問題研究所)
川崎妙子 (東海大学)
高橋 伸 (国際基督教大学)
栗原秋秋 (余暇問題研究所)

- B-08 震災ボランティアの社会的研究(1)
-性別による分析-
○高見 彰 (関西学院短期大学)
山口幸雄 (神戸大学)
土肥 隆 (神戸薬科大学)
戸川俊秀 (神戸YMCA)

■ 第26回学会大会組織委員会

Table with columns for roles (President, Vice President, Secretary, Treasurer, etc.) and names of committee members.

■ 日本レジャー・レクリエーション学会第26回大会実行委員会

Table with columns for roles (President, Vice President, Secretary, Treasurer, etc.) and names of committee members.

1996年度 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第1回)議事録

日時: 1996年5月20日(月) 18:30~19:45
場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター
6 F 602号室
出席: 高橋、田中、鈴木(男)、荒井、石井、坂口、堀崎、下村、西田、松浦、幹事-沼澤

×25枚)の切手、角型3号B5判返信封筒に郵送料¥380の切手を貼って事務局へ申し込む。
III. 議事事項
1. 専門委員会の役割・運営(年度計画)について
年度計画などの各専門委員会の検討事項は委員会を通じて審議するものとし、理事会において決定していくことが承認された。

I. 確認事項
1996年度、日本レジャー・レクリエーション学会常任理事会(第7回)議事録の確認
II. 報告事項
1. 入会案内の完成
日本レジャー・レクリエーション学会の新しい入会案内が完成した。

の現状について
具体的に進めていく方面で財務委員会に委ね、その後事務局で対応することになった。
6. 大会テーマ及びシンポジウムについて
研究企画委員会と検討し常任理事会に提出することになった。

会長挨拶

1. 確認事項

1996年度 日本レジャー・レクリエーション学会常任理事会(第2回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1. 1996年度予算(案)の費目費率について
2. 第26回学大会開催費(20万円)の奈良女子大への送金状況について
3. 金費納入状況について(7月22日現在)
4. 新入会員数について(7月22日現在)
5. 各委員会報告(総務、研究企画、編集、広報)
6. 研究誌(バックナンバー)の整理状況
7. 常任理事の全額欠の連絡と議事録送付について

III. 審議事項

- 1. 第26回学大会実行委員会組織の構成について
2. 第26回学大会テーマ及びシンポジウムについて
3. 学会ニュースNo.60号(日程、テーマ、プログラム、議題等の案内)の発行計画について
4. 金費の納入方法(銀行引き落とし等)について
5. 広報料及び賛助会員の募集について
6. 役員選挙準備検討委員会(8月中旬)の開催

8. 大会号の編集について
9. バックナンバーの実費頒布の値段(記念誌)
10. 新入会員の承認について

IV. その他

- 1. 次回常任理事会
2. 第26回議事録の新入会員に計名者氏子氏を通知
3. 第3回議事録の新入会員数を10名から9名へ修正
4. 新入会員の承認について

1996年度

日本レジャー・レクリエーション学会常任理事会(第4回)議事録

日時:1996年8月26日(月) 13:30-15:30
場所:国立オリンピック記念青少年総合センター研修館8F 803号室
出席者:前野、田中(幹)、鈴木(秀)、坂口、下村、西田、松浦、松田
幹事:杉本、田中(幹)、神谷

I. 確認事項

- 1996年度日本レジャー・レクリエーション学会常任理事会(第3回)議事録の確認
II. 報告事項
1. 常任理事会(第2回・第3回)議事録の修正について
2. 第2回議事録の新入会員に計名者氏子氏を通知
3. 第3回議事録の新入会員数を10名から9名へ修正
4. 新入会員の承認について

第2回の理事会で承認された上記の件について、週日委帳状を送付した。

- 3. W.L.R.A. 1996年度メンバーシップ費(\$75)の送金について
4. 各委員会報告(総務、研究企画、編集、広報)
5. 研究誌(バックナンバー)の整理完了について
6. 発表原稿の既着状況について

III. 審議事項

- 1. 第26回学大会実行委員会組織の構成について
2. 第26回学大会テーマ及びシンポジウムについて
3. 学会ニュースNo.60号の掲載内容と発行スケジュールに関して

て審議が行われた。掲載内容は第26回学大会を中心とした11項目であること。そして9月2日までに原稿を締切り、9月30日頃に郵送予定である。また、雑誌にあり、大会、懇親会の欠点を指摘する審議を行う旨の報告が行われた。この件について、編集委員会より学芸誌編集スケジュール及び審査の流れに関する記事を書き加えるようとの提案が行われ、全て承認された。

6. 年度金費納入期限の決定について
7. 役員選挙準備検討委員会に検討依頼をする

1996年度

日本レジャー・レクリエーション学会常任理事会(第5回)議事録

日時:1996年9月17日(水) 18:30-20:30
場所:国立オリンピック記念青少年総合センター研修館5F 502号室
出席者:前野、田中(幹)、荒井、鈴木(秀)、坂口、神谷、西澤、神谷、田中(幹)

会長挨拶

1. 確認事項

1996年度日本レジャー・レクリエーション学会常任理事会(第4回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1. 第26回学大会実行委員会委員及び幹事の追加について
2. 奈良女子大学 前 幸一氏(幹事として)
2) 近畿支部 山田孝雄氏、原田孝彦氏(委員として)
上記3名追加の確認
2. 学名入りのA4サイズ原稿送付可能判の発行
3. 各委員会報告(総務、研究企画、編集、広報)
4. 役員選挙準備検討委員会(8月中旬)の開催

上記3・4の事項に対して別紙を添えて審議が行われた。発表文章(23稿)は既に印刷段階に入っていることが確認された。

5. 第26回学大会時の日程(理事会の大会時間)と常任理事会の審議日程について
6. 第26回学大会開催費(20万円)の奈良女子大への送金状況について
7. 金費の納入状況について(7月22日現在)
8. 新入会員の承認について

26. 第26回学大会開催費(奈良女子大学)の取組
27. 役員選挙準備検討委員会(8月中旬)の開催
28. 役員選挙準備検討委員会(8月中旬)の開催
29. 役員選挙準備検討委員会(8月中旬)の開催

III. 審議事項

- 1. 第26回学大会組織委員会の構成について
2. 第26回学大会開催費(20万円)の奈良女子大への送金状況について
3. 学会ニュースNo.60号の発行計画について

7. 広報料及び賛助会員の募集要項及び申込書の取組について
8. 役員選挙準備検討委員会(8月中旬)の開催
9. 役員選挙準備検討委員会(8月中旬)の開催

- 1. 次回常任理事会の日程について
2. 第26回議事録の新入会員に計名者氏子氏を通知
3. 第3回議事録の新入会員数を10名から9名へ修正
4. 新入会員の承認について

会員の動静

●新入会員(所属)

Table with 2 columns: Name and Affiliation. Includes members like 倉品 康夫 (日本体育大学), 池田 清 (日本体育大学), etc.

平成6年度退会者(9月現在)

Table with 2 columns: Name and Affiliation. Includes members like 佐藤 隆 (H.M.P.コンサクターズ), 小林 善作 (H.M.P.コンサクターズ), etc.

●編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」への研究論文投稿について
会員の皆様、本年誌「レジャー・レクリエーション研究」への積極的な投稿をお願いするために、編集の年間スケジュールをお知らせすることにいたしました。

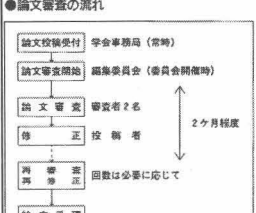
●学芸誌編集スケジュール

Table with 2 columns: Month and Issue/Committee. Shows publication schedule from January to December.

●投稿論文送付先

T260 神戸山手小田原駅西112-2
国際学術大学法学部・体育館内
日本レジャー・レクリエーション学会事務局

●論文審査の流れ



事務局からのお知らせ

- バックナンバー「あゆみ(を含む)」の実費頒布の値段
1. 「あゆみ」32号は、1冊、¥2,000(送料別¥390)
※既刊済み
2. 「あゆみ」を除く
その他の研究誌(バックナンバー)は、1冊、¥500(送料別)
10冊以上 20%引き(送料別)
20冊以上 30%引き(送料別)

平成9年1月

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)
発行人 鈴木 秀雄 編集 広瀬渉伸委員
事務局 〒250 神奈川県小田原市宮道1162-2
関東学院大学法学部 (小田原校地)
体育館内

JANUARY 1997
No.61

新しい年を迎えて

日本レジャー・レクリエーション学会
会長 前野 淳一郎

会員の皆様には1997年の新年をご健勝にてお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年11月、良い学期と良い天候に恵まれ、素晴らしい環境・施設のおかげで多くの会員の参加により第26回大会を開催することが出来ましたことを、たいへん有難く思っております。
この大会では、特別講演やパネルディスカッションなど研究発表を通じ、「レジャー・レクリエーションの本質」をめぐって活発な意見交換が行われました。特に、武蔵野女子大学教授吉田幸一先生の、いまの日本に相応しい真に価値のある「レジャー・レクリエーション」の確立が急務であり、学会がそのガイドラインを示していく必要があるのではないかと、という発言が強く印象に残りました。
こうしたことを真摯に受けとめ、学会としてもなにかしらのアクションを起こしていかなければならぬと肝に命じておる次第であります。会員各位による今後の討議への参加とご支援を心よりお願い致します。
また、先般の総会では会則の改正と役員選出細則が承認され、より開かれた柔軟な学会運営への第一歩を踏み出すこととなりました。これを機会に心機一転、研究活動の活性化、新たな会員・仲間を獲得、他の専門分野との交流など必死の努力を怠りません。引き続き、より一層のご協力をお願い申し上げます。

JSLRS ニュースB

- 1. 新しい年を迎えて (前野淳一郎)……………P.1
- 2. 奈良女子大学での第26回学会大会を開催して (鈴木秀雄)……………P.2
- 3. 第26回レジャー・レクリエーション学会大会を終えて (小田切敬一)……………P.3
- 4. 総会の報告—役員選出細則など……………P.4
- 5. 理事会・常任理事会の報告……………P.7
- 6. セラピーティックレクリエーション 専門分科報告—開催案内……………P.10
- 7. 編集委員会・事務局からのお知らせ……………P.11
- 8. 会員の動静……………P.12

奈良女子大学での第26回学会大会を開催して

理事長 鈴木 秀雄
(関東学院大学法学部教授)

キャンパスの紅葉を鮮やかに引き立てる好天にも恵まれ、伝統ある奈良女子大学において第26回学会大会(平成8年11月22日～23日)が開催されました。戦後50年が経過した今日のレジャー・レクリエーションの教育と研究は、当初の目的と今日の社会ニーズとの間に少なからずギャップを生じているのではないかと懸念するべく、大会テーマを「高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育への期待」とした。第25回記念大会の時同時に学会32年の歩み—1965—1995—を学会誌第32号として既刊しており、その延長線上にある課題として、特別講演を小田切敬一氏に「レジャー・レクリエーションの史的変遷」と題しお願いした。パネル・ディスカッションでは、下村彰男氏(東京大学大学院助教授)に司会をお願いし、「開拓提議」(石井立教大学教授)をいただくと共に同題(演者)として「セラピーティックレクリエーション」に寄る期待(大塚孝雄東海大学教授、「介護福祉とレジャー・レクリエーション」(筆者「鈴木秀雄」)そして「わが国におけるレジャー・レクリエーション専門学会の課題」(吉田幸一武蔵野女子大学教授)を掲げ発題願った。大会テーマに沿ってレジャー・レクリエーションの「本質論」と「現実論」が語られ、それら二者の間に存在するギャップを「あるべき論」として提供した。理解すべき方向性や解決への方向性はそれぞれの研究者が、「特別講演」、「開拓提議」、「演題」を通して柔軟に思い描いたことと確信する。勿論、課題に対するBreaking ice的な企画であり、これを機に多くの会員による関連研究とその成果を待ち望みたい。

総会(特別事項)では、従来からの懸案である役員選出方法についても論議され、提案された役員選出細則が承認された。役員選出細則の趣旨及び役員は、「学会の活性化」と「学会の継続性」とのバランスをいかに保つかという視点であり、作成にあたり配慮した項目は次の10項目である：
1) 理事役員の半ば以上という観点から、「理事総数の半数にあたる15名を正会員による直接選挙(順位権記の5名選記による無記名投票)
2) 改選前理事10名を、現行理事会での互選
3) 学会運営の強化をはかるための理事長推薦理事5名以内
4) 会長、副会長、監事は、選挙後初めての理事会で選出
5) 会長、副会長は理事以外からの選出ができる
6) 理事長は、新役員に選出された理事(25名)により、選挙後初めての理事会で互選
7) 被選挙権及び選挙権の移譲を認める
8) 役員の内訳に対し、補充選挙を行わず、全員については本則に従う
9) 選挙管理委員会を設置し、その委員(5名)の推薦を理事会とした
10) 学会の活性化の具体的な効果として、選挙権・被選挙権の確保により、会員の手続きの明確化をはかった(金費等手続き期日の指定)。
この役員選出細則の承認により全制第10条も「本会を運営するために、総会において正会員の中から次の役員を選出。(以下略)」から「本会を運営するために、役員選出規則により正会員の中から次の役員を選出。(以下略)」と改正され、1998—99年度役員選出は、この選挙制度の導入が実現する。選挙の導入により、正会員資格の確定が必要であり、会員の整理も重要である。「レジャー・レクリエーション研究」(第35号)の巻尾には、現任期の役員名簿及び会員名簿を掲載し、会員の(移)動による変更の手続き及び誤りの訂正等は巻首の部分に連絡用表を挿入した。第27回学会大会の開催(於：東京農業大学、期日：平成9年11月15日～16日)も第1報として案内をしたが、総会において承認され

た内容の具体化であり、会員の積極的な協力と次回学会大会への準備をお願いしたい。
過去大会の発表趣向では、第25回記念大会の研究発表(23題)、実務発表(21題)の合計44題を除いて、20題台が15回あり、第26回大会も23題であった。発表がどのくらいというのをはなげ、会員の積極的な研究発表により次回学会大会には、過去5回記録を上回る30題台、またそれ以上の研究発表を期待するのである。
今年度の運営にあたっては、実行委員長であり、特別講演もお願いした小田切敬一氏並びに奈良女子

第26回レジャー・レクリエーション学会大会を終えて

奈良女子大学
小田切 敬一

去る平成8年11月24～25日、奈良女子大学におきまして、第26回レジャー・レクリエーション学会大会を開催させていただきました。第一日目の講演やパネルディスカッションから、第二日目の二会場に分かれたの縦横な研究発表へと、全国から多数の会員の皆様、が当地までご参加下さいました。予想を上回る盛況の内に終了することができましたことを、感謝申し上げます。誠にありがとうございました。
しかしながら、古きばかりを取り柄(7)の小規模女子大学での二日間は、夢見ただけの会員の皆様には、さぞご不便をおかけしたことを思っております。唯一幸いなことは、二日間ともに天候に恵まれ、紅葉も盛りの奈良の秋風を楽しんでいただけたことではなかったか、とも思っております。
何分にも施設や機器も不十分で、皆様の期待や要望に十分に対応できませんでした。また大会事務局の人手などが不足していた事情もありました。したがって予想通り、行き届かない点も多々発生してしまったことを、心苦しく思っております。御声お聴きいただいた会員の皆様には、何のおもてなしも出来ませんでした。それやこれやと、いろいろお許しい

たきますように、そんな中、学会本部事務局の方や役員の方々に、ひとかたならぬご協力ご協力をいただいたことにより、なんとか無事にプログラムをこなすことができたというのが、偽らざる実感となって現在に残っております。
この度の研究発表など、今後の学会の発展にどのように生かされていくかにつきましては、会員の皆様方自身の真摯な対応や、学会活動への期待などとかかわってくる問題だと感じております。何はともあれ、レジャー・レクリエーションへの時代的ないしは運動的な質素も大きく変わりつつあるように思われる中で、今回の学会大会における論議が、新たな研究システムとしては研究体制づくりへの、今後の善悪なステップとなるようであれば、望外の喜びであります。
学会大会の開催という大役を無事に果たせたことに安堵しつつ、微少なながらも日本レジャー・レクリエーション学会のお役に立てたことに、ある種の喜びを感じております。皆様方の一層ご活躍とご発展を祈りつつ、次回学会大会が無事終了したことに、お礼の挨拶に代えさせていただきます。

日本レジャー・レクリエーション学会 第26回学会大会総帳

(2-1) 1995年度 会計収支予算

1開催日時/平成8年11月24日(日) 13:00～14:30
2開催場所/奈良女子大学 記念館
3次 券
開 会
抽 籤
議長退任
議長選出
議事録署名人選出
議 題
(1)第1号議案 平成7年度事業報告
(2)第2号議案 平成7年度収支決算
監査報告
(3)第3号議案 平成8年度事業計画(案)
(4)第4号議案 平成8年度予算(案)
(5)第5号議案 役員選出細則(案)
(6)第6号議案 会則第10条の改正(案)
(7)その他
1)事務局移転について
2)第27回学会大会開催日・日程について
3)学会顧問の委嘱について

収入の部	
科目	収 入 額
前年度繰越金	949,316
前年度繰上金	2,000,000
入 会 費	62,000
会 費	50,000
会 費	800,000
雑 費	3,000
雑 費	10,000
雑 費	3,837,316
合 計	3,837,316

支出の部	
科目	支 出 額
前年度繰下金	1,900,000
前年度繰下金	100,000
前年度繰下金	60,000
前年度繰下金	400,000
前年度繰下金	20,000
前年度繰下金	60,000
前年度繰下金	100,000
前年度繰下金	517,000
前年度繰下金	800,000
前年度繰下金	517,316
合 計	3,837,316

(2-2) 1995年度 決算報告書

1)1995年度 事業報告
I. 事 業
1) 第25回記念大会開催
期日：1995年9月23日(土)・24日(日)
場所：関東学院大学法学部小田原校地
議題「レジャー・レクリエーション研究」の発行第31号(大会号)、第32号(歩み)、第33号
2) 学会ニュースの発行 №57、№58
3) 研究会の開催
テーマ「自然レジャー・レクリエーション」
4) 学会25周年記念事業
「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み—1964—1995—」(第32号)の発行
5) 学会賞基金システム導入の設計
6) 役員選挙準備検討委員会の設置
7) 組織の充実・会員の拡充(新入会員46名、金費5年以上未納者の追金徴収60名)
II. 会 員
1) 学会総会(9月) 臨時総会(12月)の開催
2) 理事会(4回)
3) 常任理事会(9回)
4) 各委員会の開催

収入の部			
科目	予 算	決 算	増 減 額
前年度繰越金	949,316	949,316	0
前年度繰上金	2,000,000	2,000,000	0
入 会 費	62,000	62,000	0
会 費	50,000	50,000	0
会 費	1,000,000	1,000,100	100
雑 費	3,000	3,000	0
雑 費	10,000	10,000	0
雑 費	3,837,316	3,837,516	200
合 計	4,837,316	4,837,516	200

支出の部			
科目	予 算	決 算	増 減 額
前年度繰下金	1,900,000	1,900,000	0
前年度繰下金	100,000	100,000	0
前年度繰下金	60,000	60,000	0
前年度繰下金	400,000	400,000	0
前年度繰下金	20,000	20,000	0
前年度繰下金	60,000	60,000	0
前年度繰下金	100,000	100,000	0
前年度繰下金	517,000	517,000	0
前年度繰下金	800,000	800,000	0
前年度繰下金	517,316	517,316	0
合 計	4,837,316	4,837,316	0

- 2) 費表紙 (年日記帳)
- 3) 高表紙 (英文1行)
6. 第35号の発刊に併せての取り組みの内容について
 - 1) 第27回学大会開催地・日程の案内の第1報 (大会実行委員会の決定が必要)
 - 2) 住所確認用の書写 [名簿作成上正確を要すること] 役員選出 (選挙) に対する事項
今年度中に「学会ニュース」を発行し、その中に書写を記入する
7. 会費の自動振替について
学費の自動振替については、予算の目安がつく、事務局の仕事が楽になるなどの報告があり、今年度中に決定する予定だったが、今後は継続して審議していくことが承認された

- IV. その他
1. 理事会 (第2回) の手配について
会場: 奈良女子大学
日時: 平成8年11月23日(日) 11:00am~12:00noon
 2. 新入会員について
(入会者名簿) (所属)
樋口雄乃 藤女子短期大学
関東学院大学
 3. 次期常任理事の予定について
会場: オリビック記念少年総合センター
日時: 平成8年12月16日(日) 18:30~19:30
終了後懇話会を予定
 4. 理事会資料を11月18日に発送するの各委員会で間に合うように事務局に郵送する

1986年度
日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会 (第8回) (議事録)

日時: 1996年12月16日(日) 18:30~19:30
場所: 国立オリビック記念少年総合センター
研修館7F-702室

出席者: 前野、黒田、高橋、鈴木(男)、荒井、石井、坂本、藤田、西野、松浦
幹事一沼、杉、(文)

- 会長の後援
- 常任理事会 (第7回) 議事録確認
理事会 (第2回) 議事録の取扱い
第26回学大会総会開催事務の扱い (ニュースNo.6に添付予定)
- II. 報告事項
1. 第26回学大会に関わる処理事項

- 1) 参加者数統計
大会参加: 98名 特別講演等: 86名
集客数: 34名 総会: 46名
 - 2) 大会開催校へのお礼
 - 3) 大会への広告掲載に対するお礼
 - 4) 大会決算報告
(1) 本部事務局で準備した文具等を含めた大会経費について
(2) 印刷費 (名簿) の取扱いについて
(3) 特別講演、パナレディスカッションのテープおぼしきの費用 (第3号への掲載)
 - 5) 発表演壇に関わるレジャー・レクリエーションの存在 (内容・費) について
以上、学大会関係の処理事項について報告された
2. 理事会推薦の選挙管理委員 (任期: 平成9年5月1日~平成11年4月30日) のお願い
役員選出に伴う選挙管理委員を以下の5名にお願います
- 東海支部: 中島豊雄 近畿支部: 山口麻雄
九州支部: 松尾賢二
- 常任理事: 柳崎 寿 理事: 大森雅子
- 3. T.R.専門分科会 (平成8年11月24日学大会最終決定期間) の報告
1) T.R.専門分科会の今後の方向性について
2) 会員のT.R.専門分科会への参加要領に関する広報について
- 4. 「レジャー・レクリエーション」(通称) の運営状況
1) 役員・会員の登録 (選挙事務のための索引を含む)
2) 第26回学大会報告及び第27回学大会 (第1報: 開催場所、期日)
3) 住所確認用書写の組み込み
4) 日次の新規取り付けについて
以上の項目を掲載して12月中旬には全員に配布されることが報告された
- 5. 学会出版部等の印刷について
学会で出版した図章について、出版社に問い合わせ、印刷などがの滞っているのを確認することが報告された

- III. 審議事項
1. 第26回学大会に関わる処理事項について
1) 発表の形態、座席の確認事項、発表者の変更の許可及び届け出
 - 2) 後編のレジャー・レクリエーション性 (レジャー・レクリエーション的との異なり) について
以上について、次回の常任理事会に議題として提案する
 2. 総会決定に関わる事項について
1) 役員選出細則の実行に伴う手続き及び

- 必要事項について
- (1) 必達前理事 (18名) 選出の続き
(2) 会長、副会長、監事選出の続き
以上について、事務局から次回常任理事会に提案する
 3. 「学会ニュースNo.6」(新年号) について
「学会ニュースNo.6」(新年号) の内容の説明があり、1月中旬に印刷予定であることが報告された
 4. 年会費支払いによる返金者等の再入金の取扱いについて
3年以上の年会費未納者は退会となっており、当該未納分を払わずに再入金をすることを認めないことが了承された

5. 第27回学大会テーマの決定について及び
次大会テーマの総会発表について
1) 事前決定と十分な準備期間の確保
 - 2) 学会員と十分な特別講演・パナレディスカッション等の推進
 6. ロゴマークの募集・制定 (審定委員会の設置) について
 7. 新入会員の承認について
新入会員の承認、申し込みのあり方について検討する必要があるとの意見が出された
- IV. その他
1. 次回常任理事会 (第9回) の日時について
1997年1月27日(日) 18:30~20:30(予定)
場所は未定

セラピューティックレクリエーション 専門分科会報告

- 第26回学大会最終日の平成8年11月24日午後4時30分より午後6時まで奈良女子大学N-102教室において、多数の会員参加のもと以下の活動方針などについてセラピューティックレクリエーション専門分科会が開催された
- 1) T.R.専門分科会委員長・副委員長・事務局長・幹事について
 - 2) T.R.専門分科会の今後の方向性
 - 3) ワークショップ組織の設立とその関係・運営について
 - 4) 事務局の決定について
 - 5) 共同研究会の開催について
 - 6) 学会での共同研究発表について
 - 7) 学会研究発表の投稿について
 - 8) 会の運営にある会員について
 - 9) T.R.専門分科会報告について
 - 10) 会員の大会手続きについて
 - 11) 月例会について
 - 12) T.R.専門分科会ニュース (タイトル・マーク・ロゴ等) について
 - 13) 会員 (地域・専門分野・関心分野の特定) 名簿の作成について
 - 14) その他

セラピューティックレクリエーション 専門分科会研修会 (第1回) の開催案内

セラピューティックレクリエーション専門分科会 (以下「T.R.専門分科会」と略す) のはじめての学大会が第26回学大会 (於: 奈良女子大学) 時に開かれ、今後、広く会員の参加を求め、研修会などの開催をしていくことが承認されました。

そこでT.R.専門分科会では、下記のとおり研修会を開催いたします。会員の参加をお待ちします。

研修会では、講演と共に、今後の専門分科会活動の内容などについても意見交換をしていきます。随省のレクリエーションあるいはセラピューティックなどを指定することなく、T.R.の概念を広げ、レクリエーションの効果と個人の生活の中に取り入れ、活用していくためのものとして捉え、T.R.の正しい普及と啓蒙を図るための研修会となります。

レジャー・レクリエーションの本質論や現象論ととも、あるべき論についても積極的に論議し、レジャー・レクリエーション論の討論もすすめます。

記

内容: [T.R.専門分科会研修会 (第1回)] と
き: 平成9年3月20日 (木・祝日)
午後1時30分~午後4時
ところ: 関東学院大学法学部 (小田原校地)
J 小田原駅前下町、大学バス停約10分
(交通機関、キャンパス内の会場の詳細については選べて参加者にお知らせします)

講師: 日本におけるセラピューティックレクリエーションの方向性あり方
- 特別レジャー・レクリエーション

機能の拡張と進化によりその活動効果をより確実にするために~
講師: 鈴木秀雄
(学芸理事兼・関東学院大学教授)

参加費: 学会員2,000円、非会員2,500円
(当日受付にて徴収します)

申し込み方法: 必ず住所変更などの必要事項を記入の上、3月5日(水) 必着にて申し込んでください。①住所、②氏名、③性別、④電話番号、⑤所属、⑥学会員、非会員の有無を明記
※返金は必ず、自身の宛名を明記してください。
申し込み (問い合わせ) 先:
〒250 神奈川県小田原市原庄1162-2
関東学院大学法学部体育館内
「セラピューティックレクリエーション専門分科会研修会」係
電話orFax 0465-32-2617

委員会・事務局からのお知らせ

投稿は、常時、受け付けております。また、研究論文の審査、修正作業には毎週でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿していただく
会員の皆様への積極的な投稿をお願いいたします。

事務局からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究第35号」に会員名簿が掲載されました。住所の確認をさせていただきますが、住所、所属に変更のあった場合には、速やかに事務局までご連絡下さい。また、お知り合いの会員の確認もお願致します。

●パンフナー「あゆみ(含む)」の実費領書の値段
1. 「あゆみ」32号は、
1冊、¥2,000 (郵送料¥390)
※既報済み

2. 「あゆみ」を除く
その他の研究誌 (バックナンバー) は、
1冊、¥500 (送料別)
10冊以上 20%引 (送料別)
20冊以上 30%引 (送料別)

事務局だより

第26回学大会総会において、「役員選出細則」が承認され、選挙の導入に伴い選挙権及び被選挙権についても規定され、他例行使には年会費の納入についても役員選出年度の6月30日までに当該年度会費を収めていることが条件となります。

新年度 (平成9年度) は、役員改選年度にあたりますので選挙が行われ新役員が就任する年度でもあります。新年度になりましたら、学大会のご案内 (研究発表申込書の詳細) とともに、年会費の納入につきましても郵便振替によりお願い申し上げますので、期間内 (6月30日まで) での納入につきましても宜しくお願いたします。

「役員選出細則」が承認され選挙の導入決まる

学会の1998~1999年度任期からの役員選出を「役員選出細則」(規程 (第7項)) に基づき、選出することとなりました。また、同細則第1条の規定に倣い選挙管理委員会の設置が必要となっており、委員構成については、総会においても既に報告しておりますが、理事会推薦をもって下記により依頼申し上げますのでお知らせ (告知) 致します。

- 記
1. 選挙管理委員会の委員及び構成 (細則第11条第2項より)
 - ★5名
 - 大森雅子 (理事)
 - 柳崎 寿 (常任理事)
 - 中島豊雄 (理事)
 - 松尾賢二 (理事)
 - 山口麻雄 (理事)
 - (五十名程、敬称略)
 2. 選挙管理委員の任期 (細則第11条第4項より)
 - ★平成9年5月1日から
 - 平成11年4月30日までの2年間
 3. 選挙管理委員会の委員長 (細則第11条第5項より)
 - ★選挙管理委員の互選による

次回第27回学大会は 東京農業大学で開催

次回学大会の開催は、下記のとおり
東京農業大学と決定しました。

1. 会期: 平成9年11月15日(土)・16日(日)
2. 会場: 東京農業大学
〒156 世田谷区桜丘1の1の1
電話 03-3420-2131

※研究発表申込等についての詳細は、ニュース第2号 (次号) にてお知らせいたしますので、ご準備ください。多くの会員からの研究発表と大会参加をお待ちしています。

会員の 動静

- 新入会員 (所属)
- | | | | |
|---------|-------------------|---------|-----------|
| 前 崎 明 治 | 金城市立短期大学 | 村 田 知 厚 | 鶴ラック計画研究所 |
| 島 崎 昭 治 | カル・ネイチャークラブ | 村 井 晴 子 | 大阪女子短期大学 |
| 松 浦 範 子 | 神戸女子大学 | | |
| 木 根 一 一 | 名古屋化学情報学専門学校 | | |
| 樋 口 佳 乃 | 桜井女子短期大学 | | |
| 川 田 俊 博 | 関東学院大学 | | |
| 荒 川 忍 洋 | 埼玉大学附属義塾学校 | | |
| 木 村 智 彦 | 船橋浜田スポーツ専門学校 | | |
| 下 田 由 香 | スポーツエデュケーションアカデミー | | |
- 平成8年度選出者
(平成9年1月現在)
- | | |
|---------|--------------|
| 吉 田 正 志 | 日本レクリエーション協会 |
| 藤 瀬 肇 夫 | |
| 白 木 静 枝 | |
| 佐 藤 隆 男 | |

平成9年8月

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

発行人 鈴木秀雄 編集 広瀬洋外委員会
事務局 〒250 神奈川県小田原市原宿162-2
関東学院大学法学部 (小田原校地)
体育館内

電話 FAX 0465-32-2617
郵便振替 00150-3-02353

AUGUST 1997
No.62

開かれた学会運営を目指して

日本レジャー・レクリエーション学会
会長 前野淳一郎

昨年秋に行われた第26回(奈良女子大)大会の総会で、会則の改正と役員選出制が承認されて以来、新く活きたシステムが整い、会々選挙制度の導入が実施されたこととなりました。色々のご意見もあつたとは思いますが、ここに「開かれた学会運営への第一歩」を踏み出すことができたのと考えております。

かくして一応の「形」は整ったわけですが、これからは会員皆様のご意見を大事にしなが、目まぐるしく変化を起している社会の要請に即応して行きたいものと志しております。新たな仲間や拡大、他の専門分野との交流など、その「内実」を高めていくことに努めていきたいと志しております。更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

学会誌第36号の基幹特掲記事も随分ありますが、「観光」というジャンルも、レジャー・レクリエーションに関連した重要な分野であるとは考えております。当学会会員の中にも幾人かこの方面の研究者の方々が見えますが、なお一層の相互交流とクロスオーバー研究が必要ではないでしょうか。また「環境教育事業」や「まちづくり」の実践の場面で、レジャー・レクリエーションのノウハウや人材がこれらから益々求められて来るように思われてなりません。会員の皆さんのご関心が、こうした方面・分野に向けられることを祈っております。

今年の11月15日(土)・16日(日)の両日に、東京農業大学で第27回大会が開催されます。会員相互の研究交流として懇親の絶好の機会ですので、ふろってご参加下さいますようお願い致します。又、来年の第28回大会は福岡県の福岡大学で、再来年の第29回大会は埼玉県の東海大学で、次々開催される予定です。今のうちから心がけを願ひ、内実の高い研究発表が数多く行われることを期待する次第です。

JSLRSニュース10

1. 開かれた学会運営を目指して (前野淳一郎) …… P.1
2. 学会役員選挙制度の導入にあたって (鈴木秀雄) …… P.2
3. 「改選前理事」(10名)選出選挙の結果 …… P.3
4. 「新理事」(15名)選出選挙の実施 …… P.3
5. 学会大会のご案内(東京農業大学) …… P.4
6. 学会大会プログラム …… P.5
7. 学会大会発表演題 …… P.6
8. 常任理事会の報告 …… P.8
9. 編集委員会・事務局からのお知らせ …… P.12
10. 会員の動静 …… P.12

学会役員選挙制度の導入にあたって

理事長 鈴木秀雄
(関東学院大学法学部教授)

学会総会での役員選出制制定(96年11月24日)

と共に、会則(第10条)が改正され、理事会(97年定款1回)で会長、副会長、監事、理事長、改選前理事の選出に關する各申し合わせ事項等も承認され、いよいよ実質的な選挙の段階となった。会長として、何年か金費納入に伴う選挙権者・被選挙権者の確定をしてみると、全登録会員の約1/3の正会員が選挙の権利を獲得したに過ぎない結果となった。その中の投票であり会員の総意としての役員選出となるのかを考えるといささかの疑問は残る。しかし選挙の仕組みに則った形での選挙権者の限定であり、手続きそのものに問題を持つものではない。学会の主体的な運営を求めの戸に押されての役員選挙制度導入であったが、選出母体が小さくなればなるほど、恣意的な結果の可能性を強く持つことにもなる。学会の動向や経緯を理解したうえでの選挙を今しばらく求められている学会としては、選挙権を得ている会員に、影響することなく一票を投じる権利を行使して欲しいと願わねばならない。もちろん学会運営を円滑にもめるための役員選挙であり、様々な可能性を想定しての議程による役員選挙制度の導入であるが、2年毎に実施される役員

選挙として、初めて行われることもあり、今回の選挙制度の実施に不備があるというのではないが、以後の選挙についても会員への広報を通じ、その理解を得ながら会員の総意としての選挙制度の進化(深化)も考えていかなければならない。

既刊の「レジャー・レクリエーション研究」(第36号、1997年5月発行)の92-91ページには、1998-1999年度期役員選出(選挙制度導入)に關する業務及びその日程：役員選出方法及びプロセス(附録)；各役員選挙投票に關する投票の概要(投票形態・投票用紙形態)；役員(新理事15名)選挙について；その告示と注意事項；選挙に關する理事報告事項；現行理事から選出される理事の選出に關する申し合わせ；選出された理事(25名)による理事長の選出に關する申し合わせ；会長、副会長、監事の選出に關する申し合わせ；学会役員選出制制定案趣意書、学会役員選出制が掲載されているので、熟読いただくと共に、役員選出(選挙)に關する議案書の理解とその日程についての確認もしていただきたいと思います。

学術会議登録団体として学会であるので、全役員選挙制度の導入であるが、2年毎に実施される役員

「改選前理事」(10名)選挙開票結果

先に行われた現行理事(投票数24回)による改選前理事の選出選挙の結果は以下のとおりとなりました。

順位	得票数	氏名
1	20	鈴木秀雄
2	19	松田義孝
3	17	坂口正治
4	17	廣藤寿
5	16	松浦三代子
6	15	森田康夫
7	13	石井光
8	13	下村彰男
9	11	西野仁
10	9	藤田健
11	9	小田切毅一
12	8	油井正昭
13	7	秋吉直樹
14	7	前野淳一郎
15	7	藤岡文男
16	6	山口泰雄
17	6	田中勲雄
18	5	宮下格治
19	5	守屋盛次
20	5	原田宗彦
21	5	寛井善子
22	5	森田信實
23	4	高橋和敏
24	3	松尾龍矢
25	3	杉尾邦江
26	2	大谷善博
27	2	中島豊雄
28	1	大森雅子
29	0	鈴木文明

(※同得票数の順位は順位記の得票数による)

「新理事」(15名)選出選挙の実施

学会会則第10条及び第12条役員選出規則第6条第1項、第2号、の各規程による正会員によって選出されますが投票は8月31日の消印有効となっています。

第27回学会大会(東京農業大学 1997年11月15日・16日)

第27回学会大会 東京農業大学で開催

1. 会期：平成9年11月15日(土)・16日(日)
2. 会場：東京農業大学
〒156 世田谷区桜丘1の1の1
電話 03-3420-2131
3. 最寄駅：小田急線経堂駅下車徒歩15分

大会実行委員会 から

11月16日(日)のお弁当(1,000円)の事前注文を受け付けます。返信書で申込の上、代金は大会参加費(4,000円)、懇親会費(5,000円)などと共に下記宛て10月31日(金)までにお振り込みください。

振込先：横浜銀行 小田原支店(店番：721) 口座番号：1335842
日本レジャー・レクリエーション学会

第27回学会大会 (東京農業大学 1997年11月15日・16日)

大会プログラム

テーマ：『レジャー・レクリエーション指導者育成と高等教育機関の役割』

趣旨 生涯学習、生涯スポーツの時代に向けての指導者育成はいかにあるべきか。
 学会大会は、レジャー・レクリエーションの学術研究の立場からの指導者・人材育成に関する基本理念、育成の場、例えば、大学体育の革新、大学体育会の革新、育成カリキュラム、評価システム、社会貢献の実態について、検討を加える視点から大会テーマを『レジャー・レクリエーション指導者育成と高等教育機関の役割』とし、基調講演及びパネルディスカッションを企画した。

- 日程 第1日 11月15日 (土)
- 理事会 11:00~12:00
 - 受付 13:00~
 - 基調講演 14:00~14:50 (50分)

『レジャー・レクリエーション(L/R)指導者への期待』

鈴木祐一 (本学会監事・東京女子体育大学学長)

- パネルディスカッション 15:00~17:30 (150分)

コーディネーター

松田義幸 (本学会常任理事・実践女子大学)

【1】問題提起 (各20分)

パネリスト

- (i) 大学体育の場をL/R指導者育成の機会に
 嵯峨 寿 (本学会常任理事・筑波大学)
- (ii) L/R指導者育成カリキュラムの試案
 西野 仁 (本学会常任理事・東海大学)
- (iii) L/R指導者の社会貢献イメージ
 鈴木秀雄 (本学会理事長・関東学院大学)

- 懇親会 於：グリーンアカデミー 18:00~20:00

■日程 第2日 11月16日 (日)

- 受付 9:00~
- 研究発表 9:20~12:00
- 総会 13:00~14:30
- 研究発表 14:30~16:50

●大会参加費 4,000円

●懇親会費 5,000円

第27回学会大会 (東京農業大学1997年11月15日・16日)

第27回学会大会(東京農業大学1997年11月15日・16日)発表演題(30題)

- 研究発表 (A会場(15階)) 18号館2F1821教室
- A-08 「高齢者施設におけるレクリエーション活動とその問題点とくに高齢者老人ホームの場合(事例報告)」
 ○上野 幸 (余暇問題研究所)
 山崎律子 (余暇問題研究所)
 - 座長：嵯峨 寿 14:30~15:30
 - A-09 「青年の日常生活における多愁感と退屈感についての予備調査」
 ○榎本和秀 (余暇問題研究所)
 浅倉佐知子 (余暇問題研究所)
 山崎律子 (余暇問題研究所)
 - A-10 「NRPATとその年次大会について」
 ○浅倉佐知子 (余暇問題研究所)
 廣田裕久 (余暇問題研究所)
 高橋和敏 (余暇問題研究所)
 - A-11 「幼・少年期の自然体験と感性の関わり」
 ○山崎律子 (山梨大学研究生)
 川村純平 (山梨大学)
 永吉亮記 (山梨大学大学院)
 小林直孝 (山梨大学大学院)
 - 座長：寛井香子 15:30~16:50
 - A-12 「レクリエーションゲーム前後の疲労スコアの変動～6種類の運動を取り上げて～」
 ○服部伸一 (関西福祉大学)
 前橋 明 (倉敷市立短期大学)
 - A-13 「レクリエーションの効果に関する研究(II)レクリエーション効果のチェックリストの試案と疲労自覚尺度測定との関連」
 ○前橋 明 (倉敷市立短期大学)
 服部伸一 (関西福祉大学)
 - A-14 「少年探における“相撲大会”が矯正教育に及ぼす影響」
 ○山村昌代 (東海大学大学院)
 大塚孝雄 (東海大学)
 - A-15 「キャンプにおける水辺活動の価値」
 ○堀 誠晴 (札幌体育大学)

第27回学会大会 (東京農業大学1997年11月15日・16日)

研究発表 (B会場(15階)) 18号館2F1822教室

- 座長：下村善男 9:20~10:00
- B-01 「やま(森林)づくり塾の自然教室について」
 【実践報告】
 ○嶋野美名子 (東京農業大学)
 栗田和弥 (東京農業大学)
 藤生 慧 (東京農業大学)
- B-02 「横浜市緑区山中中学校区域における花と緑の市長まつりく地園の製作」
 ○若岡文之 (町田市都市建設部)
 栗田和弥 (東京農業大学)
 藤生 慧 (東京農業大学)
- 座長：田中伸彦 10:00~11:00
- B-03 「市民による緑林林における活動に関する研究」
 ○松沢裕之 (十津川毎日新聞社)
 栗田和弥 (東京農業大学)
 水嶋正昭 (東京農業大学)
- B-04 「世界各国における自然保護地域の指定期間について」
 ○湯井正昭 (千葉大学)
 古谷勝則 (千葉大学)
- B-05 「レジャー・レクリエーション環境としての公園の考察」
 ○廣茂寿太郎 (東京農業大学)
- 座長：湯井正昭 11:00~12:00
- B-06 「センターにおける公園・レクリエーションプログラムの現状分析」
 ○金子忠一 (東京農業大学)
- B-07 「鮮魚センターを中心とした水産町観光の形成に関する政策的考察」
 ○平川章治 (株式会社 楽楽倶楽部)
 藤本 誠 (東京農業大学)
 藤田 毅 (東京農業大学)
- B-08 「岡山県における農村リゾートの研究」
 ○笠木秀樹 (実業女子大学)
- 座長：松田義幸 14:30~15:30
- B-09 「高齢者のスポーツ活動に関する事例研究」
 ○柳澤和康 (北海道教育大学旭川校大学院)
 鈴木木久 (拓殖大学北海道短期大学)
- B-10 「参加型スポーツイベントの運営に関する研究～特別にトリアスコン大会に対するイメージについて～」
 ○原田尚幸 (鳳凰体育大学)
- B-11 「スポーツ系専門門校生のスポーツ観について～とくに生き方・考え方、生き甲斐との比較から～」
 ○下田由香 (スポーツエデュケーション・アカデミー)
 廣田裕久 (余暇問題研究所)
- 座長：鈴木文明 15:30~16:50
- B-12 「スポーツ系専門門校生における人生観・価値観について(II)～特に'66年度及び'97年度学生の比較を中心に～」
 ○廣田裕久 (余暇問題研究所)
 下田由香 (スポーツエデュケーション・アカデミー)
- B-13 「体力と生き甲斐の関連性検証の試み(II)」
 ○原田尚幸 (余暇問題研究所)
 榎本和秀 (余暇問題研究所)
 川村純平 (東海大学)
- B-14 「児童の生活と加齢度感度感度の関係」
 ○川村純平 (山梨大学)
 永吉亮記 (山梨大学大学院)
 菅野純子 (山梨大学研究生)
 小林直孝 (山梨大学大学院)
- B-15 「キャンプ場の慣性力的な結びつきに関するアンケート調査～日本・台湾・ヨーロッパのキャンプ場の観望写真による～」
 ○藤盛雄 (東京農業大学)
 川村純平 (山梨大学)
 前野澤一郎 (スペースコンサルタンツ)

1996年度

日本レジャー・レクリエーション学会

常任理事会 (第9回) 議事録

日時：1997年1月27日(月)18:30~20:30
 場所：立教大学大田川記念館(1階第1会議室)
 出席者：前野、高橋、秋本、菅井、石井、鈴木(男)、坂口、嵯峨、下村、西田、松浦、松田、幹事一沼澤、田中(男)

会長の挨拶

- I. 確認事項
 1. 1996年度日本レジャー・レクリエーション学会常任理事会(第8回)議事録の確認
- II. 報告事項
 1. 理事全権推選の選挙管理委員(任期平成9年5月1日~平成11年4月30日)の理事会権限依職文書及び就任承諾書送付(平成9年1月18日付)
 2. 学会発刊となっている「レクリエーションの方法」(1987年4月、A5版、363頁、びょうせいで付)の原稿等の扱いについて
 ① 本社圖書課 (03-3571-2125) 栗原氏
 ② 杉原金庫課 (03-5349-6615) 三枝信太郎氏 (本館休館2800円の8%、最低保障額2000円支払い済、現在調査中)
 学会の収入としての記録はないこと、学会では個人の取り込みを決定していないことが報告された
 3. 学会誌第5号「生き甲斐」(別刷各30部)印刷(13万強の予定)
 ※特集等による、委員会へのサービス(経費使用)の在り方
 4. TR専門分科会の開催について(3月20日：関東学院大学での開催予定)
 ※会場・日程・内容等詳細はニュース№6に掲載

III. 審議事項

1. 第27回学会大会に関する提議事項について
 - ① 発表の形態、発表の保証事項
 学会実行委員会主催の形態を固めることが承認された
 - ② 発表の中止・発表者の変更の届け出と許可
 事前に大会委員長及び大会実行委員長への届け出とその許可を得ること、大会直前ニュースなどで主催の徹底を図ることが承認された
 - ③ 掲載の内容について
 レジャー・レクリエーションに関する内容の意識化を図り、ニュースでその主旨の徹底を図ることが承認された。発表申込の枚数200字以内の研究発表

要を掴めることが承認された

2. 総会決定に関わる事項について

- 1) 役員選挙制の実行に伴う手続き及び必要事項について
 - (1) 改選前理事(10名)選出の手続き
 (2) 会長、副会長、監事選出の承認
 常任理事会内に小委員会をつくり
 (1)、(2)の選出申し合わせをつくらせ、委員に栗田、鈴木(男)、松浦の3名が選出された
2. 「学会ニュース№6」(新年号)について
 学会誌に1月30日に発定予定
3. 年会費未払いによる退会者等の再入会の取組について
 年会費未払いによる退会者再入会については要査し、滞納年分の費用及び入会金の支払と共に入会手続きをとることが承認された
4. 第27回学会大会テーマの決定について及び次大会テーマの臨時発表について
 1) 事前決定と十分な準備期間の確保
 2) 学会員による特別協議・パネルディスカッション等の推進
 研究会常設委員会が新年度のニュース(5月)に際してより準備することが承認された
6. ロゴマークについて
 今年度中に広報・渉外がロゴマークについての検討を行うことが承認された
7. 新入会員(新入会員の推薦・申込のあり方)について
 研究会常設委員会において新入会員の推薦・申込のあり方について検討することが承認された

IV. その他

1. 新入会員、退会者の承認
 大会所属 推薦者
 ○村田知郎 朝うた計画研究所 下村彰男
 ○川村純平 大阪女子短期大学 小田啓一
 ○堀川勝洋 専門教育評議委員会 鈴木秀雄 (理事長)
- 平成9年1月27日現在新入会員総計20名
 退会者 新橋
 金子和正 東京家政学院大学
 長谷川修一 越山学院大学
2. 次期常任理事会(第10回)の日時について
 1997年3月18日(火)18:30~20:30
 立教大学大田川記念館(1階第1会議室)

1996年度

日本レジャー・レクリエーション学会

常任理事会 (第10回) 議事録

日時：1997年3月18日(火)18:30~20:30

編 者：立教大学大川記念館1階第1会議室
 出版者：黒田、田中（編）、鈴木（発）、石井、坂口、下村、西田
 幹事：前野、高橋、田中（幹）、鈴木（発）、黄井、石井、坂口、榎崎、西田、西野、松浦、松田、油井
 幹事一泊澤、田中（幹）

副会長の挨拶
 1. 確認事項
 常任理事会（第9回）議事録確認

II. 報告事項
 1. ニュースNo.61の発行・発送
 2. T.R.専門科会との開催及び参加者数等について（3月20日・関東学院大学で開催）
 3. 学会発行となっている「レクリエーション学の方法」（1987年4月、A5版、363頁、ぎょうせい刊）の印刷の扱いについてのその後の調査経過（進捗の有無について）の担当の三橋氏から支払い済みの報告を受けたが、それを証明する書類等を調査中であることが報告された
 4. 学会誌第36号の「読み別り」（別刷30部）印刷及び発送について
 印刷、発送は終了済みで、今後は原稿提出の段階で申込手続きを取る事が報告された
 5. 1986年度12月締めを取る事が承認された
 ニュースNo.61の発行進捗状況（平成9年2月18日現在、国内541名、国外3名、団体11件）が紹介され、発表不明も含めた個人正会員の数等の確定作業中であることが報告された
 6. 役員選出細則第6条「委員の選出方法に関する申し合わせ作成小委員会」の委員長として
 黒田副会長、松浦常任理事、鈴木（発）理事の3名で小委員会が構成されているが、その中から委員長を選出することが報告された
 その後の審議によって鈴木（発）学理事長が委員長になることが承認された
 7. 編集委員会からの報告
 研究誌第36号の構成について説明があり、特長の執筆依頼、編集作業、次号特集について等の報告があった

III. 審議事項
 1. 選挙管理委員（任時：平成9年5月1日～平成11年4月30日）の就任要請に伴う同委員長選任（互選）のお願いについて
 事務局で選挙管理委員である増嶋氏と打ち合わせを行い「委員長の選任をお願いする事が了承された」
 2. 1996年度会計中間報告について
 1996年度の会計中間報告があり、最終的に監事の監査を受けしこととして承認された

3. 1997年度事業計画（案）・予算（案）の作成
 1997年度事業計画について委員会内で内容を審議し、4月の常任理事会で案を決定することが承認された。予算案については会費の納入が昨年年度並みであれば、賛助会員広告料の増額を見直しかなど常任理事の賛助員名簿をお見直しはどうか、それでもないようであれば会費の値上げを検討しなければならぬのではないかという意見が出された
 4. 会員サービスの向上という視点からの学会誌とニュースの連携について
 選挙の導入や消費税を含む財政状況から、高学内場への効率化（ニュースを3回～2回へ）、選挙や学会案内を学会誌に載せる）をはかる方向性が示された
 5. 第27回学大会テーマ、講演等の内容の決定
 次回の常任理事会でテーマ、講演の内容を絞って議論することが承認された
 6. 研究誌第36号への掲載内容について
 1) 第27回学大会テーマ、講演等の内容
 2) 第27回学大会発表申込（手続き）案内の掲載について
 3) 学会費納入案内及び過年度会費の請求と返金について
 （郵便振替用紙の案内）
 4) 選挙管理委員会からの報告
 上記について研究誌第36号に掲載することが承認された
 7. 新入会員・退会者の承認
 入会者 所属 推薦者
 富田久夫 東京農工大学 永嶋正信
 竹田英典 和光大学 鈴木秀雄
 常任理事 駒ノストーカー 鈴木秀雄
 以上の3名は役員選挙細則の規定により、「98～99年度の選挙権・被選挙権はない」

IV. その他
 1. 新年度の常任理事会（第1回）の開催日時について
 1997年4月21日（月）18:30～20:30（予定）
 立教大学大川記念館1階第1会議室
 2. 学会誌の発行について
 編集委員会から学会誌の編集、印刷を事務局と離れて行うことはできないかと提案があったが、現時点で行うことが承認された。しかし、今後個別発行などを検討していくことになった
 3. 委員会他、庶務、常任理事、幹事で構成されているが、若い世代の会員等の構成を検討して委員会の活性化を図ってはとの意見が出された

1997年度
**日本レジャー・レクリエーション学会
 常任理事会（第1回）議事録**

日 時：1997年4月21日（月）18:30～20:30
 場所：立教大学大川記念館1階第1会議室
 出席者：前野、高橋、田中（編）、鈴木（発）、黄井、石井、坂口、榎崎、西田、西野、松浦、松田、油井
 幹事一泊澤、田中（幹）

副会長の挨拶
 I. 確認事項
 常任理事会（1996年度第10回）議事録確認

II. 報告事項
 1. 1996年度決算報告
 2. T.R.専門科会新研究会（3月20日・関東学院大学で開催）第1回」の報告
 3. 学会発行となっている「レクリエーション学の方法」（1987年4月、A5版、363頁、ぎょうせい刊）の印刷の扱いについてのその後の調査経過について
 不確定要素が多いので調査継続
 4. 選挙管理委員長について
 委員は定選定となっているが最終の選挙といったこともあり田中選挙管理をしていくためにも、学会常任理事の増嶋氏をお願いできないかという意見となり、その方向で進めて欲しい旨の報告となった（任期1997年5月1日より2年間）
 5. 役員選出細則第6条による委員の選出方法に関する申し合わせ作成小委員会報告
 小委員会は以下の項目について審議し、理事会の承認を得て研究誌第36号に掲載する
 (1) 細則第6条第1項第2号のうち改選前理事10名の選出方法（互選）について
 (2) 細則第6条第1項第1号による会長、副会長、監事の選挙の初めの理事会での選出方法について
 (3) 細則第6条第4項の新役員に選出された理事（25名）による初めての理事会での理事の選出方法（互選）について
 6. 学会誌「第36号」の進捗状況について
 年費等の部込用紙を戻し込んで5月中旬に発行予定
 7. 事務連絡（金銭出入の滞りによる通知等）の方法について
 8. 編集委員会からの報告
 研究誌「第36号」の構成、編集作業、「第37号」の特集についての報告があった

III. 審議事項
 1. 1996年度決算（会計監査）の報告について
 学会事務局西田氏より1996年度決算報告があり承認された
 2. 広告掲載及び賛助会員の募集方法について
 財務委員の西野氏より、常任理事が積極的に募集すること、賛助会員のメリットを明確にする事などを委員会で検討し、5月の理事会で提案することが報告され承認された
 3. 1997年度事業計画・予算について
 前回の常任理事会で承認された計画及び予算案について5月の理事会に向けてまとめていくことが承認された
 4. 第27回学大会組織委員会・実行委員会の発足について
 東京農工大学（衛生委員）に窓口を置くこと、今後の連絡については事務局に一任することが承認された
 5. 役員改選時における学大会開催先の理事選出の明確化について
 1) 2年先までの大会開催地（祝）の決定について
 2) 役員改選時における学大会開催先の理事選出
 以上が承認された
 6. 第27回学大会について
 1) 第27回学大会テーマ、講演等の内容
 東京農工大学と関連性をもったテーマ、内容に合うかどうかとの意見が出され研究誌第36号で検討する
 2) 第27回学大会発表申込（手続き）の手順
 学会誌「第36号」において申込のアンケートを行う
 7. 役員選挙準備及び日程について
 学会誌「第36号」で手取り及び日程を告知する
 8. 理事会（第1回）の開催（5月26日（月））について
 国立オリンピック記念青少年総合センター研修館10号室
 9. 新入会員・退会者の承認
 入会者 所属 推薦者
 山村昌代 東海大学 鈴木秀雄
 和田研治 中部女子短期大学 鈴木秀雄
 植田芳子 大妻女子大学 鈴木秀雄
 以上の3名は役員選挙細則の規定により、「98～99年度の選挙権・被選挙権はない」

IV. その他
 1. 次回常任理事会（第2回）の開催日時について
 1997年6月23日（月） 18:30～20:30（予定）
 国立オリンピック記念青少年総合センター

研修館702号室
 2. 次々回常任理事会（第3回）の開催日時について
 1997年7月14日（月） 18:30～20:30（予定）
 国立オリンピック記念青少年総合センター
 3. WLRAの会費について
 学会副会長の高橋氏よりWLRAの会費納入手続きについての質問があった。それを受け学会事務局より納入手続きの案内があり、矢野女子短大（平嶋）により何回期間のない会費納入がなされていることの報告があった

2. 役員選出（選挙権及び日程）の確認について
 1) 役員（候補者選定委員会）委員の選出
 2) 現行理事の選挙権及び被選挙権（辞退者）の事項確認（年度会費の納入状況）
 芳賀理事が選挙権を辞退、年会費の納入状況493名の委員のうち94名/16/23日現在
 3) 「改選理事」（10名）の選挙（印刷7/7）に関する投票用紙「B」の送付
 常任理事、選挙人名簿、投票用紙を配布、郵便局では受付体制にある
 4) 改選理事選挙の期票（7月14日開催の常任理事会（第3回））
 理事長より、以上の説明があり承認された

3. ニュース（No.62、10頁程度の手定）の発行・発送と選挙関連資料送付について
 1) ニュースの内容：選挙制度の導入と実施について
 2) ニュースと関連する「新理事」（15名）
 ニュース「A/68/81」に関する必要資料（被選挙人名簿、投票用紙「B」、投票用紙封入封筒、返信用封筒）
 3) 学大会の案内
 4) 学会発表演題の掲載（現在1題発表演題が提出されている）
 以上の選挙状況が報告され承認された

4. 議事録を添付する小委員会（ワーキンググループ）設置について
 財政委員会からも提案があったが議事録についてのワーキンググループを設置することについて事務局から原案を次回常任理事会で提案することが承認された
 5. 第28回学大会開催場所決定について
 理事選出の問題等で役員改選年に2年先までの開催場所を早めにかつ決めるために交渉を始めることとして承認された
 6. 新入会員及び退会者の承認について
 入会者 所属 推薦者
 石川幸生 名古屋女子短期大学 鈴木秀雄
 鈴木英悟 東海大学 大塚 大樹
 以上の2名入会が承認された

IV. その他
 1. 次回常任理事会（第3回）の開催日時について
 1997年7月14日（月） 18:30～20:30（予定）
 国立オリンピック記念青少年総合センター
 理事長終了後、田中幹事からレストラで懇談会（会費2000円）を予定

事務局からのお知らせ

1. バックナンバー（「あゆみ」を含む）の複製頒布を行っています。特に新入会員におすめします
 ①「あゆみ」32号の複製
 1冊¥2,000（郵送料¥390）※既販済み
 ②「あゆみ」を除くその他の研究誌は、1冊¥1,000（送料別）
 2. 会員の皆様のお知らせとしてレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へ一報下さい。
 【申込用紙に必要事項を記入し、入会金（¥1,000）と年度会費（¥5,000）をそめて郵便振替（または現金書留でお送り下さい。）
 3. 平成9年度の年会費（¥5,000）を収めている会員が半数以上いますので、緊急納入手続きをお願いします。
 郵便振替番号 00150-3-602353

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について
 投稿は常時受付しております。また、研究論文の投稿論文送付先
 〒505神奈川小田原校区北1162-2
 関東学院大学学部部・体育館内
 皆様のご積極的な投稿をお願いいたします。 【日本ジャーナル・レクリエーション学会事務局】

会員の動静

●新入会員（所属）

谷口 陽子	竹 田	和光大学
黒田 徹	常 松 浩 夫	東北大学
木 村 裕 子	村 田 知 厚	佛ラック研究所
三 宅 伸 介	川 村 晴 子	大阪女子短期大学
立 木 宏 樹	石 川 聖 洋	崎門教育大学付属看護学校
藤 原 祐三子	粟 田 洋 生	名古屋女子短期大学
平野 吉 直	鈴木 英 悟	東海大学大学院
大 山 隆 徳		
藤 原 浩 二		
山 村 昌 代		
和田 研 治		
植 田 芳 子		
松 田 和 久		

平成9年度選出委員
 金子 和 正 東京家政学校大学
 長谷川 健一郎 岡山学院大学

平成10年7月

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)
 発行人 鈴木 秀雄 編集 広報渉外委員会
 事務局 〒133-8585 埼玉県朝霞市北野1-2-28
 立教大学 武蔵野南校舎5階502号
 コミュニティ福祉学部 福祉研究室内
 電話 FAX 048-711-7358
 郵便番号 00150-3-802353

JUL 1998
No.63

学会会長に就任して

東京女子体育大学
学長 鈴木 祐一

このたび、前会長、前野一郎先生の後任として日本レジャー・レクリエーション学会の会長を、お引受けすることになりました。

これまでの「卓越した指導力」をお持ちの歴代の会長諸先生に比して、すべてに恵られない点の多い私ではありますが、学会役員そして会員の皆さんのいっそうのご協力をいただいた、本学会の発展に尽力いたします。過去の「卓越した指導力」をお持ちの歴代の会長諸先生に比して、すべてに恵られない点の多い私ではありますが、学会役員そして会員の皆さんのいっそうのご協力をいただいた、本学会の発展に尽力いたします。

そして、「研究・活動」の対象は、昨年新しい展開が図られ、学会として広範な分野から会員のご参加を得ておりますこと、本学会の特色と再考しております。

会員の皆さんには「レジャー・レクリエーション」の心に応じ、「より明るい」、「より相互理解を促す」そして「みんなで、学会の研究活動の輪を広げる」努力と会員ひとり一人が、みじかな問題から学際的視野に至るまで幅広い研究課題と取り組まれ、学会の「より活性化」のためのご活躍を、お願い申し上げます。

JSLRSニュース9

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 学会会長に就任して (鈴木祐一)
新会長の抱負 | 6. 平成9年度 決算報告書 |
| 2. 理事長に三たび推されて (鈴木秀雄) | 7. 第28回学会大会開催案内及び
講演・シンポジウム |
| 3. 新役員・幹事の紹介 | 8. 会員の動静 |
| 4. 新事務局の案内 | 9. 委員会・事務局からのお知らせ |
| 5. 総会・理事会・常任理事会の報告 | 10. 平成10年度 事業計画 (案)・予算 (案) |

-1-

理事長に三たび推されて

鈴木秀雄 (関東学院大学法学部教授)

学会理事長に三たび推され、理事長としての職責を担う第3期、第4期(1994-1995)では第24回大会(拓殖大学北海道短期大学)、第25回記念大会(関東学院大学)の周年大会を開催。記念大会時には、研究会時代を含め学会32年の歩みをまとめた学会誌第32号「歩み」の発行を実現した。第二期目(1996-1997)は、第28回学会大会兼第24次大会第27回大会を東京農業大学で開催し、この期間に研究会以来、学会に初めて役員選挙を1998-1999年度の役員選出に導入し、その実行も果たし、今この選挙により選出された役員によって学会が運営されている。そして三期目の初年である今年の第28回学会大会は福岡大学(福岡県)で開催される。また今年の第28回大会は既に東京大学(第五期)での開催が決定されている。日常業務を司る学会の事務局も東京女子体育大学から関東学院大学そして立教大学へと移り現在に至っている。学会の顔でもある会長も第3代目の浅田隆夫先生(群馬大学)から会長に変わり、そして第5代鈴木祐一学長(東京女子体育大学学長)の下での理事長(第6期目)である。事務局長、会長の交代、あらゆる面で変化の激しい時代であったと言える。

しかしこれからの2年間は、変革してきた学会から少しでも多くの良さを引き出していく時代であろう。そんな中で学会の良質な運営を、客観的な判断に依って進めることなく現規約の枠で忠実に実行すると共に、時に足した学会のあり方を構築しつつ先進の軌えを引き継ぎ活動の展開をしている

が、時代の変遷、学会構成員の変化、学会の共通言語である「レジャー・レクリエーション」そのものの認識や、概念さえも、その捉え方が多様化し多岐にわたる中であるからこそ、会員相互の歴史を振り返り、充実した研究が求められているといっても過言ではない。レジャー・レクリエーションの本質はもとより、それらの概念の再構築と新編化を志向した学際的アプローチによる積極的な研究発表の場、さらに質の高い交流し得る場づくりこそが理事長に選ばれた使命であると強く認識している。

他分野、多職種からの会員の増強はもとより、財源基盤の確立、学会広報機能等の充実を図り、学会が外に見えよう努力を続けていきたいと願っている。そのために多くの方からの意見を学会事務局にお寄せいただければ幸いである。役員に対する非なる発表の場としての学会でもない。今後ますます期待されるレジャー・レクリエーション分野での情報発信としての役割を担い、時代の進展から、進んでリーダーシップの発揮が求められていくといえる。そのような学会への歩みに対して協力しては、鈴木祐一理事長の下で努力を重ねていきたい。日本レジャー・レクリエーション学会自体の本質と機能をもっと理解し、責任を担っていきたく願っている。会員諸氏の叱咤により活動が活発化する所である。

日本レジャー・レクリエーション学会役員名簿 (1998年度～1999年度)

会長/鈴木 祐一 (東京女子体育大学)	西野 仁 (東海大学)
副会長/秋井 嘉典 (福岡教育大学)	松浦 三代子 (東京女子体育大学)
石井 允 (立教大学)	松浦 正昭 (千葉大学)
高橋 和敏 (朝倉学園短期大学)	榎 大谷 博 (福岡大学)
松田 義幸 (筑波大学)	岡本 伸之 (立教大学)
顧問/浅田 隆夫 (目白学園)	小田切 一 (奈良女子大学)
江崎 慎四郎 (中京大学)	鈴木 文明 (新潟大学)
木下 茂徳 (日本大学)	野野 宏明 (武蔵川女子大学)
監事/藤生 恵 (東京農業大学)	寺島 正一 (明治大学)
大塚 孝雄 (東海大学)	高橋 正徳 (東京農業大学)
理事長/鈴木 秀雄 (関東学院大学)	松尾 智 矢 (福岡大学)
常任理事/荒井 智子 (学習院女子大学)	宇 能 信 次 (中京大学)
荒井 信 彦 (筑波大学)	松田 文 男 (上智大学)
坂口 正 治 (東洋大学短期大学)	山口 孝 雄 (神戸大学)
磯 健 寿 (筑波大学)	山 崎 健 子 (朝倉学園短期大学)
下村 彰 男 (東京大学大学院)	幹 事/沼 田 秀 雄 (立教大学)
西田 俊 夫 (東海大学)	片 桐 晴 明 (早稲田大学大学院)

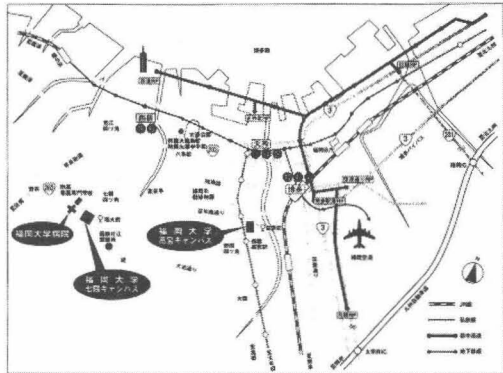
-2-

(福岡大学 1998年11月22日・23日) 第28回学会大会

第28回学会大会のご案内

- 日程 平成10年11月22日～11月23日(2日)
- 会場 福岡大学

案内図



理事会	平成10年11月22日	14:00～15:00	会場 ()
懇親会	平成10年11月22日	19:00～19:30	会費 (5,000円) 会場 ()
総会	平成10年11月23日	13:00～14:00	会場 ()

-3-

第28回学会大会 (福岡大学 1998年11月22日・23日)

大会プログラム

- テーマ: 「 」
- 日程 第1日 11月22日(日)
- 受付 13:00～
 - (理事会) 14:00～15:00
 - 特別講演 15:15～15:55 (40分)

□パネル

ディスカッション 16:00～17:45 (105分)

(パネリスト (各20分))

司会

- 懇親会 18:00～19:30

■日程 第2日 11月23日(月)

- 受付 8:30～
- 研究発表 9:00～12:00
- 総会 13:00～14:00
- 研究発表 14:20～16:40
- 大会参加費 4,000円 ●懇親会費 5,000円

■日程 第3日 11月24日(火)

- 第29回学会大会準備委員会初会合 9:00～11:00

大会実行委員会から

※大会会場周辺での昼食については、食堂等に限りがありますので、11月23日 ■のお弁当(1,000円)の事前注文を受け付けます。お昼食費で申込の上、代金を大会参加費、懇親会費などと共に下記宛て10月31日 ■迄にお振り込みください。

振込先: 横浜銀行 小田原支店 (店番:721) 口座番号:1335942

日本レジャー・レクリエーション学会事務局 (代表:西田俊夫)

-4-

〔福岡大学 1998年11月22日・23日〕第28回学会大会

第28回学会大会研究発表・実践報告演題

- 研究発表 A会場
 - 演 長： 9:00~10:00
高校生の「ゆとり」観戦について (藤田)
 - いつどんな場面かでゆとりを感じているか (西野 仁 (東海大学))
 - 「新たなレクリエーション運動」展開に向けての人材養成 - 香川県市レクリエーション協会の事例を中心に - (鈴木秀雄 (岡山県立大学))
 - 都市における自然観察会について - 京都市での事例 - (塚本圭一 (北海道旭川大学))
 - 演 長： 10:00~11:00
高校生の日常生活における多忙感と睡眠についての調査 (岡本朋秀 (静かなる研究社) 山崎伸子 (静かなる研究社))
 - 「地域づくりと農村リゾート」 - 愛媛県上野村久万町の事例を通して - (小泉英樹 (松山東海女子大学))
 - レクリエーションの視点からみたマチュアセックツランニングの意義 (藤田由久 (静かなる研究社) 高橋和敏 (静かなる研究社))
 - 演 長： 11:00~12:00
高齢者デザイナーサービスにおけるプログラミングの関連性 - 一般に親しい日常環境を通してみた場合 - (山崎伸子 (静かなる研究社) 上野 幸 (静かなる研究社))
 - スペシャルオリンピック会員におけるボランティア活動の意識に関する研究 (鈴木英樹 (東海大学))
- 大塚 健 (東海大学) 西野 仁 (東海大学) 「日常活動におけるレジャー観戦の検討」 - 40~50代既婚女性を対象として - (松尾由美 (神戸女子短期大学))
- 協 会 13:00~14:00
- 演 長： 14:20~15:00
「余暇行動モデルの行動計量学的分析」 (土屋 薫 () 渡辺秀男 ())
- ワーキングイベント参加者の特性 - リビドーと即参加者 - (西村久美子 (神戸大学大学院) 藤原可奈子 (神戸大学) 山口崇雄 (神戸大学))
- 演 長： 15:00~16:00
スペシャルオリンピック会員におけるボランティアのイメージについて (岡本 潤 (東海大学) 大塚 健 (東海大学) 新井昌明 (東海大学))
- 「運動によるレクリエーション効果に関する研究」 (藤田 明 (倉敷私立短期大学))
- 日本の医療・福祉の現場で実践されるレクリエーションのアセスメントと評価の視点に関する研究 - 日本の実態に合わせたアセスメント評価の構築 - (芳賀隆治 (東京家政学院大学))
- 演 長： 16:00~
英語のレジャーレクリエーション政策と国家・地方自治体の関与 (寺島晋一 (明治大学))

〔福岡大学 1998年11月22日・23日〕第28回学会大会

- スキューバダイビングの活動継続率イブと満足度に関する研究 - ダイビングに関するアンケート調査より - (千足新一 (十文字女子短期大学) 永島秀敏 (中国現職技術協会))
- 「エコキャンプによる環境への意識啓蒙について」 (小泉記雄 (個人研究))
- ウォーキング・イベントにおける中高年男性の参加に関する研究 - なぜ一人で歩くのか - (赤川力哉 ())
- 山口章雄 ()
- 演 長： 9:00~10:00
「女性の運動・スポーツ行動に対する結果予測について」 - 三島・沼津地域のスポーツ参加者・非参加者の比較 - (小俣里加子 (日本大学) 鈴木秀雄 (岡山県立大学) 吉本俊明 (日本大学))
- 東京湾内の海釣り公園における利用に関する研究 (岡井 歩 (東京農業大学) 春日宗宏 (東京農業大学))
- 弾力運動のレクリエーション効果に関する研究 (宮田朝久 (東京農業大学) 栗田朝寿 (東京農業大学))
- 演 長： 10:00~11:00
スポーツ応用行動に関する社会的研究 - Jリーグにおけるアビスパ福岡サポーターを中心に - (立本宏樹 (福岡大学))
- バーアウト遊程に関する研究 (大隈節子 (福岡大学大学院))
- 子どもスポーツ組織における加賀・藤城・国造を規定する要因的検討 - スポーツ少年団に目撃して - (岡田直由 (福岡大学大学院))
- 演 長： 11:00~12:00
グランドマラにおける先住民民族のスポーツ意識形成とスポーツ教育政策 (山田力也 (福岡大学大学院))
- 演 長： 13:00~14:00
「グリーンツーリズムの展開」 - バイエルン州における現状と課題 - (鈴木秀樹 (個人研究))
- 演 長： 14:20~15:00
「中高年の運動満足と生活満足」 (八木良記)
- 演 長： 15:00~16:00
現代女子学生の健康意識について (その3) (生力隆代 (国立音楽大学) 藤井隆江 (立教大学) 堀 真子 (早稲田大学) 松本伸子 (大分県立女子大学) 植田芳子 (大手前女子大学))
- 「Camp 0-AT-0Aにおける伝統性」 - 指導者としての参加経験をもとに - (高橋 伸 (四国基督教大学) 橋本智秀 (余暇問題研究所) 藤田由久 (余暇問題研究所))
- 演 長： 16:00~
市況NPOによる緑地の利用・管理の参加者意識について - 東京都町田市の水山自然公園を事例に -

〔福岡大学 1998年11月22日・23日〕第28回学会大会

- 第28回学会大会組織委員会

大会名誉会長	奈良女子大学学部長	委員長
大会会長	〃	〃
大会副会長	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
監事	〃	〃
大会委員長	〃	〃
委員	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
- 日本レジャーレクリエーション学会第28回大会実行委員会

大会実行委員長	藤 野 浩
副委員長	広 橋 英 夫
監事	〃
事務局長	〃
事務副局長	〃
事務局長補	〃
総務	〃
研究企画	〃
編集	〃

新事務局長の案内

1998年度・1999年度の事務局が 東京学院大学から「立教大学」に移転しました。
 事務局住所：〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-28
 立教大学 武蔵野新座キャンパス
 コミュニティ福祉学部 指導研究室内
 ☎電話・FAX：048-471-7356
 ☎郵便 口座：00150-3-692333
 ※事務局へお問い合わせは、FAXでお願います。

1997年度 日本レジャーレクリエーション学会 (第3回) 常任理事会 (議事録)

開催日時：1997年7月14日(日) 18:30~19:30
 開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 研修棟4F-403
 出席者：野野、黒田、高橋、鈴木(秀)、荒井、塚口、下村、西田、西野、松浦、松田、油井
 幹事-沼澤、田中(幹)

会長挨拶
 I. 承認事項
 常任理事会 (第2回) 議事録確認
 II. 改選前理事会 提出選挙の報告結果について
 1. 「改選前理事会」提出選挙の報告結果について
 2. 学会発行の「レクリエーション学の方法」における印刷についての調査結果報告
 3. 第28回学会大会について 福岡大学より内容を聞いた

III. 審議事項
 1. 学会大会について
 1) テーマ「レジャーレクリエーション指導者の育成」
 2) 講演・パネルディスカッション等の内容
 ① 大学一般体育の方向性
 ② 体育系大学のレジャーレクリエーション指導者の育成

③ 社会貢献からの役割
 以上について学会小委員会と研究会委員会で検討 (学会ニュースに掲載)
 2. 「候補者選定委員会」委員 (常任理事) の選出について
 学会会長、副会長、重事の候補者を選定する委員として、(現) 会長、副会長、(4名、理事と他日常任理事が選出され承認された
 3. 「改選前理事会」選挙の概要について
 学会理事より投票された改選前理事の閣議を原口、松浦常任理事と沼澤事務局幹事により行われ、以下の10名の改選前理事が決定した。カッコ内は投資数、次点者は順位順位の得票数による。
 鈴木秀雄、松田朝寿、坂口正吾、堀橋孝、松田三代子、西田敏夫、石井久、下村彰男、西野仁、飯田俊。次点小田切一
 4. ニュース (No.62、12頁程度の予定) の発行・発送と選挙関連資料の送付について
 1) ニュースの内容：選挙制度の導入と実施について
 2) ニュースと関連する新理事 (15名) 選挙 (第8/21) に関する必要書類
 被選挙人名簿 (改選された10名をのぞく)、投票用紙 [a]、投票用紙封入封筒、返信用封筒
 3) 学会大会の案内
 4) 学会発表演題の掲載 (28演題/7ページ) 非会員2名は9月入会承認予定
 5) 改選前理事 (10名) の選挙結果報告
 選挙結果を報告する小委員会 (ワーキンググループ) の委員について
 鈴木英樹-監事、松田朝寿、西野仁、堀橋孝
 常任理事、鈴木秀雄理事が選出され承認された
 6. 第28回学会大会開催場所について
 第28回学会大会は福岡大学で、第29回学会大会は東京学院大学 (埼玉県入間郡、東京武東上沼みずは台駅下車) で行なうことが承認された
 7. 新入会員について
 氏名 所属 推薦者
 堀田 肇 作新学院大学 沼澤秀雄
 鈴木秀彦 (現) 3名は福岡県 鈴木秀雄
 三宅将介 静かなる研究社 沼澤秀彦
 立本宏樹 立教大学九段1号 秋吉善雄
 以上4名の入会承認された
 その他
 IV. 議事録
 1. 次回常任理事会 (第4回) の開催日時につ

いて
1997年9月29日(日) 18:30~20:30(予定)
国立オリンピック記念青少年総合センター
2. 短距離選手からの入会申込で手数料が1500円必要なため要領あり

1997年度
日本レジャー・レクリエーション学会 (第4回)
常任理事会 (議事録)

3. 学会発表をする前に年会費を徴収することを決定する
開催日: 1997年9月29日(日) 18:30~20:00
開催所: 国立オリンピック記念青少年総合センター
研習棟 8F-804
出席者: 前野、田中(調)、原田、石井、鈴木(秀)、荒井、坂口、嵯峨、西田、西野、松浦、神野、岩澤、田中(伸)、杉本

会員の挨拶

1. 確認事項
常任理事会 (第3回) 議事録確認
II. 報告事項
1. 第27回大会追加発表 (2題) の承認について
大会発表2題が追加承認され、総題数が30題となった
2. 第27回大会研究発表に伴う旅費のお礼について
3. ニュース第63号の発行について
選手関連資料、第31回学会大会の案内、就職掲載等の中で7月下旬に送付済み
4. ワークショップ (第1回) 会合について
日本体育協会で7月31日に第1回の話し合いを行った
5. 「新理事」選出選挙 (15名) に伴う選挙事務、選挙権者への案内等について
6. 第31回全国レクリエーション大会について
本学会が主催後援している全国レクリエーション大会が9月1~3日に北九州で行なわれることが報告された
III. 審議事項
1. 「新理事」選出選挙 (15名) のやり直しについて
選挙権、選挙権者名簿に欠番があったために、「新理事」の選挙については選挙権を行なうこととなった。この再選挙に伴う経費は157票の原簿費49200円であるが、鈴木学会理事長の5万円の寄付により賄うことが承認された。但し、このようなことは今後の前例となることが承認された

2. 「候補者選定委員会」委員 (兼任理事) の選出について

- 1) テーマ「レジャー・レクリエーションの振興と指導育成と高等教育機関の役割」
2) 基調講演: パネルディスカッションの内容および議題
ニュース第62号にて発表済み
テーマ等について、東京農業大学で開催された特色を活かさない等の議論があった。また、企画委員会が協議していないのではないという意見が出された
3. 発表議題 (10題) の確定 (議題) 及び抄録原稿の依頼について
抄録原稿の切り捨ての2題の議題が承認され、30題の議題で発表が行われる
4. 新理事15名の選挙結果について
候補者選定委員会より現在157票の投票があったこと報告あり、9/26現在(9月28日) のため次回常任理事会へ送ることが承認された
5. 第31回学会大会 (第37号) の広告掲載依頼について
大会誌の広告掲載については9月29日現在8件 (32.5万円) の申込があった。大会誌は11月初めに発行予定
6. 会費の納入状況について
年会費の納入状況が9月29日現在で224名で事務局から財政部に届くと報告があった
7. 学生総会及び理事会 (第2回) の開催について
次回及び次々回常任理事会で学会と理事会の開催を行なう
第31回学会大会幹事長は五十十八歳選手部長に就任することが承認された。また、10月9日に東京農業大学に事務局が出席し、実行委員会に10万円の選挙費を承認することになっているとの報告があった
8. 新入会員について
氏名 所属 推薦者
塚山友一 関東学院大学 鈴木秀徳
柳井和雄 新潟県立大学 鈴木文明
内田昌雄 静岡学院大学 菅原正一
幸川寿雄 駒工製菓 鈴木秀徳
以上4名の会費が承認された
IV. その他
1. 次回常任理事会 (第5回) の開催日時について
1997年10月10日(日) 18:30~20:30
国立オリンピック記念青少年総合センター

2. 次々回常任理事会 (第6回) の開催日時について

- 1997年度**
日本レジャー・レクリエーション学会 (第5回)
常任理事会 (議事録)
1997年11月10日(日) 18:30~20:30
国立オリンピック記念青少年総合センター(予定)
開催日: 1997年10月10日(日) 18:30~20:00
開催所: 国立オリンピック記念青少年総合センター
研習棟 8F-804
出席者: 前野、原田、田中(調)、荒井、嵯峨、石井、鈴木(秀)、坂井、坂口、嵯峨、西田、西野、松浦、神野、岩澤、田中(伸)
この結果、15名の当選者に対して以下の手続きが行なわれることが承認された。尚、幹事長が出た場合については、新理事25~30名の規定の範囲で次点を繰り上げることが併せて承認された
1) 新任理事の送付
2) 新理事会への挨拶の依頼
3) 欠席者への「会誌、副会長、監事の選挙権用紙送付」
①全員に投票用紙を送付
②出席者は当日持ち参る上投票あるいは事前送付の承認の確認
2. 第31回学会大会
1) 新理事 (第2回) の開催 (11月15日) (9:00~12:00 東京大)
2) 新しい理事 (25名) による会合
新理事の確定後に召集する。期日や場所等未定
○理事長の互選
3) 新理事 (第1回)
新理事の確定後に召集する。期日や場所等未定
○会長、副会長、監事の選挙
4) 議決について
1996年度決算書、1997年度予算案、活動計画案等については事務局が、常任理事会の委員長は総会報告の準備が完了することが承認された
5. 「新理事」選出選挙 (15名) の選挙結果について
「さようせい」からの学会出版部印用紙についてその後の報告がなくなり、からの解決策が必要
III. 審議事項
氏名 所属 推薦者

谷岡三三 国立工業総合専門学校 田口邦芳
金 風一 ソウル大学校 山中伸彦
八木高純 豊成総合専門学校 山口幸雄
折本浩一 愛田女子大学 田口邦芳
以上4名の会費が承認された

1997年度
日本レジャー・レクリエーション学会 (第6回)
常任理事会 (議事録)

- 1998年1月19日(日) 18:30~20:30
国立オリンピック記念青少年総合センター(予定)
開催日: 平成9年11月10日(日) 18:30~20:30
開催所: 国立オリンピック記念青少年総合センター
研習棟 8F-804
出席者: 前野、田中(調)、石井、鈴木(秀)、荒井、坂口、嵯峨、西田、西野、松浦、神野、岩澤、田中(伸)
会員の挨拶
1. 確認事項
常任理事会 (第5回) 議事録確認
II. 報告事項
1. 学会大会の送付状況について
発表予定者全員が原簿送付、参加予定者は5名
2. 学会大会について
年会費未納者に対して大会号送付封筒の表に未償まで通知の上、配付した
3. 候補者選定委員会について
第2回を開催し、学会大会での理事会終了後(11月15日)に第3回を行う
III. 審議事項
1. 新理事の選任承認について
新理事に選出された15名の名で、前野(学会会長)、原田(学会副会長)、江崎(学会顧問)の3氏の評議員職が提出され承認された
次点の松尾、永島、鈴木(文)氏は繰り上げの通知が行うことが承認された
2. 各委員会報告について (編者報告)
1) 年度会費・選挙権者名簿の徴収
2) 役員選挙の準備と実施の支援

- 3) 第31回学会大会の準備
4) 次会、次々回学会大会開催地の決定
5) 常任理事会開催地決定の準備と実施に関わる要領
6) 会員名簿の整理・発行
7) 広告掲載に対する募集要領
8) 評議員候補者名簿としての必要要領
9) 候補者選定委員会
以上の内容が報告され承認された (財務委員会)
1) 財政基盤の安定化に向けて
2) 会員規定の見直しについて
3) 学会の知名度を高めるために
以上の内容が報告され承認された (編集委員会)

- 1) レジャー・レクリエーション研究第38号の発行
2) レジャー・レクリエーション研究第37号の発行
3) レジャー・レクリエーション研究第38号の発行
4) 研究発表要領の見直しについて
以上の内容が報告され承認された
5. 選挙権者名簿について
東京大学学生自治会連合会において平成8年度選挙実施、収支決算、平成9年度予算設計案案、予算案を説明する
6. 会員の承認
氏名 所属 推薦者
波瀾真一 神戸市立津手町高等学校 田橋 太郎
柳井和雄 新潟県立大学 鈴木秀徳
内田昌雄 静岡学院大学 菅原正一
幸川寿雄 駒工製菓 鈴木秀徳
以上4名の会費が承認された
IV. その他
1. 学会誌「バックナンバー」の販売価格について
会員は¥1000 (あゆみ¥2000)、非会員は¥3000 (あゆみ¥3000) とする
2. 次回常任理事会 (第7回) の開催日時について

1997年度
日本レジャー・レクリエーション学会 (第2回)
学会連席会 (議事録)

1998年1月19日(日) 18:30~20:30
国立オリンピック記念青少年総合センター(予定)
開催日: 平成9年11月15日(日) 11:00~12:00
開催所: 東京農業大学11号館133教室
出席者: 進士(大会名譽会長)、前野、秋吉、黒田

1. 「新理事」選出選挙 (15名) の選挙結果について

投票結果 (有権者157名、95名投票、有効投票94票)

1	小田切 59	11	鈴木 野 15
2	田中 36	12	山崎 (博) 15
3	鈴木 (浩) 33	13	池井 14
4	黒田 30	14	江浦 12
5	高橋 29	15	荒井 8
6	秋吉 27	16	永島 7
7	藤田 23	17	鈴木 (文) 7
8	岩澤 17	18	松尾 (博) 7
9	宇野 16	19	鈴木 (浩) 6
10	山口 (崇) 18	19	淺田 6

この結果、15名の当選者に対して以下の手続きが行なわれることが承認された。尚、幹事長が出た場合については、新理事25~30名の規定の範囲で次点を繰り上げることが併せて承認された

- 1) 新任理事の送付
2) 新理事会への挨拶の依頼
3) 欠席者への「会誌、副会長、監事の選挙権用紙送付」
①全員に投票用紙を送付
②出席者は当日持ち参る上投票あるいは事前送付の承認の確認
2. 第31回学会大会
1) 新理事 (第2回) の開催 (11月15日) (9:00~12:00 東京大)
2) 新しい理事 (25名) による会合
新理事の確定後に召集する。期日や場所等未定
○理事長の互選
3) 新理事 (第1回)
新理事の確定後に召集する。期日や場所等未定
○会長、副会長、監事の選挙
4) 議決について
1996年度決算書、1997年度予算案、活動計画案等については事務局が、常任理事会の委員長は総会報告の準備が完了することが承認された
5. 「新理事」選出選挙 (15名) の選挙結果について
「さようせい」からの学会出版部印用紙についてその後の報告がなくなり、からの解決策が必要
III. 審議事項
氏名 所属 推薦者

- 賛助会員のメリットを検討することで承認
- 年度内業務（機密）について
 - ニュース（No.33）：学生会誌（第35号）の発行に関する財政的根拠
 - 新しい理事の2回の会合（第1回は会長の召集による開催、第2回目は第1回理事会）
 - 第1回の会合（2月16日）で候補者選定委員会の意見を聴取し、理事長の互選を実施及びその後の会長、副会長、監事の選出方法の確認
 - 第2回の会合は第1回理事会となり会長、副会長、監事の選出（第1回は）
 - 会議日程（立教大学を予定している）
 - 候補者選定委員会の意見について
 - 会長、副会長、監事の選出方法の運用
 - 理事会への出欠率に関わらず全理事に投票用紙を送付する件
 - 信任投票的扱いに資する件

1997年度
日本レジャー・レクリエーション学会（第6回）
常任理事会（議事録）

- 事務局の扱い
新会長に一人すること承認された
開催日時：平成10年2月16日（日）18:30～18:00
開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 研修棟
- 出席者：前野、秋吉、黒田、高橋、田中（幹）、鈴木（拓）、水嶋、石井、阪田、越崎、鈴木（秀）、荒井、坂口、西田、西野、松浦、松田、楳井
- 幹事一泊滞
- 会長の挨拶
- 承認事項
 - 常任理事会（第7回）議事録確認
 - 報告事項
 - 未納分広告掲載料、広告料入金状況
 - 「ぎょうせい」からの学会出版関係印刷についてのその後の報告
 - 事務局（平成10・11年度）の扱い
 - 次回常任理事会（第9回）・理事会（第3回）・新理事会（第1回）会場及び日程
 - その他
 - 承認事項
 - 財政状況について

- 各常任理事による賛助会員（1件）の獲得に資する件
 - 代替案として常任理事への「歩み」（10冊）頒布による賛助会員の獲得光量の増加について
 - 「歩み」発行時の合意事項について
2. 新しい理事の会合（第1回）での候補者選定委員会の意見の表明に引き続き常任理事の互選の実施方法の確認について
- 事務局の扱い
 - 会員の承認
- | 氏名 | 所属 | 推薦者 |
|-------|----|-----|
| 八木規元一 | | 理事長 |
- IV. その他
1. 次回常任理事会（第9回）、理事会（第3回）及び新しい理事の第2回目の会合（第1回常任理事会）開催について
日時：平成10年3月15日（日）13:00～16:00

1997年度
日本レジャー・レクリエーション学会（第9回）
常任理事会（議事録）

- 場所：立教大学太刀川記念館（池袋駅西口より徒歩にて7分）
開催日時：平成10年3月15日（日）13:00～14:00
開催場所：立教大学太刀川記念館第1会議室
出席者：前野、秋吉、高橋、田中（幹）、石井、鈴木（秀）、荒井、坂口、西田、西野、松浦、松田、楳井
- 幹事一泊滞
- 会長の挨拶
- 承認事項
 - 常任理事会（第8回）議事録確認
 - 報告事項
 - 「ぎょうせい」からの学会出版関係印刷についてのその後の報告
 - 後日報告
 - 現事務局（平成10・11年度）の扱い
 - 第35号学生会誌による賛助会員の獲得光量の代償案及び「歩み」発行時の合意事項による常任理事・理事へのお願い（文芸発信2/13）
 - 会長、副会長、監事の選挙の実施経緯（22名の投票率について）
 - 信任11、白票1で信任された
 - その他
 - 承認事項

- 学生会誌第35号発行の準備状況
 - 1年費納入のお問い合わせ（選挙権との関係）/6月30日までの納入の定例化の件
 - 住所・所属先等確認用はがきの取り込み
 - 第28回学生会大会室内
 - 事務局発行方法等以上承認された
 - 平成9年度会計報告
学生会誌第35号の発行関係費用を除き101万円の現金、407人が年会費を納入したことが報告された。未納者について通知を送付することが承認された
 - 事務局（平成10・11年度）の扱い
副理事長大学から立教大学への移譲が承認された
 - 会員の承認
氏名 所属 推薦者
佐々木寿代 九龍工科大学 秋吉高橋
- IV. その他

1997年度
日本レジャー・レクリエーション学会新理事
（平成9・10年度）の会合（第1回）常任理事会（選挙録）

- 平成10年度第1回常任理事会について
平成10年4月20日（日）18:30～20:30
立教大学太刀川記念館第1会議室
開催日時：平成10年2月16日（日）19:00～20:00
開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 研修棟
- 出席者：前野、秋吉、黒田、鈴木（拓）、水嶋、高橋、田中（幹）、石井、楳井、鈴木（秀）、荒井、坂口、西田、西野、松浦、松田、楳井、山崎
- 幹事一泊滞
- 会員の挨拶
- 承認事項
 - 新理事（75名）の確認（自己紹介）
- 報告事項
 - 候補者選定委員委員長による経過報告（選挙録）
 - 事務局（平成10・11年度）の扱い（3月15日に報告）
 - 次回常任理事会（第9回）、理事会（第3回）、新理事会（第1回）会場及び日程
 - ワーキンググループの設置について
レジャー・レクリエーション専門家を養成、育成するためのワーキンググループを設置する
- 審議事項

- 候補者選定委員会の意見の表明
立教大学候補者選定委員会委員長より資料にもとづき信任投票的選挙の理解が表明された
 - 新理事長の互選
立教大学候補者選定委員会の再任が承認された
 - 各役員（会長・副会長・幹事）の選出方法の確認（資料）
 - 各役員候補者の確認
 - 郵送による投票（各役員決定）方法の確認
 - 各役員選挙の開催日（3月15日）
 - 各役員選挙の開催方法（新理事会（第1回）で開閉）
- IV. その他
- 次回（平成10年3月15日（日）立教大学太刀川記念館（池袋駅西口より徒歩にて7分）の会議開催は、
 1. 常任理事会（第9回）13:00～14:00

1998年度
常任理事会（平成10年度、第2回）の開催

- 理事会（第3回）及び新しい理事の第2回目の会合（第1回常任理事会）の会合開催
14:00～16:00
開催日時：平成10年5月25日（月）午後6時30分～午後8時
- 開催場所：立教大学 [12号館2階第3会議室]
- 議題
 - 前野（第1回、4月20日）の議事録確認
 - 報告事項
 - 学生会誌『35号』の発行について
 - 第28回学生会大会室内（昭和6大学）
 - 学会研究発表申し込み方法案内（締め切り6月20日）
 - 事務局移転
 - 会員名簿（所属先）連絡が滞りなく済み
 - 年会費費の納入案内6月30日
 - 年会費未納者への機関紙等の送付停止意向
 - 発起金返還請求への学会研究発表申込

- み案内表記
- 日本体育学会第30回記念大会への関連学会としての参加意志表明
 - その他
 - 承認事項
 - 常任理事の職務分掌について【資料1】
 - 承認事項
 - 総務、②財務、③研究企画、④編集、⑤広報渉外
 - 学会大会の日程（常任理事会、理事会、総会、総会等）、大会テーマ・内容
 - 開催場所の選定
 - 大会テーマの決定
 - 作業日程及び業務内容の分担
 - ニュース第64号について
 - 顧問の推薦・委嘱について（前野一平、黒田信宏、田中幹雄）
 - その他
 - 次回（第3回）常任理事会の会議日程
（6月29日（月）18:30～）

日本レジャー・レクリエーション学会
平成10年度 事業計画（案）

- 事業費
 - 第28回学生会大会開催
期日：平成10年11月23日（日）～23日（日）
場所：福岡大学
 - 雑誌誌「レジャー・レクリエーション研究」
第29号、第40号（大会号）、第41号
 - 「学会ニュース」No.63、No.64の発行
 - 組織の充実に、学生会員の拡充
 - 学術団体交流
 - その他
- 会議
 - 総会の開催
 - 理事会の開催
 - 常任理事会の開催
 - 各委員会の開催

日本レジャー・レクリエーション学会
平成10年度 予算（案）

平成10年4月1日～平成11年3月31日

平成9年度 決算報告書
平成9年4月1日～平成10年3月31日
日本レジャー・レクリエーション学会
（単位：円）

収入の部		
科目	予算	実績
前年度繰越金	187,784	197,774
年会費	2,188,200	2,078,891
連年費	200,000	400,000
入会金	3,000	2,000
賛助会費	187,000	21,000
広告料	888,000	538,512
雑収入	1,000	1,000
雑収入	40,000	694,599
合計	4,007,984	3,883,774

支出の部		
科目	予算	実績
印刷費	1,488,000	1,461,981
通信費	60,000	273,948
事務用品費	100,000	124,873
旅費交通費	400,000	774,242
燃料費	30,000	14,536
雑費	160,000	181,348
大会補助費	200,000	34,999
会費	100,000	142,774
大会補助費	200,000	284,848
予備費	66,784	6,814
前年度繰越金	318,984	318,984
合計	4,007,984	4,284,044

総収入：3,785,774
総支出：3,460,474
残高：315,300
監事の結算、決算報告は適正である
と認めました。
理事 前野一平 委員長 高橋正浩
平成10年4月18日

収入の部 (単位：円)

科目	予算	実績
前年度繰越金	318,984	318,984
年会費	1,488,000	1,000,000
連年費	100,000	1,000,000
入会金	40,000	1,000,000
賛助会費	187,000	21,000
広告料	888,000	538,512
雑収入	1,000	1,000
雑収入	132,800	694,599
合計	3,475,784	4,284,744

支出の部

科目	予算	実績
印刷費	1,488,000	1,461,981
通信費	60,000	273,948
事務用品費	100,000	124,873
旅費交通費	400,000	774,242
燃料費	30,000	14,536
雑費	160,000	181,348
大会補助費	200,000	34,999
会費	100,000	142,774
大会補助費	200,000	284,848
予備費	66,784	6,814
合計	3,475,784	4,284,744

第28回学会大会開催案内

開催期日：1998年11月22日(日)・23日(月)
場所：福岡大学 〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1 ☎092-871-6631内線6772

事務局からのお知らせ

- バックナンバー(『あゆみ』を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすすめします。
①『あゆみ』32号の値段
1冊¥2,000 (送料¥390) ※既報済み
②『あゆみ』を除くその他の研究誌は、1冊¥1,000 (送料別)
- 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。
①申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥1,000)と年会費(¥5,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。
- 平成10年度の年会費(¥5,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。
郵便振替番号 00150-3-602353
- 新事務局は、立教大学武蔵野新座キャンパスで、坂口正治(東洋大学短大)、西田俊夫(淑徳大学)、沼澤秀雄(立教大学)、片桐義昭(早稲田大学大学院)のメンバーに、会長、理事長をはじめ役員の方や会員の皆様の御協力を得ながらスタートしてまいりますのでよろしくお願いいたします。

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について
投稿欄文責担当

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最速でも2ヶ月程度の時間を要する点をご考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-206
立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニティ福祉学部 沼澤研究室内
「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

会員の動静

●新入会員 (所属)

福田 徹	作新学院大学	金 晃一	ソウル大学校
鈴木 裕彦	東1 さがみ緑園	八木 良紀	富士ゼックス総合教育研究所
三宅 智介	鶴ヶ丘SZN 環境計画室	折本 浩一	安田女子大学
立木 宏樹	近畿大学九州工学部	渡邊 眞一	神戸市立神戸商業高等学校
草山 友一	関東学院大学	唐澤 弘典	福岡大学短期大学部 (非常勤)
駒津 和康	北海道教育大学大館	中島 弘毅	福岡大学短期大学部
内田 州昭	愛知学院大学	笠木 秀樹	
早川 章治	熊本学院	八木 秀樹	
谷岡 聖三	国立員工高専等専門学校	佐々木寿代	九州工業大学情報工学部

●平成10年度 退会者

小杉 道雄

平成11年1月

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)
発行人 鈴木 秀雄 編集 沼澤秀雄委員長
事務局 〒852-8558 埼玉県新座市北野1-2-206
立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニティ福祉学部 沼澤研究室内
電話 FAX 048-471-7356
郵便振替 00150-3-602353

JANUARY, 1999
No. 64

新しい年を迎えて

会長 鈴木 祐一
(福岡女子大学名誉教授)

会員の皆様には、希望あふれる輝かしい新年1999年を、お迎えのこととお慶び申し上げます。皆様のご賛助と誇り多し一年になりました。昨年、福岡大学においての「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」をテーマとする学会大会が、所期の成果を成功裡に終了できましたことを喜んでいます。

これらに加え、会場として学会関係者許可ください。大会名譽会長に就任をいただいた、福岡大学学長石田重康先生をはじめ、第28回学会大会組織委員の皆様、そして大会運営にご尽力くださいました実行委員会委員長大谷博博先生と実行委員の方々の御厚意とご協力、そして申すまでもなく会員皆様のご理解があったからこそ、心から感謝と御礼を申し上げます。

さて、現代社会あらゆる局面において、予断を許さない厳しい時代であり、ひとりひとりの生き方が問われている時代でもあります。そのような中で、自身の幸福の追求はもとより、私たちがもつ「活力(エネルギー)」を自己のためだけでなく、自己実現としての社会参加や社会貢献あるいは社会還元のために他者に向けて費やしていく姿勢が必要であります。個人が、本質と機能をじょうぶに理解した質の高いレジャー・レクリエーションを生活の中で具現化していくための支援をすることもこれからの学会にとりまして一つの責務であらうと考えます。

学会の研究活動の更なる活性化とともに、学会の機能でもある会員相互の情報交換の場としての役割を果たす努力をして参りたい存じます。

今秋の第29回学会大会(淑徳大学)での皆様の研究成果の活発な発表を期待し、おめにかかるところを楽しみにしております。

JSLRSニュース10

- 新しい年を迎えて(鈴木祐一)..... P. 1
- 福岡大学での第28回学会大会を開催して(鈴木秀雄)..... P. 2
- 第28回日本レジャー・レクリエーション学会大会を終えて(大谷博博)..... P. 3
- 総会の報告..... P. 4
- 年度会費等の改正(値上げ)..... P. 5
- 理事会の報告..... P. 6
- 第29回学会大会研究発表申込手続について..... P. 6
- 委員会・事務局からのお知らせ..... P. 7
- 第29回学会大会開催地決定..... P. 8
- 会員の動静..... P. 8

見事な準備と心温まる実行委員会の運営による

第28回学会大会(於：福岡大学)

を無事開催して、そして...

理事長 鈴木 秀雄
(福岡大学大学院法務学専攻)

大相模九州場所の千秋夜が学会の初日となった第28回学会大会(於：福岡大学七隈キャンパス)は、福岡市内の気候と同じようにスタートからゴールまで、大会実行委員会(委員長：福岡大学スポーツ科学部大谷博博教授)の見事な準備と心温まる運営により、学会の発展が大会で実現できたといっても過言ではありません。本記事執筆も前日は福岡入りし、実行委員会との詳細な法的作業もこなし、基調講演者で福岡市市民局長佐藤部部部長、基調講演者である佐藤部部長、シンポジストで福岡教育大学教育学部三本正広教授、シンポジウムコーディネーターで大会実行委員長も兼ねる前述の大谷博博教授、さらに本学会理事で実行委員会事務局長を務められた松尾晋彦福岡大学教授の出席を得て、あらゆる角度からの基調講演やシンポジウムの実行にあたっての厳密な打ち合わせ、加えて会員皆様の受付業務、理事、懇親会、研究発表、総会、それらに伴う会場の手配と機器備品の準備状況、開会にあたっての石田重康(福岡大学学長)大会名譽会長挨拶に伴う式次第の確認、本学会鈴木祐一会長とご挨拶打ち合わせ等々、時間をかけての検討を行っていただきました。勿論時系列的に運営マニュアルを作成し、当日の実行委員の連携を避ける配慮も済ませ、素晴らしい会場と見事な実行委員会のチームワークで学会大会の運営が進められました。責任範囲(Span of Control)と指揮系統(Chain of Command)の明確さもあることが何回も時の呼吸による心温まる運営はた敬服するばかりでした。

快く学会大会の開催受理をいただいた福岡大学当局、心温まる運営を助けてくださった大会実行委員の皆様には心からの感謝と御礼を申し上げます。大会そのものを組織していただいた組織委員の方々にも深く感謝申し上げます。そのうちの中、御発表された会員の皆さんで、シンポジウム、懇親会、懇話会、総会等に参加された皆さんも、いたる所で「行き届いた運営であった」と実行委員の評価をされたのではないのでしょうか。

今回の学会大会テーマは「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」とし、その趣旨は、これまで国際交流の推進は一般的に、外務省をはじめとする公的分野の役割であると思われてきましたが、情報と交通のグローバル・ネットワーク化により、NGO(非政府団体)、NPO(非営利組織)など私的部門の果たす役割が大きくなってきています。さきの長野オリンピックアラスカでのワールドカップにみられるように、国際交流プロジェクトは民間にあつては、市民の積極的な協力・支援がきわめて重要になってきているのです。学会大会の開催地である九州・福岡においても、1995年夏季ユニバーシアード大会開催にあつては、市民のボランティア活動(サービス)が大会の成功に大きく貢献したことが高く評価されました。レジャー・レクリエーション活動は、原則的には個別のレジャー・レクリエーション活動への参加が重要であることは言うまでもありませんが、市民が、様々な遊びでなければ、飽き難い仕事でもない、いわゆる主体的かつ創造的な社会参加型あるいは社会貢献型の活動を通して国際交流プロジェクトに関わることも、レジャー・レクリエーションに就いて意義深いものです。このような活動を経験した人たちは、一緒に異文化の相互理解、国際交流への寄与に深い喜びを感じているのです。国際交流プロジェクトは、市民にとって、「世界・異文化・国際社会」を知るよい機会であり、また「日本・地域・自己」のアイデンティティに気づくよい機会でもあります。学会大会では、九州・福岡地区の経験、世界の経験と大分高所から検討し、その成果を社会にフィードバックし、今後の国際交流プロジェクト推進の良きサポーター(地域・団体・個人)育成に学会が貢献することも重要であると考え「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」をテーマとし、基調講演・シンポジウムを企画しました。

基調講演は「国際交流で私たちが経験し、学んだこと」と題し、佐藤部部長福岡大学スポーツ振興課長にお話しい、シンポジウムでは「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」というタイトルでコーディネーターを大谷博博福岡大学教授、3名のシンポジストはそれぞれ、1、「市民支援型国際交流のあり方」三本正広(福岡教育大学教授)、2、「ユニバーシアードでも学んだ国際交流プロジェクトの効果と課題」佐藤部部長(福岡市スポーツ振興課長)、3、「レジャー・レクリエーション

委員会・事務局からのお知らせ

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

投稿論文送付先
〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2の26
立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニケーション福祉学部 沼研究室内
「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

事務局からのお知らせ

- バックナンバー(「あゆみ」を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすすめます。
①「あゆみ」32号の値段
1冊 ¥2,000(郵送料 ¥390)
②「あゆみ」を除くその他の研究誌は、1冊 ¥1,000(送料別)
 - 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご一報ください。
- 【申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。】
平成10年度の年会費(平成10年度までは¥5,000)を収めていない会員がいますので、至急納入手続きをお願いします。
- 郵便振替番号
00150-3-602353

■事務局だより■

平成11年度は役員選挙の年でもあります。その選挙権、被選挙権を有するためには、年会費の納入が6月末日迄となっていますのでご注意ください。

次回第29回学会大会は 淑徳大学 国際コミュニケーション学部 (みずほ台キャンパス)で開催

次回学会大会の開催は、下記のとおり
淑徳大学国際コミュニケーション学部
(みずほ台キャンパス)と決定しました。

1. 会期：平成11年11月27日(土)・28日(日)
2. 会場：淑徳大学
〒354-0041
埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
電話 0492-74-1511

会員の動静(新入会員)

大 原 英 幸	国際コミュニケーション学部	大 田 節 子	福岡大学大学院
久 保 和 之	中央大学大学院	福 岡 直 由	福岡大学大学院
久 松 謙 理	東海大学大学院	山 田 力 也	福岡大学大学院
松 本 伸 子	大手前女子大学	藤 田 信 子	第一保育短期大学
石 井 貴 里		西 村 久 美 子	神戸大学大学院
境 井 直 志	武蔵野短期大学	中 嶋 博 史	和歌山大学教育学部
荒 井 直 幸	東京農工大学	芝 誠 貴	独立系短期大学付属看護産科学校
森 田 浩 幸	岩崎産業	町 田 弘 幸	福岡短期大学
森 原 孝 泰	日本大学大学院	城 弘 子	九州ルーテル学院大学
上 洗 谷 孝 秀	信州大学農学部大学院	賀 学 洋 郎	筑波大学
北 村 優 明	青森大学	山 口 有 次	早稲田大学大学院
那 池 幸 子	北海道女子大学短期大学部	土 井 由 紀 子	学校法人九州安達学園
水 崎 秀 敏	保谷市役所	池 田 孝 博	佐賀短期大学
	岡山大学体育研究所	井 上 弘 人	熊本学園大学

学会ニュース 日本レジャー・レクリエーション学会

発行人 鈴木 秀雄 編集 広瀬伸外郎
〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26
立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニケーション福祉学部 沼研究室内
電話:TEL 048-471-7356
郵便振替 00150-3-602353

会長挨拶

日本レジャー・レクリエーション学会の会長をお引き受けして、間もなく二期2年が終わろうとしております。この間、学会の役員として会員の皆さんのお力添えによりまして内情な歩みをして参りましたことに、御挨拶申し上げます。「開かれた学会運営」の基盤として、「学会会報」そして学会運営に直接関係する「役員選出問題」等の状況整備を行って学会の発展を期された、この2年間において、関係役員等の努力でその実現が図られたものと考へております。

昨年11月の第28回学会大会(福岡大学)の期には、すでにわが組織が、不図に揺らぎを来すことにも拘わらず、学会運営の担い手となる「会報」の改訂が、会員の皆さんのご理解と積極的な支援によりまして、実現いたしました。

これらの経緯から、学会としての研究活動等のより活性化を図ることが目下の課題と考へます。つきましては、次期の学会運営に際しての活動をとお祈りいたします。

一つはまず何でも、学会として最も重要な「研究活動、誌の発行、交流の場」これを固め確保しておくことと、許すの範囲内での会員の活用に関する一助と、年1回の学会大会の機会以外に、日頃の研究の進展について会員間の交流の場を設けては如何かということであり、

二つは、学会の基盤、活動の中心となるスタッフの育成を見据えて若い会員の協力、支援を得ることとあります。この点の実現には困難を伴うと考へますが、将来の学会の発展には、是非、考慮すべきと思っております。

そこで、現在の専門委員会(総務、研究企画、編集、広報・渉外、財務)の人的配分を振り、役員以外の会員に学会活動に参画を促してと考へます。役員と若い会員の知灼・心的交流は、活動の発展に大きな原動力となるものと思っております。

三つは、関係団体とくにわが学会設立の経緯を踏まえ、主な団体の研究及び人的な交流を行うことが、この学会としての更なる発展に資するものと思っております。

さて、本年の学会大会は、来年度11月5日(日)の期は、「淑徳大学 国際コミュニケーション学部」で開催を予定し、大学ご自身の協力をお願いしているところであります。

また、次年度の学会大会は、第30回記念大会として、会報誌については、目下候補中であり、第29年度学会大会として、研究発表等大会の機会を期して、ご協力をお願いいたします。

会員の皆さんのご協賛とご研究の更なる推進を祈念申し上げます。

JSLRSニュース9

1. 学会会長挨拶(鈴木祐一).....P. 1	6. 常任理事会報告.....P. 7
2. 学会理事長挨拶(鈴木秀雄).....P. 2	7. 事務局からのお知らせ.....P. 10
3. 新役員(次期理事).....P. 2	8. 編集委員会からのお知らせ.....P. 10
4. 第29回学会大会開催案内.....P. 3	9. 会員の動静.....P. 10
5. 学会大会研究発表要綱(27題).....P. 5	

学会大会に寄せて 過去5年の学会大会のテーマを振り返りながら

過去5年における学会大会テーマは、それぞれ「21世紀を生きるレジャー・レクリエーション環境」(註：新座大学北海道短期大学、第24回、1994年)；「新しい時代の創造的遊戯」(註：東京大学、第25回記念大会、1995年)；「福祉社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育への開眼」(註：奈良女子大学、第26回大会、1996年)；「レジャー・レクリエーション指導者養成と指導教育課程の役割」(註：東京農工大学、第27回大会、1997年)；「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」(註：福岡大学、第28回大会、1998年)であった。学会の共通言語であるレジャー・レクリエーションを掲げて5年間であり、組織、教育、研究、育成、交流等それぞれに重要なキーワードを掲げての開催後や問題意識の提供を試みた内容であったことは言うまでもない。

現代社会の中で、レジャー活動の身体的領域に存在するスポーツ(Physical Recreation)は、従来、単一の文化形成ではなく多領域に及ぶ複合的な存在であり、家庭、学校、地域、職業などあらゆる場面で耳に接し、また直接的、間接的な関係を開示する生活の中で何らかの存在を有している。それは見たり、聴いたり、読んだり、話したり、そして共通の話題としてその意味合いを強く持つ存在であるからといえる。スポーツが単に趣味の娯楽にとどまらず、多くの分野に影響を及ぼし、時には経済的側面でも見え、特に社会でセンセーションを醸成し、人の生き方考え方乃至その影響が及ぶなどの意味合いを持つ出来事も頻りに出ている。

スポーツの社会的存在に大きな役割を果たしているものが「メディア」である。メディアにヒトと人間関係や人間関係が構築されるのであり、まさにレジャー・レクリエーションそのものなのである。昔の講義と現在に学会員による訂正補正の修正研究発表も有り、多くの成果を上げた第29回学会大会までこのことを期している。余剰性を生む会員各位、また多くの皆さんのご協力により学会が盛り上がることを望んで感謝し学会の新たなページに貴重な足跡が刻まれることを会員皆さんと共に楽しみしついでに、西暦2000年の節目には第30回記念大会を迎える本学会であるが、更なる発展を期しながら第30回学会大会をしっかりと開催できたらと願わずにはならない。会員の皆さんとまた共にできることを楽しみに願っています。

日本レジャー・レクリエーション学会 平成12年度～13年度の新理事25名決定(理事名簿掲載を要)

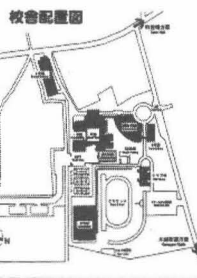
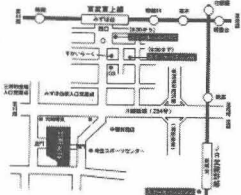
改選新理事10名(現行理事による選出)			新理事15名(正会員による選出)		
順位	氏名	所属	順位	氏名	所属
1	鈴木祐一	関東学院大学	1	藤岡 文 男	上智大学
2	鈴木秀雄	立教大学	2	藤岡 博 史	立教大学
3	西田 俊 夫	淑徳大学	3	寺 島 勝 一	明治大学
4	下村 泰 男	東京大学大学院	4	高 橋 正 敏	独立系短期大学
5	坂口 正 治	東洋大学短期大学	5	山 口 正 明	神戸大学
6	西野 七 郎	東海大学	6	山 口 正 明	千歳大学
7	松田 義 孝	筑波女子大学	7	藤 田 信 子	第一保育短期大学
8	松尾 三 代 子	東京大学体育大学	8	高 橋 正 敏	独立系短期大学
9	松 野 秀 夫	立教大学	9	廣 井 貴 里	和歌山大学
10	石 井 光 一	立教大学	10	藤 田 信 子	和歌山大学
			11	山 口 正 明	和歌山大学
			12	藤 田 信 子	和歌山大学
			13	藤 田 信 子	和歌山大学
			14	藤 田 信 子	和歌山大学
			15	藤 田 信 子	和歌山大学

(淑徳大学 平成11年12月4日・5日) 第29回学会大会

第29回学会大会のご案内

- 日程 平成11年12月4日(土)～12月5日(日)
- 会場 淑徳大学 みずほ台キャンパス
〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1 ☎0492-74-1511

淑徳大学
みずほ台
キャンパス
案内図



● 東武東上線「みずほ台駅」下車
徒歩5分より徒歩一駅(徒歩より25分)または普通
川越方面より徒歩一駅(川越より15分)または普通
「みずほ台駅」前より徒歩5分(徒歩より7分)
● 京浜東北線「東武池袋駅」下車
「東武池袋駅」駅南よりスクールバスが運行(所要時間15分)

- 理事会 平成11年12月4日(土)12:30～14:00 会場 第一会議室
- 懇親会 平成11年12月4日(土)14:45～15:45 会場 (第一会議室、シルクロード)
- 総会 平成11年12月5日(日)13:00～14:00 会場 211号教室

第29回学会大会 (淑徳大学 平成11年12月4日・5日)

日本レジャー・レクリエーション学会 第29回大会 日程

(於: 淑徳大学みずほ台キャンパス)
所在地: 〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
電話(0492-74-1511)

大会テーマ: メディアとスポーツ “今までとこれから”

平成11年12月4日 (土)

- 12:30～14:00 理事会 (第一会議室)
- 14:45～15:45 講演① 沢松奈生子氏 (テニスプレーヤー)
～選手の側から見たスポーツ映像の意味～
- 16:00～17:00 講演② 西田壽夫氏 (NHK解説委員・横浜国際競技場 場長)
～見せるためのスポーツ映像の変遷～
- 17:30～19:00 懇親会 (第一食堂 “シルクロード”)

平成11年12月5日 (日)

- 9:00～12:00 研究発表 (A会場 209号教室・B会場 210号教室)
- 13:00～14:00 総会 (211号教室)
- 14:10～16:10 研究発表 (A会場 209号教室・B会場 210号教室)

大会実行委員会から

※大会会場周辺の昼食については、食堂等がありませんので、12月5日(日)のお弁当(1,000円)の事前注文を受け付けます。返信書面を申込みの上、代金を大会参加費、懇親会費などと共に下記宛て11月20日(土)迄にお振り込みください。

振込先: 横浜銀行 小田原支店 (店番:721) 口座番号:1335942
日本レジャー・レクリエーション学会事務局 (担当: 西田俊夫)

(淑徳大学 平成11年12月4日・5日) 第29回学会大会

第29回学会大会研究発表・演題

■ 研究発表 209号教室

- 座長: 山崎博子 (静岡学院大学) 9:00～10:00
- A-01 「コンピュータ・ネットワーク・コミュニケーションのデジタル・モデル」
～そのスコップとシークエンス～
○鈴木秀雄 (関西学院大学)
- A-02 「レクリエーション環境化に関する研究」
○吉田圭一 (武蔵川女子大学)
- A-03 「民間レクリエーション団体のNPO法
受容過程に関する研究」
○志保直枝 (東北学院大学)
- 座長: 吉田圭一 (武蔵川女子大学) 10:00～11:00
- A-04 「現代高校生における自由時間活動の
相手選択と自主決定による活動傾向につ
いて」
○橋本和秀 (余暇問題研究所)
山崎博子 (静岡学院大学)
- A-05 「高校生の、ゆとり「経験」について(第2巻)
～ゆとり経験時の心理～」
○西野 仁 (東海大学)
- A-06 「レクリエーション “イメージ” の変遷
について
～自由連想法による反応値の比較～」
○高橋 伸 (関東学院大学)
高橋和枝 (余暇問題研究所)
- 座長: 西野 仁 (東海大学) 11:00～12:00
- A-07 「余暇教育プログラム参加者の余暇意識
の变化」
○野野原明 (武蔵川女子大学)
- A-08 「レクリエーションから遊遊するイメージ」
○武石直子 (和泉短期大学)
- A-09 「レジャー行動モデルの行動計量学的分析
～青春期の事例を中心として～」
○上原 薫 (青森大学社会学部)
樋谷春秀 (青森大学社会学部)
- 座長: 栗野宏明 (東北女子大学) 14:20～15:20
- A-10 「ポスト大衆余暇娯楽社会」における教
育の理念
～エリート巧大衆の権威をこえて～」
○服部百合子 (日光大学)
- A-11 「Play Day」の成立過程とその理念
～1900年代前半のアメリカに
女性スポーツ教育を手がかりとして～」
○荒井香子 (学習院女子大学)
- A-12 「アメリカの療法的レクリエーション専
門職団体における立法運動の展開
～2つの階層の展開の差異を中心に～」
○堀田智一郎 (静学女子短期大学)
- 座長: 荒井香子 (学習院女子大学) 15:20～16:00
- A-13 「福祉施設におけるレクリエーション機
会に関する社会学的研究」
○立木安樹 (九州福祉短期大学)
- A-14 「高齢者施設におけるアクティビティの
研究」
○宮本秀樹 (岡山県立岡山高校)
- B-08 「A S Bを導入した体育授業が女子普通
学生の学識達成に及ぼす効果」
○岡村泰斗 (淑徳大学大学院)
飯田 穂 (淑徳大学)
岡 智子 (淑徳大学)
- B-09 「高齢者A氏、B氏の余暇活動について
～高齢者における余暇活動の類似化
とレクリエーション介入方法確立に向
けての事例研究(1)～」
○山崎博子 (静岡学院大学)
上野 幸 (余暇問題研究所)
高橋和枝 (余暇問題研究所)
- 座長: 下村彰男 (東海大学) 14:20～15:20
- B-10 「地域活動と少年・少女キャンプにつ
いての実践報告」
～江東区少年の船の場合～」
○藤田久 (余暇問題研究所)
服部和枝 (余暇問題研究所)
- B-11 「長期・短期自然体験が参加者の達成感
に及ぼす効果の比較」
○岡 智子 (淑徳大学)
飯田 穂 (淑徳大学)
岡村泰斗 (淑徳大学大学院)
- B-12 「自然とのふれあい活動への参加者意識
の推移について
～東京都町田市かしの本山自然公園
を事例に～」
○服田和秀 (東京農工大学)
藤 薫 (東京農工大学)
- 座長: 下村彰男 (東海大学) 15:20～15:40
- B-13 「森林観光・レクリエーションに関する
背景・施設の種類ポテンシャル算出に
関する考察」
～宮城県を対象としたケーススタディ～」
○田中伸彦 (森林総合研究所)

(淑徳大学 平成11年12月4日・5日) 第29回学会大会

■ 研究発表 210号教室

- 座長: 堀松 寿 (淑徳大学) 9:00～10:00
- B-01 「社交ダンスサークル参加者の意識調査
について」
○竹内正雄 (星薬科大学)
- B-02 「スケッチ・ダイバーの楽しさに関する
調査研究」
○千足健一 (女子学院女子短期大学)
大石永剛 (東京女子体育大学)
- B-03 「高校野球における “甲子園精神” の再
生産過程
～滞在型リキエーション論に依拠して～」
○清水一巳 (福岡大学)
大谷幹博 (福岡大学)
山田力也 (福岡大学)
- 座長: 下村彰男 (東海大学) 14:20～15:20
- B-10 「地域活動と少年・少女キャンプにつ
いての実践報告」
～江東区少年の船の場合～」
○藤田久 (余暇問題研究所)
服部和枝 (余暇問題研究所)
- 座長: 北浦三子 (淑徳大学) 10:00～11:00
- B-04 「エスニシティとスポーツに関する研究」
○山田力也 (福岡大学)
大谷幹博 (福岡大学)
- B-09 「レクリエーションの視点からみた地域
テニス活動の現状と変遷」
～千葉市テニス協会ベテラン委員会
の事例を通して～」
○橋 広志 (武蔵野短期大学)
- B-06 「レクリエーションの発展に関する研究 (I V)
～活動目的の疲労感にみた
レクリエーション活動の効果～」
○服部 伸 (関西福祉大学)
高橋 明 (香川県立短期大学)
- 座長: 寺嶋繁一 (明治大学) 11:00～12:00
- B-07 「運動によるレクリエーション効果を高
める条件について」
○岡崎 明 (香川県立短期大学)
藤部伸一 (関西福祉大学)

平成11年度(1999年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第1回) 議事録

日時:平成11年4月26日(月)
午後6時00分～午後7時00分
場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館
第1会議室
出席者:鈴木(祐)、秋吉、石井、松田、廣生、
鈴木(秀)、荒井、坂口、西田、松浦、
油井
幹事-沼澤、片桐
会長挨拶

- I. 確認事項
前回(平成10年度第9回、3月18日)の議事録確認
→Ⅲ. 審議事項に、「7) 日本レジャー・レクリエーション学会の研究支援基金の充実理念・方法等については継続審議」を追加。
II. 報告事項
1) 年度会費の納入状況について(平成11年3月31日現在:476名、新年度の平成11年度分納額約204名)
2) 日本体育学会第50回記念大会/体育・スポーツ関連学会大会組織委員会へのイブニングシンポジウム企画について
→日本レジャー・レクリエーション学会が主体的に企画できるように、日本体育学会に申し入れを行うこととなった。
3) 日本学術会議第18期学術研究団体登録について
4) 改選理事選出選挙について
5) 選挙管理委員会(5名)の選出について
→松浦常任理事が選挙管理委員長として

選出された。

8) その他

III. 審議事項

- 1) 平成10年度事業計画(案)について
2) 平成10年度決算(案)について
→原案監事から会計監査報告があり、適正であったことが報告された後、平成10年度事業計画および決算の原案が承認された。
3) 平成11年度事業計画(案)について
→原案(資料3)どおりとし、承認された。
4) 平成11年度予算(案)について
→内外学術団体交流費が平成10年度¥105,000なので平成11年も同額必要となるのではという意見や、次年度繰越金が予算案にあるのは不自然ではないかという意見が出され、内外学術団体交流費を¥110,000、予備費を¥380,000とし、次年度繰越金の項目は削除することとし、予算案が承認された。
5) 改選理事選出(現行理事による選挙)の要項について
→理事会にて開議を行うことが報告された。
6) 会員の動静について
→会員の動静については、入会者2名(①伊 健樹、②堀部百合子)
7) その他 理事会規定の改正(案)について
→理事会の運営に関する規定6、および8.の改正について理事長から説明があり、原案が承認され、理事会にて審議することとした。

IV. その他

- 1) 次回(第2回)常任理事会の開催は6月14日(月)と決定した。

以上

平成11年度(1999年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第2回) 議事録

日時:平成11年6月14日(月)
午後6時30分～午後8時00分
場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館
第1会議室
出席者:鈴木(祐)、石井、高橋、鈴木(秀)、
荒井、嵯峨、坂口、下村、西田、西野
幹事-沼澤、片桐
会長挨拶

I. 確認事項

- 前回(平成11年度第1回、4月26日)の議事録確認

II. 報告事項

- 1) 年度会費の納入状況について(平成11年6月14日現在:231名)
2) 日本体育学会第50回記念大会について
→会長、理事長がシンポジウムの企画・運営について日本体育学会と話し合いを行ったところ、すでにシンポジウムの企画は進んでいる他学会が既に進めていることが報告され、事前の相談が不十分であったことに對する謝罪が当該担当者からあった。シンポジウムの企画が具体化されつつあるようなので、本学会としてこの件については了承し、運営に協力を行っていくこととなった。
3) 日本学術会議第18期学術研究団体登録に

ついて

- すべての手続きが完了したことが報告された。
4) 改選理事選出選挙の結果等の報告(理事への報告)について
→理事会(平成11年度 第1回)の審議概要を資料として各理事に郵送した。
5) 学会『機関誌』第40号の発行について
→7月をめどに第40号を発行する予定。
6) 第30回記念大会の開催会場の確定について
→11月の3選目もしくは4選目に開催したい旨を明治大学に申し出ているが、日程等についても未定。
7) その他
→日本学術協力財団から、学術シンポジウムの企画募集があったが、日程等の都合もあり、今回は見送ることとした。

III. 審議事項

- 1) 第29回学会大会の「大会テーマ」等、および議題発表について
→開催校の特徴を活かしたテーマ、現在の成果動向を踏まえてのテーマなど、いくつかの案が出され、今回の議論を踏まえながら、研究委員会と大会テーマについて審議を行うこととなった。
2) 常任理事の追加について
→寺島理事、松尾理事を常任理事として追加することが承認された。
3) 会員の動静について
→井上辰雄、花村映子、土厨守、長岡豊英、中島弘毅、本多祐一、の6名の入会が承認された。

IV. その他

- 1) 次回(第3回)常任理事会の開催は7月24日(月)と決定した。

以上

平成11年度(1999年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第3回) 議事録

日時:平成11年7月28日(月)
午後6時30分～午後8時00分
場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館
第1会議室
出席者:鈴木(祐)、松田、鈴木(秀)、荒井、
坂口、西田、西野、松浦
幹事-沼澤、片桐
会長挨拶

- I. 確認事項
前回(平成11年度第2回、6月14日)の議事録確認
II. 報告事項
1) 年度会費の納入状況について(平成11年7月28日現在:309名)
2) 学会『機関誌』第40号の発行について
→学会『機関誌』第40号が、7月26日現在、2校を校正中であることが報告された。(現時点では、すでに会員に配布済み)
3) 第29回大会開催期日の変更について
→第29回大会開催期日が、平成11年11月27日・28日から12月4日・5日に変更になったことが報告された。なお、会員各位には40号の機関誌にて通知済み。

レクリエーションの視点から同テーマ、30回大会を見据えながら過去4年間の大会テーマの集約・反省を中心としたテーマなど、いくつか案が出され、議論のまとめとして「メディアとスポーツ」を大会の副テーマとして、研究委員会が固くなつめを行うこととなった。また、30回大会については、これまでのレジャー・レクリエーション研究の総括をテーマとして、今後審議を行っていくこととした。

- 2) 第29回学会大会議題発表の申し込み締め切り期日の延期について
→大会開催日が変更になったため、議題発表の申し込み期日を9月28日まで延期することが承認された。(発表原稿については、10月15日締め切り。)
3) 選挙管理委員会による平成12・13年度役員選挙の公示について
→機関誌の40号にて、選挙管理委員会名で公示することが承認された。
4) 会員の動静について
→白木悦子氏の入会が承認された。

IV. その他

- 1) 次回(第4回)常任理事会の開催は9月27日(月)と決定した。

以上

事務局からのお知らせ

- 1. バックナンバー(『あゆみ』を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすすめておきます。
①『歩み』32号の頒布
1冊¥1,000(郵送料¥300) ※既報済み
②『あゆみ』を除くその他の研究誌
1冊¥1,000(送料別)
2. 会員の皆様のお知らせにレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。
【申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。】
3. 平成11年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。
郵便振替番号 00150-3-60255
4. 事務局長は、会長はじめ役員の方や会員の皆様との協力を得ながら立教大学武蔵野新キャンパスで、鈴木秀雄理事長と坂口正治(東洋大学短期大学)、西田俊夫(東海大学)、沼澤秀雄(立教大学)、片桐順晴(早稲田大学大学院)のメンバーにて、2年目を迎えていますのでよろしくお願いたします。

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付けております。また、研究論文 投稿論文送付先
の審査、修正作業には最低でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。 立教大学 武蔵野新キャンパス
会員の皆様は積極的に投稿をお願いします。 コミュニティ福祉学 沼澤研究室内
『日本レジャー・レクリエーション学会事務局』

会員の動静

●新入会員 (所属)

- 尹 西儀 和光大学
藤部百合子 京都大学
北村 映子 京都ノートルダム女子大学
井上 辰雄 京都ノートルダム女子大学
本多 祐一 關西学院大学
高橋 雅夫 武蔵野女子大学
土居 守 エンゼル財団
中島 弘毅 聖徳大学
白木 悦子 宮城学院女子大学
藤田哲一郎 静嘉女子短期大学
リベラルアーツ総合研究所
前田 博子 慶應体育大学
荒井 悠子 慈恵文化短期大学
岡沢 哲子 甲子館短期大学
清水 一巳 福岡大学大学院
丸山 文子 大阪キリスト教短大
学校法人 表敬学園 表敬福祉専門学校

●平成10年度 退会者

- 猪平 正行

〔Ⅱ〕資料

1) 年度会費の納入状況について (前回の常任理事会以降の会費納入はなし)

2) 学会「機関誌」第41号(学会大号号)の発行について
→現在印刷中であり、11月中旬には配布予定であることが報告された。

3) ニュース「第49号」(学会参加部設置案ハガキの受付を含む)について
→現在校正中であり、10月中に配布予定であることが報告された。

4) 平成12・13年度役員選出選挙投票(9月30日印刷券)の結果について
→松浦善博管理委員会委員長より選出結果が報告された。

5) 第30回学会大会発表申し込みへの発表抄録原稿の送付と受理状況について
→期滿に作業が進んでいることが報告された。

6) 候補者選定委員会の審議経過について
→幹事会長より、実質的な会合に先立ち委員が関係を作成し、個別に各委員に意見をうかがいながら調整を行ない、以下の候補者の選定されたことが報告された。また、副会長については、第30回記念大会が控えていることもあり、6名の選定がなされたことが報告された。

会 長: 鈴木 祐
副会長: 秋吉 石井 高橋 松田
幹 事: 小田切 水嶋 (正)
7) その他 (特になし)

Ⅲ. 審議事項

1. 学会大会の行幸・日程の確認及び組織構成

1) 第1日: 理事会 (第2回)、講演、懇談会 (参加者の確認)

2) 第2日: 発表 (原稿のお問い合わせ)、総会

3) 組織委員会、実行委員会の構成
→組織委員会を名誉会長は京都大学から選出することが提案され、承認された。また、大会当日の日程については、学会ニュースで発表が報告されたことになった。

2. 現行理事による新理事選挙 (平成11年11月15日) について

1) 現行理事会への選挙管理委員会による新理事15名の選挙結果の報告

2) 新理事15名への就任承諾書と共に会長、副会長、監事の選挙投票用紙の同時送付

3) 新理事による新理事長の選出 (互選)
→現行理事会の顧問 (塾) によって、鈴木秀雄理事より現行理事会の予定が説明され、承諾された。また、新役員を選出方法についても説明があり、承認された。

4. 会長の候補について
→次顧問一丸氏 (リベラルアーツ総合研究所)、新田新一郎氏 (熱帯女子短期大学) の入会が承認された。

5. その他
→池井常任理事より、学会「機関誌」の質的向上を図るために、また学会の歴史を記録する意味でも、大会の議決を掲載し会員に周知することが提案された。議決では話し言葉になってしまったため、「機関誌」としての性質を考慮して学会ニュースに掲載してはどうかという意見が出され、掲載方法については今後検討することとし、またしありの掲載については何らかの形で内容を掲載することについて内諾を得ることになった。

Ⅳ. その他

1) 新理事選挙は、11月15日(日) 18:30~

1999年度
日本レジャー・レクリエーション学会 (第1回) 理事選挙 (選挙事務)

(注: 立教大学太刀川記念館第1会議室) と決定した。

■日時: 平成11年4月2日(日)
午後7時00分~午後8時30分

■場所: 立教大学池袋キャンパス太刀川記念館

1) 会 議 室
出席者: 理事: 鈴木 (祐)、秋吉、石井、松田、鈴木 (秀)、荒井、坂口、寺嶋、西田、松尾、松浦、藤岡、山崎、前井
幹事: 藤生
幹事: 前澤、片桐
幹事: 神守、西村
幹事: 藤田、大谷、関本、小田切、下村、鈴木 (文)、高橋、藤野、永嶋、野野、守尾、山口、(監事: 大塚)

欠席者: 榊嶋

会長挨拶
【備 考】

Ⅰ. 総務事項
1) 定足数の確認 (現在出席者: 27名中、出席理事: 14名、委員候補者: 13名、欠席: 1名)

Ⅱ. 報告事項
1) 前年度年度会費の納入状況について (平成11年3月31日現在: 478名、平成11年度定統納者数204名)

2) 日本学術会議第18期学術研究団体登録については、理事委員の登録事務の整理をしているところで、期限内の5月中旬の届け出を予定している

3) その他

Ⅲ. 選挙事項
1) 改選前理事選出選挙 (現行理事による選挙) の開票および改選結果選挙事務の整理について現行理事27名による改選前理事の選挙結果は、投票数25票、有効投票25票で順位は、「学術誌」としての性質を考慮して学会ニュースに掲載してはどうかという意見が出され、掲載方法については今後検討することとし、またしありの掲載については何らかの形で内容を掲載することについて内諾を得ることになった。

Ⅳ. その他
1) 改選前理事選出選挙 (現行理事による選挙) の開票および改選結果選挙事務の整理については、理事委員の登録事務の整理をしているところで、期限内の5月中旬の届け出を予定している

2) 選挙管理委員会 (5名) の選出につ

いて
松浦三代子、松尾賢史、寺嶋新一、坂口正治、小田切新一の5名が選出され、互選により選挙管理委員会として松浦三代子氏が選出された (任期は、平成11年5月1日から平成13年3月31日まで)

3) 平成10年度選挙報告 (案) について
資料 1

4) 平成10年度決算 (案) について
会計監査報告 資料 2

5) 平成11年度事業計画 (案) について
資料 3

6) 平成11年度予算 (案) について
資料 4

7) 理事会規定の改正 (案) について
資料 5

8) その他:
第30回記念大会の開催を明治大学 (駿河台校舎) でお願いすることとし、期日は原則的には

1999年度
日本レジャー・レクリエーション学会 (現行理事選挙)
第2回、新理事選挙 (1日) 議決選挙 (選挙事務)

■日時: 平成11年11月15日(日)
午後8時30分~午後8時40分
■場所: 立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館

出席者: 鈴木 (祐)、石井、高橋 (輔)、鈴木 (秀)、荒井、榊嶋、坂口、下村、長崎 (祐)、西野、松浦、藤岡、山崎、前井
幹事: 前澤、片桐

会長挨拶
Ⅰ. 総務事項
1) 定足数の確認

Ⅱ. 報告事項

1) 年度会費の納入状況について (446名が納入済み)

2) 学会「機関誌」第41号(学会大号号)の発行について
→現在印刷中であり、11月中旬には配布予定であることが報告された。

3) ニュース「第49号」(学会参加部設置案ハガキの受付を含む) について
→学会への配布が完了したことが報告された。

4) 第30回学会大会発表申し込みへの発表抄録原稿の送付と受理状況について
→発表抄録原稿の送付に集まっているが、以下のような報告者の変更があったことが報告された。
発表中止: 三島田力也、遊超、芝 誠志 (名)、共同研究学造: 木下秋吉 (名)

5) 候補者選定委員会の審議経過について
→幹事会長より、実質的な会合は開けなかったため、委員が関係を作成し、文書でのやりとりや個別に各委員に意見をうかがいながら調整を行ない、以下の候補者の選定されたことが報告された。また、副会長については、現時では若干名となっているが、30回記念大会が控えていることもあり、8名選定されたことが報告された。

会 長: 鈴木 祐
副会長: 秋吉 石井 高橋 松田
幹 事: 小田切 水嶋 (正)

6) その他
→第30回記念大会の開催日について、開催予定校の明治大学の都合により、まだ日程が確定していないこと、当学会としては第1案として11月25・26日、第2案として11月18・19日を開催していることが報告された。来年1月頃には確定する予定。

Ⅲ. 審議事項

1. 学会大会の行幸・日程の確認及び組織構成

1) 第1日: 理事会 (第2回)、講演、懇談会 (参加者の確認)

2) 第2日: 発表 (原稿のお問い合わせ)、総会

3) 組織委員会、実行委員会の構成
→組織委員会を名誉会長は京都大学学長、名誉副会長は国府野山先生に就任を依頼されたことが報告され、承認された。

2. 現行理事会への選挙管理委員会による新理事15名の選挙結果について
→松浦善博管理委員会委員長より、選挙

結果としてと上30位までが報告された。

3. 就任承諾書の確認と新理事による新理事長の選出 (互選)
→新理事15名から就任承諾書が提出されたことが報告された。また、候補者選定委員会より、新理事長として坂口常任理事が候補としてあげられていることが報告され、互選の結果、坂口常任理事が新理事長として選出された。

4. 会長、副会長、監事の選挙結果について
→以下の選挙結果が報告され、全員満票で数人を越えた得票を得たことが報告された。

5. 会員の候補について
→竹田正樹氏、横内剛典氏、三浦孝子氏、松井外客子氏、後藤芳子氏、小山祐三氏、川井明氏、青山南英氏の入会が承認された。

6. その他
組織委員会より、43号、43号の特集企画について協議があり、掲載の声をど取り入れていくこと、造園・観光・福祉等を全体構成で取り上げること、学問と資格認定をめぐる問題を取り上げること、「大学教育」より「高等教育」という表現の方が好ましい、といった議論がなされ、これを踏まえて編纂委員会で議決を行なったこととなった。
西野常任理事より、ニュージーランドワイカト大学と東海大学との共同企画でレジャー・レクリエーションに関する国際会議を開催する予定であり、当学会への賛助依頼あり、承認された。

Ⅳ. その他
1) 現行理事会 (第3回) は、12月4日(日) 12:30~14:00 (於: 京都大学) と決定した

1999年度
日本レジャー・レクリエーション学会 (第3回) 理事会 (選挙事務)

■日時: 平成11年12月4日(日)
午後12時30分~午後14時00分

■場所: 京都大学ほむぎキャンパス 第1会議室

出席者: 鈴木 (祐)、秋吉 石井、高橋 (輔)、松田、鈴木 (秀)、荒井、榊嶋、坂口、寺嶋、山崎、西野、松尾、松浦、藤岡、山口、山崎
監事: 藤生、大塚
幹事: 前澤、片桐

会長挨拶
Ⅰ. 総務事項
1) 定足数の確認
第2回 (平成11年度 第2回、11月15日) の議事録

Ⅱ. 報告事項
1) 会員の状況について (459名が会費納入済み)

2) 学会「機関誌」第41号(学会大号号)の発行について
→11月25日付けで発行されたことが報告された。

3) 学会大会・懇談会の参加希望者数について
→はがきでの回答では、大会参加予定者は83名、懇談会参加予定者は10名であることが報告された。

4) その他
一特になし

Ⅲ. 審議事項

1) 議会に対する準備について
議決 (案)

第1号議案 平成10年度選挙報告
第2号議案 平成10年度収支決算
監査報告
第3号議案 平成11年度事業計画 (案)
報告 (案)
報告 (案)
①役員選挙結果及び選挙の互選に伴う新員の報告
第30回記念大会開催地・日程 (注: 明治大学、期日: 平成12年11月25・26日)

→以上の案が、審議の結果承認された。

2) その他 (会員の候補について)
→岡崎分氏、小池和幸氏、磯津健子氏の入会が承認された。

1. 平成12年度~平成13年度新役員紹介

会 長	鈴木 祐 (再任)	石井 允 (再任)
副 会 長	秋吉 高橋 (再任) 高橋 和 松田 秀雄 (再任) 池井 正 沼 (新任)	松本 秀雄 (新任) 鈴木 秀雄 (新任)
監 事	小田切 愛一 (新任)	水嶋 正 郁 (新任)
理 事 長	坂口 正治 (新任)	
理 事	藤生 圭 康 (新任) 荒井 晋 子 (再任) 池井 裕 敏 (再任) 片桐 義 晴 (新任) 柴 崎 寿 (再任) 高橋 伸 (新任) 寺 島 賢一 (再任) 西野 一 仁 (再任) 小野寺 尚 三 (再任) 兼 松尾 文 男 (再任) 松尾 賢 次 (再任) 山 崎 保一 (再任)	下 村 彰 男 (再任) 茅野 宏 明 (再任) 西野 俊 夫 (再任) 沼 澤 秀 雄 (新任) 松 浦 三 代 子 (再任) 山 口 義 雄 (再任) 大 谷 幸 博 (再任) 兼 関 本 伸 之 仁 (再任) 小野寺 尚 三 (再任) 兼 其 川 亮 (新任) 兼 守 嶋 信 次 (再任) 兼

(※印5名は理事長推薦理事)

会員の皆様へ

新年度（2000年度）会費納入のお願い

2000年度会費を別添振込用紙にてお振込下さい。

事務局からのお知らせ

- 1. バックナンバー(「あゆみ」を含む)の実費販売を行っています。特に新入会員におすすめます。
①「あゆみ」32号の値段
1冊¥2,000(郵送料¥300) ※既報済み
②「あゆみ」を除くその他の研究誌は、
1冊¥1,000(送料別)
2. 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご一報ください。
(申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年度会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。)
3. 平成11年度の年費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。
郵便振替番号 00150-3-802353

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業は最速でも2ヶ月程度の日数を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

会員の動静

●新入会員 (○数字は今年度内入会者の通算番号)

- ◎竹田 正樹 飯小 池津 和幸
◎横内 晴典 瀧津 津井 幸子
◎三浦 惠子 堀石 飯島 晶子
◎松本 井外 野村 井元 忍子
◎後藤 藤 芳裕 灰一 内色 夏穂
◎小山 山井 三 橋坂 金島 真由
◎川井 清 藤 藤 其 川 由美
◎山崎 清 藤 藤 其 川 由美
◎阿部 清 藤 藤 其 川 由美

●退会者

- 金明問題研究所
町 加藤 江子
村 松 藤 次
村 藤 藤 次
清水 勝之

日本レジャー・レクリエーション学会
第29回大会終了

日本レジャー・レクリエーション学会第29回大会が平成12年12月4日・5日の両日京都テマみずほ台キャンパス1号館で開催された。参加者は約220名。大会テーマは「メディアとスポーツ “今までとこれから”」で、講師は、沢松奈生子氏(テニスプレーヤー)と西田善夫氏(NHK解説委員)でした。2日目は、会員による27演題の研究発表があり、実行委員会の働きはもとより、学生による手づくりの学会も目ざした今学会は成功裏に終わりました。協力して頂いた実行委員会各委員、そして107名の学生には、心から感謝いたします。

(西田善夫 第29回学会大会実行委員長・本学会常任理事)

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

JULY 2000 No.67

新年度を迎えて

日本レジャー・レクリエーション学会は、歴代の会員をはじめ役員の方々のご努力と、会員の皆さんのご協力により、着実に歩みを進め、本年11月に「第30回記念学会大会」を迎えることとなりました。また、先般、学会役員選出の手續を経て、2000-2001年度の役員が決定し活動を開始し、今後、学会として、より研究・組織的発展の機運を回っておりたいと思います。
この機会に私は、3期8年をわたって、学会の組織化とくに活動の基盤となる財政の確立に關し、役員・会員の理解と協力を得るための多大の努力をされた鈴木勇雄理事長に、心からの敬意と感謝を申し上げます。また、学会発展の推進のための学会事務局、お付き合い頂いた「関東学術大学及び立教大学」の関係の方に、厚く礼を申し上げます。
会員の皆さんの日々の研鑽が、研究成果として集約され、学会をより身近なものとして利用・活用していただけるよう、会長として「開かれた学会」へのいそいその努力を心して参る所存であります。
第30回記念学会大会へのご参加を、お待ちしております。

学会理事長に就任して

日本レジャー・レクリエーション学会
理事長 坂口正治(東洋大学教授)

この度、前理事長の鈴木勇雄先生の後任として、日本レジャー・レクリエーション学会の理事長をお引き受けすることになりました。これまで長きにわたり理事長として学会の運営にあたりいただきました鈴木勇雄先生には深く感謝申し上げます。先生のご指導のもとで事務局をお手伝いさせていただきました。至らない点ばかりの程ではありますが、鈴木第一会長をはじめ、役員の前先生方のご指導と会員の皆様のおかげで以上のご協力いただきながら、本学会の発展のために努力はありますが限りがつく所です。
本学会が前先生方のご努力により、日本レジャー・レクリエーション学会の発展であります懇談会からはじまり、研究会、自來レジャー・レクリエーション学会から今に至るまでの長い道のりの中で、その時代、時代の果たすべき役割を確かなものとして今日に至っていることは会員の皆様方がご承知のとおりです。
このように多くの前先生方の働き上げてまいりました学会を21世紀に向けてますます努力ある。そして学園的な学術の発展を期して会員の協力を組織してまいりたいと思っております。皆様方のご指導とお力添えをお願い申し上げます。

JSLRSニュース11

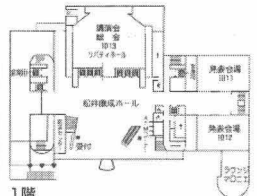
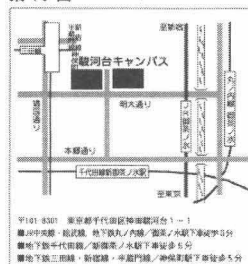
- 1. 会長挨拶 P.1
2. 新理事長挨拶 P.1
3. 第30回記念大会のご案内 P.2
4. 平成11年度事業報告 P.3
5. 平成11年度決算報告 P.3
6. 平成12年度事業計画(案) P.4
7. 平成12年度予算(案) P.4
8. 常任理事會・理事会報告 P.5
9. 事務局からのお知らせ P.8
10. 編集委員会からのお知らせ P.8
11. 会員の動静 P.8

(明治大学 2000年11月25日・26日) 第30回学会記念大会

第30回学会記念大会のご案内

■日程 平成12年11月25日(土)~11月26日(日)
■会場 明治大学駿河台校舎

案内図



- 発表会場: 1011教室 1012教室 (1F)
●閉会・講演会場: リハリオール (101教室) (1F)
●理事会会場: 研究棟会議室
●懇親会場: カラオケ館 カラオケ (3F)

1. 研究発表申し込みの方法

発表ハガキ (FAX不可) に演題、氏名(共同研究または個人研究の区別および共同研究の場合は共同研究者の氏名全てを記してください)、住所(共同研究の場合は代表者とする)、郵便番号、電話番号を記入の上、8月15日(火)まで締切を過ぎましたので、本部事務局(立教大学)にお申し込み下さい。所定の封筒に封筒用紙を申し込み書に記されている発表者の住所に送付します。また発表原稿(A4用紙2枚または4枚)の締め切りは、9月30日(日)(必着願)です。※共同研究者も学会員に必ずおられます。非会員の場合は緊急入会手続きをおとりください。

2. 申し込み先(学会事務局)

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26 立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内 日本レジャー・レクリエーション学会事務局

大会テーマとシンポジウムについて

- ① 大会テーマ「新しい時代とあそびの思考」
② 記念講演は作家の井上ひさしさんを予定しています。
③ シンポジウムとシンポジスト
1. あそびの文化 藤浦 徳浩(東京教育大学)
2. あそびと空間 瀬田 五十八先生(東京農工大学)
3. あそびとライフスタイル 東村 敏子先生(江戸川大学)
※以上、本学会常任理事・顧問の方(後援大学)
記念大会の詳細は、次回のニュース8月号でお知らせします。

第30回大会の発表抄録用紙は8月下旬にお送りさせていただきますのでご準備よろしくお願ひいたします。
此、お願ひの期は3月30日(土)までといたします。

理事会(第2回)の議事録補綴

Ⅱ. 審議内容

1. 理事の専門委員会への所属について
→前回の理事会で鈴木会長から提案のあった専門委員会の運営について、積極的な理事の参加が必要であることから専門委員会への各理事の所属については、本回の常任委員会にて各委員長から提案を行ったこととなった。
2. 平成12年度事業計画(案)について
→平成12年度事業計画(案)が提案され、審議の後、原案通り承認された。
3. 平成12年度予算(案)について
→平成12年度予算(案)が提案され、審議の後、原案通り承認された。
4. その他
 - ・第31回学大会について、東北福祉大学から議案の事前により大会開催を引き受けることができない旨の申し出があった。同大学からは、平成15年度であれば引き受け可能という申し出もあったが、この点については「聞き取」こととした。また、第31回大会の会場については白根に直し、次回の常任理事会までに事務局で検討することとなった。
 - ・学術会議より、当学より委員を推薦してほしいという話があり、鈴木前理事長と坂口理事長を推薦したが、事務局より報告された。推薦の締め切りが理事会開催前ということもあり、事後承認ではあったが承認された。
 - ・鈴木会長より、江崎慎四郎氏が今年80歳を迎えられ、関係13団体が発起人となった祝賀会を開催する予定であることが報告された。また、招待状を発送する関係で、当学理事と若干名のリストを表行委員へ通知した点について説明があった。
 - ・下村編集委員会委員長より、編集委員会の今後の運営について説明があった。現在候補にあがっている委員のリストが資料として配布されるとともに、若い委員を委員として推薦してほしいという旨の話があった。
 - ・編集委員会の実施内容や、論文審査過程に関する質疑が行われ、こうした点については今後検討を行っていくこととなった。

以上

2000年度
日本レジャー・レクリエーション学会(第1回)常任理事会(議事録)

- 日時:平成12年5月29日(月) 18:30~20:30
■場所:立教大学池袋キャンパス
■会場:太刀川記念館第1会議室
出席者:鈴木(祐)、松田、鈴木(秀)、寺島、荒井、坂口、盛岡、松尾、山崎、池井、沼澤
会長の挨拶
1. 挨拶事項
前回理事会(第2回)の議事録の確認
 2. 報告事項
Ⅰ. 各専門委員会の構成メンバーについて
→資料により、総務、財務、研究企画、編集、広報渉外の委員メンバーが報告された。
 2. 入会案内の作成について
→今年度の入会案内を作成したことが報告された。
 3. 学会「種別誌」第41号の進捗状況について
→一稿づかの原稿が書き次第発送されることが報告された。
 4. 会費の納入状況について(5月28日現在、19名)
- Ⅲ. 審議事項
1. 第30回学大会のテーマについて
明治大学の寺島常任理事より、井上ひさし氏による特別講演会の提案があり、テーマとの関連性を考えながら検討していくことで承認された。
テーマについては第30回大会に相応しいものということで、社会に向けてアピールできるもの、市民参加型の学会、21世紀に向けてのレジャー・レクリエーションの在り方などが意見として出された。そのなかで「遊び」をテーマにする案を検討することになり、最終承認となった。
 2. その他
入退会の承認なし
- Ⅳ. その他
1. 山崎常任理事よりWLRRAのスピン(ピルバオ7月3~7日)での学大会の紹介があった。
 2. 次回常任理事会(第2回)の開催日時について
2000年6月28日(月) 18:30~20:30
立教大学池袋キャンパス太刀川記念館第1会議室

-7-

事務局からのお知らせ

1. バックナンバー(「あゆみ」を含む)の複製頒布を行っています。特に新入会員におすすめです。
①「あゆみ」32号の複製
1冊¥2,000(郵送料¥300) 郵配送料込み
②「あゆみ」を除くその他の研究誌は、1冊¥1,000(送料別)
2. 会員の皆様のお知らせでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご相談ください。
【申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年度会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。】
3. 平成12年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、差支納入手続きをお願いいたします。
郵便振替番号 00150-3-602353
4. 事務局は、会長はじめ役員の方々や会員の皆様の御協力を得ながら立教大学武蔵野新座キャンパスで、坂口正治理事長のもと西田俊夫(敬徳大学)、松尾智夫(立教大学)、沼澤秀雄(立教大学)、片桐義博(新都区障害者身体連絡協議会)、上村都賀給(株式会社アイメディア)のメンバーでスタートしてまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最遅でも2ヶ月程度の間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

投稿論文送付先
〒352-8558 埼玉県新座市北野1の2の28
立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニティ福祉学部 松尾研究室
『日本レジャー・レクリエーション学会事務局』

会員の動静

●新入会員 (所属) ●新入、特別入会者の説明

- ①新部 保子 梅光女学院大学短期大学部
- ②矢野 実光 聖カタリナ女子大学
- ③竹田 隆行 東京都スポーツ産業団体連合会
- ④陳 碧潔 国立台北科技大学

●平成12年度 退会者

- 鈴木 信吾
- 松本 一文
- 鈴木 良雄
- 高橋 規
- 二宮 浩希
- 藤原 裕二

-8-

学会ニュース

OCTOBER 2000
No. 68

学会記念大会への誘い

日本レジャー・レクリエーション学会
会長 鈴木 祐一

日本レジャー・レクリエーション学会では、本年度の学大会を「第30回学会記念大会」として開催いたします。

すでに、学会ニュース68号・67号でお知らせ申し上げておりますが、この大会は、明治大学のご協力により、明治大学駿河台キャンパス内の「リパティール」等を会場としております。

大会内容につきましては、第30回学会記念大会実行委員会が企画・立案されました。

「新しい時代とあそびの再考」を大会テーマに

- 記念講演は作家の 井上ひさし氏
- シンポジウムは「あそびと文化」、「あそびと空間」、「あそびとライフスタイル」について、三人のシンポジストにお話をいただくこととしております。

今回のシンポジウムは、時間的ゆとりをもって、ご参加の方々やシンポジストとの交流をより図ることとしております。この記念大会を機会に、レジャー・レクリエーション学会の活動のいっそうの活性化と会員の皆さんの身近かな研究組織となりますよう、願っております。

多くの皆さんのお喜びをお待ちしています。

JSLRSニュース7

1. 学会会長挨拶(鈴木祐一) …… P. 1
2. 第30回学会記念大会のご案内 P. 2
3. 学大会研究発表要録(29題) P. 4
4. 常任理事会報告 …… P. 6
5. 事務局からのお知らせ …… P. 10
6. 編集委員会からのお知らせ …… P. 10
7. 会員の動静 …… P. 10

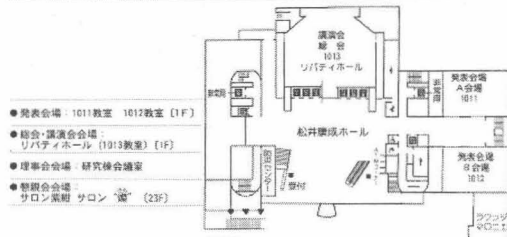
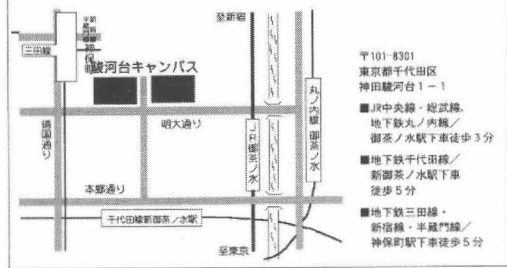
-1-

第30回学会記念大会(明治大学 2000年11月25日・26日)

第30回学会記念大会のご案内

- 日程 平成12年11月25日(土)~11月26日(日)
- 会場 明治大学駿河台校舎

案内図



- 発表会場 1011教室 1012教室 (1F)
 - 総会・講演会場 リパティール (1013教室) (1F)
 - 理事会会場 研究協議室
 - 懇親会場 サロン 楽サロ 楽 (23F)
- 1階
- 理事会 平成12年11月25日 12:00~13:30 会場 研究協議室
懇親会 平成12年11月25日 18:15~19:45 会場 5,000円 サロン楽サロ 楽 (23F)
総会 平成12年11月26日 13:00~14:00 会場 リパティール1013教室 (1F)

-3-

(明治大学 2000年11月25日・26日) 第30回学会記念大会

日本レジャー・レクリエーション学会
第30回学会記念大会開催要領

“新しい時代とあそび再考”

- 主催：日本レジャー・レクリエーション学会
- 主管：日本レジャー・レクリエーション学会第30回学会記念大会実行委員会
- 期日：平成12年11月25日(土)・26日(日)
- 会場：明治大学 駿河台校舎

- 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
5. 日程：[11月25日(土)]
- 12:00～ 受付 ホール [1F]
 - 12:00～13:30 総会 研究員集議室
 - 13:30～13:45 開会挨拶 学会会長 鈴木祐一氏・明治大学学長 山田暲一氏
 - 13:45～15:15 記念講演 井上ひさし氏 (作家)
リパティホール1013教室 [1F]
 - 15:30～18:00 シンポジウム リパティホール1013教室 [1F]
コーディネーター 嵯峨 寿氏 (筑波大学)
「あそび」と文化 嵯峨 寿氏 (筑波大学)
「あそび」と空間 藤生 邦氏 (東京農業大学)
「あそび」とライフスタイル 実村恭子氏 (江戸川大学)
 - 18:15～19:45 懇話会 サロン兼読 サロン “楽” (2F)
- [11月26日(日)]
- 8:30～ 受付 ホール [1F]
 - 9:00～12:00 研究発表 A会場1011教室 [1F]
B会場1012教室 [1F]
 - 13:00～14:00 総会 リパティホール1013教室 [1F]
 - 14:20～16:20 研究発表 A教室1011教室 [1F]
B教室1012教室 [1F]

大会実行委員会から

発表形態は

- ① コンピュータによるスクリーンプレゼンテーション
- ② スライド
- ③ O. H. P.
- ④ ビデオ

学会発表者でご利用の方は、同封の返信書面にてお知らせ下さい。
※11月26日(日)の昼食については、お弁当(1,000円)の事前注文を受け付けます。返信書面でお申込みの上、代金を大会参加費、懇話会費などと共に11月15日(金)迄にお振り込みください。

振込先： 横浜銀行 小田原支店 (店番:721) 口座番号：1335942
日本レジャー・レクリエーション学会事務局 (担当：西田俊夫)

第30回学会記念大会 (明治大学 2000年11月25日・26日)

第30回学会記念大会研究発表・演題

■ 研究発表 A会場1011教室

- 座長：高橋 伸 (国語学教育大学) 9:00～10:00
- A-01 「余暇教育の視点から見た啓蒙活動～玄倉川水難事故後の野外活動に対する啓蒙活動を中心に～」
□ 鈴木英徳 (国東学院大学) □ 鈴木英徳 (国東学院大学)
- A-02 「フランスの余暇～コードジールの子どもを中心に～」
□ 藤澤通子 (聖学院大学)
- A-03 「レジャー行動とストレスコーピング」
□ 土屋 進 (青森大学) □ 土屋 進 (青森大学)
- 座長：荒井裕子 (伊藤女子学) 10:00～11:00
- A-04 「高齢者O氏、D氏の余暇活動について～高齢者における異質化と高齢者に対するレクリエーション援助方法の確立にむけての事例研究～」
□ 山崎 幸 (余暇問題研究所) □ 山崎 幸 (余暇問題研究所)
- A-05 「レクリエーションカウンセリング・「余暇カウンセリング」：余暇教育の進展～The best of the Therapeutic Recreation Journal: Leisure Education (1988)を手がかりとして～」
□ 堀田賢一郎 (静女子短期大学)
- A-06 「マクロ的視点からみるセラピューティックレクリエーション～玄倉川水難から生まれた啓蒙活動を中心に～」
□ 鈴木英徳 (国東学院大学)
- 座長：下村彰男 (東京大学大学院) 11:00～12:00
- A-07 「組織キャンプにおけるカウンセラーの意識変化に関する研究」
□ 廣田敏久 (余暇問題研究所) □ 廣田敏久 (余暇問題研究所)
- A-08 「A S Eを導入した体育授業が女子普通学生の友達つきあいに及ぼす効果」
□ 岡崎泰典 (筑波大学大学院)
- A-09 「日本における公園運動とレクリエーション運動の統合の必要性について～アメリカにおける先行事例に学んで～」
□ 山崎裕子 (余暇問題研究所) □ 山崎裕子 (余暇問題研究所)
- A-10 「教養知」についての人間論的考察～ホモ・サピエンスとホモ・ルーデンス～」
□ 藤原百合子 (拓光大学)
- A-11 「ヨハン・ホイジンガ研究の動向～近代文明批評に焦点をあてて～」
□ 杉浦 泰 (筑波大学)
- A-12 「近代日本における「初期」レクリエーション論の検討～福田俊之助を手がかりに～」
□ 坂内夏子 (早稲田大学)
- 座長：山田力也 (福岡大学) 15:20～16:00
- A-13 「高齢者におけるレクリエーションの位置づけ～日本とオーストラリアの比較から～」
□ 芳賀賢治 (東京家政学院大学)
- A-14 「民間レクリエーション団体のNPO法受容過程に関する研究～」
□ 赤堀方典 (静女子短期大学)

(明治大学 2000年11月25日・26日) 第30回学会記念大会

■ 研究発表 B会場1012教室

- 座長：松浦三代子 (国語学教育大学) 9:00～10:00
- B-01 「ニュースポーツの発育過程に関する研究Ⅰ～ニュースポーツの制度化と競技者内の視点から～」
□ 山口勇一 (国語学教育大学) □ 山口勇一 (国語学教育大学)
- B-02 「ニュースポーツの発育過程に関する研究Ⅱ～ニュースポーツの発育過程のスポーツ価値意識を中心に～」
□ 山口勇一 (国語学教育大学) □ 山口勇一 (国語学教育大学)
- B-03 「レクリエーション・スポーツクラブの活動状況と意識に関する事例研究～クラブ活動への意識変化と個人状況による意識の違いについて～」
□ 長岡美菜 (武蔵川女子大学) □ 長岡美菜 (武蔵川女子大学)
- 座長：山口勇一 (国語学教育大学) 10:00～11:00
- B-04 「自治体の生涯スポーツイベント開催までの経緯に関する一考察」
□ 竹田隆行 (スポーツ産業総合研究所) □ 竹田隆行 (スポーツ産業総合研究所)
- B-05 「大学スポーツチーム中実践におけるフロンティアと視察評価」
□ 千足 新一 (女子学教育大学) □ 千足 新一 (女子学教育大学)
- B-06 「XCスキーとウォーキングスキー(歩くスキー)」
□ 藤嶋 孝
- 座長：岡生 恵 (東京農業大学) 11:00～12:00
- B-07 「レクリエーション活動におけるニュースポーツとしての「エコベース」の検討」
□ 高橋仁美 (同志社大学非常勤) □ 高橋仁美 (同志社大学非常勤)
- B-08 「レクリエーション活動を用いた育児支援プログラム～親子運動プログラムと母親のレスポンス～」
□ 芝 誠哉 (広島学院短期大学) □ 芝 誠哉 (広島学院短期大学)
- B-09 「レクリエーションの発展に関する研究Ⅴ～高校生への体育授業を通して～」
□ 藤原伸一 (関西福祉大学) □ 藤原伸一 (関西福祉大学)
- 座長：山崎裕子 (余暇問題研究所) 14:20～15:20
- B-10 「B S Mデータを用いた特性としての内発的動機づけ傾向 (autotelic personality) に関する検討～"autotelic persons"の日常行動・経験パターンの特徴」
□ 佐橋由美 (静女子短期大学)
- B-11 「母体的価値」と「父長的価値」からみる現代スポーツの価値」
□ 島津優子 (東海大学大学院) □ 島津優子 (東海大学大学院)
- B-12 「尾瀬山の鼻・見聞湖の木道から眺める景観の価値」
□ 池井正昭 (千葉大学)
- 座長：佐橋由美 (静女子短期大学) 15:20～16:20
- B-13 「西国園競走ネットワーク「ルールボケット」に関する一考察」
□ 小泉勇治郎 (松山東洋女子大学)
- B-14 「都市部公共自治体のジュニアリーダー～一般市民世代少年女にける友人関係意識の比較」
□ 藤本和秀 (余暇問題研究所) □ 藤本和秀 (余暇問題研究所)
- B-15 「ナイキC区にみるスポーツの遊戯性とrecreationalism」
□ 嵯峨 寿 (筑波大学)

平成12年度(2000年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会 (第2回) 議事録

日時：平成12年6月26日(月)
午後6時30分～午後8時30分
場所：立教大学池袋キャンパス太刀川記念館 第1会議室

出席者：鈴木(祐)、松井、坂口、藤生、荒井、嵯峨、寺島、西田、西野、松嶋、松尾、山崎
理事-岩澤、片桐
幹事-上村

I. 諮議事項
前回常任理事会(平成12年5月29日)議事録の確認

レジャー・レクリエーション教育の在り方と趣向)の提言と、第29回学会大会の議決要旨、レギュラーの投稿論文を掲載する予定、

3) 会費納入状況について
→平成12年6月28日現在：304名

- III. 審議事項
- 1) 第30回学会大会のテーマの決定
→第30回学会大会について添付資料が配布され、大会のテーマ、議題、シンポジウムの企画、運営について話し合った。その結果、テーマは「新しい時代とあそびの再考」とし、議題は井上ひさし氏に依頼。また、シンポジウムの司会進行は嵯峨孝任理事にお話し、内容・シンポジストについては次回決定することとした。
 - 2) 第30回記念大会広告料の確認について
→第30回記念大会広告料について、添付資料が配布され、1/4ページの組合の広告料が15,000円から20,000円に変更されることが承認された。
 - 3) その他
→第30回記念大会で、これまでの学会の貢献者へ感謝状を贈ることについて秋吉副会長より提案があった。これについては一応承認を得たが、内容についてはさらに検討し審議していくことになった。
→新入会員の勧誘について
①衣部昌子、②矢野宏光、③竹田隆行、④藤原貴之の4名が承認された。

平成12年度(2000年)
**日教レジャー・レクリエーション学会
 常任理事会(第3回) 議事録**

日時:平成12年7月28日(月)
 午後6時30分～午後8時30分
 場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館
 第1会議室
 出席者:鈴木(祐)、高橋(和)、松田、坂口、
 荒井、堀越、下村、西田、佐藤、松尾、
 山崎
 幹事-上村
 傍聴-片桐、多田(寺崎常任理事代理)

会長挨拶

Ⅰ. 確認事項
 前回常任理事会(第2回)の議事録確認
 →Ⅱ. 報告事項2)の内容を訂正。訂正後の文書は以下の通り。「機関誌」第42号に掲載予定の内容について坂口理事長から報告があり、詳細については編集委員会の越嶋常任理事より説明があった。現段階では、大学におけるレジャー・レクリエーション教育の在り方と動向に関する座談会の要旨と、第29回学会大会の講演要旨、投稿論文を掲載する予定。」

Ⅱ. 報告事項
 1) 学会「機関誌」第42号の進捗状況について
 →下村常任理事より、最終編集が終了し8月中旬には発行予定であること、審査済みの投稿論文が3本、その他に4本の論文

が現在編集委員会にあること、「機関誌」第43号もしくは第44号において前回大会の講演者の原稿を掲載予定であることが報告された。
 また、編集委員会が十分に機能していない現状があるため、委員会を充実させるために各常任理事に委員の推薦をお願いしたいという申し出が、下村常任理事からあった。
 2) 学会ニュース7月号の発送について
 →坂口理事より会員への発送が完了したことが報告された。
 3) 会費納入状況について
 →坂口理事より325名が会費納入済みであることが報告された。
 4) その他
 →高橋副会長、山崎常任理事より、スペインで行われたW.L.R.A大会の報告があった。1200～1300名前後の参加者があり、2ヶ所の会場で行われ、全体的にわかりやすいという雰囲気であったことが報告された。

Ⅲ. 審議事項
 1) 第30回学会記念大会の日程について
 2) 第30回学会記念大会シンポジウムについて(シンポジストの決定と内容の確認について)
 →上記2点について、坂口理事より別添紙が送られた。「第30回学会記念大会開催要綱(案)」にしたがって説明があった。開催要綱(案)については、学会功労者への感謝状贈呈をどのように位置づけ、また大会当日にはどのように

—7—

平成12年度(2000年)
**日教レジャー・レクリエーション学会
 常任理事会(第4回) 議事録**

日時:平成12年9月28日(火)
 午後6時30分～午後8時30分
 場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館
 第1会議室
 出席者:鈴木(祐)、高橋(和)、石井、鈴木(秀)、
 油井、坂口、麻生、荒井、堀越、松尾、
 山崎
 幹事-上村

会長挨拶

Ⅰ. 確認事項
 前回常任理事会(第3回) 議事録の確認

Ⅱ. 報告事項
 1) 学会「機関誌」第42号の発行について
 →坂口理事より、「機関誌」第42号の会員への発送が完了したことが報告された。
 2) 第30回学会記念大会発表の申込状況について
 →坂口理事より、現在31本の申し込みがあったこと、抄録欄の締め切りは今月末であること、現在2名の提出が確認済みであることが報告された。
 3) 会費納入状況について
 →坂口理事より434名の会費納入済みであることが報告された。
 4) その他
 →第42号「機関誌」の掲載記事の中で、

執り行うか、記念講演の運営方法について、シンポジウムの時間が十分に取れないのではないかと、などの質疑があった。現段階では感謝状贈呈は総会時のほうが適切であること、記念講演のあり方としてフアワーとの質疑応答を行うことはあまりなじまないこと、シンポジウムを充実したものにするためにもしっかりと時間をとった方がよいことなどが議論され、感謝状贈呈は2日目の総会時に行なうこととなった。記念講演とシンポジウムの運営については大会実行委員である寺崎常任理事が欠席のため、常任理事会での議論の内容を伝えて再度検討を行なうことが承認された。なお、次回大会の開催として、大会テーマの掲げ方(大会テーマと研究報告の関連、シンポジウムのテーマ設定など)について議論を行っていくことが確認された。

3) その他
 →休会希望が事務局に寄せられたが、学会としては制度として入・退会しかないことを伝え、本人の意思を再度確認することとなった。
 →事務局より、各委員会の連絡等を電子メールで行いたいという提案があり、今後メールにて連絡をすること、またフアックスにて委任状を送付することも承認された。
 →事務局より、「機関誌」大会号への広告掲載を再度お願いしたいとの申し出があった。

—8—

題目の英語表記にスペルミスがあったことが指摘された。

Ⅲ. 審議事項
 1) 第30回学会記念大会の開催について
 →大会の開催について別添資料が配布された最終審議がなされた。その結果、受付開始は12:00、開会挨拶は13:30からとなった。また、1時間の予定であった井上ひさし氏の講演は、13:45から1時間半に延長された。理事会は12:00から13:30の予定。
 2) 第30回学会記念大会シンポジウムについて
 シンポジストの決定と内容の確認について
 →当初シンポジストを依頼していた進士先生が出席できなくなったため、代わりに藤生先生をお願いする旨が報告された。また、2時間30分をわたるシンポジウムを有意義なものとするため、越嶋先生にコーディネートを依頼することが再確認された。
 3) その他
 →明治大学の学生、教職員、千代田区民などの無料参加が認められた。また、人数制限を設けることや事前に整理券を配るなどの策を講じる必要性について話し合った。
 →第31回学会大会の会場について、鈴木祐一会長から千葉大学に依頼したいという申し出があり承認された。千葉大学の越井先生には会長から別途お願いすることとなった。

以上

—9—

事務局からのお知らせ

1. バックナンバー(「あゆみ」を含む)の実費徴収を行っています。特に新入会員におすすみます。
 ①「歩み」32号の送料
 1冊¥2,000(郵便送料300) ※既済済み
 ②「あゆみ」を除くその他の研究誌は、
 1冊¥1,000 (送料別)

2. 会員の皆様のお知らせでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。

[申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年度会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。]
 3. 平成12年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、緊急納入手続きをお願いします。
 郵便振替番号 00150-5-602353

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最速でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。
 会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。
 「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

投稿論文送付先
 〒352-8558 埼玉県新座市北野1の2の28
 立教大学 武蔵野新座キャンパス
 コミュニティ福祉学部 松尾研究室内

お喜びと訂正

●「レジャー・レクリエーション研究」第43号P13の英文タイトルのところでスペルのまちがいがございましたのでお詫びと訂正いたします。 Education-Education.

会員の動静

●新入会員 (所属) ○転出、*登録なしの部員
 ①鈴木 勇一 福岡県市体育協会
 ②奈良 義之 日本文学
 ③長塚 裕子 同志社大学福祉講師
 ④越嶋紀代子 京都女子大学
 ⑤藤田千鶴子 奈良女子大学非常勤講師
 ⑥高橋 仁英 同志社大学福祉講師
 ⑦大野 文彦 近江八幡市立八幡小学校
 ⑧山 富希 千葉大学大学院
 ⑨岸田 圭世 大阪大学

●平成12年度 退会者
 田中 幸吉 松下 三郎
 西沢加納隆 高森 辰男
 横山 一郎 藤田 匡内
 高倉 正治 山本 和裕
 松木 幹子
 東京歯科大学短期大学部

以下の会員の住所が不明です。御存じの方からご方角を「宝塚」または「事務局」まで一報下さい。
 ①渡辺在知子
 ②荒川 東洋
 ③伊 龍廣
 ④藤原美子
 ⑤山本 宝蔵
 ⑥岡 延雄
 ⑦渡本 文昭
 ⑧山村 昌代
 ⑨若林 裕子

—10—

平成13年3月

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)
 発行人 坂口 正典 編集 広嶋輝外委員長
 事務局 〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26
 立教大学 武蔵野新座キャンパス
 コミュニティ福祉学部 応用研究室内
 電話 048-471-7345
 郵便番号 40152-3-69233

MARCH 2001
No. 69

新たな世紀を迎えて

日本レジャー・レクリエーション学会
会長 鈴木 祐一

日本レジャー・レクリエーション学会の第30回学会記念大会は、20世紀最後の2000年11月25、26日の両日、明治大学駿河台キャンパスの「リパティール」等を会場に開催しました。

明治大学のご協力と大会実行委員会（寺島善一委員長）委員のご配慮とご尽力によって、明るい・こころ溢るる記念大会として無事終了することができ、関係の方々には厚く御礼を申し上げます。

「新しい時代とあそびの再考」を大会テーマに、井上ひさし先生の記念講演「日本人とレジャー」は、その中で参加者ひとりひとりが先生との接点が得られ、ふれあいのある記念講演であったと考えられています。

一方、2時間30分のシンポジウムは、「あそびと文化」、「あそびとライフスタイル」、「あそびと空間」のそれぞれについて3名のシンポジストとのゆとりある交流をめざした企画も、多くの成果を現したものと確信しております。さらに、第2日目は、2会場で行われた研究発表が行われました。この記念大会を契機に、さらには新たな世紀を迎えての年輩の学会活動が、各委員の組織的活動によって、より活力ある学会の「あゆみ」となりますよう努力したいと存じます。

さて、2001年度は、次期（2002～2003年度）学会の新役員を選出の間もなく行われます。会員の皆さまの学会活動に対する深いご理解のもと、役員選出にいろいろのご協力をお願いいたします。

JSLRSニュース10

- | | | | |
|------------------------|-----------|---------------------------|------------|
| 1. 会長挨拶 |P. 1 | 6. 定例研究会のご案内 |P. 9 |
| 2. 第31回学会大会開催案内・開催のご案内 | P. 2 | 7. 2001年度(平成13年度)会費納入のお願い |P. 9 |
| 3. 第31回学会大会研究発表論文の募集要項 |P. 2 | 8. 事務局からのお知らせ |P. 10 |
| 4. 第30回学会記念大会を終えて |P. 3 | 9. 編集委員会からのお知らせ |P. 10 |
| 5. 常任理事会・理事会の報告 |P. 4 | 10. 会員の動静 |P. 10 |

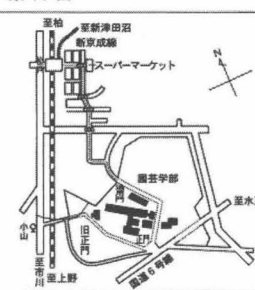
-1-

(千葉大学 2001年12月1日・2日) 第31回学会大会

第31回学会大会のご案内

- 日程 平成13年12月1日(土)～12月2日(日)
- 会場 千葉大学園芸学部松戸キャンパス

案内図



〒271-8510
千葉県松戸市松戸648番地
TEL 047-308-8704 FAX 047-308-8720

(選考)

- JR常磐線 上野駅から
JR常磐線松戸駅まで約20分
- JR常磐線(地下鉄千代田線)
又は新成線松戸駅下車東口から
徒歩約15分
- JR総武線市川駅から京成バス松戸
東行(園台経由)を利用約35分、
小山下車徒歩約5分

1. 研究発表申し込みの方法

官製ハガキ（FAX不可）に敬願、氏名（共同研究または個人研究の区別および共同研究の場合は共同研究者の氏名全てを記してください）、住所（共同研究の場合は代表者とする）、郵便番号、電話番号を記入の上、8月30日までに、本事務局（立教大学）にお申し込み下さい。所定の抄録原稿用紙を申し込み書に記載されている発表者の住所に送付して下さい。
 また発表原稿（A4判2枚または4枚）の締め切りは、9月30日（必着厳守）です。
 ※共同研究者も学会員にながれず、非会員の場合には至急入金手続きをおとりください。

2. 申し込み先（学会事務局）

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26 立教大学 武蔵野新座キャンパス
 コミュニティ福祉学部 応用研究室内 日本レジャー・レクリエーション学会事務局

第31回学会大会の発表抄録原稿は8月下旬に送付させていただきますのでご準備よろしくお願いたします。尚、原稿のメ切りは9月30日(日)までといたします。

-2-

第30回記念大会を終えて

実行委員長・明治大学 寺島 善一

記念すべき第30回大会の開催役をお引き受けし、無事終了したことで、はっとしているところです。わが明治大学は第13型大学として生き残りをかけて、23階建のハイテク装置を完備した校舎を設立したのは1988年であった。それ以来、各方面の学会からの依頼により頻りに学会大会が開催されてきました。それら、先に経験された諸学会実行委員の同僚にノウハウを教わりながらの準備であった。その準備期間に、ご丁寧に、鈴木会長、坂口理事長には何回も、明治大学の経緯関係に頭を下げさせて頂きました。恐縮な程でございます。この書面をお借りして厚くお礼申し上げます。

学会の第30回記念大会にふさわしいプログラム作りを考え、敬願、荒井、藤生常任理事を中心として、「テーマ」「シンポジウム」「基調講演」などの内容を決定する作業にたかりました。この中で、私は基調講演の撰者として、井上ひさし先生を強く推薦致しました。井上先生は作家として、人間の本质を見つめる時、「人間における遊び・芸術の重要性」を強調されていたからです。わが学会の研究が、レジャー・レクリエーションの「方法」に強く傾斜している現状を見つめた時、井上ひさし先生から、その「方法」を導き出す、「原理・本質・理想」をお伺いすることは、大変重要であると考えたからです。商業資本を自由中心とした施設、プログラムに随なされる愚かしさを指摘され、「良質」な自由時間構成の重要性について、種々のケースを紹介して頂きながら、力説されました。

大会準備の中で、年に一回、学会の仲間とじっくり旧交を暖め、研究・教育について協議をする場である「懇話会」にも一寸と工夫をこらしました。本学の交際団体の中から弦楽四重奏を編成し、「良質な時間」を通して頂くために、バックグラウンド・ミュージックとして演奏をさせました。

最後に、次回からの大会のために、1つ一言を呈したいと思います。実行委員会からは、各種印刷物やニュースで、発表者の方々にその方法（スライド、O・H・P、CDROMなどの使用の有無）についてお伺いしました。がしかし事務局・実行委員会に何の連絡もなく、当日、急に持ち込まれた発表者の方何人かおられ、実行委員会を慌てさせた。その結果、発表時間帯を乱すことになりました。参加者の皆様にはその不始末についてお詫言申し上げますとともに、不届きな発表者の方々に注意を申し上げたいと思います。

-3-

平成12年度(2000年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会（第5回）議事録

■ 日時：平成12年10月23日(月)

午後6時30分～午後8時30分

■ 場所：立教大学池袋キャンパス

5号館 第2会議室

出席者：鈴木（祐）、石井、鈴木（勇）、池井、坂口、寺島、松尾、山崎、松浦、西田、下村、理事一総務：幹事一上村

会長挨拶

I. 確認事項

- ・前回常任理事会（第4回）議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 第30回学会記念大会発表抄録原稿の届状況について
→坂口理事長より、9月末の締め切り時で29編の申し込みがあったことが報告された。
- 2) 第30回学会記念大会シンポジウムの打ち合わせ状況について
→大会コーディネーターの櫻嶋常任理事が欠席のため、省略された。
- 3) 学会ニュースの進捗状況について
→坂口理事長より、学会ニュースが10月末に発送されることが報告された。
- 4) 会費納入状況について
→坂口理事長より452名が会費納入済みであることが報告された。
- 5) その他
→坂口理事長より、日本学術会議から、第18期体育・スポーツ科学研究連絡委員会の委員を学会から推薦してほしい

という要請があったこと、鈴木（祐）会長と総務で相談した結果、2名を推薦したことが報告された。

III. 審議事項

- 1) 日本レジャー・レクリエーション学会第31回大会の日程について
→第31回大会について別途資料が配布され、会場と日程について話し合った。その結果、会場は千葉大学園芸学部(松戸)に決定した。また、日程については、第一案として12月1日、2日、第二案として11月17日、18日を候補にあげ、池井副会長に、再度大学に確認していただき最終決定することとなった。
- 2) 感謝状贈呈者の人選について
→別途資料が配られ、候補者の中から感謝状贈呈者を選出した。その結果、現職はのぞくこと、会長を継続していることを考慮基準として江崎氏、浅田氏、前野氏の3名に感謝状を贈呈することが決まった。本人には、理事長より連絡することになった。
→新入会員の動静について
岸田 圭代氏の1名の入会が承認された。以上

平成12年度(2000年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会（第6回）議事録

■ 日時：平成12年11月30日(月)

午後6時30分～午後8時30分

■ 場所：立教大学池袋キャンパス

5号館 第2会議室

出席者：鈴木（祐）、石井、鈴木（勇）、高橋（和）、松田、池井、坂口、荒井、藤生、櫻嶋。

-4-

寺嶋、西田、松浦、山崎：柳野一沼、片桐、多田（明治大学）

会長挨拶

I. 確認事項

・前回常任理事会（第5回）の議事録確認

II. 報告事項

- 1) 感謝状贈呈者への案内状の発送及び感謝状の準備について
→坂口理事長より、感謝状贈呈者への案内状が発送済みであること、感謝状が完成し事務局で保管していることが報告された。
- 2) 第30回学会記念大会の準備状況について
→寺嶋常任理事より、大会当日はゼミの入庫手続などがあり会場付近で学生の出入りがあること、記念講演を依頼している井上ひさし氏と打ち合わせを行っていること、記念講演には50名程度の一般の参加者が予定されていることが報告された。
- 3) 第30回学会記念大会シンポジウムの準備状況について
→嶋崎常任理事より、シンポジウムの進め方として、まず3名のシンポジストから話をしてもらい（一人30分を予定）、その後フロアーから20分～30分の質疑応答を行う予定であることが報告された。また、テブ除音からシンポジウムの内容をおし学会誌に掲載することを検討していることが報告された。
- 4) 学会誌（大会号）の発送について
→坂口理事長より、学会誌第43号の発送作業の完了したことが報告された。
- 5) 広告の協力について

→坂口理事長より、7社からの広告掲載の申し込みがあったことが報告された。

6) 会費納入状況について

→坂口理事長より、462名が納入済みであることが報告された。また、西田常任理事より、学会大会の参加費について62名が納入済みであること、懇親会には25名が参加予定であることが報告された。

7) その他

→油井副会長より、学会誌の大会号については、目次をつけるかどうかという提案があり、次大会より目次をつけていくことになった。

III. 審議事項

- 1) 第30回学会記念大会総会について
→総会で配布予定の資料が配布され、資料にしたがって坂口理事長より説明があった。審議の前提、資料1の「機関誌」を「学会誌」に訂正すること、資料3の「平成11年11月25日（土）・26日（日）」を「平成12年11月25日（土）・26日（日）」に、また、「第43号、第44号（大会号）、第45号」を「第43号（大会号）、第44号、第45号」に訂正し、その他については原案通り承認された。また、油井副会長より、感謝状は額に入れて贈呈した方がよいのではないかという提案があり、事務局で額を用意することになった。懇親委員会との関係状況については、総会当日に口頭で報告することとなった。
- 2) 第31回学会大会の日程について
→油井副会長より、大学に確認したところ平成13年12月1日、2日は行事等が入っていないことを確認したことが報

告された。また、千原大学では会場として使用するにあたり若干の費用料が必要になること、懇親会場がまだ未定で検討中であることが報告された。

3) その他

→鈴木（勇）副会長より、学内所属の長崎があるためこれまで保管していた学会誌のバックナンバーを東徳大学へ移したいという提案があり、承認された。また、鈴木（勇）副会長より、バックナンバーを消化するために割引の検討や会員への周知のために目次の配布を行ってもよいのではないかとという提案があり、今後検討していくこととなった。

→会員 motion について

北島朝氏、柳野孝子氏、木全吉巳氏、在久本博代氏、竹田直弘氏の入会が承認された。以上

平成12年度(2000年) 日本レジャー・レクリエーション学会 理事會 (第4回) 議事録

■日時：平成12年11月25日（土）
午後12時00分～午後14時00分
■場所：明治大学駿河台校舎
リハビリタワ 第1会議室
出席者：鈴木（勉）、石井、秋吉、高橋、鈴木（勇）、坂口、西野、藤生、山崎、松浦、嶋崎、寺嶋、荒井、松尾、理事＝長嶋、大谷、高橋（真）；幹事＝上村

会長挨拶

I. 確認事項

- 1) 定足数確認
- 2) 前回理事会（第3回）の議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 感謝状贈呈者への案内状の発送及び感謝状の準備について
→坂口理事長より感謝状の贈呈について、常任理事会で審議・承認された3名（江崎氏、浅田氏・前野氏）に前もって案内状を発送し、11月21日に電話で確認をとったこと、前者2名はすでに用事があり不参加、前野氏から参加の意思をいただいたこと、第30回学会記念大会の総会前に、前野一平先生に感謝状を渡すことが確認された。
- 2) 第30回学会記念大会の準備状況について
→寺嶋常任理事のご尽力のもと、無事明治大学で第30回の記念大会が開催できる運びとなったことが、坂口理事長より報告された。
- 3) 第30回学会記念大会シンポジウムの準備状況について
→坂口理事長より、シンポジウムの準備状況が報告された。講演者3名のコーディネートのことも十分打ち合わせがされており、嶋崎常任理事からはフロアからの質問時間もあるので大いに盛り上げてほしいとのコメントがあった。
- 4) 学会誌（大会号）の発送について
→坂口理事長より大会号の学会誌の発送が完了したことが報告された。
- 5) 広告の協力について
→坂口理事長より、広告の協力をいただいた会社は報告された。今回、協力をいただいた会社は以下7社。Assica、JTBサンパソン、JTB丸ノ目、東家体育専門学校、まだらお高橋ホテル、石橋

印刷、マナー&リゾート。

会長挨拶

6) 会費納入状況について
→坂口理事長より本日付けで473名が会費納入済みであることが報告された。

7) その他
→西田常任理事より、今回の大会には65名が参加表明をしていること、シンポジウム後は懇親会が開催されることが報告された。

III. 審議事項

- 1) 第30回学会記念大会総会について
→坂口理事長より別途資料が渡され、総会の議事録等について確認、承認された。
- 2) 第31回大会の日程について
→第31回大会について別途資料が配布され、会場と日程について報告があった。会場は千葉大学図書館（松戸）、日程は12月1日～2日と決まった。
- 3) その他
→新入会員の動静について
岸田 圭代氏の1名の入会が承認された。以上

平成12年度(2000年) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事會 (第7回) 議事録

■日時：平成13年1月22日（月）
午後6時30分～午後8時30分
■場所：立教大学池袋キャンパス セントポールズ会館
出席者：鈴木（勉）、高橋（真）、石井、鈴木（勇）、坂口、西野、松浦、荒井、山崎、嶋崎、寺嶋、松尾、山崎、松浦、西田、幹事＝上村

のものを使用。特に費用は発生していない。

II) 理事会当日の昼食会の取り扱いについて：事務局より支払い。

III) 記念講演・シンポジウムのテブおし（研究誌に掲載）費用について：(嶋崎常任理事より、シンポジウムのテブおしは必ず、シンポジストの先生方に別途執筆をお願いすること、その理由は以下の3つ、費用が高額であること、テーマが充分いづつかされなかったこと、シンポジストから書き直しの要望があったこと、そこで再度同じテーマで執筆を依頼し、第45号に掲載予定であることが報告された。一方、記念講演のほうはテブおしことが準備中であることが西田常任理事より報告された。また、寺嶋常任理事より講演テブをダビングして販売する案が出されたため、著作権問題をあわせて検討することが確認された。

(5) 感謝状の送付について
→坂口理事長より、江崎氏、浅田氏に感謝状を宅急便で送ったことが報告された。

2) 『レジャー・レクリエーション研究第44号』の進捗状況について
→嶋崎常任理事より、第44号が編集作業中であること、第29回学会大会の機関誌2編と原書論文5編の計7編が掲載予定であること、第45号も同時進行で動いていること、今次シンポジウムの内容の他に投稿論文がないため、「あそび」のテーマを中心に投稿を促してほしいことが報告された。また、坂口理

事長からは、①選挙準備のため、第44号に平成12年12月現在の役員・会員名簿を掲載すること、②第30回学会記念大会の報告及び第31回学会大会の第1報を載せること、③住所確認用の葉書を組み込むこと、が報告された。

3) その他

→山崎常任理事より、今学会の反省と次回回の検討事項として以下3点が報告された。①今回使用したストップウォッチがソーラーシステムだったため、スライド使用中に文字盤が見えなくなるというハプニングが生じた。②発表及び質問の形式が座長の判断に任せられたため、二つの会場で発表時間がそれぞれ異なり、会員がもたどっていた。2会場の適合性をはかっていく必要がある。③常任理事が全員壇上にはがるといふのは、今後参加人数によって変更してほしい。④に対しては坂口理事長より、今回は総会参加者が全部で35名と少人数であったこと、次回工夫したいという説明があった。
→寺嶋常任理事より、ニュース等発表の際は前もって連絡するように掲載されていたにもかかわらず、当日突然AV機器を使用の申し入れがあり、その準備のため時間が遅れが生じた。発表者にきちんとした参加の仕方を望みたい。

III. 審議事項

- 1) 各種委員会について
→総務：西田常任理事より、①次回69号ニュースは2月中旬から3月の下旬にかけて発行予定、②改選に向けて会員名簿を整理中、③関東学院大学に保管しているバックナンバーを東徳大学へ

移すための準備をしている。

→財務：西野常任理事より、財務としての仕事はほとんどしてこなかったが、今後何をしたらよいか、またそもそもその委員会が必要なのかを考えた。
→常任理事より、月例研究会がまとまった。

→編集：櫻岡常任理事より、課題は研究誌を定期的に出すこと、第44号の発行が遅れているので第45号を5月頃に出して遅れを取り戻したい。
→広報渉外：松浦常任理事より、総務の①と同じ。

2) 選挙について

→坂口理事長より、3月の理事会で選挙管理委員会を設立することが確認された。また鈴木(秀)副会長より、別冊資料が配布されそれをもとに選挙のやり方についての説明があった。

3) その他

→新入会員の動静について

聖学院大学総合図書館の入会と、井村仁、上田征一、長田麗明、吉田穂積、佐野美三雄、堀良子、田口鏡子の退会が承認された。

→西野常任理事より、学会に対して、2002年に開催される東海大学とワイカト大学（ニュージーランド）共催の環太平洋レジャー会議への後援申し出があった。これは特に金銭面ではなく、ニューズレターや大会号などの宣伝面での協力を要請したいということで、依頼文の取扱い、承認された。その旨は東海大学学部長宛てに文書で連絡することが確認された。

以上

定例研究会「多摩丘陵における市民によるあそび空間（遊歩道ネットワークづくり）（現地見学会）のご案内（研究会委員主催）

日時：平成13年5月19日(日) 午前10時集合、午後4時頃解散
集合場所：小田急多摩線鶴川駅改札口前（新宿より新百合ヶ丘乗換で約40分）
内容：「レジャー・レクリエーション研究」第44号をご参観下さい。
申込み：参加者それぞれの①住所（連絡先）、②氏名、③所属（勤務先等）を明記の上、5月10日までにてハガキ、ファクスまたは電子メールで下記までお申し込み下さい。
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学造園科学科
栗田和 研（研究会委員兼幹事）まで
FAX: 03-5477-2625 E-MAIL: sasaki@nodai.ac.jp

2001年度会費納入のお願い

平成13年度は役員選挙の年でもあります。その選挙権、被選挙権を有するためには、年度会費の納入が6月末日までとなっていますのでご留意ください。

事務局からのお知らせ

- バックナンバー（『歩み』を含む）の実費頒布を行っています。特に新入会員におすすしします。
 - 『歩み』32号の値段
1冊¥2,000（送料別）※既報済み
 - 『歩み』を除くその他の研究誌は、1冊¥1,000〜¥500になります。（送料別）
- 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。

（申込用紙に必要事項を記入し、入会金（¥2,000）と年度会費（¥8,000）を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。）
3. 平成12年度の年会費（¥8,000）を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。
郵便振替番号 00150-3-002353

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、校正作業には短延でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いします。

投稿論文送付先
〒352-8558 埼玉県新都市北野1の2の26
立教大学 武蔵野新都市キャンパス
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内
「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

レジャー・レクリエーション研究(バックナンバー)掲載

バックナンバー	掲載数	レクリエーション	掲載数
第1号	21	第2号	177
第2号	172	第3号	147
第3号	139	第4号	159
第4号	18	第5号	159
第5号	512	第6号	112
第6号	7	第7号	150
第7号	45	第8号	134
第8号	227	第9号	160
第9号	21	第10号	137
第10号	20	第11号	63
第11号	143	第12号	69
第12号	130	第13号	8
第13号	45	第14号	1
第14号	58	第15号	12
第15号	165	第16号	166
第16号	124	第17号	166
第17号	75	第18号	166
第18号	210	第19号	166
第19号	202	第20号	166
第20号	9	6・7号合併	158
第21号	299	第22号	166
第22号		第23号	166

※平成13年度は、特別に1冊500円（『歩み』は除く）で頒布を行います。送料は着払いとさせていただきます。送料を払っていただき、アンケートなどは『歩み』をご覧ください。

会員の動静

●新入会員 (所属) ○退会 (特別に会費未納)

- 新入会員
 - ◎竹田 貴広 早稲田大学商学部
 - ◎北 穂積 東海大学大学院
 - ◎御野 敦子 東北福祉大学
 - ◎久木 忠己 九州保健福祉大学
 - ◎藤学院大学総合図書館
 - ◎田島 英文 大阪保健福祉専門学校

●平成12年度 退会者

- 井村 仁 佐野美三雄
- 上田 征一 堀 良子
- 長田 麗明 田口 鏡子
- 吉田 穂積

平成13年7月

学会ニュース **日本レジャー・レクリエーション学会**
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

発行人 坂口 正治 編集 広報渉外委員会
印刷所 〒352-8558 埼玉県新都市北野1-2-26
立教大学 武蔵野新都市キャンパス
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内
電話 FAX 048-471-7345
郵便振替 00150-3-002353

JULY 2001
No. 70

holidayの語源のプレゼントを!!

日本レジャー・レクリエーション学会
副会長 松田 義幸

私は、学生たちに夏休みに入る前にちょっとしたプレゼントをしておきたいと思いました。

「みなさんはholidayの意味をどうおぼえていますか」
「offの日です。workdayが、onの日です」
「では、onの日の方が、offの日よりも大切な日ということですか」
「そういってほしいです」
このやりとりから私は学生たちが、holidayの語源からいはいはしかり知って、夏休みを過ごすてほしいと思い、原稿をばって10分足らずの説明を試してみました。

holidayは古英語ではhæligdægといっていました。holidayはholyl plus dayの合成語なわけですが、古英語のhæligはhail, whole, heal, hallにも派生したものです。hæligdægはドイツ語から英語になったものですが、そのドイツ語のheilをみると、「健全、健全な、健康な、平和な、幸運な、幸福な」とあります。今でも働かなければ生きていくことができないわけですから、1週間の5日がworkdayなのですが、だからといって2日のholidayが、workdayに匹敵する単なる。offの日「ではないのです。

人生にとっては、onの日「そいってよいのではないでしようか。学生たちは、すっかり消化してしまっholidayの元の意味に、初めて気づいて

「そんなんだ」と、目を細かせてくれました。日本レジャー・レクリエーション学会の皆さんにも、このようにしたヒントを学生たちに、仲間にプレゼントしていただきたいと思います。

JSLRSニュース 11

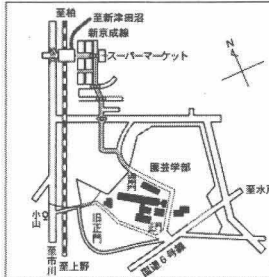
- | | | | |
|------------------|-------|-----------------------|--------|
| 1. 学会副会長挨拶 | …P. 1 | 7. 常任理事会・理事会報告 | …P. 5 |
| 2. 総代会の開催と総務部の活動 | …P. 2 | 8. ビジネス・レクリエーション研究の発展 | …P. 10 |
| 3. 平成12年度事業報告(案) | …P. 3 | 9. 編集委員会からのお知らせ | …P. 11 |
| 4. 平成12年度決算報告(案) | …P. 3 | 10. 事務局からのお知らせ | …P. 11 |
| 5. 平成13年度事業計画(案) | …P. 4 | 11. 会員の動静 | …P. 11 |
| 6. 平成13年度予算(案) | …P. 4 | | |

(千葉大学 2001年12月1日・2日) 第31回学会大会

第31回学会大会のご案内

- 日程 平成13年12月1日(土)〜12月2日(日)
- 会場 千葉大学薬学部松戸キャンパス

案内図



〒271-8510
千葉県松戸市松戸648番地
TEL 047-308-8704 FAX 047-308-8720

- (通称)
- J常磐線 上野駅から約20分
 - J常磐線 松戸駅下車約15分
 - J常磐線(地下鉄千代田線) 又は新成成線 松戸駅下車東口から徒歩約15分
 - JR総武線 川口駅から京成バス松戸車庫行(国府台経由)を利用約35分、小山下車徒歩約5分

1. 研究発表申し込みの方法

官製ハガキ（FAX不可）に職種、氏名（共同研究または個人研究の区別および共同研究の場合は共同研究者の氏名全てを記してください）、住所（共同研究の場合は代表者とする）、郵便番号、電話番号を記入の上、8月15日までに簡易封筒に入れて、本部事務局（立教大学）にお申し込み下さい。所定の抄録原簿用紙を申し込み書に記されている発表者の住所に送付します。また発表原簿（A4判2枚または4枚）の贈り切りは、9月29日(必着)です。共同研究者も学会員にかけられます。非会員の場合は至急入会手続きをおとってください。

2. 申し込み先(学会事務局)

〒352-8558 埼玉県新都市北野1-2-26 立教大学 武蔵野新都市キャンパス
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内 日本レジャー・レクリエーション学会事務局

第31回学会大会の発表抄録用原簿は随時事務局に送付させていただきますのでご準備よろしくお願います。尚、原簿の〆切は9月26日(土)までといたします。

総会・会報 要綱概要報告

日本レジャー・レクリエーション学会
平成12年度 事業報告 (高)

- I. 事業
1) 第30回学会記念大会開催
期日：平成12年11月25日(土)・26日(日)
場所：明治大学駿河台校舎
2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行
第43号、第44号(大会号)、第44号
3) 「学会ニュース」№67、№68、№69の発行
4) 組織の拡充および活動の充実
3月31日現在 入会者20名(平成12年度会費納入者498名)
5) 学術団体交流
6) 第31回大会開催費確保
開催期日：平成13年12月1日(土)・2日(日)
開催会場：千歳大学園芸学部(松戸校舎)
7) その他
II. 会報
1) 学会総会の開催
平成12年11月25日(日) 明治大学駿河台校舎
5回
2) 理事会の開催
3) 常任理事会の開催
4) 各種専門委員会の開催
5) その他

平成12年度決算報告書(高)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成12年4月1日～平成13年3月31日 (単位：円)

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 備考. It details income and expenses for the association, including membership fees, administrative costs, and research grants.

編入：6,880,416
繰出：4,629,349
残高：2,251,067

監事の結算、決算報告は適正であると認めます。
監事 小田切 徹一
監事 永峰 正徳

平成12年4月11日

総会・会報 要綱概要報告(つぎ)

日本レジャー・レクリエーション学会平成13年度 事業計画 (高)

- I. 事業
1) 第31回学会大会開催
期日：平成13年12月1日(土)・2日(日) 場所：千歳大学園芸学部(松戸校舎)
2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行
第45号、第46号(大会号)、第47号、第48号
3) 「学会ニュース」№70、№71、№72の発行
4) 組織の拡充および活動の充実
5) 学術団体交流
6) 定評研究会の開催
7) 第32回学会大会開催費確保
8) その他(学会の目的に関わる事項)
II. 会報
1) 学会総会の開催
2) 理事会の開催
3) 常任理事会の開催
4) 各種専門委員会の開催
5) その他(学会の目的に関わる事項)

日本レジャー・レクリエーション学会
平成13年度 予算(高)

平成13年4月1日～平成14年3月31日 (単位：円)

Table with columns: 科目, 本年予算, 前年度予算, 増減, 備考. It details the budget for the association, including membership fees, administrative costs, and research grants.

編入：6,880,416
繰出：4,629,349
残高：2,251,067

平成12年度(2000年)

日本レジャー・レクリエーション学会
理事会(第5回) 議事録

■日時：平成13年3月28日(月)
午後6時30分～午後7時00分
■場所：立教大学池袋キャンパス
太刀川記念館第1会議室
出席者：鈴木(祐)、高橋(祐)、石井、鈴木(秀)、
坂口、藤生、荒井、嵯峨、西田、松浦、
師岡、山崎、柚井；理事一出席；幹事一
上村
会長挨拶

- I. 確認事項
・定足数の確認
・前回の理事会(第4回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 平成12年度の会費納入状況について
一坂口理事より、3月24日現在で496名が会費納入済みであることが報告された。
2) 平成12年度会費納入の確認について(1月22日承認分まで)
一坂口理事より、平成12年度会費納入について、住所不明者と退会者を除き、現在名簿で確認できている数は556名であることが報告された。
3) レジャー・レクリエーション研究第44号の進捗状況について
一坂口理事より、1月22日承認分までの役員・会員名簿と第31回学会大会の第1報(開催会場・期日)を掲載すること、住所確認の票書を組み込むことが報告された。

4) 研究会委員会等の定例研究会企画(高)

一森生常任理事より提示された研究会企画委員会の定例研究会に関し、常任理事会の審議事項の項目で審議された。その結果、この研究会を学会でも支援をしていくこと、活動等はニュースや学会誌で案内していくことが承認されたと報告された。

III. 審議事項

- 1) 選挙について
1) 日程
一坂口理事より選挙の日程について報告があり、6月末までに会費納入を済ませた会員に役員選挙の投票権が与えられること、7月末に投票用紙を交付し、8月末に必着締め、9月の常任理事会で開議されることが承認された。
2) 改選前理事(10名)選出の手續き
一選挙の日程と選出手続きについて常任理事会で承認され、4/2(月)投票用紙発送、4/18(水)必着締め、4/23(月)の常任理事会で開議されることが報告された。
(3) 選挙管理委員会(委員の選出について)
一荒井善子と、小田切徹一、松浦三代子、事務局から西田俊夫と松尾賢矢の5名に選挙管理委員会委員をお願いすることが報告された。
2) その他
一坂口理事より、現在事務局に保管している研究誌と残票について、在庫の(1)第1号は余暇期間研究所の研究誌をコピーさせてもらうこと、在庫にあるものは送料着払いで「多み」一部二千元、他は一部五百円で販売すること、会員にはニュースで連絡すること、常任理事会で決定したことが報告された。
一新入会員の動向について、田島宗文の入会が承認された。

と、会員にはニュースで連絡すること、常任理事会で決定したことが報告された。
一新入会員の動向について、田島宗文の入会が承認された。

平成12年度(2000年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第8回) 議事録

■日時：平成13年3月28日(月)
午後5時00分～午後6時00分
■場所：立教大学池袋キャンパス
太刀川記念館第1会議室
出席者：鈴木(祐)、高橋(祐)、石井、鈴木(秀)、
坂口、藤生、嵯峨、西田、松浦、師岡、
山崎、柚井；理事(オプザーバー)一出席；
幹事一上村
会長挨拶

- I. 確認事項
・前回の常任理事会(第7回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 平成12年度の会費納入状況について
一坂口理事より、3月24日現在で496名が会費納入済みであることが報告された。
2) 平成12年度会費納入の確認について(1月22日承認分まで)
一坂口理事より、平成12年度会費納入について、住所不明者と退会者を除き、現在名簿で確認できている数は556名であることが報告された。
3) レジャー・レクリエーション研究第44号の進捗状況について
一坂口理事より、1月22日承認分までの役員・会員名簿と第31回学会大会の第1報(開催会場・期日)を掲載すること、住所確認の票書を組み込むことが報告された。

一坂口理事より研究誌第44号の進捗状況について、第32回学会大会の議決第2報と原書論文5編が掲載予定であること、選挙等の事務関連を載せることの報告があった。また坂口理事より、1月22日承認分までの役員・会員名簿と第31回学会大会の第1報(開催会場・期日)を掲載すること、住所確認の票書を組み込むことが報告された。

III. 審議事項

- 1) 選挙について
1) 日程
(2) 改選前理事(10名)選出の手續き
一選挙の日程と選出手続きについて、4/2(月)に投票用紙を発送、4/18(水)必着締め、4/23(月)の常任理事会で開議されることが承認された。
(3) 選挙管理委員会(委員の選出について)
一坂口理事より、荒井善子、小田切徹一、松浦三代子と、事務局から西田俊夫と松尾賢矢の合計5名に選挙管理委員会委員をお願いすることが報告された。

- た。
- 2) その他
→専任常任理事より研究会委員会の定例研究会企画(案)に関する資料が配られ、研究会発足の意義とテーマ、今後の活動方針などについての報告があった。「あそび」を基本テーマに研究会やフィールドワークを開催し、その様子は学会誌等へ報告するというところをうけて、この研究会企画を学会でも支援していくこと、活動等はニュースや学会誌で案内していくことなどが審議のうえ、承認された。

以上

平成13年度(2001年)
日本レジャー・レクリエーション学会
理事會(第1回) 議事録

■日時:平成13年4月23日(月)
午後6時30分～午後8時00分
■場所:立教大学池袋キャンパス
太刀川記念館第1会議室
出席者:鈴木(祐)、石井、鈴木(秀)、坂口、麻生、荒井、片桐、嵯峨、西田、西野、松浦、松田、師岡、油井|監査一永嶋;幹事一上村

会長挨拶

- I. 確認事項
・定足数の確認
・前回の理事会(平成12年度第5回)議事録及び常任理事會(平成12年度第8回)議事録の確認
- II. 報告事項
1) 年度会費の納入状況について(平成13

- 3月31日現在及び平成13年度分)
→坂口理事長より平成12年度会費の納入状況について、平成13年3月31日現在488名が納入済みであること、また平成13年度会費については平成13年4月14日現在84名が納入済みであることが報告された。
- 2) 学会「機関誌」第44号の発行について
→嵯峨常任理事よりレジャー・レクリエーション研究第44号が発刊されたことに関して、その報告とお礼の言葉があった。また、現在選れている第45号についてはできるだけ早く発行したいとの報告があった。
- 3) 学会ニュース No.68号の発送について
→西田常任理事より学会ニュース68号が出されたことについて報告があった。

III. 審議事項

- 1) 平成14年(2002)～平成15年(2003)度役員選挙の期票について
→次年度役員選挙の期票が行われ、嵯峨常任理事と松尾常任理事によって開票された。開票結果については別紙のとおり。(別紙で郵送済)
- 2) 平成12年度事業報告(案)
→坂口理事長より、平成12年度事業報告(案)について配布された資料をもとに確認され、審議の結果承認された。
- 3) 平成12年度決算報告(案)及び会計監査の報告について
→平成12年度決算報告(案)及び会計監査の報告について、配布された資料をもとに西田常任理事より説明があった。監査の永嶋理事からは概ね適正に処理されているとの報告があった。幾高が多いとの意見がしたが、これについて

-7-

は本来2年度に出版される予定であった発行物が出されていないためとの説明があった。以上審議の結果承認された。

- 4) 平成13年度事業計画(案)について
→平成13年度事業計画(案)について、配布された資料をもとに坂口理事長より説明があった。前年度と特に大きな変化はなく審議のうえ承認された。また、今年度は前年度よりも活発な学会活動と充実した会員サービスをめざすことで意見の一致をみた。
- 5) 平成13年度予算(案)について
→平成13年度予算(案)について、配布された資料をもとに西田常任理事から説明があった。特に通信費や印刷費、手摺費などに関しての話し合いが活発に行われ、承認された。また、松尾常任理事より学会のホームページの立ち上げについて提案があり、これについては、まず事務局を中心に委員会を作り具体的に検討していくこととなった。
- 6) 第31回学会大会のテーマについて
→坂口理事長より承認された第31回学会大会のテーマについて、多くの理事の方から意見を寄せてほしいとのお願いがあった。
- 7) 専門委員会について
→専任常任理事より別途資料の配布と定例研究会の開催等についての報告があった。研究会開催後は、レポートなどで話題を提供し議論を深めていきたいとの話があった。
- 鈴木秀雄副会長より、第26回奈良女子大学での学会時に承認されたセラピューティックレクリエーションの専門分科会を、今後活性化させていきたいとの報告があり、近く研修会を開催する旨

の表明があった。

8) その他
→新入会員の動静について、新入会員、藤井秀樹、左近慎平、金子静司、西山清子、木村隆之の5名と、退会者、角田孝子、増田慧、菊地宝、橋本保彦、上田任一の5名が承認された。
→次回常任理事會は5月28日(月)18:30から、立教大学で行う。

以上

平成13年度(2001年)
日本レジャー・レクリエーション学会
理事會(第2回) 議事録

■日時:平成13年5月28日(月)
午後6時30分～午後8時00分
■場所:立教大学池袋キャンパス
5号館第1会議室
出席者:鈴木(祐)、高橋、鈴木(秀)、坂口、麻生、荒井、片桐、嵯峨、岩澤、松田、山崎、松尾;幹事一上村

- 会長挨拶
- I. 確認事項
・定足数の確認
・前回の理事会(平成13年度第1回)議事録の確認
- II. 報告事項
1) 年度会費の納入状況について
→坂口理事長より平成13年度会費納入状況に関して報告があり、平成13年5月28日現在39名が会費を納入済みであることが確認された。
- 2) 平成12年度事業報告について
3) 平成12年度決算報告について

-8-

- 4) 平成13年度事業計画(案)について
5) 平成13年度予算(案)について
→前回常任理事會で採択された審議を訂正した資料が配布され、確認のうえ承認された。
- 6) 第31回学会大会会場(千葉大学圖書館)への挨拶について
鈴木会長と坂口理事長が千葉大学図書館学芸部に赴き、第31回学会大会の学校使用に關し同校に挨拶と御禮をされたこと、油井副会長の案内で学内を視察したことが報告された。
- 7) その他
→専任常任理事より5月19日に開催した第1回定例研究会について報告がなされた。

以上

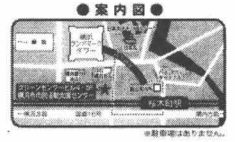
III. 審議事項

- 1) 第31回学会大会テーマについて
→過去7年間の学会テーマが資料で示され、それに基づき活発な意見の交換が行われた。油井副会長や会員からの意見も取り入れたうえで、7月中にテーマの決定を下すことで意見の一致をみた。
- 2) 第31回学会大会の広告料の確認について
→前年度同様、全頁掲載5万円、1/2頁掲載3万円、1/4頁掲載2万円が承認された。
- 3) 第32回学会大会開催会場について
→坂口理事長より、いくつかの会場候補を候補として検討しているが、他にもよい場所があれば提案してほしいとの依頼があった。
- 4) その他
→鈴木会長より、より多くの人たちに、もっと学会に興味を持ち自主的に参加

-9-

日本レジャー・レクリエーション学会(JSLRS)
平成13年度セラピューティックレクリエーション専門分科会(第1回)研修會

日 時:平成13年9月7日(金) 18:00～30:30
場 所:横浜市市民活動支援センター 4階
研修室1及び研修室2
(坂木町駅から徒歩5分。坂木町駅(JR・東急東横線)改札口を出て右側の国道16号線を横浜方面へ進み、紅葉坂交差点を渡り右折。ランドマークタワー方面に歩き5分ほど左折。剛クリーンセンター4階)



テ マ:セラピューティックレクリエーションの理解とその解き明かし
～特に日本におけるセラピューティックレクリエーション協会の組織化及びセラピューティックレクリエーションの資格化に向けて～

話題提供:鈴木秀雄
(本学会副会長、関東学院女子短期大学幼児教育科教授 Ph.D.)

内 容:セラピューティックレクリエーションの概念理解から組織化の必要性や専門職としての資格化について具体的に提案し、日本におけるセラピューティックレクリエーションのあるべき方向性を探る。特に、1983年(昭和58年)1月22日(土)に、東京YMCA本館において開催された日本セラピューティックレクリエーション協会及び日本セラピューティックレクリエーション研究会共催によるシンポジウム「セラピューティックレクリエーション運動の展開」に基き、(後援:日本スペシャルオリンピック委員会、朝日本スポーツクラブ協会、朝日本軟体文化振興会、日本キャンプ協会、(社)日本放物不自由児協会、東京YMCA、朝日本レクリエーション協会)についても言及し、日本におけるセラピューティックレクリエーションの制度化の道筋を探る。

参加申込み:学会員及び非会員ともに、官製はがきに、郵便番号、住所、氏名、性別、所属を記し、申し込む。(会場の都合により参加者は70名とします)。

申込み先:P236-8503 横浜市金沢区六浦町4834
関東学院女子短期大学幼児教育科
鈴木秀雄研究室(緊急連絡先:090-2627-4183)

申込締切:8月31日(金)必着

参加費:1,000円(資料代、連絡通信費等)、当日会場受付で徴収致します。

-10-

事務局からのお知らせ

1. バックナンバー(『歩み』を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすめしです。
- ① 『歩み』32号の値段
1冊¥1,000(郵送料¥300) ※紙版のみ
② 『歩み』を除くその他の研究誌は
1冊¥1,000~¥500になります。(送料別)
2. 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。
- 【申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。】
3. 平成13年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。
郵便振替番号 09150-3-802353

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最遅でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

投稿論文送付先
〒352-8558 埼玉県新座市北野1の2の28
立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニケーション福祉学部 総務研究室内
「日本レジャー・レクリエーション学事務局」

レジャー・レクリエーション研究「バックナンバー」掲載表

バックナンバー	掲載数	バックナンバー	掲載数
第1号	第25号	第31号	177
第2号	第26号	第32号	147
第3号	第27号	第33号	159
第4号	第28号	第34号	112
第5号	第29号	第35号	150
第6号	第30号	第36号	184
第7号	第31号	第37号	149
第8号	第32号(歩み)	第38号	127
第9号	第33号	第39号	82
第10号	第34号	第40号	92
第11号	第35号	第41号	2
第12号	第36号	第42号	1
第13号	第37号	第43号	12
第14号	第38号	第44号	1
第15号	第39号	第45号	1
第16号	第40号	第46号	1
第17号	第41号	第47号	1
第18号	第42号	第48号	1
第19号	第43号	第49号	1
第20号	第44号	第50号	1
第21号	第45号	第51号	1
第22号	第46号	第52号	1
第23号	第47号	第53号	1
第24号	第48号	第54号	1

※平成13年度は、特別に1冊500円(『歩み』は除く)で頒布を行います。
送料は着払いとさせていただきます。
テーマなどは『歩み』をご覧になって選んで下さい。

会員の動静

●新入会員 (所属) 〇〇社、〇〇大学、〇〇会

- 塩倉井 秀樹 京橋大学短期大学
- 鈴木左近 藤井 北杜学園仙台保健福祉専門学校
- 鈴木金子 藤井
- 紙西山 清子 〃
- 境木村 隆之 横浜国立大学大学院

●平成13年度 退会者

- 角田 亨子 堀尾 保彦
- 増田 豊 上田 征一
- 菊地 宝

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)
発行人 柴口 正浩 編集 広野孝典
事務局 〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-28
立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニケーション福祉学部 総務研究室内
電話-FAX 048-471-7345
郵便番号 09150-3-802353

NOVEMBER 2001 No. 71

第31回全国大会の意義

第31回学会大会実行委員長 油井 正昭 (本学会副会長)

近年、余暇時間の増加、身近な場所での自然の減少、自然環境への関心の深まりなどを背景に、「自然とのふれあい」ニーズが激増に高まっている。自然環境のすぐれた場所や自然体験、ハイキング、キャンプなどを行うことは、年齢を問わず楽しい時間であり、健康な心身を育むことができる。

日本レジャー・レクリエーション学会の多くは、こうしたレジャー・レクリエーション空間の整備、自然環境の保全、レジャー・レクリエーション活動の指導・普及に多大な貢献を果たし、また、レジャー・レクリエーションの評価や活動がもたらす効果を研究し、レジャー・レクリエーションの発展に寄与してきた。

21世紀に入り、20世紀の開発型国土づくりから、自然環境を保全しつつ持続可能な国土づくり、循環型社会の構築へと社会の考え方が大きく変化している中で、自然とのふれあいの能力が認識されていくと考えられ、21世紀のレジャー・レクリエーションの健全な発展に向けて、日本レジャー・レクリエーション学会はこれまでに超えて社会貢献をしていく必要がある。

そこで、21世紀初頭に開催する第31回全国大会では、「レジャー・レクリエーションから見た自然環境」をテーマに設定し、基調講演、シンポジウムを行い、この大会を契機に一層のレジャー・レクリエーション学の実現につなげたい。

大会が開催される千葉大学園芸学部のキャンパスは、80年を超える歴史豊かな環境に在り、このテーマを討議するのに相応しい場所であり、是非多数の会員の皆様をお招き申し上げます。

JSLRSニュース10

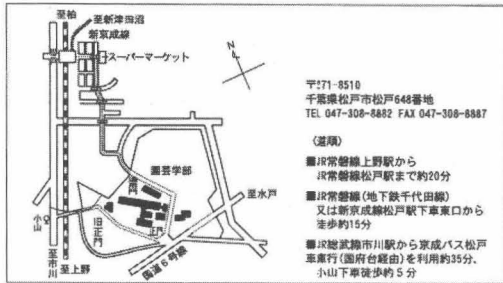
- 1. 学会大会実行委員長挨拶(油井正昭)……………P. 1
- 2. 第31回学会大会開催案内……………P. 2
- 3. 学会大会研究発表要録(7編)……………P. 4
- 4. カラ・ア・ソ・レ・クリエーション部門別……………P. 6
- 5. 第3回研究会企画……………P. 7
- 6. 新役員(次期理事)……………P. 7
- 7. 常任理事会報告……………P. 8
- 8. 事務局からのお知らせ……………P. 10
- 9. 編集委員会からのお知らせ……………P. 10
- 10. 会員の動静……………P. 10

第31回学会大会 (千葉大学 2001年12月1日・2日)

第31回学会大会のご案内

- 日程 平成13年12月1日(土)~12月2日(日)
- 会場 千葉大学園芸学部松戸キャンパス

案内図



- 理事会 平成13年12月1日(土) 11:00~12:00 会場 第2演習室
- 懇親会 平成13年12月1日(土) 17:00~19:00 会場 懇親会能化(生協食堂)
- 総会 平成13年12月2日(日) 13:00~14:00 会場 合同講義室

(千葉大学 2001年12月1日・2日) 第31回学会大会

日本レジャー・レクリエーション学会 第31回学会大会開催要領

大会テーマ「レジャー・レクリエーションから見た自然環境」

- 1. 主催: 日本レジャー・レクリエーション学会
- 2. 主管: 日本レジャー・レクリエーション学会第31回学会大会実行委員会
- 3. 期日: 平成13年12月1日(土)・2日(日)
- 4. 会場: 千葉大学園芸学部 (松戸キャンパス)
〒271-8510 千葉県松戸市松戸648番地
- 5. 日程: [12月1日(土)]
11:00~12:00 理事会(第2演習室)
12:00~13:00 受付(E棟1F入口ホール)
13:00~13:15 開会挨拶
13:15~14:15 基調講演(合同講義室)
14:30~17:00 シンポジウム(合同講義室)
コーディネーター 油井正昭氏(千葉大学園芸学部教授)
シンポジスト 親泊美子氏(江戸川大学教授)
加治 隆氏(財)国民休暇村協会常務理事
下村彰良氏(東京大学大学院教授)
田嶋成寿氏(財)日本自然保護協会理事
17:15~19:00 懇親会(懇親会能化2F)

- [12月2日(日)]
8:30~ 受付(E棟1F入口ホール)
9:00~11:40 研究発表 A会場(205) B会場(206)
11:40~12:30 昼食
12:30~13:00 校内エクスカーション(植物見学会)
13:00~14:00 総会(合同講義室)
14:20~17:20 研究発表 A会場・B会場

連絡先は 千葉大学園芸学部(松戸校舎) 油井研究室 TEL 047(308)8882 FAX 047(308)8887

大会実行委員会から

- 発表形態は (振込先が変更になりました)
① スライド
② O. H. P.
③ 液晶プロジェクター (パソコン持参者のみ)
- 学会発表者でご利用の方は、同封の返信票書にてお知らせ下さい。
※大会会場周辺には、食費等がありませんので、12月2日(日)のお弁当(1000円)の事前注文を受け付けます。返信票書で申込みの上、代金を大会参加費、懇親会費などと共に下記宛に11月20日(火)迄にお振り込みください。
振込先: 富士銀行 成増支店 (店舗: 239) 口座番号2103127
日本レジャー・レクリエーション学会事務局 (担当: 西田俊夫)

第31回学会大会 (千歳大学 2001年12月1日・2日)

第31回学会大会研究発表・演題

- 研究発表 A会場205教室
□座長: 山崎伸子 (金沢大学) 11:00~11:40
A-01 高齢者の余暇活動について
A-02 セラピューティックレクリエーションサービスモデルの実践に関する研究I
A-03 社会福祉領域からみたレクリエーション・余暇
A-04 スポーツと芸術におけるアロー体験の特性について
A-05 レクリエーション概念の歴史的検討
A-06 現代イスラエル社会における女性のスポーツ行動におけるレクリエーション性

(千歳大学 2001年12月1日・2日) 第31回学会大会

- 高橋和雄 (金沢大学) □座長: 磯崎 春 (筑波大学) 11:00~11:40
研究発表 B会場206教室 B-07 中学生の「ゆとり」経験について(I)
B-01 レクリエーション活動における「エコベース」の検討
B-02 キンボールに関する研究(I)
B-03 キンボールに関する研究(II)
B-04 心拍数を教材としての検討
B-05 レクリエーションへのイメージの変化をねらったレクリエーション理論の授業実践
B-06 都市における余暇態度の特性

日本レジャー・レクリエーション学会 (JSLRS)

平成13年度 セラピューティックレクリエーション専門分科会 (第2回) 研修会

日時: 平成13年12月3日(月) 9:00~20:30
場所: 横浜市市民活動支援センター 4階 研修室1及び研修室2



テーマ: セラピューティックレクリエーションの理解を深めるために
〜そのポイントを知る〜
話題提供: 鈴木秀雄 (日本レジャー・レクリエーション学会副会長、関東学院女子短期大学幼児教育科教授、Ph.D.)
内容: セラピューティックレクリエーションの理解を深めるためには、明にも暗にもレクリエーションそのものの正しい解釈をつける理解が必要である。...

第3回研究会企画 江戸・東京の「遊び」を体験する

江戸時代、庶民は隅田川および隅田川周辺の海浜、向島といつて芝居近所遊びの場としていた。当時の「遊び」は、遊び場へ向かう過程(プロセス)を重要視していた。そこで本企画では、江戸時代の子供遊びの現場を再現し、その「遊び」に学ぶことにより、現代の都市におけるレジャー・レクリエーションのあり方を考える。

日本レジャー・レクリエーション学会

Table with 2 columns: 改選前連任10名 (現行規程による選出) and 新選任10名 (正会員の推薦による選出). Lists names and affiliations of members.

横浜市ノーマライゼーション推進委員会 (シンポジウム)

- 1 主催: ノーマライゼーション推進委員会
2 共催: 横浜市
3 協賛: ノーマライゼーション推進委員会
4 後援: 横浜市
5 協賛: ノーマライゼーション推進委員会
6 協賛: ノーマライゼーション推進委員会
7 協賛: ノーマライゼーション推進委員会
8 協賛: ノーマライゼーション推進委員会
9 協賛: ノーマライゼーション推進委員会
10 協賛: ノーマライゼーション推進委員会

平成13年度(2001年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第3回)議事録

日時：平成13年6月23日(月)18:30-20:00
所：立教大学池袋キャンパス5号館第2会議室
出席者：鈴木(勉)、石井、鈴木(亮)、高橋、服部、藤原、西田、西野、松原、山崎、柳生、上村

- 会長挨拶
1. 総務事項
- 定足数の確認
- 前回の常任理事会(平成13年度第2回)議事録の確認
2. 報告事項
- 1) 年度会費の納入状況について
- 2) 大学評議員会専門委員候補者の推薦について
3. その他

- 2. 第31回学大会の広告の依頼について
3. 第32回学大会開催の準備について
4. その他

平成13年度(2001年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第4回)議事録

日時：平成13年7月30日(月)17:30-18:30
所：立教大学池袋キャンパス5号館第2会議室
出席者：鈴木(勉)、石井、鈴木(亮)、高橋、服部、山口、西田、西野、松原、松尾

- 会長挨拶
1. 総務事項
- 定足数の確認
- 前回の常任理事会(平成13年度第3回)議事録の確認
2. 報告事項
- 1) 年度会費の納入状況について
- 2) 第31回学大会の開催について
- 3) 「レジャー・レクリエーション」誌の発行について
- 4) 機関紙「レジャー・レクリエーション」研究の進捗状況について
3. その他

- 5) 学会発表の申し込み状況について
6) その他

- III. 審議事項
1) 第31回学大会の内容及び開催について
2) その他

平成13年度(2001年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第5回)議事録

日時：平成13年9月17日(月)18:30-20:00
所：立教大学池袋キャンパス5号館第2会議室
出席者：鈴木(勉)、鈴木(亮)、高橋、服部、山口、西田、西野、松原、上村

- 会長挨拶
1. 総務事項
- 定足数の確認
- 前回の常任理事会(平成13年度第4回)議事録の確認
2. 報告事項
- 1) 学芸「機関紙」第45号の発刊状況について
- 2) 第31回学大会の開催について
3. その他

事務局からのお知らせ
1. バックナンバー(「あゆみ」を含む)の実費販売を行っています。
2. 会員の皆様のお知らせについて
3. 平成13年度の年費(¥48,000)を納めていない会員がいましたら、速急納入手続をお願いします。

学会ニュース
日本レジャー・レクリエーション学会
(Mean Society of Leisure and Recreation Studies)
発行 坂口 正樹 編集 高橋伸孝委員会
事務局 〒355-8558 埼玉県新原市北野1-2-26
立教大学 武蔵野新キャンパス
コミニティ福祉学部 必経研究室内
電話:41 618-4717-7345
郵便番号:0159-3-602353

編集委員会からのお知らせ
「レジャー・レクリエーション」投稿募集について
投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最速でも2ヶ月程度の時間を要する点をご考慮して、投稿してください。

さらなる充実学会を目指して
高橋和敏
本学会は、創設以来著実に歴史を刻み、レジャー・レクリエーションに関して日本では唯一の学会として力を付けてきました。これは会員一人一人の地道な努力と学会への大きな貢献の賜だと思います。

会員の動静
●新入会員 (所属)
◎鈴木 長穂子 北橋大学
◎石井 信也 秋田経済法科大学
◎橋本 孝子 立教大学
◎鈴木 順子
◎吉岡 尚美 東祐病院
◎多田 充 千葉大学
◎辻田 純三 兵庫医科大学

JSLRSニュース10
1. 学会副会長挨拶 (高橋和敏) …P. 1
2. 第31回学大会開催案内のご案内 P. 2
3. 第32回学大会開催案内のご案内 P. 2
4. 第31回学大会報告 …P. 3
5. 常任理事会・理事会の報告 …P. 4

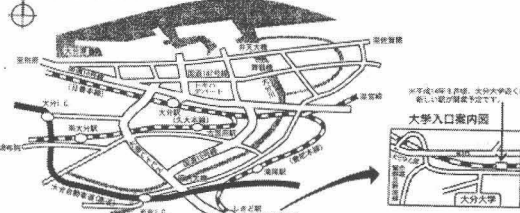
(大分大学 2002年11月23日・24日) 第32回学会大会

第32回学会大会のご案内

■日程 平成14年11月23日(土)～11月24日(日)

■会場 大分大学

大分大学位置図



●交通アクセス

- 大分バス(バス) 大分駅より徒歩10分
○大分バス(バス) 大分駅より徒歩10分
○大分バス(バス) 大分駅より徒歩10分

●大分駅から大分大学までの交通アクセス

- バス利用 大分駅から大分大学までは、30分前後
バス利用 大分駅から大分大学までは、30分前後

1. 研究発表申し込みの方法

官製ハガキ (FAX不可) に演題、氏名(共同研究または共同研究の区別および共同研究の場合は共同研究者の氏名全てを記してください)...

2. 申し込み先(学会事務局)

〒87-8555 埼玉県新庄市北野1-2-28 立教大学 武蔵野新産キャンパス コミュニティ福祉学専修 桜庭研究室内

第31回学会大会のご報告

第31回学会大会実行委員会委員長 油井 正昭 (千葉大学農学部)

学会員皆様様

謹啓 3月に入り各地から春の便りが聞こえ始めました。

学会員の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。 昨年12月1日～2日の2日間わたり、第31回学会大会を千葉大学園芸学部で開催してから、早くも4ヵ月余りが経過いたしました。その時のご報告をしたいと思います。

大会には全国から大勢の方々のご出席があり、2日間で延290名余の参加がありました。遠路ご参加くださった会員の皆様には御礼申し上げます。

第31回学会大会テーマは、「レジャー・レクリエーションから見た自然環境」でしたが、このテーマは、会場校の特性を考慮して設定されました。大会は鈴木裕一会長を中心とした挨拶で幕を開け、進士五十八農芸大学学長のコメントがあげられ、基調講演は、全員の身を持ち出して聞き、続くシンポジウムも下村(東京大学)、加治(那珂村村協会)、原浩(江戸川大学)、田畑(朝日日本自然保護協会)の4氏からの話題を基に熱心な討論が行われました。

第31回学会大会に当たり、大会実行委員会では幾つかの新しい試みを行ってみたい。それをご報告致しますと、第1は基調講演、シンポジウムに大学生の参加を呼びかけました。東京農業大学、江戸川大学、恵泉女子大学、千葉大学などからの参加がありました。

千葉大学園芸学部キャンパスでは、2月下旬から咲き始めるツツジが咲き始めています。秋の植物見学につけて春の花々をご覧にお出かけください。お待ちしております。

平成14年3月

役員

平成13年度(2001年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第6回) 議事録

■日時:平成13年10月29日(月)

午後6時30分～午後7時00分

■場所:立教大学池袋キャンパス12号館

第3会議室

出席者:鈴木(拓)、高橋、石井、松田、鈴木(明)、荒井、坂口、藤本、藤田、西野、松原、松尾、藤岡、油井、山崎、沼澤(理事)

会長挨拶

1. 確認事項

前回(平成13年度第5回、9月17日)の議事録確認

一編集委員会より、学会『機関誌』第45号について原稿論文2回と前回学会大会議事録とあるところを誤植が混在しているので原稿論文3題に訂正してほしいとの申し出があり確認された。

II. 報告事項

1) 年次会費の納入状況について(平成13年10月29日現在:142名)

2) 学会ニュース「第71号」の進捗状況について

→新役員、学会大会発表議題などで構成され、11月初旬に発送予定であることが報告された。

3) 平成14・15年度役員選挙結果について

→平成14・15年度役員選挙の結果について平成14・15年度役員選挙の結果について平成14・15年度役員選挙の結果について平成14・15年度役員選挙の結果について

4) 第31回学会大会の発表採録原稿の届状況について

→発表取り消しは77題あり、77題の発表となる。庶務については依頼済みであることが報告された。

5) その他

→第2回セラピューティックレクリエーション分科会を12月3日(月)に開催されることが報告された。

→第3回研究会企画(江戸・東京の「遊び」を体験する)を12月15日(土)に東京都公園協会、日本遊園学会との共催で開催することが報告され、了承された。

→第1回関東太平洋レジャー教育会議について、日本から7題、会員から1題の発表があり、32口発表と8題のワークショップが行われることが報告された。

III. 審議事項

1) 候補者選定委員会の選出について

→日本レジャー・レクリエーション学会、会長、副会長、監事の選出に関する申し合わせは、候補者の選定は会長、副会長、理事長、および常任理事会で選定された若手名を含む7名より候補者選定委員会を構成することになっているが、常任理事2名とした場合、6名の副会長から3名を選出することが困難なので、会長、全ての副会長、理事長と常任理事から候補、西野常任理事を選出してはどうかという案を鈴木会長が提案し、承認された。

2) 第31回学会大会の組織編成について

→組織委員会、実行委員会ともに資料(案)通り承認された。また、川川理事に代わり鈴木重志氏(朝日レクリエーション協会)を大会委員に入ること承認された。

3) 新理事による新理事長の選出(互選)について

→審議の結果、坂口理事長の再任が承認された。

4) 会長、副会長、監事の選出について

→第1回の候補者選定委員会を常任理事会、拡大理事終了後に開催し、さらに第2回候補者選定委員会を11月5日に開催して検討することが承認された。

5) 会員の動向について

→大西英氏(平成福祉専門学校)、栗原朝雄氏(千葉大学大学院)の入会が承認された。

IV. その他

1) 次回(第7回)常任理事会、第2回拡大理事會、第3回選定委員会の開催は11月19日(月)立教大学池袋キャンパス(会議室未定)18:30と決定した。以上

平成13年度(2001年)

日本レジャー・レクリエーション学会 拡大理事会(第1回、第2回) 議事録

■日時:平成13年10月29日(月)

午後7時00分～午後8時30分

■場所:立教大学池袋キャンパス12号館

第3会議室

出席者:鈴木(拓)、高橋、石井、松田、鈴木(明)、荒井、坂口、藤本、藤田、西野、松原、松尾、藤岡、油井、山崎、高橋(伸)、片桐、沼澤、監事=水嶋

会長挨拶

1. 確認事項

定款の確認

→前回(平成13年度第5回、9月17日)の議事録確認

→編集委員会より、学会『機関誌』第45号について原稿論文2回と前回学会大会議事録とあるところを誤植が混在しているので原稿論文3題に訂正してほしいとの申し出があり確認された。

II. 報告事項

1) 年次会費の納入状況について(平成13年10月29日現在:142名)

2) 学会ニュース「第71号」の進捗状況について

→新役員、学会大会発表議題などで構成され、11月初旬に発送予定であることが報告された。

3) 平成14・15年度役員選挙結果について

→平成14・15年度役員選挙の結果について平成14・15年度役員選挙の結果について平成14・15年度役員選挙の結果について

4) 第31回学会大会の発表採録原稿の届状況について

→発表取り消しは77題あり、77題の発表となる。庶務については依頼済みであることが報告された。

5) その他

→第2回セラピューティックレクリエーション分科会を12月3日(月)に開催されることが報告された。

→第3回研究会企画(江戸・東京の「遊び」を体験する)を12月15日(土)に東京都公園協会、日本遊園学会との共催で開催することが報告され、了承された。

平成13年度(2001年)

日本レジャー・レクリエーション学会 拡大理事会(第1回、第2回) 議事録

■日時:平成13年10月29日(月)

午後7時00分～午後8時30分

■場所:立教大学池袋キャンパス12号館

第3会議室

出席者:鈴木(拓)、高橋、石井、松田、鈴木(明)、荒井、坂口、藤本、藤田、西野、松原、松尾、藤岡、油井、山崎、高橋(伸)、片桐、沼澤、監事=水嶋

会長挨拶

1. 確認事項

定款の確認

→前回(平成13年度第5回、9月17日)の議事録確認

→編集委員会より、学会『機関誌』第45号について原稿論文2回と前回学会大会議事録とあるところを誤植が混在しているので原稿論文3題に訂正してほしいとの申し出があり確認された。

II. 報告事項

1) 年次会費の納入状況について(平成13年10月29日現在:142名)

2) 学会ニュース「第71号」の進捗状況について

→新役員、学会大会発表議題などで構成され、11月初旬に発送予定であることが報告された。

3) 平成14・15年度役員選挙結果について

→平成14・15年度役員選挙の結果について平成14・15年度役員選挙の結果について平成14・15年度役員選挙の結果について

4) 第31回学会大会の発表採録原稿の届状況について

→発表取り消しは77題あり、77題の発表となる。庶務については依頼済みであることが報告された。

5) その他

→第2回セラピューティックレクリエーション分科会を12月3日(月)に開催されることが報告された。

→第3回研究会企画(江戸・東京の「遊び」を体験する)を12月15日(土)に東京都公園協会、日本遊園学会との共催で開催することが報告され、了承された。

平成13年度(2001年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第7回) 議事録

■日時:平成13年11月19日
午後7時15分～7時45分
■場所:立教大学池袋キャンパス12号館
第3会議室
出席者:鈴木(祐)、高橋、石井、鈴木(秀)、荒井、坂口、越嶋、西山、西野、松浦、松尾、阿部、油井、山崎、沼澤(理事)

会長挨拶

I. 確認事項

前回(平成13年度第6回、10月29日(月))の議事録確認
→第1回太平洋レジャー教育会を第1回関東太平洋レジャー教育会に訂正

II. 報告事項

1) 会長、副会長、監事候補者選定について
一般補者選定委員委員長の鈴木秀雄学
会副会長より、会長・副会長・監事候補
者選定の選挙を行いました
会 長 依田達也
副会長 油井正昭 鈴木秀雄
監 事 寺島晋一 水嶋正信
以上のような結果になったことが報告さ
された。

2) 第31回学会大会について
平成13年12月1日(土)、2日(日)
千葉大学国際学部で第31回学会大会が
行われる。現在(11月19日)までは学
会大会参加費の振込みが90名あり、例
年の傾向から110～120名の参加者にな
るのではないかと見込みであることが
事務局から報告された。主な日程は
以下の通り。

- 12月1日(土)
11:00～12:00 理事会
13:15～14:15 基調講演
14:30～17:00 シンポジウム
17:15～19:00 懇親会
12月2日(日)
9:00～11:40 研究発表
13:30～13:00 校内エクスカーショ
ン(植物見学)
12:00～14:00 総会
14:20～17:20 研究発表

3) 学会誌学会大会の進捗状況について
一学会発表の抄録をまとめた大会号発表
表取り消しなどがあられているが、
11月21日には発送予定であることが報
告された。

4) 第32回学会大会について
一開催費である大分大学から第32回学
会大会2002年11月23日(土)～24日(日)
に行う実施案が出されたことが事務局
から報告された。この日程について何
人かの理事から秋入試と重なる大学が
多いのではないかと意見が出され、
今後検討していくことになった。

III. 審議事項

1) 新入会員について
吉原さち夫 東海大学大学院
森 知孝 株式会社センベル
以上2名の入会が承認された。

IV. その他

1) 次回の理事会について
日時:平成13年12月1日(土)
11:00～12:00
場所:千葉大学国際学部(松戸キャンパス)
第2演習室
047(308)8882(油井研究室)

平成13年度(2001年)
日本レジャー・レクリエーション学会
総大会事録(第2回) 議事録

■日時:平成13年11月19日(月)
午後7時45分～8時30分
■場所:千葉大学国際学部(松戸キャンパス)
第4会議室

出席者:鈴木(祐)、高橋、石井、鈴木(秀)、荒井、坂口、越嶋、西山、西野、松浦、松尾、阿部、油井、山崎、沼澤(理事)

会長挨拶

I. 確認事項

前回(平成13年度第6回、10月29日(月))の議事録確認
→第1回太平洋レジャー教育会を第1回関東太平洋レジャー教育会に訂正

II. 報告事項

1) 会長、副会長、監事候補者選定について

一般補者選定委員委員長の鈴木秀雄学
会副会長より、会長・副会長・監事候
補者選定の選挙を行いました
会 長 依田達也
副会長 油井正昭 鈴木秀雄
監 事 寺島晋一 水嶋正信
以上のような結果になったことが報告
された。

2) 第31回学会大会について
平成13年12月1日(土)、2日(日)
千葉大学国際学部で第31回学会大会が
行われる。現在(11月19日)までに学
会大会参加費の振込みが90名あり、例
年の傾向から110～120名の参加者にな
るのではないかと見込みであること
が事務局から報告された。主な日程
は以下の通り。
12月1日(土)
11:00～12:00 理事会
13:15～14:15 基調講演
14:30～17:00 シンポジウム
17:15～19:00 懇親会
12月2日(日)
9:00～11:40 研究発表
12:30～13:00 校内エクスカーショ
ン(植物見学)
13:00～14:00 総会
14:20～17:20 研究発表

3) 学会誌(学会大会)の進捗状況について
一学会発表の抄録をまとめた大会号は
表取り消しなどがあられているが、
11月21日には発送予定であることが報
告された。

4) 第32回学会大会について
一開催費である大分大学から第32回学
会大会2002年11月23日(土)～24日(日)
の両日ではどうかという実施案が出さ
れたことが事務局から報告された。こ
の日程について何人かの理事から秋入
試と重なる大学が多いのではないかと
いう意見が出され、今後検討してい
くことになった。

III. 審議事項

1) 支部の活動および会員サービスの向上
について
研究会が東京を中心にされているが全
国を網羅すべき学会であるので、支部
活動を充実して行くため何らかの対応
が必要ではないかと見込まれている。こ
の現状では支部活動に関しては学会
規

定の定でなくなっているのではその位
づけについて再検討が必要であるとい
う意見が出された。さらに会員のサー
ビスの向上に関してホームページの立ち
上げや学会大会や研究会の開催時期や場所の
検討を含めサービスの向上の必要性が議
論された。

2) 新入会員について
吉原さち夫 東海大学大学院
森 知孝 株式会社センベル
以上2名の入会が承認された。

IV. その他

1) 次回の理事会について
日時:平成13年12月1日(土)
11:00～12:00
場所:千葉大学国際学部(松戸キャンパス)
第2演習室
047(308)8882(油井研究室)

平成13年度(2001年)
日本レジャー・レクリエーション学会
総会事録

■日時:平成13年12月2日(日) 13:00～14:00
■場所:千葉大学国際学部 合同演習室
出席者:学会会員
次席 学会会長挨拶

議長選出 小野寺浩三

議事録署名人選出 上野紀雄 横内増典
議題

- ① 第1号議案 平成12年度承認報告
平成12年度承認報告が承認された。
- ② 第2号議案 平成12年度収決算
平成12年度収決算が承認された。

監査報告 水嶋正信監事より会計監査報告があった。

- ③ 第3号議案 平成13年度事業計画(案)
平成13年度事業計画(案)が承認された。
- ④ 第4号議案 平成13年度予算(案)
平成13年度予算(案)が承認された。
- ⑤ その他
役員選挙結果及び理事の互選に伴う新役
員の報告
役員選挙結果及び理事の互選に伴う新役
員が報告された。
⑥ 第32回大会開催について

会場:大分大学
期日:平成14年11月23日・24日
以上の学会開催内容及び日程が承認さ
された。

平成13年度(2001年)
日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第8回) 議事録

■日時:平成14年1月28日(月) 午後6時～7時
■場所:立教大学池袋キャンパスセントポールズ
会館2階
出席者:鈴木(祐)、石井、鈴木(秀)、松田、油井、荒井、坂口、西山、松浦、松尾、山崎、沼澤

会長挨拶

I. 確認事項

1) 前回の常任理事会(平成13年度第7回、11月19日(土))の議事録確認
2) 平成13年度(平成13年12月2日(日))総会議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 第31回学会大会開催の処理事項
① 参加費数 一油井副会長より
大会両日を連して約100名の参加者
費であったことが報告された。
② 大会開催費のおおし 一坂口理事長より
大会翌日に開催費である千葉大学園
芸学部長宛に、本学会会長名で礼状
をしたことが報告された。
③ 大会号の広告掲載に対するお礼 一
沼澤理事長より
協賛各社に対して大会号と礼状を送っ
たことが報告された。
④ 大会決算報告一油井副会長より
I. 収支
● 総収入 847,000円
 伴健輔様 大森様 邦武 剛氏 舘谷氏
● 総支出 827,878円
 沼澤氏 依田氏 沼澤氏 阿部氏 沼澤氏 西野氏
● 残金 219,124円
よって、残金を学会に返納した。
II. 理事会当日の昼食代りの取り扱い
理事会に22名の出席があり、当日

の昼食代は事務局より別途支払わ
れた。

III. その他
1) 第31回学会大会の開催にあたり一鈴木副
会長より
日本レジャー・レクリエーション学会大
会(第32回)が大分で開催されるにあ
たり、大分大学では協力をお願いとい
う申し出があった。学会としてはタイ
ム・テーマなど決定した上で、早め各
方面にお願いすることが望ましいこと
とした。大分大学を中心として進めてい
くことになるが、他方面からの協力も得
られるように考えていくことが報告さ
れた。

2) 日本学術会議体育学・スポーツ科学分
科研究団体の研究題目について
一鈴木副会長より
平成13年7月上旬、提議の件について文
部科学省が提出され、それに対して平
成13年8月下旬、日本学術会議体育学・
スポーツ科学研究団体の研究題目について
一鈴木副会長より
平成13年7月上旬、提議の件について文
部科学省が提出され、それに対して平
成13年8月下旬、日本学術会議体育学・
スポーツ科学研究団体の研究題目について

3) 学会誌 一坂口理事長より
第47号の学会誌は、第30回学会大会の弁
上ひし氏記念講演のテープ起こしを完了
していること、次号にシンポジウムとも
に掲載を予定していることが報告された。

4) 第3回研究例会企画報告一荒井常任理事
より
平成13年12月15日(土)に実施された第
3回研究例会「江戸・東京の「遊び」を体
験する」について、参加者16名に実施さ

れた。

5) 平成13年度セラピューティックレクリ
エーション専門分科会(第2回)研究会 →
鈴木副会長より
平成13年12月3日(日)に第2回セラプ
ューティックレクリエーション専門分科会
が参加者27名にて実施された。できれば今
年度内にもう1回の開催をしたいとの希
望がある。高齢者などのように座るか
あるいはどのようにソファを調製する
かを考えていきたいと報告された。

6) 学会ニュース 一西野常任理事より
学会ニュース72号を3月上旬に発売。
第31回学会大会、新理事の紹介、第32
回学会大会の案内等を掲載する。

7) 会員の動向一坂口理事長より
① 退会希望者 11名
② 入会希望者 京都ノートルダム女子
大学附属図書館 推薦者:坂口正治
退会希望者、入会希望者が承認され
た。

「江戸・東京の「遊び」を体験する」
(第3回研究例会一平成13年12月15日)に参加して
和光大学 服部 百合子

東京に生まれ育ったものでも、「下町」を訪れると、いわゆる「東京人」が知らない成熟し
た遊び文化の気配にわくわくしてしまう。今回の研究例会に参加して、改めてそのことを突
感した。

スケジュールは、向島百花園に集合。東京農大の服部先生にレクチャーを受けながら百
花園を見学。百花園から白鷺神社へ。長命寺で早野のおつ、三浦神社、牛嶋神社から音
楽を聴いて深草へ。昼食後音楽から上バスで浅草橋に到着。両都宮の御宇学再び都
宮先生からレクチャーをいただく。都宮先生に感謝した。都宮先生は、都宮先生は、百
花園と両都宮という二つの庭園をとおして、江戸の遊び文化のエッセンスを知ろうとい
うことになった。

両都宮は持家のある庭園。百花園は富永町人の庭園。建設あるいは修葺の主体の身分階
級は異なり、規模もまったく違うけれども、共通するのはゆとりとした時間の流れととも
に育まれたらう遊びの精神である。とりわけふかかれたのは規模としてはじつまりとした
百花園だった。立派な枝打ちの黒松、海水を引き込んだ湯泉、精緻な土、スケールの大きい
活版屋とは比べるべくもない。庭園に裏庭と並んで下り下がったへびうやまほほほは、
酒席感を感じさせるし、葛やつづみ、やぶがさなどの山菜をさきりげに配した植栽
は、粋で洒落た美学を感じさせた。

それにしても、百花園の最寄り駅「東向島」が「玉井」の改称だったとは……。『辨
風外伝』の巻の中に「一抜の飯いを見た「墨染調」の世界もまた、江戸からかつての東
京に遡る遊び文化の一面面をなすものとして、この日の経験を整理して置きたい。

会員の皆様へ
新年度(2002年度)会費納入のお願い
2002年度会費を別添派込用紙にてお振込下さい。

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

投稿論文送付先 〒352-8558 埼玉県新都市北野1-2の26 立教大学 武蔵野新都市キャンパス コミュニティ福祉学部 応用研究室内 「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

事務局からのお知らせ

1. バックナンバー(『歩み』を含む)の実売価額を定めています。特に新入会員におすすしします。

①『歩み』32号の値段

- 1冊¥2,000 (送料¥350) ※紙報済み
②『歩み』を除くその他の研究誌は、1冊¥1,000→¥900になります。(送料別)

2. 会員の皆様のお知らせでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。

〔申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年度会費(¥9,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。〕

3. 平成13年度の年会費(¥9,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。

郵便振替番号 00150-3-602353

会員の動静

●新入会員 (所属) ○学位 卒修済の学位取得者

- ◎大西 亮 平成福祉教育専門学校
◎原原 雅博 千葉大学大学院
◎森森 知香 駒工メンベル
◎沼宮さちえ 東海大学大学院生
◎京都ノートルダム女子大学附属園芸部

●平成13年度 退会者

- ◎森 利男 加藤 正史
◎倉倉 千絵 藤辺 清
◎西尾 充隆 増山 純子
◎渡川 一枝 渡山 清英
◎吉村 正 藤村紀代子
◎浦田 憲二

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

発行人 坂口 正祐 編集 広瀬渉外委員会
事務局 〒352-8558 埼玉県新都市北野1-2-26
立教大学 武蔵野新都市キャンパス
コミュニティ福祉学部 応用研究室内
電話 048-471-1345
郵便番号 00150-3-602353

AUGUST 2002

No. 73

鈴木祐一先生からのアドバイス

日本レジャー・レクリエーション学会 会長 松田 雅幸

かつて、私たちの学会がちょっとした手続きミスで、日本学術会議から離れたことがあります。もう一度ゼロから始めなければならなかったのです。学術学会にふさわしい研究交流と教育交流の実績をつつて、再び申請しようということになったのです。幸いなことに、過去の伝統のある実績と再出発の活動が認められて、間もなく登録を許可していただきました。さらに新しい世界の動向を踏まえ、日本レジャー・レクリエーション学会を日本レジャー・レクリエーション学会と改め、研究交流と教育交流のフォーミングとイノベーションを図ることになりました。この間、横田隆夫先生、前野先生、鈴木祐一先生に会長のバトンを引き継いでいただき、また多くの先輩の先生方に副会長の職に就いていただき、その下で若いスタッフで夢想的な学会になるように努力して参りました。そして、新たな視野から、研究交流と教育交流に取組むべき二十一世紀を邁進、鈴木先生から私がこのたびバトンを引き継ぐことになりました。

引き継ぐにあたり、先生からいろいろアドバイスをいただきました。その中でまずより大切にすべきことは、学会員の期待に応えることのできる学術的・研究交流、教育交流の活動を活発にすることだ。そのために学会の役員と事務局スタッフに汗をかいて欲しいということでした。学術会議常務の学会の中には、この観点をおぼろげに忘れた、会員のモチベーションの低い学会もあるといわれています。「役員、事務局は自分たちの所有物の学会としてではなく、会員の学会であること」に心を配って、「役員、事務局は助けて欲しい、そのような学会になるように努力して欲しい」ということでした。私どもは先生のこの貴重なアドバイスを大切にしたいと思ひます。

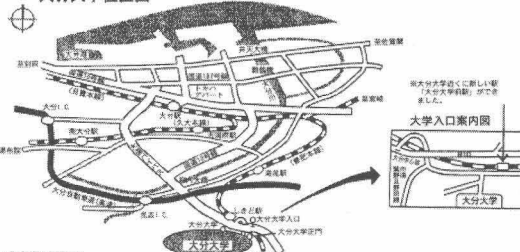
JSLRSニュース 10

- 1. 学会会長挨拶 P. 1
2. 総務部大会について(次分大) P. 2
3. 総務部大会「ワークショップ」の模様 P. 3
4. 平成13年度事業報告(案) P. 5
5. 平成13年度決算報告(案) P. 5
6. 平成14年度事業計画(案) P. 6
7. 平成14年度予算(案) P. 6
8. 常任理事会・理事会報告 P. 7
9. 事務局のお知らせ P. 13
10. 会員の動静 P. 13

(大分大学 2002年11月23日・24日) 第32回学会大会

第32回学会大会のご案内

- 日程 平成14年11月23日(日)~11月24日(月)
■会場 大分大学
大分大学位置図



- 交通アクセス
大分(大分) 大分駅(大分駅) 大分駅(大分駅)
バス(大分) 大分駅(大分駅)
バス(大分) 大分駅(大分駅)

研究発表の申込みを延長しました。

- 1. 研究発表申し込みの方法
① 研究発表申し込みの方法
② 研究発表申し込みの方法
2. 申し込み先(学会事務局)
〒352-8558 埼玉県新都市北野1-2-26 立教大学 武蔵野新都市キャンパス
コミュニティ福祉学部 応用研究室内 日本レジャー・レクリエーション学会事務局

第32回学会大会の発表録用紙類は随時発表者に送付させていただきますのでご準備よろしくお願ひします。尚、原稿のメットは10月1日(火)までといたします。

第32回学会大会「ワークショップ企画」のお知らせ

ワークショップ全体コーディネーター 鈴木 秀雄

第32回学会大会(会場:大分大学)では、研究交流および教育交流の活動を活発にする試みとして、初めて学会開催時に、ワークショップを開催することになりました。今年大会では以下の3つのワークショップが企画されました:

- セラピューティックレクリエーション
コーディネーター 鈴木秀雄 (関東学院大学人間環境学部教授)
書籍・造園・環境系
コーディネーター 廣生 重 (東京農業大学教授)
レジャー・レクリエーション産業
コーディネーター 藤嶋 寿 (筑波大学助教授)

初日(11月23日)の基調講演(13:10~14:00)、シンポジウム(14:10~15:30)に引き続き、ワークショップ(15:45~17:45)が開催されます。このワークショップは、3つのグループに分科され、それぞれのワークショップが同時並行で2時間行なわれて実施されます。

ワークショップ「セラピューティックレクリエーション」

テーマ:『それぞれの専門領域からスポーツをどう捉えるか』

- 趣意: 医療の領域であるリハビリテーションと自費的・自主的な娯楽としての領域に位置するスポーツとの間にどのような形態でセラピューティックレクリエーションが位置しているのか? また、リハビリテーションとスポーツとの連携、セラピューティックレクリエーションとスポーツとの連携はどのように理解すべきかを提示したい。この座談により、それぞれの領域の本質的な外延と内包の範囲について論議する機会を提供したい。
15:45~16:15 (30分)
議題提供: 『整形外科医が見るリハビリテーションとスポーツ』 医療法人 恵愛会 大分中村病院院長 中村太郎
16:15~16:45 (30分)
議題提供: 『レジャー・レクリエーションの研究者・専門家が見えるセラピューティックレクリエーションとスポーツ』 関東学院大学人間環境学部教授 鈴木秀雄
16:45~17:15 (30分)
座談: 中村太郎 鈴木秀雄
17:15~17:45 (30分)
意見交換: フロアートの質疑応答

ワークショップ 《景観・造園・環境系》
テーマ：「地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理」
コーディネーター：麻生 東（東京農業大学地域環境科学部教授）

新しい国土総合計画において「多自然住（田園居住）」「ガーデンアイルランド構想」が提唱されるなど、21世紀を迎えて国土（地方、地域）に対する国民の意識やそこでのライフスタイルが大きく変わろうとしている。地域が保有する美しい景観や自然環境、歴史的資産などに囲まれて、心豊かに生活するという新しいライフスタイルが志向されてきたといえる。一方で、第一次産業の衰退などにより、自然環境を中心とする対象空間の状況も著しく変化しつつあり、その管理問題が顕在化するようになった。また、それらを市民（ユーザー）自身がボランティア活動などで管理を行うという動きも見られるようになった。

そこで、九州あるいは大分県という空間を意識しながら、地域資源としてのレクリエーション空間の状況（問題点や課題）を点検すると同時に、新しいライフスタイルの中でレクリエーションを満した空間と人との関わりやこれからの方向性、レクリエーション資源空間研究の進展について議論してみたい。

ワークショップ 《レジャー・レクリエーション産業》
テーマ：「ワールドカップを機軸とする」
コーディネーター：嵯峨 寿（京滋大大学助教授）

余暇時間の増大が確保されつつある現在、健康主義・QOL志向、レジャー中心の生活、コミュニティ化や人的交流などを求めて、レジャー・レクリエーションへの関心は、この不況下にあっても依然高い。また先のサッカーワールドカップは、これまであまりサッカーというスポーツに関心なかった人々にもたくさん観戦を促し、開催地・キャンプ地のみならず、周辺の人々を魅了した。人々自身の余暇活動としてスタジアムやテレビのメディアで世界最高のプレイを目の当たりにし、そのすばらしさを驚嘆した。→→月という期間であったが、若者男女を問わず多くの人が感動した身体性とゆたかなサッカー文化に関心を寄せ、注目したことは事実である。

本来、レジャー・レクリエーションは我々の生活をより豊かに、よりよく生きることに寄与すべきものである。スポーツもその任を果したに相応しいものでなくてはならない。

しかし、日本においてはスポーツイベントが経済マーケットになり得た。一過性の現象で市民文化として定着していないという現実を考えると、我が国におけるスポーツの文化としての成熟度は低いと判断を得ない。これからの社会が経済中心の社会から文化中心のものに移行していくことを考えれば、スポーツの文化性を確認する見識は、その証としてワールドカップにレジャー・レクリエーションとしてのスポーツの本質を見識することは、現代社会が持つスポーツの文化性を知るよい機会でもある。

そこで本ワークショップでは、レジャー・レクリエーションの視点からワールドカップを捉え、文化としてのスポーツが醸成していくための土壌はどのようなものかを明らかにしていきたい。そのことはこれまでのワーク中心の社会に対してレジャーの意義を再考させる一つのモデルにもなり得るのではないかと考える。

総会・会議 審議概要報告
日本レジャー・レクリエーション学会
平成13年度 事業報告（第）

- I. 事業
1) 第31回学会大会開催
期日：平成13年12月1日（土）・2日（日）
場所：千歳大学図書館（松戸校舎）
2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行
第45号、第48号（大会号）
3) 「学会ニュース」№70、№71、№72の発行
4) 総会の拡充および啓蒙の充実
5) 学術団体交流
6) 定例研究会の開催
7) 第32回学会大会開催準備
8) その他（学会の目的に関わる事項）
II. 会議
1) 学会総会の開催
2) 理事会の開催
3) 常任理事会の開催
4) 各種専門委員会の開催
5) その他（学会の目的に関わる事項）

平成13年度決算報告書

日本レジャー・レクリエーション学会 平成13年4月1日～平成14年3月31日 (単位：円)

Table with columns: 科目, 予算, 決算, 収入, 支出, 繰越. Includes sub-sections for '収入の部' and '支出の部' with detailed financial data.

監算の結果、決算報告は適正であると認めます。

総収入：5,789,109 監事 小畑 誠一
経支出：4,232,284 監事 北島 正雄
繰越：1,456,814

平成14年4月11日

総会・会議 審議概要報告(つづき)
日本レジャー・レクリエーション学会 平成14年度 事業計画 (第)

- I. 事業
1) 第32回学会大会開催
期日：平成14年11月23日（土）・24日（日） 場所：大分大学
2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行
第47号、第48号、第49号（大会号）、第50号
3) 「学会ニュース」№73、№74、№75の発行
4) 総会の拡充および啓蒙の充実
5) 学術団体交流
6) 定例研究会の開催
7) 第33回学会大会開催準備
8) その他（学会の目的に関わる事項）
II. 会議
1) 学会総会の開催
2) 理事会の開催
3) 常任理事会の開催
4) 各種専門委員会の開催
5) その他（学会の目的に関わる事項）

日本レジャー・レクリエーション学会
平成14年度 決算 (第)

平成14年4月1日～平成15年3月31日 (単位：円)

Table with columns: 科目, 本年度予算, 前年度繰越, 収入, 支出, 繰越. Includes sub-sections for '収入の部' and '支出の部' with detailed financial data.

平成13年度(2001年)
日本レジャー・レクリエーション学会
理事會 (第3回) 議事録

日付：平成13年12月1日（土）

午前11時～12時

開催所：千歳大学図書館（松戸キャンパス）

第2演習室

出席者：鈴木（祐）、秋吉、石井、鈴木（実）、高橋（和）、松田、山井、麻生、荒井、嵯峨、西田、西野、松浦、佐藤、藤岡、山崎、高橋（伸）、茅野、鈴木（薫）、水嶋

会長挨拶

I. 確認事項

1) 定款確認

2) 前回理事會 (第2回) の議事録確認

III 審議事項 2) の内容訂正 新入会員推薦 松永尚樹→永松昌高

II. 報告事項

1) 第31回学会大会の準備状況

→抽選副会長より

2) 第31回学会大会シンポジウム準備状況について

→抽選副会長より、204号教室～休憩室

205号室～A会場 206号室～B会場 合同議室～基調講演・シンポジウム会場として今日・明日と使用できる。明日は204号室に誘集も予定する。

・この12時より進士先生をはじめシンポジストの方々とは長話をとりながら打ち合わせをする。午後1時より会長の挨拶で閉会の予定。その後は基調講演・シンポジウムを実施。詳しい内容についてはグリーン色表紙の配布物にある。また明日は午

後12時30分より校内エクスカッション（植物見学会）を行う予定。

・また校舎は公開講座・集中講義・研究会で使用されており、持ち物は注意していただきたい。

3) 学会誌（大会号）の発送

→坂口理事長

第48号学会大会号がお手元に届いたと思われる。期限を過ぎず見直しを依頼し、入稿が遅れたため、大会号の発送が遅れた。

第45号は、近々お手元に届く予定。

4) 広告の協力

→坂口理事長

大会号には6社から広告の協力があり、この大会終了後、礼状、大会号を送ることとした。

5) 会費納入状況

→坂口理事長

現在153名が会費納入をしている。ニュースなどで督促しているがあまり増えない状況。

6) その他

→西田常任理事より

本日の大会参加について、業書での返信203名、参加者が述べ123名。親睦会には32名の出席となっている。また研究発表に際してOPP、プロジェクト～使用の確認をしている。

III. 審議事項

1) 第31回学会大会総会

→坂口理事長、西田常任理事より

別途資料が送られ、総会の議事録等について確認・承認された。

2) 第32回学会大会の日程について

→坂口理事長より

会場：大分大学 期日：平成14年11月23日(土)・24日(日)

3) その他

1) 支部活動について

一秋吉副会長より 理事会で支部活動が新顔になっていく。我々の力が足りないと思うが東京が中心になっている。もう一度この学会が全国的な組織であるのを見直してほしい。たとえば、理事会の開催が月曜日となると、地方からはなかなか出席しにくい。また、学会大会が地方で開催されると関東からの出席者が少ない。

一幹木副会長より 支部について、新しい規約では支部は整理された形になっており、また、支部から役員を選ぶことになっていない。そのへんの流れを整理してから、支部についてや会員の活性化について話していくことが大事であると思う。

一師岡常任理事より 規約の第6章では、支部は置けるようになっており置くということになっていない。

(2) 会員増強について
一西田常任理事より 皆様の周りの方でレジャー・レクリエーションに興味のある方に積極的に声を掛けてほしい。

一池井副会長より 今日も、受付に学会の入会案内を置いて呼び掛けてほしい。以上

平成13年度(2001年) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第9回) 議事録

■日時：平成14年3月4日(月) 午後6時30分～8時
■場所：立教大学池袋キャンパス12号館 第4会議室
出席者：幹木(祐)、石井、幹木(秀)、高橋、松田、藤生、寛井、坂口、壁橋、西田、松尾、松浦、山崎

会長挨拶

I. 確認事項
1) 前回常任理事会(第8回)の議事録の確認

II. 報告事項
1) 平成13年度会費納入状況
→坂口理事より
3月4日現在で316名、例年に比べると連絡をしているのだが納入状況が良くない。昨年度は同じ時期で500名程度であった。

研究誌、ニュースレターなどを年度内に発送する予定なので督促をしたい。

2) レジャー・レクリエーション研究第47号の進行状況について
→堀根常任理事より
第47号は3月末に発行予定。主な内容は原著論文(1編)、第30回学会大会の井上ひさし講演、シンポジウム、月例研究会の報告となる。

今後、学会大会の報告をまとめるにあたり、次の点を考慮してほしい。
・テープおこしを急いでやってほしい。

・大会関係者の方にもある程度担当していただきたい。原稿を編集者に渡してほしい。

この点について坂口理事より学会事務局も努力すると表明があった。

3) 学会ニュースNo.72の進行状況について
→西田理事より
3月15日前後に発送予定。11項目の内容で第32回学会大会案内、第31回学会大会誌、2002年、2003年度新役員の見分等。

4) 学会のホームページについて
→松尾常任理事より
学会の規約、役員構成、入会申し込み等を掲載する作業に入っており今月中には出来ると予定で、4月中旬ぐらいには立ち上げる。

5) その他
① 各委員会からの今年度の振り廻り
報告→西田常任理事より
選挙を無事終了することができた。
各種専門委員会で作成を取り、プログラムを進行しているが予算があまり使用されていない。もっと利用してほしい。

・収入が少なくなっているなかで、運営費、事務用品費等の節約を行っている。

・会費の納入をきちんとしてもらうよう努力したい。

附録→担当の西野常任理事が欠席のため次回へ

研究企画→藤生常任理事より
第1回 5月19日(土)「多摩丘陵における市民による遊び空間(遊歩道ネットワーク)」
第2回 6月22日(金)「ボランティア

のレクリエーション」
第3回 12月15日(土)江戸・東京の「遊び」を体験する

今年度は当初4回の実施を予定していた。実際は3回の実施となった。結果的には良かったと思う。

空間を中心に実施してきたので、来年度は遊びを中心に考えていきたい。

編集→堀根常任理事より
定期的にレジャー・レクリエーション研究を出せない原因が次のように考えられ、改善していくことが求められる。

・事務との間で論文を発送で送っているためメタな時間がかかる。
・印刷会社とも交渉でやり取りしている。
・投稿が少ない

広報→池井一西田常任理事より
ニュースは70号・71号と出し、72号も3月中旬には発送できる。
学会誌は45号・46号(大会号)・47号3月下旬発行予定となっている。

III 審議事項

1) 平成13年度会計(中間)報告について
→西田常任理事より
2月28日現在では収入が約5,040,000円、支出が約3,800,000円となり、約1,250,000円が繰越金となる予定。
詳しくは監査を終了してから4月には会計報告が出る。

問題としては、今年度の会費未納者が3月までに納入してくれるか心配している。

2) 理事長推薦理事について
→坂口理事より
・小野寺浩三(東北福祉大学)
・古城 健一(大分大学)
・幹木 重志 朝日本レクリエーション協会

・田中 伸彦(独立行政法人森林総合研究所)
・横内 晴典(城西大学)
以上5名の報告があった。以上

平成14年度(2002年) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第10回) 議事録

■日時：平成14年4月22日(月) 午後6時00分～午後8時00分
■場所：立教大学池袋キャンパス5号館1階 第一会議室
出席者：松田、幹木(秀)、藤生、寛井、片桐、坂口、田中、西田、松浦、松尾、山崎、小塚、小野寺、高橋(祐)、横内、永島

会長挨拶

I. 確認事項
1) 前回(平成13年第3回)の議事録の確認

II. 報告事項について
1) 平成13年度会費納入状況
→坂口理事より
平成14年3月31日現在、会費納入者 351名
14年度になってからの13年度の納入者 23名
14年度の会費納入者 110名

2) レジャー・レクリエーション研究第47号について→田中理事より
特別講演の井上ひさし先生からの講演録も了承いただき印刷に入り、近々発送する予定

3) 学会ニュースNo.72号の発送について
→坂口理事より
3月末に会費納入状況の最終チェックを行ない4月初旬に会員に届ける

4) 学会のホームページ開設について
→松尾常任理事より
アドレスを決定、学会の規約、役員構成等を掲載したい。次回の常任理事会で報告・検討していただき、学会ニュースで会員に報告したい。
会員からは学会誌の内容を掲載してほしいとの声が出ている。

5) その他
→坂口理事より
理事長推薦理事3名が承認された
・田中 伸彦 独立行政法人森林総合研究所
・小野寺浩三 東北福祉大学
・古城 健一 大分大学

III. 審議事項

1) 平成13年度事業報告(案)について
→坂口理事より
平成13年度事業報告(案)について、配布された資料をもとに確認され、審議の結果承認された。

2) 平成13年度決算報告(案)及び会計監査の報告について
→西田常任理事より
平成13年度決算報告(案)及び会計監査の報告について配布された資料をもとに説明があった。監査の永島監事からは適正に処理されているとの報告があり、さらに今後に向けて適切・有効に使用されるようとの要請があった。

3) 平成14年度事業計画(案)について
→坂口理事より
平成14年度事業計画(案)について配布された資料をもとに説明があった。学術団体交流については日本学術会議をはじめ他学会との交流を継続していきたい

の意見が述べられた。

4) 平成14年度予算(案)について
→西田常任理事より
平成14年度予算(案)について配布された資料をもとに説明があった。会費納入について呼びかけを連続に実施していくこと、銀行振込による納入を再度検討する必要性があるという意見が出された。

5) 第32回学会大会テーマについて
→坂口理事より
学会大会の担当者を決定したうえで第32回学会大会開催視、大分大学の意向などを反映して決定していく方向で進めていくことが提案された。

6) 選任を申し出た役員の数について
→松田会長より
高橋・石井副会長より次のような内容の手紙をいただいている。両氏とも、若い方々に活躍の場を広げたい、今後は会員として輪軸させていただきたいとの文面である。そこで両氏を顧問に推薦し、今まで閉鎖のサービースを受けていた。また秋吉副会長も同様に顧問に推薦する。幹木副会長は理事として残ります。高橋・石井・秋吉の3氏には、会長より手紙を出すとのことであった。

7) 常任理事の人数について
→坂口理事より
会長・副会長・理事長の3役に一任することが承認された。

8) その他
(1) 会員の動向について
→坂口理事より
退会者 5名
入会希望者 高橋久穂 トハノ瀬野隆吉 加藤 肇 埼玉大学
鹿屋体育大学特別奨励生

退会者、入会希望者が承認された
(2) 日本学術会議の登録について
日本学術会議第19期学術研究団体登録に際して理事役員の推薦書の提出が必要となるので、役員カードに必要事項を記入のうえ4月30日(火)までに提出。5月をはじめに郵送する。以上

平成14年度(2002年) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第10回) 議事録

■日時：平成14年5月27日(月) 午後6時30分～8時00分
■場所：立教大学池袋キャンパス12号館地下1階 第3会議室
出席者：松田、幹木(秀)、藤生、寛井、片桐、坂口、田中、西田、西野、沼沢、松浦、松尾、山崎、小塚

会長挨拶

I. 確認事項
1) 前回理事会(平成13年度第9回)の議事録の確認

II. 報告事項
1) 各専門委員会の構成メンバーについて
→坂口理事より
資料 専門委員会の構成(案)より報告された。さらに委員会を活性化するために、ご協力をしていただき先生方の紹介や地方の先生方にはメール等のご協力を考えていきたい。

2) 入会案内の作成準備状況について
→坂口理事より
役員変更(新役員)に伴い入会案内を

作成する。作成に伴い、入会案内を1000部作成し、理事を始め預金員にも配布し学会の宣伝に協力をお願いする。

・学会の新設員(2002年度~2003年度)の選出。

3) レジャー・レクリエーション研究第47号について
→田中常任理事より
平成14年度分の発行につき奥付を平成14年度3月31日とし会員に郵送した。

4) 会費納入状況について
→西田常任理事より
5月20日現在 207名が会費を納入。学会ニュースで再度催促の予定。

5) 日本学術会議団体登録について
→松尾常任理事より
5月20日に最終チェックを行ない、本日24日に登録にて郵送。

6) 日本レジャー・レクリエーション学会ホームページについて
→松尾常任理事より
学会のホームページを作成した。会員には次の学会ニュースで発表し、新しいニュースを会員に積極的に届ける予定。

7) その他
(1) 財務専門委員会について
→西野常任理事より
財務専門委員会の報告および今後についての要請があった。
要請については、理事長より今後の検討事項としたい旨回答があった。

Ⅲ. 審議事項

1) 第32回学会大会のテーマについて
→坂口理事より
学会として方向性を検討し、権威の伴

ついて大分大学と早急な連絡をとりたい旨要請された。討議の結果、次回の常任理事会で再度検討しテーマを決定することとなった。

2) その他

(1) 会員の動向について
→坂口理事より
退会者 春日章幸 以上2名
入会希望者 横山 誠

→大分レクリエーション協会
→脚記伊国書店 神戸営業部
南條正人 仙台大学大学院生
以上3名

退会者、入会希望者が承認された。

事務局からのお知らせ

◆学会ホームページが立ち上がりました!!
現在、学会の使命として学会員に対する情報サービスをいかに充実させていくかが重要な課題となっております。その一環として学会ホームページの立ち上げが急務でありました。立ち上げ及びメンテナンスに関して、理事に委託することが考えられますが、経費的な負担がかなり大きくなるのが予想され、その点が問題点として挙げられていました。しかしながら、その点、事務局のおかれている立教大学の関係者により、大学の情報システムを利用してホームページを立ち上げることが可能になりました。ここに立教大学に謝意を申し上げるとともに会員の皆様におかれましては、学会のホームページが立ち上がったことには是非一度のぞいてみてください。今後、コンテンツの充実をはかっていきたいと思っております。ご意見等ございましたらご連絡までお寄せください。
◆日本レジャー・レクリエーション学会ホームページアドレス
[http://www.rilkyo.ne.jp/or/jslrs/]
◆2002年度の新しい入会案内が完成しました。
本学会活性化のため、新入会員をご紹介下さい。

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付であります。また、研究論文 投稿論文送付先
の審査、修正作業には最速でも2ヶ月程度の時 〒352-8558 埼玉県新城市北野1の2の20
間を要する点を考慮して、投稿して下さい。 立教大学 武蔵野新産キャンパス
会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。 コミュニティ福祉学部 松尾研究室内
[日本レジャー・レクリエーション学会事務局]

会員の動静

●新入会員 (所属) ○新刊、特号発行の会誌購読者 ●平成14年度 退会者

- 派(平成13年度) 山本孔一 愛媛女子短期大学 前田 健二
①(平成14年度) 高橋久雄 韓トーハン 小林 浩人
② 加藤 肇 埼玉薬科大学 小枝 聖子
③ 鹿屋体育大学附属図書館 成瀬 久美
④ 横山 誠 大阪府レクリエーション協会 春日 章幸
⑤ 脚記伊国書店神戸営業部 赤吉 光彦
南條正人 仙台大学大学院生 本田 弘子
⑦ 阿部一彦 東北福祉大学 宇川 隆英
⑧ 和久宗利 夙川学院短期大学 藤田 基行
⑨ 岡田千砂 飯ヶ江病院 岸 正晴
⑩ 田中 光 東京リゾート&スポーツ専門学校 久保水 優

平成14年10月 学会ニュース 日本レジャー・レクリエーション学会 (Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

OCTOBER 2002 No. 74

失業者か、失業者か

会長 松田 義幸

1970年代の2度の石油危機の後に、大失業者の世界不況が起きてしまった。日本はこの不況を経済短小の産業技術の革新で、四、五年後に脱出することができたが、現実には長い大失業者時代を迎えたのである。財政政策、金融政策のいろいろ手をつくしたが、効果をあげることができなかった。その時に社会科学者たちから、対応策として、時間予算配分政策の考え方が出されたのである。
アドラー・カールソンは、石油危機に起因して起きた失業問題を解決するには、労働時間を短縮し、自由時間を増大させ、それにより雇用機会をつくり出すワークシェアリングを発展させた。国単位の国民生活時間の縮減を提案したのである。現代人はすでに生存欲を充足しており、それなのにまだ物の欲望を拡大し、それを充足する所得を得るために、労働にのめり込もうとしている。従来経済学の考え方に従えば、働きたくても働かないことを、失業者のアンエンプティメント(unemployment)と言ったが、石油危機以後の不況は、現代人が自由時間を充実に生き生きと生きていけないうちに起因した失業者の問題なのではないか。つまり失業者のアンエンプティメント(unemployment)に陥っているから起きた不況だと、アルファベットのoをiに替えて、時間予算配分政策に関心を集めたのである。

国民生活時間の縮減、生涯生活時間のリニア型からリカレント型への縮減等は、教育制度、労働制度の構造改革につながるわけで、学習社会の受け皿づくりが、失業問題と失業問題を解決する方法だという夢のある政策を提案したのである。
この提案は実現せずに今日に至っているが、日本が直面する経済不況に対して、この時間予算配分政策は十分、検討してみる価値があるのではないかと、国民はこの不況の中にあっても、物よりも心の豊かさを重視・追求したいと考えており、学ぶ機会と働く機会と人生を楽しむ機会を、豊かに選択できる学習社会を期待しているからだ。ピンチはまさにチャンスなのだ。本学会も、日本の社会の構造改革に本質的な問題解決提案を提案していきたい。

JSLRSニュース9

1. 学会会長の挨拶 P. 1 6. 常任理事会報告 P. 8
2. 第32回学会大会のご案内 P. 2 7. 事務局からのお知らせ P. 10
3. 大会実行委員長(大分大学)挨拶 P. 3 8. 編集委員会からのお知らせ P. 10
4. 第32回学会大会開催要項 P. 4 9. 会員の動静 P. 10
5. 学会大会研究発表要綱 P. 6

第32回学会大会(大分大学 2002年11月23日・24日)

第32回学会大会のご案内
■日程 平成14年11月23日(土)~11月24日(日)
■会場 大分大学 〒870-1192 大分県大分市巨野原700番地 大分大学 学内図



●交通アクセス
バス利用
大分バス(大分駅前) ①のりばから
○「大分駅前」乗車(ニュータウン)又は「大分大学」行きを利用。
○「大分大学」又は「大分大学正門」下車(約30分・360円)
○「学大」バス(学大、三島、東山、行徳等)を利用。
○「大分大学入山」下車(約30分・350円、徒歩約10分)。
タクシー 大分駅から大分大学まで2,300円前後
●大分駅前から大分駅までの交通アクセス
バス利用 大分駅前からバス(大分)で大分へ、大分バス(大分)から大分駅へ
[大分駅一基地区から大分大学まで徒歩15分]
バス利用 大分駅前からバス(エクスプレス)で大分駅へ

理事会 平成14年11月23日(土) 11:00~12:00 会場 教養教育棟21号教室
総会 平成14年11月24日(日) 13:00~14:00 会場 教養教育棟2号講義室

第32回学会大会 (大分大学 2002年11月23日・24日)

	11月23日	11月24日	
1階	11時開会 12時開演 13時開演 14時開演 15時開演	11時開会 12時開演 13時開演 14時開演 15時開演	11時開会 12時開演 13時開演 14時開演 15時開演
2階	11時開会 12時開演 13時開演 14時開演 15時開演	11時開会 12時開演 13時開演 14時開演 15時開演	11時開会 12時開演 13時開演 14時開演 15時開演

たくさんきちよくれ大分へ

第32回大会実行委員長 古城建一

11月の大分はなかなかにも驚き深いものがあります。九州の賑わい、久住のやまなみはまばらばらばらの紅葉期を迎えているはず。放浪の俳人、横山山嵐は、大分の温泉をこよなく愛された方。毎年この時期には湯布院の奥座敷「鶴平(ゆのひら)温泉」に長期滞在しておられたと聞いています。自然豊かな大分は、我々の親しい心をくぐらさず何かな不思議な力を持っているのかも。さて、去る10月30日には毎年恒例の「大分国際福祉科学祭」が開催されました。今ではすっかり秋の風物詩になっておりますが、この大会も大分の誇りの一つ。大会会場にあたっては関係者の大奮闘と熱意がありました。「障害者スポーツの発信地は大分県である」という自負も当然持たせております。そういった土地柄でもございます。今回の学会大会では、「障害者スポーツ」について皆さんと一緒に考えさせていただくことにいたしました。

学会員2名という状態で、何と不行き届きがあるかと思いますが、本学学生ともども「おもてなしの心」でお迎えさせていただき存じます。皆様方のお越しを心よりお待ちしております。たくさんきちよくれ、大分へ！

-3-

第32回学会大会 (大分大学 2002年11月23日・24日)

**日本レジャー・レクリエーション学会
第32回学会大会開催要項**

- 主催 日本レジャー・レクリエーション学会
- 主管 日本レジャー・レクリエーション学会第32回学会大会実行委員会
- 期日 平成14年11月23日(土)・24日(日)
- 会場 大分大学 (〒870-1192 大分県大分市旦野原700番地)
- 日程
 - 第一日目 11月23日(土)
 - 11:00~12:00 理事会(教養教育棟21号教室)
 - 12:00~13:00 受付(教養教育棟第一大講義室前)
 - 13:00~13:10 開会挨拶
 - 13:10~14:10 基調講演(教養教育棟第二大講義室)
 - 「障害者スポーツからのメッセージ」
 - 太陽の家の37年の歩みを通して—
 - 吉永栄治氏(社会福祉法人太陽の家事務局長)
 - 14:15~15:35 シンポジウム(教養教育棟第二大講義室)
 - コーディネーター 古城建一氏(大分大学教育福祉科学部教授)
 - シンポジスト
 - 堀川裕二氏(社会福祉法人太陽の家厚生部訓練課長)
 - 麻生和江氏(大分大学教育福祉科学部教授)
 - 橋 祐二氏(長崎国際大学人間科学部助教)
 - 15:45~17:45 ワークショップ
 - ①セラピューティック・レクリエーション(教養教育棟11号教室)
 - テーマ:「それぞれの専門領域からスポーツをどう捉えるか」
 - コーディネーター 鈴木秀雄氏(関東学院大学人間環境学部教授)
 - ②「整形外科医が見るリハビリテーションとスポーツ」
 - 中村太郎氏(医療法人 恵愛会 大分中村病院長)
 - ③「レジャー・レクリエーションの研究者・専門家が見るセラピューティックレクリエーションとスポーツ」
 - 鈴木秀雄氏(関東学院大学人間環境学部教授)

-4-

第32回学会大会 (大分大学 2002年11月23日・24日)

②景観・造園・環境 (教養教育棟12号教室)

テーマ:「地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理」

コーディネーター 麻生 忠氏(東京農業大学教授)

「地域資源としてのレクリエーション空間の状況、その変化と課題」

田中 神彦氏(独立行政法人森林総合研究所)

「地域の生活と地域住民によるレクリエーション資源・空間の管理」

栗田 和弥氏(東京農業大学地域環境科学部講師)

「都市住民による二次自然の管理行動」

阿藤くじゅう国立公園における野焼き支援ボランティアの実践から〜

上野 裕治氏(朝日ハイランドパーク)

③レジャー・レクリエーション産業 (教養教育棟23号教室)

テーマ:「世界杯の競球回遊ビジネスとライフスタイルに新しい動向を探る」

コーディネーター 遊藤 勇氏(筑波大学助教)

話題提供者:石川 富治氏(日本オリンピック委員会)

大塚潤一郎氏(リベラルアーツ研究所)

柳澤 佳子氏(湖南国際女子短期大学)

加藤 優氏(埼玉国立大学) ほか

18:00~19:30 懇親会 (大分大学 生館2階)

第二日目 11月24日(日)

9:00~ 受付(教養教育棟第一大講義室前)

10:00~10:40 研究発表 A会場(教養教育棟11号教室)

B会場(教養教育棟12号教室)

10:40~10:50 休憩(教養教育棟22号教室)

10:50~11:50 研究発表 A会場・B会場

11:50~13:00 昼食

13:00~14:00 総会(教養教育棟第二大講義室)

14:10~14:50 研究発表 A会場・B会場

14:50~15:00 休憩(教養教育棟22号教室)

15:00~15:40 研究発表 A会場・B会場

-5-

第32回学会大会 (大分大学 2002年11月23日・24日)

第32回学会大会研究発表・演題

■ 研究発表 A会場(教養教育棟11号教室)

<p>□ 座長: 金崎良三(佐賀大学) 10:00~10:40</p> <p>A-01 話動員とレジャー産業</p> <p style="text-align: center;">〜小学生時代の野外活動経験の有無による比較〜</p> <p style="text-align: center;">○吉藤さちえ(東海大学大宮校生)</p> <p style="text-align: center;">西野 仁(東海大学)</p> <p>A-02 中学生の「ゆとり」経験について②</p> <p style="text-align: center;">〜「ゆとり」感とそれを感じている経路に対する考え〜</p> <p style="text-align: center;">○西野 仁(東海大学)</p> <p>質疑応答</p> <p>□ 座長: 西野 仁(東海大学) 10:50~11:50</p> <p>A-03 都市部における余暇満足度の特性</p> <p style="text-align: center;">○土屋 恵(青森大学)</p> <p style="text-align: center;">鎌谷泰秀(青森大学)</p> <p>A-04 余暇意識と生活充実感の構造研究</p> <p style="text-align: center;">○米村惠子(江戸川大学社会学部)</p> <p>A-05 レジャー・レクリエーションの教育と「学習の自由」</p> <p style="text-align: center;">〜自由のアリアを越えて〜</p> <p style="text-align: center;">○藤原百合子(大分大学)</p> <p>質疑応答</p>	<p>□ 座長: 茅野史明(武蔵川女子大学) 14:10~14:50</p> <p>A-06 スポーツ競技者の身体感覚とアイデンティティ</p> <p style="text-align: center;">○大隈節子(九州大学大学院)</p> <p>A-07 ニュースポーツの受容過程に関する研究⑤</p> <p style="text-align: center;">〜受容に伴う支援団体間の有組織連携の可能性〜</p> <p style="text-align: center;">○谷口勇一(大分大学)</p> <p>質疑応答</p> <p>□ 座長: 山田力也(西九州大学) 15:00~15:20</p> <p>A-08 幼児期の運動あそびの意識と役割</p> <p style="text-align: center;">〜体運動との関係からの考察〜</p> <p style="text-align: center;">○前橋 明(倉敷市立短期大学)</p> <p>質疑応答</p>
---	---

-6-

第32回学会大会 (大分大学 2002年11月23日・24日)

■ 研究発表 B会場 (教養教育棟12号教室)

- 座長: 藤 信 (医-第3臨検大) 10:00~10:40
- B-01 長期療養型病棟におけるTRの実際
 - 榎木康子 (東前病院)
- B-02 長期療養型病棟におけるTRの記録・評価用紙の作成と発展
 - 百岡尚美 (東前病院)
- 質疑応答
- 座長: 山崎博子 (余暇問題研究所) 10:50~11:50
- B-03 老人病院におけるレクリエーションサービスとレクリエーションワーカーのスキルについての考察
 - ~K老人病院におけるリハビリテーションとレクリエーションの取り組みより~
 - 小池和幸 (仙台大学)
- B-04 慢性性老人専用デイサービスセンター利用者の承認欲求を高める個別援助技術に関する考察
 - ~福祉レクリエーション援助の視点より~
 - 滝口 真 (九州大福祉福祉学部)
- B-05 老人ホームにおけるセラピューティックレクリエーションサービスの整備に関する一考察
 - ~A特別養護老人ホームのケース~
 - 茅野宏明 (東川女子大学)
- 質疑応答
- 座長: 田中伸彦 (独立行政法人森林総合研究所) 14:10~14:50
- B-06 地質街景法による河川の草取草刈に関する地域住民の意識調査についての研究
 - 佐藤芳郎 (筑波大学大学院)
 - 櫻井伸子 (筑波大学大学院)
- B-07 グリーン・ツーリズム運動と市民農園
 - 小泉勇治郎 (松山東雲女子大学)
- 質疑応答
- 座長: 井上弘人 (熊本学園大学) 15:00~15:40
- B-08 「レクリエーション」に関するイメージの研究
 - ~とくに「遊び」「遊び」の事例比較を中心に~
 - 高橋 伸 (国領基督教大学)
- B-09 高齢者の余暇活動について
 - ~質的手法の試みによる高齢者の類型化とレクリエーション支援方法の確立に向けての事例研究(4)~
 - 山崎博子 (余暇問題研究所)
 - 上野 幸 (余暇問題研究所)
 - 高橋和敏 (余暇問題研究所)
- 質疑応答

平成14年度(2002年) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第2回) 議事録

- 日時: 平成14年6月24日 (月)
午後6時30分~8時30分
場所: 立教大学池袋キャンパス12号館地下1階 第4会議室
- 出席者: 松田、鈴木(男)、坂口、麻生、荒井、磯城、田中、西田、松尾、鈴木(美)、小塚
- 会長挨拶
- Ⅰ. 議事録事項
 - 1) 前回常任理事会 (平成14年度第1回) の議事録の確認
 - Ⅱ. 報告事項
 - 1) 入会案内について
 - 坂口理事長より
 - ・1000部を作成。コピーをして使用できるよう配属した。
 - ・今回の学会ニュース発送時に入会案内も同封する。
 - 以上の報告があり、今後の新会員の勧誘・発掘に協力して頂きたい旨の演説があった。
 - 2) 会費の納入状況について
 - 坂口理事長より
 - ・2002年6月10日現在、356名が納入済。
 - 学会ニュースで再啓発の予定。
 - Ⅲ. 審議事項
 - 1) 第32回学会大会 (秋、大分大学) のテーマについて
 - 坂口理事長より
 - ・議題の件について大分大学 (古城先生) と連絡を取った。学会の審議課、シンポジウムテーマとして「障害者の大サークル・レクリエーション」(仮)が大分大学より提案された。
 - 常任理事会での討議の結果、次の事項を問題視し検討された。
 - ・学会の主体性を出し、充実したシンポジウムの開催をする。
 - ・福祉などの他分野も関連させ、スポーツ・レジャー・レクリエーションをテーマとみては、
 - ・常任理事会で以下のような提案がなされ、再度大分大学に連絡を取り検討していただくようお願いをする。
 - (1) 大分大学が提案した基調講演とシンポジウムを一体として、大会本部企画シンポジウムとして初日の午後に関催してはどうか。
 - (2) 上記(1)が終了した後、以下の三つのワークショップを試行的実施として開催する。
 - Ⅱ. 議事録事項
 - 1) 前回の報告事項 (平成14年度第1回) の議事録の確認
 - Ⅲ. 報告事項
 - 1) 入会案内について
 - 坂口理事長より
 - ・1000部を作成。コピーをして使用できるよう配属した。
 - ・今回の学会ニュース発送時に入会案内も同封する。
 - 以上の報告があり、今後の新会員の勧誘・発掘に協力して頂きたい旨の演説があった。
 - 2) 会費の納入状況について
 - 坂口理事長より
 - ・2002年6月10日現在、356名が納入済。
 - 学会ニュースで再啓発の予定。
 - Ⅳ. 審議事項
 - 1) 第32回学会大会 (秋、大分大学) のテーマについて
 - 坂口理事長より
 - ・議題の件について大分大学 (古城先生) と連絡を取った。学会の審議課、シンポジウムテーマとして「障害者の大サークル・レクリエーション」(仮)が大分大学より提案された。
 - 常任理事会での討議の結果、次の事項を問題視し検討された。
 - ・学会の主体性を出し、充実したシンポジウムの開催をする。
 - ・福祉などの他分野も関連させ、スポーツ・レジャー・レクリエーションをテーマとみては、
 - ・常任理事会で以下のような提案がなされ、再度大分大学に連絡を取り検討していただくようお願いをする。
 - (1) 大分大学が提案した基調講演とシンポジウムを一体として、大会本部企画シンポジウムとして初日の午後に関催してはどうか。
 - (2) 上記(1)が終了した後、以下の三つのワークショップを試行的実施として開催する。

A会場 セラピューティック・レクリエーション
B会場 景観・造園・環境
C会場 レジャー・レクリエーション

・ワークショップは学会及び大会の充実を考え、今後は一層の組織・学際的な連携を促し、また他機関とのワークショップも作っていく、という方向性が示された。
・学会員が自主的にワークショップを立ち上げたい場合は、学会事務局へ申し出て、学会ニュース等でアクトゥアスしてはどうか、との意見が出された。

- 1) 大会本部企画シンポジウムは討議の結果、基調講演者、パネリストを3名とする開催がなされた。
- 2) 第32回学会大会誌広告料の確認について
 - 坂口理事長より
 - ・前年を参考にすることが確認された。
 - ・学会会号は学会の研究誌の一環であることから、今後は大会号の広告掲載について検討が必要であるという意見が出された。
- 3) 第33回学会大会 (2005年開催) 会場校について
 - 坂口理事長より
 - ・東北福祉大学に学会として打診済みであり、承認された。
- 4) その他
 - ・会員の勧誘について
 - 坂口理事長より
 - ・東北福祉大学に学会として打診済みであり、承認された。

以上2名
入会希望者 阿部 一彦 (東北福祉大学) 以上2名
和久 実利 (鳳川学院短期大学) 以上2名
以上2名の進会者、入会希望者が承認された。

・次回常任理事会の開催
→坂口理事長より
・本回は「理事会 (第2回)」として以下の予定で開催。尚、その後に懇話会を開催することが承認された。

日時: 平成14年7月28日 (月)
18:00~19:00迄
【懇話会 19:00~20:30迄】
場所: 立教大学池袋キャンパス・セントポールズ会館

平成14年度(2002年) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第3回) 議事録

- 日時: 平成14年9月30日 (月) 18:30~20:30
場所: 立教大学池袋キャンパス12号館地下1階 第4会議室
- 出席者: 松田、鈴木(男)、麻生、荒井、坂口、磯城、田中、西田、松尾、鈴木(美)、沼澤、小塚
- 会長挨拶
- Ⅰ. 議事録事項
 - 1) 定款確認
 - 2) 前回常任理事会 (第2回) 議事録の確認
 - 3) その他
 - 坂口理事長より
 - (1) 9月18日付で第19期日本学術会議会員として、本学会が承認された。
 - (2) 日本シミュレーション&ゲーム工学学会において、本学会の「各機後援」の期間について承認された。
 - (3) エコグリーンテック2003年度において本学会の「協賛」について承認された。
 - (4) 第日本スポーツクラブ協会、第4回スポーツクラブセミナーに対する本学会の「各機後援」に対し、礼状が届いた。
 - Ⅱ. 報告事項
 - 1) 学会「機関誌」第43号の進捗状況について
 - 坂口理事長より
 - ・原稿論文1編、研究資料1題と昨年度の学会大会の講演・シンポジウムの記録を掲載し、10月中には発送したい。
 - なお、11月期には大会号を発送する。
 - 第32回学会大会の発表申し込み状況について
 - 坂口理事長より
 - ・11期の掲載申し込みがあった。
 - 3) 会費納入について
 - 坂口理事長より
 - ・9月30日現在、324名会費納入済。
 - 平成11・12・13年度の3年間会費未納者が存在しているとの報告があった。
 - この点について、連絡しとり未納期間の会費を納入するよう督促し、連絡が取れない場合は次回から「機関誌」等の発送を中止することが了承された。
 - 4) その他
 - ・会員勧誘について
 - 坂口理事長より
 - 退会者 芳賀昭昭 弓部彰明 芳賀龍治 嶋井 祥 以上4名

入会希望者 加賀谷真紀 青森県立保健大学 神原 正子 神奈川国際福祉大学 佐々木明男 芝浦工業大学 以上3名
以上のように退会者、入会希望者が承認された。

- Ⅲ. 審議事項
 - 1) 第32回学会大会の開催の確約について
 - 坂口理事長より
 - ・開催の期、2日目の発表演題等を最終まででセッションの間に体験をいれするなど、十分に討議できるような連絡を組み合わせ、次回に再確認を行うことになった。
 - 2) 第32回学会大会ワークショップの内容の確認について
 - (1) セラピューティック・レクリエーション
 - 鈴木副会長より
 - ・レジャーのボランティアなどでもワークショップが展開した。報告を持っていくことがスポーツをすることの意義等も考えてみたい。
 - ワークショップの形態は「座談」形式でなろう。
 - (2) 景観・造園・環境
 - 麻生常任理事より
 - ・今までに4回研究会を実施しているが、この日も論文、資料、空間の意義等からのアプローチの可能性などについても検討中、また、阿蘇地方の市民ボランティアによる「野焼きボランティア」という現場からの報告を実施したいこととなった。
 - (3) レジャー・レクリエーション産業
 - 磯城常任理事より
 - ・ワールドカップを素材にしたが今回のワークショップで起こった諸現象をレジャー・レクリエーションの観点から考えたい。
 - 4) その他
 - (1) 「レジャー・レクリエーション研究」
 - 坂口理事長より
 - ・原稿作成依頼について
 - 下村常任理事より
 - 「レジャー・レクリエーション研究」の原稿作成依頼の受け付けについて原稿が提出され、今後、検討を進めていくこととなった。
 - (2) 「レジャー・レクリエーション研究」
 - 坂口理事長より
 - ・投稿規定について
 - 投稿規定について投稿資格、原稿の種別、明確化、費用等の項目について改訂案が提出され、今後検討を進めていくこととなった。

事務局からのお知らせ

1. バックナンバー(「歩み」を含む)の実売券発行を行っています。特に新入会員におすすめています。
 - ①「歩み」32号の送料
 - 1冊¥2,000 (郵便送料¥380) ※既納済み
 - ②「歩み」を除くその他の研究誌は、1冊¥1,000~¥500となります。(送料別)
2. 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーション学会に関心のある方は事務局へ一報ください。
(申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥1,000)と年会費(¥8,000)を罪状で郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。)
3. 平成14年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いいたします。
郵便振替番号 00150-3-602353
4. 学会ホームページで学会大会案内がご覧いただけます。是非一度ご覧下さい。
<http://www.rikkyo.ne.jp/grs/jrslrs/>

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最遅でも2ヶ月程の時間を要する点を考慮して、投稿してください。
会員の皆様積極的に投稿をお願いいたします。

投稿論文送付先
〒352-8558 埼玉県新座市北野1の2の28
立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニティ福祉学部 出版研究室
【日本レジャー・レクリエーション学会事務局】

会員の動静

- 新入会員 (所属) ○退会、特任理事の離脱者
- ①加賀谷真紀 青森県立保健大学
- ②神原 正子 神奈川国際福祉大学
- ③佐々木明男 芝浦工業大学
- ④中村 太郎 医療法人恵愛会大分中村病院
- ⑤佐藤 芳郎 東京工業大学
- ⑥島崎 武 神奈川野外活動協会
- 平成14年度 退会者
- 木田 弘子
- 香川 隆夫
- 丹羽 昭昭
- 弓部 昭明
- 芳賀 龍治
- 嶋井 祥
- 藤山 健

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)
 発行人 江口 正雄 編集 広瀬勉 編集委員
 発行所 〒332-8558 埼玉県新都市北野1-2-26
 立教大学 武蔵野新キャンパス
 コミュニティ福祉学部 松尾研究室内
 電話 048-471-7345
 郵便番号 00150-3-002353

MARCH 2003
 No. 75

日本レジャー・レクリエーション学会のこれから ～その「志願」と「理想」～

副会長 鈴木秀雄
 関東学院大学人間福祉学教授

日本レジャー・レクリエーション学会は、約7年間の研究時代から数え、今年が30年目である。通常、学会としての具備すべき周知の基礎・条件は、(1)学術分野の進歩発展を図ることを目的とし、普及を目的とする団体、(2)主たる構成員が研究者である、(3)事務局および定款・規約等を有し、(4)年1回以上、会員の研究発展を主目的とする学術上の各種集会を定期的に開催し、(5)定期として年1回以上、機関誌・報告書等の学術的な定期刊行物を発行している、ことである。また、学会の形成過程は、既存の専門分野のみか、あるいはその周辺で、新しいパラダイム、すなわち画期的な概念や方法論が提唱されれば、そのパラダイムに即して研究を進める集団が形成され、そのパラダイムが非常に有力であれば、見えざる大学 (invisible college) と呼ばれることがある (visible) 存在となる。即ち、学会の設立のほか、研究所の設置、大学における新学系・コースの設置などがこれにあたる。従って、学問上の革新が続くかぎり、新しい専門分野が誕生し、新しく学会が設立される、といえるのである。

本学会も、即上の足跡を踏むもので、その原動力を日本体育学会に持ち、レクリエーションの理論的枠組み (paradigm) は、身体文化や身体領域とごまらなことから、「見えざる大学」から新しい学会である「目に見える存在」として現在に現れている。

本学会としてあるべき「志願」は、学会の共通言語がレジャー・レクリエーションへと変遷しながらも設立当初からしっかりと受け継がれ、基幹条件を構えた学会として足跡が踏まれ、本学会は日本学術会議連合学会として確立しその歩み続けている。

加えて、大学のなかにも関係科目の設置がみられ、専任だが、筆者が所属する関東学院大学人間福祉学部人間福祉学部に置いて、レジャー・レクリエーション論、セラピューティックレクリエーション論、レジャー・レクリエーション指導実習などが専門科目群として設置され、専門分野としてのパラダイムは認知されてきている。

しかしながら高等教育機関での専門教育が確立したにもかかわらず、次代に求められるもの、高等教育機関で指導者養成がなされ、研究者・指導者の輩出され、整備されていくことになる。学会が生まれ40年になろうとすると、会員(研究者)が増え、学会そのものの社会的認知度を向上させることほもとより、レジャー・レクリエーションのパラダイムの再構築を迫る動きが必要である。学会としての「志願」は明らかにならねば、個人の主体的研究にだけ依拠するのではなく、時代の流れ、学問の発展、社会の変化により、学術集団・研究集団としての学会の有り様も「理想」することが求められている。

専門領域としてのパラダイムは、社会からの認知が求められるものであるから、「社会一般のレジャー・レクリエーションの行動やイメージ」と「学会が認める専門的なパラダイム」との間に乖離が生じていくべきか、あるいはその乖離をどう埋めていくのか、どのように社会一般の先行イメージを浸透させていくべきか、あるいは専門集団が認めるパラダイムの理解をどう一般社会のそれに合致したものにしていくべきか、そのすり合わせ作業を学会が積極的に行うことも重要であると「理想」するのである。学会員の皆が責任をもちたい。

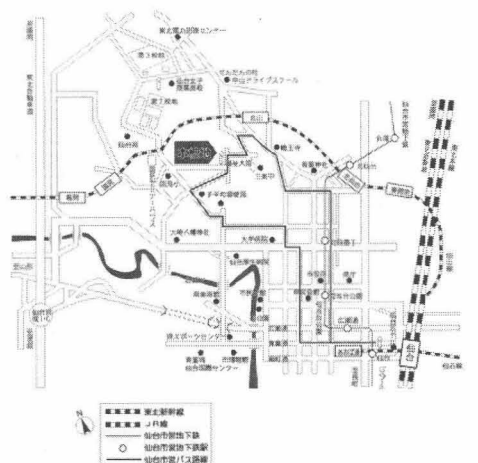
JSLRS	
1. 学会副会長挨拶 (鈴木秀雄) …… P. 1	5. 常任理事会・理事会の報告 …… P. 5
2. 第32回学会大会開催案内・開催会場のご案内 …… P. 2	6. 2003年度(平成15年度)会費納入のお願い …… P. 6
3. 第32回学会大会研究発表論文の募集事項 …… P. 3	7. 編集委員会・事務局のお知らせ …… P. 7
4. 第32回学会大会報告 …… P. 4	8. 会員の動静 …… P. 7

(東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日) 第33回学会大会

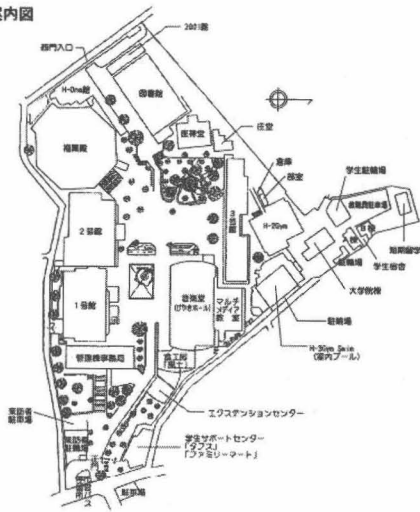
第33回学会大会のご案内 (第1報)

※学会では11月7日(金) 福祉1
 日程 平成15年11月7日(金)～11月9日(日)
 会場 東北福祉大学
 〒981-0543 仙台市青葉区国境1-8-1
 (詳細にて詳細をお知らせします。)

東北福祉大学位置図



学内案内図



第32回学会大会報告

日本レジャー・レクリエーション学会第32回学会大会を終えて

学会大会実行委員長
 古城 建一
 (大分大学教授)

第32回学会大会は、平成14年11月23日(土)・24日(日)の両日にわたって行われた。前年度学会大会の総会において次期開催当大学をお引き受けし、以来、試行錯誤を重ねながら準備を進めてきたが無事終了することができてホッとしている。会員の皆様、事務局の皆様方さらには学会大会の開催に当たりご尽力いただいた関係者の方々に厚くお礼申し上げます。以下に第32回学会大会の概要を紹介し、終了報告とする。

学会大会の第一日目は「障害者スポーツからのメッセージ」をテーマとする基調講演とシンポジウム、3セッションに分かれたワークショップ(①セラピューティック・レクリエーション; ②景観・造園・環境; ③レジャー・レクリエーション産業)、懇親会と行事が進められた。基調講演は、太陽の家事務局長の吉永栄治氏より「障害者スポーツからのメッセージ～太陽の家 37年の歩みを通して～」と題して行われた。講演に引き続いて、福川裕二氏(太陽の家副理事長)、康生和江氏(大分大学)、綿祐二氏(長崎国際大学)の三氏を報告者とするシンポジウムが行われた。三氏からは、それぞれの分野における貴重な実践と研究成果の報告があった。基調講演は参加者に感動を与え、シンポジウムでは、フロアからの質問や貴重な意見が提出し盛況であった。なお、基調講演・シンポジウムには学会員他、一般市民14名、学生100名余りが参加した。シンポジウムに続いて行われたワークショップにおいても、予め設定した教室(どの教室も50～60人収容可)に入りきれないほどの参加者があり、予定時間ギリギリまで研究討論が行われるほどの様子を呈した。二日目は、報告を以て、終日一般研究発表が行われた。残念ながら学会員の参加者数は65名とやや少なかつたが、二会場に分かれて行われた研究討論は熱帯帯りたものであった。

以上の報告に添えて、学会大会が無事になし終えた当番大学としての今の心境を述べたい。大分大学の主体性で企画した基調講演とシンポジウムに北山の方々のご参加をいただいたこと、そして活発な質疑応答や意見交換がなされたことに対して、演者ならびにご参加くださった先生方へから感謝申し上げます。また、準備過程での事務局の適切な指導に対して感謝申し上げます。最後に手前味噌のご批判を受けることは覚悟の上で、補助員として学会大会の円滑な運営に献身的に働いてくれた本学の学生諸君にありかと上言。とある。第32回学会大会にかかわってくださったすべての皆様方に対し、無事終えることができたことを感謝し、学会大会終了のご報告とする。

平成14年度(2002年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第4回) 理事會

■日時:平成14年10月21日(月)
午後6時30分~午後7時30分
■場所:立教大学池袋キャンパス5号館1階
第2会議室
出席者:佐田、柚井、鈴木(男)、坂口、原生、田中、西田、西野、沼澤、松浦、松尾、小坂

会長挨拶

I. 確認事項 →坂口理事長

- 1) 定款確認
2) 前回常任理事会(平成14年度第3回)の議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 第32回学会大会発表抄録原稿の入稿状況について →坂口理事長
・現在17題の発表抄録原稿が入稿している報告がなされた。
2) 第33回学会大会シンポジウム、ワークショップ打合せ状況について
・松尾常任理事より大分大学からの連絡で、タイトル及びシンポジウムは正式決定を要することと報告された。
3) 学会ニュースNo.74の進捗状況について →坂口常任理事
・現在、記載事項の大半はできており、詳細部分についてまとめている途中であると報告された。
4) 会費納入状況について →坂口理事長
・10月21日現在、322名が納入済み、会費未納者には引き続き会費納入の督促をすることが報告された。
・「復讐年の未納期間(平成11、12、13年度)がある会費未納者には、会費納入の督促を行うことと、学会としての対応を検討することが報告された。

III. 審議事項

- 1) 第32回学会大会の開催の確約について
坂口理事長
・開催の内容について報告があった。議題数を考慮し、時程案を編立てた。また学会大会の時程を全会員へ早急に書面連絡をするため、大会号を11月上旬に発行予定ということが確認された。
2) 編集委員会から技術規定の改訂文の掲載遅延について →坂口常任理事より
・学会研究機関誌「レジャー・レクリエーション研究」49号(10月末発行予定)に掲載。以後、修正事項が生じた場合は訂正し、随時誌に掲載していくことが確認された。

3) 次回常任理事会(第5回)の開催日

- 坂口理事長
・理事長に一任することに決断された。

4) その他

- ・会員の動向について →坂口理事長
以下のように退会者、入会希望者が承認された。

退会者(1名)

山本 健

入会希望者(3名)

中村 太郎 (医) 京愛会大分中村病院
佐藤 芳郎 東京農業大学研究生
齋藤 武 神奈川県野野外活動協会

平成14年度(2002年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第5回) 理事會

■日時:平成14年11月20日(月) 18:00~19:00
■場所:立教大学池袋キャンパスセントホールズ会館2階「すずかけ」
出席者:佐田、柚井、鈴木(男)、原生、荒井、坂口、榎岡、西田、沼沢、松浦、松尾、山崎、小坂

会長挨拶

I. 確認事項 →坂口理事長

- 1) 前回常任理事会(第4回)の議事録の確認
2) 平成14年度総会決議の確認

II. 報告事項

1) 第32回学会大会に関する事項 →坂口理事長

- (1)参加者数について
大会両日を通して延べ約200名の参加者があった。学生や市民の参加もあつたと報告された。
(2)大会開催地への御礼
開催地である大分大学教育福祉科学部学部長大城誠先生
今大会実行委員長 古城雄一先生
(3)大会月への広告掲載に対する御礼
協賛4社に対して大会号と礼状を送ったことが報告された。
(4)大会決算報告(古城先生から裏送された資料をもとに)
●総収入 833,600円
(学会補助費、大会参加費、懇親会費、弁当代、市民参加費、資料代など)
●総支出 863,851円
(会場費用、講師謝礼金、事務費、懇親会費、弁当代など)
●残金 19,749円
よって、残金が学会に返納された。

2) 会費納入状況について →坂口理事長

- 平成15年11月19日(日)現在、前回以降3名の納入があり、計353名が会費納入済みと報告された。
3) その他 →坂口理事長
(1)日本学術会議で7月27日に公開講座
(2)日本スポーツクラブ協会より協賛に対する礼状が送られてきた。
(3)日本レジャー・レクリエーション学会協賛よりレクリエーション大会協賛に対する礼状が送られてきた。
(4)会員動向について
退会希望者(1名)
音希哲子

入会希望者(4名)

福林美佐 湯布院厚生年金病院
加藤 隆 (財)休閑村協会
森田清美 東北文化学園専門学校
三井 律子 余暇開発研究所

以上のように退会者、入会希望者が承認された。 以上

会員の皆様へ

2003年度会費納入のお願い
2003年度会費を同封の振込用紙にてお振込下さい。

【注意】

2003年度は役員改選に伴う選挙が実施されます。選挙権、被選挙権共に、「選挙実施前年の12月31日までに正会員としての資格を有し選挙実施年の5月30日現在、当該年度の会費を納めている正会員とする」となっています。早めに会費の納入をお願いいたします。

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最低でも2ヶ月程度の時間を要することを考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

事務局からのお知らせ

- 1. パックナンバー「歩み」を含むの裏紙頒布を行っています。特に新入会員におすすめます。
①「歩み」32号の頒布
1冊¥2,000(送料¥390) ※縦紙頒布のみ
②「歩み」を除くその他の研究誌
1冊¥1,000~¥500になります。(送料別)
2. 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。
3. 平成14年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいます。至急納入手続きをお願いします。郵便振替番号 00150-3-002353
4. 学会のホームページをご覧ください。http://www.rikkyo.ac.jp/erp/jslrs

会員の動静

- 新入会員 (所属) ○記号は、今年新しく入会した方です
◎調部 幸弘 東北福祉大学 (社)大友短期障害者育成会
◎池田 良典 新潟福祉医療専門学校
◎福林 美佐 湯布院厚生年金病院
◎加藤 隆 (財)休閑村協会
◎森田 清美 東北文化学園専門学校
◎三井 律子 余暇開発研究所

●平成14年度 退会者

音希 哲子
小島 恵美
野田 文子

平成15年10月

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)
発行人 坂口 正治 編集 佐藤野原委員会
〒352-8558 埼玉県湯布院市北野1-2-26
立教大学 武蔵野新産キャンパス
〒352-8558 埼玉県湯布院市北野1-2-26
立教大学 武蔵野新産キャンパス
〒352-8558 埼玉県湯布院市北野1-2-26
立教大学 武蔵野新産キャンパス
〒352-8558 埼玉県湯布院市北野1-2-26
立教大学 武蔵野新産キャンパス

OCTOBER 2003 No. 76

学会の発展を願って

理事長 坂口 正治

今、日本レジャー・レクリエーション学会では、33回目の学会大会の準備を進めています。学会が今日に至るまでには、多くの緒先覚の方のご努力とご協力を得て今日に至るまでです。また、会員の皆さんのご支援とご協力なくして今日には至りませんでした。あらためて感謝申し上げます。さて、私が理事長に就任して、はやく4年が過ぎようとしています。この間、学会運営が十分に出来たとは思ってはいませんが、手足不中にある事務局を中心に無我夢中でやってきたような気がしました。しかし、会員の皆さんからはお叱りやら運動をいただいたご報告も何となく今日まで遅れなかったような気がしました。

時の流れは実に早く、21世紀を迎え、レジャー・レクリエーション活動に対する社会の要求も多岐にわたる、変わり行く社会の中での対応が求められているところで、そこで本学会も時代の要請に応えるべく研究活動の充実と他の専門分野との連携など学際的な研究が重要になって来ていると思います。また、会員の皆さんに出来るだけ新鮮な情報を提供すると同時に、会員の皆さんからの情報も集めるべくに配慮から平成14年度より学会のホームページを開発いたしました。まだ十分とは言えませんが、徐々に充実して行きたいと思っています。さらに、昨年の第32回学会大会(大分大学)からワークショップを催し、会員の皆さんの生の声が反映できる機会を作りました。これは会員相互の交流と研鑽を深めることが出来たように思います。こうした積み重ねが今後の研究活動の一助となって行くことを期待してやみません。

尚、今年は東北福祉大学におきまして、第33回学会大会が11月7日、8日、9日の3日間にわたり開催されます。レジャー・レクリエーション学会に相応しいプログラムとして、7日には地域研究を開催します。会員が相互交流をすすめるが研究を深める機会になるのではないかと期待しております。会員の皆さんのご参加をお待ちしております。

JSLRS

1. 学会理事長の挨拶(坂口正治).....P. 1
2. 新役員(次期理事)の紹介.....P. 2
3. 第33回学会大会のご案内.....P. 3
4. 東北福祉大学で研究会を招き入れたこと.....P. 5
5. 第33回学会大会の開催要項.....P. 6
7. 学会大会の研究発表要綱.....P. 10
9. 平成14年度決算報告(案).....P. 12
10. 平成15年度予算計画(案).....P. 13
11. 平成15年度予算(案).....P. 13
12. 理事会・常任理事会の報告.....P. 14
13. 事務局からのお知らせ.....P. 18
14. 編集委員会からのお知らせ.....P. 18
15. 平成14年度事業報告(案).....P. 12
16. 会員の動静.....P. 18

2004年度・2005年度期 新理事一覧

改選前理事10名(現行理事による選出)

順位	氏名	所属及び役職関係領域
1位	松尾 哲 矢	立教大学
2位	坂口 正 治	東洋大学
3位	鈴木 秀 雄	関東学院大学
4位	西田 俊 夫	淑徳大学
5位	小田 切 敏	奈良女子大学
6位	麻生 志 恵	東京農業大学
7位	嵯峨 寿 寿	筑波大学
8位	沼澤 秀 雄	立教大学
9位	松田 義 幸	実践女子大学
10位	片桐 義 晴	(社)新都区障害福祉協会

新理事15名(正会員の選挙による)

順位	氏名	所属及び役職関係領域
1位	油井 正 昭	創価学園横浜大学
2位	師岡 文 男	上智大学
3位	茅野 宏 明	武蔵川女子大学
4位	西野 仁	東海大学
5位	小 椋 一 也	国際医療福祉大学大学院
6位	小野寺 浩 三	東北福祉大学
7位	横内 晴 典	城西大学
8位	古城 達 一	大分大学
9位	田中 伸 彦	(独行)森林総合研究所
10位	松浦 三 代子	東京女子体育大学
11位	高橋 伸 樹	国際基督教大学
12位	荒井 茜 子	学習院女子大学
13位	千原 和 夫	日本社会事業大学
14位	野村 一 路	日本体育大学
15位	田 中 祥 子	津田塾大学

第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

第33回学会大会のご案内

■日 程 平成15年11月7日(金)～11月9日(日)
 ■会 場 東北福祉大学
 〒981-8572 仙台市青葉区国見1-8-1
 TEL 022-233-3111

※今学会では11月7日(金)〔福祉：景観・造園・環境〕レジャー産業：文化・地域研究〕プログラムが組まれていきます。

東北福祉大学位置図



●交通アクセス

<バス利用> 仙台市営バス(仙台市青葉区)24番「大森」より乗車
 「字平町福山」・「北山」停留所下車
 「字平町福山」の停留所「大森」の停留所「大森」より徒歩1分
 「字平町福山」の停留所「大森」の停留所「大森」より徒歩1分
 「字平町福山」の停留所「大森」の停留所「大森」より徒歩1分
 「字平町福山」の停留所「大森」の停留所「大森」より徒歩1分

開会式 平成15年11月8日(土) 11:00～12:00 (11号ホール会議室)
 閉会式 平成15年11月9日(日) 13:00～14:00 (11号ホール)

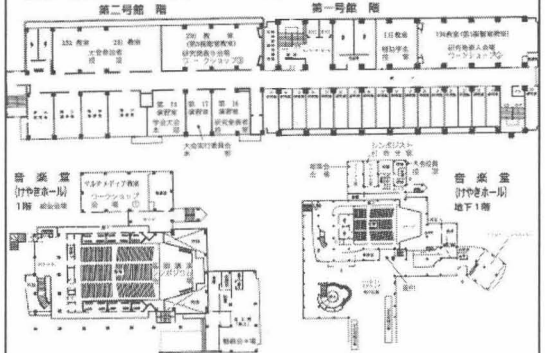
第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

学内案内図



第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

第33回日本レジャー・レクリエーション学会々々場案内図



東北福祉大学で学会大会を迎えるにあたって!!

第33回学会大会実行委員長
 東北福祉大学教授 小野寺 浩 三

昨年、大分大学で学会員に挨拶してから早いもので、第33回学会大会がやってきます。5名の学会員でスタートした御禮も、今は17名(新会員7名)の学会員と新編編・仙台市レクリエーション学会の協力を得て22名のスタッフで迎える準備を進めています。大会実行委員長は名ばかりで、素直に11月学会員の先生方とレクリエーション協会の方々とお会いすることがあります。

会場が東北福祉大学ということ。福祉を考慮していただいたテーマや若手高齢社会が中心で中高年齢者や高齢者のレジャー・レクリエーションについても多く取り上げていただき、最終的に本部との連携により「レジャー・レクリエーションと地域文化」をメインテーマとし、実行スタッフとして「世代間交流にみる諸活動」に決意。基調講演者、シンポジストの交流、収録に奔走したのも東の原の出来事のように感じています。

唯一、この第33回学会大会において、実行委員会として「こたわった」ことは「世代(generation)」という内容です。親子・孫の世代、若年・中年・老年の年齢層、また、生まれてから30年を1区切りとするならば、2区切りも区切りもあり、この「世代」が一掃に意向できるのがレジャー・レクリエーションの強みではないでしょうか。

この地の学会員の理解と協力、そして本部の後押しもあり次第に整理され、何とかなる学会員を迎えることができる状況が整いつつあります。実行委員会、学会員、レクリエーション盛会の皆さんと本部で迎えたいと思っています。是非、第33回学会大会に足を運んでいただければ幸いです。

第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

日本レジャー・レクリエーション学会
第33回学会大会開催要項

- 1. 主 幹: 日本レジャー・レクリエーション学会
- 2. 主 管: 日本レジャー・レクリエーション学会第33回学会大会実行委員会
- 3. 期 日: 平成15年11月7日(金)・8日(土)・9日(日)
- 4. 会 場: 東北福祉大学 キャンパス
〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1

5. 日 程
- 第1日目 11月7日(金)
- 11:30~12:30 受付(けやきホール入り口)
 - 12:30~12:40 開会挨拶 松田善幸(日本レジャー・レクリエーション学会会長)
 - 12:40~16:20 地域研究
 - ① 特別講演(けやきホール)
 - 「独眼竜政宗-伊達若狭しい最後」 逸見英夫氏(仙台郷土研究会副会長)
 - ② フィールドスタディ「仙台城址」 福祉大(現)-瑞宝館-仙台城址-仙台市博物館-福祉大(著)
- 第2日目 11月8日(土)
- 11:00~12:00 理事会
 - 12:00~ 受付
 - 13:00~13:10 挨拶 萩野浩基氏(東北福祉大学学長)
 - 13:10~14:10 基調講演(けやきホール)
 - 「レジャー・レクリエーションと地域文化」 大村慶一氏(宮城大学教育研究担当副学長 専攻学部長)
 - 14:20~15:40 シンポジウム(けやきホール)
 - 「世代間交流にみる諸活動」
 - コーディネーター 仲野隆士氏(仙台大学体育学部助教授)
 - シンポジスト 行政の立場から 嶋崎 渉氏(仙台市泉区副区長)
 - 仙台・青葉まつり(すずめ通り)における地域文化と世代間交流の立場から 平賀ノブ氏(BRIDAL PLANNER STAGE 代表取締役 青葉組踊り部会長)
 - 英国のレジャー・レクリエーション政策研究の立場から 寺島善一氏(明治大学教授)

第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

15:50~17:50 ワークショップ

- ① セラピューティック・レクリエーション (マルチメディア教室)
 - 「新しい視点から見たセラピューティックレクリエーションの活用と課題」(松田善幸)
 - コーディネーター: 鈴木秀雄 (宮城大学人間福祉学部長)
 - 話題提供1 「大学における授業での障害者に対する取り組みから」 学会副会長 石井 九(立教大学名譽教授)
 - 話題提供2 「障害者福祉協会における取り組みから」 学会常任理事 片桐義典(社団法人 仙台市障害者福祉協会)
- ② 景観・造園・環境 (130教室)
 - 「地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理」
 - コーディネーター: 麻生 恵 (東京農工大学教授)
 - 話題提供 「イギリスのカントリーライフとアウトドア・レクリエーション」 荒井 歩 (東京農工大学地域環境科学部助手)
- ・ワークショップ
 - ファシリテーター: 栗田 和赤 (東京農工大学地域環境科学部講師)
 - 編 集 麻生 恵 (東京農工大学教授)
- ③ レジャー・レクリエーション産業 (230教室)
 - 「東京ディズニーランドの成功から見えてくるもの・学べること」
 - コーディネーター: 徳橋 寿 (筑波大学助教授)
 - キーマント: 上野 昇 (オリエンタルランド副社長)
 - コメントーター: 栗田 和赤 (宮城大学)
 - 大塚潤一郎 (実践女子大学)
 - 坂田 信久 (国士館大学)

18:00~19:30 懇談会(食工房「風土」)

- 第3日目 11月9日(日)
- 8:30~ 受付
 - 9:00~9:40 研究発表 A会場(130教室) <2題> B会場(230教室) <2題>
 - 9:50~10:50 研究発表 A会場(130教室) <3題> B会場(230教室) <3題>
 - 11:00~12:00 研究発表 A会場(130教室) <3題> B会場(230教室) <3題>
 - 12:00~13:00 昼 食
 - 13:00~14:00 総 会 (けやきホール)
 - 14:00~15:00 研究発表 A会場(130教室) <3題> B会場(230教室) <3題>
 - 15:10~16:10 研究発表 A会場(130教室) <3題> B会場(230教室) <2題>

第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

第33回学会大会「ワークショップ企画 ~その2~」のお知らせ

ワークショップコーディネーター
鈴木秀雄

昨年の第32回学会大会(会場:大分大学)で、初めて研究交流および教育実践活動を活用する試みとして学会大会開催と共に、3つのワークショップ(①セラピューティックレクリエーション部門分科会、②景観・造園・環境、③レジャー・レクリエーション産業)が企画されました。各々のテーマは①「それぞれの専門領域からスポーツをどう捉えるか」、②「地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理」、③「ワールドカップを機軸とする」という内容でした。学会大会時に初めて企画されたワークショップでしたが、多くの会員の熱心な参加により、いずれのワークショップも盛況で、多くの意見交換や情報交換がなされ、十分な研究成果をあげ、成功裡に開催されました。

活性化を促進して企画された昨年年初めのワークショップでしたが、学会関係の一貫を担う形態へと昇華するねらいから、第33回学会大会(会場:東北福祉大学)では学会新企画の地域研究を加え、引き続きこれらの3つのワークショップも開催される運びとなりました。昨年と同様ダグランドコーディネーター及びUICセラピューティックレクリエーション分科会コーディネーターとして学会副会長の鈴木秀雄(東京農工大学人間福祉学部長)が、②景観・造園・環境系は、学会常任理事の麻生恵(東京農工大学地域環境科学部助教授)が、③レジャー・レクリエーション産業系は、同様に、学会常任理事の徳橋寿(筑波大学助教授)がコーディネーターを務めます。

第2日目の11月8日(土)の基調講演(13:10~14:10)、シンポジウム(14:20~15:40)の後、これらのワークショップ(15:50~17:50)が開催されます。このワークショップは、3つのグループに分科され、それぞれのワークショップが同時進行で2時間行われます。

ワークショップ ①(セラピューティックレクリエーション)

■テーマ:「新しい視点から見たセラピューティックレクリエーションに関する内容や課題はどのように位置づけられるか」

■趣 旨:
科学的な効果を実証的に求める治療、療育、療法の領域であるセラピーと余暇における自発的で自主的・能動的な活動・状態としての種様に位置するレクリエーションが、それぞれ異なる変容性や有しているものの並列的な形態で共存するものがセラピューティックレクリエーションである。

「過去のセラピューティックレクリエーション研究は、研究として「日本におけるセラピューティックレクリエーションの方向性」とあり方。特にセラピューティックレクリエーションの概念の拡張化と産業化によりその活動の成果をより確実にするために。」(平成9年3月20日(水)13:30~16:00、場所:関東学院大学法学部演習室)や、「セラピューティックレクリエーションの理解とその解明から」→特に日本におけるセラピューティックレクリエーション研究会の組織及びセラピューティックレクリエーションの質的向上に向けて。」(平成13年9月7日(土)18:00~20:30、場所:横浜市市民運動室第2研修室)→そして、第32回学会大会ワークショップでは「それぞれの専門領域からスポーツをどう捉えるか。各テーマにハビリテーションとスポーツとの関連、セラピューティックレクリエーションとスポーツとの関連はどのように理解すべきかを提示する試みにより、それぞれの領域の本質的な外延と内容の相違について議論した。特に「整形外科医が関与したレクリエーションとスポーツ」(大分大学助教授 甲村太郎)、「レジャー・レクリエーションの研究者・専門家が見えるセラピューティックレクリエーションとスポーツ」(東京農工大学人間福祉学部長 鈴木秀雄)について切実な視点から話題提供を行った。

今回のワークショップでは、セラピューティックレクリエーションの概念が日本に導入される以前からその場の課題を生み出して行われてきた活動の領域が、新しい視点としての「セラピューティックレクリエーション」の、そのあり方に「位置づけられるか」、あるいは「位置づけられるべきなのか」、また「位置づけられるべきか」を議論し、「新しいレクリエーション」として見られていく内容についての課題、概念の整理についてを議論する。

- 話題提供1 「大学における授業での障害者に対する取り組みから」 石井 九(立教大学名譽教授)
- 話題提供2 「障害者福祉協会における取り組みから」 片桐 義典(社団法人 仙台市障害者福祉協会)
- コーディネーター および編 集

第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

ワークショップ ②(景観・造園・環境)

■テーマ:「地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理」

■趣旨提供 麻生 恵氏(東京農工大学地域環境科学部助教授) 「ガーデンアイランド景観」が愛護されるなど、21世紀を迎えて国土(地方、地域)に対する意識やそこで暮らすライフスタイルが大きく変わろうとしている。地域が保有する美しい景観や自然環境、歴史的遺産などに磨かれて、心豊かに生活するという新しいライフスタイルが志向されてきたといえる。一方で、最先端の管理手法により、自然環境を中心とする対象空間の状況も著しく変化しつつあり、その管理機能が顕在化するようになった。また、それらを市民(ユーザー)自身もボランティア活動などで管理を行うという動きも見られるようになった。

昨年の大分大学のワークショップでは、景観を対象とした地域資源としてのレクリエーション空間の状況(開閉点と課題)を整理し、さらに開閉の基準に対する好適なボランティアや東京近郊の事例を軸を中心に議論したが、時間的な制約もあり、十分な議論が出来なかった。そこで、今回はイギリスの田園地域におけるアウトドア・レクリエーションの事例例をも新たに追加しながら、この問題の議論を始めた。

■話 題 提 供 イギリスのカントリーライフとアウトドア・レクリエーション

荒井 歩 (東京農工大学地域環境科学部助手)

■ワークショップ ファシリテーター: 栗田 和赤 (東京農工大学地域環境科学部講師)

○参加者全員で議論し、今後の方向性や研究課題などについてまとめる。

■編 集 麻生 恵 (東京農工大学教授)

ワークショップ ③(レジャー・レクリエーション産業)

■テーマ:「東京ディズニーランドの成功から見えてくるもの・学べること」

人生80年代はすでに現実となり、昔からの基準はモノから心へ、所有から存在へとシフトし、レジャー社会への転換の必要が顕著に感じられ、しかし、産業社会のレジャーサービスは、はたしてそうした人々の価値観やライフスタイルの変化に及び切れているのだろうか。喜劇に人気のあるスター・スノーボードも、リフト待ちの長蛇の列は通達の感と、スキー場は経営危機に直面している。また80年代を中心に全国各地に林立したテーマパークも経営破綻が次いでいる。こうした現象は、これまでのレジャー産業のあり方の見直しを迫っているのではないだろうか。その一方で、唯一安定した実業力を維持し、「とり勝ち」のテーマパークがある。東京ディズニーランド(DL)である。

多くのテーマパークが閉鎖し、各種レジャー・レクリエーション関連施設が方向転換を迫られる中、なぜDLだけが今なお進化を遂げているのだろうか。「顧客満足と最先端したサービス提供の経済価値追求」や「DL」という言葉の由来は通達の感と、スキー場は経営危機に直面している。こうした現象は、これまでのレジャー産業のあり方の見直しを迫っているのではないだろうか。その一方で、唯一安定した実業力を維持し、「とり勝ち」のテーマパークがある。東京ディズニーランド(DL)である。

多くのテーマパークが閉鎖し、各種レジャー・レクリエーション関連施設が方向転換を迫られる中、なぜDLだけが今なお進化を遂げているのだろうか。「顧客満足と最先端したサービス提供の経済価値追求」や「DL」という言葉の由来は通達の感と、スキー場は経営危機に直面している。こうした現象は、これまでのレジャー産業のあり方の見直しを迫っているのではないだろうか。その一方で、唯一安定した実業力を維持し、「とり勝ち」のテーマパークがある。東京ディズニーランド(DL)である。

多くのテーマパークが閉鎖し、各種レジャー・レクリエーション関連施設が方向転換を迫られる中、なぜDLだけが今なお進化を遂げているのだろうか。「顧客満足と最先端したサービス提供の経済価値追求」や「DL」という言葉の由来は通達の感と、スキー場は経営危機に直面している。こうした現象は、これまでのレジャー産業のあり方の見直しを迫っているのではないだろうか。その一方で、唯一安定した実業力を維持し、「とり勝ち」のテーマパークがある。東京ディズニーランド(DL)である。

キーマント 上野 昇 (オリエンタルランド副社長)

コメントーター 栗田 和赤 (宮城大学)

大塚潤一郎 (実践女子大学)

坂田 信久 (国士館大学)

平成14年度(2002年) 日本シブヤー・リーグエニオン学生会 総選挙(第3回) 選挙権

選挙日:平成14年6月13日(日)

選挙区:平成14年度分一年級(選挙区) 選挙区:平成14年度分一年級(選挙区) 選挙区:平成14年度分一年級(選挙区)

- 1. 選挙権者
2. 選挙権者
3. 選挙権者

- 1) 選挙権者
2) 選挙権者
3) 選挙権者

- 1. 選挙権者
2. 選挙権者
3. 選挙権者

平成14年度(2002年) 日本シブヤー・リーグエニオン学生会 総選挙(第3回) 選挙権

選挙日:平成14年3月3日(日)

選挙区:平成14年度分一年級(選挙区) 選挙区:平成14年度分一年級(選挙区)

- 1. 選挙権者
2. 選挙権者
3. 選挙権者

- 1) 選挙権者
2) 選挙権者
3) 選挙権者

- 1. 選挙権者
2. 選挙権者
3. 選挙権者

平成15年度(2003年) 日本シブヤー・リーグエニオン学生会 総選挙(第1回) 選挙権

選挙日:平成15年9月5日(日)

選挙区:平成15年度分一年級(選挙区) 選挙区:平成15年度分一年級(選挙区)

- 1. 選挙権者
2. 選挙権者
3. 選挙権者

- 1) 選挙権者
2) 選挙権者
3) 選挙権者

- 1. 選挙権者
2. 選挙権者
3. 選挙権者

平成15年度(2003年) 日本シブヤー・リーグエニオン学生会 総選挙(第1回) 選挙権

選挙日:平成15年11月1日(日)

選挙区:平成15年度分一年級(選挙区) 選挙区:平成15年度分一年級(選挙区)

- 1. 選挙権者
2. 選挙権者
3. 選挙権者

- 1) 選挙権者
2) 選挙権者
3) 選挙権者

- 1. 選挙権者
2. 選挙権者
3. 選挙権者

平成15年度(2003年) 日本シブヤー・リーグエニオン学生会 総選挙(第1回) 選挙権

選挙日:平成15年11月1日(日)

選挙区:平成15年度分一年級(選挙区) 選挙区:平成15年度分一年級(選挙区)

- 1. 選挙権者
2. 選挙権者
3. 選挙権者

- 1) 選挙権者
2) 選挙権者
3) 選挙権者

- 1. 選挙権者
2. 選挙権者
3. 選挙権者

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)
発行所 飯口 正浩
事務局 〒352-8558 埼玉県新井キャンパス

MARCH 2004
No. 77

清水幾太郎先生のアドバイス

会長 松田 義幸

この3月で学会の会長を辭し、油井正昭先生にバトンタッチしていただくことになりました。2年という期間、いや本学会に再入会してから20年の近頃があつたという間に過ぎてしまいました。この間に、一度手続きミスで学術会議登録から離れてしまうというハプニングがありました。再度の登録に向けて、研究・教育交流の活性化を図ることになったのです。また事務局もすっきり立て直すことになったのです。幸い会員の皆さんの協力を得て再登録を果たすことができました。本当にホッといたしました。このようなきごとがあったために、あつという間に過ぎてしまった気分になったのだと思います。

のシンクタンクの財団法人余暇開発センターでの研究の理想論にとりかろうと思っています。実は一部はすでに実践女子大学生生活文化学科のホームページ上にSAJ onlineとして掲載しているのですが、この仕事を力を入れようと思っています。というのは、2003年9月に余暇開発センターが解散してしまわれましたので、設立から関係していた一人として、レジャー研究の自分史をまとめたいと思ったのです。本学会の会員の皆さんからのご批判もいただきたいと考えております。(http://campus.jissen.ac.jp/seibun)

実は1972年に余暇開発センターが設立されて間もない頃、現代レジャーの研究に関して、社

(次ページへつづく)

JSLRS

Table with 2 columns: Article Title and Page Number. Includes '清水幾太郎先生のアドバイス', '2004年度(平成16年度)会費納入のご案内', etc.

事務局からのお知らせ

- 1. バックナンバー(「歩み」を含む)の発費別単行を行っています。特に新入会員におすすしめします。
①「歩み」35冊の値段
1冊¥1,000 (郵送料¥300) ※既刊既読み
②「歩み」を除くその他の研究録は、
1冊¥1,000~¥500 になります。(送料別)

- 2. 会員の皆様のお取り扱いでレジャー・レクリエーションに関する方は事務局へご連絡ください。
3. 平成14年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。
郵便振替番号 00150-3-602353
4. 学会のホームページをご覧ください。
http://www.rikyo.ne.jp/grp/jslrs

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いします。

投稿論文送付先 〒352-8558 埼玉県新井市北野1の28 立教大学 武蔵野新井キャンパス コミュニティ福祉学専攻 松尾研究室内 「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

会員の動靜

●新入会員 (所属)

- 1. 草野 幸治 (医療法人社理徳成会看護職大学院)
2. 大森 幸一 (関西保育福祉専門学校)
3. 大島 博人 (名古屋女子文化短期大学)
4. 上井 真由 (姫路短期大学)
5. 平田 厚 (静岡福祉情報短期大学)
6. 福山 正和 (和歌山TOL国際福祉専門学校)
7. 山下 陽子 (日本女子大学)
8. 松田 義雄 (筑波大学)
9. 藤見 好美 (賢明女子大学国際学部)
10. 飯塚 裕子 (東海大学大学院生)
11. 久保内智子 (東海大学大学院生)
12. 轟崎 百恵 (東海大学大学院生)
13. 森嶋 野 (東海大学大学院生)
14. 遠藤 晃弘 (東海大学大学院生)
15. 仲 真衣子 (東海大学大学院生)

- 16. 奥山 裕香 (関東学院大非常勤)
17. 池野 三義 (鎌倉女子大学)
18. 中野 裕希 (仙台医療福祉専門学校非常勤講師)
19. 千葉佳生花 (仙台医療福祉専門学校)
20. 外崎 真由 (日本女子大学院)
21. 菊野 伸子 (東京慈恵医科大学)
22. 斎藤 幸雄 (仙台福祉専門学校)
23. 大塚 剛人 (公立藤田総合病院放射線療法)
24. 小崎 浩吉 (東北福祉大学)
25. 岡部 真哉 (東海大学体育学部教授)
26. 岡本 伸英 (愛知新城大社会短期大学講師)
27. 赤野 克子 (聖徳大学短期大学部保健科講師)
28. ウォレン 聡子 (早稲田大学現代文化学専攻准講師)
29. 河西 敏幸 (東北文化学園大学看護学部専任教員)
30. 正野 知基 (別府講道学園短期大学助教)

●平成15年度 退会者

- 長谷川峰男、石井 健也、吉川 義子、駒子美代子、前田 謙、嶋本 浩一、曾根 隆成、山田 一彦、青島 俊太、飯久 玲雄、荒川 幸人、木下 孝太郎、藤本 伸之、藤 孝康、藤田 明、高野 小由山、中西 眞司、岡野 室孝、松本あづさ、村元 任信、廣坂 敬誠、飯倉 由美、学校法人東洋学園短期大学医療福祉専門学校

(前ページよりつづく)

会学者の清水幾太郎先生から、とても意義深いアドバイスを頂きました。そろそろ清水先生に宿願のレポートを提出しなければと考えていたことも、回想録を書くきっかけになっていました。

「レジャー問題はエレベートに裸足で登るようなものだ。それくらい哲学も実際も難しい問題なのだ。直ぐレジャー産業振興政策の立案に

入るのではなく、レジャーとはなにか、レジャーはいかにあるべきかの本質に取り組みなさい」

この清水先生のアドバイスはなにも余暇開発センターだけでなく、21世紀を迎えた本学会の追求すべき課題でもあると思います。会長を辞すにあたり、この課題もバトンタッチさせていただきます。

桜花とレクリエーション
— 次期会長を引き受けて —

副会長 油井 正昭 (桐原権次郎大学)

桜花の季節です。会員の皆様には日々ご健康でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

平成16年度は役員交代年度に当たり、事前に会員による選挙で選任されている次期役員が4月から2年間、学会運営に当たることになります。松田義幸会長から私バトンを引き継ぐことになっていて、後学非才のため引き継ぎたいので4月1日を過ぎます。専門分野が造園学ですので、自然環境とレクリエーション、野外レクリエーション地の風景計画などレクリエーション地の立地や計画論の研究・教育を行いました。

学会運営には、役員の方たちをはじめ、広く会員の方々からご意見をいただき、学会発展を志向した活動を進めることができると考えています。会員の英知を集め、活力のある学会を目指したいと思います。

桜花爛漫の季節は、春の代表的なレクリエーションである花見があります。日本人のサクラ観賞は古くから行われていたようですが、一般に普及したのは江戸時代です。サクラは現在300種を超える品種があります。品種による開花時期と北海道の北端から沖縄島の南端まで、3,000kmを超える南北に長い日本列島の季節差を組み合わせてサクラ開花ツアーを作ると、かなり長期の間日本どこかで花見ができ、サクラを追いかけられる旅行も魅力的なレクリエーション行動です。花見だけでなくサクラは日本の文化に深く関わる植物であり、サクラとレジャー・レクリエーションをテーマにしたフォーラムを行いたいと思います。桜花の風景の中で学会発展の方向を考え4月1日を過ぎます。

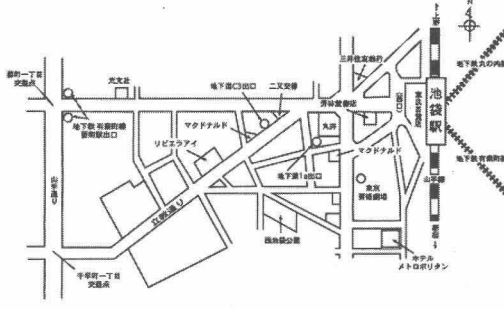
会員の皆様には、種々お話しになりますがよろしくお願ひ致します。

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3・4・5日)

第34回学会大会のご案内 (第1報)

開催日 平成16年12月3日(金)~12月5日(日)
会場 立教大学池袋キャンパス
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学池袋キャンパス位置図



●交通アクセス

JR山手線・埼京線・有楽町線、池袋駅、東武東上線、東武池袋線
地下鉄丸の内線、有楽町線「池袋駅」下車 西口より徒歩約7分

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

立教大学池袋キャンパス案内図



1. 研究発表申し込みの方法

官製ハガキ (FAX不可) に撰題、氏名および所属 (共同研究または個人研究の区別および共同研究の場合は共同研究の氏名全てを記してください)...

2. 申し込み用紙 (学会事務局)

〒355-8558 埼玉県新座市北野1-2-28 立教大学 武蔵野新キャンパス コミュニティ福祉学部 松野研究室内 日本レジャー・レクリエーション学会事務局

平成15年度(2003年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第3回) 議事録

開催日: 平成15年9月18日(木) 13:00-13:30 開催場所: 立教大学池袋キャンパス13号館4会議室

議程

- I. 常任理事会 (平成15年度第2回) の議事録の確認
II. 報告事項
1) 年費納入状況について
2) 第33回学会大会の開催状況について
III. 議事事項
1) 第33回学会大会の開催について

平成15年度(2003年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第4回) 議事録

開催日: 平成15年9月18日(木) 17:30-18:30 開催場所: 立教大学池袋キャンパス13号館4会議室

議程

- I. 常任理事会 (平成15年度第3回) の議事録の確認
II. 報告事項
1) 年費納入状況について
2) 第33回学会大会の開催状況について
III. 議事事項
1) 第33回学会大会の開催について

13歳 児子 10歳
12歳 児子 10歳
14歳 野村 一穂 9歳
15歳 児子 8歳
役員の名簿については、役員選定委員会を開き決めます...

平成15年度(2003年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第2回) 議事録

開催日: 平成15年10月30日(木) 18:00-19:30 開催場所: 立教大学池袋キャンパス13号館4会議室

議程

- I. 常任理事会 (平成15年度第3回) の議事録の確認
II. 報告事項
1) 役員選定委員会報告について

在までの準備、進捗状況の報告がなされた。設けられた各分科の報告がなされた。定例としてこの報告がなされた。
III. 議事事項
1) 平成14年度事業報告について

平成15年度(2003年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第1回) 議事録

開催日: 平成15年10月30日(木) 10:00-11:30 開催場所: 立教大学池袋キャンパス13号館4会議室

議程

- I. 報告事項
1) 常任理事会 (平成15年度第1回) の議事録の確認
II. 議事事項
1) 常任理事会 (平成15年度第1回) の議事録の確認

口 正徳
2) 常任理事会 (平成15年度第2回) の議事録の確認
3) 報告事項
1) 常任理事会 (平成15年度第1回) の議事録の確認

平成15年度(2003年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第3回) 議事録

開催日: 平成15年11月8日(日) 11:00-12:00 開催場所: 東北福祉大学(仙台市青葉区)

議程

- I. 常任理事会 (第2回) の議事録の確認
II. 報告事項
1) 常任理事会 (第2回) の議事録の確認

9月に開催される「第4回日本レジャー・レクリエーション学会大会」の開催地を決定し、定例としてこの報告がなされた。
以上

平成15年度(2003年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第4回) 議事録

開催日: 平成15年11月12日(水) 17:30-18:30 開催場所: 立教大学池袋キャンパス13号館4会議室

議程

- I. 常任理事会 (第3回) の議事録の確認
II. 報告事項
1) 常任理事会 (第3回) の議事録の確認

会員の皆様へ

2004年度会費納入のお願い
2004年度会費を同封の振込用紙にてお振込ください。

事務局からのお知らせ

- バックナンバー(『歩み』を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすすめます。
①『歩み』32号の値段
1冊 ¥2,000 (郵送料 ¥300)
②『歩み』を除くその他の研究誌は、50・51号1冊 ¥1,000
48号まで1冊 ¥1,000+¥500になります。(送料別)
- 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へ一転ください。
- 申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年度会費(¥8,000)を揃えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。
- 平成15年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員は、至急納入手続きをお願いします。郵便振替番号 00150-3-802353
- 学会のホームページをご覧ください。http://www.rikyo.ac.jp/erp/jslrs

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付です。また、研究論文の審査、修正作業には最短でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

投稿論文送付先
〒352-8558 埼玉県新都市北野1の2の28
立教大学 武蔵野新産キャンパス
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内
「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

会員の動静

- 新入会員 (所属)
- 服部 宏治 (広島国際大学保健医療学部専任講師)
 - 佐藤 亜子 (医療法人協善会 東府病院)
 - 三橋 正幸 (財団法人日本レクリエーション協会)
- 平成15年度 退会者
- 鈴木 明 神崎 清一

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

AUGUST 2004 No. 78

事務局 〒352-8558 埼玉県新都市北野1-2-28 立教大学 武蔵野新産キャンパスコミュニティ福祉学部 松尾研究室内
電話 FAX 048-471-7345 郵便振替 00150-3-802353

「レジャー・レクリエーションの知られざる力」の認識

～「要介護予防運動指導者」制度の
開発に座長として関わって～ 学会会長 鈴木秀雄
(関東学院大学人間学専任教授)

日本人の寿命が平均 80歳となり、長寿化による生活習慣病は、さらに余暇生活の質へと連関している。国のスポーツ振興基本計画が平成12年9月に告示され、同年4月には介護保険法も施行された。前者の目標達成年度は平成22年度で、明年初見直しの中間年である。後者も明年を見直しの年と当初から法的に規定している。さらに地方自治法第244条の改正(平成15年9月施行)により、民間ベースの指定管理者による公共のスポーツ・福祉・文化施設の管理運営を可能とし、行政の効率化、住民サービスの質的向上、雇用の拡大(民間雇用の創出)、経済の活性化が期待されている。これらは、長寿社会における余暇そのものの豊かな活用と深く関係性を有している。なかんずく身体活動の日常生活化・生活習慣化が、豊かな生活の維持に重要であるから、国のスポーツ振興基本計画で、成人の1週間1回のスポーツ実施率を告示時の37.3%から、目標達成年度には50%にすることを施策の一つとしている。運動・スポーツに関心や興味がなく、今まで実行できなかった人が今後とも関与しないならば、成人の運動実施率50%の実現に至る事はできない。

度が増すことを防ぐ効果が期待できるからだ。要介護の起因でもある生活習慣病を予防・回避するには、「栄養」としての食を見直し、「休養」の質の充実を図り、栄養や休養とは異なるその必要性が生理的には起こらずとも感覚的嗜好、興味、関心として起こる欲求に強く依存する「運動」を、意識して生活に取り込むことが重要である。自身の身体能力や機能が下がっているライフステージにある時にこそ、併発、要介護にいたらないよう、人生80年の三分の一にも及ぶ余暇を主体的活動(Sedentary activities)で費やさない努力と工夫が大切である。要介護予防の運動を単にスポーツと結びつける。積極的に日常生活を心から楽しむ時に身を委ねることで、運動そのものから「科学的効果と自覚的効果」をしっかりと得ていくレジャー・レクリエーションの充実が何よりも大切である。

(注)日本スポーツクラブ協会がすすめる要介護予防運動指導者制度の開発と実行にプロジェクトの座長として関わり、モックセミナーワークショップ(参加者：「要介護予防運動指導者養成プログラムの開発」 関東学院大学「人間福祉学会紀要」第2号、2004年7月号)を編纂すると共に、そのコンテントを基に手塚で開催した第1回指導者養成講習会で評述「生活習慣の工夫により余暇を機能させ(=Leisurability)余暇活用して生活習慣を転換する(=Leisurability)余暇活用」の必要性を説いた。計化記の日本において、健康上の必要と生活を豊かにしていくには、個人がいかにレジャー・レクリエーションの知られざる力をどう積極的に認識できるかにかかっていると断言ではない。

介護保険の見直しでは、厚労省は本年8月「介護予防重点推進対策本部」を管内に設置し、身体が衰えだしたきりにする事態を防ぎ、介護保険サービス利用者の急増による保険財政の悪化を防ぎ、軽度(要支援と要介護1)の適用者向けのサービスの効率化から身体を衰えを防ぐ介護予防サービスを普及させ、介護が必要となる事態を減らし、家事援助利用の前に介護予防を推進する動きである。これは自然に体を動かす機会を増やすことで要介護

JSLRS

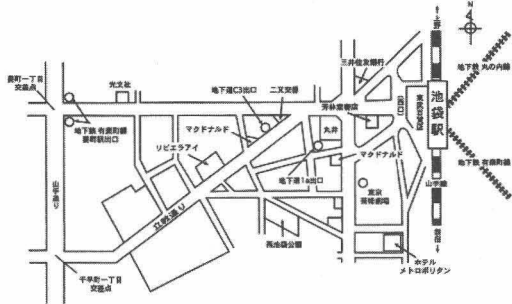
1. 学会副会長挨拶(鈴木秀雄)	P.1	8. 平成16年度 事業計画(案)	P.9
2. 第34回学会大会開催案内(第2報)	P.2	9. 平成16年度 予算	P.9
3. 秋の特別号「レジャー・レクリエーション」のご案内	P.3	10. 常任幹事会報告	P.10
4. 学会大会開催研究への参加募集	P.6	11. 事務局からのお知らせ	P.12
5. 新役員(2004年度～2005年度)紹介	P.7	12. 編集委員会からのお知らせ	P.12
6. 平成15年度 事業報告(案)	P.8	13. 会員の動静	P.12
7. 平成15年度 決算報告(案)	P.8		

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

第34回学会大会開催のご案内 (第2報)

開催日 平成16年12月3日(金)～12月5日(日)
開催場 立教大学池袋キャンパス
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学池袋キャンパス位置図

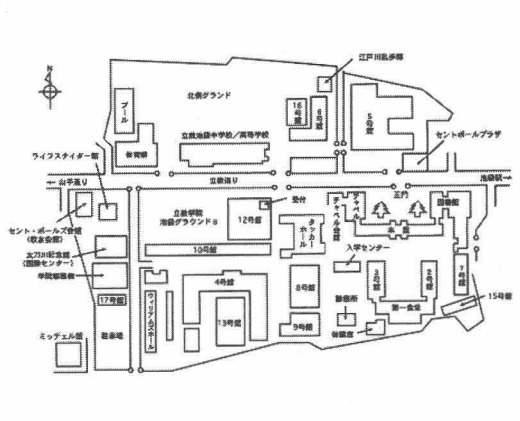


●交通アクセス

JR 山手線、池袋駅、有明駅、池袋駅西口、池袋駅東口、池袋駅南口、池袋駅北口、池袋駅西口、池袋駅東口、池袋駅南口、池袋駅北口

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

立教大学池袋キャンパス案内



日本レジャー・レクリエーション学会 第34回 学会大会

12月3日(金)、4日(土)、5日(日)、立教大学において開催されます第34回学会大会の実行委員会が結成され、実行委員会を開催するとともに総務、研究、渉外、広報の各部会毎に役割分担をし、鋭意作業を行っております。

そこで現在のところまで決定している内容についてご報告します。

日本レジャー・レクリエーション学会第34回大会テーマ

「21世紀グローバル社会に向けた学会発展のビジョンと戦略を考える」

21世紀の安定成熟社会を迎えて、少子高齢社会や国土の管理問題など新たな課題が顕在化すると同時に、レジャー・レクリエーションに対する社会の期待やニーズはこれまでになく高まっています。

また、社会のグローバル化が進み、企業や行政をはじめとする様々な組織は、社会との連携や役割、社会的責任が求められる時代となってきました。組織の存立意義、社会ニーズとの関係が問われ、また、具体的な成果や実績が公開され、厳しい競争にさらされる時代となっています。

こうした動きへの対応は、大学間などの組織を結んだ研究(教育)活動の中心たる「学会」においても、これからの発展を目指す上で避けて避れないものとなりつつあります。

そこで先ず、わが国の21世紀レジャー・レクリエーションの動向や課題を整理した上で、ビジョンの必要性や学会の役割などについて共通認識を深めたいと思います。

さらに本学会の現状を点検し、今後の学会活動の新たな発展・展開にむけた将来ビジョンを展望したいと思えます。

第一部

■特別講演

『21世紀のレジャー・レクリエーションと将来ビジョン』

講演者：佐藤中

第二部

■基調講演

『21世紀グローバル社会と学会に求められる役割・ビジョン』(仮題)

斎藤寿太郎(東京農業大学副学長(改革推進担当)、日本造園学会副会長)

■パネルディスカッション

『21世紀グローバル社会に向けた学会発展のビジョンと戦略を考える』

第34回学会大会ワークショップのご案内

公募について

学会大会の第一日目にワークショップを予定しております。第34回学会大会(立教大学)実行委員会に於いてワークショップについては、2年前から継続して開催しております「セラピューティックレクリエーション専門分科会」及び「娯楽・遊園・環境」領域、「レジャー・レクリエーション産業」領域の3つのワークショップに加え、会員の皆様からワークショップ企画を公募することとなりました。

つきましては、ワークショップの企画を希望される会員は、以下の様式にてお申込みください。なお、応募いただきましたワークショップの企画に関しては、実行委員会に諮り、本学会大会のテーマや既存の専門分科会・ワークショップの内容との関連、応募数、施設的使用等の観点から検討させていただきます。本学会大会での開催の可否について決定させていただきます。

1. 提出期限

9月27日(月)17:00迄

2. 提出方法

学会事務局にメールかファックスにてお送りください。
E-mail: matsuo@rikkyo.ne.jp Fax: 048-471-7345

3. 企画内容

- 1) 企画立案者氏名・所属
- 2) テーマ
- 3) 目的・趣旨
- 4) 具体的な内容及び進め方
- 5) 登壇者及びコーディネーター
- 6) 必要な施設的使用
- 7) その他必要と思われること

以上に関して項目毎にご記入ください。

※なお、当日の時間は2時間程度、会場の規模といたしましては30~50名程度、また当日のワークショップの内容に関しましては必要により報告(学会誌等)いただくこととなりますのでお含みください。

※ご不明な点等ございましたら上記、学会事務局にEメールもしくはファックスにてご連絡ください。

【学会大会地域研究】への参加募集

本学会大会では、昨年にひきつづき大会初日に「地域研究」を実施することになりました。

テーマを「都市レジャーの今昔」とし、江戸から東京へという時代の流れのなかで都市空間におけるレジャーはどのように考えられ、どのような意味を持ち続けてきたのかについて体験的に考究したいと考えています。会員の皆さん、ご一緒に都市のレジャー空間を築く地域研究にふるってご参加ください。

1) 日 時：平成16年12月3日(金)13:00~17:00

2) テーマ：『都市レジャーの今昔』

3) 時 程

13:00 東京駅前集合

13:30~15:00 都市レジャー空間の現在(六本木ヒルズ)

ウォーキングガイドのあと特別許可を得て会員朝のラウンジでのサロンミーティングを行います。

15:30~17:00 都市レジャーの昔(江戸東京博物館)

博物館で江戸の生活・余暇についてのレクチャーを受けそのあと、博物館内を自由見学。

4) 費 用：一人約6,500~7,000円程度(参加者数によって多少異なる。)

5) 参加予定数：30名以上、55名程度

〔参考〕希望者(10名程度)には別料金で、両国のちゃんこ屋さん等への案内も可能です。
※詳細は、次頁にてご案内します。

日本レジャー・レクリエーション学会 役員名簿

(2004年度~2005年度)

- 改選前理事会選出による理事
- 会員選挙による選出理事
- △ 理事長補せんによる理事

会 長	○ 池 井 正 昭 (桐蔭横浜大学)
副 会 長	○ 坂 口 正 裕 (東洋大学)
	○ 鈴 木 秀 雄 (関東学院大学)
	○ 松 浦 三代子 (東京女子体育大学)
監 事	大 谷 善 博 (福岡大学)
	寺 島 善 一 (明治大学)
理 事 長	○ 西 田 俊 夫 (立教大学)
常 任 理 事	○ 藤 生 恵 (東京農業大学)
	○ 小 椋 一 也 (国際医療福祉大学大学院)
	○ 片 桐 義 晴 (社協) 新宿区障害者福祉協会)
	○ 榎 嶋 寿 (筑波大学)
	△ 下 村 彰 男 (東京大学大学院)
	○ 田 中 伸 彦 (独立行政法人森林総合研究所)
	○ 西 野 仁 (東海大学)
	○ 沼 澤 秀 雄 (立教大学)
	○ 松 尾 哲 矢 (立教大学)
	△ 山 崎 律 子 (株式会社問題研究所)
	○ 横 内 博 典 (城西大学)
理 事	○ 荒 井 杏 子 (学習院女子大学)
	○ 小 田 切 毅 一 (奈良女子大学)
	○ 小 野 寺 浩 三 (東北福祉大学)
	△ 上 村 郷 貴 隆 (ヒルサイドビュー-矯正歯科)
	△ 京 野 誠 子 (秋田桂城短期大学)
	○ 古 城 一 (大分大学)
	○ 鈴木 憲 志 (日本レクリエーション協会)
	○ 高 橋 伸 (国際基督教大学)
	○ 田 中 祥 子 (津田塾大学)
	○ 茅 野 宏 明 (武蔵川女子大学)
	○ 千 原 和 夫 (日本社会事業大学)
	○ 野 村 一 路 (日本体育大学)
	○ 郎 岡 文 男 (上智大学)

総会・会議 審議院報告(第二号) 日本レジャー・レジャーエーション学会 平成15年度 審議報告(第1)

- 1. 第1回 平成15年度大会開催
期日：平成15年11月7日(金)・8日(土)・9日(日)
場所：東北福祉大学
2. 第2回 平成15年度大会開催
期日：平成15年11月7日(金)・8日(土)・9日(日)
場所：東北福祉大学
3. 学生会(エース・キック、M&D)の発行
4. 役員会の報告(レジャーエーション研究)
5. 審議院報告
6. 審議院報告
7. 定例会議の開催
8. 平成15年度大会開催報告
9. 平成15年度大会開催報告
10. 平成15年度大会開催報告
11) その他(学会の目的に關する事項)

平成15年度決算報告書(第2)

日本レジャー・レジャーエーション学会 平成15年4月1日～平成15年3月31日 (単位：円)

Table with columns: 科目, 予算額, 実額, 収入の部, 支出の部. Rows include 会費, 寄附金, 雑収入, etc.

平成15年4月10日 監事 佐藤 新一

総会・会議 審議院報告(第二号) 日本レジャー・レジャーエーション学会 平成15年度 審議報告(第2)

- 1. 第1回 平成15年度大会開催
期日：平成15年11月3日(金)・4日(土)・5日(日)
場所：東北福祉大学
2. 第2回 平成15年度大会開催
期日：平成15年11月3日(金)・4日(土)・5日(日)
場所：東北福祉大学
3. 学生会(エース・キック、M&D)の発行
4. 役員会の報告(レジャーエーション研究)
5. 審議院報告
6. 審議院報告
7. 定例会議の開催
8. 平成15年度大会開催報告
9. その他(学会の目的に關する事項)

日本レジャー・レジャーエーション学会 平成15年度 決算報告書(第3)

平成15年4月1日～平成15年3月31日 (単位：円)

Table with columns: 科目, 予算額, 実額, 収入の部, 支出の部. Rows include 会費, 寄附金, 雑収入, etc.

平成15年4月10日 監事 佐藤 新一

平成15年度(2005年) 日本レジャー・レジャーエーション学会 常任委員会(第1回) 議事録

日 期：平成15年4月10日(日) 13:30-15:00
出席者：佐田、池田、藤田、山崎、佐藤、小島
欠席者：
会務報告
1. 報告事項
- 一口口課長
- 事務局長
2. 議事録
3. その他

平成15年度(2005年) 日本レジャー・レジャーエーション学会 常任委員会(第1回) 議事録

日 期：平成15年5月10日(日) 13:30-15:30
出席者：佐田、池田、藤田、山崎、佐藤、小島
欠席者：
会務報告
1. 報告事項
- 一口口課長
- 事務局長
2. 議事録
3. その他

-18-

平成15年度(2005年) 日本レジャー・レジャーエーション学会 常任委員会(第1回) 議事録

日 期：平成15年5月10日(日) 13:30-15:30
出席者：佐田、池田、藤田、山崎、佐藤、小島
欠席者：
会務報告
1. 報告事項
- 一口口課長
- 事務局長
2. 議事録
3. その他

-19-

事務局からのお知らせ

- 1. バックナンバー(「歩み」を含む)の発行... 2. 会員の皆様のお知り合い... 3. 平成16年度の年会費... 4. 学会のホームページをご覧下さい

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度... 投稿論文送付先 昭和大学付属入会員の連絡先を必ず

会員の動静

- 新入会員 (所属) 新入は、今年度入会申込書... 34. 二宮 浩希 (大阪大学経済学部) 1. 小西 浩子 (大阪体育大学健康福祉学部) 2. 山本佳代子 (西南大学法学部) 3. 堀立行政人 (森林総合研究所) 4. 中村 正巳 (岐阜大学理学院) 5. 丸山 善 (新宿一丁目クリニック・ユリの木クラブ)

- 平成15年度 退会書 佐久本穂代、八木穂元一、坂内夏子、小川克博、松井謙、神原孝、松本朋二、浅井清司、常松裕人、斎藤ゆかり、大塚孝雄、藤井昭江、藤田千鶴子、中村千鶴子、秋山多喜男、大場伸、川村晴子、石井善雄、佐藤初雄

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

NOVEMBER 2004 No.79 (Japan Society of Leisure and Recreation Studies) 発行人 西田 俊夫 編集 編集委員会 事務局 〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-28 立教大学 武蔵野新座キャンパスコミュニティ福祉学部 松尾研究室内 電話:TEL 043-471-7245 郵便番号 00150-3-602353

2005年スペシャルオリンピックを迎えるにあたって

日本レジャー・レクリエーション学会 副会長 松浦 三代子

暑かった夏、日本中を沸かせた「アテネオリンピック」その後続いた「パラリンピック」、今は静かに秋を迎えています。

2005年2月長野県で知的発達障害者のオリンピック「オリムピックス」冬季世界大会が開催されます。熊本県一宮町の阿蘇神社で振込され9月に各支団体に分火され、全国各地の支団体と運動し、知的発達障害のあるトーチャーナーが併走者とともに聖火を持って走り、冬季世界大会の機運を盛り上げています。

スペシャルオリムピックスは、知的発達障害のあるアスリートが自立と社会参加が出来るようサポートする国際的なスポーツ組織です。現在160の国、100万人のアスリートと75万人のボランティアが参加する国際的な大きな組織です。何時も圧倒されるのは、アスリートの熱気と大会を支えるボランティアのエネルギーと行動力です。最近わが国でもボランティア活動が盛んになってきましたが、まだまだ道半ばです。

1999年日本身体障害者スポーツ協会は名称を日本障害者スポーツ協会と改称しました。知的障害者のスポーツ振興も含めて全ての障害者のスポーツ振興に力を注ぐことになったのです。

このようにして「障害者スポーツ」、「身障スポーツ」という特殊なスポーツというパラが取り扱われたのです。

参加しているアスリートを見ると、リハビリテーションの一環として汗を流す人、趣味として楽しむ人、そして競技として激しいトレーニングに励んでいる人等、障害の有無に関係なく、本人の意志でスポーツ活動をしています。

多様な価値観が存在し、多様な選択が出来る21世紀。生命の尊さ、人間の幸せ、本当の福祉の姿を問うこの領域のボランティア活動に本学会員、関係者のご理解とご協力を期待するしだいで。

JSLRS

Table with 2 columns: ニュース 10, 1. 学会副会長挨拶(松浦三代子) P.1, 2. 第34回学会大会開催案内(第3期) P.2, 3. 赤レングと歴史の空気の中で(松尾哲矢) P.2, 4. 第34回学会大会開催要項 P.4, 5. 地域研究「レジャーの今昔」投稿募集 P.6, 6. 学会大会研究発表・演題 P.8, 7. 常任理事会の報告 P.10, 8. 事務局からのお知らせ P.11, 9. 編集委員会からのお知らせ P.11, 10. 会員の動静 P.11

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

第34回学会大会開催のご案内 (第3報)

■日程 平成16年12月3日(金)~12月5日(日) ■会場 立教大学池袋キャンパス 〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

赤レングと歴史の空気の中で

第34回学会大会実行委員長 松尾 哲矢

池袋の街から西へとさらに東へと進むと、静かな路地裏に佇む「アテ」の跡に赤レングの建物が見えます。今大会の会場である立教大学は、「自由の学舎」として1914年の開校以来、今年で90周年を迎えます。大会が行われる12月は、二本の古木にマラヤヤシに打釘するイルミネーションなども美しく、秋の気配を漂わせます。

本大会では、21世紀を迎え、これからのレジャー・レクリエーションのビジョンをどのように構築すればよいのか、また、グローバル化の進展に伴い、それぞれの職能が独自の理念と明確なビジョンをもち、いかに社会に向けたアピールと貢献を行うかが問われる時代において、本学会はどのような取り組みをすべきかという問題意識から、大会テーマとして、「21世紀グローバル社会に向けた学会発展のビジョンと戦略を再考」が設定されました。

都市レジャー・レクリエーションの今昔を究る地域研究に始まり、創設以来、池袋三三三(前日本サッカー協会身体障害者委員会)にサッカーの立場から21世紀のスポーツ・レクリエーションと物議を醸成してまいりました。その後、豊島区立大(現立教大学池袋校)による芸術演習とパブリックスペースを通して、今後取り組むべき学会の課題を浮き彫りにし、学会活動の新たな展開に向けた将来ビジョンと具体的な戦略について議論し、ワークショップは、各基ワークショップを加え3日間開催されます。

懇話の場でではマラヤヤシのイルミネーションとパブリックスペースの美しい景色に、一般発表の会場には、チャペルでの礼拝の美しい景色に、美しい一瞬を思い出していただきながら、本学会が赤レングと歴史の空気の中で21世紀のレジャー・レクリエーションの発展を期する空間になればと念願しております。

当日は、いくつかの他学会が開催されることもあり、行き帰りにご一緒される方もいると思いますが実行委員会並びにスタッフ一同、皆様のご参加をよりお待ちしております。

立教大学池袋キャンパス位置図

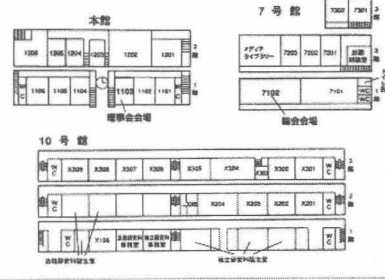
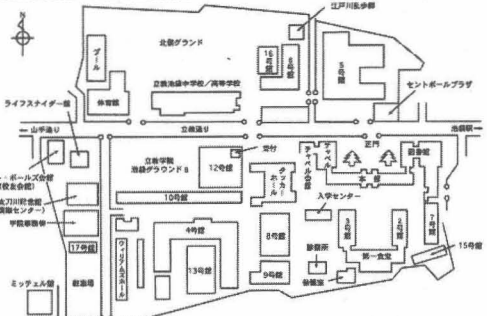


●交通アクセス

JR山手線・池袋駅 高尾線・東北本線・東武東上線・西武池袋線 地下鉄丸の内線・有楽町線「池袋駅」下車 西口より徒歩約7分

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

立教大学池袋キャンパス案内図



理事会 平成16年12月4日(土) 11:00~12:00 会場 本館1103教室 総会 平成16年12月5日(日) 13:10~14:10 会場 7号館7102教室

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

日本レジャー・レクリエーション学会
第34回学会大会開催要項

大会テーマ「21世紀グローバル社会に向けた学会発展のビジョンと戦略を考える」

- 主催：日本レジャー・レクリエーション学会
- 共催：日本レジャー・レクリエーション学会第34回学会大会実行委員会
- 期日：平成16年12月3日(金)・4日(土)・5日(日)
- 会場：立教大学池袋キャンパス
〒171-0021 東京都豊島区西池袋3-34-1
- 日程
 - 第1日目 12月3日(金)
 - 13:00~13:10 受付 (鍛冶橋駐車場：J R東武八重洲南口から徒歩5分)
 - 13:10~13:20 開会挨拶 坂口正治 (学会副会長)
 - 13:20~17:00 地域研究 テーマ『都市レジャーの今昔』
 - (Ⅰ) 都市再生とレジャー空間 (六本木ヒルズ)
 - (Ⅱ) 江戸の娯楽とライフスタイル (江戸東京博物館)
 - 第2日目 12月4日(土)
 - 11:00~12:00 理事会
 - 12:00~ 受付
 - 13:00~13:15 会長挨拶 池井正昭 (日本レジャー・レクリエーション学会会長)
 - 13:15~14:15 特別講演 (7102教室)
 - 「サッカーからみた21世紀のスポーツビジョンと戦略」
 - 田嶋幸三 (前日本サッカー協会技術委員長)
 - 14:20~15:05 基調講演
 - 「始動した21世紀において学会に求められる役割」
 - 義茂寿太郎 (東京農工大学学芸 改革推進担当/日本遊園学会副会長)
 - 15:10~16:30 パネルディスカッション
 - 「21世紀の学会発展のビジョンと戦略を考える」
 - コーディネーター：麻生 恵 (東京農業大学)
 - パネリスト
 - 日本レジャー・レクリエーション学会のこれまでの取り組みから 鈴木秀雄 藤澤洋一 松島勉
 - 国際化の動きと国際化への対応から
 - 産業界、行政等との連携から

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

- 16:40~18:30 ワークショップ
 - ①セラピューティックレクリエーション専門分科会
テーマ：要介護予防運動指導におけるセラピューティックエクササイズの意味と意義
~今年度(2004年)から始動した要介護予防運動指導者養成(資格認定制度をもつて)~
話題提供者：鈴木秀雄 (関東学院大学) (10号館304教室)
 - ②「景観・造園・環境」及び「レジャー・レクリエーション産業」の合同開催
テーマ：レクリエーション資源空間と産業に関わる研究の今後の取り組みを考える
コーディネーター：東田和弥 (東京農業大学)
櫻崎 寿 (筑波大学) (10号館305教室)
 - ③公募ワークショップ
テーマ：個別プログラムとケースワークの実践
コーディネーター：吉岡尚美 (東海大学)
話題提供者：茅野宏明 (武蔵川女子大学) ほか (10号館306教室)
- 18:40~20:10 懇親会 (立教大学第一食堂二階「藤だん」)
- 第3日目 12月5日(日)
 - 8:30~ 受付
 - 9:00~10:00 研究発表 A会場 (7101教室) <3演題>
B会場 (7102教室) <3演題>
 - 10:05~11:05 研究発表 A会場 (7102教室) <2演題>
B会場 (7102教室) <2演題>
 - 11:10~11:50 研究発表 A会場 (7101教室) <2演題>
B会場 (7102教室) <2演題>
 - 12:30~13:00 オルガンコンサート (チャペル)
 - 13:10~14:10 総会 (7102教室)
 - 14:10~15:10 研究発表 A会場 (7101教室) <3演題>
B会場 (7102教室) <3演題>
 - 15:15~16:15 研究発表 A会場 (7101教室) <2演題>
B会場 (7102教室) <3演題>

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

地域研究『都市レジャーの今昔』参加者募集

- 第1日目 12月3日(金)
- 13:00~13:10 受付 (鍛冶橋駐車場：J R東武八重洲南口から徒歩5分)
 - 13:10~13:20 開会挨拶 坂口正治 (学会副会長)
 - 13:20~17:00 地域研究 テーマ『都市レジャーの今昔』
 - (Ⅰ) 都市再生とレジャー空間 (六本木ヒルズ)
 - (Ⅱ) 江戸の娯楽とライフスタイル (江戸東京博物館)

大会初日の恒例となった地域研究を12月3日(金)に開催します。4年ぶりに東京で開催される今回は『都市レジャーの今』がテーマです。
首都東京は、江戸時代の幕開けから現在に至るまで、わが国の都市レジャーの中心地として発展してきました。その400年の歴史の中で、江戸から東京にいたる都市レジャーがどのように変遷したかを体験するツアーです。

テーマ1：都市再生とレジャー空間 ~六本木ヒルズ~

『都市レジャーの今』として、六本木ヒルズを見学します。
ここは昔わずと知られた現代都市レジャーの中心地です。1人で何処もへで出かけても、まわりきれないほどの都市レジャー空間を、ウォーキングツアーで発見します。
また、六本木ヒルズは都市再生や自然との共生の場としても見所いっぱいです。今回は、個人では見学できない「付きまきコンプレックスの屋上庭園」を見学します。
また、一般には非公開の会員制ラウンジの見学・体験も予定されています。

テーマ2：江戸の娯楽とライフスタイル ~江戸東京博物館~

『都市レジャーの昔』として、江戸東京博物館を見学します。
江戸東京博物館は、失われつつある江戸東京の歴史遺産を守るとともに、東京の歴史と文化を振り返ることによって東京の未来を考えるために設立された博物館です。また、展示室は、「江戸ゾーン」「東京ゾーン」「歴史ゾーン」で構成され、浮世絵や絵巻、着物、古道具など約1,500点、大型模型など約300点あまりが展示されています。
ここでは、まずガイドによる解説聞き、江戸の娯楽やライフスタイルに関する見学を済ませます。その後には旗本屋敷を、各自興味のある展示施設を見学して頂く予定です。12月3日(金)は午後8時まで開催しています。

テーマ3：移動に『はとバス』を利用します

見学会の交通機関は『はとバス』です。半世紀以上わたって、都市住民や観光客に親しまれている『はとバス』ですが、利用したことがない会員も意外に多いのではないのでしょうか。これを機会に是非現実の『はとバス』ツアーを実体験してください。

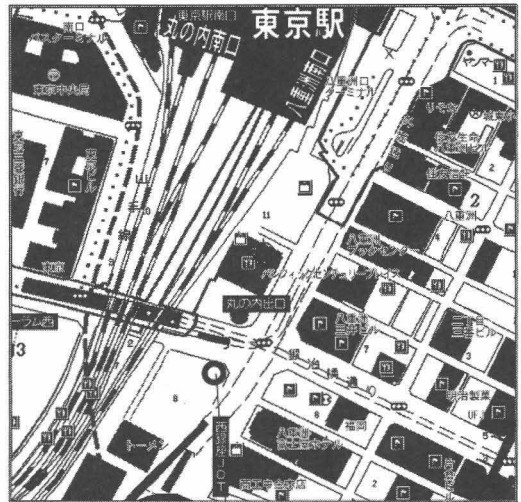
ちなみに、『はとバス』の設立は1948年(昭和23年)、その際の趣旨は「内外人ヲ対象トシテ、内八国内観光ニ新時代のシテ快速ナサービスヲ供スル……、外八国内観光ニ対シテ本事業ヲ進ジテ、新生平和日本ノ良ノ表ヲ紹介ス……」と、戦後復興期の意気込みが込められています。それから半世紀、『はとバス』は昭和の都市レジャーを牽引し、現在も新しい東京の姿を国内外の人々に届けています。

その他：同業者(非会員)の参加を歓迎します

今回の地域研究は公開形式なので、非会員の参加も歓迎します。非会員の学生さんや同業者にも是非お声をかけてください。参加申込ハガキに同業者の記入欄があります。御用聞き下さい。参加費は会員・非会員とも1人8,500円。参加者30~55人を予定しています。

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

地域研究『都市レジャーの今昔』
集合場所案内



第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

第34回学会大会研究発表・演題

■ 研究発表 A会場 (7101教室)

□ 座長: 宮野 基子 (淑徳大学) 9:00~10:00
A-01 職人職者に対する移行支援事業
～介護予防策と移行支援の連携について～
○小畑 一也 (国際医療福祉大学)
A-02 老人医療・福祉施設におけるレクリエーションプログラムの活用
○早坂 孝治 (香梅堂医療)

質疑応答

□ 座長: 野村 一治 (日本体育大学) 10:05~11:05
A-04 高齢者の余暇活動について(8)
～主にコホート調査にみる満足感と誇りを感じて～

○上野 孝 (余暇福祉研究所)
山崎 伸子 (余暇福祉研究所)
高橋 唯雄 (余暇福祉研究所)
A-05 個別レクリエーションの必要性とその効果について
○牧原 宏子 (医療法人協会 東京南)

植木 順子 (福祉施設 建設院)
吉岡 尚美 (東海大学体育学部)

A-06 TR Accountability Model (TRAM) に基づくアセスメント用紙の作成と実用性について
○植木 順子 (福祉施設 建設院)
佐藤 宏子 (医療法人協会 東京南)

吉岡 尚美 (東海大学体育学部)

質疑応答

□ 座長: 荒井 裕子 (学習院女子大学) 11:10~11:50
A-07 現代におけるスポーツの存在意義に関する一考察
～身体的関係性と関連から～

○大隈 剛子 (九州大学大学院)

A-08 遊びと日常性
～遊びの原理的研究の継承を求めて～
○藤部 百合子 (池光大学人間関係学部)

質疑応答

□ 座長: 長岡 伸 (国際医療福祉大学) 14:10~15:10
A-09 砂の堆積化に向けて(3)
～「砂り」と「くつきり」～

○西野 仁 (東海大学)

A-10 「楽しい体育」におけるフロー理論適用の意義と実践
○山田 俊道 (広島市立大学)

A-11 給乳期のライフデザイン
～生活形態や環境変化にみる身体機能の変化を中心として～

○田中 光 (池田大学)
鈴木 英樹 (東海大学非常勤)
鈴木 秀雄 (東洋大学人間関係学部)

質疑応答

□ 座長: 小池 和幸 (仙台大学) 15:15~15:55
A-12 親子学習指導指針等認定制度の検証
○鈴木 雅雄 (東京大学人間科学部)

A-13 親子学習指導指針の検証
～生活リズムのセブティティレクリエーションプログラムをめぐって～

○鈴木 英樹 (東海大学非常勤)
田中 光 (池田大学)

鈴木 秀雄 (東洋大学人間関係学部)

坂口 正浩 (東洋大学社会学部)

質疑応答

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

■ 研究発表 B会場 (7102教室)

□ 座長: 谷口 眞一 (大分大学) 9:00~10:00
B-01 クラシックカーイベントへの参加意識について
～ヴェブレンの「有閑階級の理論」を手がかりに～

○沖 真衣子 (東海大学大学院)
西野 仁 (東海大学)

B-02 大学生アスリートの日常生活環境について
～T大学体育会アメリカンフットボール部員・野球部員の日常生活環境～

○藤原 真弘 (東海大学大学院)
西野 仁 (東海大学)

B-03 「楽しい」レクリエーションプログラムにまつての一考察
～楽しい環境づくりの提案～

○吉岡 尚美 (東海大学体育学部)

質疑応答

□ 座長: 下村 彰男 (東海大学) 10:05~11:05
B-04 デジタルアーカイブと観光ナビゲーションシステムの可能性

○土屋 進 (青森大学)

B-05 宮古・雫・崎半島のリゾート開発における国民休暇村の役割と貢献
○田中 健 (日本メニエティ研究所)

B-06 「江戸名所花見」に見るサクラの名所と花見の権威
○畑井 正明 (新橋横浜大学)

質疑応答

□ 座長: 山田 力也 (西九州大学) 11:10~11:50
B-07 NAPA 年次大会レジャー・研究シンポジウム抄録にみる研究動向(2001~2003年)
～特に社会変化への対応の視点から～

○栗原 祐次 (余暇福祉研究所)
高橋 伸 (国際基督教大学)

高橋 和敏 (余暇福祉研究所)

B-08 企業における社員健康づくり事業と地域貢献に向けた取り組み
～T社における事例中間報告～

○窪田 浩 (余暇福祉研究所)
山崎 伸子 (余暇福祉研究所)

質疑応答

□ 座長: 山崎 伸子 (余暇福祉研究所) 14:10~15:10
B-09 地域福祉とレクリエーション
～地域レクリエーション協会に注目して～

○立木 宏樹 (九州保健福祉大学)
○山口 勇一 (大分大学)

B-10 地域との連携を促進したレクリエーション講習員自らが行う教育効果の検証
～レクリエーション協会職員研修会における実践事例として～

○山口 勇一 (大分大学)
古堀 隆一 (大分大学)

B-11 福祉の設計について
○大澤 由紀子 (東京農業大学大学院)

藤生 恵 (東成大学福祉研究学部)

質疑応答

□ 座長: 田中 達彦 (産科総合研究所) 15:15~16:15
B-12 アジア地域の山岳国立公園における登山利用行動の管理手法の比較
～富士山(日本)、玉山(台湾)、キナバル山(マレーシア)を対象として～

○金子 良博 (東京農業大学大学院)

藤生 恵 (東京農業大学福祉研究学部)

B-13 山岳国立公園における団体客の観光利用の実態
○下嶋 聖 (東京農業大学大学院)

藤生 恵 (東京農業大学福祉研究学部)

B-14 サガルマータ(エベレスト)登山活動と周辺地域の観光利用が自然環境に及ぼす人的影響
○下嶋 聖 (東京農業大学大学院)

藤生 恵 (東京農業大学福祉研究学部)

質疑応答

平成16年度(2004年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第2回) 議事録

日 程: 平成16年7月5日(月) 18:00~20:00
場 所: 立教大学池袋キャンパス12号館
場下1階 第1会議室
出席者: 植井、坂口、松浦、西田、藤生、小畑、井原、高橋、下村、田中、西野、高橋、佐藤、山崎、植井

I 議事事項

1 常任理事会 (平成16年度第1回) 議事録の確認
→西田理事長
2 報告事項
1) 会費納入状況について
→西田理事長
7月5日現在、納入者221名
2) 入会案内について
→西田理事長
資料参照 2004年度~2005年度の役員名簿の度とくに、名簿・所属については誤りがないように留意したい。

3) 学会大会発表申し込みについて

→西田理事長
8月30日〆切りで現在24回の申し込みがあった。申し込み状況としては、昨年・一昨年と比較し高い状況だが、さらに増やす努力をしたい。今後も対応することとして、7月下旬まで状況を見ていくことにしたい。

4) その他

→西田理事長
理事職任の承認については、全理事の承認を得ていること。

III 審議事項

1) 理事会設置等専門委員会の編成 (案) について
→西田理事長
資料により学会の専門委員会の編成 (案) が承認された。

ために「理事会の運営に関する規定」が説明された。

次回の常務委員会の会合は、各担当に対し副会長より指図され、議論を始めることとした。

2) 第34回学会大会 (立教大学) のテーマについて
→松浦理事

資料にもとづき、第34回学会大会大拡大会役員委員会の第1回会合で検討された準備状況、組織編成、役割などが承認された。

なお、今後の実行委員会のスケジュールは、大会プログラム、報費などが決定され、大会開催の運びなども旨々報告された。

3) 第34回学会大会の広告料の確保について
→西田理事長

資料にもとづき、大会協賛広告掲載要項が確認され、9月30日(水)の申込み〆切りまで積極的に進めていくことが承認された。

4) 平成15年度事業報告案について
→西田理事長

資料にもとづき、平成15年度事業報告書(案)が原案どおり承認された。

5) 平成15年度決算報告 (案) について
→西田理事長

資料にもとづき、平成15年度決算報告書(案)が原案どおり承認された。

6) 平成15年度事業計画 (案)
→西田理事長

資料の中で「5 会議」5) 学会の活性化に伴う会議の開催」を「5 会議」5) 学会の活性化に係る会議の開催」に修正し、承認された。

7) 平成16年度予算 (案)
→西田理事長

資料中の支出の部、印刷費の概要の項中「学会誌(大会号) 54号」を削除し、「学会誌51・53(大会号)」に修正し、承認された。

IV その他

1) 会員の動向
→西田理事長

入会希望者2名が承認された。(丸山 香、中村 正巳)

2) 3年以上の未納者 (9名) について総理事より謝罪文があり、その返り状について話し合ったが、連絡してまだ返さぬの53名については、謝罪したのとし、さらに検討することとした。

以上

事務局からのお知らせ

- 1. パックナンバー(「歩み」を含む)の実費領布を行っています。特に新入会員におすめします。
① 「歩み」37号の雑誌
1冊 ¥2,000 (郵送料 ¥390)
② 「歩み」を除くその他の研究誌は、50~53号 1冊 ¥1,000~¥500になります。
49号まで 1冊 ¥1,000 (送料別)
2. 会員の皆様のお知らせにレジャー・レクリエーションに関心のある方を事務局へお知らせください。
(申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を揃えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい)
3. 平成16年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員は、至急納入手続きをお願いします。
口座振替番号 00150-3-802353
口座名「日本レジャー・レクリエーション学会」
4. 学会のホームページをご覧ください。
http://www.rikkyo.ne.jp/irp/jslrs

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度の間を要する点を考慮して、投稿してください。
『日本レジャー・レクリエーション学会』

会員の動静

●新入会員 (所属)

- 6. 伊藤 理子 (東海大学大学院)
7. 高山 優子 (京都工芸繊維大学(非常勤講師))
8. 小長谷 悠紀 (立教大学経済学部)
9. 北高 幹士 (東海大学福岡短期大学)
10. 大阪大学大学院図書

●平成16年度 退会者

岡田 隆造

平成17年6月

学会ニュース

JUN 2005 No.80

日本レジャー・レクリエーション学会

Japan Society of Leisure and Recreation Studies
新井 直樹 編集 編集 学術的内外委員会
事務局 〒450-8503 愛知県豊田1100-1 豊田大学 自由学域研究室内
電話 0565-84-1551 郵便番号 45019-2-02235

学会の「活力」向上を目指して

日本レジャー・レクリエーション学会
会 長 油 井 正 昭
(明誠義塾大学)

日本レジャー・レクリエーション学会は、1966年に15名の発起者によって発足した学術研究会が前身であり、以来、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を遂げてきた。この中で、研究活動の活性化を促すための「活力」向上が重要な課題となっており、学会の「活力」向上は、学術的内外委員会の活動に支えられてきた。現在では、学術的内外委員会を中心に、研究活動の活性化を促すための「活力」向上が重要な課題となっている。

その一つが、学会の「活力」向上を促すための「活力」向上プログラムである。これは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。このプログラムは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。このプログラムは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。

大会での研究発表は、近年は30-40歳代で推移している。学会の「活力」向上には、研究発表が重要な役割を果たしている。研究発表は多様な形式が考えられるが、今年度は「ポスター発表」を導入することになった。「ポスター発表」が効果的な形式である。これは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。

このように大会プログラムの内容を工夫することにより、参加しやすくなり、参加する意欲を感じることができると期待している。大会は3日間になり、全日員の参加が期待される。この中の2日間は、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。

そのほか、研究発表の形式も多様な形式が考えられる。今年度は「ポスター発表」を導入することになった。「ポスター発表」が効果的な形式である。これは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。

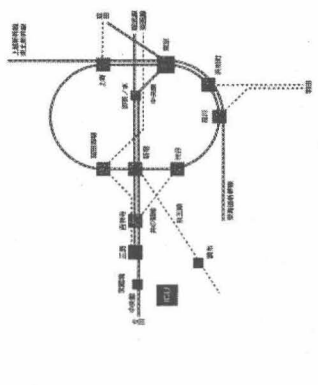
JSLRS

1. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭)	P. 5
2. 日本レジャー・レクリエーション学会の活動(油井正昭)	P. 6
3. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭)	P. 7
4. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭)	P. 8
5. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭)	P. 9
6. 平成17年度学術計画(案)	P. 12

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

第35回学会大会のご案内 (第1報)

■日程 平成17年12月9日(金)～11日(日)
■会場 国際基督教大学 (ICU)
〒100-8302 東京都三鷹市大塚2-10-2



▶選考地から国際基督教大学(ICU)まで

航空利用の場合
選考地羽田(東京国際空港)
→羽田駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

新幹線利用の場合

東京駅(山手線)
→山手線
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

平成17年6月

学会ニュース

JUN 2005 No.80

日本レジャー・レクリエーション学会

Japan Society of Leisure and Recreation Studies
新井 直樹 編集 編集 学術的内外委員会
事務局 〒450-8503 愛知県豊田1100-1 豊田大学 自由学域研究室内
電話 0565-84-1551 郵便番号 45019-2-02235

学会の「活力」向上を目指して

日本レジャー・レクリエーション学会
会 長 油 井 正 昭
(明誠義塾大学)

日本レジャー・レクリエーション学会は、1966年に15名の発起者によって発足した学術研究会が前身であり、以来、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を遂げてきた。この中で、研究活動の活性化を促すための「活力」向上が重要な課題となっており、学会の「活力」向上は、学術的内外委員会の活動に支えられてきた。現在では、学術的内外委員会を中心に、研究活動の活性化を促すための「活力」向上が重要な課題となっている。

その一つが、学会の「活力」向上を促すための「活力」向上プログラムである。これは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。このプログラムは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。このプログラムは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。

大会での研究発表は、近年は30-40歳代で推移している。学会の「活力」向上には、研究発表が重要な役割を果たしている。研究発表は多様な形式が考えられるが、今年度は「ポスター発表」を導入することになった。「ポスター発表」が効果的な形式である。これは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。

このように大会プログラムの内容を工夫することにより、参加しやすくなり、参加する意欲を感じることができると期待している。大会は3日間になり、全日員の参加が期待される。この中の2日間は、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。

そのほか、研究発表の形式も多様な形式が考えられる。今年度は「ポスター発表」を導入することになった。「ポスター発表」が効果的な形式である。これは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。

JSLRS

1. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭)	P. 5
2. 日本レジャー・レクリエーション学会の活動(油井正昭)	P. 6
3. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭)	P. 7
4. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭)	P. 8
5. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭)	P. 9
6. 平成17年度学術計画(案)	P. 12

平成17年6月

学会ニュース

JUN 2005 No.80

日本レジャー・レクリエーション学会

Japan Society of Leisure and Recreation Studies
新井 直樹 編集 編集 学術的内外委員会
事務局 〒450-8503 愛知県豊田1100-1 豊田大学 自由学域研究室内
電話 0565-84-1551 郵便番号 45019-2-02235

学会の「活力」向上を目指して

日本レジャー・レクリエーション学会
会 長 油 井 正 昭
(明誠義塾大学)

日本レジャー・レクリエーション学会は、1966年に15名の発起者によって発足した学術研究会が前身であり、以来、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を遂げてきた。この中で、研究活動の活性化を促すための「活力」向上が重要な課題となっており、学会の「活力」向上は、学術的内外委員会の活動に支えられてきた。現在では、学術的内外委員会を中心に、研究活動の活性化を促すための「活力」向上が重要な課題となっている。

その一つが、学会の「活力」向上を促すための「活力」向上プログラムである。これは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。このプログラムは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。このプログラムは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。

大会での研究発表は、近年は30-40歳代で推移している。学会の「活力」向上には、研究発表が重要な役割を果たしている。研究発表は多様な形式が考えられるが、今年度は「ポスター発表」を導入することになった。「ポスター発表」が効果的な形式である。これは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。

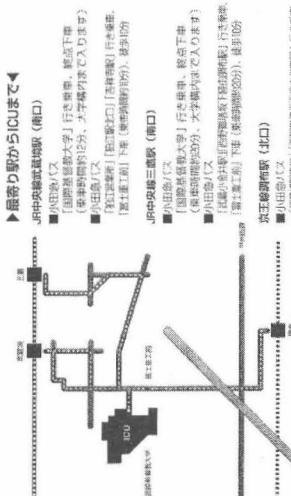
このように大会プログラムの内容を工夫することにより、参加しやすくなり、参加する意欲を感じることができると期待している。大会は3日間になり、全日員の参加が期待される。この中の2日間は、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。

そのほか、研究発表の形式も多様な形式が考えられる。今年度は「ポスター発表」を導入することになった。「ポスター発表」が効果的な形式である。これは、学術的内外委員会を中心とした研究活動の展開を促すための「活力」向上プログラムである。

JSLRS

1. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭)	P. 5
2. 日本レジャー・レクリエーション学会の活動(油井正昭)	P. 6
3. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭)	P. 7
4. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭)	P. 8
5. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭)	P. 9
6. 平成17年度学術計画(案)	P. 12

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)



選考地から国際基督教大学(ICU)まで
航空利用の場合
選考地羽田(東京国際空港)
→羽田駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

新幹線利用の場合
東京駅(山手線)
→山手線
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

選考地から国際基督教大学(ICU)まで
航空利用の場合
選考地羽田(東京国際空港)
→羽田駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

新幹線利用の場合
東京駅(山手線)
→山手線
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)



選考地から国際基督教大学(ICU)まで
航空利用の場合
選考地羽田(東京国際空港)
→羽田駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

新幹線利用の場合
東京駅(山手線)
→山手線
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

選考地から国際基督教大学(ICU)まで
航空利用の場合
選考地羽田(東京国際空港)
→羽田駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

新幹線利用の場合
東京駅(山手線)
→山手線
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)



選考地から国際基督教大学(ICU)まで
航空利用の場合
選考地羽田(東京国際空港)
→羽田駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

新幹線利用の場合
東京駅(山手線)
→山手線
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

選考地から国際基督教大学(ICU)まで
航空利用の場合
選考地羽田(東京国際空港)
→羽田駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

新幹線利用の場合
東京駅(山手線)
→山手線
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)



選考地から国際基督教大学(ICU)まで
航空利用の場合
選考地羽田(東京国際空港)
→羽田駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

新幹線利用の場合
東京駅(山手線)
→山手線
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

選考地から国際基督教大学(ICU)まで
航空利用の場合
選考地羽田(東京国際空港)
→羽田駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

新幹線利用の場合
東京駅(山手線)
→山手線
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)
→池袋駅(有楽町線)

総会・会誌 要録要報告(つづき)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成17年度 事業計画(案)

- I. 事業
- 1) 第34回学会大会の開催/期日:平成17年12月8日(期日)、10日(期日)開催。場所:立教大学大講堂
 - 2) 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行/発行元、発行所
 - 3) 学会ニュース/発注、発注、発注の発行
 - 4) 役員の変更/役員の変更/役員の変更(3月30日現在)、新理事長選出、会長・副会長・監事の選出、理事等による役員選出(1-10月の間)
 - 5) 組織の拡大による「学入会員の選出、立会員の選出、レジャー・レクリエーション研究」投稿論文発表の拡大等
 - 6) 学術誌上の論文/日本学術会議、日本公認会計士協会、日本労働力研究所、体育学・スポーツ科学研究連絡会
 - 7) 立教大学との関係/立教大学
 - 8) 学術誌上の論文/立教大学
 - 9) その他(学会の目的に関わる事項)
 - ① 会長選挙の実施
 - ② 第34回学大会の開催
- II. 会 費
- 1) 学大会の開催/平成17年12月11日開催 立教大学大講堂
 - 2) 理事等の報酬/役員報酬
 - 3) 立教大学との関係/立教大学
 - 4) 各種専門委員会/立教大学
 - 5) 学会の活性化に関わる会費の削減/運営経費
 - 6) その他(学会の目的に関わる事項)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成17年度 予算(案)

目 的	本年予算	前年度予算	増減(円)	取 入		備 考
				額	種	
前年度繰越金	600,792	365,083	235,709	504,719		
年度会費	3,000,000	3,000,000	0	8,000×400名		
増年度会費	320,000	640,000	-320,000	8,000×40名		
入会費	40,000	60,000	-20,000	2,000×20名		
賛助会費	22,000	22,000	0	22,000×1件(入会費含む)		
諸 会 費	50,000	200,000	-150,000			
雑 収 入	178,278	172,837	5,441	5,281	学費給等	
合 計	4,700,000	4,700,000	0			
				支 出		
印刷費	3,200,000	3,200,000	0	印刷費、印刷費、印刷費、印刷費、印刷費、印刷費		
通信費	300,000	400,000	-100,000	学会ニュース、学大会、学大会、学大会		
事務用品費	70,000	70,000	0	文具、コピー用紙、トナー等		
事務局運営費	100,000	350,000	-250,000	交通費・アルバイト代等		
各種専門委員会費	100,000	100,000	0	委員会費、委員報酬等		
諸学費	250,000	0	250,000	立教大学との関係、立教大学との関係		
学術誌刊行費	100,000	100,000	0	刊行費		
会 費	200,000	200,000	0	総会・学大会、学大会、学大会		
大会開催費	201,000	201,000	0	第34回学大会(開催費)		
予 算	178,000	78,000	100,000			
合 計	4,700,000	4,700,000	0			

平成16年度(2004年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第3回) 議事録

開催日:平成16年10月25日(日) 18:00~19:30
開催場所:立教大学大講堂キャンパス北27号館地下1会議室
出席者:池井、松浦、鈴木、原生、小椋、櫻城、田中、沼津、松尾、山崎、橋内
会長挨拶
議題
I 確認事項 → 常任理事
前回常任理事会(平成16年度第2回)の議事録の確認
II 報告事項
1) 会費納入状況について → 小椋常任理事
10月25日現在 納入者26名
昨年度の状況に比べると納入者が少ない。12月の学大会で会費納入を積極的に行いかける。
2) 第34回学大会の発表申し込み状況について → 松浦常任理事
発表申し込み 27題
3) 学会ニュース79号・79号について → 松浦常任理事
79号に学大会のプログラムを掲載して11月8日に発送予定
III 審議事項
1) 第34回学大会の開催について → 松浦常任理事
資料(第34回学大会開催要綱)により、12月5日頃の開催から12月5日頃開催発表までの日程が確認された。
2) 第34回学大会の特別講演、基調講演、パネリストの特別講演、基調講演、パネリストの特別講演について → 松浦常任理事
① 特別講演 (立教大学学術委員長 田中 尚三氏による「サッカーから見た21世紀のスポーツビジョンとレジャー」が講演されることが確認された。
② 基調講演 立教大学学術委員長 田中尚三氏による「学術委員より一筆 常任理事学大会誌第54号は年度内の発行を目指したい。」

「活動した」日記において学会に求められる役割が基調講演されること確認された。
③ パネリストディスカッション タイトル「21世紀の学大会発表のビジョンと戦略を考える」
コーディネーター 東京農業大学教授 原生氏が担当して実施する確認をした。
パネリストについては再度検討し、大会実行委員長に一任することとなった。
3) 第34回学大会のワークショップの確認について → 松浦常任理事
従来実施してきたワークショップの他に公開ワークショップとして、武蔵川女子大学教授 茅野宏明氏よりテーマ「個別プログラムとネットワークの発展」があった。その実施にあたっては議論、承認された。
4) 学会誌第53号(大会号)について → 松浦常任理事
11月20日に発送する予定で現在進めている。基調講演の内容、研究発表の抄録を掲載することが確認された。
5) 35回学大会の開催会場について → 松浦常任理事
まだ開催会場が定まっていない。次回11月22日(日)の常任理事会までに候補地を選び、常任理事会にてできれば35回の開催についても検討していきたい。
6) 学会活性化検討の委員会設置について → 松浦常任理事
学会の活性化に向けて委員会の名称を学会活性化検討委員会(仮)として進めていきたい。
この会の方向性委員選出については次回の常任理事会で検討・決定したい。
7) 入会・退会について → 松浦常任理事
入会希望者 高橋 肇
小松谷健二(立教大学専攻生) 北原 幹士(東海大学福岡短期大学) 大阪体育大学図書館 岡田 隆雄
8) その他
① 編集委員会より一筆 常任理事学大会誌第54号は年度内の発行を目指したい。」

指している。第34回学大会の原稿の確認を早急に行い、今回(第35回)の大会の内容については終了次第作業に取りかかる。

平成16年度(2004年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第4回) 議事録

開催日:平成16年12月22日(月) 20:00~21:00
開催場所:立教大学池袋キャンパス12号館地下1階 第3会議室
出席者:池井、松浦、鈴木、原生、小椋、坂口、田中、西田、西野、沼津、松尾、山崎、橋内
会長挨拶
議題
I 確認事項 → 西田理事長
前回常任理事会(平成16年度第3回)の議事録の確認
II 報告事項
1) 会費納入状況について → 小椋常任理事
11月22日現在 納入者26名
平成16年度・15年度と比べると少し低い納入状況になっている。今後ニュースレターなどにより督促する。
2) 学会ニュース79号について → 山崎常任理事
79号は発送済みである。
ホームページも更新されているので、会員各位に届けていきたい。
3) 学会誌第53号(大会号)について → 松浦常任理事
現在第53号(大会号)の抄録が整った。11月24日に発送予定している。
4) 第34回学大会の会費準備状況について → 西田理事長
第34回学大会会費準備状況について、大会運営のシステム・担当者をはじめ、会場設営、受付業務、接遇、記録、案内等の運営についても確認された。
5) 第34回学大会の開催状況について → 西田理事長
ポスターを作成し、常任理事の方々へ配布日本レジャー・レクリエーション協会との協力により、開催認定校へのチラシ案内、またホームページに掲載される。
6) 第34回学大会地域研究、特別講演、基調講演、パネリストディスカッションの準備状況について → 松浦常任理事
地域研究、特別講演、基調講演、パネリストディスカッションについて、それぞれの内容・物品について確認された。特に研究発表者のキーワード等の使用について受付に確認された。
7) 第34回学大会総会会場/立教大学大講堂の開催状況について → 西田理事長
大会終了後総会を予定している。来年に向けては常任理事の先生方に協力していただき、多くの広告宣伝をお願いしたい。
8) 学大会広告協賛について → 松浦常任理事
マナ・ファイランドリゾート東京 1件のみの広告協賛。
大会終了後総会を予定している。来年に向けては常任理事の先生方に協力していただき、多くの広告宣伝をお願いしたい。
9) 学会活性化検討委員会について → 松浦常任理事
名称を学会活性化委員会として、原生、原、松浦、鈴木、原生、田中、西野、西野、山崎、松尾等の6名で担当する。
年度内に開催し、次のニュースレターで会員に意見を求めたい。
10) その他
① 公園レクリエーション世界大会in浜松について → 西野常任理事
平成16年9月6日~10日に静岡県浜松市で開催された。
公園レクリエーション世界大会in浜松のポスターセッション監修業務を無事終了した。
III 審議事項
1) 第34回学大会会費について → 西田理事長
ニュースレター79号に掲載された平成16年度事業計画(案)、会費準備(案)、平成16年度事業計画(案)、予算(案)が審議され、確認された。
2) 第34回学大会の開催および運営について → 松浦常任理事
第34回学大会大会誌発行委員会の内容を確認し、了承された。
第34回学大会の開催について
大会2日目12月4日(日)1時より、第2別冊理事にて総会についての内容を確認することが確認された。
3) 第34回学大会の開催会場について

けた事業をしたい。
④ 第4号議案について → 納入会員の増進と会員制度の導入を考える。
⑤ その他について → 報告事項と役員名簿についての報告を予定。
2) 第35回学大会の開催について → 西田理事長
推進により高橋(幹)理事が勤務する国京基督教大学としたい。高橋(幹)理事も前向きな手続きを進めたい意向を表明した。

平成16年度(2004年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第5回) 議事録

開催日:平成17年1月24日(日) 18:00~19:00
開催場所:立教大学池袋キャンパスセントホール2会議室(幹すずかけ)
出席者:池井、松浦、鈴木、坂口、原生、小椋、田中、西田、西野、松尾、山崎、橋内
会長挨拶
議題
I 確認事項 → 西田理事長
前回常任理事会(平成16年度第4回)の議事録の確認
II 報告事項
1) 第34回学大会にかかわる事項 → 松浦常任理事
① 参加人数について 従へ人数240名の参加となった。
② 大会開催校に対する謝礼 立教大学学術委員長 田中尚三氏にもへて感謝状の挨拶をした。
③ 大会号への広告掲載に対する謝礼 状状を送付した。
④ 大会決算報告 学大会の収入と支出に関しては常任理事による、適切な処理されていることが確認された。
⑤ シンポジウムについて 参加者不足によりテープ起こしをすることができなくなった。
基調講演をはじめ、特別講演、パネリストディスカッション等の担当者に感謝をお願いしている。
学大会の内容を学会誌に掲載の予定。5回学大会誌について

総会資料として総会の内容が詳細に至るまで行かなくてはならない。
(7) その他
研究発表の一部時間通りの進行がなされていない会場があった。次回に向けて再度確認していきたい。
2) その他
① 11月22日の常任理事 西田理事長
入会希望者 岡田隆雄(立教大学専攻生) 渡辺友規(山形医療福祉専門学校)
退会希望者 宮下桂治 土方隆代
入会希望者・退会希望者それぞれについて確認し、承認された。
2005年1月24日現在 287名の納入会費の未納入者に対して、希達印刷に未納年費、会費を記入し、再度呼びかけを行っていた。
さらに会費納入に対して、事務局でも検討していくことが大切である。
③ その他
① スズメバネオリボンについて → 松浦常任理事
2月26日長野でスズメバネオリボンが開催される。前日5日にホテルオークラにおいて、スズメバネオリボン・シシオジウ、フォーラムが開催される。その会場でのボランティアを募集している。先生方にもご協力をお願いしたい。
② 日本学術会議への登録について → 松浦常任理事

平成16年度(2004年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第6回) 議事録

開催日:平成17年8月7日(日) 18:00~19:30
開催場所:立教大学池袋キャンパス・12号館地下1階第1会議室
出席者:坂口、松浦、西田、田中、沼津、松尾、橋内、小椋 松浦副会長挨拶
議題
I 確認事項 → 西田理事長
・前回常任理事会(平成16年度・第5回)の議事録確認

平成17年11月

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

NOV. 2005 No.81

事務局 〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
電話 0492-74-1511 郵便番号 30150-3-60353

発行人 西田 敏夫 編集 広報渉外委員会
編集人 宇野 昌子 編集委員 西田敏夫研究室内

本学会の共通言語としての
“レジャー・レクリエーション”再考

学会副会長 鈴木秀雄
(関東学院大学教授)

学会会議録団体としての日本レジャー・レクリエーション学会も研究会時代を含め、すでに40年を越える長い歴史を有している。時代の変遷と共に社会の中でのレジャー・レクリエーションの捉えられ方も少なからず変容してきた。余暇時間の増大、経済的豊かさを享受してきた時代のto haveからto beへの変化が求められていく。いまだに真の豊かさはどこかが問われている。現代社会が抱える諸問題は、少子高齢化、虐待、犯罪の悪化とその低年齢化、公徳心の欠如、貧乏の不安を含めた生活習慣もたらす健康への危うさ、人間関係の希薄化、匿名伝達力の低下、地域社会の崩壊、環境の汚染など数枚に上らない。しかしこれらの諸問題を俯瞰してみると、実はそこにはレジャー・レクリエーションの在り方が大きく介在していることが窺えてくる。

例えば、少子化は子ども自身の生活に大きな変容をもたらす。自然環境や社会環境の悪化から遊び自体にも変容をきたしている。外で遊び、集団遊び、自らのエネルギーを費やし進んで来た形勢から、内でも、そして体を動かさない遊び形態へと変化していった。またおもちゃも子どもの責任などではない。向後、高齢化(長寿)も悪いのではない。しかし、医療の進歩、衣食住の変容は、自己責任の能力の範囲を超え、「すべきこと」と「したいこと」のバランスを失い、命は永らえても、自身の体さえ自ら動かすことのできない生活を余儀なくされている高齢者も数多い。

また、子どもが社会性を育うために必要とされるのは、大人が先ずその規範を示し得るものを持つていなければならない。特に“仕事でもない偉大な遊びでもない余暇”における行動は、本来、自由であり自己責任ということになる。しかしその判断を持ち得ない状況であれば、どこかで指針となるものがそれなりに規範に準じ提示されなければならない。それがまさに“文化としての力”である公徳心であろう。「教の恥はかき捨て」の考え方の延長とばかりに、“人に見つからなければそれでよい”という風潮は、人間関係の希薄化、地域社会の崩壊などからくる自己中心的な行動として多分野で散見される。命、社会に対して、健全なレジャー・レクリエーション行動を求めるといいうのではなく、レジャー・レクリエーションの質的な在り方を再考する機会を社会が持たなければならない時代であろう。

休養として、娯楽・気晴らしとして、また、自身の啓蒙や開拓に関わる機能が余暇には存在し、それらの機能がカウパング化(組み合わせ)されたり、カタル化(融合化)されたりして、日常の肌身に近いところに存在するのだと認識することが必要である。

余暇における活動や状態は、決して日常から遠く離れ、日本の生活から距離を置かれた状態では存在するものではない。“レジャーの中でなされる遊戯と状態の具体化がレクリエーションである”という認識も社会の中でしっかりと再考することができるとは思わなければならないのである。

JSLRS

1. 学会副会長挨拶(鈴木秀雄)	1	8. 学会大会研究発表・演題	P. 10
2. 第35回学会大会の案内(第2報)	P. 2	7. 理事会の報告	P. 13
3. 学会大会実行委員長挨拶(高橋伸)	P. 5	9. 事務局のお知らせ	P. 14
4. 第35回学会大会開催要項	P. 6	6. 編集委員会のお知らせ	P. 14
5. 地域研究普及文化講座「参加者募集」	P. 8	10. 会員の動き	P. 14

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

第35回学会大会のご案内 (第2報)

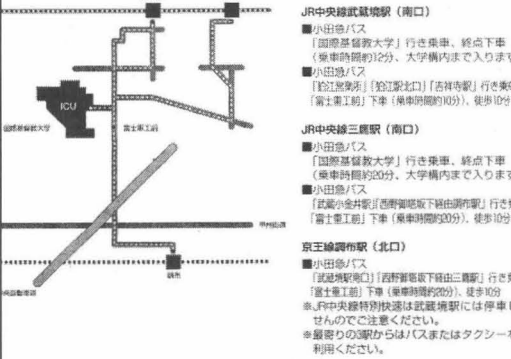
■日程 平成17年12月9日(金)～11日(日)
■会場 国際基督教大学 (ICU)
〒181-8585 東京都三鷹市大沢3-10-2

▶遠隔地から国際基督教大学(ICU)まで▶

航空機利用の場合
■羽田空港 (東京国際空港)
→東京モノレール(羽田空港駅～浜松町駅)
または、京浜急行(羽田空港駅～品川駅)
→JR山手線・京浜東北線(浜松町～品川駅)→東京駅
→JR中央線(東京駅～三鷹駅または武蔵境駅)

新幹線利用の場合
■鹿島海浜・東北・山形・秋田・上越・長野新幹線(東京駅)
→JR中央線(東京駅～三鷹駅または武蔵境駅)

▶最寄り駅からICUまで▶



第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

一学内案内図一

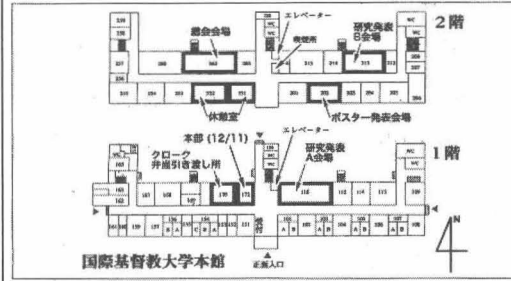
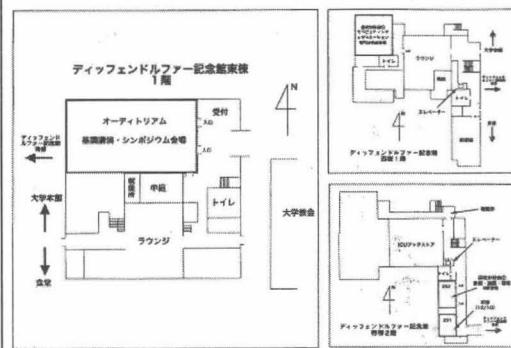


第35回学会大会参加について

返信葉書の申込みと大会参加費等の振り込みの締切は、12月1日(木)となります。なお、振り込み先は下記宛にお振り込みください。
振込先: みずほ銀行成増支店(店番: 239) 口座番号: 2103127
名義: 日本レジャー・レクリエーション学会

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

第35回 日本レジャー・レクリエーション学会 会場案内図



第35回学会大会 (国際基督教大学 2006年12月9日・10日・11日)

時代を担うために

第35回学会大会実行委員長 高橋 伸

第35回日本レジャー・レクリエーション学会大会の開催に当たり、縁に囲まれた自然豊かな国際基督教大学(ICU)のキャンパスに皆さんをお迎えできることを、とてもうれしく思っております。

ご存知の方も多いと思いますが、昭和31年(1956年)の夏休みから全国のレクリエーション指導者が年に一度本学に集まり、「レクリエーションワークショップ」が開催されました。それぞれの参加者が考えを受け取るだけでなく、自分の考えを出し合って新しいアイデアを作り上げていったことは言うまでもありません。あれからちょうど50年目にあたる本年に学会大会を開催できることは大きな喜びであり、参加された方々に新たな飛躍の機会となるよう願っております。

今年の大会テーマは「ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション」です。様々な時代において人々の生活とのかかわりの中でその役割を担ってきたレジャー・レクリエーションについて、改めてその有効性や可能性、さらに各分野の期待などを学ぶとともに、活発な意見や情報の交換を通して、これからの進むべき方向を探ります。

第一日目の地域研究は、本学周辺の歴史文化施設を訪れ、先人の残した生活文化遺産とレジャー・レクリエーションとの関わりを思いを巡らしその意義を考えます。二日目の基調講演では、本学の卒業生で元NHK解説委員の平野次郎氏から、氏の豊富な海外生活経験を通じてこれからのレジャー・レクリエーションが向かうべき方向の示唆を頂き、シンポジウムでは若年層、高齢者、そして公園・緑地問題に関わる3人のスペシャリストの方々から、実践報告や今後の期待についてご意見を伺うとともに、これから我々が担うべき役割の意義や課題を明らかにして頂きます。具体的な活動について学び合う研究分科会は「セラピューティックレクリエーション」と「景観・造園・環境」の2分野です。三日目は研究発表です。口頭発表は19題。さらに今年は初めての試みとしてポスター発表(14題)を行い、活発な意見交換が期待されます。

会期中は本学の中心的存在であります教会とクリスマスツリー、そして私たち実行委員が皆様をお迎え致します。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

-5-

第35回学会大会 (国際基督教大学 2006年12月9日・10日・11日)

日本レジャー・レクリエーション学会
第35回学会大会開催要項

大会テーマ「ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション」

- 主催：日本レジャー・レクリエーション学会
- 主 覧：日本レジャー・レクリエーション学会第35回学会大会実行委員会
- 期 日：平成17年12月9日(金)・10日(土)・11日(日)
- 会 場：国際基督教大学 (ICU)
〒181-8585 東京都三鷹市大沢3-10-2

5. 日 程

第1日目 12月9日(金)

- 10:45~11:00 受付 (JR中央線、武蔵境駅南口)
- 11:00~11:10 開会挨拶 坂口正治 (学会副会長)
- 11:10~15:30 地域研究 テーマ「歴史文化探訪」

1. 地域の歴史文化探訪 (調布市、深大寺)
2. 日本の歴史文化探訪 (ICU内、湯浅八郎記念館)
3. 世界の歴史文化探訪 (ICU隣接、中近東文化センター)

第2日目 12月10日(土)

- 11:00~12:00 理事会 (ディッフェンドルフアー記念館2階252会議室)
- 12:00~ 受付 (ディッフェンドルフアー記念館東棟)
- 13:00~13:15 会長挨拶 滝井 正昭 (学会会長)

大会名誉会長挨拶 鈴木典比古 (国際基督教大学学長)

- 13:15~14:15 基調講演 「ディッフェンドルフアー記念館東棟、オーデトリウム」
「レジャー・レクリエーション見聞記」
平野 次郎 (学習院女子大学特別専任教授、元NHK解説委員)

14:30~15:50 シンポジウム

「ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション」
コーディネーター：西野 仁 (東海大学)

パネリスト

- 若年層育成分野から
徳村 光昭 (慶応大学保健管理センター助教授)
- 高齢者分野から
鈴木 隆雄 (東京都老人総合研究所所長)

-6-

第35回学会大会 (国際基督教大学 2006年12月9日・10日・11日)

○ 公園・緑地環境分野から

西川嘉輝 (国土交通省公園緑地課緑地環境推進室長)

16:00~17:15 研究分科会

① セラピューティックレクリエーション専門分科会

企画責任者及び話題提供者 鈴木秀雄 (関東学院大学)
(ディッフェンドルフアー記念館西棟1階、多目的ホール)

② 景観・造園・環境分野

企画責任者 麻生 恵 (東京農業大学)
(ディッフェンドルフアー記念館西棟2階、252会議室)

17:30~19:00 懇親会 (アラムナイハウス)

第3日目 12月11日(日)

- 8:30~ 受付開始 (本館1階正面入り口)
- 9:00~9:40 研究発表 A会場 (本館1階、116教室) 2題
B会場 (本館2階、213教室) 2題
- 9:50~10:50 研究発表 A会場 (本館1階、116教室) 3題
B会場 (本館2階、213教室) 3題
- 11:00~11:40 研究発表 A会場 (本館1階、116教室) 2題
B会場 (本館2階、213教室) 2題
- 11:00~15:00 ポスター発表会場オープン (本館2階、202教室)
- 11:40~12:30 ポスター指定発表時間
- 11:40~13:00 昼 食
- 13:00~14:00 総 会 (本館2階、262教室)
- 14:00~15:00 研究発表 A会場 (本館1階、116教室) 3題
B会場 (本館2階、213教室) 2題

理事会 平成17年12月10日(土) 11:00~12:00
会場 ディッフェンドルフアー記念館西棟2階252会議室
総 会 平成17年12月11日(日) 13:00~14:00 会場 本館2階262教室

大学食堂：12月10日、11日両日とも大学食堂のご利用が可能です。
喫 煙 所：喫煙は指定された場所をお願いいたします。(学内図参照)

-7-

第35回学会大会 (国際基督教大学 2006年12月9日・10日・11日)

地域研究「歴史文化探訪」参加者募集

第1日目 12月9日(金)

- 10:45~11:00 受付 (JR中央線、武蔵境駅南口)
- 11:00~11:10 開会挨拶 坂口正治 (学会副会長)
- 11:10~15:30 地域研究 テーマ「歴史文化探訪」

1. 地域の歴史文化探訪 (調布市、深大寺)
2. 日本の歴史文化探訪 (ICU内、湯浅八郎記念館)
3. 世界の歴史文化探訪 (ICU隣接、中近東文化センター)

今年の地域研究では、縁に囲まれた閑静なキャンパスで有名な、国際基督教大学(ICU)周辺を散策しながら、武蔵野から世界に向けた歴史文化を探訪します。

はじめに、「地域の歴史文化探訪」として東京で浅草寺に次いで古い、森に囲まれた白鳳仏の「深大寺」を訪れて「武蔵野の歴史文化」に触れた後、ICUに移動します。そして、キャンパスを散策しながら、日本考古学や民芸品の収集で名高いICUの初代学長を顕彰して開館した「国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館」を訪ね「日本の歴史文化」を考えます。最後に、ICUの隣にある「中近東文化センター」で、キリスト教発祥の地でもあり、全世界に様々な文化的影響を与えた「中近東の歴史文化」についての解説を受け、「世界の歴史文化探訪」が締めくくります。

私たちのレジャー・レクリエーションは、歴史文化に大きく影響されて、現在の形になりました。地域の歴史、国の歴史、世界の歴史と、スケールを変えながら歴史文化の意義を考えることで、レジャー・レクリエーション学に対する意義を深めてみてはいかがでしょうか。

※当日はカジュアルな服装と靴でおいでください。

※移動は貸切マイクロバスを利用します。

※深大寺では調布市のボランティアガイド、湯浅八郎記念館と中近東文化センターでは、担当者や研究員の方に説明をして頂きます。

※深大寺で昼食の時間を取ります。門前にはおいしい蕎麦屋が多数あります、各自で昼食をおとりください。

申込み

○同封の大会参加申込みハガキにご記入ください。

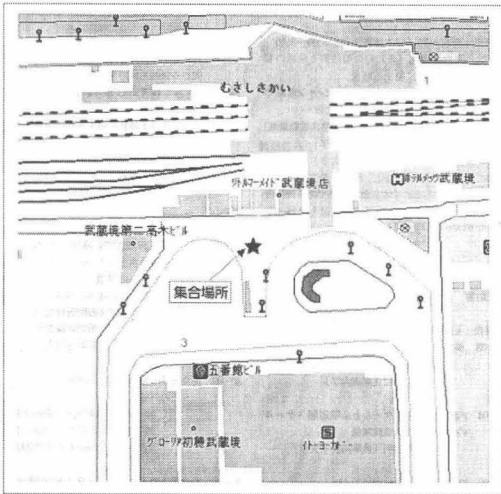
○同伴者(非会員)の方の参加を歓迎いたします。配偶者、学生、同僚、友人など同僚様にお誘いください。

○参加費は会員・非会員とも1人3000円(交通費、入館料等)、参加者20名を予定しております。

-8-

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

地域研究「歴史文化探訪」
集合場所のご案内



R武蔵境駅南口
12月9日(金) 11:00集合

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

第35回学会大会研究発表・演題

第3日目 12月11日(日)

■ 研究発表 A会場 (本館1階 116教室)

- 座長: 野村一雄 (日本体育大学) 9:00~9:40
- A-01 知的障害児(者)の余暇活動と生活の質(QOL)に関する研究
~スポーツ・レクリエーション活動の活動費と非活動費の比較~
○南極正人 (仙台大非常勤講師)
伴野隆士 (仙台大)
小池和幸 (仙台大)
- A-02 知的障害者の余暇活動についての事例報告
~A地区の知的障害者学級を事例として~
○廣田出久 (余暇問題研究所)
黒原秋秋 (余暇問題研究所)
- 質疑応答
- 座長: 松尾 哲矢 (立教大学) 9:50~10:50
- A-03 湯治の実態と湯治に対する意識について
○伊藤雅子 (東海大学大学院)
西野 仁 (東海大学)
- A-04 内的余暇活動スケールと余暇過飽スケールの解釈シートの実践開発
○茅野宏明 (武蔵川女子大学)
- A-05 ゆとりと構造化に向けて(3)
~「くつろぎ」と「日常生活経軌」~
○西野 仁 (東海大学)
吉原さらえ (神奈川県体育協会)
- 質疑応答
- 座長: 藤生 真 (東京理科大学) 11:00~11:40
- A-06 世界各国における野外レクリエーションに関わる保護地域の発展とその特徴
○油井正則 (桐蔭横浜大学)
- A-07 伝統芸能継承団体の再生過程に関する実践報告
~伊勢神宮十二神祇の場合~
○山崎 俊 (広島市立大学)
- 質疑応答
- 座長: 西野 仁 (東海大学) 14:00~15:00
- A-08 特別養護老人ホームにおけるレクリエーション・プログラムの課題
~その支援方法の確立に向けて~
○山崎佳子 (余暇問題研究所)
上野 幸 (余暇問題研究所)
高橋和敏 (余暇問題研究所)
- 質疑応答
- A-09 要介護予防運動の本質的理解
~その外延と内位~
○鈴木秀雄 (長野県立大学人間福祉学部)
楠井孝夫 (東北大学人間福祉学部)
鈴木英吾 (長野県立大学人間福祉学部)
- A-10 要介護予防運動スペシャリストの活動状況
~全有資格者への調査から~
○鈴木英吾 (長野県立大学人間福祉学部)
楠井孝夫 (東北大学人間福祉学部)
鈴木秀雄 (長野県立大学人間福祉学部)
- 質疑応答

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

第3日目 12月11日(日)

■ 研究発表 B会場 (本館2階 213教室)

- 座長: 山崎 律子 (余暇問題研究所) 9:00~9:40
- B-01 総合型地域スポーツクラブの設立に向けた2年間の取り組み
~神奈川県育成指定クラブを事例として~
○古原さらえ (神奈川県体育協会)
西野 仁 (東海大学)
- B-02 中山間地域における体験型観光推進協議会の設立について
~広島県北部の取り組みに着目して~
○山下雅彦 (新潟県立大学)
- 質疑応答
- 座長: 沼津 秀雄 (立教大学) 9:50~10:50
- B-03 レクリエーション資格の取得意識に関する調査研究
○山田力也 (西九州大学)
土井真樹 (佐賀短期大学)
金崎良三 (佐賀大学)
尾公一 (九州龍谷短期大学)
田崎伸子 (九州保健福祉専門学校)
山口 真 (西九州大学)
池田孝博 (佐賀短期大学)
- B-04 レクリエーション資格に関するイメージ分析
○池田孝博 (佐賀短期大学)
土井真樹 (佐賀短期大学)
金崎良三 (佐賀大学)
山田力也 (西九州大学)
田崎伸子 (九州保健福祉専門学校)
尾公一 (九州龍谷短期大学)
- B-05 老人医療福祉施設におけるレクリエーションワークおよびレクリエーション専門職の役割に関する研究(2)
○小池和幸 (仙台大)
- 質疑応答
- 座長: 磯崎 寿 (筑波大学) 11:00~11:40
- B-06 オランダ社会の近代化とヨハン・ホイジンガの遊戯文化論
○杉浦 恭 (愛知教育大学)
- B-07 2000~2005年「ワールド・レジャー・ジャーナル」における投稿研究論文の動向
○黒原秋秋 (余暇問題研究所)
高橋 伸 (国際基督教大学)
高橋和敏 (余暇問題研究所)
- 質疑応答
- 座長: 茅野 宏明 (武蔵川女子大学) 14:00~14:40
- B-08 吉野山地域における文化的景観の保全
○田中伸彦 (国土庁国土利用政策研究機関)
黒田乃生 (国土庁国土利用政策研究機関)
- B-09 国民休暇村における眺望景観の形成とその特徴
○加市 隆 (日本アメリカン研究所)
- 質疑応答

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

第35回日本レジャー・レクリエーション学会大会
ポスター発表演題

- 会場/本館2階 202教室
- 開場時間 11:00~15:00
指定発表時間 11:40~12:30
- P-1 ましむって何? セラピー・テックレクリエーション
マレー竜子 (平安女子学院大学)
茅野 宏明 (武蔵川女子大学)
山田 直代 (筑波大学)
田島 栄文 (甲子園短期大学)
- P-2 歴史館学芸キャンプに参る学生ボランティアへの研修の効果
五十嵐真希 (社会福祉法人舞鶴館)
野島 健治 (社会福祉法人舞鶴館)
高橋 伸 (国際基督教大学)
- P-3 三城市「緑のボランティア講座」活動報告
佐野 光昭 (三重市立公園課)
深野 理香 (東京農業大学)
西村 直人 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-4 環境学習のための優良研修ツアー報告
深野 理香 (東京農業大学)
二階堂由紀 (東京農業大学)
島代 昌代 (東京農業大学)
田崎和祐 (東京農業大学)
- P-5 地味と派手を事例としたレクリエーション空間と利用者属性からみた利用計画のあり方について-ROS (レクリエーション利用区分プログラム)の概念を用いて-
津田 智弘 (東京農業大学)
金子真知史 (東京農業大学)
下島 聖 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-6 富士御用掛国立公園園路緑地における屋敷施設の実態と評価
藤原真依子 (千葉大学)
古谷 勝則 (千葉大学)
油井 正昭 (桐蔭横浜大学)
- P-7 2次産業における環境保全ボランティアの参加意識について-阿蘇野焼き支援ボランティアを対象として-
牧 安全 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
田崎和祐 (東京農業大学)
- P-8 市民参加・NPOによる自然環境の保全管理の課題に関する調査研究
藤田 和祐 (東京農業大学)
- P-9 利根川上流域における「武蔵100歳歩トレイル」の市民による整備・運営計画について
岸 昌孝 (非常勤特定活動法人 利根川上下流域支援センター)
藤田 和祐 (東京農業大学)
- P-10 山形県金山町における田園環境や住民の質性の違いと景観認識に関する調査研究
朝日 隆夫 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-11 自然公園の利用計画に見た乗鞍山麓五色ヶ原の利用システムについて
川口 香 (東京農業大学)
下島 聖 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-12 サガルマータ (エベレスト) 登山がバースケイティングに及ぼす環境影響についてのシミュレーションの試み
下嶋 啓 (東京農業大学)
島田 沢彦 (東京農業大学)
佐賀安希子 (東京農業大学)
入江 満美 (東京農業大学)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-13 町田市さつわか緑地における市民参加型管理運営活動と参加者の意識
薄井 美江 (東京農業大学)
山内 貞彦 (さつわか緑地愛護会)
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-14 小笠原国立公園における適正な利用ルールの導入に向けた現状と課題
井上 麻衣 (東京農業大学)
下嶋 聖 (東京農業大学)
一木 重夫 (小笠原国立公園ウォッチング協会)
麻生 恵 (東京農業大学)

平成17年度(2005年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第1回) 開幕式

■日時:平成17年7月22日(日) 18:00~18:30
■場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館
1階第1会議室
出席者:油井、塚口、鈴木、松浦、西田、麻生、小沼、松澤、山崎、横内、高橋

会長挨拶
I 議題事項一西田理事長
1) 前回常任理事会(平成16年度第6回)議事録の確認

II 報告事項

- 1) 年度会費納入状況について
平成17年7月23日現在、252名の納入が確認された。
- 2) 第35回学会大会の研究発表申込み状況について
一西田理事長
平成17年7月23日現在、4組の研究発表申込みがあった。
- 3) 「学会誌」第54号発行について
一西田理事長
既に発行した。
- 4) 学会ニュース№80(80号)の発行について
一西田理事長
既に発行した。
- 5) その他
一西田理事長
①日本レジャー・レクリエーション協会より鈴木秀雄副会長へ評議員の委嘱状が届き確認した。
②学会の活性化に向けて
一鈴木副会長
地元の学会ニュースにおいて、学会の活性化についての意見を耳で求めたのだが、7月15日の締め切りまでに1件も応募がなかった。しかし今後も、会員からの意見を求めていきたい。
- ③会費納入状況について
5月2日に発送して、5月末までにどのようにするか意識確認通知を出した。その結果、会員として復帰希望が3名、退会希望者が2名あった。その他の58名の会費納入は無回答であった。そのため退会処理をするに至った。

II 審議事項

- 1) 次回(第36回学会大会)開催校について
一横内常任理事
大成学院大学が候補になっており、現在検討している段階にある。他の開催校についての検討も他の理事の方にお願したい。
- 2) 35回学会大会の総論講演、シンポジウム、分科会、地域研究について
→高橋理事
35回学会大会の総論講演の選定候補者、総論講演の題目について一西田理事長と資料をとり、候補者、進捗率および高橋理事(10名)、顧問委員の選出について一西田理事長
資料により選定に基づいて説明がなされ、以下の7名が選出された。
油井正昭(会長)、鈴木秀雄(副会長)、塚口正浩(副会長)、松浦三代子(副会長)、西田俊夫(理事兼編集長)、麻生隆(理事兼編集長)、沼澤秀雄(常任理事)
- 5) その他
①会員動向について
一西田理事長
新入会員 菅 伸江(日本体育大学)
退会者 平 聡志、萬井 望子、塚口 泰武、新村 尚、森島 健也 以上

年度会費3年以上の滞り未納のため、内訳に依り以下58名を退会処理とする。

阿部 功	藤西 祥野	藤本 祐太郎
北野 千景	金 正	正武 重治
本田 真次	伊藤 達郎	黒川 山法
杉田 文雄	増田 良一	嶋崎 明
香島 孝夫	鈴木 文昭	松岡 宏高
村上 辰雄	田中 剛	藤田 孝三
若田 敏彦	武 勇	藤 孝
森 忠雄	岩間 貴之	後藤 太之
谷 徳二	上田 隆一	五林 正隆
藤 崇英	山田 孟	戸田 忠夫
勇 賢治	寺島 文代	山形 彰一
大島 輝子	塩田 豊	戸田 安信
山田 亮	大島 洋子	柴田 文
中野 太郎	菅 彩子	純子
大島 信二	渋谷 孝秀	長瀬 昭雄
渡辺 立雄	加藤 隆雄	金子 秀夫
野川 忠志	藤 真博	丁 村 幸川
菅 章治	川西 正志	藤出 昌博
横田 芳朗		

事務局からのお知らせ

- 1. バックナンバー(「歩み」を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすすぬします。
①「歩み」32号の頒布
1冊¥2,000(紙送料¥300)
②「歩み」を除くその他の研究誌は、50〜53号1冊 ¥1,000
49号まで1冊 ¥1,000→¥500になります。(送料別)
- 2. 会員の皆様のお知らせレジャー・レクリエーションに関するものを事務局へお知らせください。

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について
投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度を要する点を考慮して、投稿してください。
投稿論文送付先 〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1 淑徳大学 国際コミュニケーション学部 西田俊夫研究室
会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。 『日本レジャー・レクリエーション学会事務局』

会員の動静

- 新入会員 (所属)
菅 伸江 (日本体育大学)
菅 原 江 美 (奈良女子短期大学)
野 野 隆 (長崎文化科学研究会)
森 千枝子 (佐野短期大学)
山 内 俊次 (佐野短期大学)
堀 公一 (九州龍谷短期大学)
- 平成17年度 退会者
平木 聡志 萬井 望子 塚口 泰武 新村 尚 森島 健也
太田あや子 京野 純子

お詫びと訂正

前回ニュース80号に掲載されていた平成17年度第1回常任理事会の議事録は、常任理事会ではなく理事会の議事録であります。また、平成16年度第6回常任理事会開催の日に平成17年8月7日と記載されておりますが、正しくは3月7日の誤りです。ここに訂正させて頂き、お詫び申し上げます。

平成16年8月

学会ニュース
AUG. 2006 No.82

事務局 〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
電 話 0492-74-1511 郵政振替 0010-3-020353

日本レジャー・レクリエーション学会
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

発行人 西田 俊夫 編集 広報渉外委員会
連絡先 〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
電 話 0492-74-1511 郵政振替 0010-3-020353

【新会長あいさつ】
余暇活動をデザインするために求められる
「余暇能力 (Leisurability) 向上」の支援に向けて
日本レジャー・レクリエーション学会会長 鈴木秀雄
(関東学院大学教授)

昨年の第35回学会大会において、第8代目の本学会会長に推され、歴代(前川肇雄、江崎慎一郎、渡辺隆雄、前野源一郎、鈴木一、松田義典、油井正昭)各会長の後継者候補者であるが、いささかもとの胸に自信がなかった。ただこの困難の中、即エッセイと時間をかけ、能力が学会のために努力をいとわぬ姿勢で取り組んでいくつもりだ。本学会も長い伝統の中、その時代に向けた改革がなされてきたが、今後は、社会の流動性、学会としてのPerspectiveを明らかにしていかなければならぬ時代だ。特に、日本におけるレジャー・レクリエーションの外延は内包し、一般社会に広く浸透してはいる。学会、専門家集団として、共通言語としてのレジャー・レクリエーションの意味合いを再考すべきである。今夏も、梅雨の明けの中、どっどどが海山河に乗り出し、その余暇活動に親友や友人との楽しみを求め関心になるのだが、水による被害も少なくない。勿論、自然物とは、原則自由であり、自己責任の範疇も求められる。この水難事故を防ぐ心構えについては、東京新聞のインタビュー(2006年8月1日刊)にも、「自分の力と自身の経験とを兼ねて、どどど自分の命を守り、自分の能力を客観的に見つめることが大切だ」とおっしゃった。もう一度、自身の生活環境や余暇活動をデザインする余暇能力 (Leisurability) をどう高めたいべきかを、熟考していかねばならないであろう。積極的な運動と心理的必要性 (Psychological Needs) から生ずることだけでなく、心理的必要性 (Psychological Wants) により生ずるだけに組織

活動の中で実践される身体的レクリエーション (Physical Recreation) は、現代社会にあって貴重であり、重要な価値を有する。子どもの遊び、身体的遊びから、個々の遊び、室内での遊び、エネルギーを有効に消費する遊びへと変化し、中年期では二人一高年齢者の必要状態への適応など、世代を越え自分の心の健康を保つためには、単なる生命維持機能でもない仕事でもない余暇における身体機能の活用能力がますます重要な時代となっている。社会の大きな課題をこぼさず育てると、学会が実践に向けた活動研究としてのプロジェクトを具体的に構築し、立ち上げてほしい。例えば、子どもの外遊び奨励や、中年期に対する生涯運動(適切な自律的運動と適応的運動)の設計の提供、要介護予防プログラムの開発、高齢者の生活習慣改善、生活習慣病の予防、セルフケア活動、セルフモニタリング、自己管理の提供等々、この活動をデザインするために求められる「余暇能力 (Leisurability) 向上」の支援に向けて学会が果たし得る社会参加と社会貢献の場を探りたい。余暇活動が自由な活動であることから、自己中心的な行動が多分受け取られる昨今、「余暇能力向上」の支援活動に、学会が貢献していく必要がある。本質的な領域に目を向け課題解決していく時代であり、そうしたPerspectiveを有するに学会としてのエネルギーを注ぎたいと思っている。会員皆様さんからのご指導いただきたいと思ふ。

JSLRS

1. 学会新会長挨拶(鈴木秀雄)	P. 1
2. 第35回学会大会開催報告	P. 2
3. 第35回学会大会総論講演要旨	P. 2
4. 新発表(2006年度〜2007年度)掲載	P. 3
5. 平成17年度常任理事会(第1回)	P. 4
6. 平成17年度退会者報告(第1回)	P. 4

7. 平成18年度常任理事会(第1回)	P. 5
8. 平成18年度学費(第1回)	P. 5
9. 常任理事会・理事会の報告	P. 6
10. 事務局からのお知らせ	P. 15
11. 編集委員会からのお知らせ	P. 15
12. 会員の動静	P. 15

第36回学会大会(平安女学院大学 2006年12月1・2日・3日)

お知らせ第1弾

第36回学会大会(平安女学院大学 2006年12月1日・2日・3日)

第36回学会大会のご案内

■日 程 平成18年12月1日(金)〜3日(日)
■会 場 平安女学院大学 高槻キャンパス
〒569-1092 大阪府高槻市南平台5丁目84-1

平成18年度 第36回学会大会(於:平安女学院大学)
一般研究発表申込み「延期」のお知らせ

平成18年度第36回学会大会では、より多くの研究・実践者へ研究発表の機会を提供する試みとして昨年の第35回学会大会と同様、口頭発表に加え、ポスター発表(掲示ボードによる質疑応答形式)を設けます。尚、口頭発表は共同研究者を含め本学会員に限ります。また、ポスター発表は筆頭および共同研究者の中に本学会員が含まれていない場合は、申込み締切日と2月21日(木)まで延期申し込みした上で会員皆様のお申込みをお待ちいたしております。また、発表原稿の締め切りは、原稿のとおり9月30日(必着)です。

- 1. 研究発表申込みの方法
筆頭発表者(PAX不可)に研究発表と表記し、筆頭、氏名および所属(共同研究または個人研究の区分)および共同研究者の氏名全てを記入してください。住所(共同研究の場合は代表者とする)、郵便番号、電話番号を記入の上、8月31日までに、本学・事務局(淑徳大学)へお申込みください。所定の封筒原稿用紙を申込書に記載されている発表者の住所に送付します。
- 2. ポスター発表申込みの方法
筆頭発表者(PAX不可)にポスター発表と表記し、筆頭、氏名および所属(共同研究または個人研究の区分)共同研究者の場合は共同研究者の氏名全てを記入し、筆頭氏名に印、正学会員に△印を付記し、住所(共同研究の場合は筆頭者をもつて代表とする)、郵便番号、電話番号を記入の上、8月31日までに、本学・事務局(淑徳大学)へお申込み下さい。所定のポスター用封筒原稿用紙(72cm)を申込書に記載されている発表者の住所に送付します。
- 3. 申し込み料
〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
淑徳大学 国際コミュニケーション学部 西田俊夫研究室
日本レジャー・レクリエーション学会 本部・事務局 宛
TEL:0492-74-1511 (内:2921) mail:ysyokouchi@mm.com-net.ac.jp (換内 増典君)

日本レジャー・レクリエーション学会役員名簿

(2006年度～2007年度)

◎ 改選理事会選出による理事
△ 会員選挙による選出理事
▽ 理事長推薦による理事

- 会長 ◎ 鈴木 秀雄 (東国学院大学)
副会長 ○ 小田切 正浩 (新潟県福祉大学)
監事 ◎ 大谷 善博 (福岡大学)
理事長 西田 俊夫 (筑波大学)

平成18年度～19年度日本レジャー・レクリエーション学会 専門委員会の構成 (案)

Table with columns for committee names and members. Includes sections for '役員' (Officers) and '専門委員会' (Special Committees).

日本レジャー・レクリエーション学会 理事会の選定に関する規定

本理事会は、組織を進行するために次のような専門委員会を置く。
(1) 総務 (2) 研究 (3) 編集 (4) 広報 (5) 紀要
また、専門委員会の委員は、理事会の承認を経て必ずしも1名以上の4名から要するものである。ただし、当該専門委員会の理事長への出陣はできない。

総会・会議 審議概要報告

日本レジャー・レクリエーション学会 平成17年度 事業報告(案)

- 1. 事業
2. 学術大会開催(案)
3. 学術誌『レジャー・レクリエーション研究』の発行(案)
4. 学術誌『レジャー・レクリエーション研究』の発行(案)
5. 学術誌『レジャー・レクリエーション研究』の発行(案)

平成17年度決算報告書(案)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成17年度7月1日～平成18年3月31日 (単位:円)

Financial statement table with columns for '科目' (Item), '予算額' (Budget), '決算額' (Actual), and '増減(A-B)' (Change). Includes sections for '収入' (Income) and '支出' (Expenditure).

収入 5,025,498
支出 3,742,800
繰越 1,282,698
監査の概略、決算報告は適正であると認めます。

総会・会議 審議概要報告(つづき)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成18年度 事業計画(案)

- 1. 事業
2. 学術大会開催(案)
3. 学術誌『レジャー・レクリエーション研究』の発行(案)
4. 学術誌『レジャー・レクリエーション研究』の発行(案)

日本レジャー・レクリエーション学会

平成18年度 予算(案)

平成18年度4月1日～平成19年3月31日 (単位:円)

Financial statement table for the 18th fiscal year with columns for '科目' (Item), '本年予算' (This year budget), '前年度予算' (Previous year budget), and '増減(A-B)' (Change).

平成17年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第2回) 議事録

投票者数: 95人 (投票率: 39.7%)
有効投票数: 475票
白票数: 15票
無効票: 1票

- 開会日時: 平成17年10月3日(月) 18:00～20:00
開場場所: 立教大学池袋キャンパス太刀川記念館
出席者: 池井、松浦、鈴木(発)、坂口、西田、原生、小松、田中、西野、沼澤、松尾、横内、高橋(理事)

Ⅲ. 審議事項

- 1) 役員選挙について →西田理事長
今年度は、役員改選年となる。したがって次の手続きが必要である。
①改選前理事(10名)の選挙については、4月27日(休)から4月28日(休)に平成17年度金費納入通知書納入書類に加えて改選前理事選挙に関する書類一式を、理事長に郵送し、受理者が金費納入を終えたら、5月20日(金)までに投票することとなる。
②正会員による選挙については、5月20日(休)に、平成年度金費納入通知書、納金書類を正会員に交付し、「平成年度金費未納者に対しては、納入を督促して、返答がない場合は(連帯)選挙権、被選挙権がない」と金費納入済みの正会員による選挙人名簿を作成する。そして、6月末までに役員選挙に関する書面一式(投票用紙を郵送したい)。
上記について審議の結果、上記の通り承認された。
また、選挙管理委員会設置については、設置が必要不可欠のこととなる。山崎、松尾、橋内、沼澤、小沢の6名の常任理事が委員候補に推薦され、候補者全員が選出された。
その委員長は、山崎常任理事が選出された。
- 2) 平成16年度事業報告について →西田理事長
審議報告が提示され、審議の結果、事業報告が承認された。次回(平成17年度)の理事会において再審議することとなった。
- 3) 平成16年度決算報告について →西田理事長
審議報告が提示されたが、一部不備があり、訂正を審議委員会に提出し、承認された後に総括決算書を理事により監査することとなる旨の審議があった。
- 4) 平成17年度事業計画(案)について →西田理事長
審議報告が提示され、審議の結果、一部訂正して承認された。
- 5) 平成17年度予算(案)について →西田理事長
審議報告が提示され、審議の結果、一部訂正して承認された。
- 6) 第35回学大会について →高橋(幹)理事
実施要案の説明があり、原則的には了承された。
開催日程については、当初予定された日程を厳重(日本体育学会大会と重複するため)

して、第一候補として12月9日～11日、第二候補として12月2日～4日とした旨の提案もあり了承された。
なお高橋(幹)理事に対して、今後の常任理事会に出席することを要請した。

7) 特別委員会活動状況について →西田理事長
①総務委員会 →松尾常任理事
ホームページ管理については、立教大学ホームページに委託する方向で新しいコンテンツを作りたい。検索エンジンの設定については、10年前に比べてより良い方向になっており、さらに前向きに検討する方向になっている旨の説明があり了承された。
他の委員会については省略された。

8) その他 →西田理事長
①松尾三子副会長より発言があり、平成17年度の任期満了をもって本学会副会長の職を離れたい(大学を定年退職の職に)旨の申し出があった。
②次期理事会は5月30日(日)開催を決定した。
③会員名簿整理については、個人情報管理などの観点からも取り扱いは慎重に検討する必要がある旨の要請があった。以上

平成17年度(2005年)

日本レジャー・レクリエーション学会 理事会(第2回)議事録

■日時:平成17年5月30日(月) 18:30～21:30
■場所:立教大学池袋キャンパス セントポール学生会2階(英書)

出席者:油井、坂口、鈴木、松尾、西田、麻生、小沢、高橋(幹)、田中(幹)、松尾、橋内、山崎、橋内、上村

会長挨拶

議題

1. 確認事項 →西田理事長
 - 1) 定款確認(出席者14名、委任状提出者4名)
 - 2) 前回(平成17年度第1回)議事録の確認
- Ⅱ. 報告事項
 - 1) 平成17年度金費納入状況について →小松常任理事
5月29日現在、152名の金費納入があった。
 - 2) 学会誌第54号の発行について →田中(幹)常任理事
5月28日に原稿が集まったので石橋印刷に送付した。
 - 3) 学会ニュース80号について

→山崎常任理事
会長の懇話とお話とICUの学会大会開催の意向が決定次第6月末までに発行の手配である。

次回は、常任理事会を7月下旬に開催予定しているとの西田理事長から発言があった。以上

平成17年度(2005年)

日本レジャー・レクリエーション学会 理事会(第3回)議事録

■日時:平成17年12月10日(土) 11:00～12:00
■場所:国語学館2階第255会議室
出席者:油井、鈴木、松尾、坂口、西田、橋内、西野、田中(幹)、松尾、沼澤、山崎、小沢、田中(幹)、茅野、荒井、高橋、小田切、小野寺、上村

会長挨拶

学会大会参加者について
地域研究参加者15名 懇話会参加者35名
1. 確認事項 →西田理事長
1) 定款確認(出席者18名、委任状提出者3名)
2) 前回の理事会(平成17年度第2回)議事録の確認

Ⅱ. 報告事項

- 1) 年度金費納入状況について →西田理事長
12月10日現在、267名が金費納入済みであること、また、新入会員10名、退会者15名金費未納による退会処理者58名、退年度納入0名であることが報告された。
- 2) 学会誌第55号(大会号)の発行について →西田理事長
学会誌第55号(大会号)の発行したことが報告された。
- 3) 学会ニュース81号の発行について →西田理事長
学会ニュース81号の発行したことが報告された。

Ⅲ. 審議事項

- 1) 平成17年度事業報告(案)について →西田理事長
前回の理事会で指摘された部分を訂正し、一部文書の書換えをして承認された。
- 2) 平成16年度決算報告(案)について →西田理事長
前回の理事会で指摘された部分を訂正し、一部文書の書換えをして承認された。
- 3) 平成17年度事業計画(案)について →西田理事長
前回の理事会で指摘された部分を訂正し、一部文書の書換えをして承認された。
- 4) 平成17年度予算(案)について →西田理事長
支出の部の印刷費の簡素化を一部訂正し、承認された。
- 5) 改選前理事の選挙の決まりについて →西田理事長
事務局が関係作業を行う決まりに従い、関係作業を行った。その結果、以下の通り、改選前理事が決まり、松尾常任理事より報告があった。
松尾晋次、坂口正治、鈴木秀雄、西田健夫、沼澤秀夫、橋内一也、小野寺浩三、西野仁、麻生忠、油井正昭(以上敬称略)
- 6) 前日本レジャー・レクリエーション学会 評議員の推薦について →西田理事長
本学会から1名の評議員の推薦依頼があり、副会長の鈴木秀雄氏を推薦すること承認された。
- 7) 第35回学大会の日程と大会テーマについて →西田理事長
前回の理事会で日程の変更も検討中とのことであったが、第35回学大会は平成17年12月9日(土)～11日(日)に国際基督教大学にて開催することが承認された。
国際基督教大学の高橋(幹)理事が大会実行委員長となり、大会の盛大実行委員会を立ち上げることが承認された。
実行委員長より大会実行についてはポスター発表も加えることへの申し出があり、承認された。
- 8) その他
①学生会員の動向 →小松常任理事
入会者・退会者の回復があり、入会者4名、退会者5名が承認された。
②個人情報保護法改正の関連として、学会誌の各掲載者が協議された。名簿確認については、今後検討することとなった。

平成17年度(2005年)

日本レジャー・レクリエーション学会 理事会(第4回)議事録

■日時:平成18年3月13日(月) 19:00～20:00
■場所:立教大学池袋キャンパス 5号館 第3会議室

出席者:油井、松尾、鈴木(秀)、坂口、西田、田中(幹)、田中(幹)、西野、野間、橋内、小沢

会長挨拶

Ⅰ. 確認事項

1. 定款確認 →出席者11名、委任状提出者5名
- 2) 前回(平成17年度第3回)の議事録確認について →西田理事長

Ⅲ. 報告事項

- 1) 平成17年度金費納入状況について →西田理事長
3月9日現在、307件の納入が確認されている。また、2月に年度金費未納(過年度分を含め)の会員に対し督促状を配達した。
- 2) レジャー・レクリエーション研究第56号の進捗状況について
①配達、査読論文について →田中常任理事
4月中旬の配達を目標に編集を進めている。また、今年より各委員の掲載しなごこととする。掲載される査読論文は4篇である。
- ②基礎講演 シンポジウムの掲載原稿について →高野常任理事
シンポジウムの原稿(3編分)は整っている。また、基礎講演の掲載も最終確認の段階である。整った原稿、編集委員へ送る。
- ③学会情報について →西田理事長
学会誌の配達に伴い、早急な学会情報として第9回世界レジャー・博覧会(中国)、第36回学大会(平安文化学院)、アライシエーション等の告知をする。また、平成18年度会費の案内と未払過年度会費の告知も行う。
- 3) 学会ニュース82号の進捗状況について →西田理事長
6月上旬に配達できるよう進めている。
- 4) その他
①第9回世界レジャー・博覧会(中国)の案内について →高野理事
原稿が揃えられ、学会誌第56号と学会ニュース82号において案内をすることが確認された。また、掲載原稿に関しては高野理事に一任することが承認された。

→西田理事長
平成17年度事業計画(案)について確認の上、承認された。

4) 平成17年度予算(案)について →西田理事長
平成17年度予算(案)について確認の上、承認された。

5) 新役員を選出(2006～2007年度) →西田理事長
新役員を選出について確認の上、承認された。
鈴木副会長より、油井会長を顧問との案があり、承認された。
→田中幹事より、理事会を執行部へもつと女性を登用していただきたいとの要望があり、油井会長より、理事会の推薦理事の中で女性を入れたらなど反映してもらいたいとの要望があった。

6) 個人情報保護法に関する特別委員会の設置について →田中(幹)常任理事
2005年4月より個人情報保護法が施行されたこと、少人数の当学会は法律の対象外であるが学会として何らかの取り組み姿勢を示すことが必要であること、前回の理事会で委員会が立ち上がったこと、アライシエーションで会員名簿の取扱い、その記載事項についてなどを検討する特別委員会を設置することを総会で承認していただく旨、提案があり、承認された。

7) 第35回学大会開催について →西田理事長
第35回学大会の会場はマレー・寛子氏の協力のもと、平安文化学院大学にて開催されること、日程は11月の金～日、決定次第ニュースでお知らせすることが承認された。

8) その他
高橋伸夫実行委員長より、大会開催についての挨拶をいただいた。
→新入会員の動向について
→坂口副会長より、9月に開催された地域研究会について報告があり、参加者は15名、日本の歴史文化に触れることができるなかなか充実した地域研究会であったこと、会員には学会中に写真などでお知らせしたいとの報告があった。
→次期会費より挨拶

閉会挨拶

以上

平成17年度(2005年)

日本レジャー・レクリエーション学会 理事会(第4回)議事録

Ⅲ. 審議事項

- 1) 平成17年度決算報告(中間)について →西田理事長
中間報告がなされた結果、承認された。
- 2) 各委員報告について →西田理事長
各専門委員会より平成17年度の報告がなされ、承認された。
- 3) アライシエーションについて →田中常任理事
事業が完了された。審議の結果、事業の加増・訂正は田中常任理事に一任すること、また、次の審議においては次回常任理事会にて行うことが承認された。
- 4) 会員名簿の管理について →田中常任理事
個人情報保護法により、会員名簿は学会誌に掲載せず、会員名簿として独立発行することが承認され承認された。また、その告知は学会誌第56号に掲載することが承認された。
- 5) 会員名簿の管理について →田中常任理事
個人情報保護法の草案が提示され、基本方針が承認された。一任、草案の加増・訂正は田中常任理事に一任すること、また、次の審議においては次回常任理事会にて行うことが承認された。

回の審議においては次回常任理事会にて行うことが承認された。
→西田理事長
個人情報保護法の草案が提示され、基本方針が承認された。一任、草案の加増・訂正は田中常任理事に一任すること、また、次の審議においては次回常任理事会にて行うことが承認された。

① 個人情報保護法
② 個人情報保護法の草案が提示され、基本方針が承認された。一任、草案の加増・訂正は田中常任理事に一任すること、また、次の審議においては次回常任理事会にて行うことが承認された。

③ 個人情報保護法
④ 個人情報保護法の草案が提示され、基本方針が承認された。一任、草案の加増・訂正は田中常任理事に一任すること、また、次の審議においては次回常任理事会にて行うことが承認された。

⑤ 個人情報保護法
⑥ 個人情報保護法の草案が提示され、基本方針が承認された。一任、草案の加増・訂正は田中常任理事に一任すること、また、次の審議においては次回常任理事会にて行うことが承認された。

⑦ 個人情報保護法
⑧ 個人情報保護法の草案が提示され、基本方針が承認された。一任、草案の加増・訂正は田中常任理事に一任すること、また、次の審議においては次回常任理事会にて行うことが承認された。

事務局からのお知らせ

- 1. バックナンバー(「歩み」を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすす...

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最短でも2ヶ月程度の時...

会員の動静

- 平成17年度 新入会員 (所属) 17-13 菊地 大介 (横浜方式看護専(寿))...

〈お願い〉

下記の通り、住所不明会員が18名あります。お知り合いの会員がありましたら、本報事務局(淑徳大学)までお知らせください。

平成18年8月

学会ニュース AUG.2006 No.82

平成18年11月

学会ニュース NOV.2006 No.83

日本レジャー・レクリエーション学会 (Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

事務局 〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1 電話 0492-74-1511 郵便番号 0492-53-02253

【副会長あいさつ】

レジャー・レクリエーションから「生活の質」への挑戦を

日本レジャー・レクリエーション学会副会長 小田切 毅 (新潟医療福祉大学健康スポーツ学科教授)

永年住み慣れた奈良女子大学文学部のスポーツ科学講座をこの春で定年退職した。そして西月からは、縁あって新潟医療福祉大学の健康スポーツ学科に在籍している。この大学では、いわゆる「QOL (Quality Of Life) サポーター」として、「生活の質」の向上に貢献することを目指して、社会に羽ばたく人材づくりを積極している。

忘れて人間」を連想させる問題事例と答えるかもしれない。つい最近も、生きる力を育むはずの教育者で、「世界史未読修」の問題を愛嬌に、全国の高校の教育カリキュラムの扱いをめくり、大きな社会的波紋が生じている。これは、かの「ホモ・ルーデンス」でも指摘されているような、真面目になりすぎて喜びを失いつつある現代を暗示されるものでもあろう。

もともと「生活の質」を高めると言っても、そのためのアプローチは、決して一筋縄ではあり得ないだろう。たとえば、バリアフリーという「質」の高さの中で育てられた若者が、幾つになっても親元を離れられず、社会に向けて行動出来なくなるという今の社会的現像もある。あるいは對えることを知らない、ガスのような心を持った若者の暴走(犯罪)の事件などとも、同様な生活の「質」への問いかけが深く関わっているように思う。これらはまた、「喜びを

JSLRS 1. 学会副会長挨拶(小田切毅) P.1 2. 第36回学会大会のご案内(第2報) P.2 3. 学会大会実行委員会挨拶(マレー寛子) P.4 4. 第36回学会大会開催要領 P.5 5. 学会大会開催要領・決議 P.8 6. 学会大会がスター・発表・演題 P.9 7. 平成18年度専修計画(案) P.10 8. 平成18年度予算(案) P.10 9. 常任理事会の報告 P.11 10. 事務局からのお知らせ P.12 11. 編集委員会からのお知らせ P.12 12. 会員の動静 P.12

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

お知らせ第2報

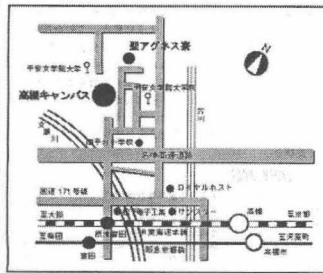
第36回学会大会(平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

第36回学会大会のご案内

- 日程 平成18年12月2日(出)~3日(帰) ■会場 平安女学院大学 高槻キャンパス 〒569-1092 大阪府高槻市南平台5丁目84-1

大学までのアクセス

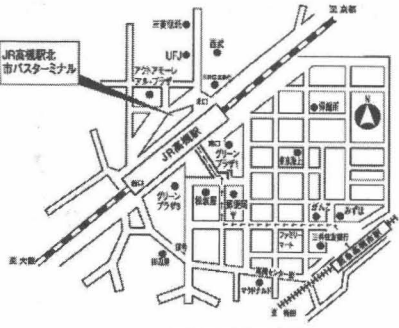
- 遠隔地から平安女学院大学まで ☆新幹線利用の場合 新大阪(JR東海道・山陽本線新快速 11分)→高槻 ☆航空機利用の場合 関西空港 (JR特急はるか約50分)→新大阪(JR東海道・山陽本線新快速 11分)→高槻 伊丹空港 (大塚モノレール)→南茨木(徒歩1分)→南茨木(阪急京都本線急行)→高槻市(徒歩8分)→高槻 神戸空港 (神戸新交通ポートアイランド線)→三宮(徒歩2分)→三ノ宮(JR東海道・山陽本線新快速 37分)→高槻



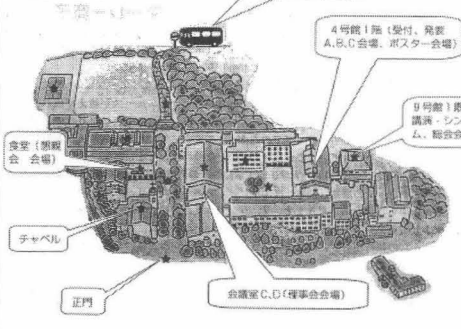
平安女学院大学高槻キャンパスへは、JR「高槻」へ新快速で「大阪」から約15分、或は「高槻市」へ快速特急で「河原町」、「梅田」から約20分。JR高槻駅北(京都寄り出口)から市バス67番「平安女学院大学」行き、70番「平安女学院大学南由西大学」行きに乗車約15分、「平安女学院大学」下車す。JR高槻駅北バスターミナル5箇のりばが本学行きのりばです。

注) バス停は「平安女学院大学前」で下車ください。この2つ前のバス停が「平安女学院大学」ですが、キャンパスまで少しわかりにくいと思います。

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

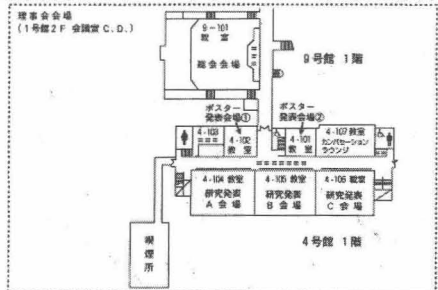


一学内案内図



第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

第36回 日本レジャー・レクリエーション学会 会場案内図



育ちあい

第36回学会大会実行委員長 マーレー寛子

第36回日本レジャー・レクリエーション学会大会の開催にあたり、大阪高槻の地にあります平安女学院大学において皆様をお迎えすることを、とても楽しみにしております。今年の大会テーマは、「共に育つために求められるレジャー・レクリエーション」です。この複雑な社会では、喜びと楽しみを生きることを忘れてしまったかのようなニュースが絶えず流れてきます。その様な状況の中で私たちは、今一度レジャー・レクリエーションの原点に戻り、この社会の中で生きていく子どもたちから高齢者まですべての人がどのようにしてお喜びが育ちあいを支えあい、育ちあい、喜びと楽しみを見つけていくのかを考えていかなければならないと思います。...

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

日本レジャー・レクリエーション学会 第36回学会大会開催要項

大会テーマ「共に育つために求められるレジャー・レクリエーション」

- 1. 主催: 日本レジャー・レクリエーション学会
2. 主幹: 日本レジャー・レクリエーション学会第36回学会大会実行委員会
3. 期日: 平成18年12月2日(土)、3日(日)
4. 会場: 平安女学院大学 (高槻キャンパス)
〒566-1092 大阪府高槻市南平台6丁目84-1

5. 日程

- 第1日目 12月1日(金) 地域研究の予定でしたが中止となりました。
第1日目 12月2日(土)
11:00-12:00 理事会 (1号館2階会議室C,D)
12:00-13:10 受付 (4号館1階)
13:00-13:15 会長挨拶 鈴木秀雄 (学会会長)
大会名譽会長挨拶 山崎聖一 (平安女学院大学学長)
金曜講演 (9号館1階 9-101教室)
○基調「現代社会におけるレジャー・レクリエーションの課題」
○副基調「ウエルビーイングからエンリッチメントへ」
関本義夫 (同志社大学文学部教授)
シンポジウム
コーディネーター: 高橋 伸 (国際基督教大学)
シンポジスト
○「子供の遊びについて」
廣井妙子 (手づくりはく 研究会代表)
○「地域とレクリエーションの連携」
村田明子 (兵庫県社会福祉協議会)
○「さらに増加する余暇(自由時間)」
吉田生一 (武蔵女子大学教授)
話者提供者 森生 恵 (東京農業大学)
(ディファントルファール記念館西棟2階、252会議室)
17:00-18:30 懇親会 (食堂)

第2日目 12月3日(日)
8:30- 受付開始 (4号館会議室C,D)
9:30-10:30 研究発表 A会場 (4号館4-104教室) 3題
B会場 (4号館4-105教室) 3題
C会場 (4号館4-106教室) 3題
10:40-11:40 研究発表 A会場 (4号館4-104教室) 3題
B会場 (4号館4-105教室) 3題
C会場 (4号館4-106教室) 3題
11:00-14:40 ポスター発表会場オープン(4号館1階 9-101教室)
11:40-12:40 ポスター指定発表時間
12:40-13:40 昼食 (食堂)
13:40-14:40 研究発表 A会場 (4号館4-104教室) 3題
B会場 (4号館4-105教室) 3題
C会場 (4号館4-106教室) 3題
14:40-15:10 総会 (9号館1階 9-101教室)
11:40-12:10 ポスター発表 A会場 (4号館4-101教室) 8題
B会場 (4号館4-102教室) 8題

理事会 平成18年12月2日出 11:00-12:00 会場 1号館2階 会議室C, D.
総会 平成18年12月3日 12:40-13:40 会場 9号館1階 9-101教室

大学食堂 12月2日、3日両日も大学食堂のご利用が可能です。
喫煙所 喫煙は指定された場所でお願いたします。(学内図参照)

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

第36回学会大会研究発表・演題

第2日目 12月3日(日)
■ 研究発表 A会場 (4号館1F 4-104教室)

- 座長: 西野 仁 (東海大学) 9:30-10:30 A-5 レジャー教育としてのキャンパ・プログラム
A-1 地域青少年活動における学生リーダーの活動意識に関する報告
～一部内A区リーダー達の事例～
○東京 邦秋 (余暇問題研究所) 廣田治久 (余暇問題研究所)
A-2 デンマークにおける公営高齢者(認知症者)介護型住居・デイサービスセンター並設についての報告
～IFA会議における訪問見学プログラムから～
○山崎祥子 (余暇問題研究所) 上野 幸 (余暇問題研究所) 高橋和敏 (余暇問題研究所) ☆質疑応答
○座長: 山崎祥子 (余暇問題研究所) 13:40-14:40
A-3 高齢者介護サービス事業施設におけるレクリエーションに対する関心について
～レク・セミナー参加者アンケートの結果から～
○廣田治久 (余暇問題研究所) 山崎祥子 (余暇問題研究所) 上野 幸 (余暇問題研究所) A-10 総合型地域スポーツクラブの運営の実態
～神奈川県内18クラブを事例として～
○古原さちえ (東海大学) 西野 仁 (東海大学) ☆質疑応答
A-9 昭和初期の余暇・娯楽関連書籍の情報源
～中田俊彦著「教育上より見たる娯楽と休養」と「Leisure and Its Use」 by H.L.May and D.Petgen の場合～
○西野 仁 (東海大学体育学部) ☆質疑応答
○座長: 沼澤勇雄 (立教大学) 10:40-11:40
A-4 大学生のオープンフォーター講義における生きる力の育成
○山下隆彦 (福山大学) ☆質疑応答

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

第2日目 12月3日(日)

■ 研究発表 B会場 (4号館1F 4-105教室)

- 座長: 土屋 薫 (江戸川大学) 9:30~10:30
- B-1 介護予防教室における目的別レクリエーションプログラムの開発と効果に関する研究(1)
 - 小池和幸 (仙台大学)
 - 高崎義輝 (仙台大学)
- B-2 老人病院における余暇支援
 - ～行動参加者増加への試み～
 - 左近慎平 (法政大学慶成会 青梅 慶友病院)
 - 草壁孝治 (法政大学慶成会 青梅 慶友病院)
- B-3 老人病院における余暇支援
 - ～余暇自立支援の試み～
 - 草壁孝治 (法政大学慶成会 青梅 慶友病院)
 - 左近慎平 (法政大学慶成会 青梅 慶友病院)
- ☆質疑応答
- 座長: 佐橋 由美 (大阪府樟女子大学) 10:40~11:40
- B-4 高齢者施設における楽しいレクリエーションプログラムの楽しさについての研究
 - 吉岡尚美 (東海大学)
 - 榎本順子 (財) 福寿会アイサーピスセンター(パソナル)
 - 佐藤宏子 (財) 福寿会アイサーピスセンター(パソナル)
- ☆質疑応答
- B-5 温水プール利用者の特性と利用決定要因に関する研究
 - ～タポポートまきまき・温水アクティブセンターを事例にして～
 - 榎田つづる (東京農業大学地域環境科学部)
 - 上岡洋晴 (東京農業大学地域環境科学部)
 - 岡田真平 (奇形教育医学研究所)
 - 本多卓也 (東京大学教育学部)
- B-6 伊勢志摩国立公園立園の特異性
 - 池井正昭 (柳屋横浜大学、(財) 国立公園協会)
- ☆質疑応答
- 座長: 小池和幸 (仙台大学) 13:40~14:20
- B-7 「レジャー活動」と「レクリエーション」に関するランダム化比較試験のシステマティックレビュー
 - 上岡洋晴 (東京農業大学)
 - 漆谷浩一郎 (東京大学大学院)
 - 高橋美絵 (身体教育医学研究部)
 - 本田卓也 (東京大学教育学部)
 - 春日期子 (東京大学教育学部)
 - 山田有紀子 (慶応義塾大学保健医療部)
 - 真喜志まり (慶応義塾大学保健医療部)
 - 下崎 聖 (東京農業大学)
- B-8 メディア・オートノブ構築に関する基礎的研究
 - 土屋 薫 (江戸川大学)
- ☆質疑応答

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

第2日目 12月3日(日)

■ 研究発表 C会場 (4号館1F 4-106教室)

- 座長: 志原さちえ (東海大学) 9:30~10:30
- C-1 元元高齢者に対する要介護予防運動の積極的導入を図るための視点
 - ～運動形態からの提案～
 - 田中 光 (産近工学短期大学)
 - 鈴木英信 (東海大学非常勤)
 - 鈴木秀雄 (東海大学非常勤)
- ☆質疑応答
- C-2 障害者のスポーツにおけるEquityとEqualityの視点
 - ～英国の事例から～
 - 田中聡子 (東海大学大学院)
 - 鈴木秀雄 (東海大学大学院)
- C-3 余暇活動における水の事故に関する研究
 - ～特に新聞の掲載記事分析を中心に～
 - 鈴木英信 (東海大学非常勤)
 - 郷持 武 (社) 伸正会、(財) 伸正会)
 - 鈴木秀雄 (東海大学大学院)
 - 鈴木秀雄 (東海大学非常勤)
 - 鈴木英信 (東海大学非常勤)
 - 鈴木秀雄 (東海大学非常勤)
- ☆質疑応答
- 座長: 郷持 武 (筑波大学) 10:40~11:40
- C-4 福祉施設におけるレクリエーションに関する専門家の導入をめぐる提言
 - ～セブティエティックレクリエーションを中心に～
 - 郷持 武 (社) 伸正会、(財) 伸正会)
 - 郷持 武 (東海大学大学院)
 - 鈴木英信 (東海大学非常勤)
 - 鈴木秀雄 (東海大学非常勤)
- ☆質疑応答
- C-5 社会福祉におけるレクリエーションの展開と課題
 - ～文部科学省検定教科書を通して～
 - 嶋口 真 (九州大学)
- 座長: 嶋口 真 (九州大学) 13:40~14:40
- C-7 教員養成大学生における「野外活動」の意識に関する研究
 - ～教員志望者と非教員志望者に着目して～
 - 佐藤修大 (大阪体育大学)
 - 松永敬子 (大阪体育大学)
 - 鈴木祐志 (大阪体育大学大学院)
 - 井澤悠樹 (大阪体育大学大学院)
- C-8 地域スポーツイベントにおけるプログラムの満足度に関する研究
 - 鈴木祐志 (大阪体育大学大学院)
 - 松永敬子 (大阪体育大学)
- ☆質疑応答
- C-9 レクリエーション講習会参加者の特性とニーズについて
 - ～平成17年度大阪府レクリエーション協会アンケート調査より～
 - 横山 誠 (財) 大阪府レクリエーション協会)
 - 相泉良 律 (財) 大阪府レクリエーション協会)
- ☆質疑応答

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

第2日目 12月3日(日)

第36回日本レジャー・レクリエーション学会大会 ポスター発表演題

- 会場/4号館 4-101教室
- P-1 森林浴におけるリラックス効果
 - 井川昭弘 (岐阜県森林研究所)
- P-2 大学生の余暇生活について
 - 相泉良 律 (財) 大阪府レクリエーション協会)
 - 横山 誠 (財) 大阪府レクリエーション協会)
- P-3 レクリエーション活動におけるエコロベラスの検討
 - ～障害者スポーツ大会の道路調査～
 - 高橋 仁美 (同志社大学)
 - 来田 宣孝 (京都大学)
 - 西山 龍之 (京都府障害者スポーツセンター)
 - 清水 薫 (日本エコロベラス協会)
- P-4 レジャー志向性尺度の開発に関する研究
 - 佐橋 由美 (大阪府樟女子大学)
 - 多賀 豊章 (大阪府樟女子大学)
- P-5 障害者スポーツセンターにおける知的障害者の余暇支援の動向
 - 水井由美子 (大阪府障害者スポーツセンター)
 - 茅野 宏明 (武蔵川女子大学)
- P-6 障害者とレクリエーション
 - ～A独立総合リハビリテーションセンターにおける余暇教育プログラム～
 - 竹岡 恵 (武蔵川女子大学大学院)
 - 出原由美子 (武蔵川女子大学大学院)
 - 茅野 宏明 (武蔵川女子大学)
- P-7 老人病院における余暇支援
 - ～看護実践者研修への余暇支援の試み～
 - 今井 悦子 (法政大学慶成会 青梅慶友病院)
 - 草壁 孝治 (法政大学慶成会 青梅慶友病院)
 - 左近 慎平 (法政大学慶成会 青梅慶友病院)
- P-8 住居による健康の自己管理能力を高めるための取り組み
 - ～心身の影響を見る「あづきスア」を使って～
 - 三浦 玲子 (芝罘工業大学非常勤)
 - 小畑 一也 (芝罘工業大学非常勤)
 - 宮々本明子 (芝罘工業大学)
 - 澤田 弘子 (財) パリタクトシステム)
 - 小畑 紀子 (財) パリタクトシステム)
- 会場/4号館 4-102教室
- P-9 大学生による自由時間の構造とその類型化
 - 永松 昌樹 (大阪教育大学)
 - 藤方 真輝 (大阪教育大学大学院)
- P-10 児童の放課後における自由時間の意識と行動
 - 長手 良平 (大阪教育大学大学院)
 - 水松 昌樹 (大阪教育大学)
- P-11 介護保険制度など環境の変化にともなう障害者老人ホームにおけるレクリエーションプログラムの変遷と今後の課題
 - 高井 基子 (福祉レクリエーション・ワーカー)
 - マール・寛子 (平安女学院大学)
- P-12 花と緑のまちづくりにおける地域住民の認識に関する研究
 - ～長野県小池町を事例として～
 - 榎田 聡太 (東京農業大学地域環境科学部)
 - 麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)
- P-13 自然学習における教材の作成
 - ～磐前郡国立公園、磐前山を対象とした地形・情報視覚パズル～
 - 栗田 みは (東京農業大学地域環境科学部)
 - 栗田 和祐 (東京農業大学地域環境科学部)
- P-14 武蔵山百景(100景)トイルのづくりと管理運営に関する課題
 - 平冢 敬 (東京農業大学地域環境科学部)
 - 岸 昌孝 (NPO法人利根川上下連携支援センター)
 - 栗田 和祐 (東京農業大学地域環境科学部)
- P-15 輪島市三井地区における農村景観の保存・活用手法に関する研究
 - 大西 広司 (東京農業大学)
 - 鹿島 春樹 (東京農業大学)
 - 那谷 浩子 (東京農業大学大学院)
 - 那谷 恵 (東京農業大学)
- P-16 朝日における景観体験創造に関する研究
 - 高野 謙 (東京農業大学地域環境科学部)
 - 麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成19年度 事業計画 (案)

- I. 事業
 - 1) 第37回学会大会の開催
 - 期日: 平成19年12月(予定)
 - 場所: 候補地 東洋大学山手キャンパス(予定)
 - 2) 学会誌『レジャー・レクリエーション研究』の発行
 - 雑誌号: 第60号(『学ム』第2巻-1)、第61号
 - 3) 学会ニュースの発行
 - №10、№11
 - 4) 役員選挙
 - 改選前理事の選出(10名)、幹事選挙(15名)、幹事長による推薦理事(4名)の選出
 - 5) 組織の強化および活動の充実
 - 若手会員の募集、プラ(パター)・ゲル(ゲル)に在籍の仲介及び研修、応答等の実施、新会員の募集、学会研究プロジェクトの実施
 - 6) 年報団体との交流
 - 日本学術会議、日本公園緑地協会、野田山日本学術協力財団、日本スポーツ体育振興科学学術協会
 - 7) 第36回学会大会開催準備
 - 開催場所の決定
 - ①『学ム』第2巻-1の編集
 - ②『学ム』、『学友誌』の電子化
 - ③ 学会ホームページの改修
 - ④ 年度会費の内定を徴収財源の安定
 - 8) 学会活性化に関する事業
 - ①『学ム』第2巻-1の編集
 - ②『学ム』、『学友誌』の電子化
 - ③ 学会ホームページの改修
 - ④ 年度会費の内定を徴収財源の安定
- II. 諸会議の開催
 - 1) 学会総会
 - 2) 幹事会
 - 3) 常任委員会
 - 4) 各専門委員会
 - 5) 学術編集委員会
 - 6) 『学ム』、『学友誌』の編集委員会
 - 7) 『学ム』、『学友誌』電子化委員会
 - 8) 学会ホームページ推進委員会

日本レジャー・レクリエーション学会

平成19年度 予算(案)

科目	収入の部		差
	本年度予算(案)	前年度予算(案)	
前年度繰越金	500,000	1,282,899	-782,899
年 度 会 費	2,680,000	2,680,000	0
青年年度会費	240,000	240,000	0
入 会 金	80,000	40,000	20,000
賛 助 金 費	22,000	22,000	0
雑 費 料	540,000	90,000	540,000
雑 費 料	150,000	125,110	24,890
合 計	4,382,000	4,680,000	-298,000
支出の部			
印刷費	2,300,000	2,600,000	-200,000
通 信 費	400,000	400,000	0
事務用品費	200,000	200,000	0
事務用品費	200,000	200,000	0
各専門委員会費	100,000	100,000	0
役員委員会費	100,000	100,000	0
ホームページ制作費	200,000	200,000	0
諸謝金	250,000	0	250,000
内務費	100,000	100,000	0
会 費	200,000	200,000	0
大会補助費	201,000	201,000	0
予 備 費	141,000	476,000	-335,000
合 計	4,382,000	4,680,000	-298,000

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第2回)議事録

開催日時:平成18年7月24日(月)18:00-19:00
開催場所:立教大学後援センター(セントポールビル)
出席者:鈴木、坂口、小田切、西田、麻生、小椋、沼澤、山崎、横内、榎塚

会長挨拶

議題

- I. 確認事項
1) 前回常任理事会(平成18年度第1回)議事録の確認
II. 報告事項
1) 年度会費納入状況について
2) 第30回学会大会の開催費負担状況について

III. 審議事項

- 1) 平成18年度事業計画(案)について
2) 平成18年度予算(案)について
3) 第30回学会大会(テーマ:基礎講演・シンポジウム)等について

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第3回)議事録

開催日時:平成18年9月25日(月)18:30-21:00
開催場所:立教大学後援センター(セントポールビル)第2会議室
出席者:鈴木、小田切、坂口、西田、麻生、小椋、榎塚、池袋、山崎、横内

会長挨拶

議題

- I. 確認事項
1) 議事録

定数確認(出席者10名、欠席者5名)

- 1) 前回(平成18年度第2回)議事録の確認
II. 報告事項
1) 平成18年度会費納入状況について

- 2) 第30回学会大会の申込み状況について
3) 平成18年度事業計画(案)について
4) 平成18年度予算(案)について

- III. 審議事項
1) 平成18年度事業計画(案)について
2) 平成18年度予算(案)について

- 3) 第30回学会大会(テーマ:基礎講演・シンポジウム)等について
4) 第30回学会大会開催費について

- 5) 「多歩一第2巻」の編集企画及び編集委員会について
6) 電子委員会(「多歩一」研究会)について

- 7) 規約の改正(役員任期の変更)について
8) 学会員の動向について

事務局からのお知らせ

- 1. バックナンバー(「多歩一」を含む)の実費負担者を行っています。特に新入会員におすめします。
①「多歩一」32号の値段
②「多歩一」をなくその後の研究誌は、

- 「申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を添えて、郵便振替あるいは現金振替でお送り下さい。
3. 平成18年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員は、至急納入手続きをお願いします。
4. 学会のホームページをご覧ください。

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度の間を要する点を考慮して、投稿してください。

投稿論文送付先 〒554-8510 埼玉県入間郡三芳町森久保1150-1 淑徳大学 国際コミュニケーション学部 西田俊夫研究室内

会員の動静

●平成18年度 新入会員

- A3 松尾 純子
A4 徳田 つづる
A5 岡田 慎樹
A6 伊藤 悠樹
A7 相原良 律

●平成18年度 退会者

- 富田 敏之
志村 健一
丸山 香

平成18年11月

学会ニュース
NOV.2006 No.83

学会ニュース
APR. 2007 No.84

事務局 〒554-8510 埼玉県入間郡三芳町森久保1150-1
電話 049-274-1311 郵便振替 00150-3-002353
E-mail: syokokuchin@mm.u-tokyo.ac.jp

日本レジャー・レクリエーション学会
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

発行人 西田 俊夫 編集 広野寿外委員会
淑徳大学 国際コミュニケーション学部 西田俊夫研究室内

～現代の生活における「優遊」の提案～

新しい年度も始まる。会員の皆さんも教育、研究、学事、また諸活動に日々励んでおられるかと思えます。
一方で部にもある「死陰欠の如し」を強く実感しつつも仕しかたできない、つい時間を削り出して「のんびり」することが何となく出来ず、「争」を過ごしている人も多いのではないのでしょうか。さらに時代の流れは、行動(努力)の結果として常に着実な成果を求め、何もかも効率的に事柄を遂げようとする傾向は強まっています。

優遊とは、暇があつてのんびりしているさまも意味しますが、言葉としては素直に自身の生活のために「優れた遊びをのんびり楽しむこと」と理解する意義もあると思えます。
案をすすめるのではなく、むしろ本来の意味で生活を楽しむ生きかたこそが現代社会では重要であり、心身の健康を維持増進する視点からも、優れた遊びを「のんびり」と楽しむ勇氣を持つ姿勢も必要です。
「レジャー・レクリエーション」を学会(＝教育、研究、活動)の共通言語として扱う学会員が、もっとも個性豊かな楽しみや喜びを享受する術を持ち得ていなければならないでしょう。向のために教育し、研のために研究し、なぜその活動をすすめるのか... それは豊かそして真の「個人」の生活を喜

本学会会長 鈴木 秀雄
(関東学院大学教授)

び(EPL=Enjoying Personal Living)を追求する学問であり、実践することを強く意識しなければならぬ世界そのものだからです。
レジャー・レクリエーションが本質的に含む持つ「その知られざる力」を明確に示していく専門家を求めて、高い評価や位置づけを勝ち取る努力を学会として推し進めていかなければならない時代に入っているといえます。

単なる生命維持機能領域でもなければ、仕事(あるいは生計・暮らしを立てる経済的基盤機能領域)でもない。レジャー・レクリエーションであるからこそ、自己啓発、自己実現、社会参加、社会貢献、ボランティア活動などが明確に含まれているのですが、しかしあまりにもこの価値論ばかりに終結すれば、前述の個人の生活の喜びや個人の優遊がややもすると薄く、底流されてしまいます。
今、社会は多くの困難や難問を深く抱え込んでいますが、どのあたりで個人々の「したいこと」と「すべきこと」の約り合いを探るかが重要であり、まさに現代の生活形態として欠かすことができない「優れた遊びをのんびり楽しむこと」そして「優遊」に思いを寄せると工夫と勇氣が時々求められるのです。会員の皆さん、よき一年(年度)をお過ごしください。

JSLRS
1. 学会会長の挨拶(鈴木秀雄) P.1
2. 役員選挙(2006-2007年度)の公示 P.2
3. 第17回学会大会開催案内(第1報) P.3
4. 第17回学会大会研究発表申込みのお知らせ P.3
5. 第30回学会大会時の総務報告 P.4

6. 年度会費納入のお知らせ P.7
7. 常任理事会・理事会の報告 P.8
8. 事務局からのお知らせ P.12
9. 編集委員会からのお知らせ P.12
10. 会員の動静 P.12

公示
2008～2010(平成20～22)年度学会役員選出選挙について

役員選出選挙について

1. 正会員の選挙権、被選挙権について

- (1) 学会会則および役員選出細則第4条に基づき、正会員の選挙権、被選挙権は、平成19年6月30日迄に年度会費(過年度未納分がある場合にはそれらを含む)を納入している者。
(2) 新入会員(平成18年度入会者)は、平成18年12月31日迄に入会手続き(申込、払込、承認)が完了している者。

2. 新理事の選出について

- (1) 正会員による選挙は、既に現行理事会において選出された「改選前理事選出候補者(10名)」を除く「新理事(15名)」を選出する。
(2) 正会員による新理事(15名)の「選出の形態」および「選出の方法」は、平成19年8月10日に発送(予定)される投票用紙(5名選記)による。
(3) 選挙の投票締切は、平成19年9月10日(消印有効)とする。

※平成19年8月10日に発送予定の選挙関連の送付物は以下の4点です。

- 1. 新理事選出投票用紙 [b]
2. 被選挙人名簿
3. 投票用紙入れ
4. 返信用封筒

第37回学生会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

お知らせ第1報

第37回学生会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

日程 平成19年11月30日(金)～12月2日(日)

会場 東洋大学 白山キャンパス

〒12-2001 東京都文京区白山5-29-20

交通

東武池袋線三田駅(徒歩5分)
池袋駅西口から「東武池袋線」に乗りますので、できるだけ「千石」駅まで利用ください。
池袋駅西口から「東武池袋線」に乗りますので、できるだけ「千石」駅まで利用ください。
池袋駅西口から「東武池袋線」に乗りますので、できるだけ「千石」駅まで利用ください。

平成19年度 第37回学生会大会 (於：東洋大学) 「研究発表」申込みのお知らせ

本学は東洋大学白山キャンパスにて開催(11/30～12/2)を行います。つきましては一般研究発表を行います。以下研究発表をご希望の方は、お申し込みの準備をお願いします。
1. 口頭発表について
口頭発表は、(任意)氏名、所属を明記した研究発表の題目を提出し、発表の準備をお願いします。
2. 研究発表の申し込み
研究発表の申し込みは、11月30日(金)までに行ってください。
3. 申し込みの締め切り
研究発表の申し込みは、11月30日(金)までに行ってください。

総会・会議 選挙権報告(つづき)

日本シスター・レクリエーション学会 平成18年度 事業計画

1. 東京学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
2. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
3. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
4. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
5. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
6. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
7. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
8. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
9. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
10. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)

Table with columns: 科目, 収入, 支出, 差引. Rows include 会費, 入会費, 退会費, 寄付金, etc.

第37回学生会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

お知らせ第2報

第37回学生会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

日程 平成19年11月30日(金)～12月2日(日)

会場 東洋大学 白山キャンパス

〒12-2001 東京都文京区白山5-29-20

交通

東武池袋線三田駅(徒歩5分)
池袋駅西口から「東武池袋線」に乗りますので、できるだけ「千石」駅まで利用ください。
池袋駅西口から「東武池袋線」に乗りますので、できるだけ「千石」駅まで利用ください。
池袋駅西口から「東武池袋線」に乗りますので、できるだけ「千石」駅まで利用ください。

平成17年度 決算報告書

Table with columns: 科目, 収入, 支出, 差引. Rows include 会費, 入会費, 退会費, 寄付金, etc.

総会・会議 選挙権報告(つづき)

日本シスター・レクリエーション学会 平成18年度 事業計画

1. 東京学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
2. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
3. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
4. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
5. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
6. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
7. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
8. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
9. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)
10. 学生本部(代表) 2007年11月3日(日) 東武池袋線三田駅(徒歩5分)

Table with columns: 科目, 収入, 支出, 差引. Rows include 会費, 入会費, 退会費, 寄付金, etc.

平成18年度日本レジャー・レクリエーション学会総会議事録

日時：平成18年12月3日(日) 12:40～13:40
場所：平安女学院大学 9号館1階9-101教室

式次第

開会
学会会長挨拶 鈴木秀雄
議長 渡辺 小池和幸
議事録署名人選出 栗原邦秋
田中暢子

議題

- (1) 第1号議案 平成17年度事業報告
平成17年度事業報告が承認された
(2) 第2号議案 平成17年度決算報告

監査報告

会計監査報告があった
平成17年度決算報告が承認された

- (3) 第3号議案 平成18年度事業計画(案)
平成18年度事業計画(案)が承認された
(4) 第4号議案 平成18年度予算(案)
平成18年度予算(案)が承認された
(5) 第5号議案 平成19年度事業計画(案)
平成19年度事業計画(案)が承認された
(6) 第6号議案 平成19年度予算(案)
平成19年度予算(案)が承認された
(7) 第7号議案 学会会則(第12条：役員任期)の改正(案)
学会会則(第12条：役員任期)の改正(案)が承認された
(8) 第8号議案 第37回学大会開催(東洋大学白山キャンパス)(案)
東洋大学白山キャンパスの学大会開催場が承認された

閉会

議事録署名人 栗原邦秋
田中暢子

正会員による役員選出に伴う年度会費納入のお知らせ

本年度は学会の役員選出選挙の実施年でもあります。この選挙は、本学会則および役員選出細則第4条に基づき実施されます。正会員の皆様が選挙権、被選挙権を有するためには、平成19年6月30日迄に今年度の会費を納入して頂かなければなりません。同時に郵便局払込用紙にて下記口座番号、加入者宛に年度会費のお振込を宜しくお願い申し上げます。なお、過年度の会費未納分がある場合には、上記期日までに金額納入して頂くことが選挙権、被選挙権を得る条件となりますのでご注意ください。

口座番号 00150-3-802353

加入者名 日本レジャー・レクリエーション学会

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第4回) 議事録

開催日時：平成18年10月25日(月) 18:30～21:00
開催場所：立教大学池袋キャンパス12号館第2会議室
出席者：鈴木、坂口、西田、藤生、小塚、堀崎、
沼澤、田中、西野、山崎、横内

会長挨拶

議題

- I. 確認事項-西田理事長
1) 定足数確認 (出席者11名、欠席者4名)
2) 前回(平成18年度第3回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 平成18年度会費納入状況について
10月19日現在、23件の会費の納入があった。
2) 第36回学大会発表要録の申込状況について
最終的には口頭発表要録、ポスター発表18冊(計24冊)の原稿が届いた。
3) ニュース83号について
11月中旬までに発送の予定である。
4) その他
既存のホームページが更新されないままになっており、検討すべきであるとの意見があった。

III. 審議事項

- 1) 第36回学大会について
地域研究は事情により取りやめたい旨の連絡が第36回学大会実行委員長よりあり、審議の結果今回は見送ることによって承認された。
2) 第37回学大会の開催について
東洋大学の東洋大学に依頼した結果、入試等の調整があるものの、会場の提供は可能とのことで、平成19年10月初旬(12月1日(土)・2日(日))に東洋大学白山キャンパスで開催することが承認された。
3) 規約の改正(役員任期の変更)について
学会会則(第12条：役員任期)及び役員選出細則の改正の必要性について審議がなされ、改正の方向で検討することによって承認された。
4) 『レジャー・レクリエーション研究』投稿規定(定規格の変更)について資料が配られ、審議の結果、現行の継続となった。
5) 編集委員会からの(研究誌)印刷所の変更について

- 編集委員会より3社からの見積もりが提示された。審議の結果、見積額の最も少ない額の印刷所とすることが承認された。
6) 平成18年度事業計画(案)の一部変更について
事業計画の一部変更の審議がなされ、変更して承認された。
7) 平成18年度予算(案)の一部修正について
予算の一部修正の審議がなされ、承認された。
8) 会員の動向について
新入会員の申込者3名(徳田つづる、岡田慎一、井澤悠樹)が認められた。退会者1名(富田敬之)が認められた。

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第5回) 議事録

開催日時：平成18年11月20日(月) 18:00～19:15
開催場所：立教大学池袋キャンパス12号館第2会議室
出席者：鈴木、坂口、西田、堀崎、沼澤、松尾、小塚、横内

会長挨拶

議題

- I. 確認事項
1) 定足数確認
2) 前回(平成18年度第4回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) ニュース83号の発送について
11月10日に発送し、年度会費未納者にも通知した。
2) 学大会号の進捗状況について
11月21日現在に243件の納入があった。
3) その他
①会費の納入状況
11月18日現在に243件の納入があった。
②大会参加申し込み状況
11月16日現在 学大会参加申込者18名、懇親会参加申込者13名があった。
③学大会について
開催要項の一部変更した。

III. 審議事項

- 1) 学大会時総会に向けての経緯について
①第1号議案 平成17年度事業報告
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
②第2号議案 平成17年度決算報告
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
③第3号議案 平成18年度事業計画(案)

- 議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
④第4号議案 平成18年度予算(案)
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
⑤第5号議案 平成18年度事業計画(案)
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
⑥第6号議案 平成18年度予算(案)
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
⑦第7号議案 学会会則(第12条：役員任期)の改正及び附則第10条(役員選出細則第11条第4項)の改正
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
⑧第8号議案 第37回学大会の開催(東洋大学白山キャンパス)
審議の結果、東洋大学白山キャンパスで開催することが承認された。

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第6回) 議事録

開催日時：平成19年1月22日(月) 18:00～19:00
(常任理事会)
開催場所：立教大学池袋キャンパス セントポールズ
学生会館1階101号(常任理事会)

出席者：鈴木、坂口、西田、堀崎、田中、沼澤、
横内、小塚

会長挨拶

議題

- I. 確認事項
1) 定足数確認
2) 前回常任理事会(第5回) 議事録の確認
3) 平成18年度総会議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 第37回学大会にかかわる処理事項
①学大会参加費の徴収について
123名(2日間)の大会参加者であった。
②学大会開催報知へのお礼
12月下旬に平安女学院大学学長に御礼状を送付した。
③学大会大会決算報告
大会開催費から31,085円返還された。
④学会会誌購読 シンポジウムへのクーポン配付について
学会会本部に再度問い合わせることになった。
⑤Web委員会
第1回のWeb委員会の報告がなされた。

- ①委員長については土屋理事が選出された。
②印の内容については概要の説明があったが、審議の結果、現行の継続となった。
③印の内容については予算案の継続後、委員会にて審議を進める。
2) その他
①会費の納入状況について
69件納入が確認。累計で312件の納入である。正会員の平成18年度分会費の納入は283件(73.5%)である。
②会員の動向について
以下の新入会員、退会者の報告があった。
新入会者(3名)：藤原はるよ、和久田佳代、川口裕太
退会者(5名)：高橋真真(物故)、庄切正徳、平田厚、田端太、外崎裕将

III. 審議事項

- 1) 選挙について
①日程
調整し詳細については次回に提案する。
②改選前理事(10名) 選出の手續き
3月17日以前に理事室に送付し、4月20日投票締切の予定で進めたい。
③役員選出委員会の設置(委員の選出について)
藤生、小塚、沼澤、松尾、横内の各氏に決定
2) その他
①名簿作成
名簿の作成について西田理事長預かりにて結論は持ち越しとなった。

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第1回) 議事録

開催日時：平成18年7月24日(月) 19:00～19:40
開催場所：立教大学池袋キャンパス セントポールズ
学生会館2階会議室

出席者：鈴木、坂口、西田、天野、浮田、鶴崎、
田中元、土屋、横内

会長挨拶

議題

- I. 確認事項
1) 定足数確認 (出席者5名、委任状出席者4名)
2) 前回(平成17年度第4回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 学会誌第95号の送付について
6月の下旬に届けられた。同封資料として学大会案内(第一編)、学会発表申込、年度会費納入案内、住所変更のハガキを送付した。
2) 学会ニュース82号の作成について
編集校正を6月中旬に行い、7月中旬までに送付予定である。
3) 会費納入状況について
6件の払込(後15分、事務局確認)があった。

III. 審議事項

- 1) 平成17年度事業報告(案)について
平成17年度事業報告(案)の提示があり、承認された。
2) 平成17年度決算報告(案)について
平成17年度決算報告(案)の提示があり、承認された。
3) 会計監査について
監査については、監査委員の本格格合のため秋季以降になることが報告され、承認された。
4) 平成18年度事業計画(案)について
平成18年度事業計画(案)の提示があり、承認された。

- 5) 平成18年度予算(案)について
平成18年度予算(案)の提示があり、承認された。
6) 各専門委員会の構成について
2006(平成18)～2007(平成19)年度の各専門委員会の構成委員が提示された。承認された。各専門委員会の専門委員の選出については、各委員長を中心に専門委員会に任ずることによって承認された。
7) 『歩み』(第2号)の編集準備委員会(案)及び学誌誌「歩み」電子化準備委員会(案)の設立について
提案事項として報告された。審議の結果、学誌誌の電子化をすすめる方向で、命題「歩み」に対して委員会があり、この方向で検討することとなった。また、以降検討事項については西田理事長預かり、継続審議として持ち越された。
8) 学会担当専門委員会(案)の設立について
提案事項として報告された。主旨確認がなされ西田理事長預かり、継続審議として持ち越された。
9) 選挙実施年の及び役員任期(3年)の変更について
次回以降の検討事項として報告された。主

- 旨確認がなされ西田理事長預かり、継続審議として持ち越された。
10) 総会議事録について
提案事項として報告された。主旨確認がなされ、西田理事長預かり、継続審議として持ち越された。
11) 第37回学大会について
大会実行委員会から提案事項が報告され、日程、テーマ、基調講演、シンポジウム、研究分科会、地域研究等について審議がなされた。特に今回は、研究分科会は行わないことが決まった。詳細なスケジュールについては、開催からの提案を待ち、継続審議として持ち越された。

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第1回) 議事録

開催日時：平成18年11月20日(月) 19:15～21:00
開催場所：立教大学池袋キャンパス12号館第2会議室
出席者：鈴木、坂口、西田、高橋、上村、堀崎、
沼澤、菅野、松尾、小塚、横内

委任状出席者8名

会長挨拶

議題

- I. 確認事項
1) 定足数確認 (出席者5名、委任状出席者6名)
2) 前回(平成18年度第1回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) ニュース83号の発送について
11月10日に発送し、年度会費未納者にも通知した。
2) 学大会号の進捗状況について
11月21日に発送予定である。
3) その他
①会費の納入状況
11月18日現在に243件の納入があった。
②大会参加申し込み状況
11月16日現在 学大会参加申込者18名、懇親会参加申込者13名があった。
③学大会について
開催要項の一部変更した。

III. 審議事項

- 1) 学大会時総会に向けての経緯について

- ①第1号議案 平成17年度事業報告
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ②第2号議案 平成17年度決算報告
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ③第3号議案 平成18年度事業計画(案)
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ④第4号議案 平成18年度予算(案)
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ⑤第5号議案 平成18年度事業計画(案)
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ⑥第6号議案 平成18年度予算(案)
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ⑦第7号議案 学会会則(第12条:役員任期)の改正及び関連細則(役員選出細則第11条第4項)の改正
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ⑧第8号議案 第37回学会大会の開催先(東洋大学白山キャンパス)
審議の結果、東洋大学白山キャンパスで開催することが承認された。

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
理事会(第3回) 議事録

■日時:平成18年12月2日(土)11:00~12:00
■場所:平安女学院高輪キャンパス1号館2階会議室
出席者:鈴木(清)、小田切、坂口、小野寺、福田、寺島、南村、渡辺、高橋、山崎、田中(伸)、高橋(伸)、坪田、マレー、寛子、土屋

会長挨拶

議題

- 1. 議事事項
① 定足数確認一出席者16名、委任状提出者7名
② 総代理理事(平成18年度第2回)の議事録確認について

II. 報告事項

- 1) 第36回学会大会について
平安女学院のホールで実行委員長を中心に準備が進められ、学会大会を開催する運びとなった。
- 2) 平成18年度会費納入状況について
12月1日現在 259件の納入が確認されている。また、今年度の新入会員は9名、退会者7名である。学会大会の事前催行費は49名である。

- 3) 学会大会開催について
平安女学院で行われる、第36回学会大会の事項を即に掲載したことが報告された。

III. 審議事項

- 1) 学会大会総会に向けての議題について
①第1号議案 平成17年度事業報告
議案の審議がなされ、原案どおり承認された。
- ②第2号議案 平成17年度決算報告
寺島幹事の監査報告がなされ、原案どおり承認された。
- ③第3号議案 平成18年度事業計画(案)
議案の審議がなされ、原案どおり承認された。
- ④第4号議案 平成18年度予算(案)
議案の審議がなされ、原案どおり承認された。
- ⑤第5号議案 平成18年度事業計画(案)
議案の審議がなされ、原案どおり承認された。
- ⑥第6号議案 平成18年度予算(案)
議案の審議がなされ、原案どおり承認された。
- ⑦第7号議案 学会会則(第12条:役員任期)の改正及び関連細則(役員選出細則第11条第4項)の改正
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ⑧第8号議案 第37回学会大会の開催(東洋大学白山キャンパス)
議案の審議がなされ、原案どおり承認された。
- 2) その他
①今後、学会の充実が望まれるので、広報委員会を中心に学会担当委員会を早急に立ち上げ、情報発信できるようにしてほしいという意見が出され、理事長から今後学費を計上しているのでもっとの理解が出されたい。
- ②2年後の学会大会開催地を早い時期に内定をだすようにしてほしいとの要望が出された。

事務局からのお知らせ

- 1. 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」のバックナンバーを学会員に無償配布しております(送料別途)。尚、欠番号が有る場合はご容赦ください。
①060-57号まで1冊¥1,000
②1-31号、32-49号まで1冊¥500
③「争み」32号-1冊¥2,000
- 2. 会員の資格のお知らせでレジャー・レクリエーション学会に関心のある方を事務局へお知らせください。

(申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を添えて郵付振替あるいは現金書留でお送り下さい。)
3. 年会費(¥8,000)、未納過年度会費がある会員は、別途、郵便局にて払込手続きをお願いします。
口座番号 00150-3-602353
加入者名 日本レジャー・レクリエーション学会
4. 事務局の開設日は水曜・木曜の週2日となっております。

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査等は最速でも2ヶ月程度の時間を要することを考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。
投稿論文送付先
〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
東海大学 国際コミュニケーション学部
国際観光研究室内
『日本レジャー・レクリエーション学会事務局』

会員の動静

●新入会員 6名(07.3.12付)

- 相余 泰 偉
- 佐藤 啓 大
- 鈴木 祐 志
- 藤波 はる 由
- 和久田 佳 代
- 川口 啓 太

●退会者 7名

- 高橋 真 照
- 荘 司 正 厚
- 平田 太 大
- 田 端 太 大
- 外 嶋 紅 馬
- 小長谷 悠 紀
- 斎 藤 孝 幸

計 報

日本レジャー・レクリエーション学会副会長をされていましたが、某田信重先生は平成18年3月にご逝去されました。
ここにご冥福をお祈り申し上げます

平成19年4月

学会ニュース
APR.2007 No.84

平成19年11月

学会ニュース

NOV. 2007 No.85

事務局 〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
電 話 049-234-1311 発信番号 049-234-602352
E-mail jslrs@sls.or.jp

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)
発行人 西田 啓夫 編集 広報委員会
敬告者 加藤 コロケーション学部 西田俊夫研究室

第37回日本レジャー・レクリエーション学会大会開催にあたり

日本レジャー・レクリエーション学会
副会長 坂口 正治
(東洋大学)

来る11月30日(金)、12月1日(土)、2日(日)の3日間(11月30日は地域研究)、東洋大学白山キャンパス(東京都文京区)を会場として、第37回学会大会を開催することを告知いたします。会場となる白山キャンパスは、平尾邦上博士が明治29(1897)年に創設以来今年で120年になります。現在白山キャンパスには、東洋大学の文系5学部(文学部、経済学部、法学部、社会学部、経営学部)が拠点を置くキャンパスです。都市型大学の典型で手頃なキャンパスではありますが、全国から会員の皆様をお迎えできますことをご承知願います。

今大会のテーマを「レジャー・レクリエーションの充実と寄与するオリエンティッド・レジャー」と定めました。

今、東京都(右原英夫前知事)は、2016年に東京で再びオリエンティッドをテーマとして開催を志しています。昭和35年の東京オリエンティッドは、名実ともに私たちの暮らしを大きく変えました。新幹線の開通、高速道路網の整備、高層ビル群が建設された東京の都市景観はここからスタートしたといっても過言ではないでしょう。しかし、その反面自然環境問題や大気汚染など私たちの生活や健康に対する意識がこの頃から大きく変化したように思われます。田

原一人ひとりが自ら積極的に健康づくりに関わり、身体二日間の導入により労働時間は短縮され様々な余暇活動や家族が一緒に楽しめる時間が持てるようになったものがあるのではないのでしょうか。

このように考えますと、オリエンティッドを契機に私たちの生活やおもてがいが変わっていったと同時に、レジャー・レクリエーションに対する考え方や実践活動も大きく変化してきたと思います。

前回の東京オリエンティッドが残してくれた遺産を大切にしながら2019年に再びオリエンティッドを招致することにに対し、本学会が今大会以後オリエンティッドのスタンスや開催について考え直す機会となることを期待しております。

基調講演とオーガナイズドセッションさらには、学会大会第一日目は、地域研究を実施いたします。会員の皆様のご参加をお待ちしております。詳細につきましては、学会誌56号(大会号)で紹介させていただきます。

大会運営につきましては、参加される皆様によって変り多岐大会となります。本学の教職員、大学生、大学院生、学部生がそれぞれの役割を担い準備を進めております。一人でも多くの会員が参加されますよう、一層お呼びたいしております。

ニュース7

- 1. 学会副会長挨拶(坂口正治) P. 3
- 2. 第37回学会大会の案内(第2種) P. 2
- 3. 第37回学会大会開催要項 P. 6
- 4. 学会大会研究(口頭)発表・演説 P. 7

第37回学会大会(東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

お知らせ第2報

第37回学会大会のご案内

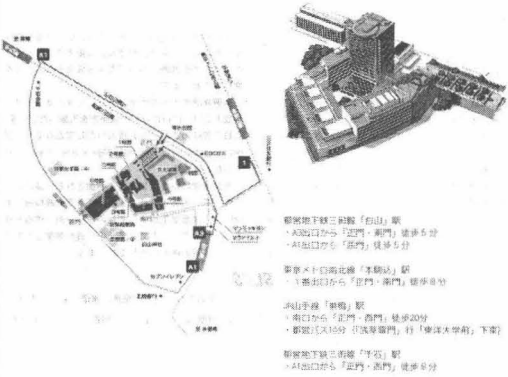
- 日程 平成19年11月30日(金)~12月2日(日)
- 会場 東洋大学 白山キャンパス
〒122-0001 東京都文京区白山5-28-20
大会実行委員会委員長 坂口 正治

第2日目(12月1日・土)

- 3号館2 階323教室……本部
- ” 第2会議室……理事會
- ” 323教室……基調講演
- ” オアガイズドセッション
- 2号館10階会議室(カイヤイ一)……懇親会場

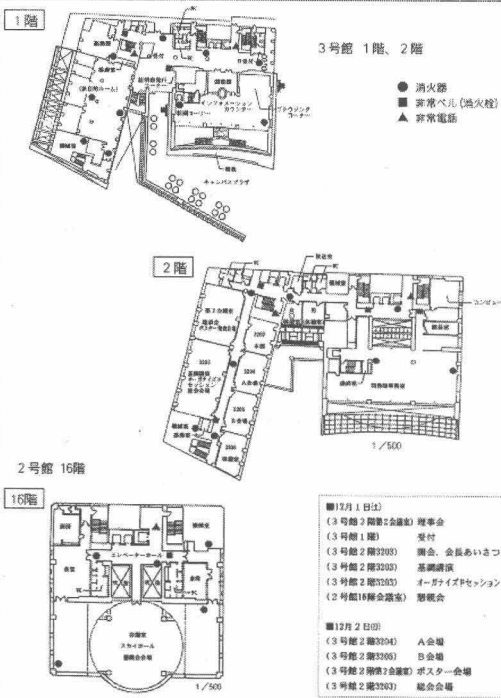
第3日目(12月2日・日)

- 3号館2 階323教室……A会場
- ” 323教室……B会場
- ” 第2会議室……ボクスター発表会場
- ” 323教室……総会会場
- ” 3203教室……休養室



開催場所 3号館「白山」棟
A会場から「2号門・西門」徒歩5分
B会場から「2号門」徒歩5分
懇親室 2号館北側「本館」棟
1号館3号から「2号門・西門」徒歩5分
バス会場「2号門」徒歩5分
バス会場「2号門」徒歩5分
バス会場「2号門」徒歩5分

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)



-3-

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

第37回学会大会開催要項

大会テーマ「レジャー・レクリエーションの充実に寄与するオリンピック・レガシー」

- 主催：日本レジャー・レクリエーション学会
- 主管：日本レジャー・レクリエーション学会第37回学会大会実行委員会
- 期日：平成19年11月30日(金)、12月1日(土)、12月2日(日)
- 会場：東洋大学 白山キャンパス
〒122-0001 東京都文京区白山5-28-20
- 日程：第1日目 11月30日(金) 地域研究
第2日目 12月1日(土)
11:00~12:00 理事会 (3号館2階 第2会議室)
12:00~15:00 受付 (3号館1階)
13:00~13:15 会長挨拶 鈴木秀雄 (学会会長)
13:15~14:05 基調講演 (3号館2階 3203教室) 予定
14:20~16:00 オープンデイズセッション
プレゼンテーション4名予定
17:00~18:30 懇親会 (2号館16階 会議室 スカイホール)
第3日目 12月2日(日)
9:00 受付開始
9:30~10:30 研究発表 A会場 (3号館2階 3204教室) 3題
B会場 (3号館2階 3205教室) 3題
10:40~11:40 研究発表 A会場 (3号館2階 3204教室) 2題
B会場 (3号館2階 3205教室) 2題
11:00~14:20 ポスター発表会場オープン (3号館2階第2会議室)
11:40~12:10 ポスター質疑応答時間
12:40~13:40 総会 (3号館 3203教室)
13:40~14:20 研究発表 A会場 (3号館 3204教室) 2題
B会場 (3号館 3205教室) 2題

理事会 平成19年12月1日(土) 11:00~12:00 会場 3号館2階 第2会議室
総会 平成19年12月2日(日) 12:40~13:40 会場 3号館2階 3203教室

大学食堂：12月1日(土) 営業しています。
12月2日(日) 営業していません。コンビニ等ご利用が可能です。
喫煙所：喫煙は指定された場所をお願いします。(厳守のこと)

-4-

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

レジャー・レクリエーションの充実に寄与する
オリンピック・レガシー

開催趣旨
児童・生徒らの学力低下を招いた元凶であるかのように指弾される「ゆとり教育」。その影響もあつてか、一時期あれほど頻りに耳にするところが多かった「ゆとり」という言葉は今や死語となりつつあるようだ。しかし、たとえ言葉の使用が控えられようと、それが指し示す理念の重要性までもが一掃に廃らされてよいわけではなく、むしろ、ゆとりに対する立場は、あのバブル時代とは異なる別の文脈においてますます強まっているようにさえ思える。

私たちの暮らしから、かつてのゆとりが失われるようになったのは、紛れもなく高度経済成長の影響がある。新幹線、高速道路、高層ビルなどに代表される多くの都市景観は高度経済成長の結晶として、昭和39年の東京オリンピックを契機に急進につくられた。それゆえに、東京オリンピックは日本を先進国に押し上げた反面、代償も大きかったと反省されている。しかしに、江戸の時代から東京の人々が観しこんできた豊かな自然は失われ、高層ビルや大気汚染の影響で富士の姿をみることも稀になった。

東京都は、2016年の夏季オリンピック招致を進める中で、「10年後の東京」と題された再開発プランを同時に推し進めようとしている。「10年後の東京」の中にはレジャーやレクリエーション、ゆとりといった言葉自体は見当たらないものの、「開港」「景観」「スポーツ」「福祉」「健康」「教育」「産業振興」「高齢者」「観光」「文化」などレジャー・レクリエーションと関わりのある語が数多く登場する。東京都は、次の東京オリンピックを前のオリンピックの成功と引き換えに手放した、いわばゆとりの再生・復活を図る好機と位置づけている。

東京都は、2008年1月に国際オリンピック委員会に対して「開催振興計画書 (application file)」を提出するが、計画書の冒頭には、オリンピック開催の動機、レガシー、大会コンセプトの3つを明記することが求められている。今年10月に開催された立候補申請都市に対するIOC主催の説明会では、あらためてレガシーの重要性が強調されたという。レガシーとはIOCが示すところによれば、「オリンピック招致の成否にかかわらず、招致活動を通じて東京、日本、スポーツそれぞれの発展のために実現が期待される遺産」ことである。また、「大会コンセプト」については、東京都の長期都市計画、つまり「10年後の東京」との関係性が問われる。

オリンピックは、前回の東京大会がそうであったように単なるスポーツの国際大会とは違い、大会後の地域社会や国ありよう、人々の生活にも影響をもたらす。このたびの学会大会では、レジャー・レクリエーション学会として期待する「オリンピック・レガシー」のビジョンをより具体的に描き、その実現に向けたいかなる貢献が学会に可能であるか、オリンピック招致に対する本学会のスタンスや課題について検討する一歩としたい。

特別プログラム

■基調講演 30分
現在、実行委員会にて人選中

-5-

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

オープニングセッション 100分
期待するレガシーについて、レジャー・レクリエーションに関わる特徴的な研究ならびに実証分析の代表(4名程度)より各自20分程度、発表してもらおう。東京都に對し重要とするオリンピック・レガシーや、学会としての協力内容などをまとめるワーキング・グループ(勉強会)の発足に備えたい。

プレゼンテーション
学会員より4名 (現在人選中)

オープナー
榎崎 秀 (筑波大学)
麻生 原 (東京農業大学)

地域研究「江戸・東京の庭」のご案内

2007年度の大会は、東京都文京区白山の東洋大学で開催されます。そこで、地元文京区または近隣地域を中心に「江戸・東京の庭」をテーマにした地域研究会を企画いたしました。ふるってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。
尚、非会員の方、同業者の方のご参加も歓迎いたしております。

- 日 時：2007年11月30日(金) 午前10時～午後4時
■参加費：¥2,000 現地にて徴収
■見学場所：小石川後楽園(午前)、旧古河庭園(午後)
■講師：原 勉 (東京農業大学地域環境科学部道楽科准教授・庭園学)
■集合：小石川後楽園「開港亭門」券売所前集合 午前10時まで
地下鉄大江戸線「飯田橋」(E06) C3出口下車徒歩2分
JR総武線「飯田橋」東口下車徒歩8分
地下鉄丸の内線・南北線「後楽園」(M22, N11) 中央口下車徒歩6分
地下鉄東西線・有楽町線・南北線「飯田橋」(T06, Y13, N10) A1出口徒歩8分

■その他：(1)傷害保険につきましては、各自の責任において事前に加入のほど、お願い申し上げます。
(2)服装については、軽装でご参加ください。雨具、防寒着等は各自ご持参ください。

- 行 程
10:00 小石川後楽園 庭園券券売所前集合 (見学2時間)
12:00 飯田橋門前 入園料 (団体240円)
各自昼食/移動 地下鉄南北線「飯田橋」～「西ヶ原」間 11分
「西ヶ原」駅より旧古河庭園まで徒歩7分
13:30 旧古河庭園 券売所前集合 (見学1.5～2時間) 入園料 (団体120円)
15:30～16:00 解散 (時間的に余裕があれば、六義園または飛鳥山公園まで足を延ばしたいと思います。)

-6-

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

大会研究(口頭)発表・演題

第3日目 12月2日(日)

■ A会場：3号館2階 3204教室

□座長：土屋 薫 (江戸川大学) 9:30～10:30

A-1 救急救護実践指路にみるガイドライン
2005変更の視点
～ガイドライン3000から2005への変更
領域を中心として～
○鈴木 英樹 (東海大学非常勤講師)

A-2 介護予防事業における運動実施の参加者
自覚の変化について
～その経過事例研究～
○上野 幸 (駒余暇問題研究所)
山崎 律子 (駒余暇問題研究所)
高橋 和敏 (駒余暇問題研究所)

A-3 アメリカ組織キャンプにおける儀式プロ
グラム
～Camp 0-AT-BA におけるギャラハ
ッド(騎士)プログラム～
○高橋 伸 (国際基督教大学)

★質疑応答

□座長：山崎 律子 (駒余暇問題研究所) 10:40～11:40

A-4 人を対象とした研究の質を高めるための
声明・チェックリストとエビデンス・グ
レーディングの考え方
～疫学・臨床研究分野の国際動向を参
考にして～
○上岡 洋輔 (東京農工大学地域健康科学部健康科学学研究室)
本田 卓也 (東京大学大学院農学研究科食品健康学専攻)

A-5 台所のセラピューティックレクリエーシ
ョンに関する研究の傾向
○徐 玉珠 (洛陽師範大学体育教育系社会体育部)

A-6 高齢者介護サービス事業施設の職員にお
ける高齢者レクリエーションの支援力向上につ
いての期待
～セミナー受講者の場合～
○廣田 浩久 (駒余暇問題研究所)
上野 幸 (駒余暇問題研究所)
山崎 律子 (駒余暇問題研究所)

★質疑応答

A-7 スポーツによる国政の転換は可能か？
～昭和15年東京オリンピック招致活動
を事例として～
○古城 康夫 (江戸川大学)

A-8 現代社会と情権行動の特質から見た「メ
ディア・ピエトープ」の枠組み
○土屋 薫 (江戸川大学)

★質疑応答

-7-

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

第3日目 12月2日(日)

■ B会場：3号館2階 3205教室

□座長：田中伸彦 (森林総合研究所) 9:30～10:30

B-1 嵐山村における空間計画ワークショップ
に期待される効果とその構造化に関する
研究
～長野県千曲市横路地区を対象として～
○矢野加奈子 (駒余暇問題研究所)
藤生 恵 (駒余暇問題研究所)

B-2 大都市近郊地域における鉄道会社が行う
里山などの環境を利用したレクリエーシ
ョン空間の整備に関する研究
○岡田 慎也 (東京農工大学)
大学院農学研究科

下場 聖 (駒余暇問題研究所)
藤生 恵 (駒余暇問題研究所)

B-3 求められる総合型地域スポーツクラブ
～神奈川県内総合型地域スポーツクラ
ブのクラブ理念やその目的を参考に
して～
○吉原さちえ (東海大学)
西野 仁 (東海大学)

★質疑応答

□座長：沼澤清彦 (立教大学) 10:40～11:20

B-4 レジャー志向性尺度の開発に関する研究の
～多様な大学生における調査データか
ら志向性尺度の今後を展望する～
○佐藤 由美 (大阪府立女子大学)
佐藤 馨 (ゆめと健康スポーツ大学)

B-5 市町村合併による広域スポーツ空間の再
構築に関する基礎研究
○池田 俊道 (大阪商業大学)
藤原 泰佑 (広島国際大学)
浜田 龍介 (広島市立大学大学院)

★質疑応答

□座長：小野寺浩三 (北見大学) 13:40～14:20

B-6 100年前の「運動雑誌」の思想
～明治18年発行の「遊樂雑誌」を
手がかりに～
○西野 仁 (東海大学)

B-7 専門辞典の記述に見る「森林レクリエ
ーション」の定義・解釈の変遷
○田中 伸彦 (森林総合研究所)

★質疑応答

-8-

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

第3日目 12月2日(日)

ポスター発表・演題

■ 会場/第2会議室

■ ポスター発表会場オープン/11:00～14:20

■ ポスター質疑応答時間(発表者配置時間)/11:40～12:10

P-1 運動機能維持向上におけるプログラムの現
状と課題
～福山市の老人福祉施設におけるアンケ
ット調査より～
○千後直樹子 (福山平成大学)
△山下 雅彦 (福山平成大学)

P-2 中山間地域と都市地域における自然体験活
動の意識調査
～親子どもの期待と不安に着目して～
○中田 祐子 (福山平成大学)
△山下 雅彦 (福山平成大学)

P-3 中山間地域における冬季スポーツイベント
に関する研究
～広島県高野町に事例について～
○山下 雅彦 (福山平成大学)

P-4 床屋による健康の自己管理能力を高めるた
めの取り組み
～心身への影響をみる「気づきスコア」と
POMSとの比較～
○三浦 玲子 (芝罘工業大学)
△西田 俊夫 (立教大学)
小嶋 紀子 (麗澤大学)
藤田 弘子 (信州大学)

P-5 横浜市青葉区の「美しが丘遊歩公園」の
愛護会活動について
○今井 健 (東京農工大学経済学専攻)
△原田 和弥 (東京農工大学)
△藤生 恵 (東京農工大学)

P-6 農地区(富士湖高野)における参加型協働
の地域づくりについて
○柳田 祐康 (東京農工大学)
今井 健 (東京農工大学大学院)
木村 辰之 (東京農工大学非常勤講師)
△藤生 恵 (東京農工大学)

P-7 輪島市三井町における地域の魅力発見ワ
orkshopについて
○山本 亮 (駒余暇問題研究所)
△矢野加奈子 (東京農工大学経済学専攻)
△藤生 恵 (東京農工大学地域健康科学部)

○印は、発表者
△印は、正会員

-9-

平成18年度(2006年)

**日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第7回)議事録**

開催日：平成18年3月12日(月) 18:00～18:45
開催所：立教大学池袋キャンパス12号館1会議室
出席者：鈴木、小畑、坂口、西田、藤生、藤嶋、
田中(幹)、佐藤、橋本、小嶋

議題

I. 確認事項

- 1) 定数確認
- 2) 前回常任理事会の議事録の確認について

II. 報告事項

- 1) 平成18年度会費納入状況について
3月9日現在、12年以内の申し込みが確認。累積
324件の申し込みがあった。
- 2) 学会誌第58号の進捗状況について
58号は年度内発行に向けて準備している。原
著論文2編、学会大会の基調講演とシンポジ
ウムの原稿を掲載予定。

III. 審議事項

- 1) 進捗について
①18年度 選挙全体の日程についてスケジュール案が提
示された。
②改選前理事(10名)選出の手続き
会則に基づき、上記の件を理事会の審議事項と
することが協議された。
③選挙管理委員会(委員の選出)について
選挙管理委員会5名の選出とその委員の中から、
委員長1名選出を理事会で審議事項とすること
が協議された。
- 2) 平成18年度決算報告(中間)について
2月23日現在の中間報告(案)の提示がなされ
た。
- 3) 会員名簿作成のための情報提供について
個人情報提供の観点に準ずる学名名簿の作成に
ついて、会員(正会員)に向けた情報提供出
題する件を理事会で審議事項とすることが議
決された。
- 4) Web 上担当者委員会
HP立ち上げに関する件を理事会で審議する
ことが協議された。

平成19年度(2007年)

**日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第1回)議事録**

開催日：平成19年4月23日(月) 18:30～20:30
開催所：立教大学池袋キャンパス 5号館1階
第1会議室
出席者：鈴木、坂口、西田、藤生、小嶋、藤嶋、沼
沢、山崎、橋本、土屋

議題

I. 確認事項

- 1) 前回常任理事会(第7回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 年度会費納入状況について(平成18年3月31
日現在及び平成18年度分)
3月31日現在、304名(新入社員12名、理事
会員17名、を含む)の会費納入
(正会員38名、18回生が加入して)いる。
- 2) 学会誌第58号の発行について
4月来日、あるいは5月上旬に発送予定
- 3) 学会ニュース84号の発行について
学会入会案内、6月30日までの学会費振込み
案内を同時発行した。
学会ニュース9・10ページに訂正箇所
9ページの平成18年(2006年)日本レジャー・
レクリエーション学会常任理事会
(第1回)議事録は、理事長へ訂正
10ページの平成18年(2006年)日本レジャー・
レクリエーション学会常任理事会
(第1回)議事録は、第2回へ訂正
- 4) 会員の進捗について
学会ニュース84号に記載

III. 審議事項

- 1) 改選前理事(10名)選出について
4月20日印刷にて現在21名の選挙があ
った。
5月14日(月)に開封、10名の選出にあたる。
- 2) 平成19年度選挙報告(案)について
平成19年度選挙報告(案)が提出され、審
議の結果承認された。
- 3) 平成18年度決算報告(案)及び会計監査報告
について
平成18年度決算報告(案)が提出され、審
議の結果承認された。
- 4) 平成20年度事業計画(案)について
平成19年度の事業を見ながら今後さらに精
査していく。
- 5) 平成20年度予算(案)について
選挙年にあたり、19年度は6月30日まで
に会費の納入が必要となる。6
月30日時点で、会費納入状況を把握しな
がら検討していく。

-10-

- 6) 新入会員について
平成19年度に入り、新入会員8名、退会者7名である。
一人で多くの会員獲得が認められる。
- 7) 会員名簿作成のための情報提供について
会員名簿作成のための情報提供のお願いの資料が提出され、掲載・非掲載内容について審議された。さらなる会員名簿においでしについて検討された。平成19年度に会員名簿を再発行する予定。
- 8) 第37回学会大会（東洋大学白山キャンパス）について
東洋大学白山キャンパスで総会開催、発表会場、懇親会場の場所を検討しているが、新学期にならないと明確にならない地域研究も東洋の方向で考えている。
テーマについても出来るだけ早い時期に検討することが決められた。
- 9) Web担当専門委員会（連絡HP委員会）担当の土屋理事より資料が提出された。特に現在のサイトが立派なWebサイトになり、サーバー、ドメイン取得等々ながら学会の内容、学会会員募集に向けて構成が検討された。

平成19年度(2007年)
日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第2回) 議事録

- 開催日：平成19年5月14日(月) 18:30～19:30
開催場所：立教大学池袋キャンパス
大丸川記念館 1階第1会議室
出席者：鈴木、坂口、西田、藤生、小橋、松尾、沼澤、山崎、横内、土屋
- 議題：
1) 前回常任理事会(平成19年度第1回) 議事録の確認
2) 報告事項
3) 年度会費納入状況について(平成18年5月10日現在)
正会員17、退年度員17、理事会員4 合計38名会費納入済み
4) 学術誌58号の発行について
年度末発行が予定されて、表紙中には手元が届かず、裏の作成(編集委員の名が分からなかった)、掲載改訂中の論文についての確認、シボリ印刷と発行者の連絡などで手配調整
5) ニュース84号の発行について
4月中旬に発送した。会長挨拶、2008～2010年度役員発表出席者公示、第37回学会大会案内(第1冊)および研究発表申込みの通知なども掲載した。

- 4) 会員の動向について
新入会員2名、退会者6名、メールアドレス変更1名(天野輝)
 - 5) 学会ウェブサイトのリニューアルについて
青年から学生向けに見積書が提出されたとの報告があった。情報の告知はもちろん、学会員向けについても必要不可欠である。
- III. 議事事項
- 1) 改選期理事(10名) 選出について
理事27名中9名候補の発表。以下に10名が提出された。その結果を理事会に報告することになった。
小橋、小田切、坂口、鈴木、田中(光)、西田、西野、沼澤、松尾、横内
 - 2) 平成18年度年報編纂報告(第3回)について
理事会の承認を受ける。
 - 3) 会員名簿作成のための情報提供について
常任理事会において検討中。

平成19年度(2007年)
日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第3回) 議事録

- 開催日：平成19年8月25日(月) 18:30～20:30
開催場所：立教大学池袋キャンパス5号館第2会議室
出席者：鈴木、小田切、坂口、西田、藤生、小橋、田中、沼澤、西野、山崎、横内、土屋
- 議題：
1) 前回常任理事会(平成19年度第2回) 議事録の確認
2) 報告事項
3) 年度会費納入状況について
6月21日現在において288名の納入があった。
4) 学会誌59号の発行について
新刊誌発行済み。経費の支払いは、事務局に今月中に済ませた。
5) 会員の動向について
新入会員5名あり、退会者が1名あった。(田賀真智孝郎)

- 6) その他
坂口副会長より
介護福祉士養成カリキュラム変更に伴い、日本レジャーエーション協会より、レジャーエーション協会の目的が変更された件について、看護学会の藤田先生を中心に協議会を開催しての旨の連絡があり、本学会から鈴木会長が出席することとなった。
- III. 議事事項
- 1) 第37回学会大会(テーマ、基礎講演、シボリ印刷、地域研究等)について
衛生学理事より
報告がなされた。資料に基づき、報告がなされた。中にもオンラインや観光などが話題に上がったが、決定的な理由には欠け、次回に引き継ぎ報告されることとなった。
2) 論文発表委員会の承認について
田中常任理事より
長崎論文の発表やその関連については、環境常任理事が田中常任理事と連絡をたれたとの連絡があった。

平成18年度(2006年)
日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第4回) 議事録

- 開催日：平成18年3月13日(月) 18:00～18:45
開催場所：立教大学池袋キャンパス5号館第2会議室
出席者：鈴木、坂口、西田、藤生、松尾、沼澤、田中(光)、土屋、横野
- 議題：
1) 議事事項
1) 定款確認
出席者15名、委任状提出者5名
2) 前回理事会の議事録確認について
2) 報告事項
3) 平成18年度会費納入状況について
3月9日現在、12件の支払いが確認、東京34件の支払い済みであった。
4) 学術誌58号の発行状況について
58号は年度内に発行に向けて準備している。原稿論文2編、学会大会の基礎講演とシボリの原稿を掲載予定。
5) 研究会の改選
第37回大会開催と理事会(東洋大学白山校舎)の開催(第1冊)を検討中である。

- 4) 会員の動向
以下2名の退会が承認された。
小長谷 悠紀、高野 孝
 - 5) その他
第37回学会大会の開催候補地として西日本地区に位置する大学に開催依頼を打診することが決定された。
- III. 議事事項
- 1) 選挙について
1) 選挙
選挙全体の日程についてスケジュール案(資料)が提示された。審議の結果、修正と再審査をし、次回再提示することとなった。
2) 改選期理事(10名) 選出の準備
次回に基づき報告(報告)が承認された。
3) 常任理事委員(委員の選出について)
常任理事委員より鈴木、小橋、沼澤、松尾、横内常任理事が委員として選出された。また、委員長に衛生学理事が選出された。
4) 平成18年度年報編纂報告(伊勢)について
2月23日現在の年報報告(資料)の提示がなされた。
5) 会員名簿作成のための情報提供について
個人情報保護の観点を持つ学会名簿の作成について、会員に向けた情報提供について審議がなされた。次年度への継続審議することとなった。

平成18年度(2006年)
日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第1回) 議事録

- 開催日：平成18年5月14日(月) 19:30～21:30
開催場所：立教大学池袋キャンパス
出席者：鈴木、坂口、西田、藤生、沼澤、小橋、松尾、高橋(光)、土屋、沼澤、山崎、横内
- 議題：
1) 議事事項
1) 理事会出席者定款確認
理事会報告2名、12名出席、14名欠席、8名委任状提出済み
2) 前回理事会(平成18年度第4回) 議事録の確認

- II. 報告事項
1) 年度会費納入状況について
平成19年5月10日現在、正会員17、退年度員17、理事会員4 合計38名会費納入済みであった。
2) 学術誌58号の発行について
年度末発行が予定されていたが、少し遅れて表紙中には届けられなかった。
3) ニュース84号の発行について
4月中旬には、届けられる予定。会長挨拶、2008～2010年度役員発表出席者公示、第37回学会大会案内(第1冊)および研究発表申込みの通知なども掲載された。

平成19年度(2007年)
日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第2回) 議事録

- 開催日：平成19年7月23日(月) 18:00～19:15
開催場所：立教大学池袋キャンパス
セントポール会館2階(英客)
- 出席者：鈴木、坂口、西田、藤生、小橋、田中、松尾、沼澤、山崎、横内、土屋
- 議題：
I. 議事事項
1) 理事会出席定款確認
理事会報告27名中11名の出席、16名欠席中9名の委任状提出が合計6名になり、理事会の承認条件を満たした。
2) 前回理事会(平成19年度第1回) 議事録の確認
2) 報告事項
1) 年度会費納入状況について
理事会より、状況報告について次回に持ち越された。
2) 学術誌の発行について
第58号が平成19年6月下旬に発送された。
3) 会員の動向について
新入会員2名、退会者1名
4) 第37回学会大会研究発表の申込み状況について
一般研究発表の申込みについては17種類の受付状況である
5) Webの開設準備状況、初期年度経費について
Webの開設準備状況、初期年度経費について途中報告がなされた。

事務局からのお知らせ

- 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」のバックナンバーを学会員に貸出しております(送料別途)。尚、欠番号が有る場合はご容赦ください。
①50～58号まで→1冊¥1,000
②1～31号、33～49号まで→1冊¥500
③「多」31号、1冊¥2,000
- 会員の皆様のお知らせとして「レジャー・レクリエーション」学会に関心のある方を事務局へお知らせください。
- (申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を揃えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。)
- 3年度会費(¥8,000)、未納年度会費がある会員は、至急、郵便局にて払込手続をお願いします。
- 口座番号 00150-3-002353
加入者名 日本レジャー・レクリエーション学会事務局
- 事務局の開設日は水曜・木曜の週2日となっております。

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査等は短時間で2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様への積極的な投稿をお願いいたします。

投稿論文送付先
〒354-8510 埼玉県東松山郡三芳町久保1150-1
湖北コミュニケーション学部
西田俊夫研究室
西田俊夫研究室内

【日本レジャー・レクリエーション学会事務局】

会員の動向

- 新入会員 17名 (07.10.11付)
 - 07-01 高橋 正人 07-10 福士 友子
 - 07-02 石田 夏浩 07-11 荒木 直夫
 - 07-03 宮本 佳嗣 07-12 北村 裕章
 - 07-04 小橋 義男 07-13 大城 浩志
 - 07-05 飛田あみえ 07-14 古越 貴子
 - 07-06 小林 勇 07-14 古越 貴子
 - 07-07 小玉 立哉 07-15 飯田 雄介
 - 07-08 田中 結 07-16 徐 玉珠
 - 07-09 宮澤マリ子 07-17 本田 咲也
- 退会者 11名
 - 多田 聡
 - 小橋 治人
 - 鈴木 雅子
 - 中村 正巳
 - 飯田 雄介
 - 樋口 隆乃
 - 佐々木明子
 - 北条 明美
 - 大石 永剛

お詫びと訂正

前回ニュース84号に掲載されていた平成18年度第1回常任理事会の議事録は、常任理事会ではなく理事会の議事録であります。
また、平成18年度第1回理事会議事録は第2回になります。ここに訂正させて頂き、お詫び申し上げます。

平成19年11月

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会 (Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

AUG. 2008 No.86

事務局 〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町森久保1150-1 新潟大学 国際コミュニケーションセンター 自然環境研究棟内 電話 049-774-1511(代) E-mail: aso@nodai.ac.jp

発行人 森 恵 編集 広報渉外委員会 学会URL: http://jslrs.jp

第38回学会大会開催にあたって

日本レジャー・レクリエーション学会(JSLRS) 会長 鈴木秀雄 新潟大学 教授、Ph. D.

本年度は、学会会長(小田切毅一)の所屬先である新潟医療福祉大学の御協力を得て、学会大会を開催することとなりました。同大学のNSGカレッジリーグ学生総合プラザSTEP(参照:本ニュース「学会大会のご案内」が主催となり開催いたします。

学会大会テーマは「地域おこしとレクリエーション」です。基調講演では、テーマに即し、「地域おこしの手法としてのレクリエーション実践の有効性について」をお話いただく。また、シンポジウムでは、「地域おこしの手法としてのレクリエーションの再検討」の討議が企画されています。

私は、去る8月7日から10日まで調査・研究の機会を得て新潟市を訪ねた。折しも新潟県が開催されており、佐渡川に架かる東海橋を中心とする目抜き通り1つに、観光、企業、福祉、団体等、あらゆるグループによる新顔顔りが展開されていた。特に印象に残ったのは、親子の多くのお母さんより、地域に根ざした取りこまの雰囲気と温かさが醸しだしている新潟の空気に触れ、昨今の多くの祭りやイベントのイベント化しているなか、地域に密着している祭りを人ごみに目立たない思いで、祭り観望者もさき、安全で雰囲気の良い祭りへの機軸を築きながら努力をされている。その意図に惹かれた市民の積極的参加が実現しているのを感じた。これは、決して偶然でも偶然でもない。

今回のシンポジウムのコーディネーターを務める皆さんが新潟に関係する方々で、このあたり内容も含め地域おこしと地域づくりの具体的なお話が聞けるのではないかと楽しみにしている一人でもある。ところで、今回は新潟市が世界一の観光トップレベルにある。しかしこの両者の間には平成10年頃の観光力増強が実現している。即ち、生きている自立してよびよび生かされている心ということがある。また、子どもには外資系幼稚園、青少年の力も近年の調査を見ても、年々体格はよくなるもの体力は減少傾向にある。中高年のメタボリックシンドロームや高血圧等では要介護状態に陥る割合も高い。

地域おこしや地域づくりは、地域の活性化、安全・安心の確保もさることながら、地域に住む人々の健康づくり、体力づくりが何より求められる課題でもある。

地域おこしにおけるレクリエーション実践は、地域の生活の中でその個人が志向する個人の生きる喜び(LEP-Enjoying Personal Living)につながることも最も重要である。個人の自立に関わる術として、ADL(日常生活動作/活動)やQOLが重要であるが、Quality of Lifeは、単に「生活の質」というよりも、むしろ「生の質」であり、その生を3層域から捉え、「生の質」「生活の質」に留まらず、生き甲斐につながる「人生の質」に向上する十分な認識が必要である。これら3つの「生の質(QOL)」を向上させること、即ち生きる喜び、その先にある個人の生きる喜び(LEP)の獲得として最も重要である。「生」が「質」をよりよく「質」かつ「こと、それが「生の質(QOL)」でもある。

そしてそこにレジャー・レクリエーションの深い関与が望まれる。学会の社会貢献の場でもそこ一つ見えるのではないだろうか。これらについても学会大会での会員相互による活発な意見交換を期待してやまない。

JSLRS

Table with 2 columns: 1. 学会会長挨拶(鈴木秀雄) P. 1, 2. 第38回学会大会のご案内(第2報) P. 2, 3. 第38回学会大会基調講演およびシンポジウム P. 3, 4. 第38回学会大会研究発表申込の取扱い P. 4, 5. 2008年度-1019年度学術委員(幹事)発表要旨 P. 5, 6. 第37回学会大会時の総会報告 P. 5, 10. 7. 日本レジャー・レクリエーション学会 P. 7, 8. 地域活性化のお願い P. 8, 9. 常任理事会・理事会の報告 P. 11, 10. 編集委員会からのお知らせ P. 17, 11. 事務局連絡のお知らせ P. 17, 12. 会員の励み P. 17

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

第38回学会大会のご案内

お知らせ第2報

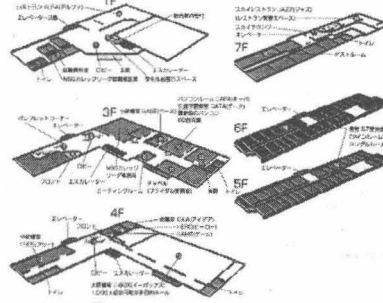
■日程 平成20年11月28日(金)・29日(土)・30日(日)

11月28日(金) 地域研究 11月29日(土) 幹事会・基調講演・シンポジウム・懇親会 11月30日(日) 口頭発表・総会・ポスター発表

■会場 新潟医療福祉大学 大会実行委員長 小田切 毅一 NSGカレッジリーグ学生総合プラザSTEP http://mydreams.jp/step/index.html

※同施設内は宿泊部屋を備えております。ご希望の方は下記にお問合せ下さい。〒950-0914 新潟県新潟市中央区紫竹山16丁目3-5 TEL 025-265-5534

■交通 新潟駅南口より新潟・南越前線所行バスにて、「井天橋」停留所下車1分。



第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

大会テーマ「地域興しとレクリエーション」 基調講演およびシンポジウム (11月29日(土)午後を予定)

基調講演

演者: 森川貞夫氏 (日本体育大学)

「地域興しとレクリエーション—その有効性をめぐって—」

—さまざまな地域興しの必要性が、文化的にも、社会的にも、政治・経済的にも投げかけられている。地域興しにとってレクリエーションと何らかし、地域興しのためにレクリエーションが成立する自然的、文化的、社会・政治的機軸の両面を捉えつつ、地域興しとレクリエーションの密接な関係性を、地域興しの手法としてのレクリエーション実践の有効性の問題とかわかって講話を展開したい。—

シンポジウム案 「地域興しの手法としてのレクリエーション再検討」 —新潟市における話事例から—

地域興しにレクリエーション実践が不可欠であるという。レクリエーションの有効性に着目した基調講演を受けて、本シンポジウムでは大会開催地である新潟市その周辺に地域興しの話事例から問題提起する。活性化の議論を通じて、地域興しの手法としてのレクリエーションの可能性を、「レクリエーション興し」という視点と重ね合わせつつ再検討したい。

- コーディネーター: 小田切毅一氏 (新潟医療福祉大学) —提案趣旨、ならびに論議の「場」となる新潟市やその周辺の地域興し事情、レクリエーションの手法による実践を条件づける自然・文化・社会・政治的環境—
•第一話題: 田村 賢 氏 (株式会社アルビレックス新潟) 「新潟アルビレックスにおける地域興しの実践から」 —新潟アルビレックスが目指した地域興しのサポーターづくり、新たなスポーツ・ビジネス経営戦略におけるレクリエーションの手法とは、この地域興し戦略の、光と影を問う。
•第二話題: 菅原康行氏 (新潟医療福祉大学) 「生産スポーツの視点、総合クラブにおける新潟の地域興しを問う」 —県下の総合型クラブ活動の構想を軸として、新潟市を取り巻く郊外地域の総合型クラブがいかなる展開をみせているのか、その光と影に注目しつつ、郊外地区における新潟の地域興しの可能性を問う。
•第三話題: 池 弘 氏 (日本福祉医療専門学校) 「ハンディキャップ・レクリエーション、障害者主体の文化による町興しの試み」 —地域に開かれた学校としての拠点づくりをめざす。福祉レク・ワークの広がりの中で、ハンディキャップを持った人たちのレクリエーションによる新潟市の町興しなど、その実践から見ていくもの。
•第四話題: 山 出 寛 氏 (建築家、2009年ワールドカップボランティア事務局長) 「新潟市の都市づくりと市民活動」 —ワールドカップなどのイベントやレクリエーションの実践の機会が市民に働きかけるものには、それを牽動するどんな仕組みのある都市計画などの環境づくりが必要とされるのか—

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

平成20年度 第38回学会大会 (於:新潟医療福祉大学) 「一般研究発表」申込み締切り延期のお知らせ

本年度は新潟医療福祉大学のNSGカレッジリーグ学生総合プラザSTEPを会場に開催(11/28~30)いたします。大会日程は11月28日(金):地域研究、29日(土):シンポジウム、30日(日):総会・一般研究発表、となっております。

つきましては、一般研究発表(1.口頭発表、2.ポスター発表)のお申込みについてご案内いたします。なお、今春4月に年会費納入のご案内を送付した際に同封しましたお知らせでは申込み締切りを7月25日と告知しましたが、第2回理事会(7月28日)において9月19日まで延期することとなりました。

皆様よりのお申込みをお待ちしております。

- 1. 口頭発表について 官製ハガキ(FAX、メール不可)に「口頭発表」と明記し、お申し込み下さい。 演題、副題(任意)、氏名、所属先を明記(共同研究者がいる場合は全ての氏名、所属先を明記)、住所(共同研究の場合は代表者とする)、郵便番号、電話番号を明記の上、9月19日(金)必着迄に郵送して下さい。申込みハガキに記載されている発表者の住所へ所定の抄録用紙を送付いたします。抄録原紙(A4判2枚または4枚のいずれか)の戻りは10月10日(金)です(必着)。 口頭発表の申込み資格について、発表者(筆頭者以外)は正会員の資格を有する者に限ります。非会員の場合は速やかに入手手続きをしてください。遅記される共同発表者においてはその限りではありません。
2. ポスター発表について 官製ハガキ(FAX、メール不可)に「ポスター発表」と明記し、お申し込み下さい。 演題、副題(任意)、氏名、所属先を明記(共同研究者がいる場合は全ての氏名、所属先を明記)、住所(共同研究の場合は代表者とする)、郵便番号、電話番号を記入の上、9月19日(金)必着迄に郵送してください。申込みハガキに記載されている発表者の住所へ所定の抄録用紙を送付いたします。抄録原紙(A4判1枚)の戻りは10月10日(金)です(必着)。 ポスター発表は非会員の方でも申し込みできますが、その場合には正会員の共同研究者が含まれていることが条件となります。遅記した共同研究者の内、正会員の氏名の前には△印を記して下さい。 ポスター発表の掲示ボードの大きさ(サイズ)は、過って大会事務局よりお知らせいたします。

3. お申し込み先・お問合せ 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学 地域環境学部 造園科学科 自然環境保全学/観光レクリエーション研究室 森 恵 敬 子 日本レジャー・レクリエーション学会 第38回学会大会実行委員会・事務局 係 TEL:03-5477-2436(直) 電子mail: aso@nodai.ac.jp

平成20年(2008年)度～平成22年(2010年)度 学会新役員

Table listing new officers from 2008 to 2010, including names, positions, and affiliations.

◎印は、改選前選出理事、○印は、選挙選出理事、△印は、理事長補選理事

平成20年(2008年)度～平成22年(2010年)度 専門委員会の構成

Table showing the composition of specialized committees, including committee names, members, and chairpersons.

○印 委員長、△印 副委員長、◇印 幹事

日本レジャー・レクリエーション学会 平成20年度 事業計画

I. 事業

- List of activities for the 20th fiscal year, including general assembly, journal publication, newsletters, and symposiums.

II. 総会議の開催

- Details of the general assembly, including date, location, and agenda.

日本レジャー・レクリエーション学会

平成20年度 予算

Financial budget table for the 20th fiscal year, showing income and expenses in detail.

日本レジャー・レクリエーション学会 平成18年度 事業報告

- Annual activity report for the 18th fiscal year, detailing the general assembly, journal, newsletters, and symposiums.

平成18年度決算報告書

日本レジャー・レクリエーション学会 平成18年3月30日 現在 (単位:円)

Financial statement table for the 18th fiscal year, showing income and expenses.

※記の繰越、決算報告は確定してあると認めます。

平成18年11月23日

「日本レジャー・レクリエーション学会賞」 候補者推薦のお願い

日本レジャー・レクリエーション学会 学会賞選考委員会 委員長 小田切 敏一

本学会では、平成19年度総会（於：東洋大学）における決定に基づき、会員の優れた活動を顕彰...

つきましては、平成20年9月末日締め切りで、下記の4賞について、学会賞候補者の推薦を受け...

なお、推薦のお願いおよび推薦書の提出につきましては、学会ホームページ (http://www.jslrs.jp)...

学会賞は、(1)学会賞、(2)研究奨励賞、(3)支援実践奨励賞、(4)貢献賞の4賞で、研究奨励賞につき...

「学会賞」は、正会員によって平成19年度に発表された学会誌「レジャー・レクリエーション研究」...

「研究奨励賞（論文部門）」の対象は、平成19年度に発行された「レジャー・レクリエーション研究」...

「研究奨励賞（発表部門）」の対象は、平成19年度の学会大会において発表された一般研究発表...

「支援実践奨励賞」は、正会員によるレジャー・レクリエーション支援実践において顕著な優れた...

「貢献賞」は、長年にわたり本会運営ならびに本会に対して優れた功績が認められた者あるいは...

学会賞選考委員会事務局（推薦書等の提出先）

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 独立行政法人森林総合研究所 上席研究員

田中伸 寛 電話：029-829-8316 電子メール：tanakan@fpri.affrc.go.jp

日本レジャー・レクリエーション学会賞候補者応募・推薦書

日本レジャー・レクリエーション学会

1. 提出日 西暦 年 月 日 提出 印

2. 推薦する該賞賞の呼称(○をつけること)

(1) 学会賞
(2)-1 研究奨励賞 一論文部門-
(2)-2 研究奨励賞 一発表部門-
(3) 支援実践奨励賞
(4) 貢献賞

3. 推薦する該賞賞の候補者氏名・団体(組織)名等

(1) 氏名あるいは団体(組織)名

(2) 所属機関名

(3) 生年月日あるいは設立年月日
西暦 年 月 日

(4) 住所あるいは所在地
〒 (部・道・府・県)

(5) 電話番号

(6) FAX番号

(7) E-mailアドレス

(8) 所属機関名

(9) 会員種別(該当するものに○をつける)
a. 正会員 b. 理事・会長

(10) 所属機関名

(11) 所属機関名

* 推薦者が2名以上おられる場合には、【別紙】に続きをご記入願います。

推薦する題目名(学会賞・研究奨励賞の場合)

推薦する主な支援実践内容(支援実践奨励賞の場合)

【別紙】

推薦者番号 氏名記入欄 (推薦者番号が2名以上の場合にご利用ください)

推薦者番号氏名(自筆署名・捺印) 印

会員種別(該当するものに○をつける)
a. 正会員 b. 理事・会長

所属機関名

推薦者番号氏名(自筆署名・捺印) 印

会員種別(該当するものに○をつける)
a. 正会員 b. 理事・会長

所属機関名

推薦者番号氏名(自筆署名・捺印) 印

会員種別(該当するものに○をつける)
a. 正会員 b. 理事・会長

所属機関名

推薦者番号氏名(自筆署名・捺印) 印

会員種別(該当するものに○をつける)
a. 正会員 b. 理事・会長

所属機関名

平成19年度(2007年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第5回)議事録

開催日時: 平成19年10月1日(月) 18:00~18:30
開催場所: 立教大学池袋キャンパス15号館1階第一会議室
出席者: 鈴木、坂口、西田、藤生、小松、西野、田藤、松尾、横内。

議題:

- 確認事項
 - 2006年度常任理事会(平成18年度、第4回)の議事録の確認
- 報告事項
 - 1) 年度会費納入状況について
164件の納入確認、累積納入数318件
 - 2) 会員の動静について
6名の新入会費が承認された。早稲田大学、大西敏浩、吉岡貴夫、旗田健夫、徐玉妹、本田希也
第37回研究会大会研究発表の申込み状況について
口頭発表が14名、ポスター発表が7名、計21名の申込みがあった。
また、理事長より広告の申込依頼の募集について報告があった。
- 議決事項
 - 1) 平成20年度常任理事会の開催期について
理事管理委員会より開催結果として以下の新理事15名の選出が発表された。承認された。
1位 藤岡文男、2位 佐藤生、茅野忠明、4位 山崎修、5位 高橋伸、田中伸彦、7位 マーレ寛子、8位 中島新一、9位 小野孝浩三、12位 大谷善博、13位 岸田千枝子、土屋隆、14位 天野勲、坂口真
本部事務局より、以下7名の理事が推薦され承認された。
鈴木、小田嶋、坂口、西田、藤生、松尾、横内
第37回研究会大会(武蔵大学)の開催期について
研究企画委員会委員長より地域研究の進捗が報告された。承認された。以降、継続事項として行われた。
- 調査、シンポジウムについての提案が示された。110年後の東京(「東京の再建」)と題し、「レジャー(調査)」等のキーワードが示された。調査費の確保・打合せを含め、協議の結果、研究会委員会の継続事項として持ち越された。
平成18年度決算報告について
前回の理事会で報告したものに付(学会誌誌3名の宛先に誤り発生)して報告がなされた。承認された。なお、会計監査については次回報告することとなった。
 - 2) 会員の動静
7名の退会申請があり、多謝状対応などとの報告について賛同した事項について途中報告が

なされた。また、飯見頼りも提示がなされた。引継ぎの承認事項として持ち越された。

6) 学会賞について
地研委員会委員長より、学会賞の表彰が提示された。藤生、坂口、西田、藤生、小松、西野、田藤、松尾、横内、の推薦委員会委員長として持ち越された。

7) フライバーレクリエーションについて
地研・事務局よりフライバーレクリエーションの表彰が提示された。以降、役員より提案事項を参考に整理し、理事長より提案の再検討を進めることとなった。

平成19年度(2007年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第6回)議事録

開催日時: 平成19年11月25日(月) 18:00~19:00
開催場所: 立教大学池袋キャンパスセントポールズ会館2階2号室
出席者: 鈴木、坂口、西田、藤生、小松、高橋、西野、横内、藤岡。

議題:

- 確認事項
 - 1) 確認事項
 - 2) 定款確認
 - 3) 前回の常任理事会(平成19年度、第6回)議事録の確認
- 報告事項
 - 1) 平成19年度会費納入状況について
平成20年2月29日現在385名(約85%)の納入があった。
 - 2) レジャー・レクリエーション研究第60号の進捗状況について
3月4日に予定が定まった。会員については希望しないとの報告がなされた。
3) 新入会費承認の手続きについて
各名に関する義務資料が配布され、全会員に送付するための報告がなされた。
- 審議事項
 - 1) 平成19年度決算報告について
平成20年2月28日現在の決算中間報告がなされた。審議の結果、会員の確保及び収入に対する努力がなされる必要があることを確認した。
2) 新入会費承認の訂正作業について
新入会費承認書の資料が提出された結果、新入会費の申込みを支援理事委員長のメールで作成することになった。
3) ホームページの開設について
事務局が提出された。事務局、ホームページの立ち上げが決まった。
4) 地研(各委員会の申し送り事項)について
本委員より、本年度の申し送りについて必要と認められたメールにて返信してもらうことになった。
5) 会員の動静
新入会費(贈答会) 武蔵川女子大学附属図書館の承認がなされた。
次期理事候補は、候補者指名責任者西田俊夫、広報渉外の担当責任者西田俊夫、坂口正浩、研究会の担当責任者と組織の担当責任者小田切一、他はの担当責任者を訂正し、委員会は、候補者が一也、広報渉外が藤岡孝博、研究会が岡崎昌一、組織が藤岡孝、他が松岡智也の氏が、副委員長は、候補の上岡博、正浩が岡崎昌博、研究会が西野仁、組織が田中伸彦、他が土屋隆の氏が、専門委員は、藤生が小野孝浩三、田中光、広報渉外が坂口真、天野勲、研究会の組織、山崎修、

下村昇男、編集が候補者、森川直史、藤岡文男、他6名が承認された。マーレ寛子、岸田千枝子の氏がそれぞれ担当することになった。

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

日本レジャー・レクリエーション学会
第38回学会大会開催要項
大会テーマ「地域興しとレクリエーション」

- 1. 主催: 日本レジャー・レクリエーション学会
2. 共催: 日本レジャー・レクリエーション学会第38回学会大会実行委員会
3. 期日: 平成20年11月28日(金)、29日(土)、30日(日)
4. 会場: NSGカレッジリゾート学生総合プラザSTEP
〒950-0914 新潟県新潟市中央区紫竹山6丁目3-5 電話025-255-5534

日程表: 11月28日(金) 地域研究 17:50~ 18:00 集合 18:00 出発 11月29日(土) 11:00~12:00 理事会 会場: 4階小会議室 12:00~15:00 受付 受付場所: 4階ロビー 12:00~13:15 会長挨拶 鈴木秀雄(学会会長) 13:15~14:15 基調講演 会場: 4階大ホール 森川英夫「地域興しとレクリエーション—その可能性をめぐって—」シンポジウム 会場: 4階大ホール 「地域興しの手法としてのレクリエーション」基調—新潟県における事例から— 進行: 小田切敏一、パネリスト4名 ワークショップ 会場: 4階大ホール 鈴木 允「中越地震災害復旧のレクリエーション支援体制づくり」 森川英夫「地域興しとレクリエーション—その可能性をめぐって—」

16:00~ 懇親会 7階 スカイラウンジ
16:30~ 受付開始
9:00~10:00 研究発表 4階A会場 3題 4階B会場 3題 4階C会場 3題
10:00~11:00 研究発表 4階A会場 3題 4階B会場 2題 4階C会場 2題
11:00~11:40 研究発表 4階A会場 2題 4階B会場 2題 4階C会場 2題
11:00~15:00 ポスター発表会場オープン 4階中研修室
11:40~12:30 ポスター発表質疑応答時間
13:00~14:00 学会発表形式および題名 会場: 4階A会場
14:00~15:00 研究発表 4階A会場 3題 4階B会場 3題 4階C会場 2題
理事会 平成20年11月29日(土) 11:00~12:00 会場: 4階小会議室
学会発表形式 平成20年11月30日(日) 13:00~13:15 会場: 4階A会場
総会 平成20年11月30日(日) 13:15~14:00 会場: 4階A会場

会場: 11月28日(土)、29日(日)のいずれも館内では営業していません。周辺には飲食できる店多数。(11月30日の昼食は、参加申し込みの時に、あらかじめ弁当を予約可)
喫煙所: 喫煙は指定された場所をお願いします。(厳守のこと)

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

地域研究紹介

- 開催日: 11月28日(金)
集合: 新潟駅南口バス乗り場噴水周辺
地域研究紹介
「地域興しとレクリエーション」を大会テーマとする本大会の開催地を、少しでも理解していただくために、新潟市の自然・文化・社会的環境に触れる半日コースに、会員(希望者)をご招待致します。
地域研究コース(天候などにより一部変更する場合があります)
新潟駅南口集合(12:50, 出発13:00) → 吉野町本町通り11 経由 → 生薑メッセ21(13:30~14:00) → 北方文化博物館21(14:00~15:30) → 瓢箪川/福島高31(15:00~16:30) → 新潟医療福祉大学見学・休憩(17:00) → NSG STEP(宿泊所/学会大会会場)へ到着(18:00)。
1)別名「新潟島」とも呼ばれる新潟市の古くからの市街地の一面。
2)とりわけ展望室(140m)からは、新旧に及ぶ新潟市の全貌を眺めできる
3)越後を代表する、江戸中期以来の豪農伊藤氏の邸。国の登録有形文化財に登録。
4)国の天然記念物に指定された白鳥の湖。ラムサール条約に2008年10月に登録決定。
5)オオシロシギ(雁の一種)の飛来地として有名。

日本レジャー・レクリエーション学会
第38回学会大会実行委員会

- 大会実行委員長: 小田切敏一(新潟医療福祉大学)
事務局長: 藤生 恵(東京農業大学)
大会幹事: 西原 康行(新潟医療福祉大学) 中島 孝子(新潟医療福祉大学) 池 良弘(日本福祉医療専門学校) 坂内 寿子(新潟中央短期大学) 中野 允(新潟育陵大学) 関 久美子(新潟育陵大学) 見田 賢一(新潟医療福祉大学大学院) 小松 一也(東京医科歯科大学)
実行委員: 上岡 洋輔(東京農業大学) 塚崎 寿(筑波大学) 田中 伸彦(独法)森林総合研究所) 土屋 薫(江戸川大学) 寺島 晋一(明治大学) 西野 仁(東海大学) 沼澤 秀雄(立教大学) 松尾 哲矢(立教大学) 横内 晴典(城西大学)
その他: 天野 勲(聖徳大学) 浮田千枝子(新潟松園福祉短期大学) 小野寺浩三(東北福祉大学) 崎神 武(社団)伸生会) 下村 彰男(東京大学大学院) 高橋 伸(国際基督教大学) 滝口 真(西九州大学) 田中 光(西足利短期大学) 茅野 宏明(武蔵川女子大学) 前橋 明(早稲田大学) マーレ-寛子(京都府立大学大学院) 森川 貞夫(日本体育大学) 師岡 文男(上智大学) 山崎 律子(独法)森林総合研究所) 古城 健一(大分大学) 野原 直紀(いわき明星大学) 菅原 成臣(YMCカトリック専門学校) 矢野加奈子(東京農業大学)

◎学会常任理事、○学会理事、※学会監事、△学会幹事

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

研究(口頭)発表・演題

■ 研究発表 A会場

- 口座長: 堀嶋 寿(筑波大学) 9:00-10:00
A-1 First International Recreation Congressに参加した日本人代表3人の発表
○西野 仁(東海大学)
A-2 戦時日本における「体力向上」の盛典
— 昭和二十六年・東宝製鉄大会を中心として —
○小澤 寿人(東京大学大学院)
A-3 知識の社会的構造変化とレジャー概念の再構築
— メディアが提供する教育プログラムの開発を通して —
○犬塚順一郎(筑波大学)
★質疑応答
口座長: 西野 仁(東海大学) 10:00-11:00
A-4 現代社会における運動に関する経営としてのいくつかのkey wordsを探る
○崎神 武(社団)伸生会) 藤本 美智(東海大学) 鈴木 秀雄(新潟学院大学人間健康学部)
A-5 森林分野の専門知識に見るレジャー・レクリエーション関連用語の変遷
○藤本 美智(同上)森林総合研究所)
A-6 英国レジャー研究学会およびその年次大会について
— 2008年大会出席報告 —
○山崎 律子(余程問題研究所) 高橋 和敏(余程問題研究所)
★質疑応答
口座長: 土屋 薫(江戸川大学) 11:00-11:40
A-7 フロー理論の構造と特質に関する基礎研究
— 自己の統制、場相に対する支配的視点から —
○マール-寛子(京都府立大学)
A-8 地域スポーツクラブに所属する父親の「仕事の日」と「休みの日」の1日2時間の使い方
○吉原直久(東海大学)
★質疑応答
口座長: 田中伸彦(独法)森林総合研究所) 14:00-15:00
A-9 山小島山脈断崖状の地形が外観観望に及ぼす影響について
— 北方ループと周辺の平山を事例として —
○下嶋 望(東京情報大学)
A-10 ポート競技による水辺環境の復権
— 関水メダカとしてのポートの中心価値 —
○藤本 美智(新潟学院大学)
A-11 利根川とポルト競技
— 両利根川がもたらしたまでの流域の歴史 —
○古城 康夫(江戸川大学)
★質疑応答

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

■ 研究発表 B会場

- 口座長: 上岡洋輔(東京農業大学) 9:00-10:00
B-1 レクリエーション活動における参加者の気分と運動能力・身体組成の関係について
— 1日2回参加型リハビリテーションの場より —
○森川 義博(仙台大学) 小池 和幸(仙台大学)
B-2 介護予防事業における個別レクリエーションプログラムの開発と効果に関する研究(2)
○小池 和幸(仙台大学) 森川 義博(仙台大学)
B-3 介護予防事業における運動活動の自覚的変化について(2)
— おもにアンケート結果と面接から —
○上野 幸(余程問題研究所) 山崎 律子(余程問題研究所) 高橋 和敏(余程問題研究所)
★質疑応答
口座長: 松尾哲矢(立教大学) 16:00-16:40
B-4 高齢者介護サービス事業施設の職員における高齢者活動支援力向上について期待(2)
— セブスター参加者における経験者数別によつて —
○廣田 浩久(余程問題研究所) 山崎 律子(余程問題研究所) 高橋 和敏(余程問題研究所)
B-5 老人病院の入居院民における余暇支援のあり方
○菅原 孝治(医療法人社団成会介護福祉院) 森川 義博(医療法人社団成会介護福祉院) 今井 悦子(医療法人社団成会介護福祉院)
★質疑応答
口座長: 浮田千枝子(新潟松園福祉短期大学) 11:00-11:40
B-6 活動支援による行動障害軽減への試み
○松尾 哲矢(立教大学) 菅原 孝治(医療法人社団成会介護福祉院) 今井 悦子(医療法人社団成会介護福祉院)
B-7 障害者スポーツにおける「障害」/「障害」意識の浸透過程に関する研究
— 車椅子バスケットボール競技を母体として —
○河野 正博(立教大学) 松尾 哲矢(立教大学)
★質疑応答
口座長: 山崎律子(余程問題研究所) 14:00-15:00
B-8 レジャー志向性尺度の開発に関する研究(3)
— 成人女性サンプルによる尺度安定性の検討と旅行行動への応用 —
○佐藤 由美(大阪府立大学) 高橋 幸子(中京女子大学)
B-9 レジャー・アクセスと施設環境に関する基礎的研究
○土屋 薫(江戸川大学) 茅野 宏明(武蔵川女子大学) マーレ-寛子(京都府立大学大学院) 佐藤 由美(大阪府立大学) 佐藤 藤(びわこ成蹊スポーツ大学)
B-10 エンババメントによるツーリズム発展事業に向けてのグループワークに関する研究
○見田 賢一(新潟医療福祉大学大学院)
★質疑応答

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

研究発表 C会場

- 口座長: 藤岡文男 (上智大学) 9:00~10:00
C-1 高等教育機関における地域に根ざした人材の育成
C-2 総合型スポーツクラブに関する社会的検討
C-3 総合型地域スポーツクラブ育成事業とレクリエーション協会の「暮らし」
☆質疑応答
口座長: 高橋 伸 (国際基督教大学) 10:00~11:00
C-4 幼少・児童の健康づくりシステムの構築
C-5 幼児の健康づくりシステムの構築
C-6 幼児の生活リズム向上と睡眠と健全な生活リズムの構築
☆質疑応答
口座長: 沼津実雄 (立教大学) 11:00~11:40
C-7 保育園児の生活状況と体力・運動能力に関する研究
C-8 高等教育における環境的体育運動の必要性に向けて
☆質疑応答
口座長: 前橋 明 (早稲田大学) 14:00~14:40
C-9 幼稚園児5歳児の身体機能と身体活動量
C-10 保育者の「遊び」の認識と実践に関する研究
☆質疑応答

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

ポスター発表・演題

会場 / 4階中研修室

ポスター発表会場オープン 11:00~15:00
ポスター質疑応答(発表者限定) 11:40~12:30

- P-1 大学生の環境に対する態度についての研究
P-2 レクリエーション教育における実践的展開
P-3 高齢者の転倒予防のための運動あそびについて
P-4 アリゾナ州におけるTherapeutic Recreation
P-5 四天王寺大学及び短期大学部におけるレクリエーション・インストラクター資格
P-6 学校運動部に対する地域スポーツクラブの活動
P-7 西宮市レクリエーション活動協会の歩みと地域貢献への課題

平成20年度(2008年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第3回)議事録

開催日: 平成20年6月23日(月) 18:30~20:30
開催所: 立教大学池袋キャンパス大田川記念館
出席者: 鈴木 小太郎、山口 直樹、藤生 小瓶、上野 博、堀内(幹事)、西野 慎、横内 賢樹(幹事)、矢野(幹事)

- 議程
1. 議題事項
2. 前回常任理事会(平成20年度第2回)議事録(案)を承認した。
3. 報告事項
4. 役員論文の送付先について

平成20年度(2008年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第4回)議事録

開催日: 平成20年9月29日(月) 18:30~20:30
開催所: 立教大学池袋キャンパス大田川記念館
出席者: 鈴木 小太郎、山口 直樹、藤生 小瓶、上野 博、堀内(幹事)、西野 慎、横内 賢樹(幹事)、矢野(幹事)

- 議程
1. 議題事項
2. 前回常任理事会(平成20年度第3回)議事録の確認
3. 報告事項
4. 役員論文の送付先について

平成20年度(2008年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第5回)議事録

開催日: 平成20年12月13日(日) 18:30~20:30
開催所: 立教大学池袋キャンパス大田川記念館
出席者: 鈴木 小太郎、山口 直樹、藤生 小瓶、上野 博、堀内(幹事)、西野 慎、横内 賢樹(幹事)、矢野(幹事)

- 議程
1. 議題事項
2. 前回常任理事会(平成20年度第4回)議事録の確認
3. 報告事項
4. 役員論文の送付先について

平成20年度(2008年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第6回)議事録

開催日: 平成20年12月27日(日) 18:30~20:30
開催所: 立教大学池袋キャンパス大田川記念館
出席者: 鈴木 小太郎、山口 直樹、藤生 小瓶、上野 博、堀内(幹事)、西野 慎、横内 賢樹(幹事)、矢野(幹事)

- 議程
1. 議題事項
2. 前回常任理事会(平成20年度第5回)議事録の確認
3. 報告事項
4. 役員論文の送付先について

事務局からのお知らせ

- 1. 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」のバックナンバーを学会員に実費配布しております(送料別途)...

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査等は最短でも2ヶ月程度の時間を要する点と考慮して、投稿してください。

新事務局の案内

淑徳大学から「東京農業大学」へ移転しました。事務局住所: 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

会員の動静

- 新入会員 8名 (08.10.30付)
平成30年 長 秀生 岡安 功
北澤 誠 藤道 真也
谷 直史 今井 悦子
藤田 真光 長谷川 大

JSLRS 平成21年9月

学会ニュース SEP. 2009 No.88

日本レジャー・レクリエーション学会 (Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

事務局 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 麻生 恵 研究室

発行人 麻生 恵 編集 広塚夢乃 委員会 学会URL: http://jslrs.jp

日本レジャー・レクリエーション学会 第39回学会大会に向けて

日本レジャー・レクリエーション学会 大会実行委員長 土屋 薫 (江戸川大学)

来月11月27日(金)・28日(土)・29日(日)を会期として、江戸川大学にて第39回学会大会が開かれる運びとなりました。今年度のテーマは「生態系資源と文化的資源をつなぐライフデザイン」...

具体的には、セッションAのメインスピーカーとして、東京海洋大学教授の杉本隆博氏もまた在り得る氏を推薦し、「参加した」という思いがあるように思います。この「暮らし」の現場のひとつである「地域」には、フィールドとしての自然環境をはじめとして、歴史的・文化的・社会的文脈など、様々な要素が介在します。

JSLRS 1. 第39回学会大会実行委員会挨拶(土屋 薫) P. 1 2. 第39回学会大会開催要項 P. 2 3. 第39回学会大会開催要項 P. 3 4. 平成21年度会務報告 P. 4 5. 学会ニュース「サービス」の取組について P. 4 6. 平成21年度 事業計画 P. 5 7. 平成21年度 予算 P. 5 8. 平成19年度 事業報告 P. 6 9. 平成19年度 決算報告 P. 7 10. 学会ニュースの改題 P. 8 11. 発行責任者・編集委員の報告 P. 9 12. 正会員・情報提供料 P. 10 13. 事務局からのお知らせ P. 10 14. 編集委員会からのお知らせ P. 10 15. 事務局の案内 P. 10 16. 会員の動静 P. 11

第39回学会大会 (江戸川大学 2009年11月27日・28日・29日)

第39回学会大会のご案内

■日程 平成21年11月27日(金)・28日(土)・29日(日)

- 11月27日(金) 地域研究
11月28日(土) 理事会、シンポジウム、懇親会
11月29日(日) 口頭発表、学会賞発表、総会、ポスター発表

■会場 江戸川大学

http://www.edogawa-u.ac.jp/koutuu/index.html

〒270-0198 千葉県流山市駒木474 TEL:04-7152-0661(代表) FAX:04-7154-2490

■交通

- ・つくばエクスプレス「流山おおたかの森」駅 からスクールバス(無料)約5分。
・上野駅から常磐線柏駅まで快速で約28分。柏駅西口2番乗り場から東武バス高田車庫行き、柏の葉キャンパス駅西口行き。または国立立川センター行きで約8分(「榎林」下車、徒歩5分)。
・東武野田線豊四季駅から徒歩約12分。
・常磐自動車道、柏IC、流山ICより車で約10分。
・会場までのアクセス(路線図・地図)については、上記のWebに掲載しております。

大会テーマ:「生態系資源と文化的資源をつなぐライフデザイン - 架け橋としてのレジャー・レクリエーション -」

■趣 旨

クオリティ・オブ・ライフの原点には「毎日ここで暮らすことが楽しいからこそ、ここに住み続けているのだ」という思いがあるように思います。この「暮らし」の現場のひとつである「地域」には、フィールドとしての自然環境をはじめとして、歴史的・文化的・社会的文脈など、様々な要素が介在します。ここでは、それらを結ぶものとして「レジャー・レクリエーション」に着目してみたいと思います。

第39回学会大会 (江戸川大学 2009年11月27日・28日・29日)

日本レジャー・レクリエーション学会
第39回学会大会開催要項

第1日目 - 11月27日(金曜日): 地域研究 (一般公開)

●地域研究: 旧葛飾郡エリアのレジャー・レクリエーション資源: 午後12時30分～17時00分
都立水元公園 (東京都葛飾区)～流山おおたかの森～利根運河～首都圏外郭放水路 (埼玉県春日部市) 解説: 新保弘弘氏 (東京自然と文化研究所所長)

第2日目 - 11月28日(土曜日): シンポジウム (一般公開)

●会長挨拶・趣旨説明: 午後13時00分～13時10分
●セッションA: 午後13時10分～14時40分
*話題提供「観光レクリエーションとスポーツから考える」
メインスピーカー: 庄司邦昭氏 (東京海洋大学 船の科学館理事)
東京都江東区越中島で育ち、隅田川や河川の舟遊に興味をもっている。著書に「航海造船学」「海洋観光立国のすゝめ」「ショージ先生の船の博物めぐり」など。

【船を通した川とのつきあいかた】川の風景を描いた浮世絵には白い帆の船が登場することが多い。川の風景の美しさにとっては自然だけでなく人工的かつ動的な要素も必要である。ここでは船による川との関わりについて国内や海外の例をみながら考えてみたい。
ゲストスピーカー: 那智俊雄氏 (江戸川大学教授)
「大堀川におけるカヌー体験ツアーの実践」
ゲストスピーカー: 遠藤大哉氏 (NPO法人パレイブ代表)

「スポーツイベントの開催と安全性に関する課題」
コーディネーター: 後藤新弥氏 (江戸川大学教授)

●セッションB: 午後14時50分～16時20分

*話題提供「世界の水辺空間と都市開発から考える」
メインスピーカー: 樋口正一郎氏 (美術家、都市景観研究家)
現代アートをつくる傍ら (大江戸線清澄白河駅ホーム壁など)、世界の250都市を歩き、写真を撮り、雑誌、新聞等事例多数紹介。「商店建築」連載中。著書多数。

【水辺空間の現在 - ソウル・ロンドン・バーミンガム】イギリスや韓国での水路や川の復活の試みが観光を呼び起している。水邊で楽し、生活の中心にあった水辺や水と縁を失ってしまった日本の原風景は遠い昔話になった。水辺空間を取り戻すことは可能だろうか。先進事例を紹介しながら考える。
ゲストスピーカー: 恵良好敏氏 (NPOさよま理事長)
「おわたかの森の残したかた」 一流山グリーンチェーン戦略前史」
ゲストスピーカー: 新保弘弘氏 (東京自然と文化研究所所長)

「地域をつなぐ歴史の掛け橋 - 利根運河の持つ力」
コーディネーター: 那小百合氏 (江戸川大学教授・江戸川大学総合福祉専門学校校長)

第39回学会大会 (江戸川大学 2009年11月27日・28日・29日)

●総括セッション: 午後16時30分～18時00分

*テーマ「ひとがリピーターを育み、リピーターがひとを育てる - 着地型観光に学ぶ地域の誇り -」
庄司邦昭氏、後藤新弥氏、樋口正一郎氏、那小百合氏、井高義治 (流山市長) はか予定
コーディネーター: 梅谷秀治氏 (行政コミュニケーションアドバイザー、流山市コミュニティ審議委員会)
電通で東京デザインランドのオープニングを担当し、CS (顧客満足) を学ぶ。
その後自治体に関わり「行政にもCSの視点が不可欠」と考え、定年後も活動を継続。
「住んで良かった、ずっと住みたい」地域づくりを目指している。

●懇親会: 午後18時30分～20時30分

*懇親会の会場と費用につきましては、後日、学会 URL (<http://www.jsrs.jp>) にてお知らせいたします。

第3日目 - 11月29日(日曜日): 研究発表 (学会のみ)

平成21年度 会員名簿作成のための「登録情報変更」提出のお願い

平成21年度から会員登録情報に変更がございましたら、「日本レジャー・レクリエーション学会 (JSRS) 正会員・賛助会費出用紙」をコピーして、氏名、フリガナ、ローマ字表記を明記し印刷の上、変更する項目のみ記入し本部・事務局に送付して下さい。
郵送(任意)のお願い
〒156-8502 東京都世田谷区横丘1-1-1
東京農業大学地域環境科学部園芸科学科
自然環境保全学・観光レクリエーション研究室
藤生 智晃
日本レジャー・レクリエーション学会事務局
電子メール送付の場合
E-mail: jsrs_mail@yahoo.co.jp (事務局宛、添付行)
添付ファイルにてお願い致します。

お知らせ

「学会ニュース」サービス方法の変更計画について

本会より会員の皆様へ送付しております情報誌「学会ニュース」(原則的に年2回: 春季・秋季の発行時期。送付方法について変更する計画があります。情報誌としてご提供させていただいている性質上、少しでも多くフレキシブルな提供ができるよう各務氏が検討を重ねてまいりました。つきましては、会議(第1回、第2回常任理事委員会)において下記の案を報告いたしました。
(1) 学会ニュース・秋季号(10～12月上旬発行)を春季(1～2月上旬発行)に変更。
(2) 本年度の学会ニュースを春季(6/6日)より順時的に電子メールによる送付とする。
送付方法は会員より正会員名簿作成、入会申込み等Webフォーム上で任意提供された電子メールアドレス(PCに「学会ニュース」として保存ファイル)にて発行いたします。尚、その際は発行物の送付先を基準として送信します。
詳しくは、本号P.8をご参照いただき、ご変更のほどお願い致します。

日本レジャー・レクリエーション学会 平成21年度 事業計画

1. 事業
第39回学会大会の開催
期日: 平成21年11～12月
場所: 江戸川大学
第63号「レジャー・レクリエーション研究」の発行
第63号 (水会号) 第64号
学会ニュースの発行
No.88, No.89
Web活動 (学会ホームページ) の充実
学術団体等との交流
「第40回学会記念大会」の開催準備
7) 組織の充実および活動の充実
新会員の獲得、広告掲載の獲得、年会費の円滑な徴収、財源の安定、
学生会費の進捗・授与、事務局体制の充実
8) 学会活性化に関する事業
「学会の歩み」第2号 (1996-) の編集
2. 諸会議の開催
1) 学会総会
2) 理事会
3) 常任理事会
4) 各専門委員会 (Web特別委員会を含む)
5) 学会賞選考委員会

日本レジャー・レクリエーション学会

平成21年度 予算

科目	取入		出		備 考
	引当金予算額(円)	20年度予算額(円)	取入(円)	出(円)	
前年度繰越金	0	0	0	0	
年会費	3,040,000	3,040,000	0	0	8,000×380名
過年度会費	240,000	240,000	0	0	8,000×30名
入会費	60,000	60,000	0	0	2,000×30名
賛助会費	0	110,000	-110,000	0	
広告料	110,000	150,000	-40,000	4件	
雑収入	150,000	310,000	-160,000	学芸部等	
合 計	3,500,000	3,910,000	-330,000		
出 出 の 部					
印刷費	2,000,000	2,300,000	-300,000	学会ニュース・9月号、学芸部63-64号、各種経理、経費説明	
通信費	300,000	400,000	-100,000	学会ニュース、学芸部、会議通知等	
事務用品費	200,000	200,000	0	文具、コピー機、カメラ、PC関係等	
事務委託費	200,000	200,000	0	交通費・事務委託費、Web等	
各専門委員会費	50,000	50,000	0	委員会会議費・委員会通信費等	
役員委員会費	50,000	50,000	0	Web等	
Web運営費	150,000	200,000	-50,000	Web等	
選挙費	0	0	0	0	
内外学術交流費	50,000	100,000	-50,000	関係学術団体等	
会議費	150,000	150,000	0	総会・理事会・常任理事会会議費	
大会準備費	200,000	200,000	0	第39回学会大会	
予備費	230,000	60,000	170,000		
合 計	3,500,000	3,910,000	-330,000		

日本レジャー・レクリエーション学会

平成19年度 事業報告

1. 事業
第37回学会大会開催
期日: 平成19年11月30日 (金) 12月1日 (土)・2日 (日)
場所: 東洋大学白山キャンパス
2) 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行
第59号、第60号
3) 学会ニュースの発行
No.84, No.85
4) 役員選挙
改選理事の選出(10名)選挙の結果、小坂一生、小田正樹一、坂口正治、鈴木秀徳、田中光、西田俊夫、西野仁、沼澤幸雄、松尾智夫、橋内晴典の各氏が選出された。
会員による役員選挙(15名)選挙の結果、藤田文男、藤生恵、茅野宏明、山崎律子、高橋伸、田中伸彦、マレー寛子、寺島善一、小野寺浩三、塚越寿、大谷善博、浮田千枝子、土屋真、天野勲、樋口真の各氏が選出された。大谷善博氏は、その際辞職された。
新理事長による権限理事の選出の結果、上原洋輔、菊持武、下村彰男、植村明、森川貞夫の各氏が選出された。
5) 組織の充実および活動の充実
新入会員の獲得については本年度、新入会員19名、進会者数19名であった。
平成20年3月31日現在の会員数は、383名である。(正会員364名、賛助会員19団体)。
プライバシー・ポリシーに準ずる作成及び管理は、総務委員会が原案を作成し、理事会及び常任理事会にて検討し、会員に周知を図ることとなった。
広告掲載の獲得については、昨年より若干増の集まった。
6) 学術団体との交流
日本学術会議、日本公園緑地学会、日本学術協会財団、体育学・スポーツ科学学術連絡会、
7) 第38回学会賞選考の準備
平成20年度の学会賞は、新潟医療福祉大学において開催することが決まった。
8) 学会活性化に関する新原事業
①「歩み」(第2巻)の編集、「歩み・学会誌」は、次年度以降に引継がれた。
②「歩み」,「学会誌」の電子化は、次年度に引継がれた。
③学会ホームページの充実は、原担当専門委員会で平成20年度から立ち上げることが決まった。
④年度会費の円滑な徴収及び財源の安定については、更新新入会員の獲得の努力をすることや通年度会費未納者の取扱いについて今後も検討することになった。
- II. 諸会議
1) 学会総会の開催
学会総会は、第37回学会大会の開催中の平成19年12月3日(日)の12:40～13:40、東洋大学白山キャンパス3号館2階3203教室で開催
2) 理事の開催
平成19年5月14日(第1回)、7月23日(第2回)、10月1日(第3回)、11月19日(第4回)、11月15日(第5回)、平成20年3月3日(第6回)、計6回を開催
3) 常任理事会の開催
平成19年4月23日(第1回)、5月14日(第2回)、6月25日(第3回)、7月23日(第4回)、10月1日(第5回)、平成20年1月28日(第6回)、3月3日(第7回)、計7回を開催
4) 原担当専門委員会の開催
臨時開催
5) プライバシー・ポリシーに準ずる作成及び管理に関する委員会の開催
臨時開催
6) 他の委員会
臨時開催

日本レジャー・レクリエーション学会(JSLRS) 正会員・情報変更提出用紙

- ※1: 名簿掲載の可否を問わず、変更項目については全てご記入下さい。また、姓が変更した場合も同様に記入下さい。
※2: 名簿掲載の可否がされていない場合は「掲載否」として記入下さい。
※3: 本紙をコピーし、事務局まで送付(封筒)またはメール(添付ファイル)にてご返信下さい。
※4: テキストファイル(Excel 2003)をご希望の場合は、事務局(jslrs_mail@yahoo.co.jp)までメールにてご連絡下さい。

Form with fields for Name, Address, Telephone, etc. Includes checkboxes for membership status and publication preferences.

事務局からのお知らせ

- 1. 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」(申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を添えて郵送願われる場合は現金書留でお送り下さい。
3. 年会費(¥8,000)、未払年会費がある会員は、急急、郵便局にて払込手続きをお願いします。
4. 事務局の開設日は月曜・水曜の2日となっております。

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査等は最速でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿して下さいます。
投稿論文送付先 〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 独立行政法人 森林総合研究所 自然環境保全学/観光レクリエーション研究室

事務局の案内

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学地域環境科学部造園科学科 自然環境保全学/観光レクリエーション研究室
Tel: 03-5477-2436 Fax: 03-5477-2625
Mail: jslrs_mail@yahoo.co.jp 学会URL: http://jslrs.jp

会員の動静

●新入会員 10名 ▼退会者 13名

- 平成21年 石橋 孝治 馬場 健 松浦 三子 堀 町子
中島 豊 高橋 繁夫
藤本 俊雄 後藤 新弥 松田 裕樹 一色 守
藤藤 大哉 谷本 郁夫 野間 英哉 田原 武彦
関口 英聖 大沢 隆二 藤部 百子 堀 芳子
福士 友子

平成21年9月
学会ニュース
SEP. 2009 No. 88

JSLRS 平成22年7月

学会ニュース No.89

日本レジャー・レクリエーション学会 (JSLRS Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

本部・事務局: 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 自然環境保全学/観光レクリエーション研究室 麻生 生恵 担当
TEL: 03-5477-2436 (直)
FAX: 03-5477-2625 (造園科学科事務室)
メールアドレス: mail@jslrs.jp
学会ウェブサイト: http://www.jslrs.jp

第40回記念大会にむけて

～新しい生活へのパラダイム転換 (paradigm shift); パースペクティブ; セレンディビティなどを主なキーワードとして～

日本レジャー・レクリエーション学会(JSLRS)
会長 鈴木 秀雄
関東学院大学 人間環境学 人間発達学科教授, Ph. D

昨年(2009年)11月に、第39回学会大会が江戸川大学(千葉県流山市)で開催された。大会テーマが「生態系資源と文化の資源をつなぐデザイン」...

うた豊かな多岐によるレジャーライフを構築し、また改作 (arrange) し、豊かな活動・生活・生き方から生み出されるもの(serendipity)を紡ぎ出してレジャー・レクリエーションの価値 (isurization) とその方 (isurability) が開かれる時代である。

さて、第40回記念大会(2010年)は、東京農業大学(東京都世田谷区)において開催されるが、記念大会にふさわしい、学会の歴史の振り返り、研究の動向と変遷、研究のメソッド/アプローチ/手法なども含め、また、レジャー・レクリエーションの発展と未来展望と題した『第2号』も記念大会と歩みを進めたい。

また、この記念大会が学会としての新しい展開の大会であることを期す中である。

◆ 配信内容 ◆

- 01: 巻頭言 鈴木秀雄 学会会長
02: 学会大会を終えて 土屋 薫 学会大会実行委員長
03: 学会シンポジウム 概要
04: 事務局だより

学会大会を終えて - テーマ解題 -

大会実行委員 土屋 薫 (江戸川大学)

民主党の鳩山政権では、国民の「幸福度」を新たな指標を開発する方針だといわれ、レジャー・レクリエーションに関する科学的な研究が実践の一歩手前とされている。

2009年の第39回学会大会のテーマは「生態系資源と文化的資源をつなぐライフデザイン-架け橋としてのレジャー・レクリエーション」であった。これは、「自然と人の営みの重要なところとにわたる生活は位置し、レジャー・レクリエーションこそ、これらのバランスを取る役割を担っているのではないか」という問題意識に支えられたものである。

この問題意識を具体的に展開する上で注目したのが、「着地型観光」というキーワードである。ご承知の通り、この「着地型」とは、目的地である地域を中心として観光商品をプロデュースすることを意味する。すなわち、都市部の旅行会社に代表されるような「観光地(地元)の外にない第三者」が付加価値を積み上げることでプログラムを構成していく「発地型」とは異なり、地域住民による体験や交流がベースとなって展開されるというその特徴である。

「第39回学会大会の巻頭言である江戸川大学の学長である土屋薫先生は、2005年のつばきエクスプレス開業以来、東京圏を中心とした観光地を中心とする「新住民」が長く地域で、高度経済成長期以降の国全体の状況を懸念されるような「置かれた都市部外型ペダグジウム」という見方もできる。したがって、この地域における現在進行形の課題を考えることが、実は、生活主体(あるいは市民主体)の視点でわが国の戦後史を振り返るという契機になるのではないか。あるいは、レジャー・レクリエーションの視点から見て、わが国が戦後積み上げてきたものは何だったのか、こうした問いが今回の学会テーマの基盤にある。

先日ガーデンクラブ「花彩人-かたひな」は、2005年の設立以来、「オーブ・ガーデン」(自宅直前の無償公園)を実施した。2009年には、5月6日(水)〜8日(金)の期間中、のべ6,907名もの来場者があったという(主催者調べ)。会場当日は天候不順で予定よりも減った。また来場者の特産品が豊富で、もちろん園のそばの自然観察や体験、交通インフラが整備されていない、平日の3日間だけでこれだけの人数が来場したことは驚かされるのだろうか。

これは、地域住民による環境の発信とそれに触れられた「価値観感受性者」としての「第三者」の存在、そして両者の交流の場が設けられたことからの触れ合いの機転による、という見方はできないだろうか。そして、これこそ、「地産地消」を軸とした交流人口拡大を促進したまちづくりという現象が、「豊かさの実現」にむけて力を得ようとしているのではないだろうか。

シンポジウム後に行われた懇話会において、多数の参加者から「旅の価値と魅力を再認識した」という声を聞いた。企画側として、今回の大会の目的としてある程度近づけたのではないかと、男児をいたいた気がする。もちろん、講演やシンポジウムだけが学会大会ではない。口頭発表やポスター発表こそその命脈であろう。それらに、「メンフィッシュ」に花を添えるギョウギつくりにも熱心した次第である。

最後に、大会実行委員として、各方面からの人的・物的支援を受けて初めて大会が無事開催に漕ぎ着けたことを付け加えるとともに、あらためて関係各位にお礼を申し上げて置きたい。

学会シンポジウム 概要

セッションA

「親水レクリエーション&スポーツから考える」

コーディネーター：後藤新弥氏（江戸川大学教授）

メインスピーカー（基調講演）：庄司邦昭氏（東京海洋大学教授）

「船を通した川とのつきあい方」

ヨーロッパの川や運河の様子について写真を数多く提示され、水辺を活用した街づくりの事例を分かりやすく概説された。ご自身の趣味と実益を兼ねられているという水上移動体験（船の中から眺める風景）など、大変興味深い話であった。趣旨の核心部分は、「その地域の風土や伝統を生かしつつ、ハイテク技術をも取り入れるべき」という点にあった。

ゲストスピーカー1：郡司俊雄氏（江戸川大学教授）

「大堀川におけるカヌー体験ゼミナールの実践」

大学のゼミでカナディアン・カヌーを実施したときの一連の経過を概説された。「川にカヌーを浮かべて良いのかどうか」も含めて、学生との入念な意見交換、国土交通省へのお伺い、そして実施に至るまでの経緯について、ユーモアを含めて報告された。国土交通省からは「気をつけてやればいいですよ」という回答をいただき、「小さいカヌーだが、大船に乗ったつもりで実施した」ということで、大学教育における先進的な取り組みの発表であった。

ゲストスピーカー2：遠藤大哉氏（NPO法人バディ冒険団代表）

「スポーツイベントの開催と安全性に関する課題」

子どもの冒険体験や海辺での様々なスポーツ・イベントを開催している中で、海辺のスポーツ活動の展開例を紹介された。そのひとつに「初日の出スイム」があり、元旦に子どもたちと湘南の海（地域の子どもたちにとっては「里海」という位置づけ）を泳ぐ企画など、実にユニークな内容を紹介された。しかし、NPO活動をめぐる課題点（財政・経営問題、漁協との連携の問題、海の事故問題）を挙げられ、その対策も必要であることが述べられた。

学会シンポジウム 概要

セッションB

「世界の水辺空間&都市開発から考える」

コーディネーター：恵小百合氏（江戸川大学教授・江戸川大学総合福祉専門学校校長）

メインスピーカー（基調講演）：樋口正一郎氏（美術家 都市景観研究家）

「水辺空間の現在 〜ソウル・ロンドン・バーミンガム〜」

ヨーロッパ各地や韓国において、産業構造の変化などによって、使われなくなった運河が市民のためにどのように活用されているのかを中心にまとめられた。写真も多用したわかりやすい講演であった。水辺空間の再開発・再水をやキーワードとして豊富な事例の紹介があった。あまりにも豊富な事例のため、時間が不足したが、その後のセッションCでも事例をご紹介いただきたい。「日本の建設は、とりえず」、「イギリスは、最高のものを作る」ということが大きな差異であることを強調されていた。

ゲストスピーカー1：恵良好敏氏（NPO さよま理事長）

「市野谷の森公園を核とする水と森のまちづくり」

市野谷の森（通称「おおかたの森」）の保全に関する基本方針を紹介され、都市公園において基本理念や自然保全目標を明確にしていることが先駆的であることを示された。生物多様性を守るという点で、6つのゾーンにおいて環境整備しながら、オオカカの生息を守る取り組みが紹介された。行政と住民側の話し合いは実に21回に及んだが、「話し合い」をすることでひとつの方向性が自然と見えてくることの実感を語られ、立場が違っても話し合いの重要性を説かれていた。

ゲストスピーカー2：新保國弘氏（東葛自然と文化研究所所長）

「地域をつなぐ歴史の架け橋 〜利根運河の神つかり〜」

運河を挟んで流山市に隣接する野田市を中心として、利根運河のロケーションや歴史（掘削当時のオランダ人技師の年譜を含む）、活用の様子を紹介された。野鳥や植物を見ながらの散策の様子、コウノトリやキが生息できるような水辺空間を目指した具体的な取り組みを理解することができた。オオカカ、サシノを初めとして15種類の猛禽類が存在し、それらが飛び交う「タカ街」とも呼ばれたユニークな写真も示された。

学会シンポジウム 概要

総括セッション

「ひとがリピーターを育み、リピーターがひとをそだてる
一着地型観光に学ぶ地域の誇り」

コーディネーター：梅谷秀治氏（行政コミュニケーションアドバイザー）
パネリスト：後藤新弥氏（江戸川大学教授）
庄司邦昭氏（東京海洋大学教授）
恵小百合氏（江戸川大学教授・江戸川大学総合福祉専門学校校長）
樋口正一郎氏（美術家 都市景観研究家）
小高静子氏（流山ガーデニングクラブ「花童子一かべん」とい）会長）
井崎尚治氏（流山市長）

<要旨>

まちづくりのことも人の観点から考えることが大事であるとし、ドイツの成功のかなりの部分にスタッフの尽力があることを、まず梅谷氏が例示した。その後パネリストの間で活発な意見が交わされた。「地域」をキーワードとする議論では、井崎市長が流山市の現状を報告された。すなわち「以前は『人・物・金』が市外に流れる状況にあったが、今や縁の多い産業を求めて人が移住してくる。『流山グリーンチェン戦略』はそれを背景とした市の施策で、一定以上の縁を植えた後には特別融資が受けられるといった配慮をしている。こうした施策や流山ガーデニングクラブの活動（流山市内で会員が70名おり、そのうち35軒が自宅庭をオープンガーデンとして公開している）によって縁が多くなり、実際にそれを求めて市内に来る人が増えてきている」という。また流山市は、「都心から一番近い森のまち」をキャッチフレーズとして、自らの存在意義あるいは価値として明確化しているという点も強調されていた。

フロアからも活発な意見が出された。まず「水の駅」という発想から出発して、利根運河の水深を今よりさらに2mほど深めて、方向を変えなまま細長い運河を往來できる観光用「ナローボート」を導入したらどうか、というアイデアが出た。次に、おおかたの森の周辺道路に健康・ウェルネス志向の利用を促すような仕掛け（たとえば散歩コースと消費カロリーの表示など）が有効でないかという提案も出された。それから、イギリスの食糧が税金対策やビジネスとして自らのカンツリーハウスを公開すると同じようにオープンガーデンを実施するのと同じ手ではないか、という提案があった。また、縁を増やすことを実践している家、あるいはCO2対策をしている家に税法上の優遇措置を与えるのはどうか、という提案もあった。さらに、市役所職員で実践活動をしている人に対する表彰（褒賞）制度を設けるのもひとつの案ではないか、という意見も出た。

市民の声として、流山市やその周辺には利根運河などの有名なポイントがあるものの、それ以外には市民にあまり知られておらず、さらなる広報活動とともに、数策できる建設的なポイントが設置されると、市民が市内をめぐると具体的な対策となるのではないかと、という意見が出されていた。いずれにしても、地方都市は大都市と比べると「無い無い尽くし」であり、それを払拭するためにも、地域特性を活かしながら市民や関係者の知恵と力を集めることが必要であり、今後も継続して検討すべきであるとして締めくくられた。

◎事務局からのお知らせ◎

1. 年会費（¥8,000）の納入をお願い致します。今年度は役員選挙年にあたり、6月30日（水）までに納入されませんと、選挙権、被選挙権を失いますので、くれぐれご注意ください。
口座番号 00150-3-602353
加入者名 日本レジャー・レクリエーション学会
2. 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」のバックナンバーを実費頒布しております（送料別添）。尚、欠巻号がある場合はご容赦下さい。
①58～62号まで→1冊¥1,000
②1～31号、33～57号→1冊¥500
③32号「学会の歩み」→1冊¥2,000
3. 事務局には専任（常勤）の職員がおらず、会員のボランティアで運営しております。連絡はなるべくメール、Fax でお願致します。

△事務局の案内▽

〒156-8502 東京都世田谷区萩丘1-1-1
東京農業大学地域環境科学部造園園芸科学科
観光レクリエーション研究室内
Tel: 03-5477-2436 Fax: 03-5477-2625
Mail: jsrs_mail@yahoo.co.jp 学会 URL: http://jsrs.jp

□会員の動静■

◎新入会員 8名

内藤 真人
金 銀正
馬場 実智子
脇谷 翔太郎
甲斐 徹郎
加藤 幸真
中村 千城
昇 寛

●退会者 10名

松山東雲短期大学図書館
北 徹朗
志村 幸子
木村 多喜
松永 敬子
見田 賢一
渡辺 本江
井上 忠夫
栗原 邦秋
岡村 泰斗

〔Ⅲ〕 特 別 企 画

レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望

企画のねらい	麻生 恵（編集委員長）
歴史と原論（歴史、思想・哲学）	小田切毅一・佐橋由美
意識と行動	茅野宏明
活動とプログラム	高橋 伸
サービスと運営管理	土屋 薫
資源と空間	田中伸彦
医療と福祉	上岡洋晴・鈴木英悟・ 小椋一也・本多卓也
未来への羅針盤	鈴木秀雄（学会長）

レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望

企画のねらい

日本レジャー・レクリエーション学会の前身である日本レクリエーション学会が『レクリエーション学の方法』（ぎょうせい）を刊行したのは1987（昭和62）年のことである。書名の示すとおり、本書は「研究方法」すなわち「社会の動きと研究動向」「研究の視点」「研究の方法（研究手法）」などに焦点をあてた本格的な研究書であった。現場の技術や業務のノウハウを対象とした専門書（実務書）が多く出版される中で、研究を志す者のために研究方法を体系的にまとめた研究書が企画出版されたのは当時としては画期的なことであった。

レジャー・レクリエーションに関する研究活動は1964（昭和39）年のレクリエーション研究懇談会（翌1965年にレクリエーション研究会が発足）として始まるが、体育、セラピー、福祉、教育、造園、観光など様々な分野の研究者や担当者が集まって結成された、きわめて学際的な組織であった。さらに1971（昭和46）年には日本レクリエーション学会へと発展したが、特に1980年代からレクリエーション学の体系化に向けた専門分野別シンポジウムやシリーズ研究会が開催され、各研究分野の問題点や研究課題が整理された。レクリエーション学の方法はその成果として出版されたのである。

この一連の検討を経て、レクリエーション学の研究分野が「歴史と原論」「意識と行動」「活動とプログラム」「サービスと運営管理」「資源と空間」「政策と運動」という6つの領域に分けられた。この分類は現在の日本レジャー・レクリエーション学会の公式見解ではないが、ほぼこれを踏襲する形で運用されている。

こうしたレジャー・レクリエーション研究の流れを社会的・学問的背景を踏まえながら定期的にレビューし、さらに新しい時代を見据えた研究の課題や方法論を展望することは、学会に課せられた最も重要な使命と考える。

そんな中、第40回学会大会という節目の年に「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み－1996～2010－」が発刊されることになり、前号の「歩み」の内容に加えて特別企画として「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」をまとめることになった。（研究領域も『レクリエーション学の方法』の領域分類を参考に「医療と福祉」を加えて6領域としたが、これは学会の総意・公式見解ではない。）編集方針として、現在の学会理事を中心とする編集委員が各章（各領域）のまとめ役となり、なるべく多くの方々との協力のもとに執筆することを目指した。

内容としては、①各領域ごとのテーマに関わる背景と目的を説明し、②文献レビューの方法を解説し、③先行研究の特徴や動向を明らかにし、④今後の研究課題とその方法論を展望する、という構成を取っている。

本企画がレジャー・レクリエーション研究を志す若手研究者や学生の指南書となり、研究活動の更なる発展に繋がることを期待している。

「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み－1996～2010－」

編集委員長 麻生 恵

歴史と原論（歴史、思想・哲学）

小田切 毅一（新潟医療福祉大学）

佐橋 由美（大阪樟蔭女子大学）

要旨

1996年以降のレジャー・レクリエーションの歴史および思想・哲学分野に関する研究動向を考察するために、主に日本レジャー・レクリエーション学会における研究成果を対象にこの間の論議を集約したが、この分野の研究は少数に過ぎず、研究動向についても必ずしも明らかにできなかった。

時代を振り返って、第二次世界大戦後にレクリエーションがアメリカから移入された時代や、高度経済成長に伴ってレジャーがブーム化するに至った時代には、レジャーやレクリエーションの定義づけやそれらの意味論とか機能論をめぐる学問的関心は、比較的明確で旺盛であった。しかし低成長へと時代が経過して以後の昨今に至っては、むしろ停滞・希薄化しつつあるようだ。

レジャー・レクリエーション研究が時代に伴い変化し、多様化する傾向をみせている一方で、歴史的関心や思想性、哲学的思考に関わる領域は、どのような研究課題や役割を担えるのであろうか。昨今における、一見すると後退ともみなし得るこれら分野の研究状況は、これからのレジャー・レクリエーション学をどのように性格づけることになるのだろうか。あるいはまたこれらの研究分野に代わる、新たな代替分野の研究関心によって補われ、刺激・誘発されつつ展開することは可能なのだろうか。

もとより歴史や思想・哲学分野の研究には、いわゆる科学（サイエンス）の成果というべき関連分科科学から提起される諸原理を包括・融合するようなヒューマニズムに基づく意味論や認識論、あるいはあるべき理念を提起することが期待されてきた。端的に言えば、科学論的分析に対座する人間論的視座という関係なのかもしれない。学会活動の充実した展開を期して、研究対象への学問的関心をどのように構築・共有するかも問われている。

第1章 テーマに関わる背景と目的

1990年代後半以降の少子高齢化時代にあって、新時代への取り組みを示唆するようなレジャー・レクリエーションの対象概念の論議や、これと連結した思想や思想・哲学的な論考は、余り盛り上がりを見せない。だが情報化社会到来の当然の帰結として、レジャー・レクリエーション関連の情報は以前とは比較にならぬほど巷に溢れている。レジャーやレクリエーションも、高福祉に通じる生活全体の質の問題に他ならず、より普遍的で一般的な生き方の問題として把握されつつある。普遍的な生き方がレジャーやレクリエーションと関わるという意味では、むしろ時代に先行する思想性やオリジナルな知見よりも、日常的で普遍的な実践行動にかかわる論議を誘発させるのだろうか。「パースペクティブ」とか「パラダイム」といった科学的な分析ツールと結びつく理論や、人間の心理・内面に接近する生活行動理論などへと関心が向けられるのだろうか。

第2章 レビューの方法

1996年以降のレジャー・レクリエーション研究の歴史および思想・哲学分野に関する研究動向を把握するために、①学会誌「レジャー・レクリエーション研究」（以下「学会誌」と表記）に掲載の論文など、②レジャー・レクリエーション学会大会における研究発表など、③当学会以外でのレジャー・レクリエーションの歴史および思想・哲学分野に関する研究成果などを対象とする。

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

①については、1996～2010年に刊行された「学会誌」（第33号～第64号）に掲載されたa)研究論文（原著論文・研究資料・実践研究）、b)論考（特集寄稿・評論・紹介報告記事等）、c)講演・シンポジウム・公開討論会等記録など、すべての掲載内容を分析対象とする。②についても同様で、具体的には、第26回大会から第39回大会までの計14回の学会大会におけるすべての研究発表（「学会誌」第34号～第63号の学会大会発表論文集に収録）を対象とする。

考察にあたっては、①と②について取り上げられた当該領域の論文や研究発表を、以下の5領域に類別することによって、領域内での発表数の経年推移などから研究動向を把握するとともに、特徴的または代表的な研究、研究の方向性などについて考察する方法をとる。なお、＜領域1＞の実際の呼称は「歴史」、＜領域2＞は「思想・哲学・理論」、＜領域3＞は「レジャー・レクリエーションの理念・原理」、＜領域4＞は「レジャー・レクリエーションの概念・イメージ論」、＜領域5＞は「比較研究・関連周辺研究」である。

＜領域1＞から＜領域3＞が、いわゆる文献研究によるこの分野の中核部分と考えられる。

③については、当学会の活動範囲外場で公表された研究成果をレビューするものであるが、公表されたこれらの諸成果については、時間的制約もあり、全般に目を通すことはできていない。ここでは関連文献や論文を、ごく恣意的に取り上げるにとどめたい。

なお、主に第3章で取り上げる学会誌掲載論文・論考ならびに学会発表については、紙幅の都合により、研究者名や発表・掲載年を示すなど同定が可能となるよう記述を工夫したので、文末文献リストへの記載を割愛している。

第3章 先行研究の特徴や動向

1. 当学会における歴史、思想・哲学分野の研究成果

表1は「学会誌」に掲載された当該分野の掲載論文・論考を類別して、その配分状況をみたものである。表の最下欄には、各領域の研究論文・論考総数と研究論文（原著論文・研究資料・実践研究等）（内訳①）に限定した場合の合計論文数を示した。1996～2010年の間に「学会誌」に掲載された論文・論考等の総数は109であり、そのうち研究論文の総数は約半分の54である。ただし研究論文数（①）に限定すると、＜領域3＞の「理念・原理」や＜領域4＞の「概念・イメージ論」は特に少なく、後者が1という状況にある。比較的、一定量論文・論考を掲載している分野は＜領域1＞の「歴史」と＜領域2＞の「思想・哲学・理論」であるが、それでも前者5、後者6で、合計11に過ぎない。＜領域5＞の「比較研究・関連周辺研究」の研究数は最も多いものの、論文数（①）に限定すると、＜領域1＞や＜領域2＞と同程度になる。

表2は、1996～2009年度の学会大会における研究発表のうち、歴史および思想・哲学分野に相当する当該分野の研究数を、同様に5領域に類別して示したものである。14年間で400題の研究発表が行われたが、その中で歴史および思想・哲学分野の発表数は105件と約4分の1を占めていた。25%強に相当するこの数字は一見すると、むしろ多数ともみなし得るが、ここには＜領域5＞の「比較研究・関連周辺研究」33件が含まれており、その分、数値が大きくなっている点に留意したい。

以下は領域ごとに捉えた研究成果やその動向である：

まず、＜領域1＞の「歴史」については、掲載論文（表1）はいずれも通史もしくは総説としてではなく、個別史として記述されたものである。陳ら(1997)(2001)は、台湾におけるキャンプの発展過程を関係団体の動きとプログラム内容の変遷から明らかにしている。また、平野(2004)は、日本の黎明期のウィンドサーフィン普及というテーマに取り組んだ。堀田(2001)は、アメリカのセラピューティックレクリエーション専門団体による立法運動について、学会大会における研究発表をさらに深化・充実させて、研究論文として公表している。ちなみに通史的話題としては、小田切(1997)が、「レジャー・レクリエーションの史的変遷」と

表1. 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」における歴史的、思想・哲学的研究および論考の推移

号	領域1	領域2	領域3	領域4	領域5	小計	比率(%) 小計/総数	総掲載論文・論考数	内 訳		
	歴 史	思想・哲学・理論	レジャー・レクリエーションの理念・原理	レジャー・レクリエーションの概念・イメージ	比較研究・関連周辺研究				①研究論文 (原著論文・実践研究等)	②論考 (特集寄稿・評論・紹介記事等)	③講演・シンポジウム・公開討論会等記録
第 33 号 (1996. 3)	0	0	0	0	0	0	0.0	5	4	1	0
第 35 号 (1996.11)	0	1 ①	1 ②	0	1 ①	3	50.0	6	3	3	0
第 36 号 (1997. 5)	2 ①③	0	1 ②	1 ②	1 ②	5	45.5	11	1	9	1
第 38 号 (1998. 3)	1 ②	0	1 ②	1 ①	0	3	42.9	7	1	6	0
第 40 号 (1999. 8)	0	1 ①	0	0	0	1	16.7	6	6	0	0
第 42 号 (2000. 8)	0	0	1 ③	0	0	1	50.0	2	1	0	1
第 44 号 (2001. 3)	2 ①①	0	0	0	1 ③	3	42.9	7	5	0	2
第 45 号 (2001.11)	0	1 ①	0	0	1 ①	2	66.7	3	3	0	0
第 47 号 (2002. 3)	0	3 ②②③	0	0	0	3	37.5	8	1	6	1
第 48 号 (2002.10)	0	0	0	0	1 ①	1	33.3	3	3	0	0
第 50 号 (2003. 3)	0	0	0	0	0	0	0.0	2	0	0	2
第 52 号 (2004. 3)	2 ①③	0	0	0	0	2	40.0	5	3	0	2
第 54 号 (2005. 3)	0	0	0	0	2 ③③	2	50.0	4	1	1	2
第 56 号 (2006. 3)	0	1 ①	1 ③	0	0	2	28.6	7	4	1	2
第 58 号 (2007. 3)	0	2 ①①	2 ③③	0	1 ②	5	83.3	6	2	2	2
第 60 号 (2008. 3)	1 ①	0	0	0	2 ①③	3	50.0	6	5	0	1
第 62 号 (2009. 3)	0	0	1 ③	0	3 ①①③	4	33.3	12	6	4	2
第 64 号 (2010. 3)	0	0	0	0	1 ③	1	11.1	9	5	2	2
	8 ①:5	9 ①:6	8 ①:0	2 ①:1	14 ①:6	41	37.6	109	54	35	20

いうテーマで、学会大会（第26回）で特別講演を行っている。

学会大会での研究発表（表2）に関しては、歴史的分野の発表は数的にも30と多く、また多彩でもあった。2002～2006年に研究発表の低調な時期があったものの、比較的コンスタントに発表が行われている。前半の活発な時期に公表された研究テーマの中には、文化史的な色彩を帯びた思想史という位置づけで、杉浦(1996)によるホイジンガの近代文明批判、寺島(1998)による英国レジャー政策の歴史的展開とその社会背景を考察した研究、アメリカ・レクリエーション運動の原点としてのマサチューセッツ湾植民地の意義を検討した研究（廣田・高橋、1998）、同じくアメリカ1900年代前半における女性スポーツ教育の理念を‘Play Day’の中に読み取ろうと試みた研究（荒井、1999）、アメリカにおける療法的レクリエーション専門団体による立法運動の展開過程を追った堀田の研究(1999)などがある。さらに、坂内(2000)は、近代日本における

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

表2. 学会大会研究発表における歴史、思想・哲学領域の演題数の推移

大会年	領域1	領域2	領域3	領域4	領域5	小計	小比率 (%) 総数	総発表数	うち、 ポスター発表の
	歴史	思想・ 理論・ 哲学	念エ レジャー ・原理 ・シ ョー ・レ クリ の理	念エ レジャー ・イ メー ジ ン 論の 概	関比較 連周 辺研 究				
第26回大会 1996年(第34号)	3	0	1	4	2	10	43.5	23	0
第27回大会 1997年(第37号)	4	1	1	0	3	9	30.0	30	0
第28回大会 1998年(第39号)	2	1	0	2	2	7	22.6	31	0
第29回大会 1999年(第41号)	2	1	2	3	1	9	33.3	27	0
第30回大会 2000年(第43号)	1	2	1	1	4	9	31.0	29	0
第31回大会 2001年(第46号)	3	1	2	0	2	8	29.6	27	0
第32回大会 2002年(第49号)	0	0	1	1	1	3	17.6	17	0
第33回大会 2003年(第51号)	0	2	1	1	4	8	30.8	26	0
第34回大会 2004年(第53号)	1	1	1	1	3	7	25.9	27	0
第35回大会 2005年(第55号)	0	1	1	1	3	6	31.6	19	0
第36回大会 2006年(第57号)	1	0	1	0	2	4	9.5	42	16
第37回大会 2007年(第59号)	2	0	0	1	2	5	22.7	22	7
第38回大会 2008年(第61号)	5	1	1	1	2	10	22.7	44	13
第39回大会 2009年(第63号)	6	0	2	0	2	10	27.8	36	16
	30	11	15	16	33	105	26.3	400	52

「初期」レクリエーションの理論を権田保之助の思想を手がかりとして探る取り組みを始めている。最近では西野(2006)(2007)(2009)が、明治、大正、昭和初期にかけて刊行された余暇・娯楽関連書籍等の歴史的史料を収集し、紹介する試みを行っている。また、古城(2007)は、昭和15年の東京オリンピック招致活動の政治的意味を考察し、小澤(2008)は、戦時期日本の「体力向上」の祭典—東亜競技大会—の様子を伝えている。このように、学会発表のレベルにおいては、「歴史」は種々様々なテーマで、研究成果が着実に公表されてきたといえるであろう。

<領域2>の「思想・哲学・理論」については、レジャー・レクリエーション研究に強い影響力を持つ2つの中核的な思想・理論に関する研究成果がみられた。すなわちホイジンガの遊び・文化論とチクセントミハイのフロー理論について、杉浦と迫が、これまで積み重ねてきた研究発表の成果を学術論文ならびに特集記事としてまとめている。1999年には、ホイジンガの、遊びや文化的要素の欠如したオランダ近代文明への批評について考察しており(杉浦・石川)、2002年には、「新しい時代における遊びと文化の方向性—ヨハン・ホイジンガを手がかりにして—」と題して、本研究領域にとって非常に重要かつ示唆的な論考を寄稿している(杉浦)。さらに、杉浦(2007)は、ホイジンガの近代社会認識を、同時代の遊びや娯楽を主たる手がかりとして明らかにした論文も発表している。一方、迫(2006)は、これまでのフロー研究の成果を「フロー体験の深化に関する理論的研究」の中に結実させている。その他に、レジャー・レクリエーションの思想・理論的研究分野で非常に影響力のある理論家、権田保之助の大衆娯楽思想を丹念に解説した坂内(2001)の研究も、重要な研究成果としてあげるべきであろう。

学会大会におけるこの領域の研究発表は11であり、他に比べると最も少なく、毎年0～2件の範囲で推移している。この理論・思想的な研究において目を引くテーマとえば、まずは上述したチクセントミハイ

のフロー理論とホイジンガの遊び理論である。なかでもフロー理論は、レジャー・レクリエーションの理論・思想的研究の中では、近年、非常に好まれるテーマとなっており、たとえば迫(2001)は、「スポーツと芸道におけるフロー体験の特性」について発表を行い、2004年には体育授業にフロー理論を適用し、授業をより楽しいものにする構想を公表している。また、マーレー(2008)も「フロー理論の構造と特質に関する基礎研究」と題して、理論的な考察を行っている。ホイジンガの遊びを中心とした文化論的思索に関する研究では、何とんでも杉浦の寄与が大きい。2000年には、近年のホイジンガ研究の動向を、彼の近代文明批評を糸口に分析してみせ、2005年にはホイジンガの遊戯文化論をオランダ社会の近代化との関わりのもと考察した。「思想・哲学・理論」分野における2つの中心的テーマ以外では、服部(1999)(2000)(2003)が余暇社会における教養涵養の重要性といったテーマをめぐって、継続的に発表を行っている。

<領域3>の「理念・原理」に関する領域では、論文としてまとまった形で発表された研究がほとんどないのが現状である。この分野の貴重な文献としてあげることのできるのは、鈴木(1997)の特集寄稿「原論・歴史・本質論(レジャー・レクリエーション論)研究から」と、2006年、第35回学会大会で行われたシンポジウム「ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション」の記録ぐらいであろうか。

学会大会における研究発表に目をやっても、レジャー・レクリエーションのあるべき姿について考察した研究の数は15と比較的少ない。この領域を主たるフィールドとしている研究者の中で、「21世紀を展望したレジャー・レクリエーション運動の課題と視点」「レジャー・レクリエーションの新しいパースペクティブとパラダイム」「レクリエーション観の確立」のように、レジャー・レクリエーションの理念・理想像構築に正面から取り組んだ数少ない研究者として鈴木(1996)(1997)、吉田(1999)をあげることができる。さらに、セラピューティックレクリエーション、社会福祉等のより専門的・分科領域における理念構築を試みた研究には、鈴木(1999)、茅野(2003)、滝口(2006)の研究がある。服部(2001)(2002)(2004)は、この分野においても独自の教育学的、人間論的洞察に基づいて、教養の重要性とレジャー教育の必要性、遊びの復権について積極的な発表を行っている。

<領域4>の「概念・イメージ論」については、1998年の西野・知念による経験標本抽出法を用いて、経験的にレジャー概念を定義する論文を最後に途絶えている。学会大会の研究発表においても16件と数は少ない。また、時期的に1996～1999年までの初期に発表が集中しており、この時期、研究のスタイルや志向性に流れの変化が生じたことを窺わせる。その端的な例として、西野らの研究グループや佐橋などが、北米で遡ること10年程前に開発された経験(標本)抽出法とよばれる手法を用いて、新しいタイプの概念・イメージ研究を展開した研究事例を示すことができる。西野らの研究グループ(1996)(1998)(1999)と佐橋(1996)(1998)は、従来の自由連想法などを用いたイメージ研究(高橋・高橋、1999;高橋、2002;武石、1999)とは異なって、実際の心理的体験を調査することによって、万人ができるかぎり最大の共通項で一致するレジャー・レクリエーションという状態を探索しようとした。しかし、短期間のピークの後、概念やイメージを論じる研究は、あまり行われなくなっていく。

最後に、<領域5>「比較研究・関連周辺研究」においては、レジャー・レクリエーション研究の質・グレード評価をめぐり、新たな自然科学的評価基準、評価方法の適用が提唱されるようになったことが注目点である。上岡・本多らの研究グループが、生理学・医学・疫学・療法・教育の領域で今日重視されるようになってきたエビデンスによる研究成果の評価というアイデアをレジャー・レクリエーション研究に導入し、将来的にこの領域の研究の質を向上させていくという主旨の論文・論考をいくつか公表している(2007)(2008)(2009)。この流れは、レクリエーションの身体的・心理的・教育的効果測定や、心理・社会学的領域のレジャー・レクリエーション研究だけでなく、歴史・思想領域の研究にも少なからず影響をもたらそうとしている。すなわち、自然科学的な評価基準や方法を導入しようとする流れが顕在化していく中で、理念的・思索的研究

固有の意義や役割はどこにあるのか、定位・明確化していくための研究努力が強く求められている。

2. 当学会以外での歴史、思想・哲学分野に関する研究の成果

まずレクリエーション運動史については、藺田による2007年の博士論文「日本レクリエーション運動史研究－時代相と運動の理念との相互関係を中心に－」¹⁾がある。2年後に公刊された藺田の『日本社会とレクリエーション運動』²⁾の冒頭（第一部）で、この論文の全文が掲載されている。また日本レクリエーション協会では、すでに1998年に『レクリエーション運動の五十年』³⁾と題する団体史を刊行していた。

この時期の思想的 연구には、いわゆるホモ・ルーデンス論や余暇の分類論・文化論からの転換（心理学への接近）を思わせる動向もみられる。たとえばヨゼフ・ピーパーやヨハン・ホイジンガらの思想に触れた、小塩や松田らによる『暮らしの哲学としての生活文化』⁴⁾が1997年に刊行されたが、同時に1990年代には心理学者M. チクセントミハイによって公表されたフロー理論に多くの研究者が注目するようになった。1991年に今村浩明の翻訳による『楽しむということ』⁵⁾（1979年『楽しみの社会学－倦怠と不安を越えて－』⁶⁾の改題・再版）が、また1996年には今村の翻訳本『フロー体験－喜びの現象学－』⁷⁾が刊行され、2003年には今村浩明と浅川希洋志の編集で『フロー理論の展開』⁸⁾が、9人の執筆者からなる論集として刊行されている。国内外のフロー理論の文献リストも網羅されていた。その一論文である佐橋の「中年期女性の日常余暇場面におけるフロー」⁹⁾にも明らかのように、この理論はまさにレジャー・レクリエーションの思想的研究をも代替するような総合的な内的経験の理論ともなったようだ。こうした動向の中で2004年には、R.C. マンネルとD.A. クリーバーの著作が速水敏彦監訳『レジャーの社会心理学』¹⁰⁾として、本学会員らを含む11名の翻訳によって公刊されるに至っている。

歴史に関しては、稲垣¹¹⁾や野々宮¹²⁾あるいは小田切¹³⁾などをはじめ、ニュー・スポーツへの注目がなされ、ポスト・モダンをめぐる論議がなされた。また余暇（レジャー）史や余暇思想・哲学に関わる研究成果に目を向ければ、日本余暇学会が監修する『余暇の新世紀』¹⁴⁾が2002年に、また藺田による『遊びと仕事の人間学』¹⁵⁾もその2年後に出版されている。2008年に刊行された瀬沼の『西洋余暇思想史』¹⁶⁾は、古代ギリシャから現代までの余暇思想を3部に集約する労作である。またレクリエーション史に関しては、小田切による2007年の小論「遊びをせんとや生まれけむ－レクリエーション社会史序説－」¹⁷⁾がある。出生数と死亡数の相互関連に基づく経年的人口変動からみた、江戸後期以来の遊びと社会との新たな関係史の試みである。

第4章 今後の研究の課題とその方法論の展望

レジャー・レクリエーションの歴史や思想・哲学に関する研究動向は、ひとまず人々が生きるその時代や社会の、生活の質への問いかけから出発するものと言えるであろう。たとえば、レクリエーションが第二次世界大戦後にアメリカから移入された時代においては、終戦（敗戦）という政治的・経済的な拘束のもとで、アメリカ流のレクリエーション概念やその思想的受け入れが急務の課題として要請された。広範な分野から構築されるレクリエーション学において、多様な分科科学によってもたらされる科学的諸原理を統合・融合させようとする意味でも、ヒューマンイズムの言論分野を明確に意識させた。

高度経済成長を背景にしたレジャー流行（ブーム化）の時代においては、レジャーやレクリエーションへの学問的問いかけは、豊かな生活とは何か、何のための豊かさかを問いかけることと密接なものであり、一層積極的に生活の質の問題を論議させることとなった。レジャーとレクリエーションの定義づけにしても、両者の関係論としてのいわゆる峻別論や補完論であり、あるいは生活構造論や労働と余暇の弁証論としての論考なども含めて、種々様々に論議された。

だがその後の低成長の時代を経て、昨今の高齢化や少子化、あるいは福祉や介護を強く意識する時代を迎えるに至ると、新たな生活に向けての時代的取り組みを示唆させるようなレジャーやレクリエーションの対象概念の論議や思想的・哲学的な論考は、むしろ余り盛り上がりを見せなくなった。学会会員の多数は理論的論考というよりも、実践的で科学的なミッションに基づく種々の分野の研究に着手しているが、こうした状況も情報化社会到来の当然の帰結とみなすことができるかもしれない。以前とは比較にならぬほど溢れ出している大量のレジャーやレクリエーションに関連する情報の勢いは、専門学会に所属している我々に、情報への吟味や学問的評価の暇すらも与えない程である。

専門職や専門用語の成立とも密接なレクリエーション運動への学問的関心も、たとえば「町興し・村興し」といった地域や地方の事例的・実践的な運動研究としては広がりを見せつつあるが、思想・哲学的論議としては、いわゆる行政主導の政策イデオロギーを後追いする以上には、レジャーやレクリエーションの概念の再検討を先導するものにはなり得ていないようだ。

本書の「医療と福祉」の冒頭でも言及しているように、1990年代後半以降は、たとえば「科学的根拠に基づいた (Evidence-Based)」医療や健康政策が強調される傾向にある。こうした時流と呼応するレジャー・レクリエーション研究では、たとえば統合論より分析論への傾斜とか、概念論からシステム論への傾斜とか、新たなツールの提案や模索を色濃くさせるもので、確かに科学的根拠を重視しつつ研究関心が大きくシフトしつつあるようにも思われる。

応用的で総合的、広範な分野の科学的分析による数値化やシステム論化は、もとより人間の生きる問題を客体化し、抽象化・モデル化させることに道を開く。だがその一方で、本来的に人間的なものに根ざした、人間的営みであるレジャー・レクリエーション問題の研究において、本質的な生きることに関わるヒューマニズムの学問的視野をネグレクトする傾向をも生じさせるというのであれば、それは何とも矛盾に満ちた皮肉と言わざるを得ない。

本学会の会員総数における当該領域で研究成果を公表しようとする会員数に着目しても、漸次的に少数化する傾向にあるようだ。何らかの専門的な領域を持つ会員の集合体である学会組織にあっては、この種の動向も時代を反映するひとつの結果として受け入れざるを得ない。しかしながら、時代に対応し先導する普及・啓発に向けての学会活動の機会を通じて、必要に応じレジャー・レクリエーション学における歴史や思想・哲学分野の存在意義を再検討すべく、歴史や思想・哲学に関わるこの研究分野や、すでに指摘したフロー理論のような、いわゆる時代に対応するヒューマニズムの学問的視野における論議に基づいて、「再構築」や「脱構築」がなされる必要があろう。

すでに1997年の「学会誌」の特集（「レジャー・レクリエーション研究における基本書」）の中で、鈴木会長は「原論・歴史・本質論研究の分野」について、以下のような発言をしていた。「余暇を単なる遊びでもなく、仕事でもない、創造的な活動としてしっかり捉えるなら、……レクリエーション観の正しい位置への啓蒙・普及は学会としても決して避けて通れぬ道であろう。……（中略）……概念の“ぼやけ”いわゆる“曖昧さ”をいかに明確に浮き上がらせ、レジャー・レクリエーションの本質論をあきらめずに着実に確立していく努力（研究）をしていくかということであり、……“あるべき論”の提言を明確にして行かなければならない。」こうした課題意識はまた、本誌巻末の総論（「未来への羅針盤」）における、以下のような指摘にも連動しているにちがいない。すなわち「今後は、学会の研究領域のすべてを学会員の個人研究・共同研究のみに委ねるのではなく、領域の広がりや研究活動が積極的あるいは十分でない領域、また、新たな領域や時代の要請に応える研究課題等にメスを入れ、学会主導の研究共同プロジェクトの立ち上げ等も視野に入れ……るなども一考すべきである。」学会の今後の研究推進への取り組みに期待したい。

参考文献

(主に第3章で取り上げた学会誌掲載論文・論考ならびに学会発表については、紙幅の都合により、研究者名や発表・掲載年を示すなど同定が可能となるよう記述を工夫したので、以下文献リストへの記載を割愛している。)

- 1) 藪田碩哉、日本レクリエーション運動史研究－時代相と運動の理念との相互関係を中心に－、日本体育大学、体育科学博士論文、2007。
- 2) 藪田碩哉、日本社会とレクリエーション運動、実践女子学園学術・教育研究叢書19、実践女子学園、2009。
- 3) (財)日本レクリエーション協会監修、レクリエーション運動の五十年－日本レクリエーション協会五十年史－、1998。
- 4) 小塩節・松田義幸他、暮らしの哲学としての生活文化、PHP、1997。
- 5) M. チクセントミハイ、今村浩明訳、楽しむということ、思索社、1991。
- 6) M. チクセントミハイ、今村浩明訳、楽しみの社会学－倦怠と不安を越えて－、思想社、1979。
- 7) M. チクセントミハイ、今村浩明訳、フロー体験－喜びの現象学－、世界思想社、1996。
- 8) 今村浩明・浅川希洋志編、フロー理論の展開、世界思想社、2003。
- 9) 佐橋由美、中年期女性の日常余暇場面におけるフロー。(今村浩明・浅川希洋志編、同上書、214 - 240、2003。)
- 10) ロジャー・C・マンネル、ダグラス・C・クリーバー、速水敏彦監訳、レジャーの社会心理学、世界思想社、2004。
- 11) 稲垣正浩、ニュースポーツ論議の意味。(野々宮徹他編、近代スポーツの超克－ニュースポーツ・身体・気－、叢文社、1-20、2001。)
- 12) 野々宮徹、ニュースポーツ登場の背景。(野々宮徹他編、近代スポーツの超克－ニュースポーツ・身体・気－、叢文社、54-62、2001。)
- 13) 小田切毅一、はじめに「軽スポーツ」ありき。(奈良女子大学文学部スポーツ科学教室編、やわらかいスポーツへの招待－軽スポーツを科学する－、道和書院、6-28、1998。)
- 14) 日本余暇学会監修、余暇の新世紀、遊戯社、2002。
- 15) 藪田碩哉、遊びと仕事の人間学、遊戯社、2004。
- 16) 瀬沼克彰、西洋余暇思想史、世界思想社、2008。
- 17) 小田切毅一、遊びをせんとや生まれけむ－レクリエーション社会史序説－。(小田切毅一他編、いま奏でよう身体のシンフォニー、叢文社、282-301、2007。)

意識と行動

茅野 宏明 (武庫川女子大学)

要旨

『レクリエーション学の方法』が1987年に刊行され、その後、本学会誌『歩み』が1995年に刊行されてから15年経つ。この15年に蓄積された研究を振り返り、そこから明らかにできる動向や課題などを抽出し、今後のレジャー・レクリエーション分野の発展に寄与することは、日本レジャー・レクリエーション学会にとって社会的な意義をもつ。

また、レジャー・レクリエーション分野は、経済的背景（景気など）や将来的展望（社会保障制度の見直しなど）、教育的背景（義務教育課程のカリキュラムなど）により、左右される部分が多いことも否めない。

本章では、人間の行動のうち、自由時間に自発的に行う諸活動（スポーツや文化活動など）の行動をレジャー・レクリエーション行動とよび¹⁾、人間の意識のうち、自由時間に対する意識をレジャー・レクリエーション意識とよび、次の5章から概説する。

第1章では「テーマに関わる背景と目的」。先行研究を振り返りながら、明らかにしたいことを記す。第2章では「レビューの方法」。従来の記述的レビューの観点と近年強調されている「エビデンス・グレーディング」を取り入れたレビューを試みる。第3章では「先行研究の特徴や動向」。エビデンス・グレーディングにより、収集した研究をグローバルなスタンダードで考察を試みる。第4章では「リサーチ・クエスチョン」。先行研究から抽出した課題や問題点を整理する。そして、第5章では「今後の研究の課題とその方法論の展望」として、具体的な研究課題や今後必要と考えられる方法論について総括する。

なお、本章では、上岡ら（2008）²⁾によるエビデンス（科学的根拠）を採用する。

第1章「テーマに関わる背景と目的」

「意識・行動」をテーマとする研究課題には、バラエティーに富んだ題目が考えられる。例えば、人はどのようなレジャー・レクリエーション意識をもっているのか。人はなぜレジャー・レクリエーション行動をするのか。人のレジャー・レクリエーション意識や行動をどのようにはかるのか。人はどうしてレジャー・レクリエーション行動を続けるのか。人はどのようなレジャー・レクリエーション行動を好むのか。日本人のレジャー・レクリエーションに対する意識の変遷はどのように流れてきているか。レジャー・レクリエーション行動を国際比較するとどうなるか。このようにさまざまな観点から、意識や行動を研究テーマとして取り上げることができる。

この15年の間にレジャー・レクリエーション分野における「意識・行動」に関する先行研究を対象に、現象的側面とエビデンス・グレーディングをベースに、それらの研究についての特徴や動向を明らかにし、今後の課題と方法論の展望を示すことを目的とした。

第2章「レビューの方法」

1. 文献収集の方法

文献収集の対象とした主文献は、「レジャー・レクリエーション研究」（日本レジャー・レクリエーション学会発行）である。前回の「あゆみ」（1995年発行）以降の発表論文（査読付）を対象とした。意識や行動について研究論文を対象とした。

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

もう一つの方法として、データベースを利用した。レジャー・レクリエーション研究におけるデータベースの活用³⁾が唱えられてから20数年経ち、高度な情報化も一般家庭や携帯端末にまで整いつつある。そこで、本章では、CiNii（国立情報学研究所論文情報ナビゲータ）を使用して、文献の収集にあたった。検索ワードとしては、「レジャー 意識」、「レジャー 行動」、「レクリエーション 意識」、「レクリエーション 行動」の4パターンを使い、検索した。1996年以降2009年までに出版された文献を対象とした。

2. 文献の評価方法など

レジャー・レクリエーション意識や行動のとらえ方として、第一に、『レクリエーション学の方法（1987年、ぎょうせい発行）』が示した一般的な①社会的現象；②心理的現象；③経済的現象；④地理的現象⁴⁾の4つの現象をもとに分類した。この分類から、収集した文献の現象傾向は把握できるが、質的担保は図ることは困難である。

そこで、第二に、近年本誌にエビデンス・グレーディングに関する先鋭的な研究を発表している上岡洋晴（東京農業大学）氏や津谷喜一郎（東京大学大学院）氏らによるエビデンス・グレーディング（格付け）を試行的に採用した。本章における照合では、上岡ら（2008）⁵⁾；上岡ら（2008）⁶⁾；上岡ら（2009）⁷⁾を参考に、研究の傾向と動向を明らかにすることを目的とし、格付けを行うことではない。

評価の基準として、上岡ら（2009）⁸⁾による適格基準と除外基準、及び正木ら（2006）⁹⁾による「エビデンスのレベルと内容（表3）」を参考に、次のとおりとした。

<適格基準>

1. 対象雑誌 レジャー・レクリエーション研究、他
2. 出版年 1996年～2009年
3. エビデンス・グレーディング¹⁰⁾
 - I システマティック・レビュー（メタ・アナリシスを含む）
 - II 1つ以上のランダム化比較試験による研究
 - III 非ランダム化比較試験による研究
 - IV 分析的疫学研究（コホート研究や症例対照研究）
 - V 記述的研究（症例報告や症例集積）
 - VI 患者データに基づかない、専門家委員会や専門家個人の意見
4. 研究対象 人の意識又は行動の分析や変容を対象としていること
5. 出版言語 日本語
6. 対象・サンプル数／評価指標 無制限

<除外基準>

- ・「人の意識又は行動の分析や変容に関わっていない研究」
- ・「特集や会議録」、「抄録」、「シンポジウムや講演」

上記2つの観点を収集した文献に照らし合わせ、「意識・行動」に関する研究論文について、総括的な報告をする。なお、「意識・行動」に関する研究について、定量化データや文献調査を含めて抜き出して、先行研究を総体的に理解することに努めた。

第3章「先行研究の特徴（明らかになったことを含む）や動向」

収集した文献は、『レジャー・レクリエーション研究』から14件となった。その他に、「レジャーの意識

や行動に関する文献」から14件、「レクリエーションの意識や行動に関する文献」から12件、これらの合計26件は、結果的にすべて紀要に掲載されていた。

・現象別と掲載雑誌（表1）

まず、レジャー・レクリエーション研究における「意識・行動」についての現象としては、社会的現象と心理的現象が82.5%を占めている（表1）。他方、1996年から2009年までの14年間で、「意識・行動」に関する掲載雑誌として、突出したデータは見られないが、『レジャー・レクリエーション研究』単独で35%を占めていることから、本雑誌はレジャー・レクリエーション領域の専門書として、「意識・行動」の研究がなされていると見られる。

表1 「意識・行動」研究の現象別

掲載雑誌	現象					
	経済的	社会的	心理的	地理的	総計	割合
レジャー・レクリエーション研究		9	5		14	35.0%
レジャー+意識or行動紀要		5	6	3	14	35.0%
レクリエーション+意識or行動紀要	1	3	5	3	12	30.0%
総計	1	17	16	6	40	
割合	2.5%	42.5%	40.0%	15.0%		

・研究の志向とレベル（表2）

文献の評価方法に基づいて、エビデンス・グレーディングと研究の志向をまとめた（表2）。エビデンス・グレーディングのレベルとして、ⅠとⅡは「意識・行動」研究では皆無であり、言い換えれば、レジャー・レクリエーションにおける「意識・行動」に関して実験的手法を取り入れる難しさが示されたとも考えられる。

このような状況下において、エビデンス・グレーディングⅢには、上岡ら（2009）¹¹¹で示された2研究があげられた。実験群と対照群とに分けて行った実際のキャンププログラムでの研究である。ランダムで群を分けることは実際に行われているプログラムや活動において、実施は困難ではあるが、行動変容につながるという観点では、レベルⅢに相当する研究の活性化が必要と思われる。

表2 「意識・行動」研究の志向とレベル 一覧

志向	レベル					総計	割合
	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ			
意識生起			1			1	2.5%
意識調査		1	1			2	5.0%
意識分析		2	6	1		9	22.5%
意識変化	1					1	2.5%
教育効果			2			2	5.0%
行動意識		1				1	2.5%
行動分析		7	8			15	37.5%
行動変容	1		2	1		4	10.0%
尺度開発		1	2			3	7.5%
動向				1		1	2.5%
満足度			1			1	2.5%
総計	2	12	23	3		40	
割合	5.0%	30.0%	57.5%	7.5%			

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

エビデンス・グレーディングのレベルⅣには、30%の研究が含まれた。特に、「意識・行動」においては、それらの分析が主となっており、統計的処理も施されているものが多い。なお、意識や行動の分析を基にした行動変容などの効果測定志向は、別章「治療と健康増進効果」に含まれる文献が多いと考えられる。コホート研究は、レジャー・レクリエーション分野において、その重要性が論じられ、また口頭発表等でも唱えられているが、本格的な実施の報告はなされていない。

エビデンス・グレーディングのレベルⅤが57.5%と半数を占めている。「意識・行動」においては、レジャー・レクリエーションの意識をはじめ行動志向の調査を行い、統計的処理を施して、傾向や動向を見極める志向が高くなることが明らかにされている。イベント参加者や余暇活動の実施者への直接的意識調査は、レジャー・レクリエーション分野にとっても大切な志向であり、今後も増えると考えられる。

また、表2から明らかな点は「意識・行動」における研究の多くは、行動分析(37.5%)や意識分析(22.5%)として行われている。人がレジャー・レクリエーションをどのように理解しているのか、あるいは人はどのような意識下で行動しているのかなどの分析は、レジャー・レクリエーション分野にとって、より効果的な教育プログラムや支援プログラムを開発するには非常に重要なポイントである。

・出版年月と研究志向(表3)

先述のとおり、「意識・行動」に関するレジャー・レクリエーション研究にとって重要なポイントでもある意識分析や行動分析についての研究の動向として、次の点が見受けられる。

(1) 意識分析から行動分析への移行

意識分析は2007年以降途切れている。一方では、行動分析がほぼ継続的に行われている。質問紙等による意識分析から、観察も考慮して分析するという行動分析に移行しつつあると推察される。特に「行動分析」については、2005年から毎年継続して論文掲載があることから、『レジャー・レクリエーション研究』に限らず、研究紀要等における掲載も考慮して文献収集を行う必要がある。

(2) ランダム化等の比較試験の沈静化

研究の質的担保としてエビデンスが求められる近年において、ランダム化比較試験をはじめとする比較研究が求められている。しかし、1996年に発表された文献以後、エビデンス・グレーディングのレベルⅠやⅡはもちろんのこと、レベルⅢに相当する研究も行われていないことが明らかになった。上岡ら(2008)は、レジャー・レクリエーション分野において記述的レビューは行われているが、ランダム化比較試験のシステムティック・レビューは行われていない¹²⁾とも指摘している。

第4章「リサーチ・クエスチョン」

レジャー・レクリエーション分野における動向は前章にて報告されたが、「意識・行動」について総括すると次のようにまとめられる。

・集中するレベル

エビデンス・グレーディングの視点からレジャー・レクリエーション分野における先行研究をレベル化すると、レベルⅤとレベルⅣに集中している。

・活性化される行動分析的な研究志向

意識分析の研究主体から、観察できる行動分析の研究が活性化してきている傾向が見られる。活動参加者などからのデータ収集が主である。

・ランダム化等の比較試験の沈静化(表4)

先述のとおり、レジャー・レクリエーション分野における比較試験の計画立案は非常に難しい面がある。質問紙による研究が75%を占めている(表4)。

表3 「意識・行動」研究における分析志向 一覧

出版年月	志向											
	意識生起	意識調査	意識分析	意識変化	教育効果	行動意識	行動分析	行動変容	尺度開発	動 向	満足度	総計
199603				1				1				2
199611			1									1
199710			1									1
199800							1					1
199803							1					1
199903						1						1
199908			3									3
199909							1					1
199910			1									1
200003		1						1				2
200008								1				1
200107		1										1
200111								1				1
200210			1									1
200301								1				1
200302	1											1
200303			1						1			2
200412									1			1
200500								1				1
200503							1					1
200603			1				2	1				4
200609											1	1
200611								1				1
200612							1			1		2
200703							1					1
200800					2							2
200803							1					1
200901									1			1
200903							2					2
総計	1	2	9	1	2	1	15	4	3	1	1	40
	2.5%	5.0%	22.5%	2.5%	5.0%	2.5%	37.5%	10.0%	7.5%	2.5%	2.5%	

また、上述3点のほかに研究内容を精査すると、各研究における対象者についての傾向が明らかになった。

・ 研究対象者の傾向（表5）

意識分析や継続的に発表されている行動分析について、その研究対象者は女子大学生を含む学生が32.5%、活動実施者や施設利用者が30.0%、という結果が示された（表5）。1996年以降、意識調査やレジャー意識や行動に関する尺度開発等、さまざまな研究テーマの下、それぞれに最適な研究対象が選択されてきていると推察されるが、実証にとどまる傾向も見受けられる。

以上、4点の傾向と課題が明らかにされた。

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

表4 研究方法 一覧

志向	方法						
	prepost	観察・質問紙	観察・文献	質問紙	実験	文献	総計
意識生起		1					1
意識調査				2			2
意識分析				8		1	9
意識変化	1						1
教育効果				2			2
行動意識				1			1
行動分析		2	1	12			15
行動変容				1	2	1	4
尺度開発				3			3
動向						1	1
満足度				1			1
総計	1	3	1	30	2	3	40
	2.5%	7.5%	2.5%	75.0%	5.0%	7.5%	

表5 「意識・行動」研究の志向と対象者 一覧

志向	対象者															総計	
	NA	なし	学生	学生一般	患者	高校生	高齢者	実施者	女子大生	女性	小学生	生徒	中学生	島民	不特定		利用者
意識生起															1		1
意識調査															2		2
意識分析	1		2				1	2	1					1		1	9
意識変化											1						1
教育効果									2								2
行動意識															1		1
行動分析			3	1	1	1		4	1	2					2		15
行動変容		1									1	1	1				4
尺度開発			2						1								3
動向		1															1
満足度			1														1
総計	1	2	8	1	1	1	1	6	5	2	2	1	1	1	6	1	40
	2.5%	5.0%	20.0%	2.5%	2.5%	2.5%	2.5%	15.0%	12.5%	5.0%	5.0%	2.5%	2.5%	2.5%	15.0%	2.5%	

第5章「今後の研究の課題とその方法論の展望」

前章までに、示されたことを踏まえた今後の研究課題とその方法論の展望は、次に示されたとおりである。

・研究対象の範囲拡大

レジャー・レクリエーション分野の専門性を高めるには、研究対象者の種類の拡張が必要と思われる。学生を主対象とする研究だけでなく、より普遍的な解釈や結果、さらには新たな方向性を導くことができる研究対象者の志向も必要と考えられる。

例えば、市民マラソン参加者の活動継続の要因；囲碁クラブ参加者と非参加者の生きがいに対する意識相違；職業体験施設利用前後における子どもの変化など、幅広い層での研究データの蓄積も求められる。

・既存尺度の積極的活用

人の意識や行動を理解することは、研究課題としてだけでなく、臨床場面でのレジャー・レクリエーション行動の変容にも関連してくる。レジャー・レクリエーション分野における「意識・行動」をはかることは大切なことである。一方、現実的には信頼性や妥当性において、広く認知されたレジャー・レクリエーションに関する尺度は見あたらない。

そこで、既存の尺度（例えば、WHOのSUBI¹³⁾など）を使用してレジャー・レクリエーション活動参加者の意識をはかる研究も必要とされる。このように、参加者や施設利用者への「意識・行動」に関する研究の活性化が望まれる。

・研究対象者の限定

この展望は、先述の範囲拡大とは対極の立場にある。この限定性は特に「治療と健康増進効果」に関する研究との連携を視野に入れた時に発生する。行動変容などには、研究環境の限定とともに、研究対象者の限定も必要である。このように「治療と健康増進効果」にはラボラトリーのように制御された環境下における研究が必要となる。この状況下においても、既存の尺度の活用はもちろんのこと、そのためのツール開発や尺度開発も必要である。

・Webデータベースの活用

既刊『レクリエーション学の方法』第2章第4節において「レジャー・レクリエーション行動研究へのデータベースの活用」¹⁴⁾が論じられている。当時では、海外文献のデータベースが中心となっていたが、今日では日本語研究文献のデータベースが一般的に公開されてきている。今後も『レジャー・レクリエーション研究』はレジャー・レクリエーション分野の専門研究として紙媒体の発行だけでなく、電子媒体での公開性が求められる。また、研究者としては、CiNiiなどのデータベース検索が必至である。

・システマティック・レビューの採用

研究にエビデンスが求められる昨今、特に、データを定量化できる研究については、エビデンス・テーブル¹⁵⁾の採用を試行的に本学会として取り組む方向性も考えられる。これにより、グローバルな基準で質的向上を図ることが可能である。

・哲学的・原理的研究の促進

エビデンス・グレーディングとは異なり、哲学的・原理的研究の促進も図られる必要があると思われる。特に、レジャーやレクリエーションの定義の絞り込みや議論などについて、継続的な研究活動が必要と考えられる。

以上、6点が今後の課題や方法論の展望として考えられる。

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

収集した文献一覧

年月	記載	分類	志向	方法	主な分析	対象者	現象	レベル
199603	L&R	行動	行動変容	実験	分散分析	小学生	社会的	Ⅲ
199603	L&R	意識・行動	意識変化	前後比較	因子分析	小学生	社会的	Ⅲ
200703	L 紀要	行動	行動分析	質問紙	カイ二乗	学生	社会的	Ⅳ
200603	L 紀要	行動	行動分析	質問紙	カイ二乗	学生	社会的	Ⅳ
199800	L 紀要	行動	行動分析	質問紙	主成分	学生一・般	社会的	Ⅳ
200612	R 紀要	行動	行動分析	質問紙	Uテスト	患者	社会的	Ⅳ
199908	L&R	意識	意識分析	質問紙	KJ法	実施者	心理的	Ⅳ
200412	L 紀要	行動	尺度開発	質問紙	単純	学生	心理的	Ⅳ
200303	L 紀要	意識	意識分析	質問紙	分散分析	女子大生	心理的	Ⅳ
200107	R 紀要	意識	意識調査	質問紙	因子分析	実施者	心理的	Ⅳ
200903	L 紀要	意識・行動	行動分析	質問紙	カイ二乗	女性	地理的	Ⅳ
200803	L 紀要	意識・行動	行動分析	質問紙	カイ二乗	女性	地理的	Ⅳ
199909	L 紀要	行動	行動分析	観察・質問紙	単純	実施者	地理的	Ⅳ
199903	R 紀要	意識	行動意識	質問紙	重回帰	実施者	地理的	Ⅳ
199710	R 紀要	意識	意識分析	質問紙	単純	住民	経済的	Ⅴ
199611	L&R	意識・行動	意識分析	質問紙	出来事図	高齢者	社会的	Ⅴ
199803	L&R	行動	行動分析	質問紙	主成分	高校生	社会的	Ⅴ
200008	L&R	行動	行動分析	質問紙	カイ二乗	学生	社会的	Ⅴ
200111	L&R	意識・行動	行動分析	質問紙	カイ二乗	実施者	社会的	Ⅴ
200503	L&R	行動	行動分析	観察・文献	類型化	実施者	社会的	Ⅴ
200603	L&R	行動	行動分析	質問紙	クラスター	実施者	社会的	Ⅴ
200903	L&R	行動	行動分析	質問紙	因子分析	実施者	社会的	Ⅴ
200301	L 紀要	行動	行動分析	質問紙	単純	女子大生	社会的	Ⅴ
200800	R 紀要	意識・行動	教育効果	質問紙	単純	女子大生	社会的	Ⅴ
200500	R 紀要	行動	行動変容	質問紙	単純	生徒	社会的	Ⅴ
199908	L&R	意識	意識分析	質問紙	F検定	学生	心理的	Ⅴ
199908	L&R	意識	意識分析	質問紙	重回帰	利用者	心理的	Ⅴ
200210	L&R	意識	意識分析	質問紙	カイ因子分散	実施者	心理的	Ⅴ
200901	L 紀要	意識・行動	尺度開発	質問紙	クラスター	女子大生	心理的	Ⅴ
200611	L 紀要	行動	行動変容	実験	観察	中学生	心理的	Ⅴ
200609	L 紀要	意識	満足度	質問紙	F検定	学生	心理的	Ⅴ
200303	L 紀要	行動	尺度開発	質問紙	単純	学生	心理的	Ⅴ
200800	R 紀要	意識	教育効果	質問紙	単純	女子大生	心理的	Ⅴ
200003	R 紀要	意識	意識調査	質問紙	t検定	利用者	心理的	Ⅴ
199910	R 紀要	意識	意識分析	質問紙	t検定	学生	心理的	Ⅴ
200302	R 紀要	行動	意識生起	観・質	森下I指数	利用者	地理的	Ⅴ
200003	R 紀要	意識・行動	行動分析	観・質	カイ二乗	利用者	地理的	Ⅴ
200612	L 紀要	意識・行動	動向	文献	文献	NA	社会的	Ⅵ
200603	L&R	意識	意識分析	文献	文献	NA	心理的	Ⅵ
200603	R 紀要	意識・行動	行動変容	文献	文献	NA	心理的	Ⅵ

L&R(レジャー・レクリエーション研究) L 紀要(レジャー+意識 or 行動、紀要)

R 紀要(レクリエーション+意識 or 行動、紀要) NA(該当なし)

引用・参考文献

- 1) 田中鎮雄、「レクリエーション学の方法」、ぎょうせい（東京）、75、1987
- 2) 上岡洋晴・津谷喜一郎・高橋美絵・本多卓也・森山翔子・武藤芳照・山田有希子・眞喜志まり・下嶋聖、「レジャー活動」と「レクリエーション」に関するランダム化比較試験のシステマティック・レビュー、レジャー・レクリエーション研究 60、29-37、2008
- 3) 山口泰雄：レジャー・レクリエーション行動研究へのデータベースの活用、（日本レクリエーション学会編、「レクリエーション学の方法」：ぎょうせい）、116、1987
- 4) 前掲3） 原田宗彦・池田勝：レジャー・レクリエーション行動のとらえ方、77-84
- 5) 前掲2） p.32
- 6) 上岡洋晴・津谷喜一郎・川野因・武藤芳照・塩澤信良・宮本義久・本多卓也、臨床研究と疫学研究における論文の質を高めるための国際動向：人を対象とした研究デザインのエビデンス・グレーディング、東京農業大学集報、53(1)、81-89、2008
- 7) 上岡洋晴・鈴木英悟・栗田和弥・本多卓也、エビデンスの構築と研究方法論の向上を目的とした論文の質評価に関する考察、レジャー・レクリエーション研究、62、3-19、2009
- 8) 前掲7） 表2、p.6
- 9) 正木朋也・津谷喜一郎、エビデンスに基づく医療（EBM）の系譜と方向性：保健医療評価に果たすコクラン共同計画の役割と未来、日本評価研究、66(1)、3-20、2006 参考にした表は、表3、p.12
- 10) 前掲2） 表1、p.30
- 11) 前掲7） 表4、p.7； 表5、p.8
- 12) 前掲2） p.32
- 13) WHO（大野裕・吉村公雄 構成）、日本語版 WHO SUBI(No.840)、金子書房：東京、2001
- 14) 前掲3） pp.114-128
- 15) 前掲2） p.33、及び 前掲7） p.5、pp.7-10

活動とプログラム

高橋 伸（国際基督教大学）

要旨

1995年9月「学会の歩み」（第31号）と同時に発刊された「レジャー・レクリエーション研究」第31号から2010年3月第64号までに掲載された研究論文、学会大会発表論文のうち、「活動・プログラム」に関する研究成果をまとめ、15年間の実績やその傾向を振り返ることで、今後に向けた課題や展望について示唆を得ることを試みた。

レジャー・レクリエーション研究において、その理念を実現するものは「活動・プログラム」であり、人々の基本的な欲求や、社会の要求との関わりの中で実践されている。これらの実践の成果である研究業績をまとめることは、それぞれの活動や研究成果の評価、及び今後に向けての指針となるであろう。今回は論文や発表抄録の調査方法や研究概要の分類のみを行い十分な内容の検討迄至らなかったが、今後の研究活動に期待したい。

第1章 テーマにかかわる目的と背景

レジャー・レクリエーションにおける「活動・プログラム」は、それぞれの活動とそれに関わる「人」との関係における研究であり、より望ましい関わり方、活動のあり方を検討することを目的として行われている領域である。また、それぞれの活動は通常、社会や日常生活の中で実践される形で進められることが多く、調査によってその成果や効果を明確にするのは容易ではない。

1980年代までは科学的、客観的手法として統計学的手法が多く用いられたが、近年、人のある面だけをとらえるのではなく、人間らしさを含めた研究方法として質的方法、もしくは量的、質的双方を用いた研究、及び研究方法が重要視されてきている。

今回は学会発表を含めた「レジャー・レクリエーション研究」に掲載された研究論文、発表論文について、その研究概要を分類することで15年間の研究成果の傾向をみることとし、これ迄の研究活動における点検、評価、及び今後の研究、実践活動に資することをねらいとした。

第2章 レビューの方法

今回対象とした文献は、本学会誌「レジャー・レクリエーション研究」第31号（1995）から第64号（2010）年とし、これらに掲載されている1、研究論文（原著論文、研究資料、実践研究）、2、学会大会における大会発表論文集の発表論文（研究発表、事例報告）を分けて分類した。

この研究論文、発表論文の選定については、「活動・プログラム」が実践的研究な分野であること、様々な活動形態、多角的な視点からの研究がなされていること、さらに活動・プログラムに関わる研究成果を規定することの困難さを考慮し、直接的に「活動・プログラム」そのものについて調査、研究したものだけでなく、「活動・プログラム」の参加者への調査、組織の検討、評価法など、間接的にかかわったとみなされる論文すべてを対象とした。

分類の方法については本学会編集による「レクリエーション学の方法」（1989）の第3章「活動とプログラム」で取り上げられている調査法を基に選定した。すなわち「論文数」、「研究者」、「研究対象」、「関係する活動・プログラム」、「研究方法」、「分析方法」、「研究課題の枠組み／段階」の研究概要について分類を行った。こ

これらの分類結果を関係項目においてクロス集計を行い、発表論文については学会大会における発表論文数を5年毎にまとめ、経年的変化をみることとした。

尚、「活動」と「プログラム」の分類については、「固有の種目、あるいは活動が限定されるものを」「活動」とし、「特定の人や目的のために計画、立案された活動」を「プログラム」とした。

第3章 先行研究の特徴

1、研究論文（原著論文、研究資料、実践研究）の分類

表1 研究論文種別、筆頭研究者

筆頭研究者	研究論文種別 (%)			
	原著論文	研究資料	実践研究	合計
実践者	3	2	1	6 (22.2)
研究者	13	5	3	21 (77.7)
合計	16 (59.3)	7 (25.9)	4 (14.8)	27

表2 研究論文調査対象 (%)

対象者		活動・プログラム	
小中学生	4	キャンプ・野外活動	3
女子大生	2	スポーツ	2
大学生	1	セラピューティック・レクリエーション	1
大人 (20～)	7	遊び	1
高齢者	1	運動プログラム	1
身体障害者	2	その他	1
精神病患者	1	小計	9 (33.3)
小計	18 (66.7)	合計	27

学会誌「レジャー・レクリエーション研究」第31 (1995) ～ 64号 (2010) 全33部から、学会大会発表論文集15部および第32号「歩み」を除く17部に掲載されている原著論文、研究資料、実践研究について分類、検討した。掲載されている研究論文は全部で53件あり、「活動・プログラム」に関わるものはほぼ半数の27件 (50.9%) である。その内訳は表1にあるように原著論文16件 (59.3%) が最も多く、研究資料8件 (29.6%)、実践研究3件 (11.1%) であった。筆頭研究者は大学、研究所、短大、専門学校所属、及び大学院生の研究者が21件 (77.8%)、公園事務所や野外活動の団体、病院、会社などの実践者が6件 (22.2%) であり、研究者が8割近くであった。最も多い組み合わせは、研究者による原著論文で全体の半数近い13件 (48.1%) である。

調査対象 (表2) は参加者を中心とした「対象者」に対して実施されたものが18件 (66.7%)、「活動・プログラム」については (33.3%) であり、2:1の割合で参加者等「人」に対するものが多い。調査の対象者が多かったのが大人7件 (38.8%)、小中学生4件 (22.2%) である。活動・プログラムについて調査したものはキャンプ・野外活動が3件 (33.3%) であったが、特に目立つ特徴はみられない。

表3は直接的であれ、間接的であれ、その研究に関係する具体的な「活動・プログラム」をまとめたものである。スポーツ7件のうち、3件はウインドサーフィンに関するもの、キャンプのうち2件は台湾のキャンプに関するもので、それぞれ研究者が重複していることもあり、特に目立った傾向はみられない。

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

表3 研究論文における関係する活動・プログラム

スポーツ	7
キャンプ・野外活動	6
ニュースポーツ	3
セラピューティック・レクリエーション	2
ボランティア活動	2
遊び	2
ウォーキング	2
レクリエーション・プログラム	1
その他	2
合計	27

表4 研究論文の研究手法、分析方法 (%)

研究手法 分析方法	論理的方 法	調査的方 法	実験的方 法	事例・ 開発的 方法	計
統計的	0	8	1	0	9 (33.3)
事例的	2	8	0	5	15 (55.6)
併用	0	3	0	0	3 (11.1)
	2 (7.4)	19 (70.3)	1 (3.7)	5 (18.5)	27

次に研究方法と分析方法（表4）については、質問紙、参与観察、インタビュー、文献・資料、測定機器（心拍数計、歩数計）等による調査的方法が19件（70.3%）で全体の7割を占めている。調査的方法のうち7件（25.9%）は質問紙と機器測定、参与観察とインタビューなど、複合的にデータ収集したものであった。分析手法は参与観察、面接・聞き取り調査、KJ法、文献資料などの事例的手法が全体の半数以上で使われており、単純集計、分散分析、クロス集計、因子分析、クラスター分析等の統計的手法は3分の1である（表4）。併用を含めると全体の3分の2が質的な分析方法を採用している。

さらに、研究方法と課題に対してどの段階でどのようなねらいをもった研究を行ったかを分類したものが表5である。参加実態や状況、事例分析等に関する実施段階の実例報告が13件（48.1%）と全体のほぼ半数であり、態度の変容や技能の向上の測定に関する教育効果が5件（18.5%）、活動やプログラムの歴史の変遷が4件（14.8%）と続く。研究方法を含めた分類で、最も多かった実例報告13件のうち11件は調査的方法によるものであった。

全体として、特にはっきりとした特徴はみられないが、調査的方法を用いた事例的分析方法による研究が多く、事例・開発的方法を使った歴史の変遷についての研究3件と調査的方法を使った教育効果の研究4件に多少のまとまりがみられた。

表5 研究論文、研究課題の枠組み

研究方法	基礎的段階					査定段階				計画段階				実施段階		検証段階			合計					
	歴史の変遷	概念規定	開発理念	分類	構造	資料収集	測定法	需要予測法	点検法	診断法	目標設定法	活動分析と選定法	失敗要因と点検法と排除法	マニュアルの作製法	判定基準の作製法	ブレゼンテーション法	実例報告	開発報告		リーダーシップの分析	福祉効果	教育効果	治療効果	波及効果
論理的方法		1	1																					2
調査的方法	1			1			1										11				4	1		19
実験的方法																					1			1
事例・開発研究	3																2							5
合計	4	1	1	1			1										13				5	1		27

表6 学会発表の発表者・研究方法

	研究方法 (%)				
	論理的	調査的	実験的	事例・開発	
実践者	3	31	0	35	69 (34.7)
研究者	18	86	1	25	130 (65.3)
合計	21 (10.6)	117 (58.8)	1 (0.5%)	60 (30.2)	199

表7 学会発表における調査対象（主要なもの）

調査対象者	活動・プログラム	
大人	51	キャンプ・野外活動 15
大学、短大、専門学校生	20	レクリエーション活動 12
高齢者	19	スポーツ 5
小・中学生	7	自然活動 3
幼児・園児	7	体操・運動 3
障害者	4	
高校生	4	

2、学会大会発表論文の分類

「レジャー・レクリエーション研究」学会大会発表論文集は、1995年9月、第25回記念大会発表論文集（第31号）から2009年11月第39回学会大会発表論文集（第63号）までの15冊に掲載されている発表論文すべてを分類し概観した。尚、第25回大会では研究発表と実践報告を分けて発表を行っているが、それ以後はなされていないので全体を分けずに分類した。

学会大会15回にて374件の発表論文が掲載され、その内「活動・プログラム」に関するものはほぼ半数の199件（53.2%）であった（表10）。発表者については、研究者が130件（65.3%）、実践者が69件（34.7%）で、ほぼ2：1の割合となっており、研究論文と同様に研究者が中心となっている（表6）。

研究方法は調査的方法が全体の6割（58.8%）近く、事例・開発研究の3割（30.2%）を合わせると全体の9割である。研究者には論理的、調査的研究方法が多く、実践者には事例・開発的方法の研究が多い。

調査対象は数の多いものだけを表7に表した。やはり大人が全体のほぼ1/4の51件（25.6%）と多く、研究者と関わりがあると思われる大学、短大等の学生がほぼ1割、20件（10.1%）と続く。活動・プログラムではキャンプ・野外活動15件（7.5%）で最も多く、研究論文と同様であり、高齢者に対するレクリエーション・プログラムが13件（6.5%）と続いている。

研究発表における具体的な活動は表8のとおりである。活動の定番とも言えるキャンプ・野外活動34件（17.1%）、レクリエーション活動20件（10.5%）、ニュースポーツ16件（8.0%）と続き、ボランティア活動の8件（4%）は注目される。

表8 学会発表に関係する活動・プログラム（主要なもの）

キャンプ・野外活動	34
レクリエーション活動	20
スポーツ	18
ニュースポーツ	16
余暇活動	13
体操・運動	12
ボランティア活動	8
観光・旅行	7

表9 学会発表における研究方法と研究課題の枠組み

研究方法	基礎的段階					査定段階				計画段階				実施段階			検証段階			合計				
	歴史の変遷	概念規定	開発理念	分類	構造	資料収集	測定法	需要予測法	点検法	診断法	目標設定法	活動分析と選定法	失敗要因と点検法と排除法	マニュアルの作製法	判定基準の作製法	プレゼンテーション法	実例報告	開発報告	リーダーシップの分析		福祉効果	教育効果	治療効果	波及効果
論理的方法	6		6						1								7	2						21
調査的方法																	95			3	19			117
実験的方法																					1			1
事例・開発研究	2																54	2			1			60
合計	8		6						1								156	4		3	21			199

個々の研究方法と、課題のどの段階について研究を行ったかを分類したものが表9である。調査的方法、または事例・開発研究を用いた実例報告が圧倒的に多く156件（78.4%）約8割であり、発表論文全体でも約4割（41.7%）を占めている。また、調査的手法を使って態度の変容や技能の向上の測定を行った教育効果を検証する研究が19件（9.5%）と約1割あった。基礎的段階において資料文献を基にした推論的研究方法である論理的方法を用い歴史の変遷を扱った研究と、新しい活動やプログラムの開発意義に関する研究がそれぞれ6件（3.0%）であった。

表10は学会大会毎の発表論文数を含めた、調査対象、研究方法を集計したものである。まず、調査対象は対象者が約6割、活動・プログラムが約3割で、前記研究論文の対象者と同じ2:1の割合であり、研究方法も調査的方法約6割、事例・開発研究3割で同様である。「活動・プログラム」における研究対象者、研究方法についての傾向と見ることができよう。

さらに5大会毎に合計を出し経年的変化をみってみる。第25～29回をI期、第30～34回をII期、第34～39回をIII期としてそれぞれについて集計した。まず全体の発表総数は減少の傾向にある。I期148件からIII期101件とほぼI期の1/3減である。活動・プログラムの抄録総数に関してはII期からIII期に目立った減少傾向みられない。調査対象は対象者、活動・プログラムともに減少傾向にあり、特に活動・プログラムにその傾向が大きい。一方で第34回大会（1996）からIII期にかけて関係団体、観光地、特定地域、新概念などの「その他」が新たに増加してきており、新しい研究対象が出現し、レジャー・レクリエーション研究の対象範囲が広く、または多様化してきていることが伺える。

第4章 今後の研究の課題とその方法論の展望

前章の分類結果を踏まえながら、今後の課題や展望を述べることにする。

まず、研究論文、発表論文における研究者、論文の種類、調査対象を総合してみる。全体として大学関係者を中心とした研究者による対象者に対する調査を行った研究が主流であるが、発表論文では実践者による事例・開発研究の報告が、研究者よりも多くなっている。レジャー・レクリエーションは「活動・プログラム」という実践活動を通して人々の豊かな生き方を目指す分野であることをふまえると、さらなる実践者の増加を望み、今迄以上に研究者、実践者双方が協力し合い、理論的裏付けのある実践活動を推進してゆく

ことが望まれる。

具体的な活動種目やプログラムについては明確な傾向は見られなかったが、見方を変えれば多方面にわたっていることがその特徴としてあげられるであろう。この分野は実践活動を通じて社会の様々な人々にかかわっており、その欲求やニーズの範囲も広い。したがって多種多様な活動に及んでいることは、活動の幅を広げ、社会の需要にも対応していると見なすことができるのではないだろうか。

研究方法については、研究論文でも学会発表でも、調査的方法と事例・開発研究を扱った実施段階における事例報告が多く取り上げられている。その中でも調査的方法による事例報告が、学会発表では約8割占めていることをみると、研究方法に偏りの傾向があるとみられる。事例報告は主に現場での現状分析であり、理論と実践のバランスを考えると、今後の課題であるとみなされよう。

「活動・プログラム」における研究論文と発表論文を、その研究概要の分類によって15年間の特徴をみてきたが、今後のレジャー・レクリエーション研究活動の活性化と研究領域の広がりを目指す方策としては、情報量、利便性の格段に高くなったインターネットでの情報収集や、新たに開設された本学会のホームページの活用はもちろんのことであるが、1987年に本学会編集により刊行された「レクリエーション学の方法」、またはこれに類するような情報処理のガイドラインを示す文献や資料が望まれる。研究者にせよ、実践者にせよ、高い妥当性と信頼性を持った研究が誰でも容易にできる環境整備が、これからの発展に向けた方策のひとつとなろう。

表 10 学会大会別研究発表内容分類 (%)

学会大会		発表論文数		調査対象			研究方法			
		論文総数	活動・プログラム総数	対象者	活動・プログラム	その他	論理的	調査的	実験的	事例・開発研究
第25回	31号	37	30	7	23	0	2	6	0	22
第26回	34号	23	13	11	2	0	1	10	0	2
第27回	37号	30	15	9	6	0	1	8	0	6
第28回	39号	31	15	12	2	1	0	11	0	4
第29回	41号	27	17	15	2	0	0	15	0	2
I期第25～29回		148	90	54	35	1	4	50	0	36
第30回	43号	29	13	11	2	0	0	10	1	2
第31回	46号	27	11	9	2	0	2	9	0	0
第32回	49号	17	9	6	3	0	0	4	0	5
第33回	51号	25	10	6	4	0	1	7	0	2
第34回	53号	27	14	5	4	5	5	6	0	3
II期第30～34回		125	57	37	15	0	8	36	1	12
第35回	55号	19	9	4	3	2	1	5	0	3
第36回	57号	26	13	8	3	2	2	8	0	3
第37回	59号	15	3	1	1	1	1	0	0	2
第38回	61号	21	18	14	2	2	4	12	0	2
第39回	63号	20	9	6	1	2	1	6	0	2
III期第35～39回		101	52	33	10	9	9	31	0	12
		374	199	124	60	15	21	117	1	60
			(53.2)	(62.3)	(30.2)	(7.5)	(10.6)	(58.8)	(0.5)	(31.2)

参考文献

- 1) 日本レジャー・レクリエーション学会編、レクリエーション学の方法、ぎょうせい、1987
- 2) 小田利勝、社会調査法の基礎、プレアデス出版、2009
- 3) 轟亮他、入門社会調査法、法律文化社、2010
- 4) (財)日本レクリエーション協会、レクリエーション支援の基礎、日本レクリエーション協会、2007
- 5) 池田勝他、レクリエーションの基礎理論、杏林書院、1989

サービスと運営管理

土屋 薫 (江戸川大学)

要旨

期間内の学会誌に掲載されている「サービスと運営管理」に関わる文献は、原著論文に限れば、1年に1本に満たない割合でしか発表されていない。また、レジャー産業自体のトレンドも反映されていない。これを学会大会における口頭発表で捉えてみると、関連文献の総数は、比率の上では原著論文より3倍以上多くなっている。このことは、研究テーマとして速報性の重要さが意識された結果と見ることができる。

同じくこの分野に関する学会大会での口頭発表数の経年変化を見ると、年によって大きなバラつきがある。これは学会大会ごとのテーマとも関連があるが、学会として、この分野が必ずしも主要な領域となり得ていないことを意味している。

今後の研究上の課題は、乖離しつつある学会の方向性と行政や企業の運営あるいはマーケティングとの間を埋めるところにある。

その課題克服の方向性を探るために、期間内に掲載された文献について、原著論文や研究資料といった細目に関係なくそのテーマに沿って分類してみると、ベスト3は上から自然分野(27件)、ついでスポーツ・身体分野(24件)、教育分野(23件)であった。この経年変化を見ると、自然分野とスポーツ・身体分野との「せめぎあい」の中に教育分野が位置していることがわかる。これは学会誌の編集方針を表した結果と捉えられるが、一方で投稿論文の偏りを反映していることも予想される。実際には、この3分野における学会大会の口頭発表数の経年変化は、学会誌に見られる文献比率よりも偏りが少ない。

したがって、学会大会と学会誌の研究成果を結ぶことが問題状況の是正につながる。具体的には、業界関係者や行政担当者、現場実践者の参加しやすい、あるいは参加意義を強く感じさせるような形で研究会活動を活性化できれば、速報性を保持しつつ、より精緻な信頼性・妥当性を実現した研究成果を社会に還元することができる。

第1章 緒言

本論は「サービスと運営管理」の観点から、レジャー・レクリエーション研究の動向を整理し、その将来展望を見出すことを目的としている。また、「学会の歩み 第1号」が刊行されて以降、1996年から現在に至る時期をその対象としている。具体的には、観光商品としてのレジャーの傾向、あるいは行政の取り組み、組織運営の動向といったテーマを想定している。つまり、担い手としては企業だけでなく行政も視野に入れている。また、マーケティング関連、観光全般に関わる研究も扱うことを意味する。

第2章 レビューの方法

1. 分析の枠組み

本論は「サービスと運営管理」という分野を扱うため、分析の都合上、対象期間のレジャー市場についても概観しておく必要がある。したがって、ここでは『レジャー白書』(1996～2000年：財団法人余暇開発センター編集発行、2001～2002年：財団法人自由時間デザイン協会編集発行、2003～2009年：財団法人社会経済生産性本部編集発行)をレビューした。

2. レビューの対象

本論では、研究動向のレビューとして、学会誌『レジャー・レクリエーション研究』に掲載された関連分野の文献を整理した。その際、学会大会発表論文集は別枠で取り扱うこととした。

第3章 先行研究の特徴や動向

1. レジャー市場の概況

この15年間のレジャー市場は3～4年ごとのトレンドとして把握することができる。

1995年からは、バブル経済崩壊後の深刻な経済状況を乗り越えるため、様々な模索が見られた。具体的には、①セルフ化②ネットワーク化③複合化といった視点で整理できる^{1) 2)}。セルフ化とネットワーク化は構造改革による低下価格化を実現し、異業種間の協業化・複合化によって経営効率や商品・サービスの付加価値が高められた³⁾。またそれは、パワーセンターあるいはモールといった形を取っていった。衛星デジタルテレビ放送やインターネットの普及、シネコン（シネマコンプレックス）、プリクラ（プリント倶楽部）の登場、ディスカウントストア「ドンキホーテ」が脚光を浴びるとともに、ガーデニングが人気を呼んだのもこの時期である⁴⁾。

1999年頃からは、特に①時間消費性②コミュニケーション重視といった方向性が見られるようになった。「 Junk 堂書店」における店内へのテーブルやイスの配置、あるいは近畿日本ツーリストの「クラブ・ツーリズム」のような「会員制」のサービス提供もこの流れの中で捉えることができる⁵⁾。また、「携帯電話市場」や「ペット市場」、スーパー銭湯に代表される「温浴施設」など、新たなレジャー市場創出もこの文脈から捉えられる⁶⁾。2001年は「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」と「東京ディズニーシー」の2つの大規模テーマパークがオープンしたが、9月11日にアメリカで同時多発テロ事件が起きたため、旅行業全体は大幅に状況が悪化した⁷⁾。

2002年頃からは、低価格化の進展によるデフレ不況を克服するために、新たなビジネスモデルを模索し、新たな市場を開拓する動きが出てきた⁸⁾。韓流ブームや「PS2」の中国進出、インバウンドへの取り組みとしての「ビジットジャパンキャンペーン」もその結果として捉えることができる⁹⁾。また、各スポーツの子供市場への参入やモスバーガーの「ニッポンのバーガー匠味」シリーズ・高級ビュフェ「柿安三尺三寸箸」に見られるような外食産業の高級ブランド化、「脳トレ」ブームに見られるシニア化もこの流れで理解できる¹⁰⁾。この動きの背景には、これまでレジャー産業牽引の柱の一つとされてきた若年層のレジャー離れが挙げられる^{11) 12)}。

2006年頃からは、オイルサーチャージ（燃油特別付加運賃）やリーマンショック、新型インフルエンザなど、レジャー産業にとって大きな障壁が新たに登場した¹³⁾。ただもちろん、ニンテンドーの「Wii」の登場や、「BIG」と「miniBIG」で売上高を大きく伸ばしたスポーツ振興くじ toto（トト）、高速道路料金値下げといった明るい材料も存在する。また2009年は「電気自動車元年」と言われ、新市場としても注目されている¹⁴⁾。

2. 『レジャー・レクリエーション研究』の動向

期間内の学会大会抄録を除いた学会誌第33号から第64号に掲載されている文献114件（学会報告も含む）のうち、「サービスと運営管理」に関わる文献は26件（22.81%）となっている。原著論文に限れば全38件（33.93%）のうち、11件（9.65%）となっている¹⁵⁻²⁵⁾（表1）。

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

表1 期間内の「サービスと運営管理」関連分野原著論文リスト

巻	著者	研究題目	発行年
35号	杉本文・松田義幸	自由学芸教育のモデルとしてのグレート・ブックス・セミナー	1996年
36号	陳盛雄・栗田和弥・麻生恵	台湾におけるキャンプの変遷に関する研究、一キャンプに関する諸団体の動きとそのキャンプ活動を中心として一	1997年
40号	赤堀方哉・山口泰雄	民間レクリエーション団体会員の継続意欲に関する研究	1999年
44号	岡村泰斗・飯田稔・関智子	子ども長期自然体験村事業に関する評価研究、一参加者の達成動機、友人関係、自然認識に着目して一	2001年
44号	赤堀方哉	NPO法の受容が民間レクリエーション団体に与えた影響に関する一考察	2001年
44号	陳盛雄・栗田和弥・麻生恵	台湾におけるキャンプの発展に影響を与えた諸要素に関する研究	2001年
45号	土居守	ホテル・リッツにみるホスピタリティ序論、一ホスピタリティとサービスの関連について一	2001年
52号	平野貴也	黎明期におけるウインド・サーフィンの普及に関する研究、一日本ウインドサーフィン協会の活動を中心に一	2004年
60号	長積仁・佐藤充宏・松永敬子・榎本悟	地域文化に対する享受能力がコミュニティへの帰属意識に及ぼす影響、一地域文化を活かしたまちづくりの有効性の検討一	2008年
60号	陳智益・下嶋聖・栗田和弥・麻生恵	台湾国家公園の発展と多様な主体の参画に関する研究	2008年
64号	陳智益・下嶋聖・栗田和弥・麻生恵	台湾・金門国家公園における公園事業と多様な主体参画の可能性	2010年

割合で見ると必ずしも少ないようには見えないが、15年間にのべ18冊刊行された学会誌に、関連原著論文が11件しか無いということは、1年に1本に満たない程度の割合でしか研究成果が発表されていないことを示している。また、先に見たレジャー産業自体のトレンドもほとんど取り上げられていない。

また学会大会における発表で捉えてみると、口頭発表数は340件にも上る。原著論文が11件だったのと比べると、その絶対数は多い。また全発表数340件（口頭発表に限る）のうち、「サービスと運営管理」に関わる文献は101件（29.70%：教育施設の運営は除く）となっており（表2）²⁶⁻¹²⁶、比率の上でも3倍以上多くなっていることがわかる。このことは、研究テーマとして速報性の重要さが意識されている結果とも取れる。

表2 関連テーマ発表数の経年変化

年次	開催年	会場校	発表総数	関連テーマ発表数
第26回大会	1996年	奈良女子大	24	1
第27回大会	1997年	東京農業大	30	11
第28回大会	1998年	福岡大学	31	15
第29回大会	1999年	淑徳大学	27	9
第30回大会	2000年	明治大学	29	10
第31回大会	2001年	千葉大学	27	6
第32回大会	2002年	大分大学	17	5
第33回大会	2003年	東北福祉大学	27	7
第34回大会	2004年	立教大学	27	5
第35回大会	2005年	国際基督教大学	19	6
第36回大会	2006年	平安女学院大学	26	7
第37回大会	2007年	東洋大学	15	4
第38回大会	2008年	新潟医療福祉大学	21	4
第39回大会	2009年	江戸川大学	20	11
			340	101

またこの分野に関する発表数の経年変化を見ると（図1）、年によって大きなバラツキのあることがわかる。これは学会大会ごとのテーマとも関連があると考えられるが、学会として、この分野が必ずしも主要な領域となっていないことは否めないだろう。

また必ずしも資料として妥当であるとは言えないが、学会誌への広告数と比較してみると（B5版1ページに対して2件として換算）、2002～2003年を境にして、2004年からは掲載数が極端に落ち込んでいる。このことは景気の動向も考慮に入れないといけないが、行政も含め企業や観光業のマーケティングあるいは運営に関わる側の求めるものと学会の方向性とは乖離してきたことを示していると言えないだろうか。

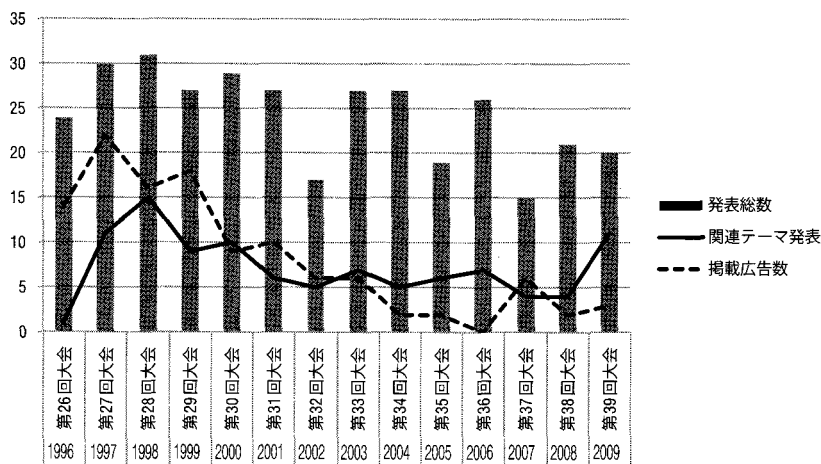


図1 学会大会における「サービスと運営管理」関連分野発表数

第4章 今後の研究の課題とその方法論の展望

前章末で見た通り、今後の研究上の課題は、学会の方向性と行政や企業の運営あるいはマーケティングと乖離してきたところに見出せる。これを是正する上で必要な点について、最後にもう一度学会誌（学会大会発表論文集を除く）に掲載された文献の分野について整理してみたい。

期間内の33号から64号までの計18冊に掲載された文献を、原著論文や研究資料といった細目に関係なく、そのテーマに沿って分類したところ、ベスト5は上から自然分野（27件）、ついでスポーツ・身体分野（24件）、教育分野（23件）、療養分野（14件）、遊び分野（13件）であった（重複してカウントしたので、必ずしも総計は全数にならない）。

このうち上位3つの経年変化をまとめたのが図2である（36号と54号はどの分野の文献も無かったため除いた）。これを見ると、自然分野とスポーツ・身体分野との「せめぎあい」の中に教育分野の文献が位置していることがわかる。これは当然学会誌の編集方針を表した結果として捉えられるが、反面、投稿論文の偏りを反映していることも考えられる。

ここで同様の集計を学会大会の口頭発表に関して行った結果が図3である（図2と軸を合わせるため、1998年および2005年は除いた）。

これを見ると、学会誌に見られる文献数よりも偏りが少ない。学会大会における口頭発表と学会誌における文献掲載の差異を考えると、それは研究成果の速報性よりも精緻な信頼性・妥当性に見出せる。両者の溝を埋めることこそ今後求められることであり、そのためには、年に1度の学会大会の間を埋める研究会活動の推進が求められるであろう。業界関係者や行政担当者、現場実践者が参加しやすい、あるいは参加意義を強く感じる研究会活動の実現こそ今求められているのではないだろうか。

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

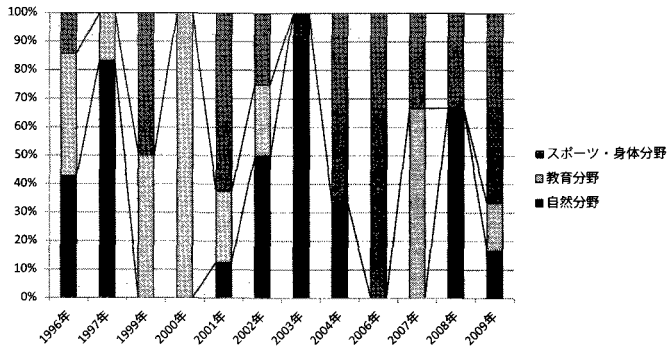


図2 学会誌に見られる主要3分野の文献数の経年変化

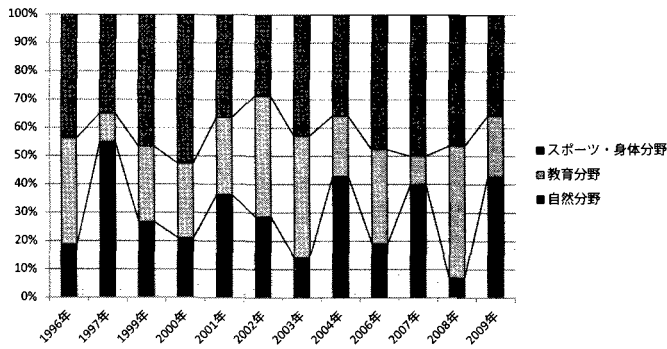


図3 学会大会に見られる主要3分野の発表件数の経年変化

本来ならば、本学会の研究のあり方自体を検討する上で、“Journal of Leisure Research” に代表されるような海外の研究誌の状況や現場の実態と比較して相対化することが望ましいが、紙幅の都合上、別の機会に譲らなければならない点ご了承ください。

文 献

- 1) 財団法人余暇開発センター、レジャー白書 1996 : 78-79、1996
- 2) 財団法人余暇開発センター、レジャー白書 1998 : 82-83、1998
- 3) 財団法人余暇開発センター、レジャー白書 1999 : 78-82、1999
- 4) 財団法人余暇開発センター、レジャー白書 1997 : 76-77、1997
- 5) 財団法人余暇開発センター、レジャー白書 2000 : 83-86、2000
- 6) 財団法人自由時間デザイン協会、レジャー白書 2001 : 5-8、2001
- 7) 財団法人自由時間デザイン協会、レジャー白書 2002 : 3-5、99-101、2002
- 8) 財団法人社会経済生産性本部、レジャー白書 2003 : 3-6、95-98、2003
- 9) 財団法人社会経済生産性本部、レジャー白書 2004 : 2-8、53-55、2004
- 10) 財団法人社会経済生産性本部、レジャー白書 2005 : 2-4、47-49、70-73、2005
- 11) 財団法人社会経済生産性本部、レジャー白書 2006 : 1-3、47-50、68-69、2006
- 12) 財団法人社会経済生産性本部、レジャー白書 2007 : 2-4、47-49、2007
- 13) 財団法人社会経済生産性本部、レジャー白書 2008 : 3-4、45-47、2008

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 14) 財団法人社会経済生産性本部、レジャー白書 2009：45-47、78-80、2009
- 15) 杉本文・松田義幸、自由学芸教育のモデルとしてのグレート・ブックス・セミナー、レジャー・レクリエーション研究 35：1-9、1996
- 16) 陳盛雄・栗田和弥・麻生恵、台湾におけるキャンプの変遷に関する研究 ～キャンプに関する諸団体の動きとそのキャンプ活動を中心として～、レジャー・レクリエーション研究 36：1-17、1997
- 17) 赤堀方哉・山口泰雄、民間レクリエーション団体委員の継続意欲に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 40：25-33、1999
- 18) 岡村泰斗・飯田稔・関智子、子ども長期自然体験村事業に関する評価研究 ～参加者の達成動機、友人関係、自然認識に着目して～、レジャー・レクリエーション研究 44：1-9、2001
- 19) 赤堀方哉、NPO 法の受容が民間レクリエーション団体に与えた影響に関する一考察、レジャー・レクリエーション研究 44：27-34、2001
- 20) 陳盛雄・栗田和弥・麻生恵、台湾におけるキャンプの発展に影響を与えた諸要素に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 44：35-45、2001
- 21) 土居守、ホテル・リッツにみるホスピタリティ序論 ～ホスピタリティとサービスの関連について～、レジャー・レクリエーション研究 45：1-10、2001
- 22) 平野貴也、黎明期におけるウインド・サーフィンの普及に関する研究 ～日本ウインドサーフィン協会の活動を中心に～、レジャー・レクリエーション研究 52：11-22、2004
- 23) 長積仁・佐藤充宏・松永敬子・榎本悟、地域文化に対する享受能力がコミュニティへの帰属意識に及ぼす影響 ～地域文化を活かしたまちづくりの有効性の検討～、レジャー・レクリエーション研究 60：15-27、2008
- 24) 涂智益・下嶋聖・栗田和弥・麻生恵、台湾国家公園の発展と多様な主体の参画に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 60：55-69、2008
- 25) 涂智益・下嶋聖・栗田和弥・麻生恵、台湾・金門国家公園における公園事業と多様な主体参画の可能性、レジャー・レクリエーション研究 64：23-38、2010
- 26) 谷戸一雅・高橋和敏、キャンプ・アーメックが東京YMCA 長期キャンプに及ぼした影響、レジャー・レクリエーション研究 34：98-99、1996
- 27) 高垣正道・高橋和敏、自閉症児キャンプにおける問題点 ～過去の実施過程から～、レジャー・レクリエーション研究 37：48-51、1997
- 28) 上野幸・山崎律子、高齢者施設におけるレクリエーション活動とその問題点 ～とくに有料老人ホームの場合(事例報告)～、レジャー・レクリエーション研究 37：52-55、1997
- 29) 嶋野弥名子・栗田和弥・麻生恵、群馬県川場村友好の森における「やま(森林)づくり塾自然教室」について、レジャー・レクリエーション研究 37：82-83、1997
- 30) 岩間貴之・栗田和弥・麻生恵、横浜市緑区中山中学校区域内におけるワークショップ方式による花と緑の市民まちづくり地図製作、レジャー・レクリエーション研究 37：84-87、1997
- 31) 油井正昭・古谷勝則、世界各国における自然保護地域の指定動向について、レジャー・レクリエーション研究 37：90-93、1997
- 32) 養茂寿太郎、レジャー・レクリエーション環境としての公園の考察、レジャー・レクリエーション研究 37：94-97、1997
- 33) 金子忠一、バンクーバーにおける公園レクリエーションプログラムの現状、レジャー・レクリエーション研究 37：98-99、1997
- 34) 早川章治・鈴木誠・服部勉、鮮魚センターを中心とした寺泊町観光の形成に関する史的考察、レジャー・レクリエーション研究 37：100-103、1997
- 35) 笠木秀樹、岡山県における農村リゾートの研究、レジャー・レクリエーション研究 37：104-107、1997
- 36) 原田尚幸、参加型スポーツイベントの運営に関する研究 ～特にトライアスロン大会に対するイメージについて～、レジャー・レクリエーション研究 37：110-113、1997
- 37) 陳盛雄・川村協平・前野淳一郎、「キャンプ場の個性的な魅力づくり」に関するアンケート調査 ～日本・台湾・ヨーロッパのキャンプ場の景観写真による～、レジャー・レクリエーション研究 37：128-131、1997
- 38) 鈴木秀雄、新たなレクリエーション運動の展開に向けての人材養成 ～(社)横浜市レクリエーション協会の事例を中心に～、レジャー・レクリエーション研究 39：20-23、1998
- 39) 寺島善一、英国のレジャー政策と政府・公的機関の関与 ～その歴史的展開と思想的背景を中心に～、レジャー・レクリエーション研究 39：24-27、1998

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 40) 廣田治久・高橋和敏、レクリエーションの視点から見たマサチューセッツ湾植民地の意義 ～アメリカ公共レクリエーションの源流として～、レジャー・レクリエーション研究 39: 28-31、1998
- 41) 立木宏樹、スポーツ応援行動に関する社会学的研究 ～Jリーグにおけるアビスパサポーターを中心に～、レジャー・レクリエーション研究 39: 54-55、1998
- 42) 高橋伸・橋本和秀・廣田治久、Camp O-AT-KA における伝統性 ～指導者としての参加経験をもとに～、レジャー・レクリエーション研究 39: 64-67、1998
- 43) 巖謙烈・大堀孝雄・新出昌明、スペシャルオリンピックス会員におけるボランティアのイメージについて、レジャー・レクリエーション研究 39: 76-79、1998
- 44) 芳賀健治、日本の医療・福祉の現場で実践されるレクリエーションのアセスメントと評価の視点に関する研究 ～日本の実態に合わせたアセスメントと評価の模索～、レジャー・レクリエーション研究 39: 80-83、1998
- 45) 鈴木英悟・大堀孝雄・西野仁、スペシャルオリンピックス会員のボランティア活動に対する意識について ～参与形態によるボランティア活動と組織の機能の評価～、レジャー・レクリエーション研究 39: 84-87、1998
- 46) 塚本珪一、都市における自然観察会について ～京都御苑での事例～、レジャー・レクリエーション研究 39: 88-89、1998
- 47) 小泉勇治郎、地域づくりと農村リポート ～愛媛県上浮穴郡久万町の事例を通して～、レジャー・レクリエーション研究 39: 90-93、1998
- 48) 笠木秀樹、グリーンツーリズムの振興に関する一考察 ～バイエルン州における現状と課題～、レジャー・レクリエーション研究 39: 98-101、1998
- 49) 栗田和弥・植竹薫、市民NPOによる緑地の利用・管理の参加者誘致圏について ～東京都町田市かしの木山自然公園を事例に～、レジャー・レクリエーション研究 39: 106-107、1998
- 50) 安田直由、子どもスポーツ組織における加盟・継続・脱退を規定する要因論的検討 ～スポーツ少年団に着目して～、レジャー・レクリエーション研究 39: 108-109、1998
- 51) 山崎律子・上野幸、高齢者デイサービスにおけるプログラムングの問題点 ～とくにレクリエーション担当者からみた場合～、レジャー・レクリエーション研究 39: 120-123、1998
- 52) 大隈節子、バーンアウト過程に関する研究 ～ソーシャル・サポートとの関連で～、レジャー・レクリエーション研究 39: 124-127、1998
- 53) 赤堀方哉・安部保子、民間レクリエーション団体のNPO法受容過程に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 41: 22-25、1999
- 54) 堀田哲一郎、アメリカの療法的レクリエーション専門職団体における立法運動の展開 ～2つの団体の見解の差異を中心に～、レジャー・レクリエーション研究 41: 52-55、1999
- 55) 立木宏樹・秋吉嘉範、福祉施設におけるレクリエーション指導に関する研究 ～レクリエーション援助者に注目して～、レジャー・レクリエーション研究 41: 56-57、1999
- 56) 笠原秀樹、高齢者施設におけるアクティビティの研究、レジャー・レクリエーション研究 41: 58-59、1999
- 57) 清水一巳・大谷義博・山田力也、高校野球における「甲子園神話」の再生産過程 ～潜在的カリキュラム論に依拠して～、レジャー・レクリエーション研究 41: 66-69、1999
- 58) 境広志、レクリエーションの視点からみた地域テニス活動の現状と課題 ～千葉テニス協会ベテラン委員会の事例を通して～、レジャー・レクリエーション研究 41: 74-75、1999
- 59) 廣田治久・栗原邦秋、地域活動と少年・少女キャンプについての実践報告 ～江東区少年の船の場合～、レジャー・レクリエーション研究 41: 92-93、1999
- 60) 栗田和弥・植竹薫、自然とふれあい活動への参加者誘致圏について ～東京都町田市かしの木山自然公園を事例に～、レジャー・レクリエーション研究 41: 98-101、1999
- 61) 田中伸彦、森林観光・レクリエーションに関わる資源・施設の地域ポテンシャル算出に関する考察 ～笠間地域を対象としたケーススタディ～、レジャー・レクリエーション研究 41: 102-105、1999
- 62) 鈴木秀雄・鈴木英悟、余暇教育学の視点から捉える啓発活動 ～玄倉川水難事故後の野外活動に対する啓発事例を中心に～、レジャー・レクリエーション研究 43: 18-21、2000

〔Ⅲ〕 特別企画 「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 63) 鈴木英悟、マクロ的視点からみるセラピューティックレクリエーション ～玄倉川事故の教訓から生まれた啓発活動を中心に～、レジャー・レクリエーション研究 43 : 38-41、2000
- 64) 山崎律子・高橋和敏、日本における公園活動とレクリエーション運動の統合の必要性について ～アメリカにおける現行事例に学んで～、レジャー・レクリエーション研究 43 : 46-47、2000
- 65) 芳賀健治、高齢者政策におけるレクリエーションの位置づけ ～日本とオーストラリアの比較から～、レジャー・レクリエーション研究 43 : 56-59、2000
- 66) 赤堀方哉、民間レクリエーション団体のNPO法受容過程に関する研究 (2)、レジャー・レクリエーション研究 43 : 60-63、2000
- 67) 長岡雅美・永松昌樹・宮崎千枝、レクリエーション・スポーツクラブの活動状況と意識に関する研究 ～クラブ活動への参加状況と加入状況による意識の違いについて～、レジャー・レクリエーション研究 43 : 72-75、2000
- 68) 竹田隆行・松永敬子、自治体の生涯スポーツイベント開催までの経緯に関する一考察、レジャー・レクリエーション研究 43 : 76-77、2000
- 69) 芝誠貴・前橋明、レクリエーション活動を用いた育児支援プログラム ～親子運動プログラムと母親のレクスコア～、レジャー・レクリエーション研究 43 : 88-93、2000
- 70) 小泉勇治郎、西四国観光ネットワーク「ルーラルポケット」に関する一考察、レジャー・レクリエーション研究 43 : 110-113、2000
- 71) 嵯峨寿、ナイキCMにみるスポーツの遊戯性とrecreate効果、レジャー・レクリエーション研究 43 : 116-117、2000
- 72) 上野幸・山崎律子・高橋和敏、高齢者の余暇活動について (3) ～高齢者における類型化と高齢者に対するレクリエーション援助方法の確立に向けての事例研究～、レジャー・レクリエーション研究 46 : 13-16、2001
- 73) 茅野宏明、セラピューティックレクリエーションサービスモデルの実践に関する研究 (1) ～アセスメント&プログラム計画 (AP) シートの試案～、レジャー・レクリエーション研究 46 : 17-20、2001
- 74) 山本存、社会福祉領域からみたレクリエーション・余暇 ～ホームヘルパー養成講習受講者と福祉ボランティア実践者の事例から～、レジャー・レクリエーション研究 46 : 21-24、2001
- 75) 古谷勝則・油井正昭、日光国立公園尾瀬地区における自動車の利用規制について、レジャー・レクリエーション研究 46 : 43-46、2001
- 76) 長岡雅美・永松昌樹・森知香、児童の自由時間における遊びに関する事例研究 ～自然学校における自由時間の行動について～、レジャー・レクリエーション研究 46 : 91-94、2001
- 77) 高橋伸、戦前のセツルメント事業におけるキャンプ活動 ～興望館セツルメントに見るキャンプ活動について～、レジャー・レクリエーション研究 46 : 101-102、2001
- 78) 谷口勇一、ニュースポーツの変容過程に関する研究 (3) ～変容に伴う支援団体間の有機的連携の可能性～、レジャー・レクリエーション研究 49 : 44-45、2002
- 79) 植木順子、長期療養型病床群におけるTRの実例、レジャー・レクリエーション研究 49 : 54-57、2002
- 80) 小池和幸、老人病院におけるレクリエーションサービス形態とレクリエーションワーカーのスキルについての考察 ～K老人病院におけるリハビリテーションとレクリエーションの取り組みより～、レジャー・レクリエーション研究 49 : 58-61、2002
- 81) 茅野宏明、老人ホームにおけるセラピューティックレクリエーションサービスの整備に関する一考察 ～A特別擁護老人ホームのケース～、レジャー・レクリエーション研究 49 : 66-69、2002
- 82) 小泉勇治郎、グリーン・ツーリズム運動と市民農園、レジャー・レクリエーション研究 49 : 72-75、2002
- 83) 植木順子、デイサービスにおけるTRサービスの実際、レジャー・レクリエーション研究 51 : 38-41、2003
- 84) 茅野宏明、セラピューティックレクリエーション・サービス・モデル (AGLモデル) の適応性、レジャー・レクリエーション研究 51 : 42-45、2003
- 85) 廣田治久・上野幸・山崎律子、高齢者デイサービスにおけるレクリエーションプログラムについての事例研究、レジャー・レクリエーション研究 51 : 58-61、2003
- 86) 草壁孝治、初期痴呆高齢者に対するレクリエーション療法の試み ～個人の状態に応じたプログラムの選択と展開～、レジャー・レクリエーション研究 51 : 62-65、2003
- 87) 外崎紅馬・左近慎平・金子勝司、余暇活動としてのボランティア学習に対する福祉施設の役割と課題、レジャー・レクリエーション研究 51 : 96-97、2003

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 88) 久保内智子・西野仁、ドイツのゴールデンプランの展開とベルリン州のスポーツ施設、レジャー・レクリエーション研究 51 : 108-109、2003
- 89) 高橋伸、総合型地域スポーツクラブ推進事業におけるレクリエーション概念の適用 ～M市における試みについて～、レジャー・レクリエーション研究 51 : 110-111、2003
- 90) 仲麻衣子・西野仁、クラシックカーイベントへの参加動機について ～ヴェブレンの『有閑階級の理論』を手がかりに～、レジャー・レクリエーション研究 53 : 72-75、2004
- 91) 廣田治久・山崎律子、企業における社員健康づくり事業と地域貢献に向けた取り組み ～T社における事例中間報告～、レジャー・レクリエーション研究 53 : 98-99、2004
- 92) 立木宏樹、地域福祉とレクリエーション ～地域レクリエーション協会に注目して～、レジャー・レクリエーション研究 53 : 100-103、2004
- 93) 谷口勇一・古城建一、地域との連携を意図したレクリエーション演習科目導入に伴う教育効果の検討 ～レクリエーション協会課程認定校における実践事例として～、レジャー・レクリエーション研究 53 : 104-107、2004
- 94) 金子良知夫・下嶋聖・麻生恵、東アジア地域の山岳国立公園における登山利用行動の管理手法の比較 ～富士山(日本)・玉山(台湾)・キナバル山(マレーシア)を対象として～、レジャー・レクリエーション研究 53 : 112-115、2004
- 95) 廣田治久・栗原邦秋、知的障害者の余暇活動についての事例報告 ～A地区の知的障害者学級を事例として～、レジャー・レクリエーション研究 55 : 30-31、2005
- 96) 油井正昭、世界各国における野外レクリエーションに関わる保護地域の発展とその特徴、レジャー・レクリエーション研究 55 : 44-47、2005
- 97) 迫俊道、伝統芸能継承団体の再生過程に関する実践報告 ～伊勢神楽十二神祇の場合～、レジャー・レクリエーション研究 55 : 48-49、2005
- 98) 山崎律子・上野幸・高橋和敏、特別擁護老人ホームにおけるレクリエーション・プログラムの課題 ～その支援方法の確立に向けて～、レジャー・レクリエーション研究 55 : 50-53、2005
- 99) 吉原さちえ・西野仁、総合型地域スポーツクラブの設立に向けた2年間の取り組み ～神奈川県育成指定クラブを事例として～、レジャー・レクリエーション研究 55 : 60-63、2005
- 100) 山下雅彦、中山間地域における体験型観光推進協議会の設立について ～広島県北部の取り組みに着目して～、レジャー・レクリエーション研究 55 : 64-67、2005
- 101) 山崎律子・上野幸・高橋和敏、デンマークにおける公営高齢者(含認知症者)介護型住居・デイサービスセンター併設についての報告 ～IFA会議における訪問見学プログラムから～、レジャー・レクリエーション研究 57 : 28-29、2006
- 102) 高橋伸・廣田治久、レジャー教育としてのキャンプ・プログラム ～Camp O-AT-KAにおける実修活動～、レジャー・レクリエーション研究 57 : 34-35、2006
- 103) 吉原さちえ・西野仁、総合型地域スポーツクラブの運営の実態 ～神奈川県内18クラブを事例として～、レジャー・レクリエーション研究 57 : 44-47、2006
- 104) 小池和幸・高崎義輝、介護予防教室における目的別レクリエーションプログラムの開発と効果に関する研究(1)、レジャー・レクリエーション研究 57 : 52-55、2006
- 105) 草壁孝治・左近慎平、老人病院における余暇支援 ～余暇自立支援の試み～、レジャー・レクリエーション研究 57 : 60-63、2006
- 106) 吉岡尚美・植木順子・佐藤宏子、高齢者施設における楽しいレクリエーションプログラムの楽しさについての研究、レジャー・レクリエーション研究 57 : 64-67、2006
- 107) 竹田隆行、レクリエーション組織とプロスポーツクラブとのパートナーシップ事業に関する報告、レジャー・レクリエーション研究 57 : 88-89、2006
- 108) 鈴木英悟、救急救護法実践指導にみるガイドライン2005変更の視点 ～ガイドライン2000から2005への変更領域を中心として～、レジャー・レクリエーション研究 59 : 16-19、2007
- 109) 高橋伸、アメリカ組織キャンプにおける儀式プログラム ～Camp O-AT-KAにおけるギャラハッド(騎士)プログラム～、レジャー・レクリエーション研究 59 : 24-25、2007

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 110) 矢野加奈子・麻生恵、農山村における空間計画ワークショップに期待される効果とその構造化に関する研究 ～長野県千曲市埴捨地区を対象として～、レジャー・レクリエーション研究 59 : 40-43、2007
- 111) 吉原さちえ・西野仁、求められる総合型地域スポーツクラブ ～神奈川県内総合型地域スポーツクラブのクラブ理念やその目的を参考にして～、レジャー・レクリエーション研究 59 : 48-51、2007
- 112) 吉原さちえ、地域スポーツクラブに所属する父親の「仕事の日」と「休みの日」の1日24時間の使い方、レジャー・レクリエーション研究 61 : 48-51、2008
- 113) 添田直人、ボート競技による水辺環境の復権 ～親水メディアとしてのボートの中心価値～、レジャー・レクリエーション研究 61 : 56-59、2008
- 114) 土屋薫・茅野宏明・マーレー寛子・佐橋由美・佐藤馨、レジャー・アセスメントと施策構築に関する基礎的研究、レジャー・レクリエーション研究 61 : 90-93、2008
- 115) 見田賢一、エンパワーメントによるツーリズム協働事業定着に向けてのグループワークに関する研究、レジャー・レクリエーション研究 61 : 94-95、2008
- 116) 馬場美智子、公園整備の観点から見た余暇活動のためのまちづくりに関する考察、レジャー・レクリエーション研究 63 : 18-21、2009
- 117) 脇谷翔太郎・麻生恵、まちづくりや環境整備における多様な主体と地域の連携構造に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 63 : 22-23、2009
- 118) 山下雅彦、バリ島におけるラフティング参加者のリスク認知に関する研究 ～日本人参加者に着目して～、レジャー・レクリエーション研究 63 : 24-27、2009
- 119) 添田直人、水元公園（東京都・葛飾区）でボートが漕げるまで ～水辺空間の再構築に関する考察～、レジャー・レクリエーション研究 63 : 28-31、2009
- 120) 関口英里、現代日本のレジャー空間におけるイベント戦略の展開と可能性 ～テーマパークを中心とした外来祝祭の“Japanization”～、レジャー・レクリエーション研究 63 : 32-35、2009
- 121) 松尾瑞穂・前橋明、石川県における幼児の健康福祉に関する研究 ～保育園における親子のふれあいレクリエーション企画と実践～、レジャー・レクリエーション研究 63 : 40-43、2009
- 122) 若野貴司・末吉勝則・大城宜哲・寺本洋一・高谷富江・石川治・今脇節朗、回復期リハビリテーション病院におけるセラピューティックレクリエーションの取り組みについて ～個別介入プログラムでの症例を通して～、レジャー・レクリエーション研究 63 : 50-53、2009
- 123) 草壁孝治・今井悦子・田邊真規・野村滋美・恩田淳江・小池良江・橋本千里、病棟スタッフによる余暇支援の取り組み、レジャー・レクリエーション研究 63 : 54-57、2009
- 124) 土屋薫・佐橋由美・佐藤馨、レジャー・アセスメントと施策構築に関する基礎的研究（2）～流山市民調査によるレジャー志向とその実態の検討～、レジャー・レクリエーション研究 63 : 62-65、2009
- 125) 佐藤馨・佐橋由美・土屋薫、レジャー・アセスメントと施策構築に関する基礎的研究（3）～熊本市民調査によるレジャー志向とその実態の検討～、レジャー・レクリエーション研究 63 : 66-69、2009
- 126) 前橋明・松尾瑞穂、幼児・児童の健康づくりシステムの構築 ～親子で楽しく！！いのっ子スポーツフェスタの企画～、レジャー・レクリエーション研究 63 : 80-83、2009

資源と空間

田中 伸彦

(独立行政法人森林総合研究所, 東海大学観光学部)

要旨

本論では、1996年以降にわが国で行われたレジャー・レクリエーション(以下:レク)資源と空間に関わる動向を考察した。手順としては、まずわが国で行われたレジャー・レク資源と空間に深く関わる施策の変遷について、「法律の制定」という観点からとりまとめた。続いて、学会誌「レジャー・レク研究」に掲載された資源と空間に関連する文献を総括し、研究のトレンドを考察した。そして、両者を比較することで、レジャー・レク学会で、資源と空間に係る研究の関心がどの様なトピックに集中的に向けられてきたのか、逆にどの様なトピックが手薄だったのかを明らかにした。最後に、その結果を受けてレジャー・レク学会における資源と空間分野の研究の将来的な展開方向について若干の提言を行った。

第1章 緒言

本論は、1996年以降にわが国で行われたレジャー・レク資源や空間に深く関わる施策や研究の動向をとりまとめ、新しい時代を見据えた研究の課題や方法論などを展望することを目的としている。

本論で1996年以降のレビューを行うこととした理由は、既報『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み —1964～1995—』を受け¹⁾、1995年以降の動向をまとめるからという単純な理由によるものである。

しかしながら、この1995年という年を今から振り返ってみると、わが国のレジャー・レクの資源や空間を語る上で、とても重要な節目の年になっていたことが分かる。

この年は、1月17日の早朝5時46分に阪神・淡路大震災に見舞われ、3月20日に東京で地下鉄サリン事件が発生している。死者・行方不明者6千4百余名、負傷者4万3千余名の犠牲者を出した天災、乗客・駅員ら12人が死亡、5千5百余名が重軽症を負った人災という相異なる2つの災害を通じ、わが国の都市空間の安全神話はもろくも崩れ去った。安全神話は、今や郊外や農山村空間でも崩壊しつつある。しかし、その対策としてボランティアや地域住民のつながりを見直す議論が起り、NPO活動への世間の評価が高まった。NPO活動は災害復旧に留まらず、今ではレジャー・レク資源・空間管理の主体として大きな存在となっている。つまり、1995年を契機に、わが国では地域の資源や空間に関わる市民の態度が大きく一変したのである。

また、この年はWindows95が発売された年でもあった。日本語版が11月23日に発売されやいなや、瞬く間にWindowsはパソコンOSの実質的な標準となり、その後のインターネット社会の基盤となった。つまり、1995年を契機に、インターネットが広く普及し、レジャー・レクの資源情報の調達や、空間認識のあり方を一新し、人々のライフスタイルを抜本的に変えてしまった。

さらに、1995年前後を俯瞰すると、バブル経済崩壊後の不況がわが国を襲っている。1985年のプラザ合意以降のバブル景気真っ直中には、わが国では投機を目的としたリゾート開発が各地で流行し、国土の様相が変貌した。バブル終焉のきっかけは、1990年3月の大蔵省通達「土地関連融資の抑制について(総量規制)」といわれ、以降景気が後退するわけであるが、多くの国民が不況を実感するようになるのは1990年代半ばからであった。ちなみに住専問題は1995年、北海道拓殖銀行や山一証券の破綻は1997年である。レジャー・レク資源の観点から見ると、1990年代後半から21世紀にかけて、わが国では都市や中山間地域が疲弊し、経済活性化や地域振興の手段として観光レジャー資源や空間の活用が目ざされた。

最後に、この時期には大規模リゾート開発の反省から自然保全が声高に叫ばれ、さらに温暖化対策や生物多様性などの地球環境問題が輪をかけ、レジャー・レクの分野でも環境を真剣に考える時代に突入した。実際近年では、低炭素社会や生態系サービス、エコ・グリーンツーリズムや文化的景観などがレジャー・レク研究でもキーワードとなりつつある。

以上、1995年という年を総括すると、未曾有の不景気に突入する中、国民の安全安心感が揺らぐ一方で、NPO活動やインターネットによる新たな社会が構築され始めた年であり、また環境に配慮したレジャー・レクを考える時代になったと総括できる。

このような背景を鑑みたと、わが国のレジャー・レク行政がどのような施策を展開し、研究はどのように進展したのかを、以下に概括したい。

第2章 レビューの方法

本論では、①「行政施策に関するレビュー」と、②「研究動向の文献レビュー」の2つを行った。なお、紙数に制限があるため、施策の動向は国内に絞り、研究内容は本学会誌上で公表されたものに絞った形で報告を行うこととした。

①「行政施策に関するレビュー」では、「法律の制定」に着目し、レジャー・レクの施策的関心を取りまとめた。法律とは「国会で制定された規範」と定義する。通常わが国では毎年100から200あまりの法律が新たに制定・改正され、公布されている。法律が制定・改正されるということは、わが国において、これまでとは異なる行政施策が必要になったことを示している。そのため、レジャー・レクに対する国民的関心の動向を捕まえるために「法律」を対象とすることは効果的である。

②「研究動向の文献レビュー」では、学会誌「レジャー・レク研究」に掲載された資源及び空間に係る文献を総括し、トレンドを取りまとめた。他の学会誌の文献等も併せてのレビューも検討したが、1996年から2009年までに「レジャー・レク研究」に掲載されたこの分野に関する論文・特集記事・学会発表要旨・ポスター・シンポジウム等の文献は優に100件を超えるため取り止めた。本論の最終目的である「レジャー・レク学会における『資源と空間』分野の研究の将来的な展開方向についての提言」を行うには、本学会誌掲載分で十分と判断した。

第3章 施策と研究の動向と特徴

1. 法律の制定に見る「行政施策に関するレビュー」

1996年から2009年までの間に、わが国では2,024件の法律が制定・改正されている。そのうち、レジャー・レクに係る法律は、基準の取り方で前後するが130件程度認められた。そこから「資源・空間」に関係深い主要な法律44件を抜粋したものが表1である。

44件の法律を趣旨別にタイプ分類すると、①自然(20件)、②文化(16件)、③経済(20件)、④参画(7件)という4つの大項目に分類できた。

さらに、大項目「①自然」は、

- a. 自然保全（環境影響評価法(1997)、生物多様性基本法(2008)など13件）、
- b. 利用管理（自然公園法(2002/2009改正)やエコツーリズム推進法(2007)など9件）、
- c. 地球環境（地球温暖化対策の推進に関する法律(1998)など8件）、

の3つの小項目に細分できた。

大項目「②文化」は、

- a. 文化維持（文化財保護法(1996/2004改正)や食育基本法(2005)など12件）、

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- b. スポーツ（スポーツ振興投票の実施等に関する法律(1998)など3件）、
- c. 景観（文化財保護法（2004改正）や景観法(2004)など6件）、
- d. IT（知的財産基本法(2002)など3件）、

の4つの小項目に細分できた。

大項目「③経済」は、

- a. 都市再生（都市再生特別措置法(2002)、構造改革特別区域法(2002)など8件）、
- b. 地域振興（森林・林業基本法(2001)、山村振興法（2005改正）など14件）、
- c. 観光（旅行業法（2004改正）、観光立国推進基本法(2006)など16件）、

の3つの小項目に細分できた。

大項目「④参画」は、

- a. NPO（特定非営利活動促進法(1998)など4件）、
 - b. 福祉・平等（高齢者・障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律(2006)など3件）、
- の2つの小項目に細分できた。

つまり、行政施策に関するレビューでは、この時期の「資源・空間」からの施策的関心4項目に大別可能で、さらに12件に細分可能なことが明らかになった。

表1 1995年から2009年までに制定された、レジャー・レク資源及び空間に関連する主な法律（抜粋）

No	制定年	法律名	キーワード	自然			文化			経済			参画			
				自然保全	利用管理	地球環境	文化維持	スポーツ	景観	IT	都市再生	地域振興	観光	NPO	福祉平等	
1	1996	文化財保護法（改正）	登録有形文化財				○									
2	1997	アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律	アイヌ文化の振興等				○									
3		環境影響評価法	開発行為の環境アセス	○												
4		外国人観光旅客の来訪地域の多様化の促進による国際観光の振興に関する法律	外国人観光客来訪地の分散										○			
5		平成十七年に開催される国際博覧会の準備及び運営のために必要な特別措置に関する法律	愛知万博										○			
6	1998	特定非営利活動促進法	NPO 法人					○					○			
7		スポーツ振興投票の実施等に関する法律	TOTO					○								
8		美術品の美術館における公開の促進に関する法律	登録美術品の公開促進				○									
9		地球温暖化対策の推進に関する法律	地球温暖化対策の基本方針			○										
10	1999	男女共同参画社会基本法	男女共同参画												○	
11		食料・農業・農村基本法	農の多面的機能	○	○								○			
12	2000	循環型社会形成推進基本法	循環型社会		○											
13	2001	森林・林業基本法	森林の多面的機能	○	○								○			
14		沖縄振興特別措置法	沖縄の観光振興										○	○		
15		都市再生特別措置法	都市再生事業										○			
16	2002	自然公園法（改正）	利用調整地区		○											
17		文化財の不法な輸出入等の規制等に関する法律	文化財の輸出入				○									
18		高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律（改正）	建築物のバリアフリー													○
19		知的財産基本法	知的財産の保護管理							○						
20		自然再生推進法	自然再生計画		○											
21		構造改革特別区域法	経済特区										○	○	○	

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

22	2003	環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律	環境教育	○	○		○															
23	2004	文化財保護法（改正）	文化的景観・民俗技術				○		○													
24		旅行業法（改正）	旅行業務取扱管理者など																○			
25		特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律	外来生物と生態系保全	○		○																
26		景観法	景観計画の策定など	○			○		○		○	○	○	○								
27	2005	半島振興法（改正）	地域間交流の促進																	○	○	
28		山村振興法（改正）	山村振興基本方針																	○	○	
29		地域再生法	地域再生計画											○	○	○						
30		食育基本法	食育・食文化		○		○															
31	2006	農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律（改正）	農林漁業体験民宿業者			○														○	○	
32		国土形成計画法	国土形成計画	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
33	2006	中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する法律（改正）	中心市街地の活性化																	○		
34		高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律	交通機関のバリアフリー																		○	
35		海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律	文化遺産国際協力				○															
36		観光立国推進基本法	観光基本法の全面改正		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
37	2007	海洋基本法	海洋基本計画	○																		
38		農山漁村の活性化のための定住等及び地域間交流の促進に関する法律	農山村活性化			○														○	○	
39		エコツーリズム推進法	エコツーリズムの推進	○	○															○	○	
40	2008	観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律	観光圏整備計画																	○	○	○
41		地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律	歴史的風致維持向上				○		○											○	○	
42	2009	生物多様性基本法	生物多様性国家戦略	○		○																
43		自然公園法・自然環境保全法（改正）	生物多様性・海域公園地区	○	○	○																
44	2009	美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律	海岸漂着物等の円滑な処理	○					○													
			計（小項目）		13	9	8	12	3	6	3	8	14	16	4	3						
			計（大項目）		20		16				20		7									

* 「○」印は法を制定・改正した主要な目的を示す。

2. レジャー・レク学会で公表された文献を中心とした研究動向のレビュー

続いて、学会誌33号(1996年)から63号(2009年)までに掲載された「資源・空間」に関する文献をレビューしたところ、140件が該当した。これらを上記の「行政施策に関するレビュー」で得た4件の大項目、12の小項目に沿って取り纏めた。

①自然

「自然」にかかる大項目では、計58件の文献を見ることができた。これは全件中41.4%にあたる。以下、小項目ごとにその内容をとりまとめる。

a. 自然保全

ここでは9件の文献が確認された。これは全件中の6.4%にあたる。

内訳は、まず自然環境とレジャー・レクの総論的考察²⁻⁴⁾、環境意識を調査した文献⁵⁾⁶⁾などが見られた。また、世界の保護地域の動向⁷⁾⁸⁾や、国立公園の成立⁹⁾、里山環境とレジャー・レクとの関わり¹⁰⁾など、対象を絞って言及した考察も見ることができた。

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、環境影響評価や農林水産業との関わり、生態系サービスなど手つかずの研究を深めることで、学会の幅が広がると考えられた。

b. 利用管理

ここでは45件の文献が確認された。これは全件中の32.1%を占める。つまり、当学会で、利用管理が多くの会員の関心を集めるトピックであることを示している。

内訳は、まず利用管理とレジャー・レクとの関わり¹¹⁻¹⁴や、施策の動向¹⁵など、俯瞰的な考察が見られた。また、キャンプにまつわる利用管理¹⁶⁻²⁵、キャンプの海外事例²⁶²⁷、自然とのふれあい²⁸⁻³¹、教育的利用³²⁻³⁸、都市公園³⁹⁴⁰や自然公園⁴¹⁻⁴⁶の利用管理、自然公園の海外事例⁴⁷⁴⁸、水辺水面の利用⁴⁹⁻⁵³、トレイル管理⁵⁴⁵⁵など、トピックごとの考察も見られた。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、比較的満遍なく研究が展開されていた。敢えていえば食育などの文化利用へ将来研究を広げる余地が残ると考えられた。

c. 地球環境

ここでは4件の文献が確認された。これは全件中の2.9%に過ぎない。つまり、当学会ではこのトピックにはあまり関心が高くないことを示している。

内訳は、クッチャロ湖学生環境サミット⁵⁶と、エベレスト登山における環境評価⁵⁷⁻⁵⁹の2種類に分けられた。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、温暖化や循環型社会との関わり、海洋・農地・森林の空間管理、生物多様性保全など、地球環境保全の視点で研究に着手すべき多くのトピックが残されていると判断できた。

②文化

「文化」にかかる大項目では、計35件の文献を見ることができた。これは全件中の25.0%にあたる。以下、小項目ごとにその内容をとりまとめる。

a. 文化維持

ここでは6件の文献が確認された。これは全件中の4.3%にあたる。つまり、当学会の関心度はさほど高くないといえる。但し、文献はすべて2003年以降のものであり、今後増加する可能性がある。

内容は、神楽⁶⁰、花見⁶¹、湯治⁶²というトピック別研究の一方、文化的景観の保全という施策を念頭

に置いたケーススタディ⁶³が見られた。また、学会大会時に行われている地域研究の報告⁶⁴⁶⁵もこの分野に該当する。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、文化財や歴史、民俗など、研究に着手すべき多くのトピックが残されていると判断できた。

b. スポーツ、

ここでは10件の文献が確認された。これは全件中の7.1%にあたる。

内訳は、伝統的町道場⁶⁶や、新興の総合型スポーツクラブ⁶⁷⁻⁷⁰、高齢者の温水スポーツ施設⁷¹⁷²の研究に加え、空間環境と運動生理・心理の関係調査⁷³や海外事例調査⁷⁴、オリンピック・レガシーに関する報告⁷⁵なども見られた。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、文献数はさほど多くはないがスポーツ振興という時代的テーマに沿った研究の存在が確認できた。

c. 景観

ここでは15件の文献が確認された。これは全件中の10.7%にあたる。

内訳は、景観認識⁷⁶⁻⁸⁰⁾と評価⁸¹⁻⁸³⁾、構造・特性⁸⁴⁻⁸⁷⁾、活用⁸⁸⁻⁹⁰⁾の4トピックである。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、景観法の制定に合わせて時代的テーマに沿った研究がなされていると考えられた。

d. IT

ここでは4件の文献が確認された。これは全件中の2.9%に過ぎない。

内訳は、デジタル・アーカイブ⁹¹⁾、メディア・ビオトープ⁹²⁻⁹³⁾、GISの活用⁹⁴⁾の3トピックである。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、ITによるレジャー・レク空間資源・施設の変容が著しく、国土形成計画などでもITの活用が謳われている今日にあっては研究が少ないと判断できた。また、研究人材も限られている。学会としてITに係るレジャー・レク研究に力を入れる必要があると考えられる。

③経済

「経済」にかかる大項目では、計22件の文献を見ることができた。これは全件中の15.7%にあたる。以下、小項目ごとにその内容をとりまとめる。

a. 都市再生

ここでは3件の文献が確認された。これは全件中の2.1%に過ぎない。

内容は、都市再生とレジャー・レクとの関わりを広く論じた報告⁹⁵⁾や、「住育」によるまちづくり⁹⁶⁾、ディズニーに見るレジャー産業⁹⁷⁾に係るものである。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、当学会ではさらに、レジャー・レク資源・空間を通じた国土形成や都市再生、中心市街地の活性などをテーマに採り上げた議論を行う必要があると考えられた。

b. 地域振興

ここでは9件の文献が確認された。これは全件中の6.4%にあたる。

内訳は、まず地域興しとレジャー・レクの総論的考察⁹⁸⁻¹⁰¹⁾が見られるとともに、都市山村交流¹⁰²⁻¹⁰³⁾や、リゾート新興¹⁰⁴⁻¹⁰⁵⁾、イベント新興¹⁰⁶⁾など、トピックを絞って言及した考察も見られた。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、山村や沖縄などの島嶼・半島など地域振興の必要性が叫ばれている地域におけるレジャーのあり方について研究を深めることが重要と考えられた。

c. 観光

ここでは10件の文献が確認された。これは全件中の7.1%にあたる。

内訳は、観光史¹⁰⁷⁻¹⁰⁹⁾や広域計画¹¹⁰⁻¹¹¹⁾、グリーン・ツーリズム¹¹²⁻¹¹⁴⁾、山岳観光¹¹⁵⁾、テーマパーク¹¹⁶⁾の5つのトピックに渡っていた。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、インバウンドツーリズムとレジャー、博覧会などMICEとの関係、エコツーリズムの推進などの分野に研究を広げる余地があると考えられた。

④参画

「参画」にかかる大項目では、計25件の文献を見ることができた。これは全件中の17.9%にあたる。以下、小項目ごとにその内容をとりまとめる。

a. NPO

ここでは21件の文献が確認された。これは全件中の15.0%にあたる。つまり、当学会で、NPO・ボランティアなどのトピックが会員の関心を集めていることを示している。そして、このトピックの文献はこの5年以内に集中的に増加しているのも特徴的である。

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

内訳は、まず市民参加・NPOとレジャー・レクの総論的考察¹¹⁷⁾¹¹⁸⁾が見られるとともに、地域づくり・まちづくり¹¹⁹⁾¹²⁷⁾や二次的自然環境の管理¹²⁸⁾¹²⁹⁾、都市緑地の管理¹³⁰⁾¹³²⁾、都市公園の管理¹³³⁾¹³⁵⁾、トレイル管理¹³⁶⁾¹³⁷⁾など、対象毎のNPOやボランティアの参加について言及した考察も見られた。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、NPO法以降の世の中の動向を踏まえた実践的な研究が蓄積していると考えられる。今後はこの蓄積を元にレジャー・レク学の資源・空間管理におけるNPOやボランティアのあり方について学問的に取り纏める作業が必要であると考えられた。

b. 福祉・平等

ここでは4件の文献が確認された。これは全件中の2.9%に過ぎない。つまり、当学会ではこのトピックにはあまり関心が高くないことを示している。

内訳は、すべて自然を利用した療法に係る研究¹³⁸⁾¹⁴¹⁾であった。

この結果を、「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、高齢者や障がい者のレジャー・レク資源の利用に関する研究や、男女共同参画に伴う変化とレジャー・レクのあり方など、多くの未着手の課題があると考えられた。

第4章 「資源・空間」分野の研究の将来的な展開方向について

以上、第3章でレビューした内容を表2として取り纏めた。

表2を見てまず言えることは、当学会は数百人規模と決して大きな学会ではなく、「資源・空間」という分野はその学会内の一研究分野に過ぎないものの、4つの大項目そして12の小項目のすべてに研究の手が伸びていることである。各分野によって粗密はあることは否めないが、学会としての偏りが無いという点では評価できよう。ただし、内容を細かく見ていくと、当学会では「資源・空間」分野といえども「利用管理」や「NPO」などの人の動きに直接関わる研究に注目が集まっていることがわかる。一方、「自然保全」、「地球環境」、「文化維持」、「地域振興」などの項目については、法律の制定(改正)数が多く、施策的関心が高いと言えるのだが、必ずしも研究的比率は高くない傾向が見られた。また、ITに関しては法律数も研究数も多いとは言えないが、今後集中的に研究を進めていく分野ではないかと考えられた。

本学会で新規に取り組み可能と考えられるトピックとしては、表2の下段にまとめたとおり24種類を提言した。もちろん、本論で得た結論のほかにも成すべき研究が指摘できるという異論は妨げない。「法律の制定」という事実の対比を行っただけでも、これだけのトピックが見つかったということである。

日々変化する社会環境の中で、よりよい人生を全うするためのレジャー・レクのあり方は今後ますます重要になると考えられる。そのためにも当学会が果たすべき役割はまだまだ大きいという感想を持った。

表2 確認された法律・文献数と将来に向けた研究方向の提言

【法律：重複カウントあり】

大項目	自然			文化				経済			参画		計
法律数	20			16				20			7		44
(比率：%)	(45.5)			(36.4)				(45.5)			(15.9)		(100.0)
小項目	自然保全	利用管理	地球環境	文化維持	スポーツ	景観	IT	都市再生	地域振興	観光	NPO	福祉平等	—
法律数	13	9	8	12	3	6	3	8	14	16	4	3	44
(比率：%)	(29.5)	(20.5)	(18.2)	(27.3)	(6.8)	(13.6)	(6.8)	(18.2)	(31.8)	(36.4)	(9.1)	(6.8)	100

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

【文献：重複カウントなし】

大項目	自然			文化				経済			参画		計
文献数	58			35				22			25		140
(比率：%)	(41.4)			(25.0)				(15.7)			(17.9)		(100.0)
小項目	自然保全	利用管理	危機環境	文化維持	スポーツ	景観	IT	都市再生	地域振興	観光	NPO	福祉等	—
文献数	9	45	4	6	10	15	4	3	9	10	21	4	140
(比率：%)	(6.4)	(32.1)	(2.9)	(4.3)	(7.1)	(10.7)	(2.9)	(2.1)	(6.4)	(7.1)	(15.0)	(2.9)	(100.0)

提 言 (本学会で新規取り組み 可能と考えられる トピック)	環境影響評価	文化財	国土形成計画	NPO論の総括
	農林水産業	歴史資源・空間	都市再生	高齢者参画
	生態系サービス	民俗資源・空間	中心市街地の活性	障がい者参画
	食育	ITの活用全般	山村新興	男女共同参画
	温暖化		島嶼・半島の活性	
	循環型社会		インバウンドツーリズム	
	海洋・農地・森林		MICE	
	生物多様性保全		エコツーリズム	

引用文献

- 1) 日本レジャー・レクリエーション学会、日本レジャー・レクリエーション学会の歩み —1964～1995—、レジャー・レクリエーション研究 32:217pp、1995.
- 2) 進士五十八、レジャー・レクリエーションと自然環境、レジャー・レクリエーション研究 50、1-14、2003
- 3) 古谷勝則・油井正昭・下村彰男・加地隆・親泊素子・田畑貞寿、レジャー・レクリエーションから見た自然環境、レジャー・レクリエーション研究 50、15-40、2003
- 4) 土屋薫、生態系資源と文化系資源をつなぐライフデザイン—架け橋としてのレジャー・レクリエーション—、レジャー・レクリエーション研究 63、10-11、2009
- 5) 石井晶子・澤村博・高橋正則、居住場所の違いによる日常生活での自然環境の必要性と環境保全意識の関連性について—都内幼稚園に通園させる母親を対象として—、レジャー・レクリエーション研究 47、1-9、2002
- 6) 種石宗自・加藤幸直・澤村博、大学生の環境意識に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 63、92、2009
- 7) 油井正明・古谷勝則、世界各国の自然保護地域の指定動向について、レジャー・レクリエーション研究 37、90-93、1997
- 8) 油井正昭、世界各国における野外レクリエーションに関わる保護地域の発展とその特徴、レジャー・レクリエーション研究 55、44-47、2005
- 9) 油井正昭、伊勢志摩国立公園成立の特異性、レジャー・レクリエーション研究 57、70-73、2006
- 10) 岡田慎也・下嶋聖・麻生恵、大都市近郊地域における鉄道会社が行う里山などの環境を利用したレクリエーション空間の整備に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 59、44-47、2007
- 11) 麻生恵、「あそび」と空間—「あそび」の広がりと「あそび」空間整備の方向—、レジャー・レクリエーション研究 47、33-36、2002
- 12) 栗田和弥、自然環境フィールドにおける遊びと活動と管理の展開、レジャー・レクリエーション研究 47、60-61、2002
- 13) 麻生恵・田中伸彦・栗田和弥・上野裕治、景観・造園・環境「地域のアウトドア・レクリエーションと資源・空間の管理」、レジャー・レクリエーション研究 49、口頭発表、2002
- 14) 麻生恵・荒井歩・栗田和弥、景観・造園・環境「地域のアウトドア・レクリエーションと資源・空間の管理」、レジャー・レクリエーション研究 51、22、2003
- 15) 田中伸彦、アウトドアライフ充実のための行政施策—林野庁の施策を中心に—、レジャー・レクリエーション研究 33、38-44、1996
- 16) 岡村泰斗・飯田稔・星野敏男・穴戸和行、環境プログラムを導入したキャンプの効果—参加者の自然に対する態度、イメージに着目して—、レジャー・レクリエーション研究 33、1-6、1996

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 17) 柳敏晴、キャンプにおける水辺活動の価値 レジャー・レクリエーション研究 37、78-81、1997
- 18) 小泉紀雄、エコキャンプによる環境への意識変容について、レジャー・レクリエーション研究 39、94-97、1998
- 19) 廣田治久・栗原邦秋、地域活動と少年・少女キャンプについての実践報告～江東区少年の船の場合～、レジャー・レクリエーション研究 41、92-93、1999
- 20) 関智子・飯田稔・岡村泰斗、長期・短期自然体験が参加者の達成動機に及ぼす効果の比較、レジャー・レクリエーション研究 41、94-97、1999
- 21) 岡村泰斗・飯田稔・関智子、子ども長期自然体験村事業に関する評価研究 -参加者の達成動機、友人関係、自然認識に着目して-、レジャー・レクリエーション研究 44、1-10、2001
- 22) 吉原さちえ・西野仁、子どもの頃の組織キャンプ経験と現在の野外活動経験、レジャー・レクリエーション研究 51、90-93、2003
- 23) 山下雅彦、民間野外教育活動団体における長期キャンプの実践、レジャー・レクリエーション研究 61、134、2008
黒杭美郷・山下雅彦、長期キャンプにおける参加者の疲労の推移、レジャー・レクリエーション研究 61、135、2008
- 24) 恩田裕介・加藤幸真・澤村博、大学キャンプ実習の参加者によるキャンプ場の施設評価、レジャー・レクリエーション研究 61、135、2008
- 25) 馬場美智子、公園整備の視点からみた余暇活動のためのまちづくりに関する考察、レジャー・レクリエーション研究 63、18-21、2009
- 26) 陳盛雄・栗田和弥・麻生恵、台湾におけるキャンプの変遷に関する研究 -キャンプに関する諸団体の動きとそのキャンプ活動を中心として-、レジャー・レクリエーション研究 36、1-17、1997
- 27) 陳盛雄・栗田和弥・麻生恵、台湾におけるキャンプの発展に影響を与えた諸要素に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 44、35-45、2001
- 28) 藤田均、西表国立公園における野生動物とのふれ合いを中心とする自然教育事例、レジャー・レクリエーション研究 33、24-36、1996
- 29) 村田智厚、自然とふれあえる環境デザイン、レジャー・レクリエーション研究 35、31-38、1996
- 30) 奥田直久、アウトドア活動におけるプログラムの現状と課題、レジャー・レクリエーション研究 35、39-46、1996
- 31) 栗田和弥・植竹薫、自然とのふれあい活動への参加者誘致圏について～東京都町田市かしの木山自然公園を事例に～、レジャー・レクリエーション研究 41、98-101、1999
- 32) 田中伸彦、レジャー・レクリエーション研究における基本書 アンケート調査の概要、レジャー・レクリエーション研究 36、25-41、1997
- 33) 前野淳一郎、レジャー・レクリエーション研究における基本書「環境計画」空間・環境形成研究（造園学）の分野から、レジャー・レクリエーション研究 36、52-57、1997
- 34) 栗田和弥・麻生恵、農山村地域における環境教育-群馬県川場村の事例-、レジャー・レクリエーション研究 38、35-38、1998
- 35) 塚本瑠一、都市における自然観察会について～京都御苑での事例～、レジャー・レクリエーション研究 39、88-89、1998
- 36) 濱野周泰・二階堂由紀・牧昌代・栗田和弥、環境学習のための富良野研修ツアー報告、レジャー・レクリエーション研究 55、94、2005
- 37) 菱沼みほ・栗田和弥、自然学習における教材の作成～磐梯朝日国立公園・磐梯山を対象とした地形+情報模型パズル～、レジャー・レクリエーション研究 57、111、2006
- 38) 寺田祐子・山下雅彦、中山間地域と都市地域における自然体験活動の意識調査、レジャー・レクリエーション研究 59、69、2007
- 39) 養茂寿太郎、レジャー・レクリエーション環境としての公園の考察、レジャー・レクリエーション研究 37、94-97、1997
- 40) 金子忠一、バンクーバーにおける公園レクリエーションプログラムの現状、レジャー・レクリエーション研究 37、98-99、1997
- 41) 古谷勝則・油井正昭、日光国立公園尾瀬地区における自動車の利用規制について、レジャー・レクリエーション研究 46、43-46、2001
- 42) 加治隆、休暇村の立地課程と野外レクリエーション空間構造及び利用形態の特徴、レジャー・レクリエーション研究 52、23-36、2004
- 43) 加治隆、宮古・姉ヶ崎半島のリゾート開発における国民休暇村の役割と貢献、レジャー・レクリエーション研究 53、86-89、2004

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 44) 津田智匡・金子良知夫・下嶋聖・麻生恵、尾瀬ヶ原を事例としたレクリエーション空間と利用者属性からみた利用計画のあり方について－ROS (レクリエーション区分プログラム) の概念を用いて－、レジャー・レクリエーション研究 55、95、2005
- 45) 川口香・下嶋聖・麻生恵、自然公園の利用計画から見た乗鞍山麓五色ヶ原の利用システムについて、レジャー・レクリエーション研究 55、98、2005
- 46) 井上麻美・下嶋聖・一木重夫・麻生恵、小笠原国立公園における適正な利用ルールの導入に向けた現状と課題、レジャー・レクリエーション研究 55、100、2005
- 47) 金子良知夫・下嶋聖・麻生恵、東アジア地域の山岳国立公園における登山利用行動の管理手法の比較～富士山(日本)、玉山(台湾)、キナバル山(マレーシア)を対象として～、レジャー・レクリエーション研究 53、112-115、2004
- 48) 涂智益・下嶋聖・栗田和弥・麻生恵、台湾国家公園の発展と多様な主体の参画に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 60、55-69、2008
- 49) 荒井歩・春日章宏、東京湾内における釣り場環境の実態に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 39、102-105、1998
- 50) 添田直人、ボート競技による水辺環境の復権－親水メディアとしてのボートの中心価値－、レジャー・レクリエーション研究 61、56-59、2008
- 51) 古城庸夫、利根運河とボート遠漕－向島艇庫村から銚子までの遠漕の歴史－、レジャー・レクリエーション研究 61、60-63、2008
- 52) 山下雅彦、バリ島におけるラフティング参加者のリスク認知に関する研究～日本人参加者に着目して～、レジャー・レクリエーション研究 63、24-27、2009
- 53) 添田直人、水元公園(東京都・葛飾区)でボートが漕げるまで～水辺空間の再構築に関する考察～、レジャー・レクリエーション研究 63、28-31、2009
- 54) 平方敦・岸昌孝・栗田和弥、武尊山百漫歩(100km)トレイルの道づくりと管理運営に関する課題、レジャー・レクリエーション研究 57、111、2006
- 55) 岩間貴之、遊歩道(フットパス)を利用するイギリス田園風景の楽しみ、レジャー・レクリエーション研究 47、57-59、2002
- 56) 平田太良・白銀頭・栗田和弥、クッチャロ湖学生環境サミット(CASEI)について、レジャー・レクリエーション研究 61、136、2008
- 57) 下嶋聖・麻生恵、サガルマータ(エベレスト)登山活動と周辺地域の観光利用が自然環境に及ぼす人的影響、レジャー・レクリエーション研究 53、120-123、2004
- 58) 下嶋聖・島田沢彦・佐貫安希子・入江満美・麻生恵、サガルマータ(エベレスト)登山がベースキャンプに及ぼす環境影響についてのシミュレーションの試み、レジャー・レクリエーション研究 55、99、2005
- 59) 下嶋聖、エベレスト・ベースキャンプにおける登山活動が自然環境に及ぼす影響調査と環境保全の取り組み、レジャー・レクリエーション研究 62、115-116、2009
- 60) 迫俊道、地域社会における神楽の社会学的研究、レジャー・レクリエーション研究 51、94-95、2003
- 61) 油井正昭、「江戸名所花暦」に見るサクラの名所と花見の様相、レジャー・レクリエーション研究 53、90-93、2004
- 62) 伊藤雅子・西野仁、湯治の実態と湯治に対する意識について、レジャー・レクリエーション研究 55、32-35、2005
- 63) 田中伸彦・黒田乃生、吉野林業地域における文化的景観の保全、レジャー・レクリエーション研究 55、84-87、2005
- 64) 田中伸彦、「都市レジャーの今昔」報告、レジャー・レクリエーション研究 54、23-26、2005
- 65) 田中伸彦、「歴史文化探訪」報告、レジャー・レクリエーション研究 56、83-87、2006
- 66) 高橋賢・西野仁、武道における町道場の現状、レジャー・レクリエーション研究 51、106-107、2003
- 67) 高橋伸、総合型地域スポーツクラブ推進事業におけるレクリエーション概念の適用－M市における試みについて－、レジャー・レクリエーション研究 51、110-111、2003
- 68) 吉原さちえ・西野仁、総合型地域スポーツクラブの設立に向けた2年間の取り組み～神奈川県育成指定クラブを事例として～、レジャー・レクリエーション研究 55、60-63、2005
- 69) 吉原さちえ・西野仁、総合型地域スポーツクラブの運営の実態～神奈川県内18クラブを事例として～、レジャー・レクリエーション研究 57、44-47、2006
- 70) 吉原さちえ・西野仁、求められる総合型地域スポーツクラブ～神奈川県内総合型地域スポーツクラブのクラブ理念やその目的を参考にして～、レジャー・レクリエーション研究 59、48-51、2007

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 71) 徳田つづる・上岡洋晴・岡田真平・本田卓也、温水プール利用者の特性と利用決定要因に関する研究～ケアポートみまき・温泉アクティブセンターを事例として～、レジャー・レクリエーション研究 57、68-69、2006
- 72) 徳田つづる・上岡洋晴・岡田真平・本多卓也、温水プール利用者の特性と利用決定要因に関する研究～高齢者総合福祉施設「ケアポートみまき・温泉アクティブセンター」を事例として～、レジャー・レクリエーション研究 62、61-73、2009
- 73) 島崎百恵・西野仁、空間環境と運動時の生理・心理機能について、レジャー・レクリエーション研究 51、112-115、2003
- 74) 久保内智子・西野仁、ドイツのゴールドプランの展開とベルリン州のスポーツ施設、レジャー・レクリエーション研究 51、108-109、2003
- 75) 栗田和弥、レジャー・レクリエーションの充実に寄与するオリンピック・レガシー 空間論・環境論の立場から、レジャー・レクリエーション研究 60、75-77、2008
- 76) 栗原雅博・古谷勝則・油井正昭、霧ヶ峰における草原景観の興味対象に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 46、39-42、2001
- 77) 佐藤芳郎・猪瀬怜子、地図指摘法による阿蘇の草原景観に関する地域住民の認識構造についての研究、レジャー・レクリエーション研究 49、70-71、2002
- 78) 猪瀬怜子・佐藤芳郎・麻生恵、地図指摘法を用いた阿蘇の草原景観に対する地元住民の認識に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 52、1-10、2004
- 79) 山下賢太郎・朝日隆太・麻生恵、山形県金山町における周辺環境や住民の属性の違いと景観認識に関する調査研究、レジャー・レクリエーション研究 55、97-98、2005
- 80) 高梨夏美・麻生恵、棚田における景観体験構造に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 57、112、2006
- 81) 陳盛雄・川村協平・前野淳一郎、キャンプ場の個性的な魅力づくりに関するアンケート調査～日本・台湾・ヨーロッパのキャンプ場の景観写真による～、レジャー・レクリエーション研究 37、128-131、1997
- 82) 多田充、景観が人間の生理・心理に与える影響、レジャー・レクリエーション研究 46、51-54、2001
- 83) 下嶋聖、山小屋の屋根形状の特性が外観評価に及ぼす影響について～北アルプス・雲の平山荘を事例として～、レジャー・レクリエーション研究 61、52-55、2008
- 84) 油井正昭、尾瀬山の鼻・見晴間の木道から眺める景観の構造、レジャー・レクリエーション研究 43、106-109、2000
- 85) 油井正昭、磐梯朝日国立公園裏磐梯高原の眺望景観特性、レジャー・レクリエーション研究 46、47-50、2001
- 86) 加治隆、国民休暇村における眺望景観の形成とその特徴、レジャー・レクリエーション研究 55、88-91、2005
- 87) 加治隆・油井正昭、国民休暇村の景観構成の特徴とその評価に関する研究・大見八幡と大山鏡ヶ成を事例として、レジャー・レクリエーション研究 60、1-13、2008
- 88) 大澤由紀子・麻生恵、棚田のレクリエーション利用における視点場の設計について、レジャー・レクリエーション研究 53、108-111、2004
- 89) 園部真依子・古谷勝則・油井正昭、富士箱根伊豆国立公園箱根地域における展望施設の実態と評価、レジャー・レクリエーション研究 55、95-96、2005
- 90) 大西広司・鹿島善晴・恵谷浩子・麻生恵、輪島市三井地区における農村景観の保存・活用手法に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 57、112、2006
- 91) 土屋薫、デジタル・アーカイブと観光ナビゲーションシステムの可能性、レジャー・レクリエーション研究 53、84-85、2004
- 92) 土屋薫、メディア・ビオトープ構築に関する基礎的研究、レジャー・レクリエーション研究 57、76-77、2006
- 93) 土屋薫、現代社会と情報行動の特質から見た「メディア・ビオトープ」の枠組み、レジャー・レクリエーション研究 59、38-39、2007
- 94) 林香織・土屋薫、ライフスタイルに根ざしたコミュニケーションネットワーク構築に向けた基礎研究－GISを用いた流山市民の生活行動分析－、レジャー・レクリエーション研究 63、85、2009
- 95) 徳村光昭・鈴木隆雄・西川嘉輝・西野仁、ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション、レジャー・レクリエーション研究 56、63-81、2006
- 96) 藤井廣男・甲斐徹郎、「住育」が生み出す地域主体の連鎖による、ここちよい環境(まち)づくり、レジャー・レクリエーション研究 63、88、2009
- 97) 嵯峨寿・上澤昇・栗田房穂・犬塚潤一郎・坂田信久、レジャー・レクリエーション産業「東京ディズニーランドの成功から見えてくるもの・学べること」、レジャー・レクリエーション研究 51、23、2003
- 98) 森川貞夫、地域興しとレクリエーション、レジャー・レクリエーション研究 61、10、2008

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 99) 小田切毅一・田村貢・西原康行・池良弘・上山寛、「地域興しの手法としてのレクリエーション」再検討、レジャー・レクリエーション研究 61、11-15、2008
- 100) 森川貞夫、「地域興し」とレクリエーション・スポーツ、レジャー・レクリエーション研究 62、75-84、2009
- 101) 田村貢・西原康行・池良弘・上山寛・小田切毅一、「地域興しの手法としてのレクリエーション」再検討-新潟市における諸事例から-、レジャー・レクリエーション研究 62、85-99、2009
- 102) 嶋野弥名子・栗田和弥・麻生恵、群馬県川場村友好の森における「やま(森林)づくり塾自然教室」について、レジャー・レクリエーション研究 37、82-83、1997
- 103) 宮林茂幸、都市と山村の交流とレクリエーション、レジャー・レクリエーション研究 38、27-34、1998
- 104) 笠木秀樹、岡山県における農村リゾートの研究、レジャー・レクリエーション研究 37、104-107、1997
- 105) 小泉勇治郎、地域づくりと農村リゾート～愛媛県上浮穴郡久万町の事例を通じて～、レジャー・レクリエーション研究 39、90-93、1998
- 106) 山下雅彦、中山間地域における冬季スポーツイベントに関する研究～広島県高野町の事例について～、レジャー・レクリエーション研究 59、70、2007
- 107) 早川章治・鈴木誠・服部勉、鮮魚センターを中心とした寺泊町観光の形成に関する史的考察、レジャー・レクリエーション研究 37、100-103、1997
- 108) 田島栄文、西宮市レクリエーション活動協会の歩みと地域貢献への課題、レジャー・レクリエーション研究 61、134、2008
- 109) 田島栄文、大正期から昭和初期の阪急・阪神沿線における遊覧書、レジャー・レクリエーション研究 63、87、2009
- 110) 田中伸彦、森林観光・レクリエーションに関わる資源・施設の地域ポテンシャル算出に関する考察～笠間地域を対象としたケーススタディ～、レジャー・レクリエーション研究 41、102-105、1999
- 111) 小泉勇治郎、西四国観光ネットワーク「ルーラルポケット」に関する一考察、レジャー・レクリエーション研究 43、110-113、2000
- 112) 小泉勇治郎、グリーン・ツーリズム運動と市民農園、レジャー・レクリエーション研究 49、72-75、2002
- 113) 笠木秀樹、グリーンツーリズムの振興に関する一考察～バイエルン州における現状と課題～、レジャー・レクリエーション研究 39、98-101、1998
- 114) 山下雅彦、中山間地域における体験型観光推進協議会の設立について～広島県北部の取り組みに着目して～、レジャー・レクリエーション研究 55、64-67、2005
- 115) 下嶋壘・麻生恵、山岳観光地における団体客の観光利用の実態、レジャー・レクリエーション研究 53、116-119、2004
- 116) 関口英里、現代日本にレジャー空間におけるイベント戦略の展開と可能性～テーマパークを中心とした外来祝祭の"Japanization"～、レジャー・レクリエーション研究 63、32-35、2009
- 117) 松本清・栗田和弥・麻生恵、「景観・造園・環境」分野自然体験型レクリエーション空間の利用計画と運営-空間の利用を支える新しい技術と人-、レジャー・レクリエーション研究 55、19、2005
- 118) 栗田和弥、市民参加・NPOによる自然環境の保全管理の課題に関する調査研究、レジャー・レクリエーション研究 55、96-97、2005
- 119) 小泉勇治郎・山下陽一郎・片岡麻里、こどものあそびに関する一考察-阪神大震災を通してみるこどものレクリエーション活動-、レジャー・レクリエーション研究 34、86-89、1996
- 120) 岩間貴之・栗田和弥・麻生恵、横浜市緑区中山中学校区域内におけるワークショップ方式による花と緑の市民まちづくり、レジャー・レクリエーション研究 37、84-87、1997
- 121) 朝日隆太・麻生恵、花と緑のまちづくりにおける地域住民の認識に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 57、110、2006
- 122) 矢野加奈子・麻生恵、農山村における空間計画ワークショップに期待される効果とその構造化に関する研究～長野県千曲市焼捨地区を対象として～、レジャー・レクリエーション研究 59、40-43、2007
- 123) 権田浩康・今井健・木村悦之・麻生恵、麓地区(富士朝霧高原)における参加共同型の地域づくりについて、レジャー・レクリエーション研究 59、72、2007
- 124) 山本亮・矢野加奈子・麻生恵、輪島市三井町における地域の魅力発見ワークショップについて、レジャー・レクリエーション研究 59、73、2007
- 125) 松島由佳里・麻生恵、輪島市三井町におけるワークショップとその効果について、レジャー・レクリエーション研究 61、136、2008
- 126) 脇谷翔太郎・麻生恵、まちづくりや環境整備における多様な主体と地域の関係構造に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 63、22-23、2009

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 127) 石幡愛、地域にあるものを活かした遊びと学びの場づくり－谷根千地域におけるワークショップ開発とまちづくりを通じて－、レジャー・レクリエーション研究 63、85、2009
- 128) 影沢裕之・栗田和弥・永嶋正信、市民による雑木林における活動に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 37、88-89、1997
- 129) 牧安奈・麻生恵・栗田和弥、二次草原における環境保全ボランティアの参加意識について－阿蘇野焼き支援ボランティアを対象として－、レジャー・レクリエーション研究 55、96、2005
- 130) 栗田和弥・植竹薫、市民NPOによる緑地の利用・管理の参加者誘致圏について～東京町田市かしの木山自然公園を事例に～、レジャー・レクリエーション研究 39、106-107、1998
- 131) 佐野光昭・濱野周泰・西村直人・麻生恵、三鷹市「緑のボランティア講座」活動報告、レジャー・レクリエーション研究 55、94、2005
- 132) 薄井美江・山内良豊・麻生恵、町田市きつねくぼ緑地における市民参加型管理運営活動と参加者の意識、レジャー・レクリエーション研究 55、99-100、2005
- 133) 西川嘉輝、環境教育をはじめとする様々な市民活動の場としての公園緑地、レジャー・レクリエーション研究 55、15、2005
- 134) 今井健・栗田和弥・麻生恵、横浜市青葉区の「美しが丘西追分公園」の愛護会活動について、レジャー・レクリエーション研究 59、71、2007
- 135) 今井健・栗田和弥・麻生恵、横浜市美しが丘西追分公園における愛護会と地域の関わりについて、レジャー・レクリエーション研究 61、137、2008
- 136) 麻生恵、「多摩丘陵における市民による遊歩道ネットワークづくり」見学会報告、レジャー・レクリエーション研究 47、54-55、2002
- 137) 岸昌孝・栗田和弥、利根川上流における「武尊100漫歩トレイル」の市民による整備・運営計画について、レジャー・レクリエーション研究 55、97、2005
- 138) 瀧邦夫、園芸療法とレクリエーション、レジャー・レクリエーション研究 38、39-46、1998
- 139) 上原巖、療養活動としての森林作業の試み、レジャー・レクリエーション研究 38、47-54、1998
- 140) 上原巖・佐々木健司、自閉症療育における里山を利用した山林活動の可能性、レジャー・レクリエーション研究 40、59-67、1999
- 141) 井川原弘一、森林浴におけるリラックス効果、レジャー・レクリエーション研究 57、105、2006

医療と福祉

上岡洋晴（東京農業大学）

鈴木英悟（東京農業大学大学院）

小椋一也（東京医学柔整専門学校）

本多卓也（東京大学大学院）

要旨

本論は、医療・福祉に関するレビューを紹介するとともに、当該分野でレジャー・レクリエーションの効果を見出そうとする学生や若手研究者に役立つ情報を示すことを目的として論述した。医療・福祉分野において、直接的に代替医療・補完医療として、あるいは間接的に患者や心身に障害を有する者、一般人のメンタルヘルスやQOL(生活の質)の向上のための具体的処方として期待が寄せられる。そうした中で、成果を多くの研究者に認知してもらうには「科学としての共通言語」、つまり共通の「研究方法論」を用いる必要がある。疫学・臨床研究は、研究の計画・実施・分析・論文作成の一連のプロセスがほぼ確立されている。その作法に則って行えば、自ずと研究の質も高まり、成果を適切に理解してもらえることになる。3点に要約すると、「研究デザインに基づくエビデンス・グレーディングの考え方の理解」、「研究デザインごとに世界的にコンセンサスの得られているチェックリストの活用」、「倫理面への配慮」が、研究発展に不可欠な重要課題である。

なお、本学会として、各種の著名な文献検索データベースに、本学会誌「レジャー・レクリエーション研究」を掲載することが急務であることを提言する。

第1章 緒言

1990年代後半から「科学的根拠に基づいた医療（Evidence-Based Medicine: EBM）」が使われ始め、「科学的根拠に基づいた健康政策（Evidence-Based Health Policy: EBHP）」など、今や「科学的根拠に基づいた…」という用語は医学や関連する学際領域の研究者にはすっかり定着した。このエビデンスを構築する世界的な流れは、保健・福祉・教育・刑事司法など、人を対象としてその効果を明らかにしようとする研究分野全体に伝わってきている。基盤となっている疫学・臨床研究には、国際的にコンセンサスの得られている研究方法論（作法）がほぼ確立されている。その研究方法論（各研究デザインごと）で要求される研究計画・分析方法・論文の書き方は、一見すると厳しく感じられるが、反対に捉えれば、そうした作法に則って実施すれば、自然に質の高いものになるともいえる。レジャー・レクリエーション研究においても、人を対象とした研究で、当学会員だけでなく成果を広く他の分野・領域の研究者にも理解してもらう必要がある。

そこで、本論では、医療・福祉に関するレジャー・レクリエーションのレビューを紹介するとともに、当該分野でレジャー・レクリエーションの効果を見出そうとする研究者に役立つ情報を示すことを目的として論述する。

第2章 レビューの方法

1. 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」における論文レビュー¹⁾

論文の収集方法として、日本学術会議登録雑誌に再登録²⁾された1993年から2007年までの15年間に発行された学会誌「レジャー・レクリエーション研究」（以下、レジャー・レク誌）を対象論文とした。仮説実証型の研究デザインとして、ランダム化比較試験（RCT）、非ランダム化比較試験（n RCT）の介入研究、観察型では、横断研究（Cr）、ケース・コントロール研究（Ca）、コホート研究（Co）とした。ただし、介入研究では、対照群を用いていない介入研究も含めた。なお、運動生理学に類する実験的な研究、学会抄録（発

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

表論文集)や学会報告記、特集などは除外した。各種の著名なチェックリストに基づいて、各論文の質を評価した。RCTでは「改訂版 CONSORT 声明チェックリスト」³⁴⁾、nRCTでは「TREND 声明チェックリスト」⁵⁶⁾、Cr、CaおよびCoでは「STROBE 声明チェックリスト」⁷⁶⁾を用いた。さらに研究の質にダメージを与える事項(とくに研究の信頼性や透明性、倫理面への配慮)を整理した。

2. レジャー活動とレクリエーションに関するランダム化比較試験(RCT)の論文レビュー⁹⁾

英文キーワードとして、“leisure activity” and “randomized controlled trial”と“recreation”、“randomized controlled trial”、和文キーワード検索としては、「レジャー活動」と「ランダム化比較試験」、「レクリエーション活動」と「ランダム化比較試験」、データベースとして、OVID(full text)、Web of Science、PubMed、Scopus、医学中央雑誌、JDream IIを用いて、レビューを実施した。適格基準は、研究デザイン：RCT、出版言語・時期：無制限、対象・サンプル数：無制限、観察期間：無制限、評価指標：無制限で、検索は2006年6月から9月に実施した。

3. レジャー・レクリエーションに関する国内外の論文数の推移(本論オリジナル)

英文キーワードとして、“leisure activity”と“recreation”、和文キーワードとして、「レジャー」と「レクリエーション」、データベースとして、英文はWeb of ScienceとPubMed、和文は医学中央雑誌とJDream IIを用い、論文のタイトルに前述のキーワードが掲載されている数を1990年以降について調査した。なお、この検索は2010年1月に実施した。

4. 医療・福祉の研究において論文の質を高めるための基本事項

研究動向を踏まえつつ、学生や若手研究者が当該分野でのより優れた研究成果を挙げるために知っておくべき基本事項を要約し、課題と展望について第4章に示した。

第3章 先行研究の特徴と動向

1. 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」における論文レビュー¹⁾

表1は、論文の掲載数である。人を対象としてレジャー・レクリエーションの効果を明らかにしようとした研究は、15年間で42編中5編、11.9%であった。研究デザインとしては、RCT：0編、nRCT：4編(ただし3編は対照群のない介入研究)、Cr：1編、Ca：0編、Co：0編であった。5編の研究の内容は、「環境教育プログラムを導入したキャンプとそうでないキャンプの差異を比較した介入研究」¹⁰⁾、「キャンプカウンセラーの性役割がキャンパーの性役割意識にどのように影響を及ぼすかを明らかにした研究」¹¹⁾、「森林作業と散策を中心とした3年間の山林活動が自閉症者に及ぼす影響を明らかにした研究」¹²⁾、「活動前の疲労度別に見たスポーツ活動の効果についての研究」¹³⁾、「大学生のレジャーにおける退屈感を調べた研究」¹⁴⁾であった。

各チェックリストで、とくに不備や実施していない項目が見られたのは、「参加者の募集方法や適格基準(除外基準も含む)の説明」、「対象母集団からの抽出の記載」、「ドロップアウトの人数や拒否者数、ドロップアウトした者も含めての解析(intention-to-treat分析：ITT分析)」、「アウトカム項目における回答・測定結果の質を高めるための工夫や努力、欠損データの取り扱いの記載」、「交絡因子や潜在的なバイアス、測定誤差、研究の限界、因果経路(メカニズム)の記載」などであった。

表2は、各種チェックリストに含まれていない基本事項で論文の質にダメージを与える諸点である。多重仮説の論文が40%(2/5)、レジャー・レクリエーションの明確な定義づけのない論文が100%(5/5)、インフォ

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

ムド・コンセントについての記載のない論文が100%(5/5)、倫理審査委員会の承認の有無の記載がない論文が100%(4/4)、有害事象の記載がない論文が100%(4/4)であった。参考文献(引用文献)において、査読を要しない学会発表抄録や図書などが、引用の半分以上だった論文が60%(3/5)であった。

表1 「レジャー・レクリエーション研究」における論文の掲載数と人を対象とした研究のデザイン

発行		掲載論文数の内訳							研究デザイン*					人を対象とした論文合計	
出版年	号	総説	原著	資料	評論	実践	その他	論文	RCT	nRCT	Cr	Ca	Co		
1994	27	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
1995	29	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
1996	33	0	1	2	0	1	0	4	0	2(1#)	0	0	0	0	
1996	35	0	2	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
1997	36	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
1998	38	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
1999	40	0	4	2	0	0	0	6	0	1#	1	0	0	0	
2000	42	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
2001	44	0	5	0	0	0	0	5	0	1#	0	0	0	0	
2001	45	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
2002	47	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
2002	48	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
2003	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2004	52	0	2	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
2005	54	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
2006	56	0	3	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	
2007	58	0	2	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
合 計:		0	31	7	2	2	0	42	0	4(3#)	1	0	0	0	5(11.9%)

[注] * 研究デザイン RCT:ランダム化比較試験 nRCT:非ランダム化比較試験 Cr:横断研究
Ca:症例対照研究 Co:コホート研究 # 対照群が設定されていない

表2 研究の質にダメージを与える事項

項 目	該当論文数 (%)	理 由
1. 研究の定義づけ		
(1) 多重仮説の設定あり	2/5(40%)	・論文が冗長になる。(1研究・1仮説の原則) ・交絡因子を調整した分析でないと、不適切な結果を導き出す。
(2) レジャー・レクリエーションの明確な定義づけなし	5/5(100%)	・スポーツ、身体活動などとは異なることを示さないと、学会外の読者はレジャーやレクリエーションの効果とは判断しない。
2. 倫理・安全面への配慮*		
(1) インフォームド・コンセントについての記載なし	5/5(100%)	・キャンプ等に便乗するようなコンビニエンス・データでも、当該目的以外の研究のために使用する場合には、インフォームド・コンセントは必須である。
(2) 倫理審査委員会の承認の記載なし	4/4(100%)	・介入研究、とくに行動を限定させたり、侵襲性を伴う研究では必須である。 ・前述の研究の場合、倫理審査委員会の承認を得ていない論文は、学術雑誌は受理してはならない。

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

(3) 有害事象の記載なし	4/4(100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・介入研究で、侵襲性が高いものは、国の臨床試験登録（UMIN-CTR）**に事前に登録してから実施しなければならない。 ・とくに介入研究において生じた健康被害や事故などの有無を必ず記載しなければならない。 ・「その介入による利益は害より大きいか？」¹⁹⁾²⁰⁾の重要な判断(Judgment)材料となる。
3. 参考文献		
出典の半数以上が査読のない文献	3/5(60%)	・ 査読のない文献（学会抄録、図書など）の引用が多いことは、先行研究の事前調査や考察・解釈の信頼性に影響を及ぼす可能性がある。

〔注〕* 国（文部科学省・厚生労働省）の「疫学研究に関する倫理指針」

（平成 19 年 8 月 16 日全部改正）を理解してから研究を実施すべきである。

** 正式名称：大学病院医療情報ネットワーク研究センター（University Hospital Medical Information Network: UMIN）、臨床試験登録：Clinical Trial Registry: CTR）である。

アクセス <http://www.umin.ac.jp/umin/>

2. レジャー活動とレクリエーションに関する RCT の論文レビュー⁹⁾

「レジャー活動」と「レクリエーション」が心身に及ぼす影響について明らかにした RCT は、わずかに 3 編で少ないことが改めて明らかになっている。看護の欧文雑誌 2 編と臨床リハビリテーションの欧文雑誌 1 編に掲載されていた。高齢者における運動器の疼痛軽減¹⁵⁾、高齢者のうつの改善¹⁶⁾にレクリエーションは効果があったとした研究であった。もう 1 編¹⁷⁾は、脳卒中患者において、レクリエーション活動参加と作業療法との間に、日常生活動作の回復過程の効果は有意な差がなかったとする報告であった。3 編に共通している点は、「レジャー活動とレクリエーション」に関する定義づけがないこと、有害事象の記載がないことであった。

表 3 ランダム化比較試験によるレジャー・レクリエーションの研究の検索結果

使用データベース	検索年月	ヒット数	最終の論文数 **
OVID(full text)	2006 年 6 月	196	2
Web of Science	2006 年 6 月	18	0
PubMed	2006 年 6 月	37	1*
Scopus	2006 年 9 月	13	1
医学中央雑誌	2006 年 9 月	119	0
JDream II	2006 年 8 月	8	0

* OVID と重複。

** ヒットした中で抄録や、実際に論文を取り寄せて適格基準に合致していた論文。

3. レジャー・レクリエーションに関する国内外の論文数の推移

図 1 は「レクリエーション」、図 2 は「レジャー」という用語をタイトルに含む論文の数をデータベース・年次ごとに示している。まず、レクリエーションについては、1990-2009 年までの合計で Web of Science が 343 件（平均 17.2 件/年）、PubMed が 242 件（平均 12.4 件/年）、J Dream II が 135 件（平均 6.8 件/年）、医学中央雑誌 365 件（平均 18.3 件/年）であった。同様にレジャーについては、Web of Science が 10 件（平

均 0.5 件 / 年)、PubMed が 42 件 (平均 2.1 件 / 年)、J Dream II が 3 件 (平均 0.2 件 / 年)、医学中央雑誌 2 件 (平均 0.1 件 / 年) と少ない状況にある。とくに和文の論文数は少なく、このことは、本学会誌が各種のデータベースに搭載されていないことがひとつの大きな原因と考えられる。

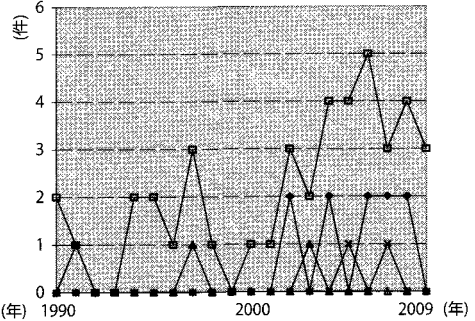
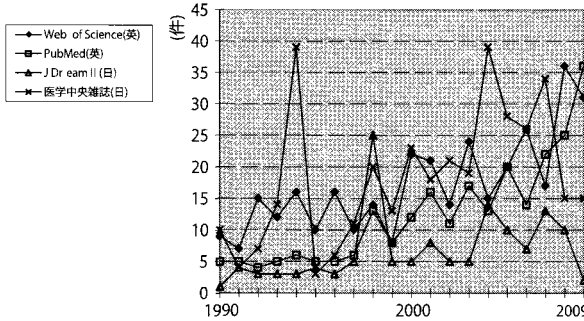


図1 タイトルにレクリエーションという用語を含んだ論文数

図2 タイトルにレジャーという用語を含んだ論文数

第4章 今後の研究の課題と方法論の展望 (基本事項)

今後の展望として、レジャー・レクリエーションは、医療・福祉分野において、直接的に代替医療・補完医療として、あるいは間接的に患者や心身に障害を有する者、一般人のメンタルヘルスや QOL(生活の質)の向上のための具体的処方として益々期待が寄せられることは間違いない。この分野に興味関心があり、果敢にトライしようとしている学生や若手研究者を主たる対象読者として、課題を述べることにする。

レジャー・レクリエーションを活用した医療・福祉に関する研究は、レジャー・レクリエーション学の人だけではなく、社会医学の研究者、もちろん医師やコ・メディカル(理学療法士、作業療法士、看護師など)や関連職種(ケアマネージャー、介護福祉士、健康運動指導士など)にも成果を理解してもらう必要がある。第1章の緒言で述べたように、それには「科学としての共通言語」を用いる必要があり、つまりは疫学・臨床研究の「研究方法論」そのものである。研究の適切な計画・実施・分析・論文作成の一連のプロセスが、ほぼ確立されている「作法」に則って行えば、自ずと研究の質が高まり、成果を正確に理解してもらえることを最初に認識していただきたい。

具体的に解説すべき点は多々あるが、本論では3点に絞って概説する。1点目は、研究デザインに基づく、エビデンス・グレーディングの考え方¹⁸⁾の理解であり、これを見越して研究を計画することはエビデンスの強さを語る上で重要である(表4)。研究デザインの中で、最も真実を示す可能性が高いと位置づけられるのが、「RCTのシステマティック・レビュー(メタ・アナリシスを含む):SR注)」であり、次いで「RCT」、そして最下位が「患者データに基づかない専門委員会や専門家個人の意見」となる。例えば、「Iの研究とVIの研究で相反する結果が出た場合には、Iの結果の方が真実である可能性が高い」として採択することになる。紙面の都合上、個々の研究デザインの内容は割愛するが、詳細については疫学の教科書を参考にされたい。

表4 研究デザインとエビデンス・グレーディング(文献18を基本として、理解しやすいように脚注を著者が追記して転載)

- | | |
|-----|----------------------------|
| I | システマティック・レビュー(メタ・アナリシスを含む) |
| II | 1つ以上のランダム化比較試験による研究 |
| III | 非ランダム化比較試験による研究 |
| IV | 分析的疫学研究(コホート研究や症例対照研究) |
| V | 記述研究(症例報告や症例集積) |
| VI | 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 |

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

[注] レジャー活動やレクリエーションの研究に当てはめた例（架空）

- I IIに基づく複数の研究結果を網羅的に収集し、メタ・アナリシスという統計手法に基づき統合するとともに、批判的吟味を加えて、解釈や一般化可能性（外的妥当性）、全体的なエビデンスを示すこと。
- II あるレクリエーションをさせる群と何もさせない群にランダムに割付し、その効果を見ること。
- III あるレクリエーションをさせる群と何もさせない群に研究者の意図に基づいて割付し、その効果を見ること。
- IV 1) ある市の全小学校において、ボーイスカウトに入っている子どもとそうでない子どもに分けて10年間追跡し、10年後時点でボランティア活動を行っている者の比率を比較すること。（コホート研究）
2) ある小学校において、アウトドア活動を1年に2日以上行っている児童（実践群）と、1年間に1日以下し行っていない児童（非実践群）に分けて、体力テストの結果を比較する。（横断研究）
- V 数例（統計解析ができない程度）のレジャー活動やレクリエーションの報告や、実施前後の客観的データの比較、参加者の主観的な態度や心の変化などの記述。（事例研究）
- VI 研究データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見

2点目は、研究デザインごとに開発されているチェックリストの活用である。表5に研究デザインごとのチェックリスト一覧¹⁹⁾を示した。ほとんどが、BMJやJAMA、Lancetなどの著名な医学雑誌で構成されている国際医学雑誌編集者委員会（ICMJE）で共同声明として採択されており、査読者もこれに準拠して論文を審査するだけでなく、事前にこのスタイルで記載がないと査読前の投稿段階で受付されない場合もある。英文が不得手な人には、翻訳版となっている前掲書⁴⁾⁶⁾⁸⁾²¹⁾²³⁾²⁶⁾（ほぼすべての研究デザインについてのチェックリストを網羅して邦訳）のチェックリストの活用が便利である。各チェックリストは、タイトルの書き方や抄録の書き方、参加者・評価者・介入者の情報の記述の仕方、分析方法、結果や考察の書き方まで多岐に及んでいる。研究計画段階からこれに基づいて組み立てれば、より質の高い論文になる。

表5 論文の質を高めるためのチェックリスト・声明と特徴（文献19から短縮して転載）

研究デザイン	名称または略称（細目名）	項目数と特徴
システマティック・レビュー (SR: RCTに基づく)	QUOROM 声明 ²⁰⁾²¹⁾ (RCTのSR)	出版バイアスやメタ・アナリシスの方法、感度分析などSR特有の質問項目を含む18項目で構成されている。
ランダム化比較試験 (RCT)	改訂版 CONSORT 声明 ³⁾⁴⁾ (RCTの包括)	RCTの基本となるチェックリストであり、広くコンセンサスが得られている。22項目で構成されている。
	Cluster RCT ²²⁾²³⁾ * (多施設間のRCT)	倫理問題など、個人別の割付けの実施が難しい状況において、コミュニティや病院、施設等の単位で行うRCTである。改訂版 CONSORT 声明の拡張版として22項目で構成されている。
	CLEAR NPT ²⁴⁾¹⁹⁾ (薬以外のRCT)	薬理学以外の研究ではブラインドが困難な場合が多く、介入者（プロバイダー）のスキルによる影響が大きいなどの特異性がある研究も多い。そうした点を項目に加え、10項目と下位5項目からなるチェックリストである。

非ランダム化比較試験 (nRCT)	TREND 声明 ⁵⁾⁶⁾	改訂版 CONSORT 声明に揃えた形式で 22 項目から構成されている。RCT は実施が困難なことが多く、現実的な介入研究では nRCTs が実施しやすい。
システマティック・レビュー (SR: OS に基づく)	MOOSE チェックリスト ²⁵⁾²⁶⁾	35 項目で構成され、検索ストラテジーの細目では検索担当者の適格性 (図書館員や調査員) や入手可能な研究を収集する努力 (著者との連絡)、英語以外の論文の取り扱いなどが含まれている。
観察研究 (OS)	STROBE 声明 ⁷⁾⁸⁾	CONSORT 声明の形式に揃え、コホート研究、症例対照研究、横断研究別に作成され、22 項目から構成されている。

3 点目は、人を対象とした研究は倫理面への配慮が極めて重要だということである。まず、参加者本人からのインフォーム・コンセントは必須である。また、生体情報 (試料) を得るような場合 (採血、尿、唾液、あるいは心拍計や電極の装着など) には、参加者本人の同意だけでは済まされず、大学内や研究機関内に設置されている第三者機関としての倫理審査委員会の承認が必要になる可能性が高い。また、明らかに介入研究 (人の行動を規定する) で、生体情報を得るものについては、国の臨床試験登録 (UMIN-CTR: 表 2 に URL 記載) への事前の研究計画の申告が必要であることも失念してはならない。研究の開始前に、国 (厚生労働省・文部科学省共同) の「疫学研究の倫理指針」を熟読することが第一の出発点だが、こうした手続きにおいて不安がある場合には、専門家に問い合わせることを強くお勧めする。最後に言及したいのは、人を対象とした研究は、研究者の都合良く実施できるものではなく、倫理面への細心の配慮が必要であるということである。

ところで、近年、研究者は著名な文献検索データベースからキーワードなどにより論文を検索することが一般的である。したがって、本論の目的とは別な話題になるが、学際領域の多くの研究者らに認知してもらうためにも、著名な文献検索データベースへの本学会誌の掲載が緊急の課題であることが判明した。

注) RCT の SR では、コクラン・レビューが有名である。「1) すべての RCT から、2) 良いものだけを、3) まとめて、4) 遅れなく、5) 必要な人に届けること」⁵⁾ を目標とし、システマティック・レビューの重要性を明確にした 提唱者でもあるイギリスの医学者 Archiebald L Cochrane 博士の名を冠して「コクラン共同計画 (Cochrane Collaboration) :1992 年発足」と名づけられ、世界的に展開されている医療技術評価のプロジェクトである。

一方、福祉・教育・刑事司法の分野については、コクラン共同計画と姉妹機関として密接な関係にある「キャンベル共同計画 (C2):2000 年発足」が良く知られている。RCT と n RCT を明確に分け、SR によって、社会・教育施策や実務の効果に関する最善のエビデンスを知りたい市民、実務家、政策決定者、教員と学生・生徒、そして研究者に電子的に公表し、更新をしていく世界的な評価プロジェクトである。

附記

データベースに基づく検索においては、東邦大学習志野メディアセンターの眞喜志まり司書のご協力を賜りました。この場をお借りして深謝いたします。

参考文献

- 1) 上岡洋晴・鈴木英悟・栗田和弥ら, エビデンスの構築と研究方法論の向上を目的とした論文の質評価に関する考察: 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」における1993-2007年までの疫学的論文を対象として, レジャー・レクリエーション研究, 62:3-19, 2009.
- 2) 黒田信寛, 就任時の学会を振り返って, レジャー・レクリエーション学会の歩み: 1964-1995, 32:6, 1995.
- 3) David Moher, Kenneth F Schulz, Douglas G Altman, et al., The CONSORT statement: revised recommendations for improving the quality of reports of parallel-group randomized trials, *Ann Intern Med* 134, 657-662, 2001.
- 4) 津谷喜一郎 (訳): CONSORT 声明: ランダム化並行群間比較試験報告の質向上のための改訂版勧告. 臨床研究と疫学研究のための国際的ルール集 (中山健夫, 津谷喜一郎編集), ライフサイエンス出版, 東京, 60-67, 2008.
- 5) Don C Jarlais, Cynthia Lyles, Nicole Crepaz, et al., Improving the reporting quality of nonrandomized evaluations of behavioral and public health interventions: The TREND Statement, *Am J Public Health*, 94:361-366, 2004.
- 6) 中山健夫 (訳): 行動的介入および公衆衛生的介入を評価した非ランダム化研究報告の質の改善: TREND 声明. 前掲書 4), 194-201, 2008.
- 7) Eric Elm, Douglas Altman, Matthias Egger, et al., The strengthening the reporting of observational studies in epidemiology (STROBE) Statement: guidelines for reporting observational studies, *Ann Intern Med*, 147:573-577, 2007.
- 8) 上岡洋晴・津谷喜一郎 (訳): 疫学研究における観察研究の報告の強化 (STROB 声明): 観察研究の報告に関するガイドライン. 前掲書 4), 202-209.
- 9) 上岡洋晴・津谷喜一郎・本多卓也ら, 「レジャー活動」と「レクリエーション」に関するランダム化比較試験のシステムティック・レビュー, レジャー・レクリエーション研究, 60:29-37, 2008.
- 10) 岡村泰斗・飯田稔・星野敏男ら, 環境教育プログラムを導入したキャンプの効果, レクリエーション研究, 33:1-6, 1996.
- 11) 関智子・飯田稔・橘直隆ら, キャンプカウンセラーの性役割がキャンパーの性役割意識に及ぼす影響, レクリエーション研究, 33:17-23, 1996.
- 12) Iwao Uehara and Kenji Sasaki, The possibility of forest activities in the autistic disabilities treatment by utilizing the rural forest, *J Leisure Recreation Studies*, 40:59-67, 1999.
- 13) 服部伸一・前橋明, 活動前の疲労度別にみたスポーツ活動の効果について, レクリエーション研究, 44:11-18, 2001.
- 14) 田口節芳・富永徳幸・折本浩一ら, 大学生のレジャーにおける退屈感, レクリエーション研究, 40:11-23, 1999.
- 15) Siedlecki SL, Effect of music on power, pain, depression and disability, *J Advanced Nursing*, 54: 553-562, 2006.
- 16) Fitzsimmons S, Easy rider wheelchair biking: a nursing- recreation therapy clinical trial for the treatment of depression, *J Gerontol Nurs*, 27:14-23, 2001.
- 17) Parker CJ, Drummond AER, Deway ME et al, A multicentre randomized controlled trial of leisure therapy and conventional therapy after stroke, *Clin Rehabil*, 15:42-52, 2001.
- 18) 財団法人厚生統計協会: 国民衛生の動向, p.12, 2004.
- 19) 上岡洋晴・津谷喜一郎・川野因ら, 臨床研究と疫学研究における論文の質を高めるための国際動向: 人を対象とした研究デザインのエビデンス・グレーディング, 農学集報, 53:81-89, 2008.
- 20) David Moher, Deborah J Cook, Susan Eastwood, et al., Improving the quality of reports of meta-analyses of randomized controlled trials: the QUOROM statement. *Lancet* 354:1896-1900, 1999.
- 21) 中山健夫 (訳): ランダム化比較試験のメタアナリシス報告における質の向上: QUOROM 声明. 前掲書, 212-219, 2008.
- 22) Marion K Campbell, Diana R Elbourne, Douglas G Altman, et al., CONSORT statement: extension to cluster randomized trials. *BMJ* 328, 702-708, 2005.
- 23) 津富宏・津谷喜一郎 (訳): CONSORT 声明: クラスターランダム化比較試験への拡張. 前掲書 4), 105-117, 2008.
- 24) Isabelle Boutron, David Moher, Peter Tugwell, et al., A checklist to evaluate a report of a nonpharmacological trial (CLEAR NPT) was developed using consensus, *J Clin Epidemiol* 58:1233-1240, 2005.
- 25) Stroup DF, Berlin JA, Morton SC et al., Meta-analysis of observational studies in epidemiology. *JAMA* 283:2008-2012, 2000.
- 26) 中山健夫 (訳): 観察研究のメタアナリシスに関する MOOSE 提案. 前掲書 4), 220-222, 2008.

未来への羅針盤

～ Apoptosis と Serendipity ～

日本レジャー・レクリエーション学会 (JSLRS)

会 長 鈴木 秀雄 (関東学院大学人間環境学部人間発達学科教授、Ph.D.)

レジャー・レクリエーション研究者や専門家の間にあっても、また、巷間にあっても、学会の共通言語であるレジャー・レクリエーションに対する概念理解や認識、既存のイメージ、捉え方は様々である。本来、レジャー・レクリエーションが一人ひとりの豊かさや幸福(感)を具現するのであれば、当然、個人が持つレジャー・レクリエーションに対するそれぞれの思いや行動も多岐・多様であることは論を待たない。それほどに広汎にわたる領域であるレジャー・レクリエーションの研究領域・専門領域、即ち、外延と内包を輕輕に限定し得るものでもない。しかしながら一方では、概念自体を曖昧模糊としたものであるとばかりに、ファジーのままに括っておきさえすればよいものでもない。

諸外国からの新しい概念の取り入れに関しては、日本の文化や事象にない事柄の表記に際して、当然、カタカナ表記がなされるが、レジャー・レクリエーションも同様の流れを有するものの、そのカタカナ言葉、即ち、日本における「レジャー・レクリエーション」から捉えられる意味は、必ずしもそれらの本質を正しく理解するに至っていない。このレジャー・レクリエーションに替わる新しい概念表記を新たなカタカナで表記することになれば混乱を呈することになる。そうであれば、旧態依然とした捉え方や考え方はなく、自然界では細胞が予め遺伝子に組み込まれたプログラムに従って自然死するメカニズムであるアポトーシス (Apoptosis; 新生) を有するように、現行のレジャー・レクリエーションに関する新生も必要である。時代の流れ、進展とともに、社会の変遷もあり、旧態依然としたレジャー・レクリエーション(観)の概念理解では疾うに立ち行かなくなっている。

レジャー・レクリエーションの本質的な意味を表現する新たなカタカナ表記を創作すること (Coinage = 新造語) もままならないのであれば、レジャー・レクリエーションを正しく説明できる言葉を作り出しておくことも必要であろう。専門家として、研究者として、多くの異なる考え方があるところに研究の意義や必要性が存在する。レジャー・レクリエーションを説明するならば、一例として、「レジャー・レクリエーションは、日々に寄り添う、掛替えのない“とっておきの”楽しさおもしろさを求めて、豊かな“活動”、“生活”、“生き方”を紡ぎ出すこと」に他ならない。

自身の文化(活動、生活、生き方)を豊かにしていくための Apoptosis を具現化することにより、自身の考え方、また、研究の方法(方向性)に、時に、幸運な、あるいは思いがけない発見 (Serendipity) が誘われる。

学会も本年は第40回学会記念大会を迎えるが、今後は、学会の研究領域の全てを学会員の個人研究・共同研究にのみに委ねるのではなく、領域の広がりや研究活動が積極的あるいは十分でない領域、また、新たな領域や時代の要請に応える研究課題等にメスを入れ学会主導の研究共同プロジェクトの立ち上げ等も視野にいれ、応分の学会費を投入するなど一考すべきである。さらに言えば、多岐・多様にわたる学会員の研究領域からすれば、受託研究を積極的に受け入れる窓口作りと制度化も図るべきである。

高等教育機関における研究者の養成が難しいのであれば、むしろ関連領域大学院研究科との連携で、研究支援と共に、研究者養成の枠組み作りを構築すべきである。例えば、研究員(学会幹事)としての立場で研究活動と学会活動を並行してすすめ、研究科費用(学費)の一部補填はスカラシップ制などをもって学会から提供することも若手研究者の育成として考えられよう。そこに民間企業との共同企画としてのグラント制度を加えても意味あることである。そのことが委託・受託研究にも繋がっていく。そのためにも、関連領域の大学院研究科との学術的連携も視野に置くべきであろう。

学会活性化あるいは未来の羅針盤作りに向け、学会内に“中期計画の策定”や、“将来構想検討委員会”を立ち上げ、学会業務のルーティン処理に留まることなく、将来に向けた学会の動きを積極的に創りあげていくべきである。

編集後記

理事長 麻生 恵

日本レジャー・レクリエーション学会第40回大会を記念して、「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み～その2－1996～2010－」を編集しようという企画を提案したのは、私が理事長を拝命した平成20(2008)年9月のことであった。その後、徐々に検討を進めて内容を具体化し、2009年4月の第1回常任理事会で編集委員会をスタートさせた。内容は大きく、前号と同じ資料編(学会の活動記録)に加えて特別企画(研究動向のレビュー)の2部構成とし、9月には上岡洋晴委員より特別企画「レジャー・レクリエーション研究の動向と将来展望」の具体案が提示された。

私は主に前号の「学会の歩み」を参考にしながら資料編を担当したが、「学会活動の実績を確固たるものにしたい」という鈴木秀雄編集委員長をはじめとする前号編集委員の方々の強い思いが伝わってきて、大変な励ましを受けた。また、昨年より事務局を引き受けることになったが、事務局担当者が不定期に代わる中ではこうした資料を詳細にまとめておく必要性を益々強く感じるようになった。

後半の特別企画「レジャー・レクリエーション研究の動向と将来展望」は、従来の資料編だけでは学会として社会ニーズに応えきれないと考え、新たに企画したものである。執筆担当の先生方には、関連分野の既往論文に幅広く目を通し、全体の流れを把握しながら今後の方向性を占うという過酷な作業をお願いすることになり、大変なご苦勞をいただいた。心より感謝申し上げます。

また、最後の編集作業は、ねこのてデザイン工房の吉田祥子氏(本学会会員)にご担当いただいた。併せて御礼申し上げたい。

尚、表紙の題字“歩み”は前号に倣い、浅田隆生元会長によるものを使用させていただいた。

編集企画

鈴木 秀雄(会長)
小田切毅一(副会長)
坂口 正治(副会長)
西田 俊夫(副会長)
麻生 恵(理事長)
小椋 一也(常任理事)
上岡 洋晴(常任理事)
嵯峨 寿(常任理事)
田中 伸彦(常任理事)
土屋 薫(常任理事)
寺島 善一(常任理事)
沼澤 秀雄(常任理事)
松尾 哲矢(常任理事)
横内 靖典(常任理事)

編集委員会

麻生 恵(委員長)
上岡 洋晴
嵯峨 寿
鈴木 秀雄
田中 伸彦
土屋 薫
茅野 宏明
師岡 文男
菅原 成臣(幹事)

『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み ～その2～ - 1996～2010 -』

第66号

2010(平成22)年11月27日 発行

発行人：麻生 恵

発行所：日本レジャー・レクリエーション学会事務局

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

東京農業大学地域環境科学部造園科学科

観光レクリエーション研究室内

電 話：03-5477-2436

FAX：03-5477-2625

メール：jslrs_mail@yahoo.co.jp

